

## 基本計画書

基本計画								
事項	記	入	欄	備考				
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン リッキョウガクイン 学校法人 立教学院							
フリガナ大学の名称	リッキョウダイガク 立教大学 (Rikkyo University)							
大学本部の位置	東京都豊島区西池袋三丁目34番1号							
大学の目的	キリスト教に基づく人格の陶冶を旨とし、学校教育法（昭和22年法律第26号）により学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めること。							
新設学部等の目的	スポーツに興味・関心を有する 優秀な人材を集め、豊かな 人間性 を基盤とし、全ての人のウェルネス向上とウェルネス社会の構築に寄与するスポーツウェルネス学の知見と力能 を有する人材を育成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	スポーツウェルネス学部 【College of Sport and Wellness】	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	埼玉県新座市北野一丁目2番26号
	スポーツウェルネス学科 【Department of Sport and Wellness】	4	230 (0)	—	920 (0)	学士 (スポーツウェルネス学) 【Bachelor of Arts】	令和5年4月 第1年次	
計		230		920				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>①令和4年3月 研究科の設置に係る認可申請済み                      スポーツウェルネス学研究科                      スポーツウェルネス学専攻 (M) (10) (令和5年4月)                      スポーツウェルネス学専攻 (D) (5) (令和5年4月)</p> <p>②令和4年3月 収容定員の変更に係る学則変更認可申請済み                      コミュニティ福祉学部                      福祉学科 [定員減] (△24) (令和5年4月)                      コミュニティ政策学科 [定員増] (66) (令和5年4月)                      スポーツウェルネス学科 (廃止) (△110) (令和5年4月)</p> <p>③令和4年6月 収容定員の変更に係る学則変更届出予定                      経済学研究科                      経済学専攻 (D) [定員減] (△5) (令和5年4月)                      法学研究科                      法学政治学専攻 (D) [定員減] (△2) (令和5年4月)                      コミュニティ福祉学研究科                      コミュニティ福祉学専攻 (M) [定員減] (△10) (令和5年4月)                      スポーツウェルネス学研究科                      スポーツウェルネス学専攻 (M) (新設) (10) (令和5年4月)                      スポーツウェルネス学専攻 (D) (新設) (5) (令和5年4月)</p> <p>④令和5年4月 学生募集停止                      コミュニティ福祉学部                      スポーツウェルネス学科 (廃止) (△110)</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	スポーツウェルネス学部 スポーツウェルネス学 (全学共通科目)	84 科目	22 科目	36 科目	142 科目	126 単位		
		231 科目	37 科目	268 科目	536 科目			

教 員 組 織 の 概	学部等の名称	専任教員等					助手	兼任 教員等
		教授	准教授	講師	助教	計		
新 設 分	スポーツウェルネス学部	10	6	0	0	16	0	53
	スポーツウェルネス学科	(10)	(6)	(0)	(0)	(16)	(0)	(53)
	計	10 (10)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	— (—)
既	文学部	8	1	0	0	9	0	57
	キリスト教学科	(8)	(1)	(0)	(0)	(9)	(0)	(57)
	史学科	12 (12)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	88 (88)
	教育学科	12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	75 (75)
	文学科	29 (29)	8 (8)	0 (0)	8 (8)	45 (45)	0 (0)	190 (190)
	経済学部	14	6	0	3	23	0	84
	経済学科	(14)	(6)	(0)	(3)	(23)	(0)	(84)
	会計ファイナンス学科	7 (7)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	84 (84)
	経済政策学科	10 (10)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	15 (15)	0 (0)	84 (84)
	理学部	9	4	0	3	16	0	17
	数学科	(9)	(4)	(0)	(3)	(16)	(0)	(17)
	物理学科	9 (9)	5 (5)	0 (0)	9 (9)	23 (23)	0 (0)	54 (54)
	化学科	10 (10)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	16 (16)	0 (0)	20 (20)
	生命理学科	10 (10)	3 (3)	0 (0)	9 (9)	22 (22)	0 (0)	25 (25)
	社会学部	10	1	0	2	13	0	90
	社会学科	(10)	(1)	(0)	(2)	(13)	(0)	(90)
	現代文化学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	98 (98)
	メディア社会学科	10 (10)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	13 (13)	0 (0)	101 (101)
	法学部	18	3	0	3	24	0	79
	法学科	(18)	(3)	(0)	(3)	(24)	(0)	(79)
	政治学科	8 (8)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	79 (79)
	国際ビジネス法学科	7 (7)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	79 (79)
	観光学部	11	1	0	2	14	0	73
	観光学科	(11)	(1)	(0)	(2)	(14)	(0)	(73)
	交流文化学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	45 (45)
	コミュニティ福祉学部	7	4	0	4	15	0	66
	福祉学科	(7)	(4)	(0)	(4)	(15)	(0)	(66)
	コミュニティ政策学科	7 (7)	7 (7)	0 (0)	3 (3)	17 (17)	0 (0)	57 (57)
	経営学部	10	3	0	4	17	0	66
	経営学科	(10)	(3)	(0)	(4)	(17)	(0)	(66)
	国際経営学科	6 (6)	6 (6)	1 (1)	3 (3)	16 (16)	0 (0)	66 (66)
	現代心理学部	10	5	0	1	16	0	54
	心理学科	(10)	(5)	(0)	(1)	(16)	(0)	(54)
映像身体学科	10 (10)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	15 (15)	0 (0)	45 (45)	
異文化コミュニケーション学部	22	9	0	3	34	0	83	
異文化コミュニケーション学科	(22)	(9)	(0)	(3)	(34)	(0)	(83)	
計	281 (281)	101 (101)	1 (1)	76 (76)	459 (459)	0 (0)	— (—)	
学校・社会教育講座	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	79 (79)	
全学共通カリキュラム運営センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	362 (362)	
外国語教育センター	4 (4)	12 (12)	82 (82)	0 (0)	98 (98)	0 (0)	186 (186)	
社会情報教育研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
日本語語教育センター	0 (0)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	19 (19)	

要 分	グローバル教育センター	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)		
	大学教育開発・支援センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)		
	立教学院史資料センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)		
	立教サービスラーニングセンター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)		
	チャプレン室	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)		
	計	11 (11)	26 (26)	86 (86)	10 (10)	133 (133)	0 (0)	— (—)		
合計	292 (292)	127 (127)	87 (87)	86 (86)	592 (592)	0 (0)	— (—)			
教員以外の職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計				
	事務職員	255 (255)	人	195 (195)	人	450 (450)	人			
	技術職員	24 (24)	人	1 (1)	人	25 (25)	人			
	図書館専門職員	23 (23)	人	2 (2)	人	25 (25)	人			
	その他の職員	0 (0)	人	0 (0)	人	0 (0)	人			
	計	302 (302)	人	198 (198)	人	500 (500)	人			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
	校舎敷地	116,820 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		116,820 m <sup>2</sup>				
	運動場用地	125,853 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		125,853 m <sup>2</sup>				
	小 計	242,673 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		242,673 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	16,234 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		16,234 m <sup>2</sup>				
	合 計	258,907 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		258,907 m <sup>2</sup>				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		完成年度については、 新棟建設が未着工のため仮の数値			
	183,096 m <sup>2</sup> (176,796 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )		183,096 m <sup>2</sup> (176,796 m <sup>2</sup> )					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体			
	143 室	157 室	69 室	21 室 (補助職員 人)	12 室 (補助職員 人)					
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数			大学全体			
	大学全体			567 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	電子ジャーナル及び学術雑誌については、その大半が電子契約のみ又は冊子契約（所蔵）のみとなっており、必ずしも電子ジャーナルが学術雑誌の内数とならないため、それぞれ計上		
	大学全体	2,027,717 [785,765] (2,102,761 [806,713])	21,051 [7,060] (21,051 [7,060])	66,845 [66,734] (66,845 [66,734])	64,126 (65,854)	968 (968)	0 (0)			
	計	2,027,717 [785,765] (2,102,761 [806,713])	21,051 [7,060] (21,051 [7,060])	66,845 [66,734] (66,845 [66,734])	64,126 (65,854)	968 (968)	0 (0)			
図書館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体			
	21,554.99 m <sup>2</sup>	2,029		2,928,382						
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	13,450.03 m <sup>2</sup>	ジム、馬場、射撃場、テニスコート、プール、弓道場								
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		1,033千円	1,033千円	1,033千円	1,033千円	—	—	
		共同研究費等		15,186千円	15,186千円	15,186千円	15,186千円	—	—	
		図書購入費	661,319,000	661,319,000	661,319,000	661,319,000	661,319,000	—	—	
	設備購入費	202,991,000	202,991,000	202,991,000	202,991,000	202,991,000	—	—		
	当り納付		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
スポーツウェルネス学部	1,405千円	1,205千円	1,205千円	1,205千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、資産運用収入、寄付金収入、補助金収入等							

大学の名称		立教大学							所在地	
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
	年	人	年次人	人		倍				
文学部						0.99		東京都豊島区西池袋三丁目34番1号		
キリスト教学科	4	50	—	197	学士（文学）	0.95	昭和24年度		令和4年度入学定員増（1人）	
史学科	4	215	—	857	学士（文学）	0.98	昭和24年度		令和4年度入学定員増（1人）	
教育学科	4	101	—	401	学士（文学）	1.10	昭和37年度		令和4年度入学定員増（1人）	
文学科	4	552	—	2163	学士（文学） 学士（学術）	0.97	平成18年度		令和4年度入学定員増（15人）	
経済学部						0.98		同上		
経済学科	4	332	—	1322	学士（経済学）	0.96	昭和24年度		令和4年度入学定員増（2人）	
会計ファイナンス学科	4	176	—	701	学士（経済学）	0.98	平成14年度		令和4年度入学定員増（1人）	
経済政策学科	4	176	—	701	学士（経済学）	1.00	平成18年度		令和4年度入学定員増（1人）	
理学部						0.98		同上		
数学科	4	66	—	264	学士（理学）	0.96	昭和24年度			
物理学科	4	77	—	308	学士（理学）	1.01	昭和24年度			
化学科	4	77	—	308	学士（理学）	0.97	昭和24年度			
生命理学科	4	72	—	288	学士（理学）	0.99	平成14年度			
社会学部						1.00		同上		
社会学科	4	173	—	683	学士（社会学）	1.00	昭和33年度		令和4年度入学定員増（3人）	
現代文化学科	4	173	—	683	学士（社会学）	0.98	平成14年度		令和4年度入学定員増（3人）	
メディア社会学科	4	173	—	683	学士（社会学）	1.00	平成18年度		令和4年度入学定員増（3人）	
法学部						0.98		同上		
法学科	4	360	—	1440	学士（法学）	0.91	昭和34年度			
政治学科	4	110	—	440	学士（政治学）	1.07	平成8年度			
国際ビジネス法学科	4	115	—	460	学士（法学）	1.14	昭和63年度			
観光学部						0.98		埼玉県新座市北野一丁目2番26号		
観光学科	4	195	—	780	学士（観光学）	1.00	平成10年度			
交流文化学科	4	175	—	700	学士（観光学）	0.97	平成18年度			
コミュニティ福祉学部						0.97		同上		
福祉学科	4	154	—	616	学士（コミュニティ福祉学）	0.98	平成18年度			
コミュニティ政策学科	4	154	—	616	学士（コミュニティ福祉学）	0.96	平成18年度			
スポーツウエルネス学科	4	110	—	440	学士（スポーツウエルネス学）	0.98	平成20年度			
経営学部						0.99		東京都豊島区西池袋三丁目34番1号		
経営学科	4	230	—	920	学士（経営学）	1.01	平成18年度			
国際経営学科	4	155	—	620	学士（経営学）	0.96	平成18年度			



既設大学等の状況	現代心理学部						0.98		埼玉県新座市北野一丁目2番26号
	心理学科	4	143	—	572	学士（心理学）	0.97	平成18年度	
	映像身体学科	4	176	—	704	学士（映像身体学）	0.99	平成18年度	
	異文化コミュニケーション学部						1.03		東京都豊島区西池袋三丁目34番1号
	異文化コミュニケーション学科	4	145	—	580	学士（異文化コミュニケーション学）	1.03	平成20年度	
	文学研究科								同上
	英米文学専攻(M)	2	18	—	36	修士（文学）	0.19	昭和26年度	
	英米文学専攻(D)	3	3	—	9	博士（文学）	0.33	昭和28年度	
	史学専攻(M)	2	15	—	30	修士（文学）	0.43	昭和33年度	
	史学専攻(D)	3	6	—	18	博士（文学）	0.49	昭和51年度	
	教育学専攻(M)	2	10	—	20	修士（教育学）	0.45	昭和44年度	
	教育学専攻(D)	3	3	—	9	博士（教育学）	0.66	昭和47年度	
	日本文学専攻(M)	2	20	—	40	修士（文学）	0.30	昭和35年度	
	日本文学専攻(D)	3	8	—	24	博士（文学）	0.29	昭和37年度	
	フランス文学専攻(M)	2	8	—	16	修士（文学）	0.25	昭和40年度	
	フランス文学専攻(D)	3	3	—	9	博士（文学）	0.22	昭和42年度	
	ドイツ文学専攻(M)	2	8	—	16	修士（文学）	0.37	昭和42年度	
	ドイツ文学専攻(D)	3	3	—	9	博士（文学）	0.00	昭和44年度	
	比較文明学専攻(M)	2	10	—	20	修士（比較文明学）	0.40	平成10年度	
	比較文明学専攻(D)	3	5	—	15	博士（比較文明学）	0.26	平成12年度	
	超域文化学専攻(M)	2	5	—	10	修士（文学）	0.00	昭和42年度	
	超域文化学専攻(D)	3	3	—	9	博士（文学）	0.22	昭和44年度	
	経済学研究科								同上
	経済学専攻(M)	2	40	—	80	修士（経済学） 修士（会計学）	0.59	昭和26年度	
	経済学専攻(D)	3	10	—	30	博士（経済学） 博士（会計学）	0.30	昭和38年度	
	理学研究科								同上
	物理学専攻(M)	2	20	—	40	修士（理学）	0.75	昭和28年度	
	物理学専攻(D)	3	4	—	12	博士（理学）	0.41	昭和30年度	
	化学専攻(M)	2	20	—	40	修士（理学）	1.02	昭和29年度	
	化学専攻(D)	3	4	—	12	博士（理学）	0.00	昭和37年度	
	数学専攻(M)	2	5	—	10	修士（理学）	0.30	昭和30年度	
	数学専攻(D)	3	3	—	9	博士（理学）	0.22	昭和37年度	
生命理学専攻(M)	2	15	—	30	修士（理学）	1.20	平成8年度		
生命理学専攻(D)	3	4	—	12	博士（理学）	0.16	平成10年度		

社会学研究科									同上
社会学専攻(M)	2	20	—	40	修士(社会学)	0.92	平成2年度		
社会学専攻(D)	3	10	—	30	博士(社会学)	0.40	平成9年度		
法学研究科									同上
法学政治学専攻(M)	2	20	—	40	修士(法学) 修士(政治学)	0.42	平成18年度		
法学政治学専攻(D)	3	10	—	30	博士(法学) 博士(政治学)	0.06	平成18年度		
観光学研究科									埼玉県新座市北野一丁目2番26号
観光学専攻(M)	2	20	—	40	修士(観光学)	0.47	平成10年度		
観光学専攻(D)	3	8	—	24	博士(観光学)	0.08	平成10年度		
コミュニティ福祉学研究科									同上
コミュニティ福祉学専攻(M)	2	25	—	50	修士(コミュニティ福祉学) 修士(スポーツマネジメント学)	0.38	平成18年度		
コミュニティ福祉学専攻(D)	3	5	—	15	博士(コミュニティ福祉学) 博士(スポーツマネジメント学)	0.26	平成16年度		
ビジネスデザイン研究科									東京都豊島区西池袋三丁目34番1号
ビジネスデザイン専攻(M)	2	90	—	180	修士(経営管理学)	0.99	平成14年度		
ビジネスデザイン専攻(D)	3	5	—	15	博士(経営管理学)	0.73	平成19年度		
21世紀社会デザイン研究科									同上
比較組織ネットワーク学専攻(M)	2	50	—	100	修士(社会デザイン学)	0.80	平成14年度		
比較組織ネットワーク学専攻(D)	3	5	—	15	博士(社会デザイン学)	0.13	平成19年度		
異文化コミュニケーション研究科									同上
異文化コミュニケーション専攻(M)	2	20	—	40	修士(異文化コミュニケーション学)	0.65	平成14年度		
異文化コミュニケーション専攻(D)	3	5	—	15	博士(異文化コミュニケーション学)	0.80	平成16年度		
経営学研究科									同上
経営学専攻(M)	2	10	—	20	修士(経営学)	2.10	平成18年度		
経営学専攻(D)	3	5	—	15	博士(経営学)	0.40	平成18年度		
国際経営学専攻(M)	2	50	—	100	修士(国際経営学) 修士(公共経営学)	0.39	平成23年度		
現代心理学研究科									埼玉県新座市北野一丁目2番26号
心理学専攻(M)	2	10	—	20	修士(心理学)	0.25	平成18年度		
心理学専攻(D)	3	3	—	9	博士(心理学)	0.22	平成18年度		
臨床心理学専攻(M)	2	15	—	30	修士(臨床心理学)	0.86	平成18年度		
臨床心理学専攻(D)	3	4	—	12	博士(臨床心理学)	0.16	平成18年度		
映像身体学専攻(M)	2	15	—	30	修士(映像身体学)	0.23	平成20年度		
映像身体学専攻(D)	3	4	—	12	博士(映像身体学)	0.00	平成22年度		

キリスト教学研究科									東京都豊島区西池袋三丁目34番1号
キリスト教学専攻(M)	2	10	—	20	修士(神学) 修士(文学) 修士(実践神学)	0.60	平成21年度		
キリスト教学専攻(D)	3	5	—	15	博士(神学) 博士(文学)	0.13	平成21年度		
人工知能科学研究科									同上
人工知能科学専攻(M)	2	63	—	126	修士(人工知能科学)	0.81	令和2年度		
人工知能科学専攻(D)	3	8	—	8	博士(人工知能科学)	0.75	令和4年度		
附属施設の概要	該当なし								

教 育 課 程 等 の 概 要																
(スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門必修科目	基礎演習（学びの技法を含む）	1前	2					○		10	6				兼4 オムニバス・共同（一部） オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス	
	スポーツウエルネス学入門	1前	2				○			10	6					
	スポーツマンシップ論	1前	2				○				1					
	スポーツリーダーシップ論	1後	2				○				1					
	スポーツウエルネスワークショップA	1後	2					○		3	3					
	スポーツウエルネスワークショップB	2前	2					○		4	1					
	スポーツウエルネスワークショップC	2後	2					○		3	2					
	小計（7科目）	—	14	0	0			—		10	6					兼4
卒業研究	卒業研究指導演習（ベシクコース）	4通		4				○		10	5					
	卒業研究指導演習（アドバンスコース）	4通		10				○		10	5					
	小計（2科目）	—	0	14	0			—		10	5	0	0	0	—	
専門基礎科目	運動方法学演習1	1・2・3・4前		2				○							兼1 ※演習	
	運動方法学演習2	1・2・3・4前		2				○		1					※演習	
	運動方法学演習3	1・2・3・4後		2				○		1					※演習	
	運動方法学演習4	1・2・3・4後		2				○							兼1 ※演習	
	運動方法学演習5	1・2・3・4休		2				○							兼2 集中・共同 ※演習	
	運動方法学演習6	1・2・3・4休		2				○			1				兼1 集中・共同 ※演習	
	運動方法学演習7	1・2・3・4後		2				○							兼1 ※演習	
	運動方法学演習8	1・2・3・4後		2				○							兼1 ※演習	
	運動方法学演習9	1・2・3・4前		2				○							兼1 ※演習	
	運動方法学演習10	1・2・3・4後		2				○							兼1 ※演習	
	運動方法学演習11	1・2・3・4後		2				○							兼1 ※演習	
	運動方法学演習12	1・2・3・4後		2				○							兼1 ※演習	
	運動方法学演習13	1・2・3・4前		2				○							兼1 ※演習	
	運動方法学演習14	1・2・3・4前		2				○							兼1 ※演習	
	運動方法学演習15	1・2・3・4前		2				○							兼1 ※演習	
	運動方法学演習16	1・2・3・4前		2				○							兼1 ※演習	
	情報処理1	1・2・3・4前		2					○							兼1
	情報処理2	1・2・3・4後		2					○							兼1
	異文化スタディ	1・2・3・4休		2			○				1					集中
	キャリア形成論	1・2・3・4後		2			○									兼1
	ウエルネス科学総論	1・2・3・4後		2			○			1						
	スポーツ科学総論	1・2・3・4後		2			○			1						
	運動方法学	1・2・3・4後		2			○									兼1
	生涯スポーツ論	1・2・3・4後		2			○									兼1
	運動生理学	1・2・3・4後		2			○			1						
	生理学	1・2・3・4前		2			○			1						
	運動処方・療法	1・2・3・4後		2			○									兼1
	解剖学1	1・2・3・4前		2			○									兼1
	解剖学2	1・2・3・4後		2			○									兼1
	アスレティックトレーナーの役割	1・2・3・4前		2			○				1					
ウエルネスと時間生物学	1・2・3・4後		2			○									兼1	
ウエルネス理解のための基礎生命科学	1・2・3・4前		2			○			1							
環境・サステイナビリティ論	1・2・3・4前		2			○				1						
ウエルネス理解のための細胞生物学	1・2・3・4後		2			○			1							
抗加齢医学とウエルネス	1・2・3・4前		2			○									兼1	

	体育原理・体育史	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	スポーツ教育論	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	データサイエンス概論	1・2・3・4後		2		○				1						
	小計 (38科目)	—	0	76	0	—				5	4	0	0	0	兼22	—
専門 基幹 科目	身体文化論	2・3・4前		2		○									兼1	
	発育・発達・加齢論	2・3・4後		2		○			1							
	スポーツウエルネス心理学 (基礎)	2・3・4前		2		○			1							
	ストレングス・コンディショニング論 (基礎)	2・3・4前		2		○									兼1	
	運動・スポーツ栄養学 (基礎)	2・3・4前		2		○			1							
	スポーツ社会学	2・3・4後		2		○			1							
	測定評価演習	2・3・4後		2				○							兼1	※演習
	アダプテッド・スポーツ論	2・3・4前		2		○									兼1	
	ダイバーシティ・スポーツ論	2・3・4前		2		○			1							
	スポーツ政策	2・3・4前		2		○									兼1	
	健康政策	2・3・4前		2		○									兼1	
	スポーツコーチ学	2・3・4後		2		○			1							
	コーチングスキル	2・3・4後		2		○									兼1	
	スポーツ・健康産業論	2・3・4後		2		○									兼1	
	コンディショニングの実際	2・3・4後		2				○			1					
	コンディショニング概論	2・3・4前		2		○					1					
	アスレティックリハビリテーション&リコンディショニング概論	2・3・4後		2		○									兼1	
	測定と評価	2・3・4前		2				○							兼1	
	スポーツ医学 (外傷・障害) 1	2・3・4前		2		○			1							
	スポーツ医学 (外傷・障害) 2	2・3・4後		2		○			1							
	コンディショニングの方法	2・3・4後		2				○			1					
	アスレティックリハビリテーション実習 1	2・3・4後		2							○				兼1	※演習
	スポーツと法	2・3・4後		2		○									兼1	
	生物多様性と人間社会	2・3・4後		2		○					1					
	応用生命科学	2・3・4後		2		○			1							
	学校保健・学校安全	2・3・4前		2		○									兼1	
スポーツデータ収集演習	2・3・4前		2							○	1				※演習	
インターンシップ	2・3・4通		4						○	1					※演習	
インターンシップ実習 1	2・3・4前		2							○	1				※演習	
インターンシップ実習 2	2・3・4後		2							○				兼1	※演習	
小計 (30科目)	—	0	62	0	—					8	3	0	0	0	兼11	—
専門 展 開 科 目	レクリエーション援助論	3・4前		2		○									兼1	
	レクリエーション援助演習	3・4後		2							○				兼1	※演習
	メンタルマネジメント	3・4前		2		○			1							
	スポーツジャーナリズム	3・4前		2		○									兼1	
	バイオメカニクス	3・4前		2		○					1					
	スポーツ倫理学	3・4前		2		○									兼1	
	ウエルネスプロモーション論	3・4後		2		○			1							
	スポーツビジネス論	3・4前		2		○					1					
	スポーツマネジメント論	3・4前		2		○					1					
	コミュニティスポーツ論	3・4後		2		○			1							
	障害者スポーツ論	3・4前		2		○									兼1	
	小児保健・精神保健	3・4前		2		○									兼1	
	公衆衛生学	3・4前		2		○									兼1	
	ユニバーサルスポーツ援助技術演習	3・4後		2							○	1				※演習
	健康運動指導演習	3・4後		2							○				兼1	※演習
	障害者スポーツ実践論	3・4前		2							○				兼1	※演習
	リハビリテーション論	3・4後		2		○									兼1	
	スポーツコーチング演習	3・4後		2							○	1				※演習
	専門演習 1	3・4前		2				○	10	5						
	専門演習 2	3・4後		2				○	10	5						
	スポーツコーチング特論	3・4休		2		○						1			兼4	集中・ オムニバス
	動作分析法演習	3・4前		2							○	1				※演習
ダイバーシティ・スポーツ演習	3・4後		2				○			1						
生活習慣病の科学	3・4前		2		○									兼1		
運動処方・療法演習	3・4前		2								○			兼1	※演習	
スポーツウエルネス心理学 (応用)	3・4後		2		○			1								
運動・スポーツ栄養学 (応用)	3・4後		2		○			1								

	組織マネジメントサービス論	3・4後	2		○										兼1		
	スポーツ行政学	3・4前	2		○										兼1		
	アスレティックリハビリテーション&リコンディショニング1	3・4前	2			○									兼1		
	アスレティックリハビリテーション&リコンディショニング2	3・4後	2			○									兼1		
	救急処置	3・4前	2			○			1								
	ストレングス・コンディショニング論(応用)	3・4後	2		○										兼1		
	スポーツ医学(内科)	3・4前	2		○										兼1		
	アスレティックリハビリテーション実習2	3・4前	2				○								兼1	※演習	
	アスレティックリハビリテーション実習3	3・4後	2				○								兼1	※演習	
	アスレティックリハビリテーション実習4	3・4前	2				○			1						※演習	
	運動障害と運動負荷試験	3・4前	2			○			1								
	スポーツ教材論	3・4前	2		○										兼1		
	学校運動部指導論	3・4後	2		○										兼1		
	スポーツ人類学	3・4後	2		○										兼1		
	スポーツ工学演習	3・4後	2				○			1						※演習	
	スポーツ哲学	3・4前	2		○										兼1		
	スポーツデータ解析演習	3・4後	2				○			1						※演習	
	スポーツビジネスコミュニケーション演習	3・4後	2			○				1							
	小計(45科目)	—	0	90	0	—	—	—	10	6	0	0	0	0	兼22	—	
専門英語科目	Quantitative Research Methods in Sport and Exercise	1・2・3・4後	2		○				1								
	Reading and Comprehension in Sport and Wellness (Basic)	1・2・3・4前	2			○									兼1		
	English Communication in Sport 1	1・2・3・4後	2			○									兼1		
	Introduction to Sport and Wellness Overseas	1・2・3・4前	2		○										兼1		
	International Society and Sport	1・2・3・4後	2		○										兼1		
	Comparative Sport Culture	2・3・4後	2		○					1							
	Motivational Psychology in Sports and Exercise	2・3・4前	2		○				1								
	Reading and Comprehension in Sport and Wellness (Advanced)	2・3・4後	2			○									兼1		
	English Communication in Sport 2	2・3・4後	2			○									兼1		
	English for Future Careers in Sport and Wellness	2・3・4前	2			○									兼1		
	Contemporary Issues in Global Sports	2・3・4後	2		○										兼1		
	Psychology of Well-Functioning and Performance	3・4前	2		○				1								
小計(12科目)	—	0	24	0	—	—	—	1	1	0	0	0	0	兼1	—		
自由科目	【専門関連科目】																
	心理学1	1・2・3・4前	2		○										兼1		
	心理学2	1・2・3・4後	2		○										兼1		
	生涯学習概論1	1・2・3・4前	2		○										兼1		
	生涯学習概論2	1・2・3・4後	2		○										兼1		
	生涯学習支援論1	1・2・3・4前	2		○										兼1		
	生涯学習支援論2	1・2・3・4後	2		○										兼1		
	社会教育経営論1	1・2・3・4前	2		○										兼1		
社会教育経営論2	1・2・3・4後	2		○										兼1			
小計(8科目)	—	0	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼5	—		
全学共通科目	学びの精神	世界史の中のキリスト教	1・2・3・4前	2		○									兼4		
		思想を生み出すキリスト教	1・2・3・4前・後	2		○									兼4		
		美術の中のキリスト教	1・2・3・4前・後	2		○									兼4		
		音楽の中のキリスト教	1・2・3・4前	2		○									兼2		
		文学を生み出すキリスト教	1・2・3・4前・後	2		○									兼3		
		国際社会の中の宗教	1・2・3・4前	2		○									兼4		
		現代社会の中の宗教1	1・2・3・4前・後	2		○									兼3		
		現代社会の中の宗教2	1・2・3・4前・後	2		○									兼4		
		人文学からの学び(文学)	1・2・3・4前・後	2		○									兼5		
		人文学からの学び(思想・教育)	1・2・3・4前・後	2		○									兼3		
		人文学からの学び(史学)	1・2・3・4前・後	2		○									兼3		
		芸術への扉	1・2・3・4前	2		○									兼4		
		グローバル経済社会を考える	1・2・3・4前・後	2		○									兼4		
		社会学からの学び	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		学びの場としての社会	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		メディアからみる学び	1・2・3・4前	2		○									兼1		
		法と政治の世界	1・2・3・4前	2		○									兼3		
		経営学への招待	1・2・3・4前・後	2		○									兼4		
		現代社会と観光	1・2・3・4前	2		○									兼4		
		現代社会の諸相	1・2・3・4前・後	2		○									兼4		
		自然科学の探究	1・2・3・4前・後	2		○									兼4		
		身体科学からの学び	1・2・3・4前・後	2		○				2	1						
		現代心理学からの学び	1・2・3・4前・後	2		○										兼3	
		アジア地域での平和構築	1・2・3・4前・後	2		○										兼3	
		グローバル社会での平和構築	1・2・3・4前	2		○										兼3	

	大学生の学び・社会で学ぶこと	1・2・3・4前・後	2		○								兼3		
	人権とジェンダー	1・2・3・4前	2		○								兼2		
	ライフマネジメントと学生生活	1・2・3・4前・後	2		○								兼3		
	立教大学の歴史	1・2・3・4前・後	2		○								兼3		
	西欧キリスト教社会における大学の誕生	1・2・3・4前・後	2		○								兼2		
	キャリアデザイン	1・2・3・4前	2		○								兼3		
	キリスト教史に学ぶ多文化共生	1・2・3・4前	2		○								兼4		
	美と生命について：キリスト教の美学	1・2・3・4前	2		○								兼4		
	愛について：キリスト教の倫理と哲学	1・2・3・4前	2		○								兼2		
	教養の扉をひらく	1・2・3・4前	2		○								兼1		
	Economy and Society	1・2・3・4前	2		○								兼1		
	多文化共生社会と大学—やさしい日本語	1・2・3・4後	4		○								兼1		
	Image Studies	1・2・3・4前	2		○								兼1		
	GL101	1・2・3・4前	2		○								兼13		
	小計 (39科目)	—	0	80	0	—			2	1	0	0	0	兼117	
全学共通科目	多 彩 な 学 び  1 人 間 の 探 究	聖書と人間	1・2・3・4後	2		○								兼3	
		聖書考古学	1・2・3・4後	2		○								兼1	
		ジェンダーとキリスト教	1・2・3・4後	2		○								兼1	
		イスラームの世界	1・2・3・4前・後	2		○								兼2	
		「宗教」とは何か	1・2・3・4前・後	2		○								兼1	
		現代社会と人間	1・2・3・4前・後	2		○								兼3	
		哲学への扉	1・2・3・4前	2		○								兼2	
		論理的思考法	1・2・3・4前・後	2		○								兼1	
		教育と人間	1・2・3・4後	2		○								兼2	
		歴史への扉	1・2・3・4前・後	2		○								兼5	
		地域研究への扉	1・2・3・4前・後	2		○								兼3	
		多文化の世界	1・2・3・4前・後	2		○								兼3	
		文化を生きる	1・2・3・4前・後	2		○								兼2	
		人権思想の根源	1・2・3・4前・後	2		○								兼2	
		手話と人権を考える	1・2・3・4前・後	2		○								兼1	
		点字から考える人権	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		アジアの文化とことば	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		ヨーロッパの文化とことば	1・2・3・4前・後	2		○								兼2	
		ラテンアメリカの文化とことば	1・2・3・4後	2		○								兼1	
		ロシア・東欧の文化とことば	1・2・3・4後	2		○								兼1	
		中東の文化とことば	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		アフリカの文化とことば	1・2・3・4後	2		○								兼1	
		イタリアの文化とことば	1・2・3・4後	2		○								兼2	
		ドイツ語圏の文化	1・2・3・4前	2		○								兼2	
		フランス語圏の文化	1・2・3・4前・後	2		○								兼1	
		スペイン語圏の文化	1・2・3・4前・後	2		○								兼2	
		中国語圏の文化	1・2・3・4前・後	2		○								兼1	
		朝鮮語圏の文化	1・2・3・4後	2		○								兼2	
		教育学への扉	1・2・3・4前・後	2		○								兼2	
		現代社会における言葉の持つ意味	1・2・3・4前	2		○								兼1	
		立教ゼミナール1	1・2・3・4前・後	2			○							兼3	
		立教ゼミナール発展編 1	1・2・3・4前・後	2			○							兼4	
		睡眠文化論	1・2・3・4後	2			○							兼2	共同
		ボランティア論	1・2・3・4前	2			○							兼2	共同
哲学対話 in RIKKYO	1・2・3・4前・後	2			○							兼6	共同		
「伝えること」とは何か	1・2・3・4後	2			○							兼2	共同		
仏教の世界	1・2・3・4後	2			○							兼1			
日本の宗教	1・2・3・4後	2			○							兼2			
日本文化と精神性	1・2・3・4前	2			○							兼1			
立教学院とポール・ラッシュ	1・2・3・4前	2			○			1				兼2	共同		
多文化共生社会と日本—やさしい日本語	1・2・3・4後	4			○							兼1			
Japanese Ethnology	1・2・3・4前・後	2			○							兼2			
World History	1・2・3・4前・後	4			○							兼1			
Religions in Asia	1・2・3・4後	2			○							兼1			
Peace and Human Rights 1	1・2・3・4前・後	1			○							兼1			
Peace and Human Rights 2	1・2・3・4前・後	1			○							兼1			
小計 (46科目)	—	0	94	0	—			1	0	0	0	0	0	兼83	





	台湾から世界を考える	1・2・3・4前	2		○									兼2	共同	
	翻訳・通訳と現代社会	1・2・3・4後	2		○									兼2	共同	
	立教人から学ぶメディアの世界	1・2・3・4前	2		○									兼2	共同	
	地域学への招待	1・2・3・4後	2		○									兼2	共同	
	小計 (82科目)	—	0	164	0	—			0	0	0	0	0	兼116	—	
全学 共通科目	多彩な 学び 3 芸術・文化への招待	文学への扉	1・2・3・4前	2		○								兼5		
		表象文化	1・2・3・4前・後	2		○									兼6	
		美術の歴史	1・2・3・4前・後	2		○									兼3	
		美術と社会	1・2・3・4後	2		○									兼3	
		音楽の歴史	1・2・3・4前・後	2		○									兼3	
		音楽と社会	1・2・3・4後	2		○									兼3	
		美術論演習	1・2・3・4前・後	2				○							兼3	
		音楽論演習	1・2・3・4前・後	2				○							兼2	
		キリスト教美術	1・2・3・4後	2		○									兼2	
		キリスト教音楽	1・2・3・4後	2		○									兼2	
		都市と芸術	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		建築と文化	1・2・3・4後	2		○									兼1	
		舞踊論	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	
		映像と社会	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	
		身体表現と哲学	1・2・3・4前・後	2		○									兼2	
		ドイツ語圏の文学	1・2・3・4後	2		○									兼2	
		フランス語圏の文学	1・2・3・4前・後	2		○									兼2	
		スペイン語圏の文学	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	
		中国語圏の文学	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	
		朝鮮語圏の文学	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	
		立教ゼミナール3	1・2・3・4前・後	2				○							兼2	
		立教ゼミナール発展編 3	1・2・3・4前	2				○							兼1	
		日本の美術	1・2・3・4前・後	2		○									兼2	
		日本の音楽	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	
		日本の演劇	1・2・3・4後	2				○							兼1	
		Japanese Culture 1	1・2・3・4前・後	2				○							兼2	
		Japanese Culture 2	1・2・3・4後	2				○							兼1	
Japanese Arts A	1・2・3・4前・後	2			○								兼1			
Japanese Arts B	1・2・3・4前・後	2			○								兼1			
Literature and Society	1・2・3・4後	4		○									兼1			
Culture and Fine Arts	1・2・3・4前	4		○									兼1			
Exploring Children's Literature	1・2・3・4前	2		○									兼1			
Techniques for Reading and Enjoying a Picturebook in English	1・2・3・4後	2		○									兼1			
The Psychology of Literature 1	1・2・3・4前・後	1		○									兼1			
The Psychology of Literature 2	1・2・3・4前・後	1		○									兼1			
観光と文学	1・2・3・4前・後	2		○									兼3	共同		
小計 (36科目)	—	0	74	0	—				0	0	0	0	0	兼61	—	
全学 共通科目	多彩な 学び 4 心身への着目	認知・行動・身体	1・2・3・4前・後	2		○								兼3		
		心の科学	1・2・3・4前・後	2		○									兼3	
		パーソナリティの心理	1・2・3・4後	2		○									兼3	
		対人関係の心理	1・2・3・4前・後	2		○									兼3	
		心の健康	1・2・3・4前	2		○									兼2	
		身体パフォーマンス	1・2・3・4前・後	2		○									兼2	
		ストレスマネジメント	1・2・3・4前	2		○									兼2	
		癒しの科学	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	
		スポーツの科学	1・2・3・4前・後	2		○									兼2	
		健康の科学	1・2・3・4前・後	2		○									兼2	
		栄養の科学	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	
		アンチエイジングの科学	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	
		スポーツとメディア	1・2・3・4後	2		○									兼2	
		スポーツと社会	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	
		スポーツと文化	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	
		レジャー・レクリエーションと現代社会	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		アウトドアの知恵に学ぶ	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	
		立教ゼミナール4	1・2・3・4後	2				○		1					兼1	
		立教ゼミナール発展編 4	1・2・3・4前・後	2				○		1					兼3	
		Japanese Mind	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		Individual Differences in Psychology	1・2・3・4前・後	2		○									兼1	
Health and Wellness	1・2・3・4後	4		○									兼1			
Understanding Speech Sounds 1	1・2・3・4後	1		○									兼1			
Understanding Speech Sounds 2	1・2・3・4後	1		○									兼1			
いのちを健康で彩る智慧	1・2・3・4前	2		○				1					兼1			
小計 (25科目)	—	0	50	0	—				3	0	0	0	0	兼36	—	





必修科目 (言語B / 中国語)	中国語基礎 1	1前	2					○							兼25	
	中国語基礎 2	1後	2					○							兼25	
小計 (2科目)		—	4	0	0			—	0	0	0	0	0	0	兼25	—
必修科目 (言語B / 朝鮮語)	朝鮮語基礎 1	1前	2					○							兼21	
	朝鮮語基礎 2	1後	2					○							兼21	
小計 (2科目)		—	4	0	0			—	0	0	0	0	0	0	兼21	—
必修科目 (言語B / ロシア語)	ロシア語基礎 1	1前	2					○							兼3	
	ロシア語基礎 2	1後	2					○							兼3	
小計 (2科目)		—	4	0	0			—	0	0	0	0	0	0	兼3	—
必修科目 (言語B)	大学生の日本語A	1前	1					○							兼7	
	大学生の日本語B	1前	1					○							兼7	
	大学生の日本語C	1後	1					○							兼8	
	大学生の日本語D	1後	1					○							兼8	
	小計 (4科目)	—	4	0	0			—	0	0	0	0	0	0	兼16	—
自由科目 (英語 / コース)	English Intensive A (Global World)	2・3・4前		4				○							兼5	
	English Intensive B (Academic Language Skills)	2・3・4前		4				○							兼4	
	English Intensive C (Integrated Language Skills)	2・3・4後		4				○							兼5	
	English Intensive D (Intercultural Understanding)	2・3・4後		4				○							兼5	
	Intercultural Studies	2・3・4前		2				○							兼1	
	Self-directed and Reflective Language Learning	2・3・4前		2				○							兼1	
小計 (6科目)		—	0	20	0			—	0	0	0	0	0	0	兼18	—





コア科目群(上級レベル)	全学共通科目(フランス語)	上級フランス語コミュニケーション1	2・3・4前	2				○							兼2	
		上級フランス語コミュニケーション2	2・3・4後	2				○							兼2	
		上級フランス語ライティング1	2・3・4前	2				○							兼2	
		上級フランス語ライティング2	2・3・4後	2				○							兼2	
		上級フランス語リスニング・リーディング1	2・3・4前	2				○							兼1	
		上級フランス語リスニング・リーディング2	2・3・4後	2				○							兼1	
		上級フランス語演習1	2・3・4前	2				○							兼2	
		上級フランス語演習2	2・3・4後	2				○							兼2	
小計(8科目)		—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	0	兼5	—
情報処理論(中級レベル)	全学共通科目(フランス語)	言語情報処理論(フランス語)	1・2・3・4前	2				○							兼1	
		小計(1科目)	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	0	兼1
フランス語入門科目	全学共通科目(フランス語)	基礎フランス語入門	2・3・4前	2				○							兼6	
		基礎フランス語初級	2・3・4後	2				○							兼6	
小計(2科目)		—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6	—
基礎科目群(スペインレベル)	全学共通科目(スペイン語)	スペイン語中級1	2・3・4前	2				○							兼6	共同
		スペイン語中級2	2・3・4後	2				○							兼6	共同
		スペイン語スタンダード1	2・3・4前	1				○							兼4	
		スペイン語スタンダード2	2・3・4前	1				○							兼3	
		スペイン語スタンダード3	2・3・4後	1				○							兼3	
		スペイン語スタンダード4	2・3・4後	1				○							兼3	
小計(6科目)		—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	0	兼9	—
コア科目群(スペインレベル)	全学共通科目(スペイン語)	上級スペイン語コミュニケーション1	2・3・4前	2				○							兼2	
		上級スペイン語コミュニケーション2	2・3・4後	2				○							兼2	
		上級スペイン語ライティング1	2・3・4前	2				○							兼2	
		上級スペイン語ライティング2	2・3・4後	2				○							兼2	
		上級スペイン語リスニング・リーディング1	2・3・4前	2				○							兼2	
		上級スペイン語リスニング・リーディング2	2・3・4後	2				○							兼2	
		上級スペイン語演習1	2・3・4前	2				○							兼2	
		上級スペイン語演習2	2・3・4後	2				○							兼2	
小計(8科目)		—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6	—

処 理 論 （ 中 級 レ ベ ル） 自 由 学 科 目 （ ス ペ イ ン 語） 言 語 情 報 系 科 目 言 語 情 報	言語情報処理論（スペイン語）	1・2・3・4前・後		2				○							兼2	
	小計（1科目）	—	0	2	0			—	0	0	0	0	0	0	兼2	—
ス ペ イ ン 語 入 門 科 目 （ ス ペ イ ン 語） 自 由 学 科 目 （ ス ペ イ ン 語） 言 語 系 科 目 言 語 系 科 目	基礎スペイン語入門	2・3・4前		2				○							兼9	
	基礎スペイン語初級	2・3・4後		2				○							兼9	
小計（2科目）	—	0	4	0				—	0	0	0	0	0	0	兼9	—
海 外 言 語 文 化 研 修 科 目 （ ス ペ イ ン 語） 自 由 学 科 目 （ ス ペ イ ン 語） 言 語 系 科 目 言 語 系 科 目	スペイン語海外言語文化研修（中級）	1・2・3後		2				○							兼1	
	スペイン語海外言語文化研修（上級）	2・3後		2				○							兼1	
小計（2科目）	—	0	4	0				—	0	0	0	0	0	0	兼1	—
基 礎 科 目 群 （ 中 級 レ ベ ル） 自 由 学 科 目 （ 中 国 語） 言 語 系 科 目 言 語 系 科 目	中国語中級1	2・3・4前		2				○							兼5	
	中国語中級2	2・3・4後		2				○							兼5	
	中国語スタンダード1	2・3・4前		1				○							兼4	
	中国語スタンダード2	2・3・4前		1				○							兼4	
	中国語スタンダード3	2・3・4後		1				○							兼4	
	中国語スタンダード4	2・3・4後		1				○							兼4	
小計（6科目）	—	0	8	0				—	0	0	0	0	0	0	兼11	—
コ ア 科 目 群 （ 上 級 レ ベ ル） 自 由 学 科 目 （ 中 国 語） 言 語 系 科 目 言 語 系 科 目	上級中国語コミュニケーション1	2・3・4前		2				○							兼1	
	上級中国語コミュニケーション2	2・3・4後		2				○							兼1	
	上級中国語ライティング1	2・3・4前		2				○							兼1	
	上級中国語ライティング2	2・3・4後		2				○							兼1	
	上級中国語リスニング・リーディング1	2・3・4前		2				○							兼2	
	上級中国語リスニング・リーディング2	2・3・4後		2				○							兼2	
	上級中国語演習1	2・3・4前		2				○							兼2	
	上級中国語演習2	2・3・4後		2				○							兼2	
小計（8科目）	—	0	16	0				—	0	0	0	0	0	0	兼2	—



処 自 理 論 （ 中 級 レ ベ ル）	全 学 共 通 科 目 言 語 系 科 目 言 語 情 報	言語情報処理論（中国語）	1・2・3・4前・後		2				○									兼2	
		小計（1科目）	—	0	2	0			—		0	0	0	0	0	0	0	0	兼2
中 自 国 語 入 門 科 目	全 学 共 通 科 目 言 語 系 科 目	基礎中国語入門	2・3・4前		2				○									兼5	
		基礎中国語初級	2・3・4後		2				○										兼5
小計（2科目）	—	0	4	0				—		0	0	0	0	0	0	0	0	兼5	—
海 自 外 言 語 文 化 研 修	全 学 共 通 科 目 言 語 系 科 目	中国語海外言語文化研修春（中級）	1・2・3後		2				○									兼1	
		中国語海外言語文化研修春（上級）	2・3後		2				○										兼1
小計（2科目）	—	0	4	0				—		0	0	0	0	0	0	0	0	兼1	—
基 自 礎 科 目 群 （ 朝 鮮 語 ） （ 中 級 レ ベ ル）	全 学 共 通 科 目 言 語 系 科 目	朝鮮語中級1	2・3・4前		2				○									兼6	
		朝鮮語中級2	2・3・4後		2				○										兼6
		朝鮮語スタンダード1	2・3・4前		1				○										兼3
		朝鮮語スタンダード2	2・3・4前		1				○										兼2
		朝鮮語スタンダード3	2・3・4後		1				○										兼3
		朝鮮語スタンダード4	2・3・4後		1				○										兼3
小計（6科目）	—	0	8	0				—		0	0	0	0	0	0	0	0	兼12	—
コ 自 ア 科 目 群 （ 朝 鮮 語 ） （ 上 級 レ ベ ル）	全 学 共 通 科 目 言 語 系 科 目	上級朝鮮語コミュニケーション1	2・3・4前		2				○									兼2	
		上級朝鮮語コミュニケーション2	2・3・4後		2				○										兼2
		上級朝鮮語ライティング1	2・3・4前		2				○										兼2
		上級朝鮮語ライティング2	2・3・4後		2				○										兼2
		上級朝鮮語リスニング・リーディング1	2・3・4前		2				○										兼2
		上級朝鮮語リスニング・リーディング2	2・3・4後		2				○										兼2
		上級朝鮮語演習1	2・3・4前		2				○										兼2
		上級朝鮮語演習2	2・3・4後		2				○										兼2
小計（8科目）	—	0	16	0				—		0	0	0	0	0	0	0	0	兼9	—
処 自 理 論 （ 中 級 レ ベ ル）	全 学 共 通 科 目 言 語 系 科 目 言 語 情 報	言語情報処理論（朝鮮語）	1・2・3・4後		2				○									兼2	
		小計（1科目）	—	0	2	0			—		0	0	0	0	0	0	0	0	兼2

朝鮮語入門科目 (朝鮮語)	基礎朝鮮語入門	2・3・4前		2				○							兼9	
	基礎朝鮮語初級	2・3・4後		2				○							兼9	
小計 (2科目)		—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼9	—
海外言語文化研修 (朝鮮語)	朝鮮語海外言語文化研修 (中級)	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	朝鮮語海外言語文化研修 (上級)	2・3・4前		2				○							兼1	
小計 (2科目)		—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼1	—
自由科目 (ロシア語)	ロシア語セミナーA	2・3・4前		1				○							兼1	
	ロシア語セミナーB	2・3・4後		1				○							兼1	
	ロシア語セミナーC	2・3・4前		1				○							兼1	
	ロシア語セミナーD	2・3・4後		1				○							兼1	
	ロシア語セミナー1	2・3・4前		1				○							兼1	
	ロシア語セミナー2	2・3・4後		1				○							兼1	
小計 (6科目)		—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	0	兼3	—
基礎から (ロシア語)	基礎ロシア語入門	2・3・4前		2				○							兼3	共同
	基礎ロシア語初級	2・3・4後		2				○							兼3	
小計 (2科目)		—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼3	—
(自由科目 (ポルトガル語))	ポルトガル語3	2・3・4前		1				○							兼1	
	ポルトガル語4	2・3・4後		1				○							兼1	
小計 (2科目)		—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	0	兼1	—
入門レベル (日本語)	日本語 1	1・2・3・4前		1				○							兼3	共同
	小計 (1科目)		—	0	1	0	—			0	0	0	0	0	兼3	—

初級レベル （日本語系科目）	日本手話 2	1・2・3・4後		1				○						兼3	共同
	小計（1科目）	—	0	1	0	—			0	0	0	0	0	兼3	—
中級レベル （日本語系科目）	日本手話 3	1・2・3・4前		1				○						兼3	共同
	日本手話 4	1・2・3・4後		1				○						兼3	共同
小計（2科目）	—	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼3	—
自由科目 （日本語系科目）	日本の社会と文化A	2・3・4前		2				○						兼1	
	日本の社会と文化B	2・3・4後		2				○						兼1	
	日本の社会と文化C	2・3・4後		2				○						兼1	
	社会の中の日本語A	2・3・4前		2				○						兼1	
	社会の中の日本語B	2・3・4後		2				○						兼1	
	論文読解の技法	2・3・4前		2				○						兼2	
	論文作成の技法	2・3・4後		2				○						兼2	
	キャリアの日本語A	2・3・4前・後		2				○						兼3	
	キャリアの日本語B	2・3・4前・後		2				○						兼3	
	ビジネスのための口頭運用力A	2・3・4前・後		2				○						兼3	
	ビジネスのための口頭運用力B	2・3・4前・後		2				○						兼2	
	ビジネスメールと文書	2・3・4前・後		2				○						兼2	
小計（12科目）	—	—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	兼14	—
教職科目	【再掲】運動方法学演習 1	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】運動方法学演習 2	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】運動方法学演習 3	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】運動方法学演習 4	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】運動方法学演習 5	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】運動方法学演習 6	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】運動方法学演習 7	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】運動方法学演習 8	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】運動方法学演習 9	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】スポーツ科学総論	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】運動方法学	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】ウェルネス科学総論	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】スポーツウェルネス心理学（基礎）	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】スポーツ社会学	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】スポーツ倫理学	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】コミュニティスポーツ論	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】バイオメカニクス	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】メンタルマネジメント	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】運動生理学	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】生理学	—	—	—	—	—	—	—							
	【再掲】運動・スポーツ栄養学（基礎）	—	—	—	—	—	—	—							
【再掲】運動処方・療法	—	—	—	—	—	—	—								
【再掲】解剖学1	—	—	—	—	—	—	—								
【再掲】生活習慣病の科学	—	—	—	—	—	—	—								
【再掲】公衆衛生学	—	—	—	—	—	—	—								
【再掲】小児保健・精神保健	—	—	—	—	—	—	—								
【再掲】スポーツ医学（外傷・障害）1	—	—	—	—	—	—	—								
保健体育科教育法 1	3・4前			2				○						兼1	
保健体育科教育法 2	3・4前			2				○						兼1	
保健体育科教育法演習 1	3・4後			2				○						兼1	
保健体育科教育法演習 2	3・4後			2				○						兼1	
教育原論	1・2・3・4前			2				○						兼5	

教職概論	2・3・4前			2	○										兼6
教育制度論・教育課程論	1・2・3・4後			2	○										兼5
教育心理学	1・2・3・4前			2	○										兼6
特別支援教育の理論と方法	2・3・4後			2	○										兼5
道徳教育の理論と方法	1・2・3・4前			2	○										兼6
特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	2・3・4通			2	○										兼6
教育方法論	2・3・4後			2	○										兼6
生徒・進路指導の理論と方法	1・2・3・4後			2	○										兼6
学校教育相談の理論と方法	2・3・4前			2	○										兼6
中・高教育実習事前指導	3・4通			1	○										兼6 共同
高校教育実習	4通			2				○							兼6 共同
中・高教育実習	4通			4				○							兼6 共同
教職実践演習（中・高）	4後			4				○							兼9
教職特別演習	3・4後			2				○							兼1
【再掲】日本国憲法	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】スポーツプログラム1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】スポーツプログラム2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】スポーツプログラム3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】スポーツスタディ1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】スポーツスタディ2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】スポーツスタディ3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】スポーツスタディ4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】スポーツスタディe	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】英語ディスカッション	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】英語ディベート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】英語リーディング&ライティング1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】英語リーディング&ライティング2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】英語eラーニング	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】英語プレゼンテーション	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】上級英語1（リーディング&ライティング）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】上級英語2（プロジェクト英語）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】ドイツ語基礎1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】ドイツ語基礎2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】フランス語基礎1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】フランス語基礎2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】スペイン語基礎1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】スペイン語基礎2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】中国語基礎1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】中国語基礎2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】朝鮮語基礎1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】朝鮮語基礎2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】ロシア語基礎1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】ロシア語基礎2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】情報処理1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【再掲】情報処理2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小計（77科目／うち初出19科目）	—	0	0	41	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	兼36
合計（697科目）	—	52	1302	41	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	兼845
学位又は称号	学士（スポーツウエルネス学）			学位又は学科の分野				体育関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
スポーツウエルネス学科の卒業研究ベーシックコースは、全学共通科目28単位以上、専門必修科目を14単位、卒業研究科目を4単位、専門基礎科目を22単位、専門基礎科目を12単位、専門展開科目を22単位、専門英語科目を4単位、自由科目を20単位以上、合計126単位以上を修得すること。 卒業研究アドバンスコースは、全学共通科目28単位、専門必修科目を14単位、卒業研究科目を10単位、専門基礎科目を22単位、専門基礎科目を10単位、専門展開科目を18単位、専門英語科目を4単位、自由科目を20単位以上、合計126単位以上を修得すること。 いずれのコースにおいても、卒業要件単位を超えて修得した全学共通科目、選択科目、及び専門関連科目、他学部科目、他学科科目、5大学間単位互換制度による他大学の科目を自由科目として卒業要件単位に算入することができる。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間）） なお、専門基礎科目のうち、運動方法学演習1～運動方法学演習16から、12単位を選択必修とする。						1学年の学期区分		2期							
						1学期の授業期間		14週							
						1時限の授業時間		100分							

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校学科の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
  - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
  - (2) 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門必修科目	スポーツウエルネス学入門	1前	2			○			7	4					オムニバス
	基礎演習（学びの技法を含む）	1前	2				○		7	3					
	運動方法学演習1	1前		2				○							兼1 ※演習
	運動方法学演習2	1前		2				○							兼1 ※演習
	運動方法学演習9	1前		2				○							兼1 ※演習
	スポーツウエルネスワークショップA	1後	2				○		2	2					オムニバス
	スポーツウエルネスワークショップB	2前	2				○		1	1					兼2 オムニバス
	スポーツウエルネスワークショップC	2後	2				○		3	1					オムニバス
小計（8科目）	—	10	6	0		—		7	4	0	0	0	兼4	—	
卒業科目研究	卒業研究指導演習（パイシクコース）	4通		4			○		5	3					
	卒業研究指導演習（アドバンスコース）	4通		10			○		7	4					兼1
	小計（2科目）	—	0	14	0		—		7	4	0	0	0	兼1	—
学部共通科目	ノーマライゼーション論	1・2・3・4前		2		○									兼1
	情報処理1	1・2・3・4前		2				○							兼1
	情報処理2	1・2・3・4後		2				○							兼1
	ウエルネス福祉演習	1・2・3・4休		2				○		1					兼1 集中・共同 ※演習
	キャリア形成論1	1・2・3・4後		2		○									兼1
	キャリア形成論2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	ウエルネス福祉論	1・2・3・4前		2		○									兼1
	現代キリスト教人間学	1・2・3・4後		2		○									兼1
	社会調査法	1・2・3・4後		2		○									兼1
	人権論	1・2・3・4後		2		○									兼2 7週ずつに分けて2名で担当
	福祉文化論	1・2・3・4後		2		○									兼1
	生涯スポーツ論	1・2・3・4後		2		○									兼1
	コミュニティ福祉とキリスト教	1・2・3・4後		2		○									兼1
	社会保障総論	1・2・3・4前		2		○									兼1
	異文化スタディ	1・2・3・4休		2		○									兼1 集中・令和4年度休講
	社会福祉調査の基礎	2・3・4後		2		○									兼1
	情報処理3	2・3・4前		2				○							兼1
	情報処理4	2・3・4後		2				○							兼1
	グローバル社会で活躍するための英語1	2・3・4前		2		○									兼1
	グローバル社会で活躍するための英語2	2・3・4後		2		○									兼1
	高齢社会システム論	2・3・4後		2		○									兼1
	ジェンダー論	2・3・4後		2		○									兼1
	障害学入門	2・3・4後		2		○									兼1
	家族社会学	2・3・4前		2		○									兼1
	人間心理の深層	2・3・4前		2		○									兼1
	日本の文化と思想	2・3・4前		2		○									兼1
	発育・発達・加齢論	2・3・4後		2		○				1					兼1
	コミュニティ平和論	2・3・4後		2		○									兼1
	家族心理学の基礎	2・3・4後		2		○									兼1
	ファシリテーション論	2・3・4後		2		○									兼1
	ライフサイクルの心理学	2・3・4前		2		○									兼1
	現代コミュニティ福祉学特別講義A	2・3・4前		2		○									兼1
	現代コミュニティ福祉学特別講義B	2・3・4後		2		○									兼1
	心理学理論と心理的支援	2・3・4後		2		○									兼1
社会理論と社会システム	2・3・4後		2		○									兼1	
リスクマネジメント論	3・4後		2		○					1				兼1	
セクソロジー	3・4後		2		○									兼1	
グリーフスタディ	3・4後		2		○									兼1	
アジアの宗教と文化	3・4後		2		○									兼1	
社会福祉発達史1	3・4前		2		○									兼1 隔年	

	社会福祉発達史 2	3・4前		2		○									兼1	隔年 令和4年度 休講
	小計 (41科目)	—	0	82	0	—			1	2	0	0	0	0	兼30	—
専門 基礎 科目	ウエルネス科学総論	1・2・3・4後		2		○			1							
	運動処方・療法	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	生理学	1・2・3・4前		2		○			1							
	運動生理学	1・2・3・4後		2		○			1							
	スポーツ科学総論	1・2・3・4後		2		○				1						
	介護概論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	運動方法学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	解剖学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	運動方法学演習 3	1・2・3・4後		2				○	1							※演習
	運動方法学演習 4	1・2・3・4後		2				○							兼1	※演習
	運動方法学演習 5	1・2・3・4休		2				○		1					兼2	集中・共同 ※演習
	運動方法学演習 6	1・2・3・4休		2				○		1					兼1	集中・共同 ※演習
	運動方法学演習 7	1・2・3・4後		2				○							兼1	※演習
	運動方法学演習 8	1・2・3・4後		2				○							兼1	※演習
循環器検査・救急処置演習	1・2・3・4前		2				○	1							※演習	
小計 (15科目)	—	0	30	0	—			4	2	0	0	0	0	兼7	—	
専門 基礎 科目	アダプテッドスポーツ論	2・3・4前		2		○									兼1	
	トレーナー演習	2・3・4前		2						1						※演習
	生活習慣病の科学	2・3・4前		2		○			1							
	身体文化論	2・3・4後		2		○									兼1	
	スポーツ政策	2・3・4前		2		○									兼1	
	健康政策	2・3・4前		2		○									兼1	
	スポーツコーチ学	2・3・4後		2		○									兼1	
	スポーツ社会学	2・3・4後		2		○			1							
	運動・スポーツ栄養学	2・3・4前		2		○			1							
	測定評価演習	2・3・4後		2											兼1	※演習
	余暇生活論	2・3・4後		2		○									兼1	
	スポーツウエルネス心理学	2・3・4後		2		○									兼1	
	ウエルネススポーツ医学	2・3・4前		2		○			1							
	ストレンクス・コンディショニング論 (母体国子・母体インターンゼロドリハへの)	2・3・4後		2		○									兼1	
英語 (スポーツウエルネス系) 英語で学ぶスポーツマネジメント・スポーツビジネス	2・3・4後		2		○									兼1		
International Society and Sport	2・3・4後		2		○									兼1		
小計 (17科目)	—	0	34	0	—			3	1	0	0	0	0	兼12	—	
専門 展 開 科 目	コミュニティスポーツ論	3・4後		2		○									兼1	
	ウエルネスプロモーション論	3・4後		2		○			1							
	レクリエーション援助論	3・4前		2		○									兼1	
	レクリエーション援助演習	3・4後		2											兼1	※演習
	リハビリテーション論	3・4後		2		○									兼1	
	小児保健・精神保健	3・4前		2		○									兼1	
	ユニバーサルスポーツ援助技術演習	3・4後		2					1							※演習
	健康運動指導演習	3・4前		2					1							※演習
	障害者スポーツ論	3・4前		2		○									兼1	
	障害者スポーツ実践論	3・4前・後		2											兼1	※演習
	スポーツビジネス論	3・4後		2		○									兼1	
	スポーツジャーナリズム	3・4前		2		○									兼1	
	動作分析法演習	3・4後		2						1						※演習
	スポーツコーチング演習	3・4後		2											兼1	※演習
	スポーツ倫理学	3・4前		2		○									兼1	
	バイオメカニクス	3・4前		2		○				1						
	スポーツマネジメント論	3・4前		2		○									兼1	
	スポーツコーチング特論	3休		2		○				1					兼4	集中・ オムニバス
	メンタルマネジメント	3・4前		2		○									兼1	
	公衆衛生学	3・4後		2		○									兼1	
インターンシップ	3・4通		4					2						兼4	※演習	
専門演習 1	3・4前		2			○		6	4					兼1		
専門演習 2	3・4後		2			○		7	4							
小計 (23科目)	—	0	48	0	—			7	4	0	0	0	0	兼22	—	





	ボランティア論	1・2・3・4前	2		○										兼2	共同	
	哲学対話 in RIKKYO	1・2・3・4前・後	2		○										兼6	共同	
	「伝えること」とは何か	1・2・3・4後	2		○										兼2	共同	
	仏教の世界	1・2・3・4後	2		○										兼1		
	日本の宗教	1・2・3・4後	2		○										兼2		
	日本文化と精神性	1・2・3・4前	2		○										兼1		
	立教学院とポール・ラッシュ	1・2・3・4前	2		○				1						兼2	共同	
	多文化共生社会と日本—やさしい日本語	1・2・3・4後	4		○										兼1		
	Japanese Ethnology	1・2・3・4前・後	2		○										兼2		
	World History	1・2・3・4前・後	4		○										兼1		
	Religions in Asia	1・2・3・4後	2		○										兼1		
	Peace and Human Rights 1	1・2・3・4前・後	1		○										兼1		
	Peace and Human Rights 2	1・2・3・4前・後	1		○										兼1		
	小計 (46科目)	—	0	94	0	—			1	0	0	0	0	0	兼83	—	
全学 共通科目	多彩な 学び 2 社会 への 視点	入門・経済教室	1・2・3・4前・後	2		○									兼3		
		統計情報で社会・経済を診断する	1・2・3・4後	2		○										兼1	
		景気・格差問題と統計情報	1・2・3・4後	2		○										兼2	
		法と社会	1・2・3・4前・後	2		○										兼2	
		政治と社会	1・2・3・4後	2		○										兼2	
		グローバル社会における法と政治	1・2・3・4前・後	2		○										兼3	
		現代のビジネスを学ぶ	1・2・3・4前・後	2		○										兼3	
		企業と社会	1・2・3・4前・後	2		○										兼3	
		現代社会と環境	1・2・3・4後	2		○										兼1	
		情報と倫理	1・2・3・4前	2		○										兼1	
		メディアと人間	1・2・3・4後	2		○										兼1	
		文化と社会	1・2・3・4後	2		○										兼1	
		現代社会の解読	1・2・3・4後	2		○										兼1	
		いのちの尊厳と福祉を考える	1・2・3・4前	2		○										兼1	
		コミュニティをデザインする	1・2・3・4前・後	2		○										兼3	
		観光学への誘い	1・2・3・4後	2		○										兼2	
		異文化コミュニケーションを考える	1・2・3・4前・後	2		○										兼2	
		シティズンシップを考える	1・2・3・4後	2		○										兼2	
		デモクラシーとリベラルアーツ	1・2・3・4後	2		○										兼1	
		大学と現代社会	1・2・3・4前・後	2		○										兼2	
		世界の中のロシア	1・2・3・4後	2		○										兼1	
		ドイツ語圏の社会	1・2・3・4後	2		○										兼2	
		フランス語圏の社会	1・2・3・4前・後	2		○										兼1	
		スペイン語圏の社会	1・2・3・4前・後	2		○										兼2	
		中国語圏の社会	1・2・3・4前・後	2		○										兼1	
		朝鮮語圏の社会	1・2・3・4前・後	2		○										兼2	
		社会調査入門	1・2・3・4前	2		○										兼1	
		社会調査の技法	1・2・3・4後	2		○										兼1	
		データ分析入門	1・2・3・4前	2		○										兼1	
		データの科学	1・2・3・4後	2		○										兼1	
		多変量解析入門	1・2・3・4後	2		○										兼1	
		Introduction to Statistics 1	1・2・3・4前	2		○										兼1	
		Introduction to Statistics 2	1・2・3・4後	2		○										兼1	
		国際情勢を読み解く	1・2・3・4前	2		○										兼1	
		パレスチナ問題の歴史と現在	1・2・3・4後	2		○										兼1	
		立教ゼミナール2	1・2・3・4前・後	2					○							兼6	
		立教ゼミナール発展編 2	1・2・3・4前・後	2					○							兼5	
		RSLゼミナール	1・2・3・4後	2					○							兼1	
		Nativeと学ぶ社会開発	1・2・3・4後	2			○									兼2	共同
		立教OBOGの「社長の履歴書」	1・2・3・4後	2			○									兼3	共同
		グローバルシティ・ソウルを読み解く	1・2・3・4後	2			○									兼3	共同
		社会を変える：人を繋ぎ、時間を繋ぐ市民の営み	1・2・3・4後	2			○									兼3	共同
		SDGs×AI×経済×法	1・2・3・4前	2			○									兼2	共同
		SDGsとグローバルの可能性	1・2・3・4前	2			○									兼3	共同
		世界経済と日本	1・2・3・4前・後	2			○									兼2	
		日本国憲法	1・2・3・4前・後	2			○									兼3	
近代日本社会と人権	1・2・3・4前・後	2			○									兼2			
日本の「多文化」政策を問い直す	1・2・3・4後	2			○									兼1			
Modern Japanese History 1	1・2・3・4前	2					○							兼1			
Modern Japanese History 2	1・2・3・4後	2					○							兼1			
Japanese Politics and Economy 1	1・2・3・4前	2					○							兼1			
Japanese Politics and Economy 2	1・2・3・4前	2					○							兼1			
Japanese Relations in Asia 1	1・2・3・4前	2					○							兼1			
Japanese Relations in Asia 2	1・2・3・4後	2					○							兼1			
Japanese Society 1	1・2・3・4後	2					○							兼2			
Japanese Society 2	1・2・3・4後	2					○							兼1			
Tokyo Studies	1・2・3・4前・後	2					○							兼2			
Saitama Studies	1・2・3・4後	2					○							兼1			
Humans and Other Animals	1・2・3・4前	2			○									兼1			
Food Cultures and the Acceptance of Japanese Food in the World	1・2・3・4後	2			○									兼1			
Political Sociology	1・2・3・4前・後	4			○									兼1			
Economic Thought	1・2・3・4後	4			○									兼1			
University in Modern Society	1・2・3・4前	2			○									兼1	集中		
Career and University Education in the Global World	3・4前	2			○									兼1	集中		
Business Communication	1・2・3・4後	2					○							兼1			
Global and Japanese Political Economy 1	1・2・3・4後	2			○									兼1			
Global and Japanese Political Economy 2	1・2・3・4前	2			○									兼1			
Introduction to Multivariate Analysis	1・2・3・4後	2			○									兼1			
Introduction to Sociology	1・2・3・4前	2			○									兼1			

		Introduction to the Social Survey	1・2・3・4前	2		○															兼2		
		Introduction to Tourism Studies	1・2・3・4前・後	2		○															兼2		
		Japanese Society and Culture 1	1・2・3・4前	2		○															兼1		
		Japanese Society and Culture 2	1・2・3・4後	2		○															兼1		
		Knowledge and Society 1	1・2・3・4前・後	1		○															兼1		
		Knowledge and Society 2	1・2・3・4前・後	1		○															兼1		
		Learning and Teaching Today 1	1・2・3・4前	1		○															兼1		
		Learning and Teaching Today 2	1・2・3・4前	1		○															兼1		
		SDGsと現代社会の課題とその関わり方入門	1・2・3・4後	2		○															兼1		
		Selected Topics in Intercultural Communication	1・2・3・4前	2				○													兼1		
		The Dignity of Life and Welfare	1・2・3・4前	2		○															兼1		
		台湾から世界を考える	1・2・3・4前	2		○															兼2 共同		
		翻訳・通訳と現代社会	1・2・3・4後	2		○															兼2 共同		
		立教人から学ぶメディアの世界	1・2・3・4前	2		○															兼2 共同		
		地域学への招待	1・2・3・4後	2		○															兼2 共同		
		小計 (84科目)	—	0	168	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼117 一		
全学 共通科目	多彩な 学び 3 芸術・ 文化への 招待	文学への扉	1・2・3・4前	2		○															兼5		
		表象文化	1・2・3・4前・後	2		○																兼6	
		美術の歴史	1・2・3・4前・後	2		○																兼3	
		美術と社会	1・2・3・4後	2		○																兼3	
		音楽の歴史	1・2・3・4前・後	2		○																兼3	
		音楽と社会	1・2・3・4後	2		○																兼3	
		美術論演習	1・2・3・4前・後	2					○													兼3	
		音楽論演習	1・2・3・4前・後	2					○													兼2	
		キリスト教美術	1・2・3・4後	2			○															兼2	
		キリスト教音楽	1・2・3・4後	2			○															兼2	
		都市と芸術	1・2・3・4後	2			○															兼1	
		建築と文化	1・2・3・4後	2			○															兼1	
		舞踊論	1・2・3・4前・後	2			○															兼1	
		映像と社会	1・2・3・4前・後	2			○															兼1	
		身体表現と哲学	1・2・3・4前・後	2			○															兼2	
		ドイツ語圏の文学	1・2・3・4後	2			○															兼2	
		フランス語圏の文学	1・2・3・4前・後	2			○															兼2	
		スペイン語圏の文学	1・2・3・4前・後	2			○															兼1	
		中国語圏の文学	1・2・3・4前・後	2			○															兼1	
		朝鮮語圏の文学	1・2・3・4前・後	2			○															兼1	
		立教ゼミナール3	1・2・3・4前・後	2						○													兼2
		立教ゼミナール発展編 3	1・2・3・4前	2						○													兼1
		日本の美術	1・2・3・4前・後	2			○																兼2
		日本の音楽	1・2・3・4前・後	2			○																兼1
		日本の演劇	1・2・3・4後	2						○													兼1
		Japanese Culture 1	1・2・3・4前・後	2						○													兼2
		Japanese Culture 2	1・2・3・4後	2						○													兼1
		Japanese Arts A	1・2・3・4前・後	2				○															兼1
		Japanese Arts B	1・2・3・4前・後	2				○															兼1
		Literature and Society	1・2・3・4後	4			○																兼1
		Culture and Fine Arts	1・2・3・4前	4			○																兼1
		Exploring Children's Literature	1・2・3・4前	2			○																兼1
		Techniques for Reading and Enjoying a Picturebook in English	1・2・3・4後	2			○																兼1
		The Psychology of Literature 1	1・2・3・4前・後	1			○																兼1
		The Psychology of Literature 2	1・2・3・4前・後	1			○																兼1
		観光と文学	1・2・3・4前・後	2			○																兼3 共同
		小計 (36科目)	—	0	74	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼61 一		
全学 共通科目	多彩な 学び 4 心身への 着目	認知・行動・身体	1・2・3・4前・後	2		○															兼3		
		心の科学	1・2・3・4前・後	2		○																兼3	
		パーソナリティの心理	1・2・3・4後	2		○																兼3	
		対人関係の心理	1・2・3・4前・後	2		○																兼3	
		心の健康	1・2・3・4前	2		○																兼2	
		身体パフォーマンス	1・2・3・4前・後	2		○																兼2	
		ストレスマネジメント	1・2・3・4前	2		○																兼2	
		癒しの科学	1・2・3・4前・後	2		○																兼1	
		スポーツの科学	1・2・3・4前・後	2		○																兼2	
		健康の科学	1・2・3・4前・後	2		○																兼2	
		栄養の科学	1・2・3・4前・後	2		○																兼1	
		アンチエイジングの科学	1・2・3・4前・後	2		○																兼1	
		スポーツとメディア	1・2・3・4後	2			○															兼2	
		スポーツと社会	1・2・3・4前・後	2			○															兼1	
		スポーツと文化	1・2・3・4前・後	2			○															兼1	
		レジャー・レクリエーションと現代社会	1・2・3・4前	2			○															兼1	
		アウトドアの知恵に学ぶ	1・2・3・4前・後	2			○															兼1	
		立教ゼミナール4	1・2・3・4後	2						○			1									兼1	
		立教ゼミナール発展編 4	1・2・3・4前・後	2						○			1									兼3	
		Japanese Mind	1・2・3・4前	2			○															兼1	
Individual Differences in Psychology	1・2・3・4前・後	2			○																兼1		





(必修科目) 言語B / 中国語)	中国語基礎 1 中国語基礎 2	1前 1後	2 2					○ ○									兼25 兼25
	小計 (2科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	兼25 —
(必修科目) 言語B / 朝鮮語)	朝鮮語基礎 1 朝鮮語基礎 2	1前 1後	2 2					○ ○									兼21 兼21
	小計 (2科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	兼21 —
(必修科目) 言語B / ロシア語)	ロシア語基礎 1 ロシア語基礎 2	1前 1後	2 2					○ ○									兼3 兼3
	小計 (2科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	兼3 —
日本語 必修科目 (言語B)	大学生の日本語A 大学生の日本語B 大学生の日本語C 大学生の日本語D	1前 1前 1後 1後	1 1 1 1					○ ○ ○ ○									兼7 兼7 兼8 兼8
	小計 (4科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	兼16 —
自由 科目 英語 コース イン テン シブ	English Intensive A (Global World)	2・3・4前		4				○									兼5
	English Intensive B (Academic Language Skills)	2・3・4前		4				○									兼4
	English Intensive C (Integrated Language Skills)	2・3・4後		4				○									兼5
	English Intensive D (Intercultural Understanding)	2・3・4後		4				○									兼5
	Intercultural Studies	2・3・4前		2				○									兼1
	Self-directed and Reflective Language Learning	2・3・4前		2				○									兼1
小計 (6科目)	—	0	20	0	—				0	0	0	0	0	0	0	0	兼18 —
英語 共通 科目 イン テン シブ 自由 科目 モジュ ール	English Communication 1	2・3・4前・後		4				○									兼8
	English Communication 2	2・3・4前・後		4				○									兼7
	Pleasure Reading	2・3・4前		2				○									兼2
	Speech	2・3・4前・後		2				○									兼3
	Debate	2・3・4前・後		2				○									兼3
	Presentation	2・3・4前・後		2				○									兼3
	Current English 1 (reading)	2・3・4前・後		2				○									兼5
	Current English 2 (reading)	2・3・4前・後		2				○									兼5
	Current English 1 (listening)	2・3・4前・後		2				○									兼4
	Current English 2 (listening)	2・3・4前・後		2				○									兼5
	Japanese Studies through English Language and History	2・3・4前・後		2				○									兼5
	English through Movies A	2・3・4前		2				○									兼1
	English through Movies B	2・3・4前		2				○									兼1
	English through Movies C	2・3・4前		2				○									兼1

自由科目 (英語)	World Cultures	2・3・4後	2				○											兼1		
	World Heritage Sites	2・3・4前	2				○											兼1		
	English through Dramas	後	2				○											兼1		
	Advertisement English	2・3・4後	2				○											兼1		
	English through Movies D	2・3・4後	2				○											兼1		
	English through Movies E	2・3・4後	2				○											兼1		
	English through Movies F	2・3・4後	2				○											兼1		
	Introduction to Global Studies A:Humanities	2・3・4前	2				○											兼1		
	全学共通科目 イペ ンデ ン ト ・ モ ジ ュ ー ル / コ ー ス	Introduction to Global Studies B:Social Science	2・3・4前	2				○											兼1	
		Introduction to Global Studies B:Natural Science	2・3・4前	2				○											兼1	
		Multimodal Communication in English	2・3・4前	2				○											兼1	
		Business Speaking	2・3・4後	2				○											兼1	
		Current News through English Media	2・3・4前	2				○											兼1	
		TOEFL 2 (vocabulary and grammar)	2・3・4前・後	2				○											兼4	
		TOEFL 2 (reading)	2・3・4前・後	2				○											兼4	
		TOEFL 2 (listening)	2・3・4前・後	2				○											兼3	
		TOEFL 2 (speaking and writing)	2・3・4前・後	2				○											兼5	
		TOEIC 1 (reading)	2・3・4前・後	2				○											兼10	
		TOEIC 1 (listening)	2・3・4前・後	2				○											兼8	
		TOEIC 1 (vocabulary and grammar)	2・3・4前・後	2				○											兼10	
TOEIC 2 (reading)		2・3・4前・後	2				○											兼6		
TOEIC 2 (listening)		2・3・4前・後	2				○											兼5		
TOEIC 2 (vocabulary and grammar)		2・3・4前・後	2				○											兼5		
IELTS		2・3・4前	2				○											兼2		
小計 (39科目)		—	0	82	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼63	—	
全学共通科目 モ ジ ュ ー ル / コ ー ス		Lecture and Discussion A	2・3・4前	4				○											兼1	
		Lecture and Discussion D	2・3・4前	4				○											兼1	
		Lecture and Discussion E	2・3・4後	4				○											兼1	
	Lecture and Discussion F	2・3・4後	4				○											兼1		
	Lecture and Discussion G	2・3・4後	4				○											兼1		
	Lecture and Discussion H	2・3・4後	4				○											兼1		
	Discussion and Debate	2・3・4前・後	2				○											兼3		
	Advanced Academic Vocabulary	2・3・4前・後	2				○											兼2		
	Current English 3 (Comprehensive)	2・3・4前・後	2				○											兼5		
	Academic Studies (advanced presentation)	2・3・4前・後	2				○											兼3		
	Academic Studies (advanced writing)	2・3・4前・後	2				○											兼2		
	Career Studies (English for vocational purposes)	2・3・4前・後	2				○											兼4		
	CLIL Seminars:Ecology	2・3・4後	2				○											兼1		
	CLIL Seminars:Japanology	2・3・4後	2				○											兼1		
	CLIL Seminars:Literature	2・3・4前	2				○											兼1		
CLIL Seminars:SDGS	2・3・4後	2				○											兼1			
小計 (16科目)	—	0	44	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼24	—		
全学共通科目 モ ジ ュ ー ル / コ ー ス	University Lecture A	2・3・4前	2				○											兼1		
	University Lecture C	2・3・4前	2				○											兼1		
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼2	—	
全学共通科目 イ ン テ ル ナ シ ョ ナ ル / コ ー ス	ビクトリア夏ESL2	1・2・3・4前	2				○											兼1	集中	
	ハワイ夏ESL1	1・2・3・4前	1				○											兼1	集中	
	ダブリン春ESL3	1・2・3・4後	3				○											兼1	集中	
	ビクトリア春ESL2	1・2・3・4後	3				○											兼1	集中	
	ダブリン夏ESL3	1・2・3・4前	2				○											兼1	集中	
	ハワイ春ESL1	1・2・3・4後	1				○											兼1	集中	
	グリフィス春ESL3	1・2・3・4後	3				○											兼1	集中	
	短期語学研修科目(英語)	1・2・3・4前・後	1				○												兼1	集中
	ワライ海外語学研修科目(英語)	1・2・3・4前・後	1				○												兼1	集中
	小計 (9科目)	—	0	17	0	—			0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1	—	

基礎科目群 (ドイツ語系科目)	ドイツ語中級1	2・3・4前	2				○								兼8	共同
	ドイツ語中級2	2・3・4後	2				○								兼7	共同
	ドイツ語スタンダード1	2・3・4前	1				○								兼3	
	ドイツ語スタンダード2	2・3・4前	1				○								兼2	
	ドイツ語スタンダード3	2・3・4後	1				○								兼3	
	ドイツ語スタンダード4	2・3・4後	1				○								兼2	
小計 (6科目)		—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	0	0	兼12	—
自由科目群 (ドイツ語系科目)	上級ドイツ語コミュニケーション1	2・3・4前	2				○								兼2	
	上級ドイツ語コミュニケーション2	2・3・4後	2				○								兼2	
	上級ドイツ語ライティング1	2・3・4前	2				○								兼2	
	上級ドイツ語ライティング2	2・3・4後	2				○								兼2	
	上級ドイツ語リスニング・リーディング1	2・3・4前	2				○								兼2	
	上級ドイツ語リスニング・リーディング2	2・3・4後	2				○								兼2	
	上級ドイツ語演習1	2・3・4前	2				○								兼2	
	上級ドイツ語演習2	2・3・4後	2				○								兼2	
	ドイツ語総合1	2・3・4前	2				○								兼1	
	ドイツ語総合2	2・3・4後	2				○								兼1	
小計 (10科目)		—	0	20	0	—		0	0	0	0	0	0	0	兼7	—
自由科目群 (ドイツ語系科目)	基礎ドイツ語入門	2・3・4前	2				○								兼6	
	基礎ドイツ語初級	2・3・4後	2				○								兼6	
小計 (2科目)		—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	0	0	兼6	—
基礎科目群 (フランス語系科目)	フランス語中級1	2・3・4前	2				○								兼6	共同
	フランス語中級2	2・3・4後	2				○								兼6	共同
	フランス語スタンダード1	2・3・4前	1				○								兼2	
	フランス語スタンダード2	2・3・4前	1				○								兼2	
	フランス語スタンダード3	2・3・4後	1				○								兼2	
	フランス語スタンダード4	2・3・4後	1				○								兼2	
小計 (6科目)		—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	0	0	兼8	—
自由科目群 (フランス語系科目)	上級フランス語コミュニケーション1	2・3・4前	2				○								兼2	
	上級フランス語コミュニケーション2	2・3・4後	2				○								兼2	
	上級フランス語ライティング1	2・3・4前	2				○								兼2	
	上級フランス語ライティング2	2・3・4後	2				○								兼2	
	上級フランス語リスニング・リーディング1	2・3・4前	2				○								兼1	
	上級フランス語リスニング・リーディング2	2・3・4後	2				○								兼1	
	上級フランス語演習1	2・3・4前	2				○								兼2	
	上級フランス語演習2	2・3・4後	2				○								兼2	
小計 (8科目)		—	0	16	0	—		0	0	0	0	0	0	0	兼5	—
自由科目群 (フランス語系科目)	言語情報処理論 (フランス語)	1・2・3・4前	2				○								兼1	
	小計 (1科目)		—	0	2	0	—		0	0	0	0	0	0	0	兼1

フランス語入門科目 （フランス語系科目）	基礎フランス語入門	2・3・4前	2				○											兼6	
	基礎フランス語初級	2・3・4後	2				○											兼6	
	小計（2科目）	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼6	—
基礎科目 （スペイン語系科目）	スペイン語中級1	2・3・4前	2				○											兼6	共同
	スペイン語中級2	2・3・4後	2				○											兼6	共同
	スペイン語スタンダード1	2・3・4前	1				○											兼4	
	スペイン語スタンダード2	2・3・4前	1				○											兼3	
	スペイン語スタンダード3	2・3・4後	1				○											兼3	
	小計（6科目）	—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼9	—
コア科目 （スペイン語系科目）	上級スペイン語コミュニケーション1	2・3・4前	2				○											兼2	
	上級スペイン語コミュニケーション2	2・3・4後	2				○											兼2	
	上級スペイン語ライティング1	2・3・4前	2				○											兼2	
	上級スペイン語ライティング2	2・3・4後	2				○											兼2	
	上級スペイン語リスニング・リーディング1	2・3・4前	2				○											兼2	
	上級スペイン語リスニング・リーディング2	2・3・4後	2				○											兼2	
	上級スペイン語演習1	2・3・4前	2				○											兼2	
	上級スペイン語演習2	2・3・4後	2				○											兼2	
	小計（8科目）	—	0	16	0	—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼6	—
処理論 （中級レベル） 言語情報	言語情報処理論（スペイン語）	1・2・3・4前・後	2				○											兼2	
	小計（1科目）	—	0	2	0	—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼2	—
スペイン語入門科目 （スペイン語系科目）	基礎スペイン語入門	2・3・4前	2				○											兼9	
	基礎スペイン語初級	2・3・4後	2				○											兼9	
	小計（2科目）	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼9	—
海外言語文化研修 （スペイン語系科目）	スペイン語海外言語文化研修（中級）	1・2・3後	2				○											兼1	
	スペイン語海外言語文化研修（上級）	2・3後	2				○											兼1	
	小計（2科目）	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1	—



基礎科目群（中国語） （中級レベル）	中国語中級1	2・3・4前	2				○												兼5	
	中国語中級2	2・3・4後	2				○												兼5	
	中国語スタンダード1	2・3・4前	1				○												兼4	
	中国語スタンダード2	2・3・4前	1				○												兼4	
	中国語スタンダード3	2・3・4後	1				○												兼4	
	中国語スタンダード4	2・3・4後	1				○												兼4	
小計（6科目）		—	0	8	0		—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼11	—
自由科目群（中国語） （上級レベル）	上級中国語コミュニケーション1	2・3・4前	2				○												兼1	
	上級中国語コミュニケーション2	2・3・4後	2				○												兼1	
	上級中国語ライティング1	2・3・4前	2				○												兼1	
	上級中国語ライティング2	2・3・4後	2				○												兼1	
	上級中国語リスニング・リーディング1	2・3・4前	2				○												兼2	
	上級中国語リスニング・リーディング2	2・3・4後	2				○												兼2	
	上級中国語演習1	2・3・4前	2				○												兼2	
	上級中国語演習2	2・3・4後	2				○												兼2	
	小計（8科目）		—	0	16	0		—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼2
自由科目群（中国語） （中級レベル）	言語情報処理論（中国語）	1・2・3・4前・後	2				○												兼2	
	小計（1科目）		—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼2	—
自由科目群（中国語） （中級レベル）	基礎中国語入門	2・3・4前	2				○												兼5	
	基礎中国語初級	2・3・4後	2				○												兼5	
小計（2科目）		—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼5	—
自由科目群（中国語） （中級レベル）	中国語海外言語文化研修春（中級）	1・2・3後	2				○												兼1	
	中国語海外言語文化研修春（上級）	2・3後	2				○												兼1	
小計（2科目）		—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1	—
基礎科目群（朝鮮語） （中級レベル）	朝鮮語中級1	2・3・4前	2				○												兼6	共同
	朝鮮語中級2	2・3・4後	2				○												兼6	共同
	朝鮮語スタンダード1	2・3・4前	1				○												兼3	
	朝鮮語スタンダード2	2・3・4前	1				○												兼2	
	朝鮮語スタンダード3	2・3・4後	1				○												兼3	
	朝鮮語スタンダード4	2・3・4後	1				○												兼3	
小計（6科目）		—	0	8	0		—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼12	—

全学共通科目 (朝鮮語) 言語系科目 (上級レベル)	上級朝鮮語コミュニケーション1 上級朝鮮語コミュニケーション2 上級朝鮮語ライティング1 上級朝鮮語ライティング2 上級朝鮮語リスニング・リーディング1 上級朝鮮語リスニング・リーディング2 上級朝鮮語演習1 上級朝鮮語演習2	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2 2 2 2 2 2					○												兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2		
	小計 (8科目)	—	0	16	0			—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼9 兼2	—	
	全学共通科目 (朝鮮語) 言語系科目 (中級レベル)	言語情報処理論 (朝鮮語)	1・2・3・4後		2				○												兼2	
		小計 (1科目)	—	0	2	0			—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼2	—
	全学共通科目 (朝鮮語) 言語系科目	基礎朝鮮語入門 基礎朝鮮語初級	2・3・4前 2・3・4後		2 2				○ ○												兼9 兼9	
		小計 (2科目)	—	0	4	0			—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼9	—
	全学共通科目 (朝鮮語) 言語系科目	朝鮮語海外言語文化研修 (中級) 朝鮮語海外言語文化研修 (上級)	1・2・3・4前 2・3・4前		2 2				○ ○												兼1 兼1	
		小計 (2科目)	—	0	4	0			—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1	—
全学共通科目 (ロシア語)	ロシア語セミナーA ロシア語セミナーB ロシア語セミナーC ロシア語セミナーD ロシア語セミナー1 ロシア語セミナー2	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後		1 1 1 1 1 1				○ ○ ○ ○ ○ ○												兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1		
	小計 (6科目)	—	0	6	0			—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼3	—	
	全学共通科目 (ロシア語)	基礎ロシア語入門 基礎ロシア語初級	2・3・4前 2・3・4後		2 2				○ ○												兼3 兼3	共同
		小計 (2科目)	—	0	4	0			—		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	兼3	—

全 自 由 学 科 目 （ ポ ル ト ガ ル 語 ）	ポルトガル語 1	2・3・4前		1					○								兼1	
	ポルトガル語 2	2・3・4後		1					○								兼1	
小計（2科目）		—	0	2	0	—				0	0	0	0	0	0	0	兼1	—
入 自 由 学 科 目 レ ベ ル （ 日 本 手 話 ）	日本手話 1	1・2・3・4前		1					○								兼3	共同
	小計（1科目）	—	0	1	0	—				0	0	0	0	0	0	0	兼3	—
初 自 由 学 科 目 レ ベ ル （ 日 本 手 話 ）	日本手話 2	1・2・3・4後		1					○								兼3	共同
	小計（1科目）	—	0	1	0	—				0	0	0	0	0	0	0	兼3	—
中 自 由 学 科 目 レ ベ ル （ 日 本 手 話 ）	日本手話 3	1・2・3・4前		1					○								兼3	共同
	日本手話 4	1・2・3・4後		1					○								兼3	共同
小計（2科目）		—	0	2	0	—				0	0	0	0	0	0	0	兼3	—
自 全 由 学 科 目 レ ベ ル （ 日 本 手 話 ）	日本の社会と文化A	2・3・4前		2					○								兼1	
	日本の社会と文化B	2・3・4後		2					○								兼1	
	日本の社会と文化C	2・3・4後		2					○								兼1	
	社会の中の日本語A	2・3・4前		2					○								兼1	
	社会の中の日本語B	2・3・4後		2					○								兼1	
	論文読解の技法	2・3・4前		2					○								兼2	
	論文作成の技法	2・3・4後		2					○								兼2	
	キャリアの日本語A	2・3・4前・後		2					○								兼3	
	キャリアの日本語B	2・3・4前・後		2					○								兼3	
	ビジネスのための口頭運用力A	2・3・4前・後		2					○								兼3	
	ビジネスのための口頭運用力B	2・3・4前・後		2					○								兼2	
	ビジネスメールと文書	2・3・4前・後		2					○								兼2	
小計（12科目）		—	0	24	0	—				0	0	0	0	0	0	0	兼14	—
教 職 科 目	【再掲】運動方法学演習 1	—	—	—	—	—	—	—	—									
	【再掲】運動方法学演習 2	—	—	—	—	—	—	—	—									
	【再掲】運動方法学演習 3	—	—	—	—	—	—	—	—									
	【再掲】運動方法学演習 4	—	—	—	—	—	—	—	—									
	【再掲】運動方法学演習 5	—	—	—	—	—	—	—	—									
	【再掲】運動方法学演習 6	—	—	—	—	—	—	—	—									
	【再掲】運動方法学演習 7	—	—	—	—	—	—	—	—									
	【再掲】運動方法学演習 8	—	—	—	—	—	—	—	—									
	【再掲】運動方法学演習 9	—	—	—	—	—	—	—	—									
	【再掲】スポーツ科学総論	—	—	—	—	—	—	—	—									
	【再掲】運動方法学	—	—	—	—	—	—	—	—									
	【再掲】ウエルネス科学総論	—	—	—	—	—	—	—	—									
	【再掲】スポーツウエルネス心理学	—	—	—	—	—	—	—	—									
	【再掲】スポーツ社会学	—	—	—	—	—	—	—	—									
	【再掲】スポーツ倫理学	—	—	—	—	—	—	—	—									
	【再掲】コミュニティスポーツ論	—	—	—	—	—	—	—	—									
	【再掲】バイオメカニクス	—	—	—	—	—	—	—	—									
	【再掲】メンタルマネジメント	—	—	—	—	—	—	—	—									
【再掲】運動生理学	—	—	—	—	—	—	—	—										
【再掲】生理学	—	—	—	—	—	—	—	—										



(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
  - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
  - (2) 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門必修科目	基礎演習(学びの技法を含む)	大学では、これまでの受動的な学修から、主体的で能動的な学修へと「学びの転換」を図ることが重要である。そのためには、講義科目に加えて演習形式の学びの場を通して、調べる・考える・発言する・意見交換する機会を活用し、大学での学びの醍醐味を体験してほしい。本授業では少人数のクラスに別れ、大学での主体的な学び方を促進するために、基本的学修技術を習得し、学部の特徴や専門性について理解した上で、自分の将来設計を考える基盤を創る。	
	スポーツウエルネス学入門	ウエルネスとは、Healthの枠組みを超えたより多面的な健康観である。その目標は、豊かで充実した人生を追求することであり、心身の健康の他に人生の価値観、生きがい、さらには社会環境や自然環境などもその要素に含まれる。本講義では、ウエルネスを実践する上でスポーツの役割について、生理学的側面、心理学的側面、社会学的側面などを中心に学ぶ。また豊かな人生の追求、QOLの向上ということを念頭に置き、スポーツそれ自体とウエルネスの関係性についても考察する。 (オムニバス方式/全14回) (1) 沼澤秀雄/1回) トレーニング科学、コーチング (2) 杉浦克己/1回) スポーツ栄養学 (3) 石渡貴之/1回) スポーツ生理学、神経科学 (4) 大石和男/1回) 健康心理学 (5) 加藤晴康/1回) スポーツ医学 (6) 川端雅人・13 奇二正彦/1回) (共同) スポーツ・運動心理学、動機付け/野外教育、環境教育 (7) 佐野信子/1回) ウエルネスジェンダー学 (8) 館川宏之・14 後関慎司/1回) 分子生物学 / トレーナー科学 (共同) (9) 松尾哲矢/1回) スポーツ社会学 (10) 安松幹展/2回) 導入、スポーツ方法学、まとめ (11) 石井秀幸/1回) バイオメカニクス (12) Katrin Jumiko LEITNER/1回) スポーツマネジメント (15) 中村聡宏・16 小林哲郎/1回) (共同) スポーツマンシップ、スポーツ産業/データサイエンス	オムニバス方式・共同(一部)
	スポーツマンシップ論	POCKET OXFORD DICTIONARY (1969年版) によれば、「Sportsman」=「Good Fellow」と示されているように、スポーツマンとは「他者を尊重し、勇気ある意志で挑戦し、全力を尽くすことのできる覚悟を持つ人」であり、言い換えれば「信頼に足る人物」であるといえる。社会の構成員=ヒューマン(人間)として「より誠実に、よりカッコよく生きる」上で必要な哲学的思考および倫理的観念を学び、それらを実践するためにスポーツが果たすべき教育的意義や価値を考える。	
	スポーツリーダーシップ論	新しいリーダーシップモデルでは、役職/権限/カリスマ性に関係なく、誰もが持っていて、誰もが発揮できる『スキル』であるとする。各個人が自分の特性を活かして意識的に行動や態度で示し、チームの目標達成に向けて貢献する力だと考えらる。この力を養うツールとしてスポーツ活動がしばしば活用されることが知られている。本講義では、スポーツ活動におけるリーダーシップの考え方を理論的に学部とともに、実際にスポーツ現場でリーダーシップを発揮しているリーダーからの話、およびグループワークからリーダーシップの実践方法についても学ぶ。 (オムニバス方式/全14回) (15) 中村聡宏/2回) 導入、まとめ (17) 本間浩輔/3回) ポール・ラッシュから学ぶリーダーシップ (18) 荒木重雄/3回) サーバント・リーダーシップ論 (20) 益子(山本)直美/3回) スポーツ・リーダーシップの実践 (19) 島田慎二/3回) リーダーシップを学ぶグループワークと発表	オムニバス方式

<p style="text-align: center;">専門必修科目</p>	<p>スポーツウエルネスワークショップA</p>	<p>少人数のゼミナール形式において、スポーツウエルネス学領域における複数の教員の専門分野を学ぶ。教員の講義だけでなく、学生による主体的な調査、討論、実習、プレゼンテーション等の実践的な学習を行う。この科目には6つのクラスが用意されており、学生は自動登録により1つのクラスに約38名ずつ振り分けられる。6つの領域（3回シリーズ）のうち、学生は関心のある領域を4つ選択することができる。学期を通じて複数の教員の導きにより、複数のスポーツウエルネス学領域を学び、本質を見抜く考え方、調査研究の企画・遂行・まとめ・報告といった研究の流れについて主体的な学習を進める。場合によっては、履修に影響のない範囲で時間を決め、教室以外のフィールドでの実践的な学習も行う。</p> <p>なお、本授業は、6人の教員がそれぞれ責任者として開講する（年間開講数6）。</p> <p>また、1回目及び14回目は各教員が同じ内容を行う。学生は、2回目から13回目までの授業については、希望、抽選等に基づいて、4人の教員が行う授業を各3回受講する。</p> <p>従って、各教員の担当回数は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2回（責任者としての1回目ガイダンス及び14回目まとめ）</li> <li>・3回の専門分野の授業内容を4回分（12回）</li> </ul> <p>の計14回となる。</p> <p>（オムニバス方式／全14回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（2 杉浦克己／14回（年間開講数6））スポーツ栄養学</li> <li>（7 佐野信子／14回（年間開講数6））ウエルネスジェンダー学</li> <li>（9 松尾哲矢／14回（年間開講数6））スポーツ社会学</li> <li>（11 石井秀幸／14回（年間開講数6））バイオメカニクス</li> <li>（14 後関慎司／14回（年間開講数6））トレーナー科学</li> <li>（15 中村聡宏／14回（年間開講数6））スポーツマンシップ、スポーツ産業</li> </ul>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>スポーツウエルネスワークショップB</p>	<p>少人数のゼミナール形式において、スポーツウエルネス学領域における複数の教員の専門分野を学ぶ。教員の講義だけでなく、学生による主体的な調査、討論、実習、プレゼンテーション等の実践的な学習を行う。この科目には5つのクラスが用意されており、学生は自動登録により1つのクラスに約46名ずつ振り分けられる。5つの領域（3回シリーズ）のうち、学生は関心のある領域を4つ選択することができる。学期を通じて複数の教員の導きにより、複数のスポーツウエルネス学領域を学び、本質を見抜く考え方、調査研究の企画・遂行・まとめ・報告といった研究の流れについて主体的な学習を進める。場合によっては、履修に影響のない範囲で時間を決め、教室以外のフィールドでの実践的な学習も行う。</p> <p>なお、本授業は、5人の教員がそれぞれ責任者として開講する（年間開講数5）。</p> <p>また、1回目及び14回目は各教員が同じ内容を行う。学生は、2回目から13回目までの授業については、希望、抽選等に基づいて、4人の教員が行う授業を各3回受講する。</p> <p>従って、各教員の担当回数は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2回（責任者としての1回目ガイダンス及び14回目まとめ）</li> <li>・3回の専門分野の授業内容を4回分（12回）</li> </ul> <p>の計14回となる。</p> <p>（オムニバス方式／全14回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（1 沼澤秀雄／14回（年間開講数5））トレーニング科学，コーチング</li> <li>（3 石渡貴之／14回（年間開講数5））スポーツ生理学，神経科学</li> <li>（4 大石和男／14回（年間開講数5））健康心理学</li> <li>（8 舘川宏之／14回（年間開講数5））分子生物学</li> <li>（13 奇二正彦／14回（年間開講数5））野外教育、環境教育</li> </ul>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専門必修科目</p>	<p>スポーツウエルネスワークショップC</p>	<p>少人数のゼミナール形式において、スポーツウエルネス学領域における複数の教員の専門分野を学ぶ。教員の講義だけでなく、学生による主体的な調査、討論、実習、プレゼンテーション等の実践的な学習を行う。この科目には5つのクラスが用意されており、学生は自動登録により1つのクラスに約46名ずつ振り分けられる。5つの領域（3回シリーズ）のうち、学生は関心のある領域を4つ選択することができる。学期を通じて複数の教員の導きにより、複数のスポーツウエルネス学領域を学び、本質を見抜く考え方、調査研究の企画・遂行・まとめ・報告といった研究の流れについて主体的な学習を進める。場合によっては、履修に影響のない範囲で時間を決め、教室以外のフィールドでの実践的な学習も行う。 なお、本授業は、5人の教員がそれぞれ責任者として開講する（年間開講数5）。 また、1回目及び14回目は各教員が同じ内容を行う。 学生は、2回目から13回目までの授業については、希望、抽選等に基づいて、4人の教員が行う授業を各3回受講する。 従って、各教員の担当回数は、 ・2回（責任者としての1回目ガイダンス及び14回目まとめ） ・3回の専門分野の授業内容を4回分（12回） （オムニバス方式／全14回） （5 加藤晴康／14回（年間開講数5））スポーツ医学 （6 川端雅人／14回（年間開講数5））スポーツ・運動心理学、動機付け （10 安松幹展／14回（年間開講数5））スポーツ方法学 （12 LEITNER Katrin Jumiko／14回（年間開講数5））スポーツマネジメント （16 小林哲郎／14回（年間開講数5））データサイエンス</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>卒業研究科目</p>	<p>卒業研究指導演習（ベーシックコース）</p>	<p>スポーツウエルネス学部がカバーする2領域（健康運動、スポーツパフォーマンス）を広く修得して、スポーツウエルネス学部を卒業し社会に出るにふさわしい識見を獲得することを目指す教育プログラムであり、各領域からの課題を達成することで単位を修得する。卒業研究ベーシックにおける論文は、1テーマにつきそれぞれ5000字以上とするし、参考文献については、テーマに関してそれぞれ3本以上引用することとする。</p>	
<p>卒業研究科目</p>	<p>卒業研究指導演習（アドバンスコース）</p>	<p>4年次にこれまでの本学における学習の総括として行うもので、それぞれの関心に応じてテーマを設定し、「卒業研究指導演習」に所属し、教員の指導を受けながら研究に取り組むものである。これには、テーマについての文献をもとに「論文」としてまとめる方法の他に、実習経験を掘り下げる「実践研究」も考えられる。また研究成果の表現方法にあたっては、伝統的な「論文」という形だけではなく、画像や音声も豊富に取り入れたプレゼンテーション技術を活用する形式もある。指導教員と相談しながら、自己と時代にふさわしい表現と内実とすべく、創意工夫をはかる。</p>	
<p>専門基礎科目</p>	<p>運動方法学演習1</p>	<p>フィットネストレーニングの特性や効果といった基礎知識及び実践方法、指導方法について習得することを目的とする。実践する上で必要とされる知識やスキルの十分な習得を目指すと同時に、指導者として求められる知識やスキルを身につける中で実践者のレベルに応じた指導上の留意点についても考えていく。さらには、現代社会における健康の意味について考え、健康を維持・増進する上での運動の必要性を確認し、運動の生活化を図る上での理論的、実践的アプローチを試みる。</p>	<p>実験 21.6時間 演習 9.2時間</p>
<p>専門基礎科目</p>	<p>運動方法学演習2</p>	<p>陸上競技は人間の基本的な動きである走る、跳ぶ、投げるといった動作を、より洗練させていく競技である。これらの動作からなる様々な種目の記録向上を目的として、陸上競技の動作に関するドリルなどの練習方法を紹介しながら実践し、それぞれのパフォーマンスを向上させるための「コツ」について学習する。また、高いレベルの競技者の動きを見ることによって、陸上競技のコーチングに大切だと思われる事柄について文献や資料を参考にしながら討論する。さらに発育発達期に特有のスポーツ障害やトレーニングに関する指導上の留意点についても学習する。</p>	<p>実験 21.6時間 演習 9.2時間</p>



専門基礎科目	運動方法学演習3	サッカーはゴール型球技種目に分類され、ボールなどを扱うスキルと同時に、コミュニケーションスキルをはじめ、チームとしての戦術理解が必要となる。本講義では、サッカーの技術（ボールを蹴る、コントロールする、運ぶなど）、戦術（攻撃・攻撃から守備・守備・守備から攻撃の4局面、スペースと時間の管理、個人・グループ・チーム戦術など）、体力（持久力、高強度運動、スピード、パワーなど）、およびルールについて学び、サッカーの指導法を身につけることを目標とする。また健康の維持増進という観点から、無酸素運動と有酸素運動が混合したサッカー特有のトレーニング効果についても学習する。	実験 21.6時間 演習 9.2時間
	運動方法学演習4	テニスは老若男女を問わず、世界中で楽しんでいる非常にポピュラーなスポーツであり、生涯スポーツとして身につけるには最適な種目である。本講座では、テニスの基本的な技術、戦術、ルール、審判法等について学び、生涯にわたり硬式テニスを楽しめる能力を身につけることを第一の目標とする。また健康の維持増進という観点からスポーツを捉え、ダイエットやウエイトコントロール等の講義と併せ、テニスを通じたシェイプアップや健康増進法の理解を第二の目標とする。	実験 21.6時間 演習 9.2時間
	運動方法学演習5	スキーは、老若男女を問わず楽しめる非常にポピュラーなスポーツであり、生涯スポーツとして身につけるには最適な種目である。本講座では、初心者から上級者まで、それぞれの技術に応じ、どのような斜面でも楽しく安全に滑走できるようにすることを目標とする。また同時に、スキー運動の科学的特性を理解し、それを指導場面で活かすノウハウに関するも学ぶ。具体的には、ブルークボーゲン、ブルークターン、パラレルターン、スキッディングターン、カービングターンなどの技術を中心に学習する。	集中・共同 実験 21.6時間 演習 9.2時間
	運動方法学演習6	現代社会は自然に負荷をかけ、一方的に消費することで大きな経済成長を遂げてきた。しかし21世紀を迎えた現在、人々は、自然を守り、自然と人間が共生することの重要性を認識しつつある。本講座では、アウトドアでのキャンプ、森林のトレッキング、川や湖でのカヌーなどを体験し、それらのノウハウを学ぶ。更に自然と人間の関わり方の重要性について考え、それをベースに、持続可能な社会の実現のために、今人間に何が求められているかを学ぶ。	集中・共同 実験 21.6時間 演習 9.2時間
	運動方法学演習7	バスケットボールは、現在我が国で最も盛んなスポーツの一つであり、中学校および高等学校の保健体育科の中にゴール型球技として含まれる代表的なスポーツ種目である。バスケットボールの競技特性を学び、実技を通じ基礎的技術を習得し、更に専門的練習法や戦術と、ゲーム運営、指導法を学習することを目的とする。本授業ではドリルを多く取り入れて基礎的個人技術を習得していき、ミニゲームを数多く行い、更に基本的な集団技術、戦術を理解してレベルアップを図る。競技の専門的知識や練習法を紹介し、ルール、審判法も学習していく。まとめに模擬授業を行う。	実験 21.6時間 演習 9.2時間
	運動方法学演習8	剣道は日本の伝統文化であり、技術の習得や心の修練を目的とした剣術が変化したものである。現在はスポーツとして確立されているが、その内には剣の理法を学ぶという剣道の『道』の概念も含まれる。日本独自の伝統文化である剣道を正しくとらえ、相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んじ、基本動作を習得させ、対人的技能の向上を図る。また、互いが信頼できる人間関係を築かせるとともに、剣道を通して明朗で心豊かな人間の育成を目標とする。剣道の礼法を習得するとともに、基本的動作を習得するため「日本剣道形」、「木刀による剣道基本技稽古法」などを学習する。	実験 21.6時間 演習 9.2時間
	運動方法学演習9	「水泳・水中運動」は生涯スポーツとしても親しまれる。水中という特殊な環境下で身体が力学的・生理学的に受ける影響を理解し、運動技能の改善や運動プログラムの構築を目指し、安全に実践及び指導ができることを目標とする。水泳を通して自ら課題を発見し、「いかに解決するか」を考え取り組む姿勢および授業理解度、運動技能習熟度、論理的なプログラム構成力を評価する。水中環境下での運動を取り上げ、陸上環境との違い、水の特性、水中環境課での生理学的応答などを理解する。水中ウォーキングやストレッチ、近代4泳法、水中での様々な運動を取り上げて段階的に進める。	実験 21.6時間 演習 9.2時間

専門基礎科目	運動方法学演習10	器械運動は身体各部を器用に使いながら行う身体活動で、身体の機能を総合的に高めるために特に優れたスポーツである。器械運動の基礎的な理論と実技を理解し、特に基礎となる体力の向上を図り、器械運動に不可欠な基礎技術の習得と実践できる能力を身につける。また、中学校・高等学校で扱われるマット・鉄棒・跳び箱・平均台運動を通して、特に調整力（巧緻性、敏捷性、平衡性、柔軟性）を高めることをねらいとし、技術の習得と基礎的理論を学習する。同時に、中学校・高等学校の採用試験の内容と知識を指導する。習得技能については、受講学生の技能レベルに応じて設定し、同様にテスト課題とする。	実験 演習	21.6時間 9.2時間
	運動方法学演習11	柔道は、嘉納治五郎が「精力善用」「自他共栄」を基本理念として創始した武道であるが、現在では世界中で競技スポーツとして広く親しまれている。わが国の競技レベルは世界が強化されている中にあってもなおお家としての存在を示している。本授業では、柔道の本質に触れ、技術の習得とともに礼法を中心に「格闘技と礼との関わり」を考え、また、中・高等学校指導要領で取り扱われる内容に則りながら、礼法、姿勢、組み方、歩き方、崩し、作り、掛けの理合いを理解し、生涯スポーツとしての柔道の習得、さらには柔道指導法としての基本的なコーチング技術の習得を目的とする。また、柔道の歴史を学び、礼儀作法や相手を尊重し、公正な態度で練習や試合ができるようにする。	実験 演習	21.6時間 9.2時間
	運動方法学演習12	ダンスは踊る事で得る躍動感・リズム感・高揚感は身体発達・成長に大きな効果を与えます。この授業では、主にリズム・音楽・イメージに合わせて身体を動かし、踊る・つくるダンスの本質に触れる。くわえて、観ることを通して互いのダンス（表現）の個性や自身のダンス（表現）を知るとともに、ダンスの指導と評価について向き合う機会としたい。具体的な学習内容は、中学・高等学校学習指導要領のダンス領域を構成する創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンスに関して扱い、その他必要に応じて取り入れていく。	実験 演習	21.6時間 9.2時間
	運動方法学演習13	バレーボールは、経験や年齢を問わず楽しめる団体競技である。授業では、バレーボールの魅力を少しでも体感できるように、「緩急あるバレー」、「つながるバレー」、「魅せるバレー」の3つを大テーマに授業を進める。バレーボールのオーバーハンドパスとアンダーハンドパスといった基礎技術の習得を通じて、受講生間でお互いに指導し合うような関係性をつくり、チームワークの大切さとバレーボールの楽しさを追求する。とりわけ中学生・高校生のバレーボールの授業において、どのような方法で指導をするのか、具体的な指導場面と中高生の技能水準を十分に考慮した方法論を探究する。	実験 演習	21.6時間 9.2時間
	運動方法学演習14	ハンドボールは『走る・投げる・跳ぶ』の3要素が揃ったスポーツで、スピード・迫力ある攻防や華麗なシュートが魅力です。本授業ではハンドボールのルールと基本的な個人技術・チーム戦術を学習し、ゴール型ボールゲームに必要な判断力と行動力を高めると同時にボールハンドリングやボディコントロールなどのコーディネーション能力の向上を狙う。またチームスポーツに必要な他者とのコミュニケーションを通し、協力・協調していくことを学ぶ。さらにはハンドボールの特性を理解し、指導方法の基礎を学習する。	実験 演習	21.6時間 9.2時間
	運動方法学演習15	バドミントンには生涯スポーツとして、年齢男女問わず、レクリエーションにも、競技的にも楽しむことのできる種目である。そのバドミントンの特性を、するスポーツとして、見るスポーツとして、支えるスポーツとして等、様々な角度から理解し、楽しさを多角的に学ぶことを目的とする。バドミントンの基本的なストローク技術・シングルスやダブルスのルールの理解、習得し、試合を通して、プレーすること、他者のプレーを見る・応援すること、試合運営を支えあうこと等から、多角的な楽しさ、バドミントンへの携わりを学ぶ。	実験 演習	21.6時間 9.2時間

専門基礎科目	運動方法学演習16	ベースボール型スポーツの特性を理解し、ルール等を学習する。ソフトボールの基礎技術や基本的ゲーム構造を实践を通して学習する。また、スローピッチとファーストピッチ、さまざまな大きさのボールによるゲームを体験し、レクリエーションとしてのソフトボールと競技としてのソフトボールを实践する。その実践を系統的にまとめ、生涯スポーツとしてのスポーツの役割を考察する。また、チームにおける役割分担やマネジメントを通して、スポーツとチームビルディングについて学習する。	実験 演習	21.6時間 9.2時間
	情報処理1	情報処理の基本的な考え方や概念、及び基礎的パソコン操作の修得。及び、マイクロソフト社公式資格取得のノウハウ。ワードによる学術文書作成、エクセルによる統計処理とデータベース作成、福祉現場での顧客管理やビジネス文書作成、パワーポイントによる効果的なプレゼンテーション資料作成、インターネットを使う上での最低限のモラル、セキュリティの理解、等を解説、修得してもらう。		
	情報処理2	基本的情報発信スキルとして（1）効果的なパワーポイント資料作成、（2）プレゼンテーション技法、（3）画像処理ソフトにおけるビジュアル作成、（4）画像処理ソフトでのホームページ素材作成、（5）ホームページ作成技法、（6）福祉情報のWebによる発信、等を解説、修得してもらう。またマイクロソフト社公式資格取得についてのノウハウを解説する。とくに福祉の現場でも重要視されるパワーポイントについて学ぶ。		
	異文化スタディ	海外のフィールドにおいて、異なる生活や文化、その国や地域が抱える社会課題などを体験を通じて学ぶ。訪問先の人々との交流、対話、協働を通し、異文化社会における自己のコミュニケーション能力の涵養をはかる。事前学習において文献調査を行うことの大切さを学ぶとともに、事前学習の枠組みで現地を学ぶのではなく、これまで気が付かなかったことに気が付くという新しい発見を大切に、それらをきっかけとして、独自の問いをたてて調べることの面白さを知る。	集中	
	キャリア形成論	大学卒業後の職業選択および初期キャリア形成についての学問的知見を理解し、その知識をふまえて自らのキャリア形成に対する意識を高めることを目標とする。そのためにも、他人の経験から、自分の今を見つめ、将来図を描く。多様なゲストによる『生き方・働き方』に関するレクチャー、ワークショップ、グループワークなどを通じて、大学生活、学部・学科での学びが、どのように「自分なりのキャリア」を考え、将来像に紐づくかを考える。		
	ウエルネス科学総論	ウエルネスとは、Healthの枠組みを超えたより多面的な健康観である。その目標は、豊かで充実した人生を追求することであり、心身の健康の他に人生の価値観、生きがい、さらには社会環境や自然環境などもその要素に含まれる。本講義ではまず、ウエルネスの意味、歴史、構成要素、その目指すところ、Healthという概念との違いなどについて学び、これを基に、ストレスに満ち溢れた現代社会の中でいかに豊かで充実した人生を送るかについて、考察する。またウエルネスとQOLの関連性についても考察する。		
	スポーツ科学総論	スポーツ科学とは、スポーツを科学的に研究する学問である。したがって、スポーツに関する偏った判断やあいまいな考えよりも、科学的手法をもちいて観察した情報や実験結果が信頼されるものである。また、スポーツ科学は、様々な専門的観点からアプローチされる学際的な領域であるため、本講義では、スポーツ哲学、スポーツ史、スポーツ社会学、スポーツ心理学、スポーツ医学、スポーツ生理学、スポーツバイオメカニクス、スポーツ栄養学、スポーツ方法学からの科学的アプローチ方法を総合的に学習する。		
	運動方法学	ヒトの動きの技術と科学を扱うキネシオロジーを基礎とした運動方法学は、からだを動かすことが基本となるスポーツウエルネスの分野では、必須となる学問領域である。本講義では、解剖学、運動生理学、運動力学といった基礎科学を元に、具体的な身体運動をして、立つ、歩く、走る、跳ぶ、投げる、蹴る、打つといった、基本となる動きの概念を理解し、さらに、スポーツ種目に応じた記録の向上や合理的な身体運動のメカニズムを学習する。		

専門基礎科目	生涯スポーツ論	生涯スポーツとは、人の生涯にわたる各ライフステージで行われ、スポーツの勝利や記録の過度な追求をしない、主に健康の保持増進や楽しみを目的とし、心身の発育発達の促進や老年期に適応できる活動形態を持った運動・スポーツ活動の総称をいう。幼児期から高齢期に至るまでの、生涯のライフサイクルを通して個人の年齢、体力、好みに合わせてスポーツを継続して楽しむための条件整備に関わる諸問題について考究する。また、日本におけるその歴史や諸外国の現状と比較しながら新たな生涯スポーツの方向性を考える。	
	運動生理学	運動が、人間の健康や体力の維持増進のため重要な役割を担うことは周知の事実である。本講義では、運動を生理学的な側面から捉え、それに伴う種々の身体メカニズムについて解説する。具体的には、運動のエネルギー、筋収縮のメカニズム、運動と循環機能、運動の継続体験による身体の変化、身体組成、運動処方、運動と健康、などのテーマに関して講義する。また、スポーツの競技場面でパフォーマンスを向上させるための具体的なノウハウについて、運動生理学的立場から解説する。	
	生理学	生理学とは、生命現象、あるいは生体機能の仕組みを対象とする学問であり、人体の機能を解明することを目標としている。ヒトが対象となるスポーツウェルネスの分野において、ヒトのからだの機能について学ぶことは、必須である。本講義では、循環器、呼吸器、消化器、泌尿器、生殖器、内分泌、神経、筋、感覚器、骨格といった生体の機能系統の器官と働きの理解から、外部環境の変化に対して生体内の内部環境を安定に保とうとする恒常性（ホメオスタシス）のしくみを学習する。	
	運動処方・療法	医療費が年々増加していく中で、健康増進に対する予防医学的アプローチとして、運動処方が重要視されている。ウェルネスを学ぶ学生にとって、運動が健康になぜ有効なのかを概念として理解することは、大変重要である。本講義では、健康と体力に関する基本的な考え方から運動不足の弊害を学び、さらに、運動の効果や様々なニーズに対応した運動処方の具体的方法を学習し、実践的学習として、実際に運動プログラムを作成し、検討する。	
	解剖学1	解剖学とは人体を構成する体の仕組みを探求する学問であり、特に運動器に関する解剖学は、スポーツ医学を学ぶ人にとっては、とても重要な学問である。本講義では、身体の各部位を医学の専門用語で述べるができるように学習することや、膝関節、足関節、股関節、体幹、肩関節、肘関節、手関節などを構成している骨、関節、靭帯などを詳細を学び、その関節を動かすための筋・腱の名称とその筋腱の走行について学習する。	
	解剖学2	アスレティックトレーナーが行う選手の動作の運動学的観察、スポーツ障害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解する。そのために、解剖学1にて学修した基本的な人体の構造と機能についての知識を基として、本授業では、特に運動器の骨、筋、靭帯、関節、神経支配と身体運動とを関連づけて学習することを目的とする。到達目標は、体幹および四肢の基礎解剖と運動について理解し、運動時に関与する骨、筋、関節、靭帯、神経支配を同定できるようになることである。	
	アスレティックトレーナーの役割	スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの役割とその業務を具体的に学び、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や趣旨、設立に至った背景および諸外国の状況を理解する。またアスレティックトレーナーの組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、コーチやスポーツドクターなどさまざまな分野の専門家といかに連携を取って選手をサポートしていくかなど、アスレティックトレーナーが現場で活動する上で必要な知識を養うとともに、最も大切である社会的秩序や倫理観を含めた「高度な一般常識」と「健全な価値観」を身につけることを目的とする。到達目標は、アスレティックトレーナーの活動内容を理解し、見学実習や現場実習での自らの行動をイメージできるようになることである。	

専門基礎科目	ウエルネスと時間生物学	昼間は明るくなり太陽が出て、夜になると暗くなる。1日は、このような変化が生じているが、人をはじめとするすべての動物は、この日内リズムに関連した動きをしている。日中には、活動的になり、活動的になれるようなホルモン分泌が生じ、夜になると身体を休ませ、成長や修復を行うホルモンが分泌する。この日内リズムを上手く利用することが病気の予防になったり、健康を維持することに重要であることが明らかになっている。ヒトのウエルネスを深く考察するために、ウエルネスに関連した時間生物学を学ぶ。	
	ウエルネス理解のための基礎生命科学	生命科学は、生命を研究対象とする学問分野であり、分子生物学、細胞生物学、生化学、生物物理学などが基礎となっている。生物であるヒトの体内で起こっている生命現象の原理を知ることが、ヒトの健康をベースにしたウエルネスを理解する上で重要である。本講義では、生物を構成する分子とその役割について理解を深め、関係する生命現象の原理を学ぶ。これにより、幅広い学問分野である生命科学の基礎を概観するとともに、ウエルネスの理解につながる内容についてはより深く、ウエルネスとの関係を含めて学習する。	
	環境・サステナビリティ論	人間活動が引き起こす環境破壊は、人間を含む全ての生命を危機にさらしている。この問題を解決するためには、私たち自身がサステナブル（持続可能）な社会の実現に動き出さなくてはならない。本講義では、その方法として①様々な実践活動、②様々な普及啓発活動、③様々な消費活動、④様々な主権活動に注目する。そして、国連が提唱する持続可能な開発目標（SDGs）や、サステナブルな価値観を根本に据えて活動するソーシャルグッドな企業などを取り上げ、環境問題がはらむ課題を探り、その解決方法について考えることを目的とする。	
	ウエルネス理解のための細胞生物学	細胞は生物の基本単位であり、ヒトの体もおよそ37兆個の細胞からなると推定されている。真核生物の細胞で起きる生命現象の多くは広く保存されており、真核細胞について学び知ることが、生物の理解、自分自身の理解につながる。本講義では、真核生物の細胞の構造と機能について学び、関連する生命現象まで含めて理解を深める。特にヒトの各種細胞とそこで起きる生命現象については、より詳しく学ぶ。また、ウエルネスの理解につながる内容についてはより深く、ウエルネスとの関係を含めて学習する。	
	抗加齢医学とウエルネス	加齢は決して抗うことができないことである。近年、抗加齢医学が盛んに研究されているのは、これまでは、＜加齢によるだから仕方がない＞という考えを止めようという概念から来ている。加齢によりヒトの身体機能は低下していくが、この機能低下の原因を究明し、機能低下を予防する取り組みを行うことが抗加齢医学である。これは、ウエルネス医学と密接に関連している部分がある。ウエルネスの理解をさらに深めるために、ウエルネスに関連する抗加齢医学を学習する。	
	体育原理・体育史	「体育・スポーツとは何か」を考える。「体育」について、同義語のように混同してとらえられる傾向にある「スポーツ」との相違点を明確にし、その意味と価値を学ぶことにより、「体育」と「スポーツ」の現代社会における存在理由および意義について哲学的に探求する。加えて、古代から中世、近代を経て現代に至る時代の社会状況を映し出す鏡としての役割をスポーツ文化が担っていることに気づき、現代社会との連関を認識しつつ、歴史的想像力と洞察力を働かせられるようになることを目標とする。あわせて体育、身体教育思想の歴史についても理解を深める。	
	スポーツ教育論	学校体育を含むスポーツ教育に関する基礎的知識を修得し、今日的課題と今後の展望を考究する力を養う。広義の「スポーツ」について、概念、歴史、文化的様相を捉えながらその教育的側面を剔出する。次いで、日本の学校体育および国際スポーツの様相を捉えながらその教育的側面を剔出する。さらに、現代のグローバル化したスポーツの様相を捉えながら日本の学校体育／地域スポーツの今日的課題と今後の展望について議論する。	

<p>専門基礎科目</p>	<p>データサイエンス概論</p>	<p>近年の技術革新により、スポーツウエルネス分野でも大量のデータが取得できるようになってきた。これらのデータは、競技パフォーマンス向上を目指したスポーツパフォーマンス分析や、健康増進を目指した運動処方や栄養指導の検証に広く応用されている。本講義では、夜中に存在する膨大なデータのスポーツウエルネス分野への応用を念頭に、データから何らかの意味のある情報、法則、関連性などを導き出すことを目的として、情報科学、統計学、アルゴリズムなどからデータサイエンスの理論と分析技法を学ぶ。</p>	
<p>専門基礎科目</p>	<p>身体文化論</p>	<p>身体は生物学的存在であると同時に、常に文化・社会的存在でもある。同一の身体、あるいはその身体によりなされる同一の行為であっても、異なる文化の文脈では、その身体や身体行為に向けられる眼差しは同一のものではない可能性が十分に考えられる。本授業では、身体と文化との関わりについて考察することを目的とする。国内外の身体と文化に関する文献や視聴覚資料を検討する中で文化的視座から身体を考究していき、文化により異なる形態を示すスポーツや舞踊といった身体文化の多様性についても理解する。</p>	
	<p>発育・発達・加齢論</p>	<p>ヒトの一生は、受精にはじまり、胎生期、新生児期、乳児期、幼児期、少年期、思春期、青年期に至って成熟に達し、加齢に伴って、生体の構造や機能が変容していく。本講義では、成熟への過程で生じる様々な身体の部分や組織・器官の形態の増大をさす発育、行動や動作、運動能力などの時間経過に伴う機能的な変化をさす発達、そして老化に代表される成熟期以後の変化を捉えた加齢という3つの視点から、各期の身体的特徴および心理的特徴を学習する。</p>	
	<p>スポーツウエルネス心理学 (基礎)</p>	<p>一般に、競技力を高めるには「心・技・体」に関わる側面がバランスよく向上することが要求されるが、精神的緊張が高まる大舞台で十分な力を発揮するには、特に「心」に関わる能力や技術が重要となる。またスポーツや身体運動には、気分の改善、生きがい感や自己効力感の向上など、望ましい心理状態を引き起こす効果のあることが知られている。本講義では、前半はスポーツ心理学の基礎理論や身体運動もたらす心理面への影響などの基礎知識を、後半は運動イメージに関わる脳神経系活動やメンタルトレーニングなどの様々な応用知識を学ぶ。</p>	
	<p>ストレングス・コンディショニング論 (基礎)</p>	<p>コンディショニングとは心身の状態を好ましい方向に整えることを意味している。スポーツにおける体調管理や試合に向けてベストコンディションにもっていくための方法としては、ピーキングやテーパリングなどの手法が使われているが、これらの考え方は、身体トレーニングや栄養摂取、治療なども含めた総合的な身体への働きかけや精神的な影響などを理解しなければならない。このような競技力向上に向けた体調管理の理論と方法を学ぶ。また、年齢を考慮したコンディショニングの方法についても言及する。</p>	
	<p>運動・スポーツ栄養学 (基礎)</p>	<p>スポーツ・運動のための体力を構成する要因には、①無酸素的、有酸素的なパワー発揮、②パワーを効率良く伝えるための筋量、体脂肪量といった体格・体組成、そして③精神的な要素である興奮とリラクゼーションによって制御される神経-筋連絡がある。いずれもその材料あるいは環境をつくるのは栄養であるので、エネルギーおよび各栄養素の働き、消化・吸収と代謝、好ましい食生活を送るための基礎知識を理解することを目標とする。</p>	
	<p>スポーツ社会学</p>	<p>スポーツは文化であると同時に社会的な現象として捉えることができる。スポーツ社会学は、そのスポーツに関わる社会科学的研究の一領域であり、哲学、歴史学、人類学、心理学、教育学などに関連している。本授業では、ミクロ、マクロの両視座から生涯スポーツや競技スポーツなど、あらゆる人々が実施する体育・スポーツ、健康づくり運動などへの参加に伴う社会的要因の解明や意味性、権力性、メディア性等について考察し、スポーツとそれに関わる諸問題を社会的に理解する方法を学習する。</p>	

専門基幹科目	測定評価演習	スポーツ選手のパフォーマンスや能力を客観的に評価できることは、指導者にとって必須の条件である。本演習では、フィールド測定を中心に体力に関する多面的な測定手法を習得するとともに、得られたデータを集計し、分析・評価し、要約するための情報処理スキルを獲得することを目指す。測定によって得られる数値データの羅列を、いかに分りやすく指導現場へとフィードバックし、有効活用してゆくか。そのために必要なプロセスを体験的に学習することが本演習の狙いである。	実験 演習	21.6時間 9.2時間
	アダプテッド・スポーツ論	アダプテッドスポーツとは、ルールや用具を障害の種類や程度、あるいは体力に適合 (adapt) させることによって、障害のある人に限らず、幼児から高齢者、体力の低い人であっても誰でも参加できるように工夫されたスポーツのことである。このような工夫により、障害者も健常者も同一のフィールドで、スポーツを楽しむことができる。本講義では、アダプテッドスポーツの意味や、その歴史的背景を学び、実際に、車椅子バスケットボールやゲートボールなどが、どのように行われているかについて学ぶ。		
	ダイバーシティ・スポーツ論	現在の日本社会においては、様々な「生き辛さ」を抱えた人々がいる。その要因としては、ジェンダー、年齢、障がいの有無、国籍などを挙げることができる。スポーツという豊かな文化の享受においても、それらの「生き辛さ」は影響を及ぼし、スポーツを楽しめない、さらには、スポーツを嫌いになってしまうことが、例えば、ジェンダー・スタディーズの研究の蓄積において報告されている。ダイバーシティ (多様性) を重視する観点からスポーツにアプローチし、誰もが「自分らしく」スポーツと向き合うことを可能とし、また、誰をも排除することのないスポーツ界の形成について考究する。		
	スポーツ政策	2013年、スポーツ基本法が制定され、スポーツ基本法に基づきスポーツ基本計画が策定され、日本のスポーツ推進が展開されている。スポーツは、子ども、高齢者、しょうがい者を含め、すべての人のウェルネス (総合的健康) の増進と疾病の予防、心身の解放のみならず、身体的コミュニケーションのツールとして非常に有益なものとなり得る。そのためのスポーツ政策とはどうあるべきか、他の政策と連動しながらどのように進められるべきか、その評価体制及び方法も含め検討する必要がある。そこで本講義では、戦後日本のスポーツ政策の史的変遷と現代的課題を明らかにしつつ、海外のスポーツ政策と比較検討しながら「下」からのスポーツ政策論の可能性と課題について考究する。		
	健康政策	健康に関する概念、わが国の健康政策の歴史的経緯を踏まえ、健康政策の動向と課題について理解するとともに医療制度、介護制度との関係において健康のプロモーションの考え方と方法論について考究する。なかでも健康政策について主にわが国の医療制度、介護制度の制度改革とそのあり方からアプローチし、医療/介護サービス受給者及び提供者の現状について理解を深めつつ今後の健康政策の理念と方向性、さらには健康のプロモーションに関する政策論的課題について考究する。		
	スポーツコーチ学	現代のスポーツは科学的なトレーニング方法が確立されてきたこと、競技のルールが変化していくと、スポーツ用具開発が進歩してより高いパフォーマンスが期待できるようになったことなどで競技レベルが向上しているが、これらのことに伴って指導方法についても適応していくことが要求されてきている。スポーツのコーチング理論に関する最新の文献、レポートや実践方法などを紹介しながら、スポーツのコーチが身につけるべき知識と考え方について学んでいく。		
	コーチングスキル	コーチとして活動するときのスキルを向上させていくために、コーチに求められる専門的知識、コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキル、ファシリテーションスキル等の対他者の対応とレジリエンスやアンガーマネジメントなどのセルフマネジメントのような対自己の対応について学んでいく。このようなスポーツ選手に対するコーチとしての対応手法を習得してプレーヤーズセンターなコーチングを理解して選手との良好な関係の中でコーチングを行うことができるようにする。		

専門 基幹 科目	スポーツ・健康産業論	スポーツ産業には、スポーツ用品産業、スポーツサービス産業、スポーツ施設産業、およびそれらの複合領域であるスポーツ関連流通業と施設・空間マネジメント業が含まれる。また、健康産業は、健康関連機器、健康関連施設、健康食品、健康に関するサービス・マネジメントなど多様な広がりを見せている。そこで本講義では、これらの産業領域の代表的な事例を取り上げながら各領域の市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学ぶ。	
	コンディショニングの実際	スポーツチームにおいて、ドクター及びコーチやその他のスタッフと連携をとり、競技者の健康管理、障害予防、スポーツ外傷・障害の応急処置、リハビリテーション及び体力トレーニング、コンディショニングを担当するのがトレーナーである。この授業では、このような役割を果たすために必要な知識と技能を習得するために、次の内容の実技実習とグループディスカッションを行う。1) スポーツ外傷の応急処置について 2) 専門的ストレッチについて 3) テーピングとマッサージ 4) コンディショニングトレーニング	
	コンディショニング概論	コンディショニングの概念を学び、スポーツ実践者(競技者)が最高のパフォーマンスを発揮するために必要な要因、具体的な方法の実際について競技特性を踏まえて理解する。また傷害予防のためのアプローチやそのための環境づくりの方法を学び、多様なスポーツ現場においてその時々求められる目的にあったコンディショニングの方法を身につけることを目的とする。到達目標は、コンディショニングの目的および三つの要素〔①身体的因子②環境的因子③心因的因子〕を理解し、スポーツ現場にその知識を還元できるようにするとともに、コンディショニング評価の必要性を理解し、コンディショニングの目的を意識したトレーニング計画の立案、設計ができるようになることである。	
	アスレティックリハビリテーション&リコンディショニング概論	アスレティックリハビリテーションの基礎的事項、外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実際、競技(種目)特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング方法を理解する。またスポーツ活動に必要な運動器の機能的要因・体力的要因を理解し、パフォーマンスを低下させる主要因としてのスポーツ外傷・障害を学び、適切なリハビリテーションプログラムの立案と安全に配慮したトレーニング指導を身につけることを目的とする。到達目標は、身体各部位の外傷・障害の理解およびその評価方法の理解、その上で、アスレティックリハビリテーションの具体的な方法について理解できるようになることである。	
	測定と評価	アスレティックトレーナーの業務に必要な測定・評価について、その意義と考え方を学び、具体的な測定・評価の実践と結果から問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践できる能力を習得することを目的とする。到達目標は、アスレティックトレーナーによる測定・評価の目的、意義およびその役割を説明できるようになるとともに、身体機能の測定・評価プロセスを説明でき、それらに必要な検査項目、各検査項目で使われる機器・道具をあげ、それぞれの機器、道具の使用目的を説明できるようになることである。	
	スポーツ医学(外傷・障害) 1	スポーツを行う人たちがスポーツを指導する人たちなど、スポーツに関わる人にとって、ケガ(外傷+障害)は大きな問題であり、ケガを克服することは、大変重要なことである。スポーツに関わるすべての人たちが、スポーツに生じるケガについて知ることは、ケガによってスポーツを行うことを断念する人がゼロへ近づける第一歩である。トレーナーを含め、スポーツに関わるすべての人に必要なスポーツ医学を学ぶ。本科目では、とくに股関節、膝関節、足関節、足、腸骨や恥坐骨の骨盤などの関連したケガを学ぶ。	
	スポーツ医学(外傷・障害) 2	スポーツを行う人たちがスポーツを指導する人たちなど、スポーツに関わる人にとって、ケガ(外傷+障害)は大きな問題であり、ケガを克服することは、大変重要なことである。スポーツに関わるすべての人たちが、スポーツに生じるケガについて知ることは、ケガによってスポーツを行うことを断念する人がゼロへ近づける第一歩である。トレーナーを含め、スポーツに関わるすべての人に必要なスポーツ医学を学ぶ。本科目では、とくに頸椎、胸椎、腰椎や肩甲骨、肘、手関節、手などに関連するケガを学ぶ。	



専門基幹科目	コンディショニングの方法	アスレティックトレーナーの役割の一つであるコンディショニングが挙げられるが、その具体的な方法について学習する。特に、ファンクショナルムーブメント（機能的動作）の獲得に向けた身体機能の評価方法とアプローチ方法について学習する。それに加え、ウォーミングアップやクーリングダウン、テーピングやストレッチングなど、コンディショニングに関わる幅広い知識とスキルの習得を目指す。到達目標は、コンディショニングに関わる身体的、心理的、環境的要因のそれぞれに対するアプローチ方法を理解し、セルフコンディショニングの実践に活かせるようになることである。	
	アスレティックリハビリテーション実習 1	アスレティックリハビリテーションの中で、ストレッチとテーピングは傷害予防、傷害の再発予防、傷害に対する応急処置、傷害から復帰するための手段の一つとして用いられる。しかし、スポーツ傷害に対して、手軽に用いる事ができるアプローチ法の一つであるからこそ、スポーツ傷害や機能的な解剖の知識、ストレッチやテーピングについての正しい理解と応用力が必要とされる。そのため、これらのもつ医学的意味合いを正しく学習し、あわせて欠点も十分理解する必要がある。到達目標は、ストレッチとテーピングの種類や実施方法、注意点を十分に理解した上で、各スポーツ傷害に応じた適切なストレッチやテーピングを選択、実践できるようになることである。	実験 21.6時間 演習 9.2時間
	スポーツと法	スポーツにおけるさまざまな法的問題について学習する。現代スポーツにおける各種法的問題の存在を理解し、個別の解決のあり方を論じる。現代スポーツで発生している差別や人権問題、選手選考、ドーピングさらには紛争解決といったテーマに関して、何が問題なのか、どうあるべきか、などを検討する。また、スポーツ活動中の事故をめぐる責任問題についても、指導者はどのような注意義務を負っているのか、具体的にどう事故防止策を講じたらいいのか、などについて取り上げる。	
	生物多様性と人間社会	人間は、水、食料、服、薬、エネルギー、文化など、あらゆる恵みを生物多様性から得て生かされてきた。しかし現代は人間活動の影響の大きさから、地球史上6回目の生物大量絶滅が起きている時代と言われる。このままではさらに多くの野生動植物が絶滅し、その影響は人間社会の持続可能性をも危うくするであろう。本講義では、生物多様性について基礎から学ぶと共に、その保全や向上に寄与している国際的な取り組みから、国、企業、NGO、NPO、個人まで、様々な主体が取り組む活動事例を取り上げる。そして、最終的に私たちにできることは何なのか考え、実践することを目的とする。	
	応用生命科学	生命科学には、農学、医学、歯学、薬学、工学など幅広い分野の応用研究が含まれており、実際に社会で役立っている。ウェルネスの基盤であるヒトの健康の増進にもこの分野の研究はおおいに貢献している。本講義では、生命科学の研究成果がどのように応用・利用されて、生活に、そしてウェルネスの分野に役立っているのか、実際の例をみながら学ぶ。特に、応用研究が盛んな農学と医学の関連分野の研究とその応用例について、理解を深める。	
	学校保健・学校安全	学校保健・学校安全の領域を理解し、学校保健・学校安全の現状と問題点の対処法について学ぶことを通じて、生徒の保健管理と保健教育・安全管理と安全教育に必要な知識と実践力を身につける。また、学校保健・学校安全を支える関係者の存在について認識し、役割が理解できるようにする。保健管理の柱となる健康診断や健康観察の重要性、心の健康問題の背景を理解することで、心身の健康課題の解決に繋がられるようにする。生徒の健康について、発育発達、精神保健及び小児保健学校環境衛生、学校安全保健等の面から総合的に学習し、理解する。	
	スポーツデータ収集演習	スポーツパフォーマンスやウェルネスの向上を目指したデータ分析では、数値、写真、ビデオ、言葉による情報を含む様々なタイプのデータが用いられる。本演習では、主にスポーツ活動中の映像撮影から得られた画像データや、スポーツ活動中の動きや移動軌跡を全地球測位システム（GPS）などのデバイスで記録した座標データ、健康診断や体力測定で得られる各項目の数値などの、主に量的なデータの収集方法について理論と実践から学ぶ。	実験 21.6時間 演習 9.2時間

専門基幹科目	インターンシップ	インターンシップとは、在学中に一定の期間、一般社会の中の企業や種々の団体で働き、それが大学の正規の勉学の一部と見なされる制度のことである。これによって、大学を終えたのち社会に出て行く時、社会人としての心構えや知識・技術の準備ができ、さらに大学で学ぶことの意義を再確認することができる。インターンシップ先としては、一般企業と地域のスポーツクラブや、企業の健康管理部門などが、専門性を活かす対象として考えられる。	実験 21.6時間 演習 9.2時間
	インターンシップ実習1	インターンシップとは、在学中に一定の期間、一般社会の中の企業や種々の団体で働き、それが大学の正規の勉学の一部と見なされる制度のことである。これによって、大学を終えたのち社会に出て行く時、社会人としての心構えや知識・技術の準備ができ、さらに大学で学ぶことの意義を再確認することができる。インターンシップ先としては、アスレティックトレーナーや健康運動指導士関連のスポーツクラブである。	実験 21.6時間 演習 9.2時間
	インターンシップ実習2	インターンシップとは、在学中に一定の期間、一般社会の中の企業や種々の団体で働き、それが大学の正規の勉学の一部と見なされる制度のことである。これによって、大学を終えたのち社会に出て行く時、社会人としての心構えや知識・技術の準備ができ、さらに大学で学ぶことの意義を再確認することができる。インターンシップ先としては、アスレティックトレーナーや健康運動指導士関連のスポーツクラブである。	実験 21.6時間 演習 9.2時間
専門展開科目	レクリエーション援助論	人生100年時代を迎え、余暇時間の増大に伴い、余暇時間をどのように過ごすのか、生きがい感をもって人生を豊かにするためのレクリエーションの価値の理解と方法が問われている。本講義では、現代社会におけるレクリエーションの価値、レクリエーションの歴史的動向を踏まえたレクリエーションのあり方を検討するとともに、レクリエーション援助のあり方や具体的な方法論について概説する。さらにライフスタイルとしてレクリエーションに親しむためのレクリエーション組織や環境整備のあり方についても考究する。	
	レクリエーション援助演習	レクリエーション援助の考え方について、レクリエーション運動における歴史的展開を理解しつつ、対人的援助、集団的援助、組織的援助の諸相について検討する。対人援助技術における支援の具体的なプログラムの展開と方法について実践的に学習するとともに集団的援助についてレクリエーション援助に用いるさまざまなアクティビティ（レクリエーション財）の考え方や、その展開の方法とマネジメントについてグループに分かれて実践的に考究する。	実験 21.6時間 演習 9.2時間
	メンタルマネジメント	一般に、過大なストレスは健康に悪影響を及ぼすが、ストレスをどう捉えるかという認知的側面は人によって異なるため、ストレスと疾病の関係には個人差が大きい。また、物事に対する価値観を変えることで、客観的には同じ状況であっても内的には大きな変化が生じうる。したがって、認知的なマネジメント技術を習得することは、QOLを高め、よりよく生きるための重要なツールとなりうる。本講義では、メンタルマネジメント技術についての基礎的知識を学ぶとともに、バイオフィードバックを応用したメンタルトレーニングを実際に体験する。	
	スポーツジャーナリズム	スポーツに関わるメディアは、新聞や雑誌、テレビ、ラジオなどにととまらず、近年はインターネットを活用したソーシャルメディアが急速に発達している。各メディアにはそれぞれ特徴があり、スポーツ情報へのアクセスはニーズに応じて変化しつづけている。本講義では、スポーツとメディアの現状を概観し、スポーツメディアの作り手、受け手のあり方と現代的課題を検討するとともに、「良い観戦者・視聴者」になるという視点からメディアを分析的に批判できる力を養うことを目的とする。	

専門展開科目	バイオメカニクス	バイオメカニクスの講義では身体の運動を運動力学、運動生理学、運動解剖学などの基礎知識をもとにして分析することにより、スポーツや生活場面での動きのメカニズムを明らかにすることを目的とする。バイオメカニクスの知識の習得とその応用で、リハビリテーションやスポーツ指導において、「巧みな運動」「自然な運動」「効率の良い運動」「美しい運動」というものが、どのような動きなのかを具体的に提示できるようにする。また、筋、骨や腱の構造と機能について学ぶことで力発揮、つまり力学的エネルギーの出力について学習する。	
	スポーツ倫理学	現代スポーツにみられる諸問題のうち、ドーピングや性差別、セクシュアルハラスメントなど倫理に関するものは少なくない。本授業では、スポーツ倫理学の基本的文献講読を通して、倫理的な理解を深めるとともに、倫理的な視座から競技スポーツ、生涯スポーツ、学校体育の場でみられる諸課題について具体的事例を取り上げ、現代スポーツが内包する危なさ、問題の所在、問題解決に向けた視点と方法について考究する。	
	ウェルネスプロモーション論	人々の健康への関心が高まり、同時に健康不安が蔓延する現代社会において、ウェルネスはますますその重要性を高めている。本授業では、人々がウェルネスを実践し、より充実した人生を追求していくことを保障する環境作り、政策の在り方について考える。ウェルネス推進に関連する国内外のデータを検討し現状を把握すると同時に、先進的な事例を取り上げ多角的に分析することを通して、これからの社会に求められる環境、政策の具体的な在り方について考究する。	
	スポーツビジネス論	スポーツビジネスを成長させるための「スポーツマーケティング」の視点、スポーツビジネスを経営するための「スポーツマネジメント」の視点、スポーツをはじめ、映像、音楽、演劇、演芸、アミューズメント、アトラクションなど私たちに興奮と感動をもたらす「エンターテインメント」の視点などから、スポーツビジネスの理論と実務を学ぶ。ビジネス構造的側面とよりよいビジネスを実現するための行動的側面を総合的に考える。	
	スポーツマネジメント論	サービス財及び物財の提供に関わる経営を事例にしなが、スポーツ経営の理解と実践に必要な基礎的なマネジメント理論について理解する。我が国においては学校や地域、営利と非営利のスポーツクラブなど様々な組織が存在するが、いかにして限られた経営資源を有効活用して、スポーツサービスの生産、提供を行ない、スポーツ経営体としての発展を可能にするかという問題等について考究する。さらに欧米のスポーツマネジメントとの関連をふまえながら、スポーツ組織を整備するためのマーケティング等についても学習する。	
	コミュニティスポーツ論	スポーツは、子ども、高齢者、しょうがい者を含め、すべての人のウェルネス（総合的健康）の増進と疾病の予防、心身の開放のみならず、身体的コミュニケーションのツールとして非常に有益なものとなり得るとともに、その有効性を引き出しウェルネス・コミュニティの形成に寄与し得るものといえる。そこで本講義では、スポーツを「自発的に行われる運動群」として幅広くとらえ、スポーツや運動の福祉への貢献とウェルネス・コミュニティ形成の可能性と課題、課題解決に向けた方法論について考究する。	
	障害者スポーツ論	わが国の障がい者有する人々（身体障がい者、知的障がい者等）のウェルネスの向上と生きがいの創造に向けたスポーツの推進は、障がい者のスポーツ推進のみならず、障がいの有無にかかわらずともに楽しめるスポーツ環境の創設、ひいては共生社会の実現に向けて大きな課題となっている。本講義では、障がい者の身体の状態や障がいに伴う運動特性の理解、文化としてのスポーツの理解を深め、障害者スポーツの歴史的動向、現状と現在の課題、障害者スポーツのプロモーションのあり方と方法について考究する。	

専門 展開 科目	小児保健・精神保健	本授業では、小児保健の基礎的知識の習得と、乳幼児期から青年期、老年期に至るまでの心の健康についての正しい知識の習得を目的とする。次の世代を担う子どもたちが健康的に各々の生を全うするために、小児の特徴、小児保健の意義等について学びながら、大人たちが整えるべき望ましい環境の在り方について考える。また、人生の各ライフステージにおける心の健康に影響する要因について理解しながら、発達障害とその対応についても学習する。	
	公衆衛生学	公衆衛生は、国民の疾病や傷害を予防し、寿命を延ばし、健康を維持増進するために必要な活動の総称であり、それは衛生行政と深く係わりながら組織されたコミュニティで展開される。本講義では、特にこれから日本が向かえるであろう極端な高齢化社会の中で、いかに個人のQOLを高く保つかという点を念頭に置き、以下の内容を中心に解説する。疫学と感染症の予防、環境保健、成人保健、精神保健、産業保健、健康教育、社会保障と医療、健康科学。	
	ユニバーサルスポーツ援助 技術演習	生涯スポーツ、ユニバーサルスポーツの考え方について理解し、代表的なニュースポーツを教材としてグラウンドゴルフ、ペタンク、ユニホック、シッティングバレーボールなど各種目の発祥、用具、ルールについての理解を深め、基礎技術、審判法に加え、そのルールの工夫やアレンジの技法を学習するとともに新しいスポーツ創作にも取り組む。具体的にはニュースポーツの基礎技術、審判法の理解と実技、アレンジ法、ユニバーサルスポーツの理解とスポーツ創作法について実践的に考究する。	実験 演習 21.6時間 9.2時間
	健康運動指導演習	様々な問題を抱える現代社会において、健康の果たすべき役割は大きい。メタボリック・シンドロームに象徴される生活習慣病が蔓延する中、健康を維持・増進する上で運動は欠かせない要素となっている。しかしながら、我が国における定期的運動実施者の割合はさほど高くなく、運動の生活化を図るには多くの課題が残されている。本授業では、健康や運動に関する国内外のデータを検討することから運動実施者増加に向けて解決すべき課題を把握し、さらに、運動実施者一人ひとりに合わせた適切な運動指導の方法について実践的に習得する。	実験 演習 21.6時間 9.2時間
	障害者スポーツ実践論	わが国の障害を有する人々（身体障害者、知的障害者等）のウェルネスの向上と生きがいの創造に向けたスポーツのあり方に関する理解を深め、障害者スポーツの現状と課題、プロモーションの方法論について考究する。なかでも障害者の身体の状態や障害に伴う運動特性の理解、文化としてのスポーツの理解を深めるとともに障害者スポーツのプロモーションに向けた活動の施設、指導者、情報、集団などの条件整備、障害を有する人のアセスメントと支援の具体的な方法論について考究する。	実験 演習 21.6時間 9.2時間
	リハビリテーション論	WHOによるリハビリテーションの領域は医学的リハビリテーション、社会的リハビリテーション、職業的リハビリテーションに亘るが、本講義では、今や保健医療福祉の全てにとって不可欠な「リハビリテーション」の理念と定義、歴史的背景、治療訓練のあり方と方法、かかわる職種等を概観することで総体的な理解を行い、次に医学的リハビリテーションを中心に脳卒中、骨髄損傷、リウマチ等、現在多い障害のリハビリテーションの方法論を学ぶ。	
	スポーツコーチング演習	スポーツの競技力向上を目指す方法論として、実践報告の検討や文献研究を行ったうえで、いくつかのスポーツ種目についての模擬指導を行う。担当者は指導計画案を作成して、受講生を対象としてウォーミングアップを含む40分間のスポーツ指導を行い、その後で指導を受けた受講生、指導者と担当教員が、その指導について振り返りながらディスカッションを行う。このような指導経験と受講経験を繰り返しながら、スポーツ現場で生かされるコーチングのポイントを探っていく。	実験 演習 21.6時間 9.2時間

専門 展開 科目	専門演習1	<p>少人数で高度な専門的知識の取得をめざし、担当教員の指導のもとで、自主的に学習課題を設定し、フィールドワーク、文献資料の精読等によって研究計画の作成を行いその内容を発表および議論できることを目標とする。「専門演習」は、専攻領域を持つ教員の知見と経験に富む指導のもと、問題意識を共有する学友と共に集中的に探究する時と場である。各自の自発性を重んじるために、選択科目となる。健康運動領域に関わる分野では、豊かなスポーツマインドと福祉マインドを有し、運動・スポーツを通してウェルネスを向上させるための健康と運動に関する科学的知見と力を磨く。スポーツパフォーマンス領域の分野では、人間の適応可能性を高め、高度なスポーツ文化の創造に寄与するためのスポーツ科学に関する科学的知見と力を磨く。また、スポーツ文化に関わる分野では、スポーツ文化の創造とスポーツ科学の進化について、さらにはスポーツを通じた福祉社会の実現に寄与するための知見と能力を磨く。</p>	
	専門演習2	<p>少人数で高度な専門的知識の取得をめざし、担当教員の指導のもと「専門演習1」で作成した研究計画に沿って、自主的に学習課題を設定し、フィールドワーク、文献資料の精読、実験等によって研究活動を行いその成果を発表および議論できることを目標とする。「専門演習」は、専攻領域を持つ教員の知見と経験に富む指導のもと、問題意識を共有する学友と共に集中的に探究する時と場である。各自の自発性を重んじるために、選択科目となる。健康運動領域に関わる分野では、豊かなスポーツマインドと福祉マインドを有し、運動・スポーツを通してウェルネスを向上させるための健康と運動に関する科学的知見と力を磨く。スポーツパフォーマンス領域の分野では、人間の適応可能性を高め、高度なスポーツ文化の創造に寄与するためのスポーツ科学に関する科学的知見と力を磨く。また、スポーツ文化に関わる分野では、スポーツ文化の創造とスポーツ科学の進化について、さらにはスポーツを通じた福祉社会の実現に寄与するための知見と能力を磨く。</p>	
	スポーツコーチング特論	<p>アスリートを高いレベルに押し上げた、何人かのスポーツコーチの実践例をピックアップして、どのような指導が結果に結びついたのかについて検討する。このような事例研究から一般性を見出し、コーチングを行う場合の重要なポイントについてグループディスカッションで議論を深める。その際にはスポーツの種目特性や対象となるアスリートの年齢、性別、レベルなどについても十分に配慮がなされるべきであり、その具体的な違いと指導上の留意点についても考えていく。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(12 Katrin Jumiko LEITNER/2回) 導入、まとめ  (297 星野一朗/3回) 憧れられる選手育成を目指して  (296 山口香/3回) 日本の伝統的な指導法  (294 Yoko Karin Zetterlund/3回) トップアスリートに必要な要素  (295 今泉守正/3回) 世界のコーチング</p>	集中・オムニバス方式
	動作分析法演習	<p>人間の動作を分析して、スポーツ技術の改善やリハビリテーションにおける動きの評価のために、写真やVTR映像から「動き」のデータをコンピュータに取り込み、速度、角度、角運動量、重心など分析する手法を修得することを目的とする。また、グループを作り、走る、投げる、跳ぶなどの動きを画像で取り込み、スティックピックアップから身体運動のシミュレーションを試みる。このようなキネマテクスの分析法からスポーツコーチングやリハビリテーション指導につなげていく。</p>	実験 21.6時間 演習 9.2時間
	ダイバーシティ・スポーツ演習	<p>現代社会において、スポーツという豊かな文化の享受を阻害する様々な要因、例えば、ジェンダーや障がいの有無などを洗い出し、スポーツ界からそれらの阻害要因を排除するための方策について考えていく。個人単位での考究にとどまらず、グループ単位での考究を実施することで、多様なバックグラウンドを持つ各人のスポーツ場面での様々な経験を共有し、スポーツをダイバーシティ（多様性）の視点から考究することの重要性を認識できるようにする。</p>	

専門展開科目	生活習慣病の科学	高齢化社会の進行に伴い、健康に長寿を全うすることはわが国の大きな課題である。なぜならば、日本人の死因は、がん、心臓病、脳血管疾患が60%を占めており、これは便利なライフスタイルによる運動不足・食べ過ぎ・ストレス蓄積から肥満となり、そして糖尿病、高血圧、高脂血症、さらに動脈硬化症へと進展していくことが背景としてあるからである。これらの「生活習慣病」と、近年生まれた糖尿病、高血圧、高脂血症の重積する状態を指す概念である「メタボリックシンドローム」について、成因、実態、対策の観点から科学的に考究する。	
	運動処方・療法演習	メディカルチェック、健康診断結果、生活習慣病患者を学びメタボ健診などができるようになる。運動プログラムの作成と管理を学び、運動負荷方法を学んで運動指導のための基礎知識を得る。心電図の記録法、血圧、脈拍の測定、方法、意義を理解し、運動指導の意義を理解する。メディカルチェックや健康診断結果の解釈、服薬患者の運動プログラム作成上の注意点を理解する。また、高血圧症、糖尿病、肥満症などの生活習慣病の治療のための運動処方を演習形式で作成する。運動処方・療法で学んだ知識を基盤にして、科学的根拠に基づく運動処方が立案できる能力が身につくように演習を進行する。	実験 21.6時間 演習 9.2時間
	スポーツウエルネス心理学(応用)	競技力やウエルネスレベルの向上には、「心」に関わる知識やスキルの獲得が不可欠である。本講義では、日常生活やトレーニング時、また本番の競技時に直面するストレスに対して効果的に対処するための心理技法について学習する。具体的にはメンタルマネジメントやリラクセーションの技術、さらにトレーニング効果を高めたり競技力向上に効果的なイメージトレーニングや集中力のトレーニング、それに心理的コンディショニング等の技法について理論と実践の側面から学ぶ。加えて、競技場面等に特異的に発生するあがり克服するための知識や、指導者の立場において求められるメンタルマネジメント等についての知識も学習する。	
	運動・スポーツ栄養学(応用)	運動・スポーツ栄養学(基礎)の知識を土台として、アスリートの身体組成とからだづくり、競技特性および期分けに合わせた栄養摂取、スポーツ障害を防ぐための栄養補給、食品・医薬品とサプリメントなど、コンディショニングとパフォーマンス向上に役立つ幅広い栄養学的知識、これらの教育法についても習得を目指す。さらに、日常の食生活の基本的な在り方と実践方法についても学び、実際の競技生活や日常生活で活かすことを目標とする。	
	組織マネジメントサービス論	組織のマネジメントに関わる論点と基本理論を学ぶことを目的とする。組織は上司部下といった縦の分業、それぞれが特定の職務に特化するという横の分業を通じて、大きな目的を達成することができる。一方で、組織では利害の不一致が生じたり、誰も望んでいない意思決定をしてしまうなどの問題も起きる。主に組織のあるべき姿をどのように計画していくのかという「計画」、ならびにどのように組織メンバーの潜在力を引き出していくかという「先導」の論点、組織をどうデザインしていくかという「組織化」、外部環境に組織をどう適応していくかという「外部環境への対応」、組織をどのように変化させていくかという「変革」の論点を学習していく。	
	スポーツ行政学	生涯スポーツの推進拠点となる都道府県、市区町村では、行政が広くスポーツを推進するために様々な施策を行っている。その行政の行っている推進施策や推進に向けた仕組みや方法、ならびに課題を理解しておくことは、これからの我が国のスポーツ推進ならびにスポーツ指導を展開する上で重要なことである。そこで本講義では、国レベルから都道府県、市区町村レベルのスポーツ行政について、さらには諸外国のスポーツ行政についても触れながらスポーツ行政の基礎を学んでいく。そして、我が国の体育・スポーツ行政の仕組みとスポーツ推進施策について、「スポーツ基本法」や「スポーツ基本計画」等をもとに理解を深めるとともに、国民のスポーツ実施状況やスポーツ施設の現状等についても、世論調査等によるデータをもとに学習、幅広い視点からスポーツ行政の在り方について考究する。	

専門展開科目	アスレティックリハビリテーション&リコンディショニング1	スポーツの現場におけるリスクマネジメントの実際と課題について学習する。これまでにみられる数々のリスクマネジメントの現状を把握すると同時に、実際に起きたスポーツ事故を取り上げ、事故予防の観点から、事故の詳細について様々な角度からの把握に努める。また、安全対策および心肺蘇生法をはじめとした対処方法を考えると共に、安全なスポーツ環境の構築に向けた課題解決へのアプローチ方法を考察する。さらに、スポーツ事故に関する民事、刑事両面での判例を検討することから、指導者が担わされる法的責任についても理解する。	
	アスレティックリハビリテーション&リコンディショニング2	アスレティックリハビリテーションの施行にあたって不可欠な「競技種目特性」について学ぶ。各スポーツ競技においては、競技に特異的な動作やルールなどがあり、それらの特性に応じたアスレティックリハビリテーション指導を理解し、有効な指導ができるようにすることを目的とする。到達目標は、アスレティックリハビリテーションの進行に必要な競技種目特性を理解し、各競技種目で要する動作の機能的要素を理解できるようになるとともに、各競技種目で要する体力的な特性を理解し、各競技種目に復帰するにあたっての機能的、体力的到達目標を理解できるようになることである。	
	救急処置	救急処置の重要性や実施者の心得について学び、救急処置の基本的な留意点について理解する。また緊急の事故が発生した際の対応方法を学ぶことによって、適切な救急処置の手順を理解し、緊急性を判断するための的確な傷害評価の方法を身につけることを目的とする。救急処置の意義と目的を理解し、適切な救急処置の手順や基本的な留意点について理解できるようになるとともに、それ以上に大切だと考える「命の尊さ」を本授業を通じて理解を深めることを目標とする。スポーツ活動中の「選手生命」を守るだけでなく、「生命」そのものを守る意識を習得する。	
	ストレングス・コンディショニング論（応用）	スポーツの基本となる心身に対するストレングス・コンディショニングに関して、様々なトレーニングやアプローチに対する心身の適応及び、その機序を学習する。対象や目的に応じた適切なプログラムを作成するための基礎理論や各種スポーツにおける競技特性、現場への実践のための段階的プログラミングについても学習する。到達目標は、筋力、持久力、スピード、協調性などの各種トレーニングやアプローチ方法の理論について理解できるとともに、様々な対象者における目標と課題の設定に対する具体的なプログラム立案ができるようになることである。	
	スポーツ医学（内科）	スポーツ中に選手が命を失ってしまうことは、絶対にゼロにしなければならない。しかし、これはゼロに近づけることはできるが、ゼロにはならない事柄である。そのため、スポーツに関連するすべての人が、スポーツ医学（内科）を学び、不幸な事故を予防するための知識を学ぶ必要がある。心疾患による突然死、熱中症、アナフィラキシーショックなどは、重要な疾患である。また、スポーツを行う上で、女性アスリートの問題、スポーツ貧血、ドーピングなど、安心してスポーツを行う上で必要な知識を学ぶ。	
	アスレティックリハビリテーション実習2	スポーツ現場でアスレティックトレーナーに対して要求されるアスレティックリハビリテーションについて、具体的にプログラムの作成と指導を通して学習する。身体機能の評価プロセスにおける結果から抽出された問題点に対して、どのようなメニューを立案・実践するかがポイントとなる。到達目標は、抽出された問題点に対する具体的なアスレティックリハビリテーションおよびコンディショニングについてのプログラム計画の立案と実践ができるようになることである。現場でアスレティックリハビリテーションの指導ができる。アスレティックトレーナーとしてスポーツチームのコンディショニング計画を立てることができる。	実験 21.6時間 演習 9.2時間

専門 展開 科目	アスレティックリハビリテーション実習3	アスレティックトレーナーとしての活動をスポーツ現場で総合的に 行う実習である。様々なアスリートに対して、どのようにコンタク トを取り、アプローチをしていくか、アスレティックトレーナーと しての役割を円滑に進めていくための知識とスキルについて現場に おける実践の中から学習する。到達目標は、アスレティックトレー ナーとして現場でのあらゆるスポーツ外傷に的確に対応できるよう になるとともに、アスレティックトレーナーとしての役割（特に、 安全・コンディショニング、アスレティックリハビリテーション） を円滑に進められるようになることである。	実験 演習 21.6時間 9.2時間
	アスレティックリハビリテーション実習4	アスレティックトレーナーとしての活動をスポーツ現場で総合的に 行う実習である。スポーツ現場では、様々な場面に遭遇するが、発 生した事象に対して、冷静かつ迅速に行動するために、綿密なト レーナー活動を計画・遂行し、成果を客観的に分析できることが必 要である。到達目標は、スポーツ現場での事故発生時の救急処置の 対応フローチャートの作成・遂行ができるようになることととも に、アスレティックトレーナーとしての役割（特に、安全・健康管理お よびスポーツ外傷・障害の予防、救急対応）を円滑に進められるよ うになることである。	実験 演習 21.6時間 9.2時間
	運動障害と運動負荷試験	現在、高齢者が循環器疾患や呼吸器疾患に罹患した場合に、メディ カルチェックとして運動負荷試験が行われることがある。その運動 負荷試験についての知識および思考方法を習得する。また、スポ ーツの現場で起こりうる事故対応としての救急蘇生法や外科的処置に ついて習得する。本授業は健康運動指導士の資格科目であり、資 格習得に必要な知識を得るのに必要な専門的な知識を得るため のものである。また、健康に関する概論から、健康に関する基礎的 な医学を学ぶ。	
	スポーツ教材論	教師の教育実践において「教材研究」が重要な位置を占めることは 言うまでもない。また、教材研究の内実が実際の授業展開の方向 を左右するといっても過言ではない。そこで本授業では、教師が教 材研究を行なうとは何をどうすることなのか、またどのような教材 がよい授業に結びつくのかという教材の考え方とその方法について 学ぶ。具体的には、「教材とは何か」を明確にし、スポーツ教材研 究と授業設計を通して保健体育科の指導計画・学習指導・学習評価 について学ぶとともに、授業観察や模擬授業の実践・省察を通し て、体育科の学習指導の方法について学ぶ。	
	学校運動部指導論	学校運動指導に関わる知識や考察を深め、自分自身の「理想の指導 者像」の獲得を目指す。「どのような指導者が求められているの か」「どのような指導者でありたいか」について共に学び、考える 中で自分なりの指導者像を描き、運動部活動の指導のあり方とそ の方法について考究する。スポーツ指導者として、適切な人間関係 を結ぶためのコミュニケーション能力獲得の方法、指導現場で発生 する諸問題を適切に解決するためのスキルの獲得、選手を取り巻く 諸問題をマネジメントする能力の獲得や指導者として身につけてお かなければならないモラル等について学び、スポーツ指導に必要とな る基礎的な知見を身につけることをねらいとする。	
	スポーツ人類学	スポーツ人類学とは、人類学の手法を用いて、スポーツという現代 社会においては非常に大きな意味を有する文化を理解する学問であ る。そのため、人類学の中でも文化人類学と密接な繋がりを有して いる。ここで言う「スポーツ」とは、オリンピック・パラリンピッ クに頂点を見出すことのできる「近代スポーツ」にとどまらず、 種々の文化の中で継承され、それぞれが独自の身体技法やルールと いった文化的特徴を有している「民族スポーツ」や、ヨガや太極拳 など身体を動かす事を通して体を養うことから心を育むことまで も射程にいれる「養生法」、各地域でそれぞれの歴史を持つと同時 に文化的な特徴を有する「舞踊」なども検討の対象とし、スポーツ 人類学の視点と方法について考究する。	



専門展開科目	スポーツ工学演習	スポーツや日常生活における身体動作、ボールなどの用具の運動について、工学的手法を用いて計測・分析する技術を習得するとともに、分析結果をバイオメカニクスの・スポーツ工学的に解釈する知識を習得することを目的とする。スポーツ工学の講義とともに、光学式モーションキャプチャシステムを用いた動作計測、慣性センサーを用いた動作計測、弾道計測器でのボール運動計測、MATLABを用いた数値解析プログラミングによる解析、有限要素解析によるシミュレーションなど、テクノロジーを活用した計測・分析手法について学習する。	実験 21.6時間 演習 9.2時間
	スポーツ哲学	現代において、スポーツは、私たちの社会の中に深く根を下ろしている。その有用性は広く認められており、学校教育の中でも体育という教科においてスポーツは体系的に学習されている。また、運動会や体育祭では教科の枠を超え、学校における一大イベントとしてスポーツ実践がみられる。このように、私たちにとって、とても身近に感じられる「スポーツ」であるが、「スポーツ」とは、一体、何であるのだろうか。本講義では、「スポーツ」という現象を多角的に深く掘り下げて、スポーツのあるべき姿、意味・意義・価値などについて理解を深める。	
	スポーツデータ解析演習	スポーツパフォーマンスやウエルネスの向上を目指したデータ分析では、数値、写真、ビデオ、言葉による情報を含む様々なタイプのデータが用いられる。本演習では、主にスポーツ活動中の映像撮影から得られた画像データや、スポーツ活動中の動きや移動軌跡を全地球測位システム（GPS）などのデバイスで記録した座標データ、健康診断や体力測定で得られる各項目の数値などの、主に量的なデータの解析方法について理論と実践から学ぶ。	実験 21.6時間 演習 9.2時間
	スポーツビジネスコミュニケーション演習	ビジネスで必要となるコミュニケーション能力（情報収集・情報発信・文書作成能力・傾聴力など）を高めることを目的とする演習型講義。他人から情報を「引き出す」こと、情報が「伝わるように伝える」ことを実現するための思考法や方法論を学ぶ。「コミュニケーション力」「戦略的思考力」などビジネスシーンで求められるスキルを高めるとともに、自分自身の幸福を実現するためのキャリアに対する向き合い方についても考える。	

専門英語科目	Quantitative Research Methods in Sport and Exercise	<p>(英文)</p> <p>This course is designed to provide students with a foundation to understand quantitative research designs and measurement strategies, and their applications in the context of sport and exercise. Specifically, the course develops student's understandings of: the nature of the deductive research process, the use of scientific literature, the definition and evaluation of a research problem, hypothesis formation, scientific investigation and methods, and writing a research proposal. The course consists of lectures, tutorial, and practical sessions. By the end of the course, students should be able to achieve the followings in the context of quantitative research:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Systematically review and analyze research literature,</li> <li>2. Identify limitations of previous research,</li> <li>3. Formulate a scientific research problem and testable hypothesis,</li> <li>4. Identify different types of research tools available for investigating a clearly defined problem,</li> <li>5. Apply basic statistical techniques in a scientific investigation,</li> <li>6. Write a research proposal, and</li> <li>7. Understand ethics in experimental and survey research.</li> </ol> <p>(和訳)</p> <p>この授業は、定量的な研究デザインと測定戦略を理解し、スポーツと運動の文脈でそれらを応用するための基礎を学生に提供することを目的とする。具体的には、推論的研究プロセスの性質、科学文献の利用、研究問題の定義と評価、仮説の形成、科学的調査と方法、研究計画書の作成などの理解を深める。この授業は、講義、チュートリアル、実習で構成する。授業終了時には、量的研究の観点から以下のことができるようになっていることを期待する。1. 研究文献を体系的にレビューし、分析することができる。2. 先行研究の限界を明らかにする。3. 科学的な研究課題と検証可能な仮説を立てる。4. 明確に定義された問題を調査するために利用可能な様々なタイプの研究ツールを特定する。5. 科学的調査における基本的な統計技術を適用することができる。6. 研究計画書の作成する。7. 実験および調査研究における倫理を理解する。</p>	
	Reading and Comprehension in Sport and Wellness (Basic)	<p>(英文)</p> <p>Reading and comprehension are fundamental to writing and research. This course will introduce analytical and critical skills, which are particular to reading, comprehension and interpretation of English texts, and will equip students with the skills of analysis and response necessary to critical reading and understanding in English. In preparation for academic reading, the basic course will focus on a variety of general English texts and materials to strengthen vocabulary, to improve information processing in English and to give students exposure to different viewpoints and ideas in the field of sport and wellness.</p> <p>(和訳)</p> <p>読解力はライティングとリサーチに必要な不可欠のアカデミックスキルである。本科目では、学生がスポーツとウェルネスに関連する英語資料の「読解・理解・解釈」に必要な能力や分析のスキルを身につけるための学習を行う。ベーシックコースでは、アカデミックリーディングの準備として、英語の語彙を増やし、情報処理を改善し、また、スポーツとウェルネスの分野における多様な知見や考え方に触れるように、一般的な英語のテキストや資料を読解する。</p>	

専門英語科目	English Communication in Sport 1	<p>(英文) English language is not only just an important communication tool in the global world of sports today, but also offers greater opportunities to broaden the horizon about the various aspects of sport in an international context. This course covers a variety of areas and topics related to different sports, disciplines or events, to sport media coverage or any other sport-related information in English. Using rule books or guidelines, newspaper articles, visual materials, like TV programs, etc., students will build vocabulary, learn about unique expressions and phrases, and develop oral and written communication skills in English through sport. Lessons will be conducted in a highly communicative, interactive style, also including sport practice classes actually applying the English language.</p> <p>(和訳) 英語はグローバル化が進んでいるスポーツ界において、重要なコミュニケーションツールだけではなく、国際的な文脈でスポーツの多様な側面について視野を広げるためのツールでもある。本科目では、様々なスポーツ種目やイベント、スポーツメディアの報道、その他英語のスポーツ関連情報を教材とする。ルールブックやガイドライン、新聞記事、テレビ番組などのような映像資料を活用し、学生は英語の語彙を増やし、独特の表現や言い回しを学び、さらに、口頭および筆記のコミュニケーションスキルを身につける。授業は、実際に英語を使う実技も含め、実際の英語コミュニケーションを重視したスタイルで行われる。</p>	
	Introduction to Sport and Wellness Overseas	<p>(英文) Through lectures, group work on related topics, group presentation and discussion, students will learn about key issues and topics related to sport and wellness in foreign countries. By comparing them to the different forms of sport and wellness in Japan, students will explore various differences and/or similarities, and find out about the factors behind these issues. The aim is to develop a broad-based knowledge and understanding of the field of sport and wellness in an international context, while using the English language as an opportunity to also improve language proficiency and communication skills in English.</p> <p>(和訳) 講義に加えて、関連トピックに関するグループワークや、グループ発表およびディスカッションを通じて、学生は、海外のスポーツとウェルネスの分野におけるトピックや課題について幅広く学習する。また、日本におけるスポーツとウェルネスと比較することで、海外と日本との相違点や類似点を探り、これらの課題とその背景にある要因について考究する。本科目は、学生の英語能力とコミュニケーションスキルの向上にも注目しながら、国際的な文脈でスポーツとウェルネスの分野に関する幅広い知識と多様なトピックへの理解を深めることを目的とする。</p>	

専門英語科目	International Society and Sport	<p>(英文)</p> <p>The aim of this course is to deepen the understanding of sport in foreign countries with a social and cultural background different from Japan. Sport are regulated by society, therefore the functions of sport in society change as society changes. Students will explore sport in different countries, its various ways of thinking and the social and cultural factors behind, further acquiring the ability to analyse and discuss related issues in English.</p> <p>(和訳)</p> <p>本科目では、日本とは異なる社会的文化的背景をもつ海外におけるスポーツに関する理解を深めることを目標とする。スポーツは、社会によって規定され、社会の変化とともにそのあり方や考え方も変化していくと考えられる。海外におけるスポーツのあり方、スポーツに対する多様な考え方、その背景にある社会的文化的要素などについて学習するとともに、これらについて英語で議論する力を習得する。</p>	
	Comparative Sport Culture	<p>(英文)</p> <p>Sport is a universal human culture as well as a social phenomenon affecting and affected by society. Historically sport has appeared in various distinctive forms from more traditional to modern, from local to now increasingly globalized sport cultures. This course will focus on exploring the characteristics of various sport cultures from a global perspective and aims to develop knowledge about the cultural and social factors behind. Students will deepen understanding about a wide range of ideas about sport and its diverse values by analyzing and discussing current topics about sport in different countries.</p> <p>(和訳)</p> <p>スポーツは世界共通の人類の文化であり、また、社会に影響を与えると同時に社会から影響を受ける社会的現象でもある。歴史的にスポーツは、より伝統的なものから現代的なものまで、よりローカルなものから今や益々グローバル化するスポーツまで、現在まで様々な形で現れてきた文化である。本科目では、グローバルな視点から多様なスポーツ文化の特徴を探求することに焦点を当てながら、その背景にある文化的社会的要因を考究することを目的とする。以上を踏まえ、学生は、様々な国々のスポーツ文化に関するトピックについて分析や議論をし、幅広い視点からスポーツとその多様な価値に関する理解を深めていく。</p>	

専門英語科目	Motivational Psychology in Sports and Exercise	<p>(英文) Physical inactivity is a major non-communicable disease worldwide. The significant benefits of regular physical activity to physical and psychological health have been shown. However, many people do not participate in physical activity at all or drop out of participating in sport or exercise shortly. It is important for coaches, educators, and health promoters to understand how to motivate others to participate in sport or exercise and support them in enjoying their activities. This course is designed to provide students with key concepts of motivation strategies in sport and exercise settings. Students will be introduced to major contemporary human motivation theories. The course consists of lectures, tutorial, and practical sessions. By the end of the course, students should be able to:1. Understand major aspects of contemporary motivation theories,2. Explain the relationships among the key constructs of the motivational theories,3. Propose intervention strategies to motivate others in sport and exercise settings, and 4. Evaluate the effectiveness of the</p> <p>(和訳) 身体不活動は、世界中で主要となっている非伝染性疾患である。定期的に身体活動を行うことで、身体的・心理的な健康に大きな効果があることがわかっているが、多くの人は身体活動に全く参加しないか、スポーツや運動への参加を短期間でやめてしまう。コーチや教育者、健康運動指導者にとって、スポーツや運動への参加意欲を高め、活動を楽しむためのサポート方法を理解することは重要である。この授業では、スポーツやエクササイズの現場におけるモチベーション戦略の重要なコンセプトを学ぶことを目的とする。また、現代の主な人間のモチベーション理論を紹介する。この授業は、講義、チュートリアル、実習で構成する。授業終了時には、次に挙げることができるようになっていくことを期待する。1. 現代のモチベーション理論の主要な側面を理解する、2.モチベーション理論の主要な構成要素間の関係を説明する、3. スポーツやエクササイズの中で他者を動機付けるための介入戦略を提案する、4. 提案された効果を評価する。提案された介入戦略の有効性を評価することができる。</p>	
	Reading and Comprehension in Sport and Wellness (Advanced)	<p>(英文) Reading and comprehension are fundamental to writing and research. This course will introduce analytical and critical skills, which are particular to reading, comprehension and interpretation of English texts, and will equip students with the skills of analysis and response necessary to critical reading and understanding in English. In the advanced course students will read, analyze and interpret scientific articles to get familiar with the unique terminology in academic literature and to develop knowledge and understanding of key concepts and theoretical approaches in the field of sport and wellness.</p> <p>(和訳) 読解力はライティングとリサーチに必要不可欠のアカデミックスキルである。本科目では、学生がスポーツとウエルネスに関連する英語資料の「読解・理解・解釈」に必要な能力や分析のスキルを身につけるための学習を行う。アドバンストコースで学生は、独自の学術用語に精通し、スポーツとウエルネスの分野における主な概念や理論的アプローチへの理解を深めるために、学術論文を読解・分析・解釈する。</p>	

専門英語科目	English Communication in Sport 2	<p>(英文) English language is not only just an important communication tool in the global world of sports today, but also offers greater opportunities to broaden the horizon about the various aspects of sport in an international context. This course covers a variety of areas and topics related to different sports, disciplines or events, to sport media coverage or any other sport-related information in English. Using rule books or guidelines, newspaper articles, visual materials, like TV programs, etc., students will build vocabulary, learn about unique expressions and phrases, and develop oral and written communication skills in English through sport. Lessons will be conducted in a highly communicative, interactive style, also including sport practice classes actually applying the English language.</p> <p>(和訳) 英語はグローバル化が進んでいるスポーツ界において、重要なコミュニケーションツールだけではなく、国際的な文脈でスポーツの多様な側面について視野を広げるためのツールでもある。本科目では、様々なスポーツ種目やイベント、スポーツメディアの報道、その他英語のスポーツ関連情報を教材とする。ルールブックやガイドライン、新聞記事、テレビ番組などのような映像資料を活用し、学生は英語の語彙を増やし、独特の表現や言い回しを学び、さらに、口頭および筆記のコミュニケーションスキルを身につける。授業は、実際に英語を使う実技も含め、実際の英語コミュニケーションを重視したスタイルで行われる。</p>	
	English for Future Careers in Sport and Wellness	<p>(英文) This course is designed to offer students an opportunity to study a variety of potential careers in the field of sport and wellness from a global perspective. Mainly through active learning methods, students will investigate possible future employment in the related field, find out about probable working contents and finally try to figure out what kind of language skills, knowledge or other abilities would be necessary in the certain professions. The aim is to acquire a set of transferable skills for future employment and enhance prospects for employability in the field of sport and wellness.</p> <p>(和訳) 本科目は、学生にグローバルな視点からスポーツとウエルネスの関連分野におけるキャリアを研究する機会を提供するように設計されている。主にアクティブラーニングの方法を通じて、学生は、将来の就職の可能性を調査し、それらの仕事内容について考え、また、その仕事でどのような言語能力や知識、その他のスキルが必要となるかについて理解を深める。主に英語で行われる以上の学習を通して、将来の雇用のために必要なスキルや能力を習得し、スポーツとウエルネスの関連分野でのエンプロイアビリティの見通しを少しでも高めることを目的とする。</p>	

	Contemporary Issues in Global Sports	<p>(英文) The aim of this course is to introduce students to some of the key issues and contemporary debates that are relevant to sport nowadays in its complex, increasingly globalized environment. Through lectures, project learning on related topics as well as sharing and discussing the findings in English, students will develop not only a critical understanding of contemporary global issues within sport, but also improve language proficiency and communication skills in English.</p> <p>(和訳) 本科目は、益々グローバル化する複雑な環境にあるスポーツと関連する主な課題や問題点について考究することを目的とする。様々なテーマに関する講義に加え、学生による調べ学習と調査結果についての発表および議論を通じて、学生はスポーツにおける現代的課題や問題点について理解を深めるだけでなく、英語能力と英語のコミュニケーションスキルを向上させる。</p>	
専門英語科目	Psychology of Well-Functioning and Performance	<p>(英文) This course is designed to provide students with fundamental knowledge and skills to promote optimal functioning and performance from a biopsychosocial perspective. The focus of this course is on theory, research and practices in sport and performance psychology. Students will be introduced to psychological theories and approaches that could be used to enhance well-functioning, performance, and personal growth across lifespan (from children to older adults) through sport and exercise participation. The course consists of lectures, tutorial, and practical sessions. After learning the fundamental knowledge of biopsychosocial models and skills, students will be required to apply them through practical individual and group tasks in this course. By the end of the course, students should be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Understand biopsychosocial models in applied sport and performance psychology,</li> <li>2. Understand the key constructs and their relationship for performance enhancement,</li> <li>3. Apply the theoretical knowledge to improve their own functioning and performance,</li> <li>4. Propose intervention strategies to assist other's functioning and performance, and</li> <li>5. Evaluate the effectiveness of the proposed intervention strategies.</li> </ol> <p>(和訳) この授業は、生物心理社会的観点から最適な機能とパフォーマンスを促進するための基本的な知識とスキルを学生に提供することを目的としている。この授業では、スポーツおよびパフォーマンス心理学の理論、研究、実践に焦点を当てる。この授業では、スポーツや運動への参加を通じて、生涯（子どもから高齢者まで）にわたって、機能やパフォーマンス、個人の成長を高めるために使用できる心理学の理論やアプローチを紹介する。この授業は、講義、チュートリアル、実習で構成する。本授業では、生物心理社会的モデルの基本的な知識とスキルを学んだ後、個人やグループでの実践的な課題を通して、それらを応用することを求める。授業終了時には、受講生は以下のことができるようになっていることを期待する。 1. 応用スポーツ・パフォーマンス心理学における生物心理社会的モデルを理解する。 2. パフォーマンス向上のための重要な構成要素とその関係を理解する。 3. 自分の機能やパフォーマンスを向上させるために、理論的知識を応用することができる。 4. 他者の機能やパフォーマンスを支援するための介入戦略を提案することができる。 5. 提案された介入戦略の有効性を評価することができる。</p>	

自由科目	心理学 1	心理学は、人の行動とその背後にある心理過程を理解することを旨とする学問である。本講義では、その中でも、人の発達のプロセス（対人関係や人格形成、認知の発達など）、他者や集団との関わりに影響する要因、そして、対人援助のアプローチについて取り上げながら、他者をどのように理解し、関わるかについて、学んでいく。人はどのように生まれ、育ち、その死を迎えるのかについて、主に発達心理学の観点から講義する。生涯発達の観点から人の一生を概観する。ひとの一生を「誕生期」「乳児期」「幼児期」「青年期」「成人期」「老人期」「死」といった各発達段階を追って検討しつつ、アタッチメント、あそび、共感性、死の受容など、テーマにそって議論を深めることを通して、心理学における基礎的な知識の習得を目指す。	
	心理学 2	「人となり」や「心理的問題の理解と支援」について、心理学の基礎的な知識を身につけ、それらを生活の中で実践的に活かすことを目標とする。「人となり」といえるパーソナリティを、心理学ではどのように捉えているのか、その諸理論について様々な心理学分野の知見に触れながら学ぶ。そして、パーソナリティの発達の諸相、パーソナリティの偏りについての理解を深める。続いて、身近な心理的問題について、その理解と支援を臨床心理学の知見から学ぶ。	
	生涯学習概論 1	生涯学習や社会教育についての基礎的な知識を身につけるとともに、生涯学習や社会教育の現場に携わる者としての自覚と態度を養う。生涯学習の理念や歴史、理論、制度など生涯学習をめぐる基礎的な事項を概括するとともに、人々の多様な教育・学習活動やそれを支える施設、団体などについて具体的な事例を用いて講義を行う。また、受講生自身が生涯学習・社会教育の事例について調査研究し、そのレポート発表を行う。	
	生涯学習概論 2	生涯学習や社会教育についての基礎的な知識を身につけるとともに、生涯学習や社会教育の現場に携わる者としての自覚と態度を養う。生涯学習概論 1 での基礎的な学習を踏まえ、生涯学習について実践的な観点から検討を行う。現代においては、各ライフステージや社会的に置かれている立場によって、様々な学習課題が生じる。その社会的背景について解説した上で、課題解決を目指した教育・学習活動の実践について、具体的な事例を用いて講義を行う。本講義では主に、「子ども」「子育て」及び「高齢者」に関する課題を取り扱う。また、受講生自身が関心ある社会的課題について、生涯学習・社会教育の視点から調査研究を行い、そのレポート発表を行う。	
	生涯学習支援論 1	「人生100年時代」と言われる現代は、今までのライフスタイルは通用しない時代でもある。新型コロナウイルス感染症との共存を始め、変化の激しい現代社会にあって、多様な課題に直面する学習者の特性や必要性に応じた学習支援が求められている。本授業では、生涯学習支援を受ける「学習者」側に焦点を当てて、多様な学習者の抱える問題を相対化して認識できる力を養うこと、しょうがい者や外国人、女性、性的マイノリティらによる諸活動（社会運動・教育／学習活動）の成立と展開の原理を学ぶことを目的として授業をすすめる。学習者の多様な特性と参加型学習・ファシリテーション技法を意識しながら、生涯学習に関わる諸理論を説明できるようにすることを目標とする。	
	生涯学習支援論 2	「人生100年時代」と言われる現代は、今までのライフスタイルは通用しない時代でもある。新型コロナウイルス感染症との共存を始め、変化の激しい現代社会にあって、多様な課題に直面する学習者の特性や必要性に応じた学習支援が求められている。本授業は、生涯学習支援に関わる「教育者」・「学習支援者」側に焦点を当て、多様な学習者に対して効果的な学習支援アプローチを選択する力を養うことを目的とする。学習者の多様な特性と参加型学習・ファシリテーション技法を意識しながら、地域の課題解決や地域の活性化につながる学習プログラムを作成できるようにすることを目標とする。	



自由科目	社会教育経営論 1	<p>課題が多様化、複雑化する現代社会において、人々の暮らしにいきがいをもたらす、生活の拠点である地域をより豊かにしていく可能性を持つ社会教育。その可能性を現実のものとしていくためには、戦略的経営の視点から社会教育行政のあり様を再検討することが不可欠である。多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図ることを目的として、社会教育行政と地域活性化、社会教育行政の経営戦略、学習課題の把握と広報戦略、社会教育における地域人材の育成、学習成果の評価と活用の実際、社会教育を推進する地域ネットワークの形成、社会教育施設の経営戦略等を修得することを目的とする。</p>	
	社会教育経営論 2	<p>課題が多様化、複雑化する現代社会において、人々の暮らしにいきがいをもたらす、生活の拠点である地域をより豊かにしていく可能性を持つ社会教育。その可能性を現実のものとしていくためには、戦略的経営の視点から社会教育行政のあり様を再検討することが不可欠である。多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図ることを目的として、社会教育行政と地域活性化、社会教育行政の経営戦略、学習課題の把握と広報戦略、社会教育における地域人材の育成、学習成果の評価と活用の実際、社会教育を推進する地域ネットワークの形成、社会教育施設の経営戦略等を修得することを目的とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(全学共通科目)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 総合系科目 の 精 神	世界史の中のキリスト教	講師は、歴史学者ではなく説話学者である。この場合、実際の講義内容は、おそらく「世界史の中のキリスト教」よりも、むしろ「キリスト教の中の世界史」となるであろう。問題は、「キリスト教が、どう世界史に出現するか」ではなく、「世界史を、どうキリスト教は表現するか」である。 そもそも、「キリスト教」とは何か。また「世界史」（あるいは「世界」「歴史」）とは何か。 今のところ、講師に定見はない。この際、受講者の皆様の提案を待つ。	
	世界史の中のキリスト教	世界史及びアジア史との関連を意識しながら、伝来当初から明治初期までの日本キリスト教の特徴と意義を考える。講義に合わせて、(英文のものを含む) 文献の批判的な解読を行う。この研究領域で使用される学術用語の理解の深化に特に力を入れる。学んだ歴史事情を映画・ドキュメンタリーを通して再確認する。 基本的に講義形式で進めるが、場合によっては授業内での文献講読、グループ・ワーク、討論も行う。	
	世界史の中のキリスト教	イエスという名の一人の男の活動と死から誕生したキリスト教が、今に至るまで大きな影響を与え続けてきたのはなぜか。 これについて、その前史である古代イスラエル史、イエスの活動、聖書の成立、および神学思想の展開を辿りつつ、世界史的展望の中で考察する。	
	世界史の中のキリスト教	日本におけるキリスト教の歴史を世界史・アジア史のなかで捉え、日本で受容されたキリスト教の展開とその地域的・時代的特徴を理解すること。	
	思想を生み出すキリスト教	2世紀から5世紀までの時代において、代表的な5人のキリスト教思想家の生涯、著作、思想を紹介する。またこの時代のキリスト教思想において重要なテーマであるキリスト論、三位一体論について、思想家それぞれの理解の特色を明らかにし、相互に比較する。	
	思想を生み出すキリスト教	イエスの山上の説教をいくつかの単元に区切って、それぞれを伝承史的に分析し、宗教史的な背景を踏まえつつ積義した上で、その意味内容に関する解釈学的な考察を行う。	
	思想を生み出すキリスト教	キリスト教とは何かという根本問題に触れながら、サブタイトルおよび目標にあるように、テキストを通じて、人間の尊厳、人格、自由をめぐる根本的かつ現代的問題への沈潜してゆく。	
	思想を生み出すキリスト教	チャールズ・テイラー『世俗の時代』（2007）の議論に依拠して、「世俗化」とその周辺の概念について検討する。テイラーは、同書において、合理的な思考や科学の発展により宗教的信仰が不可逆的に論駁されたのだとする歴史理解に異を唱える。本講義では、支配的な世俗化の物語に対抗してテイラーが提示する批判的論点の数々を確認し、キリスト教の思想と実践に生じた歴史的変容が、いかにして今日の「世俗の時代」を生み出すことになったのかを学ぶ。	
	美術の中のキリスト教	キリスト教美術は、キリスト教それ自体から遅れて2世紀末から3世紀初頭にローマ美術の範疇の中で誕生する。本講義では、キリスト教の誕生と発展の経緯をたどりながら、キリスト教美術が誕生期にどのように変化して行ったのか考察する。具体的にはカタコンベや石棺浮彫、初期の教会堂建築とその装飾を扱うが、その背景にあるローマ社会の状況、キリスト教思想の変化にも重点を置く。	

全学共通科目の精神系科目	美術の中のキリスト教	ヨーロッパ芸術の近代は、15・16世紀のイタリア＝ルネサンスに始まる。それ以前の中世芸術は、ルネサンス人によって「ゴシック（ゲルマン民族の一派「ゴート族」の形容詞）」と蔑称された。狭義には13-15世紀のヨーロッパ芸術を指す概念であるゴシックは、広義には古典的な形体に対する野蛮、地中海文化に対する北方（アルプス以北）の異民族文化、ギリシア・ローマの古代芸術にあらざる中世ヨーロッパ芸術を意味するものと解釈された。古典古代（ギリシア・ローマ）文化の「再生」を意味するルネサンスと北方ヨーロッパ発祥のゴシックは、どのような芸術概念であり、どのような芸術形体であるのか——。芸術史（建築・彫刻・絵画）の展開を追いながら、二つの芸術様式的美、作用と反作用、総合と矛盾について考察する。	
	美術の中のキリスト教	古代地中海世界から中世ヨーロッパへの発展をたどりながら、そこで誕生したキリスト教美術の歴史について講ずる。古代ギリシア・ローマ文化と北方のゲルマン系諸民族の造形的伝統から、いかにして新たな中世キリスト教美術が形成されていったのか、当時の代表作を鑑賞しながら、それらが社会に果たした役割と造形的特徴について多角的な理解を深める。 本プログラムでは、ゲストスピーカーを招聘した特別授業も計画中であるため、各回の内容については多少変更の可能性はある。	
	美術の中のキリスト教	ヨーロッパにおいてキリスト教が発展してゆく段階で、美術作品は芸術表現としてのみならず、キリスト教の布教の手段としても重要な役割を帯びることになりました。本講義ではイタリアのルネサンス・バロック期を中心とするキリスト教美術の代表的な作例を紹介し、その表現と主題の結びつきについて考えていきます。同時にキリスト教をめぐる歴史的事象についても触れ、イタリアを中心とするヨーロッパの歴史・文化に関する理解を深めることをめざします。	
	音楽の中のキリスト教	中世から現代に至るまで、教会を含む西洋キリスト教社会においては、何らかの形の音楽が求められていた。また、音楽家にとってもキリスト教はその創作の源ともなり、多くの作品が生み出されてきた。本講義では、キリスト教と音楽の展開を歴史的にたどり、それらの関わりを考察する。音楽作品の成立背景、礼拝や神学的内容と音楽表現や楽曲構造との関連など、具体的な楽曲分析を通し各時代の音楽の特徴を紹介する。いわゆる宗教音楽のみではなく、キリスト教と係わりのある楽曲、オペラや器楽曲なども取り上げ、西洋音楽全般への理解を深める一助としたい。	
	音楽の中のキリスト教	西洋音楽の歴史におけるキリスト教との関わりと、そこから生まれた多様な作品を理解し、それらに親しむ。	
	文学を生み出すキリスト教	我が国でもよく知られた作品を取り上げます。 1. 作者がキリスト者ではないがキリスト教的モチーフが見られるもの、 2. 作者がキリスト者でありながら「キリスト教文学」とは広く認識されていないもの、 3. 作者がキリスト者であり「キリスト教文学」と呼ばれているもの。 これらを取り上げ、作品の背景を確認するとともに、作品の名言、聖書の引用、キリスト教的モチーフを見出す試みを行います。	
	文学を生み出すキリスト教	文学的な作品を読みながら、そこに含まれているキリスト教的な背景について説明していく。作品と対照させて聖書の言葉を確認する。また文学において重要なのは、登場人物に托された人間の微妙な心理であるから、その心理を汲み取ることに努めたい。そしてその人間の心理をとおして私たち自身の心の在り方を反省していきたい。	
	文学を生み出すキリスト教	児童文学ファンタジーは、キリスト教文化の影響を強く受けている。様々な物語の中にキリスト教的な主題を見て取ることが出来る。本講義では文学と宗教の関係を広くとらえ、現代でも親しまれている童話や児童文学の宗教的テーマや文化的背景としてのキリスト教とその変容から魔女の誕生や死と再生のモチーフを読み解く。	

全学共通科目の精神系科目	国際社会の中の宗教	現在の世界人口のうち、半分以上が一神教（ユダヤ教、キリスト教、イスラーム）の信者である。国際社会において、これらの一神教を基盤とした異文化に属する人々と、今後益々接する機会が増加する我々日本人は、好むと好まざるとに関らずこうした宗教を信じる人々について理解する必要に迫られている。この授業では、一神教のうち、特に一般の日本人が最近まで関りを持つ機会が少なかったユダヤ教とイスラームを中心に、その思想と歴史及び現代的意義について紹介する。	
	国際社会の中の宗教	国際社会の中の宗教をめぐる課題や問題点（宗教の社会貢献や公共における宗教的中立性など）について、具体例の検証などを通じて学習・理解を深める。	
	国際社会の中の宗教	この授業では、「グローバル化する国際社会における宗教」という主題を考える上で必要な基本的な事柄を学んでいく。まず、グローバルゼーションとは何か、宗教とは何かという根本的な問いを考えることから始める。そして、政教分離という要件を含んだ近代になって現れる宗教教育という現象に焦点を当て、この問題の歴史の変遷、地域的バリエーション等を検討していく。このような知識を踏まえた上で、ドイツ、日本における状況を事例として、受講者とともに考えていく。	
	国際社会の中の宗教	本授業では、まず、イスラーム成立の歴史的経緯と基本教義、聖典クルアーンといった基本的な事柄を学習する。その上で、イスラームの信仰に基づく諸実践について検討する。さらに、世界各地で実際に起きた事件を取り上げて考察する。日々の報道にも目を配りながら、現代国際社会におけるイスラームの在り方を捉えていく。	
	現代社会の中の宗教1	この授業では、現代社会において「安楽死に関する問題」「性的少数者に関する問題」「日本の象徴天皇制に関する問題」は、大きく変化していることを学びます。さらにそれらの問題について、キリスト教はどのように向き合っているのかを学びます。グループ討論を活発に行ないます。この授業の終了時には、学生は自分の見解を理論化できるようにします。	
	現代社会の中の宗教1	「生殖医療」の実状や「生殖技術」の実態を学び、その根柢にある人間理解を検討する。この作業を通して、わたしたちの社会の内や自身の中にある「いのち」や「人間」についての価値観を掘り起こして問い直し、あるべき社会の姿とその社会形成への参与を模索する。筆記試験の他に、複数回の小レポート提出を課す。	
	現代社会の中の宗教1	倫理／生命倫理において問われる問題、特に「わたし」「われわれ」「いのち」といった問題は、それを語る自分自身が問われてくる問題でもある。本授業では、先ず、そういった問題について、幾つかの倫理／生命倫理的テーマを扱うことによって確認・検討を行う。その上で、そこで確認・検討した問題に対して、幾人かの哲学者・思想家の見解を確認・検討・参照し、その者たちが語ろうとしているところ—それは〈宗教の源泉〉を感じさせるものであったりする—からどのように向き合っていけるのか、そして「わたし」「われわれ」「いのち」はどのようなあり様をしているのかといったことを考究していく。 なお、理解を深めるために、映像資料も用いるつもりである。（グループに分かれてディスカッションをしてもらうことも考えている。）また、授業後に毎回コメントを提出してもらうが、そのコメントペーパーは匿名化した上で皆で共有し、より多くの意見を知ることによって見識を広めてもらうつもりである。 なお、提出してもらったコメントへ応答をしつつ授業を進めていくつもりであるため、受講者の関心や社会状況などに応じて、授業の進行や扱うテーマも適宜調整する予定である。	

全学 共通 科目 の 目 録 精 神 系 科 目	現代社会の中の宗教2	自らを無宗教とする人が多い一方で、初詣参拝やおみくじ、さらには古いに熱心であるのが現代日本社会の様相である。こうした一見矛盾に見える事象を私たちはどのように理解すればよいのだろうか。日本の宗教とその歴史、宗教学という学問、さらには生と死について多様な見解をみていくなかで深めていくなかでともに考えていきたい。こうした主題に加えて、本講義では、宗教学を構成するいくつかのディシプリンを概観しながら、学術的に宗教について考察を深めるということがどのようなことなのかをみていく。最後に、「世俗化」あるいは「ポスト世俗化」というテーマに光をあて、現代における宗教の意義を確認する。本授業では、島菌他編『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）を毎週、3-5章ずつ読み、その内容に即した講義を行う。コメントペーパーの課題等を通して、現代社会における宗教の理解を深めていく。	
	現代社会の中の宗教2	特定の宗教の是非を論じることや、個々の時事問題を扱うことはしない。すべての（真正な）宗教に通底している「宗教性」、あるいは「いのち」に対する感覚に注目しながら、現代社会の全体的な傾向・時代精神と関連づけて、いくつかの文学作品・哲学思想を読み解いていく。	
	現代社会の中の宗教2	宗教学または宗教社会学における世俗化論の変遷をたどることで、近現代社会において「宗教」に与えられてきた定義、期待される社会的な役割・機能、またその政治的・制度的な位置づけ等について検討する。また、こうした学問的な議論が蓄積されていくなかで、「宗教」の概念そのものがどのような仕方に変容してきたかに注目する。	
	現代社会の中の宗教2	オウム真理教の事件（1995年）の実相を、マスコミやネットなどの情報だけに頼らずに知る。また、このような事件を生み出してしまった社会のありかたを問うことによって、受講者が現代日本の社会のありかたとその中で自分自身の生き方について考えること。	
	人文学からの学び（文学）	本講義では、我々は文学と歴史の関係について分析・考察する。より正確には、文学のなかで描写された歴史と、それらの作品の歴史的背景との関係を考える。まず作品に描写された様々な分野の歴史（の断片）について精読し、次に取り上げた作品を現実の歴史のコンテキストに当てはめて俯瞰する。このようにして毎回の講義で、文学と歴史の錯綜した関係を解きほぐしていく。	
	人文学からの学び（文学）	本授業では、アメリカ先住インディアンへのイメージの系譜をたどるため、植民地時代以降の多様な文献を取りあげます。それらは文学テキストだけでなく、絵画や報告書も含まれます。なお、予備知識は不要ですが、指定された予習復習を熱心に行うことが求められます。	
	人文学からの学び（文学）	人文学的な営みを概観することで、知的活動についてのメタ思考を磨く。	
	人文学からの学び（文学）	本講義では、近代以降の「小説」概念の形成について概観し、いくつかの作品を取りあげて分析する。学生は、授業内で提示された作品を読んだ上で出席し、リアクションペーパーを提出することによって、自ら問いを立てる姿勢を身に付けることを目指す。	
	人文学からの学び（文学）	本講義では作品、作家、メディア、時代といった様々な観点から探偵小説の歴史を考察していく。その際には同時代の社会的状況や文学的動向をもあわせて確認していくことで、社会史・文学史における探偵小説ジャンルの位置についても考えてみたい。毎講義終了後にはリアクションペーパーを書いてもらう。なお授業の内容や計画は修正することがある。	
人文学からの学び（思想・教育）	誰でも幸福を望む。けれど、幸福に到達しようとしながら不幸になってしまう人もある。哲学における幸福論の系譜は「幸福」の定義の困難さを示している。本講義においては、哲学史および小説から幾つかの「幸福」に関する分析を取り上げる。		

全学共通科目 の精神 総合系科目	人文学からの学び (思想・教育)	本授業では、西洋哲学の歴史の中で、生命がどのように理解されてきたのかを講じる。 古代ギリシアの思想から出発して、生命をめぐる知の枠組みがその後どのように継承され、あるいは変更されていったのかを辿り、生命にかんする人間の理解が、時代状況や科学的発見にどの程度依存しているのか、またいかなる時代においても普遍的に妥当する生命にかんする共通の認識が存在するのかどうかを検討する。 キリスト教思想に代表されるような、身体(肉)から解放された精神(霊)の生としての「真実の生」ないし「善き生」と、胎児の心臓の鼓動に感じられる「生命」とのあいだには、両者をともに「生」と言わしめる共通の何かは存在するのだろうか。また、私たち自身や、道端で出会われるあの猫やこの小鳥、その紫陽花などの個々の具体的な「生物」を、すべて含みこみ育てているような「生命」という大きな力のようなものが存在するのだろうか。生命にかんする多くの論点からいくつかのものをとりあげ、哲学の歴史を踏まえながら検討していく。	
	人文学からの学び (思想・教育)	想像力をめぐる思想史の概観を得た上で、現代社会の諸問題を想像力の観点から考えることができる契機とする。	
	人文学からの学び(史学)	軍事、外交、ナショナリズム、食品・衣料品産業、観光、家事労働など、世界の多様な局面でジェンダー(「女性」と「男性」の関係)が不可欠な役割を果たしてきたことを、講義形式で学んでいきます。本講義は国際政治の舞台で脚光を浴びる高位の女性の歴史を取り上げるものではありませんし、女性にのみ注目するものでもありません。(女性および男性の)兵士、移民、労働者といった一般の人々の日常生活と国際政治の間の密接な関連を考察していきます。	
	人文学からの学び(史学)	この講義では、高等学校の世界史Bにおける「古代ローマ史」の叙述からいくつかのテーマを取り上げて、その叙述が立脚する史資料やそれをめぐる議論、教科書の叙述とは別の解釈を紹介する。これらを通じて、古代ローマ史を多角的に検討するとともに、「歴史学」という学問のあり方にも触れたい。	
	人文学からの学び (史学)	日本中世史上の著名な戦争と戦争にいたる政治史の歴史学的な検討を通じて、歴史を正確に把握するための方法論を身につけることを目標とする。	
	芸術への扉	西洋芸術音楽、いわゆるクラシック音楽の歴史を便宜上区分し、各々の時代を代表するテーマを中心に学ぶ。対象が音楽であるから、視聴覚資料を可能な限り利用するが、いわゆる音楽鑑賞が目的ではないことに留意。	
	芸術への扉	西洋美術を中心として、様式論、図像学などの古くからある研究方法から、美術と社会の関係、視像と言語の関係を経て、精神分析学、ジェンダー研究、ポスト・コロニアリズムといった新たな視座に基づく研究まで、大学において美術を研究するための展望を、主要な研究者を紹介し、方法論の解説と作品分析に基づく個別研究によって提示する。	
	芸術への扉	本授業は、「芸術とは何か」「作品の正しい鑑賞法は存在するか」「芸術は何の役に立つのか」「どうすれば創造性を獲得できるのか」といった問いを参加者に投げかけ、参加者と共に、また先達たちと共に、これらの問題を考えていこうとするものです。言い換えれば、本授業は、たとえば絵画や音楽の鑑賞法を知識として伝授するものではなく、芸術にかんする常識や自分なりの理解を批判的にとらえ直す機会を提供し、参加者を哲学的思索の快楽へといざなうことを目指しています。授業では文献資料および視聴覚資料をもちいます(詳細は初回の授業で説明します)。	
芸術への扉	18世紀から20世紀の間にオーストリア、イタリア、ドイツで生み出されたオペラ作品を題材に、時代背景との関わりや、台本とその原作、作曲技法の変化、そして演出家の解釈など、総合芸術であるオペラならではの諸相を読み解く。		

全学共通科目 総合系科目 の 精神	グローバル経済社会 を考える	グローバル化が進むなかであって、私たちは否応なしにその恩恵と弊害を受けざるを得ない。とりわけそれを経済の分野に限定すると、財の取引（貿易）やカネの取引（資本取引）、人の移動が大規模かつ頻繁になることで、私たちの生活は大きく変わってきた。講義ではグローバル経済のもとでの財とカネの動き、とくに国際的な資金の移動に焦点を当てながら、グローバル経済の進展による国民生活の変化や国際協調・経済政策の展開について考えていく。	
	グローバル経済社会 を考える	今日のヨーロッパ諸国は、GDPの観点からはアメリカ合衆国や中国と比べて大国とは言えません。しかしそれでもなお、ヨーロッパ経済は学ぶべきところの多いモデルとされることがあります。この授業では、基礎的な知識を修得しながら、現在のヨーロッパ経済の諸特徴がどのように形成されたのかを学びます。そのためには、地理と歴史のアプローチが有効です。注意すべきは、ヨーロッパは多様であり、経済の特徴は地域によって大きく異なっているという点です。そのため、ヨーロッパには「諸経済」が存在して全体を形づくっていると考えなくてはなりません。この授業では、西欧、中東欧、南欧、北欧の4区分を設けます。	
	グローバル経済社会 を考える	世界経済は、複雑かつ多様であり、幅広い論点を含んでいる。本授業では、このような世界経済を、総合的かつ体系的に分析することを目指す。とくに、一国経済と世界経済をつなぐモノ・カネ・ヒトの移動、および、各国・地域の経済動向に焦点を当てる。	
	グローバル経済社会を 考える	グローバル経済社会の基本的構造と最新の展開について、近年話題のSDGsを通して学ぶ。国際政治経済学の知見を活用し、グローバル経済に関するニュースについて基礎的な見解が持てるようになることが目標である。	
	社会学からの学び	20世紀以降、社会は大きな発展を遂げてきた。しかし同時に、急激な近代化・国際化は、我々が「当然」と見なす社会生活に大きな変化を迫るものでもあった。では、今日の社会はいかに形作られてきたのか。本授業では、文化の変容に焦点を当て、現代社会のあり方について理解を深めていく。	
	学びの場としての社会	社会学とは、ごく単純に言えば、社会の中に生じる様々な現象（社会現象、社会的事実）を対象に、その成り立ちやメカニズムを説明しようとする学問である。私たちが日々経験している現象—それは例えば、「恋愛」であったり、「家族」であったり、「コミュニティ」であったり、あるいは「社会的不平等」などであったりするが—は、なぜ、いかにしてそのようなものとして私たちの前に現れるのか。社会学は、そうした社会現象の成り立ちに、改めて論理的な説明を与えるものである。この授業では、こうした社会現象の成り立ちを説明する社会学の考え方および基礎理論、調査法などの概要について学習する。	
	社会学からの学び	20世紀以降、社会は大きな発展を遂げてきた。しかし同時に、急激な近代化・国際化は、我々が「当然」と見なす社会生活に大きな変化を迫るものでもあった。では、今日の社会はいかに形作られてきたのか。本授業では、文化の変容に焦点を当て、現代社会のあり方について理解を深めていく。	
	メディアからみる学び	自然災害から生命の安全や人々の財産を守り、将来の人々への教訓を伝える必要があっても、その方法が大きく対立することがあります。また、社会にとって必要であっても、自分の居住地域では拒絶する社会問題（NIMBY: Not In My Back Yard）は数多く存在します。本講義では、そうした事例について問題提起したドキュメンタリー等を視聴します。そして、チャット機能を通して履修者の意見や感想、質問等を収集して、それを匿名で紹介しながら、議論を進めていきます。	

全学共通科目 総合系科目 精神	法と政治の世界	政治を理解しようとするには様々なやり方があるが、政治制度を知るといえるのは一つの重要な方法だろう。主要国、なかんづく我が国の制度は社会に出て必須となる基本的知識といえる。議院内閣制や大統領制、小選挙区制や比例代表制といった制度を各国は組み合わせているが、運用の仕方が異なり、一様ではない。本講義では主要国の制度を踏まえつつ、それと比較しながら我が国の制度に関する知識を獲得するものとする。	
	法と政治の世界	法学部の基本科目に属する民事訴訟法の全体を概説する。関連する他の法分野（憲法、民法、会社法、刑事訴訟法、弁護士法、裁判所法）も易しく解説をする。	
	法と政治の世界	1. 政治学が扱ってきた様々なテーマや政治思想を紹介しながら、リベラリズムとそれが生み出した諸問題について理解を深めていきたいと思います。2. レポート作成とその評価作業を通じて、学生にとって必要となる基礎的な文章能力の向上を図ります。3. 以上の目標を通じて、現代社会の諸問題について自ら考え、自分の言葉で表現しようとする人間を育てたいと思います。	
	経営学への招待	この授業では、経営戦略論、会計・財務管理論、マーケティング論といった3つの専門分野から企業活動を理論と実態の両面から講義を行うことで経営学の入門的内容の講義を行う。その際、3名の担当教員が、それぞれ3つの専門分野について4回ずつ順次講義を行う。各専門の講義においては、まず、専門分野の観点から企業の活動の特徴づけ、次に各専門分野の理論の基礎を学び、最後にその理論に基づき、具体的なケースを通じてその内容の実態面を学ぶ。 なおこの講義では、3つのクラスが同じ内容を学ぶが、ただし、所属するクラスによって学ぶ順序が異なり、また成績評価担当者も異なる。したがって担当者が誰かを確認したうえで、自分が履修した担当者のクラスで受講しなければならない。具体的な進め方などについては最初の講義で説明するので必ず出席すること。	
	経営学への招待	この授業では、経営戦略論、経営組織論、マーケティング論といった3つの専門分野から企業活動を理論と実態の両面から講義を行うことで経営学の入門的内容の講義を行う。その際、3名の担当教員が、それぞれ3つの専門分野について4回ずつ順次講義を行う。各専門の講義においては、まず、専門分野の観点から企業の活動の特徴づけ、次に各専門分野の理論の基礎を学び、最後にその理論に基づき、具体的なケースを通じてその内容の実態面を学ぶ。 なおこの講義では、3つのクラスが同じ内容を学ぶが、ただし、所属するクラスによって学ぶ順序が異なり、また成績評価担当者も異なる。したがって担当者が誰かを確認したうえで、自分が履修した担当者のクラスで受講しなければならない。具体的な進め方などについては最初の講義で説明するので必ず出席すること。	
	経営学への招待	この授業では、経営戦略論、経営組織論、マーケティング論といった3つの専門分野から企業活動を理論と実態の両面から講義を行うことで経営学の入門的内容の講義を行う。その際、3名の担当教員が、それぞれ3つの専門分野について4回ずつ順次講義を行う。各専門の講義においては、まず、専門分野の観点から企業の活動の特徴づけ、次に各専門分野の理論の基礎を学び、最後にその理論に基づき、具体的なケースを通じてその内容の実態面を学ぶ。なおこの講義では、3つのクラスが同じ内容を学ぶが、ただし、所属するクラスによって学ぶ順序が異なり、また成績評価担当者も異なる。したがって担当者が誰かを確認したうえで、自分が履修した担当者のクラスで受講しなければならない。具体的な進め方などについては最初の講義で説明するので必ず出席すること。	
	経営学への招待	企業の戦略と組織に関する基礎的な知識について学ぶ。	
	現代社会と観光	観光は、社会的、文化的、経済的な現象であり、現代社会を理解する切り口になりうる。履修者は観光学の基礎や主要な理論を学ぶ。具体的には、観光の概念と歴史、経済、法制、観光資源と観光施設、観光行動、文化、観光メディア、地域社会等、幅広い項目についての知識を習得する。	



全学共通科目 総合系科目 の 精神	現代社会と観光	<p>◆観光学への入門編として、様々な楽しみを求めて観光旅行に出かける私たち一人ひとりの視点に立ちながら、観光が地域の社会や文化等にどのような影響を与えているか、また、旅行者の行動が現代社会の世相や大衆心理をいかに反映しているのかを解説します。</p> <p>◆本講座の特色として、各回の授業では主に旅行者の心理や行動等に関わるトピックを扱っているため、この研究領域に関心の高い学生に特に受講してほしいと思います。</p> <p>◆毎回実施するコメントペーパーでは、これまでの旅行体験をふり返ったり観光旅行に関する自らの意見・好み等を記入・提出してもらい、その集計結果を教員からフィードバックします。</p>	
	現代社会と観光	<p>観光は巨大な産業である一方で、観光者と地域社会が交わる場でもある。我々は観光者として、どこに行き、どのような経験を得て、何を学ぶのか。また、観光者を受け入れる地域では、何が観光の対象となるのか。そして、観光によって地域はどのような影響を受け、そこに住まう人びとの生活や文化はいかに変容するのか。本講義では、観光者と観光地の事例紹介を通じて、観光者と地域の交流によって特徴付けられる現代の観光現象の諸相について考察する。</p>	
	現代社会と観光	<p>この授業は、観光の実態を知り、現代社会における観光のあり方について問題意識を持ってもらうことをねらいとしています。</p>	
	現代社会の諸相	<p>この授業では、現代社会を生きる人間を理解していくうえで不可欠な社会問題に焦点をあてる。人間がいかに関係性のなかで成立しているか、それによって関係性に還元し切れない存在かを理解することを目的としている。犯罪、暴力、といった社会問題にかかわるトピックをとりあげ、そこで苦しむ人たち／支援する人たちの葛藤やとりくみに学びつつ、何が問題で、どのような解決の模索がありうるのか、ということについて社会との相互行為という視点を持ちつつ探っていく。そうして、具体的な社会問題へのとりくみ方／向き合い方について学ぼうとするものである。なお、可能であれば適宜ゲストスピーカーによる授業の回を設定したいと考えている（そのため、この授業進行には変更がありうる）。</p>	
	現代社会の諸相	<p>「現代社会」に関して、比較的新しいと思われる諸テーマを設定し、それについての読解をおこないます。</p> <p>その際、そこで扱われる諸事象について、歴史的視点、社会構造的把握、政治権力とその対抗軸の設置といった、多角的かつダイナミズムをもった視点からそれらを扱ってゆきます。</p> <p>※なお、講義内容は講義の進み具合により変更することもあります。</p>	
	現代社会の諸相	<p>イラク・アフガニスタンといった対テロ戦争の現場、発展がめざましいとされるカンボジア、東日本大震災後に被災地に暮らす住む普通の人々の暮らしを通じて、「現代社会」の輪郭を提示していく。また、具体的な事象を理解することを通じて「現代社会」を考える上で重要な 이슈やキーワードに関してさまざまな視点を提示する。また授業の中では生徒同士のディスカッションを重視する。</p>	
	現代社会の諸相	<p>このクラスは英語で社会問題を学ぶ初級クラスのため、教材は英文で配布しますが、講義・議論等は日本語で行います。従って、講義の前に、配布英文資料を読み、内容を理解する必要があります。</p> <p>連合国による占領当時の日本社会において、連合国兵士が日本人女性をどのように観ていたのかを、日本語で議論します。</p> <p>講義で使用する資料データは、その週の月曜日にBlackboardにアップロードします。</p>	

全学共通科目総合系科目	自然科学の探究	数学・物理・化学の3分野に対して、いくつかの基本となるテーマを通して、自然科学が過去から現在までにいたる大きな発展を導いた基本理念や方法論を学んでいく。数学ではフィボナッチ数列にまつわる話題、物理では宇宙・地球・物質の物理、化学では化学物質の分離技術や光化学、ナノテクノロジーを取り上げる。個々の分野において、まずはその不思議さに驚き、そこに現れる興味深い性質を堪能し、自然科学に対する知的好奇心を励起して欲しい。これらの学習を通じて、自然科学の基本的な理念を理解し、高度に発展していく自然科学に対するビジョンを得ることができるであろう。	
	自然科学の探究	数学・物理・化学の3分野に対して、いくつかの基本となるテーマを通して、自然科学が過去から現在までにいたる大きな発展を導いた基本理念や方法論を学んでいく。数学ではフィボナッチ数列にまつわる話題、物理では宇宙・地球・物質の物理、化学では化学物質の分離技術や光化学、ナノテクノロジーを取り上げる。個々の分野において、まずはその不思議さに驚き、そこに現れる興味深い性質を堪能し、自然科学に対する知的好奇心を励起して欲しい。これらの学習を通じて、自然科学の基本的な理念を理解し、高度に発展していく自然科学に対するビジョンを得ることができるであろう。	
	自然科学の探究	授業は理学部生命理学科の教員によるオムニバス形式で行い、各教員がそれぞれのテーマに関して解説する。生命科学を広く浅く知るのではなく、いくつかのテーマを深く理解するための内容を講義する。理解を確認するために、各授業の終わりに、リアクションペーパーの提出、または、小テストを行うことを基本とする。	
	自然科学の探究	数学・科学の具体的な題材を通して科学の成り立ち・現代社会における位置づけ・科学的思考法を学び、自然科学における基本的な理念や方法論を理解する。また、高度に発展していく自然科学に対するビジョンを得る。この科目は、導入期における「学びの精神」の科目群の1つである。	
	身体科学からの学び	身体動作をバイオメカニクスのために必要な力学の基礎、および各スポーツ動作におけるバイオメカニクスについて講義する。授業では書き込み式の資料を配布し、計算を含んだ問題にも取り組む。また、テーマに合わせた映像を視聴して理解を深める。	
	身体科学からの学び	ジェンダーの視点から自身の成育史を振り返り、各回のテーマと自らを結びつけて考察する。無用なジェンダー・バイアスから自らを解放し、よりよい社会づくりの一員となるために必要な知識を身につける。なお、各回のテーマを講義する際には、スポーツや学校体育に関する話題が中心となる。	
	身体科学からの学び	サプリメントと総称される健康食品について学ぶ前に、栄養学や食事の基本について理解する。その上で、健康食品に関わる法律、安全性、有効性、添加物、表示、そして目的別にどのような商品（成分）があるのかを学び、氾濫する関連情報にいかに対処して真実を見極めていくかを考える。	
	身体科学からの学び	スポーツや日常生活における身体動作の仕組みをバイオメカニクス（生体力学）的に理解するための基礎知識を身に付ける。	
	現代心理学からの学び	この授業では認知心理学の研究を通して社会について考えます。特に実験的手法を用いた研究を中心に紹介し、これまでの認知心理学で得られた知見から社会をながめてみることで、我々の社会のありかたについて共に考えていきます。実験的研究を紹介していくことから、心理学の基本的な実験手法や解析手法を学びます。授業で得た知識を自身の生活に活かすために、授業内で扱ったトピックについて自分なりに考え、コメントペーパーにまとめ提出する予定です。	

全学共通科目 総合系科目 の 精神	現代心理学からの学び	自分の心の内を語ることはない乳幼児がどのような心的世界を持つのか、また発達初期における「心」とはそもそもどのような状態であるのかについて、実験心理学や発達心理学、神経科学などの諸分野における学術的知見を紹介しながら、講義形式で解説、考察していく。	
	現代心理学からの学び	「意識」や「心」はどのように在り、作動するのか。本来的に、〈私〉とは実体なのか現象なのか。という現象はどのように生じているのか。こうした古くて新しい問題を、哲学や科学の知見を参照して知覚、記憶、感覚、身体、行動、時間といった観点から改めて考えていきます。	
	アジア地域での平和構築	尹東柱(ユン・ドンジュ)は1942年に立教大学への留学経験もある韓国を代表する詩人です。授業では尹東柱をめぐる人物史と彼の作品を軸に、20世紀における日本と朝鮮半島の歴史全般について再考察しながら、近代以降の世界における国家・民族と個人との関係、東アジアの近現代史における歴史を動かす要因とその今日的意味について読み解いてゆきます。	
	アジア地域での平和構築	本講義では、多民族国家である中国の多様性、政治制度の特徴、経済発展のメカニズムなどについて詳しく解説するとともに、貧富格差、環境破壊、人権抑圧、貿易摩擦など中国が直面している様々な課題を取り上げ、中国の実像と世界との関わりについて理解できるようにする。	
	アジア地域での平和構築	ユン・ドンジュ(1917~1945)は、日本の植民地時代の朝鮮を代表する詩人の一人で、『序詩』をはじめとする数々の作品は日本でもよく知られている。またユン・ドンジュは、戦時中の立教大学に留学していたことがあって立教との縁も深い。講義では、詩人ユン・ドンジュと彼が生きていた植民地時代を含む朝鮮半島の近現代史について、基礎的な知識を習得しながらその理解を深め、近現代の朝鮮半島についての具体的なイメージ作りのための土台を提供することを目標とする。	
	グローバル社会での平和構築	平和研究の観点から、これまでどのような争点が「平和」の課題とされてきたのか、そして、この課題はどのようにして変遷してきたのか、さらに、「平和」の名の下に注目されない排除について学ぶ。具体的には、「移民の受け入れは受け入れ国が決めて良いのか」、「死刑は認められるのか」、「旧植民地国への責任はどのようなもので、いつまで継続するのか」などについて考える。	
	グローバル社会での平和構築	本講義では戦後の国際政治における沖縄問題の変遷を追う。冷戦の始まりとともに沖縄は軍事安全保障上の重要拠点として位置づけられ、米国の施政権下におかれた。その処遇については日米間で交渉が重ねられ、1972年に沖縄は日本に返還された。しかし在沖米軍基地は米国の世界戦略の要衝として残され、沖縄問題は今日まで続いている。冷戦構造およびポスト冷戦の国際政治の中でなされた日米の安全保障政策が、沖縄にどのような影響を与え、そして沖縄側の反応がどのようなものであったのか。それを理解することで、グローバルな政治変動と地域社会の相互作用を考察する。	
	グローバル社会での平和構築	アフリカにおける平和構築を、日本と直接的な関わりのある国際的な課題として考察していく視座を身につけることをめざします。	

全学共通科目 の 精神 系 科目	大学生の学び・ 社会で学ぶこと	この科目は立教サービスラーニング（RSL）科目群のひとつである。授業の前半は「大学生の学び」領域（自校教育）として、立教大学の歴史、正課教育や正課外教育での学び、サービスラーニングの役割と位置付け等について講じる。授業の後半は、教育学の専門領域を基盤としながら、本学のキャンパスがある池袋地域の歴史にも注目しつつ、教育とは何か、教育と社会との関係性やその背景にある思想について講じる。コミュニティの中で、教育が果たしてきた役割や取り組みについて、批判的な視点も持ちつつ、「過去」と「現在」を往還させることで、「自分事」として現代社会を捉え、未来を創っていく力を養うことを目指す。なお、適時、自身の体験や経験、考えを言語化し、他者と議論する機会（ディスカッション）も設ける。	
	大学生の学び・ 社会で学ぶこと	この科目は立教サービスラーニング（RSL）科目群のひとつである。RSLはコミュニティを理解し、コミュニティに関わる能力を習得することをとおしてシティズンシップ（市民性）を習得することを目的とする。そこで、この授業の前半は、本学学生にとって4年間生活するコミュニティである立教大学の歴史や大学が学生に期待する正課教育や正課外教育での学びと人間的成長について講じる。授業の後半は、立教大学の教育的・信仰的根幹であるキリスト教（聖公会）のアプローチ（視座）を通して、倫理的に、現代社会の現実課題を見つめていく。またディスカッションなどの機会を多く持ち、他者の声を聴くと共に、自らの想いの意識化と言葉化を試みつつ、他者・社会の中に生きる一人の「個」としての在り方を探求することを内容とする。	
	大学生の学び・ 社会で学ぶこと	この科目は立教サービスラーニング（RSL）科目群のひとつとして開講する。RSLはコミュニティを理解し、コミュニティに関わる能力を習得することを通してシティズンシップ（市民性）を習得することを目的とする。授業の前半は「大学生の学び」の領域として、本学学生にとって4年間を過ごすコミュニティである立教大学の歴史、建学の精神や、サービスラーニングの役割と位置付けなどを理解する。授業の後半は、「日本は平和か」という問いから、社会の一員としての自分を見つめ、自らがよりよい社会の実現のためにどのようなコミットメントができるのかを考える。大小様々な社会課題を取り上げることで、国際社会のようなマクロの視点から、地方自治体のようなミクロの視点まで、自分自身と社会とのつながりを多角的に捉える。それぞれの課題の解決に向けてアクションを起こすために貪欲に学び、またその学びを言語化すること、可視化する姿勢を重視する。	
	人権とジェンダー	「近代的人権」は普遍的な概念として把握されているが、主に白人男性たちによって作られた成立当初は「女性の人権」が除外されていたことはとても有名である。授業の最初ではまず「近代的人権」の歴史的経緯を把握し、人権概念が各時代における異議申し立てにどのように対応し、変化をしてきたかを学ぶ。その後、現代の社会における具体的な諸問題を取り上げ、人権とジェンダー的視点によって、それら諸問題をどのように理解し、考えたらよいかを一緒に検討していく。	
	人権とジェンダー	人権とジェンダーに関する基本的な知識を習得し、現代社会の様々な事象について人権とジェンダーの視点から考えることができるようになる。	
	ライフマネジメントと 学生生活	スポーツ/健康関連のいくつかの事例について、視聴覚教材（DVD・スライド）、資料などを用いて提示する。その事例に関してディスカッションし、今後の学生生活にとどまらず、ライフキャリアマネジメントへの活かし方を探求する。	
	ライフマネジメントと 学生生活	自分の身体の構造と機能について解説し、現時点だけではなく、「からだ」が一生を通じてどのように変化し、さまざまな「働きかけ」を行うと、「からだ」どのように変わるのかを科学的に解説する。	

全学共通科目 総合系科目 の 精神	ライフマネジメントと 学生生活	1. 特に大学生活で問題になりやすい健康上の問題とその対処法を紹介する。 2. 生命活動の仕組みを知り、生活の質を上げる方法を考察する。 3. 卒業後の人生で体験しうるライフイベントについて科学的知識を紹介する。	
	立教大学の歴史	この授業では、1874年の創立から2000年の「一貫連携教育」の開始までを対象とし、立教大学の歴史を日本近現代史のなかに位置づけながら検討していく。立教大学の歴史的展開を明らかにしていくなかで、立教各校（小・中・高）の動向や他大学の事例についても適宜紹介していく。そのほかゲストスピーカーの招聘を予定している。なお、進捗状況により、授業計画が若干変更することがある。	
	立教大学の歴史	アメリカ聖公会宣教師ウィリアムズによる開校以来、「立教」は140年あまりの歴史を有している。本講義では同時代の日本および世界の状況を踏まえながら、そのあゆみを紹介する。とりわけ、キリスト教主義にもとづく教育とその放棄、ナショナリズムと立教の日本化、第二次世界大戦の影響、戦後の教育の民主化、学生運動を取りあげる。	
	立教大学の歴史	2024年に創立150年を迎える立教は、これまでどのような沿革を歩んできたのでしょうか。この授業では、立教の歴史を日本近現代史のなかに位置づけ、とりわけ、立教大学の歴史とその特色をともに学んでいきたいと考えています。	
	西欧キリスト教社会における大学の誕生	ジャック・デリダの『条件なき大学』の講読を通じて、デリダの大学論と現代フランスの大学とについての理解を深めるとともに、現代日本の大学で学ぶことの意義について考えていく。また、同書のなかに登場する、人文学全般を学ぶうえでとくに理解しておく必要のある概念や主題を取り上げ、それらの意味を確認していく。	
	西欧キリスト教社会における大学の誕生	本講義では「大学で学ぶとはどのようなことか」という問いへの応答を試みつつ、以下の3点を目標とする。 ①現代における大学と教育の諸相を批判的に捉える視点を身につける。 ②西欧の教育的伝統がどのように大学という場所（トポス）へと結実し、発展したのかを学ぶ。 ③現代において大学で学ぶことの本質的な意義を探究する。	
	キャリアデザイン	多くのみなさんが、将来、企業に勤めることが予想されるため、日本の企業や組織での働き方、とりわけ人事労務管理や人的資源管理の分野を中心に授業を展開していきます。昇進、給与、労働時間、ワークライフバランスなど、日本企業での働き方、日本の労働環境などを議論していきます。進捗状況により、授業計画が若干変更することがあります。	
	キャリアデザイン	講義日の日本経済新聞朝刊を配布する。記事を読んで意見交換をする。関心を持ったテーマについて深掘りし、自ら判断し、評価できる力を身につける。毎回、講師による解説だけでなく、受講生が考えたこと、関心を持ったことなども適宜、発言してもらおう。日々、ニュースに触れる積み重ねを大切にしていきたい。	
	キャリアデザイン	本講義では、個々の労働者と使用者との関係を規律する「個別的労働関係法」について学ぶことで、様々な労働問題について理解を深めるとともに、自ら文献や資料を読み解き自分なりの分析・考察を行う力をつける。	
キリスト教史に学ぶ 多文化共生	ペシミズムについて一般的な背景を説明した後、近代ペシミズムの主要な人物であるショーペンハウアーとシオランに焦点を合わせ、その思想を個別的看着ていく。また、ペシミズムの文化横断性と普遍性をよりよく理解するために、諸宗教におけるペシミズムおよび、現代のペシミズムとしての反出生主義にも触れ、比較検討する。		

全学共通科目 総合系科目 学部の精神	キリスト教史に学ぶ 多文化共生	キリスト教は愛を説くといっても、一方で、自分にそぐわないものを排除していった歴史には事欠かない。こうしたなかでも、「他者との出会い」というものが散見される。キリスト教の歴史を概観することで、此の様な流れを出会いの試行錯誤の連続として捉えていく。本講では、特にアングリカニズムを見ていく。	
	キリスト教史に学ぶ 多文化共生	日本では、1990年代から在留外国人の増加が進んでおり、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく」（総務省『多文化共生の推進に関する研究会報告書』）「多文化共生」の必要が広く唱えられるようになった。さまざまな人々が真に「対等な関係」のもと、共に生きるためには、少数者（マイノリティ）の人権が尊重されなければならない。人権の中でも、自分の生き方のよりどころとなる宗教・思想・信条を自由に選ぶ権利は、重要なものであり、それが少数者にも保障されることは、「多文化共生」が実現するための要件である。 以上の関心のもと、この授業では、宗教的少数者の一例として近代日本のキリスト教を取り上げる。天皇崇敬を軸に近代国家・国民を創出した社会にあって、キリスト教が歩んだ平坦でない道を振り返ることを通して、価値観や生活習慣などの異なる多様な人々が共生する場日本社会になるために、何が必要か、考える。	
	キリスト教史に学ぶ 多文化共生	キリスト教がこの世界や人間にもたらしたものは数多くある。この授業では、キリスト教が構成原理となった中世ヨーロッパを中心に、そこに見られる多様性のありようと変容を考察することで、多元的な社会を生きる糧を各自見出してもらう。	
	美と生命について： キリスト教の美学	Ex virtute pulchri（美の力において）。「すべての創造物は美の力によって一致する」とは、中世の神学者トマス・アクィナスの言葉である。キリスト教的世界観では、創世記第一章が語るように、この世には神がよしとした被造物しか存在しない。すなわち、全ての被造物には共通の肯定的性質があると考えられるのだが、トマスはこれを美に求めた。このシンプルで力強い世界観から、対立を深める現代に生きる私達は何を学ぶことができるのだろうか。 手掛かりとするのは、人の手によって生み出された造形美術、特にキリスト教と美術の歴史である。異文化との遭遇によってキリスト教がゆらぐ時、美術においては必ず「美の力」が発現し、対立をさらなる美へと昇華してきた。講義前半では、キリスト教と美術の歴史を概観することで、視覚芸術の有する力強い形の生命と向き合う。 後半は現代へと大きく舞台を移す。芸術家ヨーゼフ・ボイスの有名なスローガン「社会彫刻」—すべては芸術であり、全ての人は芸術家である—に想を得て、視覚性を超越した「形」へと考察の対象を広げる。近年注目を浴びるソーシャルビジネスは、ボイスの提唱する「拡大された芸術概念」によって最もよく理解できるのではないだろうか。講義終盤では、美の力による社会問題解決の具体例として、障害者問題や環境問題に取り組む筑波山麓のNPO「自然生クラブ」、ならびに、現代土木によって劣化した土中環境の再生活動について取り上げ、その芸術構造を明らかにする。	

全学 共通 科目 の 精 神 系 科 目	美と生命について： キリスト教の美学	フランス文学作品には、キリスト教的な信仰・思想に基づいているものが多い。その背景として、フランスではキリスト教（特にカトリック）が、中世から現代に至るまで、主流の宗教であることが挙げられる。もちろん、このような理解の仕方には問題がないわけではない。フランスには非キリスト教的、または反キリスト教的な信仰・思想が数多く存在し、歴史や文化の中で重要な役割を果たしてきたからだ。実際、他の宗教、例えばユダヤ教やイスラーム教を信じるフランス人も多数存在してきた。（マイノリティの宗教に基づく文学作品がフランス文学史の中で重要な位置を占め難いことは疑問に付されて然るべきだが、本授業の主題ではない。）また、ギリシア・ローマの古代宗教は、キリスト教と並んでフランス文学の2大柱と言われる。そしてフランスは、ある意味でキリスト教に反する思想である共和主義を掲げ、政教分離や公共空間での非宗教性を原則とする国である。さらに、古くから無神論者や反宗教的な自由主義者を輩出した国でもあり、昨今は国民の間でキリスト教的信仰の希薄化が進んでいる。しかしそれでも、フランス国語の模範として称えられ、受け継がれてきた文学作品には、キリスト教に基づいているものが多いと言える。これらの文学作品の中には、もちろん、キリスト教的な信仰や思想を直接的に表現しているものもある。しかしまた、非キリスト教的、あるいは反キリスト教的なテキストから、キリスト教的な思想の枠組みや神への断ち難い信仰が浮かび上がってくる場合もある。本授業では、このようにキリスト教と様々な結びつきを持つテキストをいくつか扱う。	
	美と生命について： キリスト教の美学	古代末期から近世（16世紀頃）にいたるまでのキリスト教思想および美術の概要を、テーマごとに学ぶ。 キリスト教の成立と展開に関する基礎的事項を確認した上で、聖書や神学者の言葉をひもとき、キリスト教思想と視覚芸術の関わりについて考察する。各時代の代表的な聖堂、イコン、キリスト教絵画や彫刻を取り上げつつ、それぞれの成立背景や関連史、キリスト教図像について理解を深める。	
	美と生命について： キリスト教の美学	目の前の対象を写實的に描写すべきか、それとも心の内に浮かんだイメージ（＝イメージ）を、思うがままに描くべきか。絵画表現をめぐって現在でも問題となるであろうこの問いは、もとを辿れば、キリスト教における「美」の問題をめぐる議論からはじまっています。本講義では古代からルネサンスに至る「美」にまつわる思想を追いながら、キリスト教における美の豊かさについてともに考えてみましょう。	
	愛について： キリスト教の倫理と哲学	講義では、「絶対に結びつくことのないものの結合」として〈愛〉の問題を考察してゆく。「愛とは何か」、「結びつかぬものが結びつくとは何か」ということをめぐり、文学、映画、著名な哲学者のテキスト、『聖書』を手引きとしながら、受講者一人ひとりと〈愛〉をめぐる旅に出かけたいと思う。この旅に参加するに際して求められる態度は、受講者一人ひとりが愛の内実を、他人事ではなく自らの問題として引き受け、考えるということである。	
	愛について： キリスト教の倫理と哲学	キリスト教の長い歴史において、今日私たちが一言で「愛」と呼ぶものは、いくつかの異なった事柄とみなされ、異なった名で呼びならわされてきました。授業ではまずこれらの「愛」の三分区——エロース、アガペー、カリタスについて紹介し、これらの相異なる愛の側面が、キリスト教の様々なテキストにおいて、色々な仕方で表現される様子を追っていきます。古代・中世の様々な思想家のテキストを考察することで、キリスト教における愛の多様性について、一緒に考えてみましょう。	

全学共通科目総合系科目 学びの精神	教養の扉をひらく	この授業の到達目標を達成するために、医療以外のさまざまな分野で専門職として活躍しておられる第一人者を招聘する。特別講師には、専門職者として自らを高め続けていく生きかたや、自らの専門性を社会にどのように活かしていきたいと考えておられるのか、などについて、ご自身の体験を交えてお話しいただく。さらに、ディスカッションを通して、受講者自身が「専門性に立つ教養人」として成長していくための生きかたについて深く考え、それらを分かちあう貴重な機会を提供する。 なお、毎回の講義終了後に提出を求める「リアクションペーパー」を対象として、担当教員からmanaba（聖路加国際大学・学習支援システム）を通じたフィードバックを行う。 この科目を受講することによって、学生諸姉諸君が自らの人生を主体的に生きるための貴重な糧を身にできるものと確信している。さらに、地球規模で将来の社会を責任をもって担うことができる人間となるべく、仲間とともに成長し続ける生きかたの礎をつくる貴重な機会として、この科目を位置づけてほしい。	
	Economy and Society	この講義では、学生は現代の日本と世界の経済が直面する問題について英語教材を用いて学習する。私たちはテキスト『日本と世界の経済を研究する』およびその他の教材を使用し、国際経済学の視点から現代経済と社会が内包する問題について考える。	
	多文化共生社会と大学 ーやさしい日本語	多文化共生社会とはどのような社会かを自分の言葉で説明することができる。また、日本が目指している多文化共生の形や実現のための方法をヨーロッパやアメリカ、アジアの国々と比較し、それぞれの特徴を知ることによって、日本に暮らす多様な人々が真の意味で共生していくことを可能にするためには、日本に暮らす一人ひとりがどのような態度を持ち、どのように行動していくべきか、自分の言葉で表現することができる。そして、そのような日本の多文化共生社会の実現のために、日本の大学は何をすべきかについて考え、自分の言葉で提案することができる。	
	Image Studies	アニメとは何かに関する定義を導入したのち、授業の最初の半分は日本のアニメ史を提示する。そののち、授業はいくつかの重要作品を歴史的、文化的、美学的、社会的観点から分析する。授業は日本語のアニメ作品を中心に論じるが、読解教材として、英語で書かれた批評や論文もあつかう。日本語と英語の両方を使うことで、日本アニメをグローバルな規模で考える。	
	GL101	自分ならではのリーダーシップ開発を目標とし、少人数のチーム（5～6名）にてクライアント企業から提示された課題解決型のプロジェクトに取り組みます。授業を通して、発案や学びの面白さを知り、その後の人生において継続的な学びとリーダーシップを発揮することを期待します。 各クラスは様々な学部、学年の受講生によって構成されます。そのため、受講生が自ら目標を立て、それを共有しながら同僚支援し、チーム内で率先して行動するといった、各受講生のリーダーシップの開発・発揮が求められる。最終的には所属するチーム、クラスを超えて他者のリーダーシップ開発・発揮を支援することも期待されます。 *本内容と授業計画について、クライアント企業の提示課題、グループワークの進捗状況次第で、内容や順序が変更になる可能性があります。	



多 彩 な 全 学 共 通 科 目 （ 1 人 間 の 系 科 目 探 求 ）	聖書と人間	聖書の有名な説話を、読む。いざ読むと、いろいろ不可解な点に突き当たる。その不可解は、はたして我々の知識不足による（ので、知識を増やせば解消する）ものだろうか。それとも、原作自体が当初から難解なものとしてある（ので、知識を増やしても、不可解は解消しないどころか、むしろ知識量に比例して増殖する）のか。さまざまな説話を手がかりに考えてみたい。	
	聖書と人間	聖書内容を理解するために必要となる用語あるいは概念をいくつか取り上げ、具体的な箇所当たりつつ、それらの意味及び意義について学ぶ。必要に応じて聖書諸文書が執筆された、あるいは聖書に現れる各人物が活躍した時代や社会状況について説明する。	
	聖書と人間	聖書の基本構成と成立史概要、聖書への多角的アプローチの仕方を知りながら、選択した幾つかのテキストを読む。その際、記述された諸思想とそれらの意味について考察を深める他、聖書が特定の宗教を超えて様々な文化事象に影響を及ぼしてきたという視座を養うことを大切にする。授業では適宜視聴覚教材を補助的に用いる。	
	聖書考古学	講義形式で、聖書思想、イスラエル史研究、考古学調査の関係をそれぞれの立場から多角的に検討していく。それぞれの分野についての入門的な知識にも触れていく。 準備や復習のために指定された文献を多く読むことが望まれる。	
	ジェンダーとキリスト教	理論と実際の両方を検証する事を通じて、ジェンダーとキリスト教をめぐる問題や課題について学習・理解を深める。	
	イスラームの世界	イスラームの形成と発展に至る歴史的展開を重視する。古代末期に東方キリスト教・ゾロアスター教の文化圏でイスラームが成立する過程から始まり、ヘレニズムの影響下に哲学・科学を受容して独特のイスラーム文明を発展させるまでを追う。	
	イスラームの世界	イスラームについての知識習得と理解は、現代世界に生きる私たちにとって必須の事項である。本授業は、イスラームの基礎知識を解説しつつ、イスラーム教徒の社会生活のあり方を、さまざまな角度から紹介する。パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料も適宜活用する。授業の順序や内容は、進捗状況に応じて変更の可能性がある。	
	「宗教」とは何か	本授業は、個別の宗教についての解説ではなく、「宗教」概念についての考察である。具体的には、19世紀後半以降の宗教研究の流れを紹介しながら、「信じる」でも「遠ざける」でもなく、「《宗教》について知る」という立場について考察したい。	

多 彩 な 学 共 通 科 目 総 合 系 科 目 （ 1 人 間 の 探 求 ）	現代社会と人間	われわれはある社会の「常識」を身につけることによって、いつの間にかそれを参照枠として世界を眺め、価値付けるようになる。特に問題を自覚しない限り、それらは自明であり、正しいものとして扱われ続ける。仮に何かしら不具合に気付いたとしても、「普通」でありたいとする欲求は「常識」に対する疑問を回避させる。「普通」とは幻想の基点であり、抽象の産物でしかない。「普通であろう」とするふるまいは誰のものでもない社会的に優位な声におびえる態度であり、多様な価値付け、多様な生を否定する生き方につながる。では、われわれはどのようにすればその声に抗うことができるのであろうか。それには脱中心化が効果的である。「常識」によって、周辺に追いやられた人々の側から、改めて社会や人間を捉え直すレッスンをするのである。この授業では、「障がい者」と国際移動する言語的文化的に多様性を持つ人々に関わる教育問題を事例として、多様な価値付け、生き方を探究するメソッドについて履修者とともに考えていく。履修者は講義内容をそのまま受容するのではなく、対話のために自らの声を用意する準備をしてほしい。	
	現代社会と人間	本授業では、現代社会の特徴のひとつであるグローバリゼーションという社会的文脈の中で人間をとらます。特に、異文化間で生じる教育現象やグローバル化に対応した教育のあり方について学びます。具体的には、海外帰国生や外国籍児童生徒など、複数の文化の中で育つ子どもたちの教育や、国際学力調査と教育改革、国際的な教育プログラムである国際バカロレア、多文化共生教育などのトピックを学習します。	
	現代社会と人間	少年非行やいじめ問題などの子どもの問題は、しばしば、メディアで取り上げられ、社会問題化する。そして、私たちは、社会問題化した出来事を媒介し、現代の子どもの姿を悲嘆したり、学校教育のあり方を非難したりする。しかし、こうした理解のあり方は、子どもや学校教育の複雑な現実をかえって見えなくさせているのではないだろうか。授業の前半では、この疑問を出発点に、ある出来事のメディア報道や様々な立場の当事者の経験を参照し、現実の多層性に接近する。授業の後半は、子どもに関わる問題とは、子ども以外の周囲の大人が「問題」と捉えていくことで作られていくという原理的な課題に視点を広げていく。	
	哲学への扉	本科目は、私たちが日常の中で感じている疑問や関心を参加者の間で自由に対話し、多様な価値観を知り合うことで、自分の理解を深めることを目的とします。「哲学」とは、哲学者が部屋にこもって一人で思考を深める営みでしょうか。必ずしも、そうではありません。ここでは、各トピックに沿って、自分の意見を自由に発言し、また他者の意見をしっかりと聞き、「対話」のなかで「哲学すること」の実践を目指します。毎回の授業では、参加人数に合わせ、少人数のグループを作り、対話を行ってもらいます。また各グループにファシリテーター（討論の進行役）を一人設定し、最終的にグループの代表者に議論の中身を発表してもらいます。具体的な「哲学対話」のやり方・段取りについては、初回授業で説明します。受講にあたって、哲学の「知識」は、必ずしも必要ではありません。はじめて哲学に触れる方から、これまで哲学の授業を受けてきた方まで、様々な学生の参加を期待します。	
	哲学への扉	「すべての学問は、哲学となったのちに詩となる」というノヴァーリスの言葉は、わたしたちの生に知性が不可欠であること、さらにその知は、究極的には、わたしたちが抱く美的感情において輝き出すことをあらわしています。このことは、たとえば、『イーリアス』や『平家物語』が口承されてきたという事実のうちに、そして、そうしたいと思う「なにものか」がわたしたちそれぞれの心に兆す不思議さのうちに、感じ取れるのではないのでしょうか。 この講義では、プラトン、スピノザ、カント、キルケゴール、ウィトゲンシュタイン、シモーヌ・ヴェイユといった哲学者の思想の核を捉えることによって、映画や文学が醸し出す美の閃光において映し出された愛、善、動機、沈黙といったものが、どのようにしてわたしたちの想像力（＝イメージする力）を十全に開花させ、類比的思考を促すのかを考察してみたいと思います。	

多 彩 全 学 共 通 科 （ 1 目 総 合 の 系 科 目 ）	論理的思考法	授業では論理学の基本事項を学んでいきます。理解を深めるため、例題を説明したあとで練習問題を解いてもらいます。また毎回の授業で課題を提出してもらいます。成績は提出された課題を見て評価します。	
	論理的思考法	授業では論理学の基本事項を学んでいきます。理解を深めるため、例題を説明したあとで練習問題を解いてもらいます。また毎回の授業で課題を提出してもらいます。成績は提出された課題を見て評価します。	
	教育と人間	教育は、人間が自己を形成するための助けとなるものであると考えられています。しかし、この場合「自己」とはどのようなものでしょうか。社会に貢献する人材かもしれませんし、自律的な判断と行動の主体かもしれません。答えは背景にある考え方によって変わってきます。したがって、教育の目的と効果・結果について議論するためには、社会と人間に関する確固とした視点が必要になります。本講義では、古代から近現代までの（主に西洋哲学の）文献を扱い、その人間観と社会観を読み解き、教育との結びつきを検討します。	
	教育と人間	教育とは知識の一方的な伝達ではない。教育の場面では、教える側も教えることを通じているいろいろなことを学ぶのであり、教えるものと教えられるもの間には循環的な関係が成り立っている。本講義では、そのような循環的な仕方での教育を身につけるために、「哲学的人間学」という方法を学び、「人間」というテーマを通じて実践する。 「人間」について考える時、多くの場合、言葉や社会の形成などの点で、ほかの「生き物」とは決定的に違うということが前提にされている。他方で、科学に従うならば、進化論的な意味での「ヒト」はほかの生き物たちと連続しているはずである。そこで本講義では、文系・理系という垣根を越えて、「ヒト」を「てつがく」することで、知らず知らずに前提してしまっていることを明らかにし、あらためて「人間」について考え直す。ここでは、ほかの「生き物」との違いだけでなく、「ロボット」のようなものとの違いについて考えることも重要となる。 授業の冒頭では、前回の授業のリアクションペーパーからよせられた問題を取りあげる。また、授業では専門的な内容や用語について簡単な説明を行なった上で、テキストに付属している問題を中心に参加者で議論を行なう。	
	歴史への扉	シンガポールは日本と経済的に深い結びつきのある国である。資源のない小国であるものの経済的に繁栄する国として世界的にも注目されている。シンガポールはその効率的な統治と公正な社会システムで知られるが、そうした評価は多分に政治的に創られたものである。本講義では、そうしたシンガポールにかかわる言説を歴史的に再考し、歴史的な言説がいかんにして創られるのかを考えていきたい。	
	歴史への扉	中世から近世にかけてのヨーロッパの都市社会（後半はとりわけ医療に関するテーマ）を取り上げ、さまざまな角度から捉えることで歴史的側面から社会・文化の多様性を学ぶ。また、歴史研究のさまざまなアプローチの可能性についても考えていく。	
	歴史への扉	いつの時代にも「転換期」や「時代の岐路」が意識されるものだが、今日の日本で暮らす我々もまた先行きの不透明な時代を生きている。そのなかで自身の立ち位置を的確に理解するためには、眼前の事態にのみ拘泥するのではなく、時間軸に沿って思考の射程を過去に拡張し「後ろから前を視る」という思考様式、すなわち「歴史的思考様式」を身につけることが望ましい。この際、思考の起点を過去の方に延ばせば延ばすほど自身の立ち位置はより明瞭となり、さらには「より確からしい未来」を展望することができるようになるであろう。とはいえ時間の制約もあり、本講義では今日の時点より70年ほど遡って検討するにとどまる。受講者には本講義で「歴史への扉」を叩き、さらなる過去社会への探求に踏み出す機会としてほしい。	

多 彩 な 学 共 通 科 目 総 合 系 探 求 目	歴史への扉	20世紀後半から今日にいたるまで、食と栄養をめぐる、多くの医学研究は、妊娠期の栄養状態の重要性を強調してきた。例えば、妊娠期に基礎代謝を大幅に下回るカロリーしか摂取できなかった場合、糖尿病や精神神経疾患などの発症リスクが高まるという研究がある。成人段階以降に経験する疾病は妊娠期の栄養状態による結果だという示唆がここにはある。栄養状態は時代や地域によって異なるものであり、その結果として疾病の増減も左右されることになる。産業革命が進む19世紀イギリスにおいて、人々はいかなる栄養状態のもとにあり、どのような病を経験したのだろうか。この講義では、食と栄養の問題を通じて、近代イギリスにおける人間の生命の質（QOL）を考えてゆく。	
	歴史への扉	本講義では敗戦から現在に至る日本現代史を概観するほか、多角的な視点から高度成長期の社会について検証してゆく。加えて、戦後日本における自民党の変容や若者文化の変遷などについても検討し、戦後日本社会の実態を理解してゆく。	
	地域研究への扉	地域研究のための基礎的なアプローチの仕方、テーマ設定、データの収集方法などを学ぶ。地域研究のテーマに基づき、口頭発表を行う。テーマに沿って各自の分担部分を資料、文献などに基づきレポートにまとめる。	
	地域研究への扉	日本社会において、アフリカは紛争や貧困、難民といった「問題」とセットで語られることが多い。その一方で、実際にそこに生きる人々が何を考え、どのようにさまざまな問題に対処しているのかが報じられることは極めて少ない。文化人類学のフィールドワークは、対象社会に暮らす人々の視点から世界を捉えることを目指す。本授業では、フィールドワークにもとづき、アフリカの民族紛争や難民、若者たちの新たな像を提示することによって、文化人類学・地域研究の可能性を探究する。	
	地域研究への扉	さまざまな対象の越境性が顕著になった現代に、「地域」という理解はいかに成立できるのだろうか。講義では、日本の南西諸島を舞台とした諸研究（民俗文化・シャーマニズム、親族、都市空間、食、アイデンティティなど）を題材にして、諸事象と研究枠組みとの齟齬に悩みながら「誌（エスノグラフィ）」という様式に落とし込む地域研究のプロセスを紹介する。これらを通して、「地域」を捉えて語る営為の限界を踏まえつつ、自らの理解の基盤を問い直しながら対象に向き合う「フィールドの知」のあり方を示すとともに、現在のかつ妥当的な「地域」へのまなざしを考えていく。	
	多文化の世界	この授業では、東南アジアの国々が、多様な文化や文明の影響を受けながら、国家を形成してきた経緯を学ぶとともに、教育の役割や課題を考えていく。 とくに、大国であるインドネシアの事例を主として取り上げ、どのように国内外の文化や文明の影響を受けながら、国家を形成し、国民の教育を行ってきたのか、他国との比較を通して考える。	
	多文化の世界	現代世界の宗教、スピリチュアリティに関する諸テーマを考察します。この授業では特に、日本国外の宗教に注目します。映像資料も積極的に用いる予定です。	
	多文化の世界	講義では、まずグローバル化した現代社会における多文化的状況を、空間的パースペクティブからとらえる。次に、世界各地の事例を通じて多文化社会の現状を把握し、それぞれの相違点や共通点を理解する。その際に、現代社会の特徴的現象の一つである観光をキーワードにする。具体的には、台湾、日本（ニッポン）、フランス、グアム、タイなどの国・地域を中心に講義をおこなう。	

多 彩 全 学 共 通 科 目 へ 1 目 総 合 系 科 目 の 探 求	文化を生きる	私たちは、自分の育った社会の文化的価値観を自然と身につけ、それを通して異文化を捉えてしまう。本講義では、こうした人間に潜む自文化中心的思考を自覚することから始まり、文化の多様性を見出し、そして最終的に自文化において「常識＝当たり前」とされていることを相対化し再検討することを目指す。グローバリゼーションが進行し「異文化理解」の必要性が唱えられている現代社会だからこそ、「異文化を知り、自文化を相対化する」学問である文化人類学をぜひ学んで欲しい。	
	文化を生きる	授業ではまず、ニーチェのギリシア精神の受容と解釈を『悲劇の誕生』を中心に解説する。その際に、「ディオニュソス的なもの」という概念の把握を主眼とする。次に、ニーチェの中心思想である永遠回帰について、その内容を主に『ツァラトストラ』を通じて解説していく。最後に、「ディオニュソス的なもの」という概念に由来する「強さのペシミズム」とニーチェにおける「ニヒリズム」の意味の連関を、『道徳の系譜学』第三論文の解説を通じて明らかにし、初期ニーチェが把握したギリシア精神の解釈が、後期のニーチェ哲学に影響を与えた様相を分析する。	
	文化を生きる	私たちは、自分の育った社会の文化的価値観を自然と身につけ、それを通して異文化を捉えてしまう。本講義では、こうした人間に潜む自文化中心的思考を自覚することから始まり、文化の多様性を見出し、そして最終的に自文化において「常識＝当たり前」とされていることを相対化し再検討することを目指す。グローバリゼーションが進行し「異文化理解」の必要性が唱えられている現代社会だからこそ、「異文化を知り、自文化を相対化する」学問である文化人類学をぜひ学んで欲しい。	
	人権思想の根源	「人権」は普遍的な概念とされるが、主に白人男性たちによって創案された成立当初は「女性の人権」が除外されていたことはとても有名な話である。本講義では、まず「人権」の歴史的経緯を把握したうえで、現代社会における具体的な諸問題を取り上げ、各問題と人権思想がどのように交差し、人権思想がいかなる展開をしてきたかを概観する。また本講義を通して、日常生活では見えにくい（とされる）社会的不平等や差別の問題について鋭敏な感覚と想像力を培う。	
	人権思想の根源	皆さんは、性に関わる「差別」など自分には関係のないもので、差別やジェンダー・セクシュアリティについて考える必要などないと考えていないでしょうか？現代社会におけるジェンダー・セクシュアリティ問題は「不可視化」されている点にあり、これまで経験してきたであろう学校教育、社会教育、家庭教育などのさまざまな〈教育〉の場や日常生活のなかに存在しているのです。そして、それらの問題を「学び」ながら私たちは育ってきています。この授業では、自分自身を縛るジェンダー・セクシュアリティ問題にまず気づき、その上で課題意識をもって〈社会〉の諸問題に向き合えるようになることを目標とします。	
	手話と人権を考える	ろう者を言語・文化的少数者として、手話を自然言語として捉え、その仕組み、構造を具体的にみていく。またろう者・手話と社会の関わりについて、教育、法、人権などの側面から扱う。	
	点字から考える人権	点字は、人類共有の文字である。けして視覚障害者だけが「文字の代わりに」使用する記号ではない。しかし、残念なことに、これは現在一般的な共通認識となっているとは言えない。この事実が、今日点字の主たる使用者である視覚障害者が置かれている人権をめぐる状況を如実に物語っている。この授業では、点字を新たな「自分の文字」として習得するとともに、文字と人権、そして更に広く「人権とは何か」について深く考えたい。	

多 彩 な 学 共 通 科 （ 1 目 総 合 の 系 科 目 ）	アジアの文化とことば	タガログ語の初級文法を学び、その固有な構造について理解を深める。特に動詞に特徴的な、焦点（focus）と動詞の種類的基本的な関係を理解することを目標とする。そのために最低限必要な、語彙・動詞の活用などの習得の積み重ねが求められる。その確認のための小テストを授業時に行う。文法理解を主要な柱とする一方、言語の問題と関わるフィリピンの社会と文化の諸側面についても、時間の許す範囲で紹介していきたいと考えている。	
	ヨーロッパの文化とことば	古代ギリシアの芸術と思想はヨーロッパの文化の源流であり、今日でもその教養の源泉であり続けている。この授業では、ヨーロッパの文化についての知識を自らのことばで語り直すことによって生きた教養とするため、冒頭で問題を提示し、その問題をめぐって講義を行い、受講生が問題に対する回答として小レポートを作成するという流れにする。小レポートは第3回以降の隔週回で計6回提出する。	
	ヨーロッパの文化とことば	ラテン語は古代ローマ人の言語であり、現在ではラテン語を母語とする人はいませんが、ラテン語は東アジアにおける古典中国語（漢文）と同様に、現在に至るまでヨーロッパの文化・教養の源泉であり続けています。本講義では、主にこのようなラテン語とのかかわりを通じて、ヨーロッパの歴史、思想、宗教、社会等について考察していきます。その際には、われわれがヨーロッパ固有の文化だと思っているものには、ヨーロッパ以外の文化圏の文化や言語に由来するものも多いという文化交流の視点を重視したいと思います。なお、ラテン語の知識は前提としません。	
	ラテンアメリカの文化とことば	最初に、ラテンアメリカの人種差別の歴史を学んだあと、日本にあてはめて講義します。	
	ロシア・東欧の文化とことば	フランス、アメリカ、ドイツ、日本、ロシア・ソ連で製作されたサイレント映画を約13本鑑賞し、それぞれの特徴を考察する。	
	中東の文化とことば	7世紀初頭にイスラム教が誕生して以来、中東ではイスラム教徒が主導的役割をにない、さまざまな文化が発展した。本講義ではイスラム文化のもつ多彩な側面を、とりわけアラビア語、さらにはより一般的に「コトバ」に焦点をあてて、概観していく。なお各回の講義内容と関連づけ、アラビア語にかんするごく初歩的な紹介（文字・文法）も行う予定である。音声・映像資料も活用する。	
	アフリカの文化とことば	グローバル化による市場経済の浸透や開発援助による介入、さまざまな苦難にさらされながらも、アフリカ社会が独自の文化と社会的紐帯を生み出すことで対処している姿を考察する。	
	イタリアの文化とことば	講義の前半では、イタリアの歴史の概要を確認しつつ、14～16世紀のイタリア語の文章（テキスト）を取り上げる。文法や単語の意味を確認した上で、歴史的・文化的背景を学び、内容および時代精神について理解を深める。講義の後半では、ことばと視覚芸術が結びついた例として、古代のテキストを参照に制作されたルネサンス時代の美術作品を取りあげる。	

多 彩 全 学 共 通 科 （ 1 目 総 合 の 系 科 目 ）	イタリアの文化とことば	イタリア語を習ったことのある人は少ないかも知れませんが、料理や映画、そして音楽など、実は多くの人が日常の中で知らないうちにイタリア発祥の文化に触れていることでしょう。本講義ではイタリアルネサンス・バロックの文学と美術をテーマに、イタリア文化についての理解を深めることを目指します。まずはルネサンス以降のイタリア語の代表的な文学作品をとりあげ、文法や内容を確認すると共に、その時代背景や精神を学びます。後半では言葉と視覚芸術が結びついた例として、特に16世紀以降に豊かな展開を見せたエンブレムの文化について詳しく見てゆきます。また、芸術家の生涯や作品が美術史においてどのような言葉で記述されてきたのかを、いくつかのキーワードを軸にしながらかえてゆきます。イタリア語の文法事項については適宜講師が補いますので、初学者の参加も歓迎します。	
	ドイツ語圏の文化	ドイツ語圏の複数の都市にかかわる特徴的な文化と生活をテーマとし、歴史的・精神的背景に照らしてその特質を分析する。また、記憶の文化におけるドイツと日本の違いと、それが近隣諸国との関係に与える影響についても考察する。	
	ドイツ語圏の文化	ヨーロッパの中心に位置し、ヨーロッパ経済をリードする国・ドイツが現在の形になるまでには、長い時代と様々な歴史的事件を経てきた。ハプスブルク帝国の中心として栄華を誇ったオーストリアやプラハも独自の文化を形成してきた。講義では、それぞれに異なる表情を持つドイツ語圏の国々の文化を、都市、宗教、戦争、メディアを軸として、文学作品や映像をみながら検証していく。	
	フランス語圏の文化	文化を人間のあらゆる知の実践にとらえ、文芸や造形芸術「作品」だけではなく、宗教や政治まで幅広く考察の対象とします。配布する資料プリントのほかにもさまざまな画像・映像資料を利用しながら、「理性」「自然」をキー・ワードとして、大革命にいたるまでのフランス文化の変遷に多角的に迫っていきます。 この講義をとおして、我々の生活している日本という環境、あるいは諸君が慣れ親しんでいるであろうアメリカ文化とは異なる、フランスのもっている独自の文化や社会の形の意義を考える機会ができることを希望します。	
	スペイン語圏の文化	スペイン各地域の地理的・自然環境、気候、植生、農牧業、家屋と、それに関連した文学、音楽、映画、言語などについて考察し、「スペイン」を総体的に理解する。 パワーポイントを使用した講義形式で、映像や音声資料を適宜活用する。	
	スペイン語圏の文化	トランプ政権を経て、アメリカ社会の分断が浮き彫りになってきている。スペインでは、地方ナショナリズムが勢いを増す一方で極右政党が躍進している。なぜ、中南米の人々は不法に国境を越えようとするのか、なぜ、カタルーニャ州の人々はスペインからの独立を志向するのか。本講義では、スペイン語圏の現代社会が包摂する様々な文化や価値観が、いかなる歴史によって形作られたのかをみていく。	
	中国語圏の文化	・本授業では、現代中国の様々な社会現象を取り上げるとともに、今日も中国の社会・文化を根底で支配し続ける伝統思想を焦点に、そこにみる自然科学的視点を分析的に取り上げる。 ・現代中国語・漢文による文献等を幅広く講読しながら、それらに内在する本質的意義を検討し、その現代的意義を考察する。 ・それらのことを通じて我々の暮らす現代の文明社会に潜在する諸問題、あるいは日本・中国の両国間に立ちはだかる「異文化」という壁を静観したい。 ・授業では、随時配布資料に関して、キーワードを中心に深くリサーチし、小レポートとしての的確にまとめる等の課題提出を求める。 ・なお、本授業では、中国語・漢文の学習歴は問わない。	

多 彩 全 学 共 通 科 へ 1 目 人 間 の 系 探 求	朝鮮語圏の文化	韓国映画を素材として、韓国文化をさまざまな視点から紹介する。歴史を描いた時代劇から現代的なラブストーリーまで、広く取り上げてみたい。また、南北分断による権威主義政治の映画や文化に対する影響、韓国の文化の国際性についても考えていきたい。	
	朝鮮語圏の文化	講義では、古代から十九世紀後半までの朝鮮半島の歴史について、政治・文化史を中心に概観する。また日本列島や中国大陸など東アジア諸地域との文化交流についても紹介する。	
	教育学への扉	今日生起している様々な教育問題について、受講者が教育学の基礎的・概略的知識に基づいて、自ら考え、解決するための素材を提供する。	
	教育学への扉	人は教育について語るとき、どうしても自身の狭い教育経験の中に閉じこもってしまう。本科目では、教育に関する基本的な概念を学び、歴史的・哲学的な観点から教育について考え、互いに議論することによって、そうした狭い視野を克服していく。	
	現代社会における言葉の持つ意味	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の始まり</li> <li>・原始釈迦仏教とは？</li> <li>・現代脳科学と仏教のコラボレーション</li> <li>・資本主義宗教を信じる現代人が強化すべきこと</li> <li>・AIに自分を盗みとられないために仏教から学ぶべきこと…etc</li> </ul>	
	立教ゼミナール1	<p>『若草物語』は、南北戦争時代のニュー・イングランド（米国北東部）を舞台に、メグ、ジョー、ベス、エイミーというそれぞれに異なった個性を持ったマーチ家の四人姉妹が次第に大人の世界へと成長してゆく過程を追う物語です。1年生の皆さんにとっては、『若草物語』に登場する若い人々（男性も登場します）の世界に触れることは、日本と米国の違いはあってもつい最近まで高校で経験した成長の過程を追体験することになり、ちょうどいい読み時と言えるのではないでしょうか。</p> <p>毎回、精読する範囲を数ページ指定します。まずは語学的な疑問を解決し、続いて発表者に内容についての考えを述べてもらい、グループ・ディスカッションと質疑応答でしめくります。</p> <p>『若草物語』は何度も映像化されていますので、それらを見比べながら、文学の映像化という問題についても考えたいと思っています。</p>	



多 全 彩 な 学 共 通 び （ 1 人 間 の 探 求 ）	立教ゼミナール1	<p>(英文) The course is designed to explore issues of gender equality for the sustainable future of cities, regions and nations in the 21st century. Through preliminary research, fieldwork, presentations by students, and discussions among students, we will explore gender-related policies as well as their decision making processes in a variety of fields such as education, medical care, work environment, civil law and others. We will start with the case of Toshima City in Tokyo Prefecture as a case study before comparing it to other cities and regions with which individual students are familiar. Students will form groups based on their interests and expertise, plan and report on their research. Students are expected to take into account both external and local perspectives, not only by reading literature and using statistical data, but also by actually visiting the site and, where possible, conducting research through interviews with people involved in gender-related policy making. In their presentations, students are expected to make active use of data from the field.</p> <p>(和訳) 21世紀の都市・地域・国家の持続可能な未来のために、男女共同参画の問題を探究する科目です。教育、医療、労働環境、民法など様々な分野におけるジェンダー関連政策とその決定プロセスについて、事前調査、フィールドワーク、学生による発表、学生同士のディスカッションなどを通して探究していきます。まず、東京都豊島区をケーススタディとして、学生個人がよく知っている他の都市や地域と比較します。学生は、それぞれの興味や専門性に応じてグループを編成し、研究の計画を立て、報告します。文献や統計データだけでなく、実際に現地に赴き、可能であればジェンダー関連の政策決定に関わる人々へのインタビューなどを通じて、外部と現地の両方の視点に立った研究を行うことが期待されます。また、発表の際には、現地で作られたデータを積極的に活用することが期待されます。</p>	
	立教ゼミナール1	<p>マンガは現代の日本を代表する文化のひとつである。歴史を題材としたマンガ作品は多く、学校教育と同じくらい（あるいはそれ以上に）歴史知識・歴史意識の形成に影響を与えている。ジェンダーや死生観、戦争や国民国家、歴史認識問題など、人びとの持つ価値観や世界観の変化に対応しながら、新しい歴史像を示すメディアとして、マンガの存在感は歴史をかたるとき無視できないものとなっている。学校教育においても「歴史教育の教材」として注目され、歴史学からも「歴史（学）に興味をもってもらうための入り口」とされることが多い。だが、それらは歴史学を主として、マンガを副とするもので、「どういう史実を利用して、どういう歴史像を組み立てているのか」という「歴史叙述」の観点からマンガが論じられることは乏しかったように思う。その背景には、「歴史学は事実に基づく学問であり、物語とは異なる」として歴史学者の語りを特別視する考え方があった。だが、近年では、歴史学者の語りもまた「物語」という性格をもつことが指摘され、あらためて多様な歴史叙述のひとつとして再検討されるようになってきている。そうであれば、マンガについても「歴史叙述のメディア」の一つとして（授業担当者は歴史学者であるが）歴史学の立場からも議論されるべきであろう。この授業では、歴史学の研究を参照しつつ、マンガというメディアを素材として、メディアの違いによって歴史叙述にどのようなバリエーションが生じるのか、それぞれの特徴は何かを考えたい（それによって歴史学の特徴自体も逆照射されることになるだろう）。本授業の前半は、このテーマを扱った論文を講読し、議論をおこない、後半は幾つかのテーマに分かれて（参加人数をみてグループ分けをおこなう）、参加者には具体的な作品をとりあげて報告してもらうことにする。なお、授業担当者の専門は日本中世史であるが、必ずしも中世を題材にした作品に限定されない。</p>	
	立教ゼミナール発展編 1	<p>6路盤、9路盤では囲碁のルールを学ぶ。 19路盤では模範碁を繰り返し並べながら技術を修得する。 また、囲碁の歴史や、世界的に広まり国際化している囲碁やその魅力について学ぶ。</p>	

多 彩 な 全 学 共 通 科 目 （ 1 人 間 の 探 索 ）	立教ゼミナール発展編 1	東日本大震災から10年以上が経ちましたが、地震と津波により引き起こされた福島第一原子力発電所の大事故を受けて発出された緊急事態宣言ははまだ解除されないままです。10年の間に問題はますます込み入ってきているように思われます。この授業では、原発事故にテーマを絞り、事故がもたらした余りにも多面的な問題のいくつか（全部はとてもしゃないけどフォローできません）について、テキストや資料を読んだり、ゲストスピーカーからお話を伺ったり、学生同士で討論することを通して学んで考えていこうと思います。 原発事故がもたらしている影響はあまりに大きいのですが、この半期の授業で受講生が自力で学んで考え続けるためのスタートラインをつくっていくのが目標です。	
	立教ゼミナール発展編 1	本クラスでは、今日の日本社会においてフェミニズムが内包あるいは対峙している諸課題を批判的に考察する。 昨今、特にオリンピックやSDGsとの関連において「ジェンダー平等」や「女性活躍」の必要性が叫ばれるようになってきているが、そうした観点から唱えられる「フェミニズム」はしばしば新自由主義経済や国家権力と相補的に作用し、それらを強化する機能を果たしていることが指摘されている。一方でこうした「フェミニズム」に異を唱え、経済的な不均衡や人種主義、軍事主義、国家主義に対峙する「フェミニズム」を探究する動きも活発になっている。 本クラスではこうした国家や経済との関連における諸課題のほか、身体、リプロダクティブ・ライツ、セックスワーク、宗教などにおけるフェミニズムの諸課題をとりあげ、考察する。	
	立教ゼミナール発展編 1	近年、急速な人口減少が迫る中、観光開発・企業誘致などの従来型の地域づくりではなく、教育・福祉を軸とした地域づくりが進められ、その成果が報告されている。本講義では、実践家を中心とする多彩なゲスト講師（地方自治体首長、児童養護施設担当者、東日本大震災被災者など予定）から最先端の実践とその考察を講じていただく。 また、科目担当者が30年の実践から導き出されたアクティブラーニング型の授業運営スタイル：ダイアログ（対話）を活用した学び合いを駆使することにより、ゼミ形式における学びを深める。 なお、科目担当者は、国道も信号もコンビニもない長野県泰阜村（やすおかむら）において地域創生に顕著な成果を上げているNPOの代表理事である。	
	睡眠文化論	睡眠は、これまで人間の基本的な欲求に基づく行動であるとされ、もっぱら自然科学の領域において研究が行われてきた。しかし近年の研究では、これまで考えられてきた以上に睡眠には文化的要因が重要であることが指摘され始めている。この授業では、文学、文化人類学や社会学、比較文明論など様々な視点から、睡眠を文化的側面から考えることを目的とする。睡眠のしくみの基礎的な理解から始まり、睡眠の歴史的・地理的変異、現代の睡眠環境、寝具のこだわり、夢の民族誌、文学に見る眠りなどのテーマを扱う予定である。	共同
	ボランティア論	2020年から世界を新型コロナ感染症問題によりコミュニティにおける対人関係の変化が余儀なくされている。今回、コロナ禍の中で多くの市民が「共に生きることができる社会」を目指す新しい価値や活動が求められています。授業では、ボランティア活動について、ボランティアを提供する側だけでなく、サポートを受ける側の気持ちも汲み取りながら、日常的な活動だけでなく、災害や海外での支援、企業の社会貢献活動等の様々な切り口から、現場で活躍されている方々のメッセージも交えて多面的に検討し、社会に潜む諸問題に対して自分自身の視点から能動的にとらえられる学生へと成長できるようにします。	共同

多 彩 な 学 共 通 科 目 総 合 系 科 目 の 探 求	哲学対話 in RIKKYO	この授業には毎回3名の教員が参加しますが、その役割は知識の伝授ではなく、導入的な説明のあとは、グループ・ディスカッションのファシリテータに徹します。 毎回、参加者には少人数のグループになってもらい、その都度のテーマについて議論してもらいます。この対話が授業の主たる内容です。授業の終わりに振り返りを行います。 この授業での哲学対話では、以下のルールを定めます。 ①何を言ってもよい。他人の意見はそのまま聴く。 ②他人を攻撃したり、他人の意見を否定したり、揶揄してはならない。 ③学年や学科の違いを超え、出席者はすべて対等の立場で語る。 以上です。このルールに従う限りで、自由に発言できます。 各回のテーマは、以下のように、学生生活の身近にある問題を取りあげます。	共同
	「伝えること」とは何か	各回にメディアで様々な情報を発信するジャーナリストを中心にゲストに招き、コミュニケーションの実践を議論し、受講生からのレスポンスを引き出す。  ①聖書はどのような経緯で世界に広がったのか—テキストを読むこととは、②21世紀前半、加速化するメディアの変化をいかにつかみ取るか、③ニュース報道を読み解く視座を養う、④テレビの見せ方、聞かせ方の技法とは、⑤世界情勢を伝える視点、民主主義の役割とは何か、⑥経済新聞記者が語る「経済情報」の見分け方、⑦選挙や政治家の演説を読み解く—政治報道の功罪とは何か、⑧日米のコミュニケーション、インターネットの使い方の違い、⑨警察、検察を取材し、報道する技術とは何か、⑩患者に病を理解してもらうためにどう伝えるのか、⑪生きる人に「死」をいかに説明するのか、⑫権力との対話の難しさをめぐって、⑬YouTube運営と再生回数、収入の関係について、⑭総括	共同
	仏教の世界	グローバル時代のいま、何かと注目され始めている仏教。たとえば、海外でも「禅」に人気があったり、日本の若者には「パワースポット」のブチブチが起ったりしています。実はとっても身近な存在なのですが、私たちは気付いていないのです。そんな仏教を、根本的な考えから宗派まで、多角的に分かりやすく学習します。	
	日本の宗教	本コースの授業では歴史をたどりながら日本における宗教（神道、仏教、道教、儒教、キリスト教、新宗教など）について学んでいく。	
	日本の宗教	日本の宗教の歴史において重要な人物の物語・伝記や著作物等を取り上げる。『今昔物語集』などの説話集、伝記、絵巻などのテキストを読むことを通じて、日本の宗教のあり方を考える。	
	日本文化と精神性	最初に、そもそも日本とは何かについて考えます。その際、アイヌや琉球民族にも言及しつつ、近代的な国家の成立についても扱っていきます。次に、新聞や雑誌といったメディアが、日本の近代にどのような発展と普及を遂げたかを扱います。メディアの発展と関連し、鉄道網の普及史も扱います。「文学と思想」では、宮沢賢治や高村光太郎など、日本の近代における主要な作家を扱います。「近代仏教」では、仏像鑑賞や文学の中の親鸞像など、多様な視点から、近代の日本における仏教の諸相を扱っていきます。	
	立教学院とポール・ラッシュ	立教学院とポール・ラッシュ博士の関わりについて、歴史、スポーツ、教育、理念の4つの視点から、ゲスト・スピーカーからの講義およびグループディスカッションから議論する。	共同

多 彩 全 学 共 通 科 目 （ 1 人 間 の 探 求 ）	多文化共生社会と日本	日本国内の日本語母語話者（言語的マジョリティ）、日本国内で生活する日本語上級者（生活に不自由を感じていない者）として、日本における多文化共生の在り方や国内の大学の役割について批判的に語るができるとともに、多文化共生社会とはどのような社会かをやさしい日本語で説明することができる。また、日本が目指している多文化共生の形や実現のための方法をヨーロッパやアメリカ、アジアの国々と比較し、それぞれの特徴を知ることによって、日本に暮らす多様な人々が真の意味で共生していくことを可能にするためには、日本に暮らす言語的マジョリティがどのような態度を持ち、どのように行動していくべきか、やさしい日本語で表現することができる。そして、そのような日本の多文化共生社会の実現のために、日本の大学は何をすべきかについて考え、やさしい日本語で提案することができる。また、授業を通して、やさしい日本語の運用能力を高め、具体的に基本的なやさしい日本語表現のみならず抽象的な事柄もやさしい日本語で伝えることができる。	
	Japanese Ethnology	（英文） The anthropological approach to the study of culture and English communication. Colloquial practices and Case studies from a variety of ethnographic materials (e.g. articles, journals, talk shows, and greetings) are used in exploring the universality of cultural expressions and social customs both in Japan and in other societies. （和訳） 人類学的アプローチによる文化と英語コミュニケーションを取り上げます。口語的な慣習や、様々な民俗誌的資料（論文、雑誌、トークショー、挨拶など）からのケーススタディを用いて、日本と他の社会における文化表現や社会習慣の普遍性を探ります。	
	Japanese Ethnology	（英文） This course will survey major themes and issues in the study of Japanese culture. Particular attention will be paid to youth, labor, health, illness, and cultural changes associated with the transition to a highly aged society. Through an exploration of Japanese culture, this course will also introduce common anthropological areas of inquiry, including gift-giving, communities, personhood, and ritual. Students will learn how to critically engage with Japanese culture as well as its portrayals in the media and scholarly literature. This course will consist of a combination of lecture and discussion. （和訳） この授業では、日本文化の研究における主要なテーマと問題を調査します。特に、若者、労働、健康、病気、そして高度高齢化社会への移行に伴う文化的変化に注目します。また、日本文化の探求を通して、贈答品、コミュニティ、人間性、儀式など、人類学的によく知られている分野を紹介していきます。学生は、メディアや学術文献における日本文化の描写について、批判的に取り組む方法を学びます。この授業は講義とディスカッションの組み合わせで構成されています。	

多 彩 全 学 共 通 科 目 （ 1 目 人 間 の 探 求 ）	World History	<p>(英文) This course will provide an outline of the major political, social, cultural and economic changes that occurred in Western Countries during the modern period and show how these changes impacted upon the rest of the world. It will adopt a thematic and a broadly chronological approach. Special emphasis will be placed on themes such as Revolutionary Transformations, the Emergence of Modern Nation States, the Construction of Empires, Decolonization and Globalization. Students are required to complete assigned readings and prepare answers to discussion questions in note form before coming to class. They will also write one essay of 1,500 words.</p> <p>(和訳) この授業では、近代に西欧諸国で起こった政治的、社会的、文化的、経済的な主な変化の概要を説明し、これらの変化が世界の他の地域にどのような影響を与えたかを示します。テーマ別、大まかな年代別のアプローチを採用しています。特に、革命的な変化、近代国民国家の出現、帝国の建設、脱植民地化、グローバリゼーションなどのテーマに重点が置かれます。受講者は、授業前に課題図書を読み、ディスカッションの質問に対する答えをノートにまとめておく必要があります。また、1,500語のエッセイを1本作成します。</p>	
	Religions in Asia	<p>(英文) Focussing on religions in South Asia (India) and East Asia (China, Korea, Japan), this course will explore the historical and cultural developments of religions in each region. Various aspects of religions such as Hinduism, Confucianism, Daoism, Buddhism, and Shintoism will be explored. Among these, Buddhism will be a major focus of attention as a religion that has had wide-ranging impacts on societies and cultures in regions east of India throughout history. Sessions will be conducted as Zoom meeting sessions, mainly consisting of lectures given by the lecturer, plus group discussions in several sessions using the Breakout Session function. During each session, students are expected to actively participate by expressing and exchanging views and ideas on the topics being explored.</p> <p>(和訳) この授業では、南アジア（インド）と東アジア（中国、韓国、日本）の宗教に焦点を当て、それぞれの地域における宗教の歴史的・文化的発展を探ります。ヒンズー教、儒教、道教、仏教、神道などの宗教のさまざまな側面を探求します。中でも仏教は、歴史上、インド以東の地域の社会や文化に幅広い影響を与えてきた宗教として注目されています。セッションは、講師による講義を中心としたZoomミーティングセッションに加え、いくつかのセッションではBreakout Session機能を使ったグループディスカッションを行います。各セッションでは、学生にも積極的に参加していただき、テーマに沿った意見交換をしてもらいます。</p>	
	Peace and Human Rights 1	<p>(英文) Students are required to show cooperative teamwork in presentation and discussion. After each content introduction, students are expected to propose positive and constructive solutions to the diverse problems as the final project.</p> <p>(和訳) プレゼンテーションやディスカッションでは、協調的なチームワークを発揮することが求められる。各コンテンツの紹介の後、最終プロジェクトとして、多様な問題に対する前向きで建設的な解決策を提案することが期待されています。</p>	
	Peace and Human Rights 2	<p>(英文) Students are required to show cooperative teamwork in presentation and discussion. After each content introduction, students are expected to propose their own suggestions to the diverse problems as the final project.</p> <p>(和訳) プレゼンテーションやディスカッションでは、協調的なチームワークを発揮することが求められます。各コンテンツの紹介の後、最終プロジェクトとして、多様な問題に対して自分なりの提案をすることが求められます。</p>	

多 彩 な 学 び （ 2 社 会 へ の 視 点 ） 全 学 共 通 科 目 綜 合 系 科 目	入門・経済教室	経済学の基礎的概念である市場の役割と限界を中心に、経済学および経済の基本的な考え方について講義を行う。さらに、その「市場の役割と限界」という視点から、現実が生じている経済の諸課題として「所得分配と貧困」、「グローバル化」という2つのテーマについて考察し、学生の理解を深めたい。	
	入門・経済教室	私たちを取り巻く経済の動きを知るには、最低限習得すべきスキルを必要とします。最初に、どんなスキルが必要なのか、そのほんの初歩を、最新の日本経済を例にとりて学生の皆さんに知ってもらいます。さらに、そうした経済のしくみを解き明かそうと努めた代表的な経済学者たちについて知っておくことは、現代人として身に付けておくべき必須の教養の一部であることが強調されます。この講義では、特に5人の経済学者について触れます。	
	入門・経済教室	マルクス経済学やマクロ経済学といった経済理論を用いて、現在の日本経済が抱えている諸問題について、初学者にもわかりやすく解説していく。 扱うトピックとしては、日本経済の成長、労働環境、結婚、貨幣、金融政策、企業利益、グローバル化などのほか、時事的な経済ニュースの解説なども行っていく予定である。	
	景気・格差問題と統計情報	計情報を利用して現代社会の現状を理解する方法を学ぶ。授業は講義と演習を組み合わせで行う。毎回のテーマについて、得られた統計を読み解き、その特徴や課題を発見するスキルを養う。	
	法と社会	担当者が執筆したテキストブックを用い、その内容について詳しく講述する。比較法の基礎理論すなわち比較法原論が講義の中心となる。講義の後半は、比較法各論として、アメリカ比較法学を代表するマティアス・ライマンの比較法史研究を取り上げるとともに、ヨーロッパ民事訴訟法史にも論及したい。	
	法と社会	この授業では、日常生活で問題となる事例（最高裁判例）を取り上げて、法的な考え方を学ぶことにより、これからの社会生活を営んでいく上で必要な知識と議論の仕方を身につけさせる。内容的には、法律を初めて学ぶ者を対象に、わかりやすい講義となるよう工夫をする予定である。また、授業では、できる限り小グループでのディスカッションを行い、理解を深めることとする。	
	政治と社会	池田成章(1840-1912)は幕末・明治の米沢藩を支え、山形県の政治・経済の基礎を築くのに大きな役割を果たした人物で、渋沢栄一にも比せられた。その子成彬(1867-1950)は、三井銀行常務取締役や財界の中心として大正・昭和期日本の経済を支え、大蔵大臣兼商工大臣などを務め、戦後、吉田茂の後ろ盾としても重要な役割を果たした。この父子二代の人生を辿ることで、山形・米沢の地域と日本における政治・経済がどのような変遷を経たかについて、講義を行う。担当教員は、池田成彬についての評伝を刊行すべく準備中であり、講義はその草稿をもとに行う。参加者はこの講義を聴講し、毎回、感想及び質問と、その回に関心を持ったトピックや人物についての小レポート(1000字以上)を提出する。次の回の冒頭、これらの一部を取り上げフィードバックする予定である。	

多 彩 な 学 び （ 2 社 会 へ の 視 点 ） 全 学 共 通 科 目 総 合 系 科 目	政治と社会	<p>この講義は、政治を扱った映画を見る講義ではありません。ましてや「楽単」と呼ばれるような授業ではありません。様々な映画を、政治学の主要テーマや基本概念を理解するための手段として利用し、映画を通じて現代社会が抱える諸問題について考えていく講義です。講義は、古代ギリシアの直接民主主義を確認するところから始まり、続いてシュミット独自のデモクラシー解釈による独裁理論へと向かっていきます。その後、戦後日本における自民党の利益誘導型政治（田中角栄）や、その2000年代初頭における新自由主義的でポピュリズム的な「改革」型政治（小泉純一郎）の問題へと進んでいきます。また、それぞれが自らの考える「正しさ」を主張し合って、嘘と隠蔽、対立と分断、差別と排除を強めていく、「ポスト真実」の時代と呼ばれる現代の政治についても考えます。また、対立を乗り越え、新しい社会を生みだそうと試みる境界人の可能性についても考えたいと思います。このように現代社会を考える数多くのテーマを取り上げることによって、学生自身の政治と社会を視る眼を育てていくことが、この講義のねらいです。また、小レポートの提出やその相互評価を通じて、自らの考えを説得的に伝える技能にも習熟してもらいます。</p>	
	グローバル社会における法と政治	<p>中国は世界第二の経済大国に成長し、政治的な影響力も強める一方、中国が自国の一部と主張する香港・台湾との間で近年関係が複雑化し、日本にとっても安全保障や環境などの多くの面で脅威と見なされる傾向が強まっています。このため、中国・香港・台湾に対する日本社会の関心は高まっていますが、一部のメディアやネット上の情報には正確さを欠くものも少なくありません。日本で社会人として中国・香港・台湾と接触する機会をもつ人は増え、日本で暮らす人々にとって、これからの時代、中国・香港・台湾を正しく理解することはますます重要になります。本講義では、現代中国・香港・台湾を冷静に、正しく理解するための情報を提供します。</p>	
	グローバル社会における法と政治	<p>租税法は法学部の中でも比較的難しい科目と位置付けられています。この科目は、高校卒業程度の知識で理解できるように設計されています。税金について扱いますが、会計の知識などは必須ではありません。税金について扱いますので、計算問題を幾つか扱いますが、殆どが四則演算レベルです。最も難しい計算でも、文系数学までの知識を前提とします。</p> <p>世の中の殆どの方は、租税について不満を抱えていると思います。二重に課税されているのではないかと一見思われるような租税に直面すると、更に不満は高まることでしょう。しかし、税制に限らず、殆どの社会の制度は、人類が長年あーでもないこーでもないと苦心して作り上げてきた叡智の結晶です。税制ももちろん、叡智の結晶です。一見不合理に思われる税制にも、勉強していくとそれなりの正当化理由があったりします（逆に、一見合理的に思われる税制にも、正当でないとする理由があったりもしますが）。この科目では、国際租税法を勉強します。</p>	
	グローバル社会における法と政治	<p>この授業では、海外の動向に大きな影響を受けている、これまで国内の問題としては積極的に取り組まれてこなかったいくつかの問題を取り上げます。そこでは法的な視点から捉えなおして論点の整理を試みます。また、法的視点にかぎらずに倫理的視点、もしくは哲学的視点を含む一般的な視点に立つこと、そしてそこから物事を分解・整理して自己の考え方に照らし合わせて批評する、ということについても簡単に説明し、自分の頭で物事をとらえる練習を試みます。取り上げるのは、代理出産（生殖医療）、外国人労働者（移民問題）、そして現在問題となっている感染症対策に関する問題（公衆衛生倫理）です。これらについて「個人の自由」および「他者との公正な関係」という切り口から分析と検討を進めていきます。また、テーマと関連するビデオ視聴も行う予定です。</p>	
	現代のビジネスを学ぶ	<p>我々の社会にとって企業は必要不可欠な存在と言っても過言ではない。本講義では、社会に大きな影響を与える企業の仕組みや、組織のシステム、また経営の方法について、コーポレートガバナンスの観点より学ぶ。これは、企業の社会における役割や存在意義を学ぶことでもある。</p>	

多 彩 な 学 び （ 2 社 会 へ の 視 点 ） 全 学 共 通 科 目 総 合 系 科 目	現代のビジネスを学ぶ	経営学は、領域学とも呼ばれ、様々な学問を包摂している。この講義は学部を問わず、全学の学生を対象としており、経営学は領域学であるからこそ、全ての学生に役立つものである。このことに鑑み、本講義では企業で有効とされる経営理論とその企業の形態の基礎について学ぶ。	
	現代のビジネスを学ぶ	「現代のビジネスを学ぶ」うえで必要な経営学の基礎的な理論を解説したうえで、日本企業の実例を通して受講者の理解を深める講義を行う。 担当教員は、本学経営学科卒業の後、メガバンク勤務があり、組織運営の事例では本学と他大学の比較や金融業界を採り上げる予定である。	
	企業と社会	本授業は、「企業と社会」に関し、①企業の原則と存在意義、②CSRの登場と発展、批判、③CSRの最新動向と今後の企業経営の課題、の3つのテーマを中心に扱う。それにより、企業と社会との関係の歴史的变化、議論の状況、そして現代の企業社会間関係の有り様を学び、そして、自分の考えをまとめる。	
	企業と社会	本講義は、経営戦略論、組織理論、マーケティング論等の基礎的理論を解説したうえで、日本企業の実例を通して受講者の理解を深める講義を行う。 担当教員は本学経営学科卒業の後、メガバンク勤務経営がある。講義における事例研究では本学と他大学の比較を採り上げる予定である。	
	企業と社会	企業は、ヒト、モノ、カネという経営資源を活用してビジネスを行っています。この経営資源を調達する場所が労働市場、原材料市場、金融市場です。 本講義では、企業を取り巻く経営環境としてこの3つの市場と企業行動の関係に焦点を当て、企業の事例も取り入れながら、学習していきます。	
	現代社会と環境	環境破壊における過去の教訓に学び、「足尾銅山鉱毒事件」、「水俣病事件」、そして「フクシマ」を貫く現代社会の問題の本質に迫る。特に、「3.11」から5年を待たずして原発が再稼働された今日、「現代社会と環境」の視点から「フクシマ」の意味を明らかにすることを試みる。また、「真の文明とは何か」を多面的に問う作業を通じて、問題の解決に向け、農業という人間の営みのもつ可能性へと議論を接続する仕方で、今後の日本社会の展望を探りたい。	
	情報と倫理	日々、生まれ、変化するサービスやビジネス、人工知能（AI）など最新技術を利用した新たなビジネスや働き方が、私たちの生活や社会をどのように変えていくのか。基本的に知っておくべき知識を整理し、情報倫理に関わる、時事的な話題について解説する。演習やグループディスカッションを通して、自分なりの考えを整理し、アウトプットするとともに、多様な考えを知り、思考を深める。	
	メディアと人間	日常の社会問題を取り扱ったドキュメンタリーや映画などは、直接言及していないものの、そのテーマが憲法に直結していることが多い。本講座は、憲法や法学の初学者を対象に、映像作品を通して日本国憲法を学ぶ。なお、系統的に学ぶためには、別途全学共通科目/全学共通カリキュラムの「日本国憲法」や法学部の科目を受講することを勧める。	
	文化と社会	小規模な劇場やライブハウスには主に2つの特徴が見いだされます。1つは若い実演家に活動の機会を提供することであり、もう1つはベテランの実演家に実験的な実演の機会を提供することです。一方で、経済面に目を向けると、さまざまな問題も認められます。いずれにせよ、小規模な劇場やライブハウスは社会的に目立つものではありません。しかし、様々な統計データや社会学的調査の検討を通じて、その実情を深く学ぶことは、日本社会における文化の社会的意義や問題点をさまざまな角度から考える力を養うことにつながるはずです。	



多 彩 な 学 び 全 学 共 通 科 目 綜 合 系 科 目 (2 社 会 へ の 視 点)	現代社会の解説	ジェンダー&セクシュアル・マイノリティあるいは、LGBTQ+と呼ばれる人たちの経験を紹介する。カミングアウト・アウティングの問題、引き直される家族の境界、子どもの抱える問題、当事者運動の歴史などについて、焦点化して講義する。	
	いのちの尊厳と福祉を考える	日本において憲法第25条にうたわれている社会福祉は社会的基本権のひとつである。その形成には歴史があり、内実は今なお変容している。社会福祉の理解には、①自存的固有性、②歴史的形成性、③社会的課題、④生活者としての存在、⑤実践の志向性、⑥個別支援性、⑦市民主体性、⑧媒介調整機能、⑨自立生活の支援、という視点が求めらる。いのちの尊厳とは何か、いのちの尊厳と社会福祉との関わりはどうあるのか、いのちの尊厳と福祉のマクロ環境、メゾ環境はどうあるのか、歴史的系譜や各地の実践を参照しながら多角的に考察する。	
	コミュニティをデザインする	ノーマライゼーション理念の「人権・平等の思想」、「障害者の障害を理解し相互の存在を受容すること」、「ノーマルな生活条件」を提供するという理念の背景となる「共生原理」の視点を学ぶ。そして、障害者福祉の視点から多様な人間への支援（ケア）実践とコミュニティ（地域社会）における社会的な生活問題や福祉文化との関わりについても考える。	
	コミュニティをデザインする	現代の社会問題の根源にあるもの、貧困格差や社会的排除等の課題は身近な自分のくらしに惹きつけて考察する中で真実が見えてくる。現代はグローバルなものとローカルなものが分かち難い密接な関係にある。傍観者としてはいられない。基礎情報を提供するので、自分なりに考え自分なりの結論を導き、何事にも主体者としての関わりを感じるような講義を心がける。毎回リアクションペーパーを書いてもらい、それによって、最終的には「よりよい社会のあり方」のイメージに繋げていく。	
	コミュニティをデザインする	この授業は、コミュニティ政策学科の教員によって行われる。「廃校」や「空き家」が増加するなかで、その利活用が進んでいる。それは、いかなる背景から生まれ、どのような意味があるのか。このような関心から、まず講義の前半では、公共性、空間や建物、ハードとソフトの関係に関する原理的考察を行う。次に後半では、「廃校や空き家」のリノベーション事例を見ていく。キーワードは、リノベーション、コモンスペース、公共性など。以上を通じて、公共空間の（再）構築・創出が、自分たちに身近な問題であり、多様な実践可能性に開かれていることを示す。	
	観光学への誘い	観光学の総合的な理解に向けて、観光を歴史、文化、政策、産業、人々の行動といった多様な側面からの視座を学ぶ。	
	観光学への誘い	本講義では、観光という多層的な社会現象について考える際の基礎的な視座を学ぶ。観光の歴史、観光と文化、観光と宗教、観光とメディア、観光と災害など、観光関連問題について国内外の事例を交えながら紹介し、観光学という学際的な学問領域を概観する。	

多 彩 な 学 び （ 2 社 会 へ の 視 点 ） 全 学 共 通 科 目 総 合 系 科 目	異文化コミュニケーションを考える	<p>(英文) As a result of globalization and the advancement of the information society, news consumers of today have immediate access to news from around the world. However, they know very little about the identities of the translators and interpreters involved in international news production, their motives, or their role as intercultural mediators. This course will allow students to learn how translation and interpreting practices are conducted for and by the media, as well as the specific issues involved in the process.</p> <p>(和訳) グローバル化と情報化社会の進展により、現代のニュース消費者は世界中のニュースにすぐにアクセスできるようになりました。しかし、国際的なニュース制作に関わる翻訳者や通訳者のアイデンティティや動機、異文化間の媒介者としての役割については、ほとんど知られていません。本授業では、メディアのために、メディアによって、どのように翻訳・通訳が行われているのか、その具体的な問題点を学ぶことができます。</p>	
	異文化コミュニケーションを考える	<p>(英文) This course is intended for motivated students who would like to learn basic concepts and theories of intercultural communication and to examine issues caused by differences in cultural values and communication styles not only between national cultures but also within national cultures. For that purpose, students will discuss a range of intercultural issues related to such elements as race, class, gender, age, profession and religion. The course experience will provide students with activities in pairs, small groups, and large groups where they explore ways in which they can communicate well with culturally different others.</p> <p>(和訳) この授業は、異文化間コミュニケーションの基本的な概念と理論を学び、異文化間だけでなく、異文化内の文化的価値観やコミュニケーションスタイルの違いから生じる問題を検討したい意欲的な学生を対象としている。そのために、人種、階級、性別、年齢、職業、宗教などの要素に関連するさまざまな異文化間問題を議論する。この授業では、ペア、小グループ、大グループでの活動を行い、文化的に異なる他者とうまくコミュニケーションする方法を探ります。</p>	
	シティズンシップを考える	<p>2015年の公職選挙法改正で選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられ、2016年の選挙から高校3年生や大学1年生が選挙権を持つようになりました。このことがどのような社会的、政治的意味をもっているのか、そして、学校教育や大学での教育にどのような変化がもたらされることになるのかを、一緒に考えていきたいと思えます。そのことを通じて、人文社会科学や教育学を学び研究していくうえでの基本的な考え方を身につけていくことをめざします。初回の授業時に、グループ分けを行います。</p>	
	シティズンシップを考える	<p>2016年6月から「18歳選挙権」が始まり、2022年4月から「18歳成人」時代となる。18歳の高校3年生でも選挙で投票ができ、成人になるということは、18歳になるまでに「子どもを市民」「子どもをおとな」に育てていくことが重要となる。Covid-19含め、不確実な社会を歩んでいる今、主権者を育てるための教育＝シティズンシップ教育にはどのような取り組みがあり、効果や課題は何なのか。グループによる「シティズンシップ教育」をデザイン・企画し、実践につなげる。オンラインを活用しながら、一方的な講義ではなく、学生同士のディスカッションやワークショップ、ゲストスピーカーとの対談などといった参加型で展開をする。学生自身の積極的かつ主体的な参加を期待している。</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">           多 彩 な 学 び            全 学 共 通 科 目 総 合 系 科 目            (2 社 会 へ の 視 点)         </p>	<p>デモクラシーと リベラルアーツ</p>	<p>この科目はコミュニティを理解し、コミュニティに関わる能力を習得することを通してシティズンシップ（市民性）を習得することを目的とする。授業では国内外の様々な社会課題の事例を取り上げる。授業の進め方として、民主主義の課題や、リベラルアーツという学問の役割について、受講する学生同士がディスカッションやプレゼンテーションをおこない、自分の意見と向き合い、それを他者に伝える姿勢や、お互いから学び合うピア・ラーニングを重視する。</p>	
	<p>大学と現代社会</p>	<p>教育機能と学生生活を中心に、大学の歴史と現状、およびそれらの背後にある／あった社会の状況について学習します。またその過程で、履修者が自身の学生生活について省察する機会を適宜設けます。授業の方法については次の通りです。 ①授業は講義、映像資料の視聴、グループワーク、ディスカッション等によって構成します。 ②授業参加者の対話（ともに話し、聴き、読み、書く）を重視します。 ③履修者数を考慮の上、グループ発表の機会を設けます。</p>	
	<p>大学と現代社会</p>	<p>グローバル社会では、より多様で複雑な判断が常に求められる。本授業では、そうしたグローバル社会で生き抜くうえで必要な「学ぶ力」「考える力」「信頼関係を構築する力」について理解を深める。さらに、そうした力を大学教育においてどのように培っていくかについても考えていく。</p>	
	<p>世界の中のロシア</p>	<p>本授業において、ロシアに関する知見を幅広く紹介する。まずソ連時代を簡単に概観し、次いでソ連解体後のロシアについて、政治体制、経済の転換とその帰結、ネイション形成とナショナリズム、ジェンダー秩序、人口動態と福祉の課題、外交・安全保障政策という重要な論点に分けて論じる。</p>	
	<p>ドイツ語圏の社会</p>	<p>第2次大戦後、冷戦の下で東西に分かれて出発した両ドイツは、異なった政治体制の中で40年あまりを過ごした後、1990年、やや性急ながらも再統一を実現した。しかしその後、経済は失速し、欧州の病人と呼ばれるまでに衰退したが、いくつかの改革とユーロ危機を経て、欧州における経済的政治的存在感を高めている。このようなドイツの戦後の歩みを検証する。ドイツはなお現在進行形である。授業の内容は変更することがある。</p>	
	<p>ドイツ語圏の社会</p>	<p>20世紀は、ドイツにとってもヨーロッパにとっても激動の時代だった。2度の敗戦、ナチ時代、ホロコースト、戦後の東西分断時代とドイツ再統一—20世紀のドイツの変遷を追いながら、現在のドイツにとっての重要な問題の根源を検証し、ドイツとヨーロッパの今後の課題について考える。講義では、映像資料を多用して理解の手助けとしていく。</p>	
	<p>フランス語圏の社会</p>	<p>普仏戦争から現代に至るまでのフランス社会において転換点となった各々の出来事を検討し、分析する。さらに旧植民地やフランス海外県の歴史の変遷を確認することで、社会的矛盾を含むさまざまな葛藤のなかで「フランス」がどのように形成されていったのかを把握する。授業では映像資料なども使用し、各テーマによりいっそう具体的に迫れるように図る。</p>	
	<p>スペイン語圏の社会</p>	<p>スペイン語を母語とする人は世界で4億人を超える。授業ではその大部分が住むアメリカ大陸を中心に、スペイン、赤道ギニアも必要に応じて参照しながら、人口、産業などの統計読解を通じて、過去と現在、地域と地域とを比較しつつ、ラテンアメリカの文化社会問題について学ぶ。授業では統計数値の意味とその背景に触れつつ講義を進め、統計集(テキスト)を用いて授業内に課題作成を指示するので、受講者は授業にテキスト(統計集)を必ず持参すること。</p>	
	<p>スペイン語圏の社会</p>	<p>スペイン近現代の政治・社会・経済の歴史上、主要な出来事を時系列に沿って概略を論ずる。その際、最新の学術的成果が反映される。</p>	

多彩な学び <small>全学共通科目総合系科目</small> (2) 社会への視点	中国語圏の社会	<p>中国を含む中国語圏の地域は歴史的に密接なつながりを有しており、その中心から見るのであれば、そこには一つの流れと、いくつかの共通性をはっきりと見出すことができる。しかし、特にその周縁に当たる地域やその社会を具体的に見ていくと、そのありかたは決して一様ではなく、むしろ歴史的に形成された多くの差異と多様性に満ちていることに気付く。中国語圏の社会について学ぶうえで、上に述べた共通性と多様性を、その中心と周縁双方の観点から、具体的な事例や人物を通して理解することは、何より重要な課題となると思われる。本講義では、まず中国本土の伝統的な社会の特徴について学ぶ。次に、中国を含む中国語圏を移動する／した人々としての中国人・華人 (Chinese)、および中国語圏の周縁に当たる台湾・シンガポールという地域の社会とその歴史について、具体的に学んでいく。これらの内容を通し、前述した課題を達成することは、現代の中国や東アジアのあり方を考えるうえでも大きな意味を持つだろう。</p>	
	朝鮮語圏の社会	<p>映像は、様々な民族と社会集団の考え方と姿を効果的に表現する超国家的な文化様式である。本授業は、『コリアン・シネマ』の歴史と産業論、政治・社会的意味、美学的特性を議論し、植民地支配、戦争と南北分断、民主化、脱北問題などのテーマから、女性と家族、食べ物、韓流、グローバル化などのキーワードを通して、映画に描かれているコリアン社会の歴史と変動、そして文化的アイデンティティを紹介する。</p>	
	朝鮮語圏の社会	<p>総合的学問として、全ての学問の大きな柱を形成する社会科学分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後各自の専門分野に東北アジア、とくに「日韓」という視座を応用・実践していただければ幸いです。</p>	
	社会調査入門	<p>社会調査の目的や方法論について概説しつつ、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法などの類型についても整理し、社会調査史や調査の種類と事例あわせて調査倫理について学ぶ。調査票調査やフィールドワークなど、データの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項についても概説する。</p>	
	社会調査の技法	<p>10回分を量的調査、5回分を質的調査法のデータ収集法にあてる。量的調査に関しては、調査の企画・設計から、標本抽出や調査票の作成、実査の方法、データ作成や分析の考え方などを扱う。質的調査に関しては、調査の企画から、フィールドノートの作成など収集データの整理の技法までを扱う。</p>	
	データ分析入門	<p>度数分布表、グラフの作成、代表値、分散、変動係数、ジニ係数などの記述統計量、因果関係と相関関係、クロス集計、回帰分析、簡単な時系列データの分析などを扱う。統計的資料の整理と提示法についても学ぶ。</p>	
	データの科学	<p>統計的データの集計・分析に必要な、基礎的な統計知識について学ぶ。記述統計学と推測統計学のうち、主に推測統計学に重点を置いたカリキュラムを展開する。確率論に基づいた推測統計学の基本的な考え方を身につけ、平均値や中央値、最頻値や分散、標準偏差といった基本統計量、共分散や相関係数といった変数間の関連性の強さを表す指標、クロス表の関連指標と独立性についてのカイ二乗検定、単回帰分析、偏相関係数と交絡変数の統制、重回帰分析などについて学ぶ。また、t検定や分散分析といった検定論についても学習する。統計学の応用的な内容を学習し、1変量、2変量を扱った分析手法から、多変量解析の入り口となる3変量を扱った分析手法についても一部学習する。</p>	
	Introduction to Statistics 1	<p>(英文) The following contents will be studied; frequency table, making statistical graphs, basic statistics as mean and variance, correlation and causation, analysis of variance and so on.          (和訳) 頻度表、統計グラフの作成、平均・分散などの基本統計、相関・因果関係、分散分析などの内容を学修します。</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">           多彩な学び  <small>全学共通科目総合系科目</small>            (2) 社会への視点         </p>	Introduction to Statistics 2	<p>(英文) The following contents will be studied; Basics of statistical inference, population and sample, estimation, statisticla test and so on.</p> <p>(和訳) 統計的推論の基礎、母集団と標本、推定、統計的検定などを学修します。</p>	
	国際情勢を読み解く	<p>コロナ禍に揺れる世界、アメリカ国内の分断、米中の貿易戦争、北朝鮮の核開発、欧州の混乱、中東情勢の緊迫化など、世界は激動している。その現状を、少し前に歴史にさかのぼることで解きほぐす。積極的な質問を歓迎する。</p>	
	パレスチナ問題の歴史と現在	<p>世界で最も解決するのが難しい紛争の一つと言われる、「パレスチナ-イスラエル問題」。70年以上も問題が解決されないのは何故でしょうか？</p> <p>社会的、歴史的背景を紐解きながら、戦争について、宗教について、正義について、国際政治について、多角的に考える機会を作りたいと思います。講師は2012年8月～2017年2月までパレスチナ自治区で国際協力NGO職員として活動していました。東エルサレムに住みながら、ガザ地区と西岸地区で子どものための保健事業を実施。ガザには100回程訪れています。</p> <p>イメージに囚われないパレスチナ問題を知りたい方、平和、正義、宗教、政治、国際協力等に興味のある方、是非受講してみてください。</p>	
	立教ゼミナール2	<p>行動経済学は人間を合理的な意思決定ができる人間ではなく、近視眼的で誘惑に弱く、さまざまなバイアスに満ちた非合理的な存在であると考えます。このような観点から、行動経済学は狭い意味での経済問題だけでなく、犯罪などの社会問題や、マーケティング、金融など、さまざまな分野へ応用することが可能です。行動経済学の基礎を学んだ後に、それがどのように応用できるのかを考えます。</p>	
	立教ゼミナール2	<p>まずテキストを用い、自分で仮説を作って研究を進めることやモデルの考え方など実証研究の具体例について学ぶ。自分で理論や仮説を組み立てる方法を考えることが大切。その後、他のテキストや論文を読み、社会階層研究など幅広く様々な分野の研究内容を理解する。理論と実証の往復を重視する。社会調査データの分析結果を用い、ゼミ形式で発表と討論を楽しく行う予定。現実の社会に対する広い視野を持ち、自分自身で分析し、真実とは何か自分で判断する能力を重視する。</p>	
	立教ゼミナール2	<p>この授業は、講義と個人での分析実習、および、グループワークにより構成される。前半は、データを活用する意味やその具体的な方法、さらには分析ツールの使い方を学ぶ。後半は、4人程度のグループに分かれ、各グループが設定した課題に関し、データの収集やその分析と結果のとりまとめを行う。</p>	
	立教ゼミナール2	<p>授業では、宇野重規『民主主義とは何か』（講談社現代新書）とマイケル・フリーデン『リベラリズムとは何か』（ちくま学芸文庫）をテキストとして講読する。これらのテキストについて、あらかじめ決めた担当者によるレジュメ報告を行い、その後にディスカッションを行う。</p>	
	立教ゼミナール2	<p>5～6人程度の小グループに分け、毎回、発表者がテキストの担当部分を整理して内容を紹介します。コメンテーターがそれを受けて自分なりの意見を述べます。そして司会者（ファシリテーター）はそのグループの参加者が創造的な意見が出せるような司会を目指します。また持続可能な暮らしの実践についての資料検討、映像を視聴することにより、現状把握と未来へのビジョンをふまえて持続可能な暮らしの具体的なプランを作成します。</p>	
立教ゼミナール2	<p>学生は3人の小グループに分かれ、教科書の担当箇所を発表する。各チームは割り当てられ資料もしくはテキストを要約し、発表者がクラスで口頭でその要約を発表するものとします。</p>		

多彩な学び（2 社会への視点） 全学共通科目総合系科目	立教ゼミナール発展編 2	<p>多文化化の現状や今後の課題について、主にグローバル都市空間の現実に照準を定め、比較を試みる。現代社会におけるエスニシティやマイノリティをめぐる諸問題を、差異、他者性、アイデンティティなどの現代社会学、文化人類学における理論的概念を中心に学習していく。その上で、近年における多文化主義に関する理論的・政治的・実践的議論を踏まえながら、北米、豪州などのメトロポリタン都市空間における多文化化の歴史と現況、多文化共生とかかわる政策や実践事例を紹介する。そして、視野を東アジア地域に移し、日本と韓国での現状を検討し、北米・豪州における現状との比較考察を試みる。さらに、本年度には、「新型コロナパンデミック」の影響が、世界の多文化・メトロポリタン都市においてどのように異なっていたかについても、現地のメディア報道などで調べる。</p>	
	立教ゼミナール発展編 2	<p>大学において、様々な危機管理を扱う分野や、金融に特化したリスク（保険）等を扱う分野の専門的講義はあると思われるが、誰でもが実際に遭遇する可能性が高い日常的なリスクを扱う学際的なリスクマネジメントの講義は少ない。本講義では、リスクの予防や対処の論理を教育資源ととらえ、リスクマネジメントを多角的な視座でとらえ直すことをおこなう。</p> <p>また、科目担当者が30年の実践から導き出されたアクティブラーニング型の授業運営スタイル：ダイアログ（対話）を活用した学び合いを駆使することにより、ゼミ形式における学びを深める。</p> <p>なお、科目担当者は救命法国際トレーナーでもあり、緊急事態の対応や予防安全の観点から専門的知見も提示する。</p>	
	立教ゼミナール発展編 2	<p>本授業の履修者は全学部の学生とシニア世代の立教セカンドステージ大学受講生である。履修者は数名のグループに分かれ、その中には必ずシニア受講生がいる。毎回ウォーミングアップのアイスブレイクの後、所定のテーマに沿って意見交換を行う。意見交換には基本ルールがある。1. 誰もが他者を傷つけない限り自由に何でも話せること。2. 所属学部年齢の違いにかかわらず全員が平等であること。3. 他者の発言を否定する意見を言わない。むしろ、質問して意見を引き出してあげる。自分と違う意見を受け止め引き受ける姿勢を持つこと。以上である。ルールに基づく意見交換を進めることによって、世代の違いを理解し、互いの世代の利害を理解し、尊重することができるようになる。その結果、世代の切れ目のない、誰もが幸せだと思える文明生活を築くための手がかりを得たい。予定しているテーマは以下の通り。「学校での学びの効用」「陰りある現代文明への姿勢」「今就職するとはどういうことか」「恋愛の意味」「お金を稼ぐ苦勞」「これからの結婚生活の光と影」「現代生活に必要な教養」「これからの家族像」「長生きする効用」「永続する友人関係とは」「文明生活での更なる幸福」「今の文明を生きる意味」など。なお、本科目は対話授業なので対面で行うが、状況によって対面実施が困難になった場合には、ミックスでなく完全オンラインで行う。</p>	
	立教ゼミナール発展編 2	<p>地球的な視点で文明の軸を見直そうと動いているSDGsを切り口に、地域課題を掘り下げていきます。厳しい課題があるわけでない一方、成長の道筋が見えない混沌、複雑化する地域課題に向き合い、解決に向けて取り組んでいる専門家をゲストスピーカー（GS）に招きます。地域から起業した経営者、社会活動家、農業者、地方公務員、地方議会議員などに最先端の話をうかがいます。これらGSの講義をもとに、地域の魅力をさらに磨き、日本と世界の「地域」が連帯できる未来図を皆さんと話し合いたいと考えています。</p>	

多 彩 な 学 び 全 学 共 通 科 目 総 合 系 科 目 (2 社 会 へ の 視 点)	立教ゼミナール発展編 2	<p>(英文) The class discussion builds on reading materials including the designated textbook and listed readings, students also have opportunities to present their experience and research on a city of their choice (both Japanese and foreign cities are accepted), in front of the class and share their thoughts.</p> <p>The course is offered online and designed to have both regular Rikkyo students and special international students (incoming exchange students from partner universities). Not only they learn about the role of cities and its historical development, but it is also expected that they have a plenty of opportunity to study together through class discussion. Students are expected not to fear to read English materials, have class discussions, and present their works (including the final report) in English. Some course materials, including the textbook, are also available in Japanese (listed at the bottom of the readings).</p> <p>For students who are physically present in Tokyo, optional on-site field trips to explore some neighborhoods and historically important sites will be offered to complement the knowledge they learn from books and lectures.</p> <p>(和訳) 授業では、指定教科書やリストリーディングなどの読み物をもとにディスカッションを行い、また、各自が選んだ都市（日本の都市、海外の都市のいずれも可）について、自分の経験や調査をクラスの前で発表し、考えを共有する機会も設けています。</p> <p>このコースはオンラインで提供され、立教大学の一般学生と特別留学生（協定校からの交換留学生）の両方が参加するように設計されています。都市の役割や歴史的発展について学ぶだけでなく、クラスでのディスカッションを通じて、共に学ぶ機会を多く持つことが期待されています。英語の教材を読むこと、クラスで議論すること、英語で発表すること（最終レポートを含む）を恐れないことが期待されています。教科書を含む一部の教材は日本語でも入手可能である（リーディングの下部に記載されている）。</p> <p>東京に滞在している学生には、本や講義で学んだ知識を補完するために、オプションとして、いくつかの地域や歴史的に重要な場所を探索する現地フィールドトリップが提供される予定である。</p>	
	R S Lゼミナール	<p>授業の前半は世界各国の武力紛争に焦点を当て、平和教育がどのようなアプローチで紛争予防・紛争解決をめざしているかについて考察を深める。後半はマイノリティや社会的弱者の人権に目を向け、平和で公正な社会の実現を阻んできた差別などの社会的要因を掘り下げ、身近に潜む構造的暴力と、その解消方法を探る。</p>	

多 彩 な 学 び （ 2 社 会 へ の 視 点 ） 全 学 共 通 科 目 総 合 系 科 目	Nativeと学ぶ社会開発	<p>(英文) During the course, invited non-Japanese lecturers will not only introduce facts about conflicts and social problems in their countries, but will also present about the linguistic and cultural diversity in them. Besides them, a Japanese guest lecturer, who is committed to solving social issues at the grassroots level in developing countries, will discuss the philosophy and practice in their societies.</p> <p>Students will have the opportunity to deepen their understanding of global social issues and peace-building and broaden their knowledge of the role of NGOs in social development by interacting with experienced lecturers through class discussion and collective brainstorming.</p> <p>(和訳) 授業では、外国人講師を招き、自国の紛争や社会問題の事実を紹介するだけでなく、言語や文化の多様性についても紹介します。また、途上国の社会問題を草の根レベルで解決しようとしている日本人のゲスト講師が、彼らの社会における哲学と実践について語ります。</p> <p>学生たちは、クラスでのディスカッションや集団でのブレインストーミングを通じて、経験豊富な講師陣と交流することで、グローバルな社会問題や平和構築についての理解を深め、社会開発におけるNGOの役割についての知識を広げることができます。</p>	共同
	立教OBOGの「社長の履歴書」	<p>現役社長として、現在、会社経営のかじ取りをしている立教大学OBOG社長をお招きし、大学時代をどう過ごしたか、起業した経緯や会社経営の難しさ、どのような人材がこれからの社会には必要か、大学時代に何をどのように学ぶべきか、などの様々な論点について、立教大学の先輩として後輩の学生たちに率直な考えを伝えてもらう。学生と社長との討論や意見交換を積極的に行えるよう、インタラクティブな形式で授業を進める。受講生それぞれがキャリアとリーダーシップを考える講義である。</p>	共同
	グローバルシティ・ソウルを読み解く	<p>グローバル都市としてのソウルにおける諸現象を観察するために、様々な場所を訪れながら、その背景を解説する。ソウルにおける社会・文化的な諸現象を、どのような枠組みで分析しうるのか、という理論枠組みを提示する。各回の講義では、ソウルのある場所を訪れて、そこで顕著な現象を取り上げ、研究・分析のアプローチを紹介していく。ソウル広場・光化門広場、ソウル駅、北村、鐘路、新村、弘大、明洞、仁寺洞、梨泰院、汝矣島、江南といった観光スポットとしても馴染みのある場所を訪れ、政治とナショナリズム、伝統、ポピュラーカルチャー、ジェントリフィケーション、外国人労働者・移民、多文化化、社会的排除、貧困・格差、ジェンダー、文化資本などの社会学的テーマを多く取り上げる。</p>	共同
	社会を変える：人を繋ぎ、時間を繋ぐ市民の営み	<p>今日の社会では、政府や企業から相対的に自立した「市民」の活動がグローバルからローカルにいたるまで多種多様な領域で活動実績を積み重ね、社会を確実に変化させてきた。本授業では社会を動かす主体としての市民のあり方を市民活動家の取り組みを紹介しつつ検討していくとともに、こうした市民活動の記録を収集・保存・公開・分析する取り組みについても検討する。このために、多様な現場で活動を展開している市民またはこうした活動に造詣の深い研究者をゲストスピーカーとしてお招きして、多様な市民活動の可能性を検討していくこととしたい。</p> <p>履修に際しては、以下の点に注意すること。</p> <p>1) 本授業では戦後の多様な社会問題や市民活動を取り上げる。受講生が日本史・世界史の現代史や公民の基礎的知識（高校教科書水準）を持っていることに加えて、今日的な問題について新聞等の報道に高い関心を持ち情報収集していることを前提とする。ちなみに取り上げる予定のトピックは環境問題、フェアトレード、市民（特に若者）の政治参加、住民運動などである。</p> <p>2) ロールプレイ、ワークショップ、資料読み合わせなどの多彩な手法の参加型授業を展開する予定である。また、ゲストスピーカー等への質問の時間も確保する。受講生には授業に積極的に参加することを強く求める。</p>	共同



多 彩 な 学 び （ 全 学 共 通 科 目 総 合 系 科 目 ） 2 社 会 へ の 視 点	SDGs×AI×経済×法	<p>本授業のテーマに関し、それぞれの分野で活躍されている方をゲストスピーカーとしてお招きし、最先端の話をさせていただきます。SDGsに関心がある学生はもちろんのこと、SDGsと技術・経済社会・法制度などとの関係を学問横断的に学びたい学生や、実務での取り組みを知りたい学生、将来の進路選択の参考にしたい学生などにとって、有意義な内容となるように授業を構成しています。</p> <p>なお、本授業は、SDGs推進の人づくりとして知られているESD（持続可能な開発のための教育）の第一人者である阿部治先生のサポートを受けています。</p>	共同
	SDGsとグローバルの可能性	<p>授業は、次の3つのパートから構成される。</p> <p>1) SDGsの概要：SDGsの概論と授業で主として取り上げるGoalの概説</p> <p>2) グローバルの視点：ローカルを発掘し、グローバルに影響を及ぼすグローバルの視点を検討する</p> <p>3) グローバルなSDGsの実践事例：</p> <p>まず、SDGsは、先述したとおり2030年を最終年として2015年から始まった世界規模で「誰ひとり取り残さない」をキャッチフレーズとした持続可能な社会を創り出す取り組みである。しかし各国・地域の置かれている実情は大きく異なる。そこでSDGsについて、グローバルレベルとローカルレベルについて検討し、また授業で取り上げるいくつかのゴールについて概要と現状を確認する。</p> <p>次に、「グローバル」の視点について検討する。この授業では、「グローバル」は単に世界規模/世界的と捉えず、広域性/普遍性と仮定し、「広がりをもち、普遍的な魅力・影響を作り出すこと・もの」と考える。同様に、ローカルとは、単に地方/局所的と言うことだけでなく、「その地では当たり前であり、日常的なこと・もの」と考える。その上で「グローバル(=グローバル+ローカル)」とは、「その地に特有な性質を持ちながら、広域にわたって魅力や影響を及ぼすこと・もの」と捉えることとする。また我々の日常生活はローカルに根付いて繰り広げられる。しかしローカルを掘り起こすことによって、グローバルに通じる道筋が見えてくる。そこでローカルの事例として埼玉県、特に県北部をとりあげ、日常であり、その場においては当たり前のローカルを問い直すことがグローバルの視点を獲得するプロセスとなることを検討する。</p> <p>授業ではコラボレーション科目の特徴を活かし、各領域で先端をいく理論家や実践家をゲストスピーカーとして招き、担当教員と兼任講師そしてゲストスピーカーおよび受講生との間で議論をおこないながら授業をすすめていく。</p>	共同
	世界経済と日本	<p>グローバル化が進行する中で、日本経済の動き、ひいては私たちの生活が、目には見えにくい世界経済の動きといかに密接につながっているのか理解するために、幾つかの映画を取り上げて、世界経済論の基礎的な知識と考え方について講義する。</p>	
	世界経済と日本	<p>ラテンアメリカ・カリブ海地域の市場・社会・文化・生活について、日本人・アジア人が知る機会はおおくない。この授業では、グローバル化が進むなか、この地域がいかに世界経済や日本と密接にかかわっているのかを理解するため、有名な映画の一部や映像教材を取りあげつつ、解説をおこなう。それにより、「周辺」から見た世界経済の課題や矛盾などを考察する。</p>	
	日本国憲法	<p>日本国憲法成立の歴史、国家の統治機構の法的構造、基本的人権保障のあり方などを、現在の状況とも照らし合わせながら、具体的な文脈の中で論じていきます。第1回から第5回で憲法総論を取扱い、第6回以降で憲法各論を取り扱う予定です。</p>	

多彩な学び 全学共通科目総合系科目 (2) 社会への視点	日本国憲法	動画教材を利用しながらオンライン形式で授業を行う。近代憲法から日本国憲法の誕生までを学んだ後、平和主義、基本的人権等について、身近な事例を通じて講義する。具体的内容は、「授業計画」に示す。なお、基本的人権に関する個別テーマに関しては、できるだけタイムリーな問題を取り上げ、掘り下げて検討を行いたいと考えるので、授業計画にあげた内容とは異なる場合があること、授業の進捗状況によってはテーマが多少前後すること、時間の都合でテーマが限られることのあることをあらかじめ了承いただきたい。	
	日本国憲法	日本国憲法につき、その歴史的背景、起草者意図、判例等を参照したり、諸外国との比較にも目配りしつつ、概論的講義を行う。	
	近代日本社会と人権	最も理解しにくいであろう部落差別問題を軸にしながら、明治維新から現代までの近現代社会の、沖縄・ジェンダーの歴史を講義し、日本の近現代社会のありようを問う。	
	近代日本社会と人権	日本外交のために生じてきた人権問題、あるいは、日本外交が解決をしようとしてきた人権問題などを広く概観する。各問題やそれぞれの当事者の状況・立場を理解した上で、なぜその問題が生じたか、これまでに各国政府や国際機関、市民社会等が解決のためにどのような努力を払ってきたのか、今後どのような解決方法がとられうるのか等について検討する。	
	近代日本社会と人権	最も理解しにくいであろう部落差別問題を軸にしながら、明治維新から現代までの近現代社会の、沖縄・ジェンダーの歴史を講義し、日本の近現代社会のありようを問う。	
	日本の「多文化」政策を問い直す	21世紀に入って以降、注目され続けている多文化社会が形成されるまでの経緯を「歴史」「それぞれのエスニックグループ」「日本社会の認識」といった側面から捉え直した上で、政策上の変遷と課題を解説する。	
	Modern Japanese History 1	(英文) Modern Japanese History 1 provides a broad introduction to women's history in modern Japan. The emphasis in the course is developing a general understanding of gender relations in shaping modern Japanese society generally, and women's experiences in particular. Students will read recent English-language works by historians, anthropologists and political scientists about the transformations of gender roles and the experiences of diverse groups of women in modern Japanese history. (和訳) 日本近現代史1では、近代日本の女性史を幅広く紹介します。 この授業では、近代日本社会を形成してきたジェンダー関係、そして特に女性の経験についての一般的な理解を深めることに重点を置いています。学生は、日本の近代史におけるジェンダーの役割の変化や様々なグループの女性の経験について、歴史家、人類学者、政治学者による最近の英語の著作を読みます。	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">         多彩な学び  <small>（2 社会への視点）</small>  <small>全学共通科目総合系科目</small> </p>	<p>Modern Japanese History 2</p>	<p> <small>（英文）</small> Our work begins with close reading of the assigned texts as well as a textbook. Lectures are designed to supplement the required reading; seminars will allow you to clarify questions raised in class, discuss assigned reading, and prepare for essays. Each class is designed to introduce you to the intellectual tools necessary for historical inquiry, and in seminars, you are expected to participate in small-group discussions structured to provoke your questions about that class' s reading assignment. While learning the facts of Japanese and East Asian history, you will be required to engage in critical reading of secondary sources to develop your analytical writing skills, and to learn about the use of electronic and print-based research tools. Class presentations and coursework essays provide an opportunity to synthesize material in preparation for the reports, which may draw on any and all required reading, class lectures, and seminar discussions. Ultimately, the aim of this course is to develop your interests in the history of Japan and East Asia and to make sure that you are knowing how to fulfil your potential. Training critical readers of texts will be one of the most important purposes of this course.         </p> <p> <small>（和訳）</small> 教科書と同様に、課題図書を読解することから始める。講義は必読書を補足するために行われ、セミナーでは、授業で提起された疑問点を明らかにし、課題図書について議論し、小論文の準備をすることができるように設計されています。各授業は、歴史的探求に必要な知的ツールを紹介することを目的としており、セミナーでは、そのクラスの読書課題に対する疑問を喚起するように構成された少人数のディスカッションに参加することが期待される。日本史・東アジア史の事実を学びながら、二次資料の批判的読解を行い、分析的な文章を書く能力を養い、電子および印刷ベースのリサーチツールの使用法を学ぶことが求められる。また、授業中に行うプレゼンテーションやエッセイでは、レポート作成のための資料の整理を行い、必読書や講義、セミナーでのディスカッションを活用する。このコースの最終的な目的は、日本および東アジアの歴史に興味を持ち、自分の可能性を發揮できるようにすることです。テキストの批判的な読み手を養成することは、この授業の最も重要な目的の一つである。         </p>	
---	----------------------------------	--	--

多 彩 な 学 び （ 2 社 会 へ の 視 点 ） 全 学 共 通 科 目 総 合 系 科 目	Japanese Politics and Economy 1	<p>(英文) In this course, we try to capture -- by going beyond clichés and stereotypes -- what it is like to work and live in contemporary Japanese society. Through work, a person tries not only to survive everyday life but also to establish his/her self-worth and a sense of identity. We will examine the politics and economy of an individual's life as s/he negotiates with the external world in the arena called 'work.'</p> <p>We will first read texts that help us understand: (1) the significance of work in human lives; (2) ethnographic accounts of the working life in Japan. As we grasp the functions of 'work,' students will start looking for two individuals to interview.</p> <p>For these interviews, students can either work alone or be paired up with other student(s); Necessary arrangements will be made according to the different levels of their language and cultural expertise.</p> <p>Students are to analyze these individuals' narratives about work in the current socio-cultural and historical contexts of Japan. The results of their research will be shared in class as well as written up as a final report.</p> <p>(和訳) この授業では、現代の日本社会で働き、生活することがどのようなことなのかを、決まり文句や固定観念を超えて捉えようとしています。</p> <p>人は仕事を通して、日常生活を生き抜くだけでなく、自分の価値やアイデンティティを確立しようとしています。ここでは、「仕事」という場で外界と交渉する個人の人生の政治的・経済的側面を考察します。まず、(1)人間の生活における仕事の意義、(2)日本における労働生活の民族誌的記述、を理解するためのテキストを読みます。「仕事」の機能を理解した上で、学生たちはインタビューする2人の人物を探し始めます。インタビューは、学生が一人で行うことも、他の学生とペアを組んで行うこともできます。</p> <p>学生は、仕事についての個人の語りを、現在の日本の社会文化的・歴史的文脈の中で分析します。リサーチの結果はクラスで共有され、最終レポートとしてまとめます。</p>	
	Japanese Politics and Economy 2	<p>(英文) Japanese society developed over a long history a unique set of values and institutions, that are often misunderstood outside of Japan. This is particularly important with regards to gender division and the unique roles men and women had in the formation of political ideologies, economic interactions, and national identity. The course follows the development of political and economic institutions from the original myths and the first empresses, and up to the contemporary age. It will focus on the development of different ideologies and religious beliefs, and will analyze the interrelations between economic power, political function, and gender roles. The multidisciplinary approach of the course will open new ways of understanding politics and economy from the origin to the distinctive work style of the current age.</p> <p>(和訳) 日本の社会は長い歴史の中で独自の価値観や制度を育んできましたが、海外ではしばしば誤解されています。このことは、男女の区別や、政治的イデオロギー、経済的相互作用、国民のアイデンティティの形成における男女のユニークな役割については、特に重要です。この授業では、神話や最初の女帝から現代に至るまでの、政治・経済制度の発展を追います。さまざまなイデオロギーや宗教的信念の発展に焦点を当て、経済力、政治的機能、男女の役割の相互関係を分析していきます。この授業の学際的なアプローチは、政治と経済の起源から現代の独特な仕事のスタイルまでを理解する新しい方法を開くでしょう。</p>	

多彩な学び（2 社会への視点） 全学共通科目総合系科目	Japan Relations in Asia 1	<p>(英文) This course will examine a variety of popular culture and media representations of Asians produced in modern Japan, from the mid-19th century to the present. We will explore the political, social and cultural contexts in which images of Asians emerged and in which these representations of Asians have shaped and challenged notions of Japaneseness.</p> <p>(和訳) このコースでは、19世紀半ばから現在に至るまで、近代日本で生み出されたアジア人に関するさまざまな大衆文化やメディアの表象を検証する。アジア人のイメージが生まれた政治的、社会的、文化的文脈を探り、これらのアジア人の表現が日本人らしさの概念を形成し、またそれに挑戦してきたことを明らかにする。</p>	
	Japan Relations in Asia 2	<p>(英文) Since the mid-1990s we have witnessed a massive production and reproduction of memories of World War II on a global scale. This course focuses specifically Japan's war fought in the Asia and Pacific theaters and interrogates processes of memory making and remaking in postwar Japan and Asia. Students will read recent English-language academic papers and commentaries to deepen their knowledge and understanding on this subject.</p> <p>(和訳) 1990年代半ば以降、私たちは第二次世界大戦の記憶の大量生産と再生産を世界規模で目撃してきました。この授業では、特にアジア・太平洋地域で戦った日本の戦争に焦点を当て、戦後の日本とアジアにおける記憶の形成と再構築のプロセスを問い直します。また、最近の英語の学術論文やコメンタリーを読み、知識と理解を深めます。</p>	
	Japanese Society 1	<p>(英文) The course deals with a number of topics in which peace is debated in Japan, such as Hiroshima, Nagasaki, Okinawa, Fukushima and the relationship with Asian neighbors. The instructor will share his own experiences as a non-governmental peace and nuclear disarmament practitioner. Also a few quest speakers, mostly from NGOs, will be invited for case studies. In each session, a presentation will be followed by discussion. The students will be required to actively participate in the discussion and prepare for the next sessions with assignments. The course schedule indicated below can be slightly reshuffled.</p> <p>(和訳) 広島、長崎、沖縄、福島、そしてアジアの隣国との関係など、日本で平和が議論されているテーマを扱います。講師は、NGOでの平和活動や核軍縮の実践者としての自身の経験を語ります。また、主にNGOから数名のゲストスピーカーを招き、ケーススタディを行います。各セッションでは、プレゼンテーションの後、ディスカッションが行われます。受講者は、ディスカッションに積極的に参加し、課題を出して次のセッションに備えることが求められます。</p>	
	Japanese Society 1	<p>(英文) The course centers on the development of society through the lens of cultural development, economic consumption, and the political ideologies that shaped the values of society. It will cover major popular cultural practices and products, such as the development of manga, the influence of Shinto, anime, pop art, kawaii culture, cosplay in old festivals and in Harajuku, robots and mechanical dolls, and issues of gender as seen through art forms. Students will follow the historical developments of different products, and will understand the formation of core values that keep Japanese society united, like harmony, group formation, ganbaru spirit, and more.</p> <p>The course is multi-disciplinary and students will become familiar with theories from different fields of study and with a variety of forms of analysis.</p> <p>(和訳) この授業では、文化の発展、経済的消費、社会の価値観を形成した政治的イデオロギーなどを通して、社会の発展を中心に学びます。マンガの発展、神道の影響、アニメ、ポップアート、カワイイ文化、古いお祭りや原宿でのコスプレ、ロボットや機械人形、芸術形態から見たジェンダーの問題など、主要な大衆文化の慣習等を取り上げます。学生は、さまざまな製品の歴史的発展を追い、調和、集団形成、がんばる精神など、日本社会をひとつにまとめる中核的価値観の形成を理解します。</p> <p>この授業は学際的であり、学生はさまざまな分野の理論や、多様な分析形式に精通することになります。</p>	

多 彩 な 学 び （ 2 社 会 へ の 視 点 ） 全 学 共 通 科 目 総 合 系 科 目	Japanese Society 2	<p>(英文) In the summer of 2015, which marked the 70th anniversary of the end of WWII, security-related bills were passed in the Japanese Diet amid huge protests -- a significant departure from Japan's pacifist posture in the postwar era. In May of the following year, Barack Obama landed in Hiroshima, becoming the first incumbent U.S. President to visit the city since August 1945. A historic event in the eyes of many Japanese, the entire process of Obama's visit was broadcast live, nationwide, on NHK. Even after more than seven decades, Japan has been living the 'postwar' period, which characterized various aspects of its culture, society and politics. Is it going to change from this point on and, if so, how? Taking up the topics such as work, family, gender, and education that are important in analyzing any modern society, we will pay special attention to the way they are argued in the context of postwar Japan. Furthermore, we will consider locally specific topics that are hotly debated in recent years: e.g., Article 9 and security-related bills, the 3-11 incident and its repercussions, Imperial Household, Okinawa, nuclear energy, and of course, COVID-19.</p> <p>(和訳) 戦後70年を迎えた2015年夏、戦後の平和主義とは一線を画した安全保障関連法案が国会で可決されました。翌年5月には、現職の米国大統領としては1945年8月以来となる、バラク・オバマ大統領の広島訪問が実現した。多くの日本人にとって歴史的な出来事であり、その様子はNHKで全国に生中継された。</p> <p>70年以上経った今でも、日本は文化、社会、政治のさまざまな側面を特徴づける「戦後」を生きています。それはこれから変わるのか、変わるとすればどのように変わるのか。</p> <p>仕事、家族、ジェンダー、教育など、現代社会を分析する上で重要なトピックを取り上げ、それらが戦後の日本の文脈でどのように論じられているかに注目します。さらに、近年話題になっている具体的なトピック、例えば、憲法9条と安全保障関連法案、3.11事件とその影響、皇室、沖縄、原子力、そしてもちろんCOVID-19についても考えていきます。</p>	
	TOKYO Studies	<p>(英文) This course is a general introduction to students who are interested in the studies of Japanese history, culture from Edo to Tokyo. This course will consist of lectures, in-class tasks and group discussions. This course also consists of city walking tours. Students will also give group or individual presentations during the semester.</p> <p>(和訳) このコースは、江戸から東京までの日本の歴史、文化に興味のある学生のための入門コースである。このコースは、講義、クラスでの課題、グループ討論で構成されています。また、街歩きツアーも行います。また、学期中にグループまたは個人でプレゼンテーションを行います。</p>	
	TOKYO Studies	<p>①第一に、戦後都市社会史の主要な研究潮流を外観するとともに、巨大都市江戸・東京の構造的特質を実証的に考察していく。そのさい、都市の支配体制を把握するとともに、被支配民衆の生業活動・居住形態・結合様式などを分析することによって、都市社会の複層的な存立構造を明らかにしていく。</p> <p>②第二に、都市下層民や周縁的な社会集団の成員によって残された一次史料を解析することによって、従来の歴史研究で度外視されてきたマージナルな要素や社会的領域に光を当てつつ、より包括的な歴史像の構築を目指す。それゆえ、エリートの動向のみに注目するのではなく、搾取されながらもしたたかに生きてきた肉体労働者や既存の社会集団から落ちこぼれ、乞食として自らの生命を維持した貧民なども射程に入れつつ、近世社会の全体構成を帰納法的に把握していく。</p> <p>③候文の基礎的な文法・語法を学習するとともに、初級の古文書を解読することによって、唯物論的歴史観を基盤とする実証研究の基本的手法を学ぶ。</p>	

多 彩 な 学 び （ 2 社 会 へ の 視 点 ） 全 学 共 通 科 目 綜 合 系 科 目	Saitama Studies	<p>(英文) This course consists of reading, researching, writing and presenting papers by students as well as lectures by the lecturer. The lectures include general observations of Saitama based on historical, geographic, sociological and cultural studies focusing on several districts during a particular period from prehistoric times to the modern period. Students will need to research Saitama and give a 15-minute presentation in class.</p> <p>(和訳) この授業は、学生による論文の読解、調査、執筆、発表と、講師による講義で構成されています。講義では、先史時代から近代までの特定の時代のいくつかの地区に焦点を当てた、歴史的、地理的、社会的、文化的研究に基づく埼玉の一般的な観察が行われます。学生は、埼玉について調べ、クラスで15分間のプレゼンテーションを行う必要があります。</p>	
	Humans and Other Animals	<p>(英文) Every day, we are deeply involved with animals in various ways. Animals can be pets, popular food sources, or used in medical experiments. As our lives are deeply intertwined with animals, thinking about animals is linked to thinking about the world today. The class will cover topics such as zoos, pets, livestock animals, and traditional food culture.</p> <p>In each class, students will be required to take a short quiz on the class content, and to submit a reaction paper. For each theme, group work will be conducted to develop the ability to express one's own ideas while listening to the opinions of classmates. At the end of the course, students are expected to make a presentation.</p> <p>(和訳) 私たちは日々、様々な形で動物と深く関わっています。動物はペットであったり、身近な食料であったり、医療実験に使われたりしています。私たちの生活が動物と深く関わっている以上、動物を考えることは、今の世界を考えることにつながります。授業では、動物園、ペット、畜産動物、伝統的な食文化などを取り上げます。毎回の授業では、授業内容に関する小テストと、リアクションペーパーの提出が求められます。また、テーマごとにグループワークを行い、クラスメートの意見を聞きながら自分の考えを述べる力を養います。授業の最後にはプレゼンテーションを行います。</p>	
	Food Cultures and the Acceptance of Japanese Food in the World	<p>(英文) Students will explore various culinary cultures in the World and think about how Japanese food has been introduced to and accepted in different places. Looking at some cases in the Americas, Europe and Asia as examples, we will be learning their local food cultures first then analyzing and evaluating how Japanese food has been introduced to each place. Then we will be designing how to present Japanese food to their markets in the future.</p> <p>(和訳) 世界の様々な食文化を探り、日本食がどのように各地に伝わり、受け入れられてきたかを考えます。アメリカ、ヨーロッパ、アジアのいくつかの例を見て、まずその地域の食文化を学び、次に日本食がそれぞれの場所にどのように紹介されたかを分析・評価します。その上で、将来的にどのように日本食を市場に紹介していくかを考えていきます。</p>	

多 彩 な 学 び （ 2 社 会 へ の 視 点 ） 全 学 共 通 科 目 綜 合 系 科 目	Political Sociology	<p>(英文) This course is intended as an introduction to think sociologically about political and social phenomena. Students will explore sociological concepts and approaches to understand social change and social movements. With various issues and topics in postwar Japan, students are required to interpret relations among state, society, and citizens critically. Each class will have a reading material and students are required to complete reading the assigned material. Students are strongly encouraged to participate in the class discussion.</p> <p>(和訳) この授業は、政治的・社会的現象について社会学的に考えるための入門授業として位置づけられます。学生は、社会的変化や社会運動を理解するための社会学的な概念やアプローチを探求します。戦後の日本における様々な問題やトピックを題材に、国家、社会、市民の関係を批判的に解釈することが求められます。各授業には課題資料があり、学生は課題資料を読み終えることが求められます。また、授業中のディスカッションにも積極的に参加してください。</p>	
	Economic Thought	<p>(英文) This course highlights the importance of economics as a social science and summarizes the evolution of economic science by introducing different economic theories. Students will learn basic economic concepts of contemporary microeconomics (scarcity, choice, opportunity costs, demand, supply, market, equilibrium, competition, public goods, government intervention) and macroeconomics (macroeconomic objectives, fiscal and monetary policy, economic development). The course will also provide an overview of basic economic theories applied in economic analysis.</p> <p>This is a reading and discussion-based course. Each class students are required do preliminary reading and prepare short presentations on topics related to the class content. Class discussions will be followed up by short lectures by the instructor.</p> <p>(和訳) この授業では、社会科学としての経済学の重要性を強調し、さまざまな経済理論を紹介することで、経済学の進化をまとめます。現代のミクロ経済学（希少性、選択、機会費用、需要、供給、市場、均衡、競争、公共財、政府介入）とマクロ経済学（マクロ経済の目的、財政・金融政策、経済発展）の基本的な経済概念を学びます。また、経済分析に適用される基本的な経済理論の概要も説明します。この授業は、リーディングとディスカッションを中心とした授業です。毎回の授業では、予習を行い、授業内容に関連するトピックについて短いプレゼンテーションを準備します。クラスでのディスカッションに続いて、講師による短い講義が行われます。</p>	
	University in Modern Society	<p>(英文) This course offers a comparative study of the role that university education has played in politics and political changes around the world, focusing on democratization, elections, social movements, human rights, and environmental sustainability.</p> <p>(和訳) この授業では、民主化、選挙、社会運動、人権、環境の持続可能性に焦点を当て、大学教育が世界の政治と政治変動に果たした役割を比較研究する。</p>	集中
	Career and University Education in the Global World	<p>(英文) This course includes discussions, guest speakers, study tours, and presentations, that are expected to provide the students with the information they need so that they can make a smooth transition between their current university education and their future path of either work or continue seeking higher education.</p> <p>(和訳) この授業では、ディスカッション、ゲストスピーカー、スタディツアー、プレゼンテーションなどを行い、学生が現在の大学教育と将来の就職や進学の道をスムーズに切り換えられるよう、必要な情報を提供します。</p>	集中



多彩な学び（2 社会への視点） 全学共通科目総合系科目	Business Communication	<p>(英文) Students will study, discuss, and work together toward a final presentation on a business environment topic of their choosing. Research and project course will take examples from the history and development of Japan's business response to human-caused environmental change.</p> <p>(和訳) 学生は、各自が選択したビジネス環境に関するトピックについて学習し、議論し、最終プレゼンテーションに向けて共同作業を行う。このコースでは、人為的な環境変化に対する日本のビジネス対応の歴史と発展を例に、研究とプロジェクトに取り組みます。</p>	
	Global and Japanese Political Economy 1	<p>(英文) Among several aspects of political economy, this course aims to analyze the economic aspects of international and domestic politics. Our topics include the global competition for energy security, Japan's domestic politics and globalization effort, and special topics of development assistance, which roughly corresponds to the ideas of realism, constructivism, and liberalism. This course aims to understand the complexity of politics and the economy and their interaction in international affairs.</p> <p>(和訳) 政治経済学のいくつかの側面のうち、国際政治と国内政治の経済的側面を分析することを目的とする。エネルギー安全保障をめぐるグローバルな競争、日本の国内政治とグローバル化の取り組み、開発援助の特別なトピックスなど、現実主義、構成主義、自由主義の考え方にほぼ対応するようなトピックを取り上げます。本講義では、国際情勢における政治と経済の複雑さ、およびそれらの相互作用を理解することを目的としている。</p>	
	Global and Japanese Political Economy 2	<p>(英文) Japan's strategies in dealing with global, regional and domestic issues will take centerstage during this course. Global issues such as climate change, peace and security, poverty and development, migration, global health etc. will be introduced one by one with a focus on their significance as challenges and opportunities for Japan and the region (Asia-Pacific). Case studies will look at how Japan has and is contributing to international and regional efforts to tackle global issues while furthering its own political and economic agendas.</p> <p>(和訳) この授業では、グローバル、リージョナル、ドメスティックな問題に対する日本の戦略が中心となる。気候変動、平和と安全保障、貧困と開発、移民、グローバルヘルスなどのグローバルな問題を一つずつ紹介し、日本と地域（アジア太平洋）にとっての課題と機会としての意義に焦点を当てる。また、日本が政治的・経済的課題を推進する一方で、国際的・地域的な取り組みにどのように貢献してきたか、また貢献しているのか、事例を紹介する。</p>	
	Introduction to Multivariate Analysis	<p>(英文) We will learn the basic concepts and representative methods of multivariate analysis. In particular, we will describe (1) methods for prediction and factor search, and (2) methods for organizing and classifying complex information. Furthermore, through analysis exercises using the statistical analysis language R, students will understand the usage cases and roles of these methods.</p> <p>(和訳) 多変量解析の基本的な考え方と代表的な手法を学ぶ。具体的には、(1) 予測や要因探索のための手法、(2) 複雑な情報を整理・分類するための手法、について解説する。さらに、統計解析言語Rを用いた解析演習を通じて、これらの手法の使用例と役割を理解する。</p>	

多 彩 な 学 び 全 学 共 通 科 目 社 会 へ の 視 点 全 学 共 通 科 目 社 会 へ の 視 点	Introduction to Sociology	<p>(英文) Sociology is a discipline analyzing issues in society. This course introduces students to some major social theories and concepts in sociology. Topics include a review of sociology as a discipline, culture, socialization, social interaction, education, social stratification, networks, work, economic life, body and health, urbanization, population, environment, and globalization. It is a theory-oriented course. However, it addresses empirical questions such as (1) What is society? (2) How is society organized and structured? (3) Who are individuals and their roles in society? (4) How do individuals and society affect each other? The goal of this course is to provide students with conceptual tools for understanding society, thereby some inspirations of how individuals may live meaningful life.</p> <p>(和訳) 社会学は、社会における問題を分析する学問である。この授業では、社会学の主要な社会理論と概念について紹介する。トピックとしては、学問としての社会学、文化、社会化、社会的相互作用、教育、社会階層、ネットワーク、仕事、経済生活、身体と健康、都市化、人口、環境、グローバリゼーションのレビューが含まれます。理論重視の授業である。しかし、(1)社会とは何か？(2)社会はどのように組織され、構造化されているのか？(3)社会における個人とその役割とは何か？(4)個人と社会はどのように影響し合っているのか？本講義の目的は、社会を理解するための概念的なツールを提供することであり、それによって個人が有意義な人生を送るためのヒントを得ることである。</p>	
	Introduction to the social survey	<p>(英文) While providing a summary of the purpose and methodology of social surveys, we will organize the types of quantitative and qualitative surveys, statistical surveys, and case study methods, and students learn about survey ethics together with the history of social surveys and types and examples of surveys. We will also outline the basic issues of processes from data collection to analysis such as questionnaire surveys and fieldwork.</p> <p>(和訳) 社会調査の目的や方法論を整理しながら、量的調査、質的調査、統計調査、事例調査などの種類を整理し、社会調査の歴史や調査の種類・事例とともに、調査倫理について学ぶ。また、アンケート調査やフィールドワークなど、データ収集から分析に至るプロセスの基本的な問題点を概説する。</p>	
	Introduction to Tourism Studies	<p>(英文) The first half of the course (class 2 to 8) discusses the basic concepts of tourism and the development of tourism industry analysing statistics from various sources. The second half of the course (class 9 to 14) argues the impacts of tourism and the concept of sustainable tourism using case studies, group discussions and presentations.</p> <p>(和訳) 授業の前半(2~8回)では、観光の基本的な概念と観光産業の発展について、様々な資料から統計を分析しながら説明します。後半(9~14回)では、ケーススタディ、グループディスカッション、プレゼンテーションを行い、観光の影響と持続可能な観光の概念について議論します。</p>	

多彩な学び <small>全学共通科目総合系科目          (2 社会への視点)</small>	Introduction to Tourism Studies	<p>(英文) The course will consist of five parts: a first part (week 1 to 3) setting the context of the course by exploring the basic concepts of tourism studies; a second part (week 4 &amp; 5) mapping the historical background of modern tourism; a third (week 6 to 9) examining the impacts of tourism; a fourth (week 10 to 12) focusing the challenges and future development of tourism; and a final part (week 13 &amp; 14) evaluating students' understandings of the course through group projects. This will be a student-centered, interactive course with in-class discussions, group/pair study, and projects. The course is designed to give students the opportunities to share their personal experiences and views with the class. Students will be encouraged to relate the course contents to the experience of their own society/community through papers and projects. Audio-visual materials and Internet resources will be used to enrich the learning experience.</p> <p>(和訳) 授業は5つのパートで構成されている。第1パート(第1週から第3週)では、観光学の基本的な概念を探ることでコースの背景を設定し、第2パート(第4週と第5週)では現代の観光の歴史的背景をマッピングし、第3パート(第6~9週)では観光の影響を調べ、第4パート(10~12週)では観光の課題と将来の発展に注目し、最終パート(13、14週)ではグループプロジェクトを通して生徒の理解を評価する。</p> <p>この授業は、クラス内でのディスカッション、グループ・ペア学習、プロジェクトなど、学生主体のインタラクティブなコースとなる予定です。この授業は、学生が個人的な経験や見解をクラスで共有する機会を提供するように設計されています。また、論文やプロジェクトを通じて、授業の内容を自分の社会やコミュニティの経験と関連付けるよう奨励する。オーディオビジュアル教材やインターネットリソースは、学習経験を豊かにするために使用されます。</p>	
	Japanese Society and Culture 1	<p>(英文) This course departs from a cross-border social sciences perspective to the study of Japanese culture and society. We will discuss the concepts of national culture, representation, and invented tradition in order to question essentialist images of Japan in their historical, social, and cultural trajectories. By focusing on the processes of mobility, migration, and cultural diffusion, this course introduces students to a transcultural and transnational approach to the study of Japan.</p> <p>The course will be taught in English and is designed to develop your critical thinking and research skills. You will take part in cross-cultural discussions of a range of Japanese and non-Japanese scholars. Each class will focus on a topic, exposing you to a range of sociological themes and concepts and their uses in the study of Japan. You are expected to actively engage with the homework readings, class discussions, presentations, and write a research report.</p> <p>(和訳) この授業では、国境を越えた社会科学の視点から、日本の文化や社会を研究する。歴史的、社会的、文化的な軌跡の中で、本質主義的な日本像を問い直すために、国民文化、表象、発明された伝統の概念について議論します。移動、移住、文化的拡散の過程に注目することで、このコースは日本研究に対するトランスカルチャー、トランスナショナルアプローチを学生に紹介します。</p> <p>この授業は英語で行われ、批判的思考と研究能力を養うように設計されています。様々な日本人・外国人研究者の異文化間討議に参加します。各クラスはトピックに焦点を当て、様々な社会学的テーマや概念、そしてそれらの日本研究への活用に触れます。宿題の読み物、クラスでの議論、プレゼンテーションに積極的に参加し、研究レポートを書くことが期待されます。</p>	

多 彩 な 学 び （ 2 社 会 へ の 視 点 ） 全 学 共 通 科 目 総 合 系 科 目	Japanese Society and Culture 2	<p>(英文) This course is an introduction to contemporary Japanese society and culture. It will introduce students to various facets of Japanese society, and dig beneath the surface to explore the structural and historical underpinnings of contemporary Japan. Topics covered range from class/education, gender/sexuality and ethnicity/cultural identity to technology, social isolation and disaster. Students will be expected to keep up with readings, contribute to class discussion, and in lieu of a final presentation, to design and complete their own research project related to modern or contemporary Japan.</p> <p>(和訳) この授業は、現代日本の社会と文化についての入門授業である。日本社会の様々な側面を紹介し、現代日本の構造的・歴史的背景を掘り下げます。扱うテーマは、階級・教育、ジェンダー・セクシュアリティ、民族性・文化的アイデンティティから、テクノロジー、社会的孤立、災害まで多岐にわたる。また、最終プレゼンテーションの代わりに、現代日本に関連する独自の研究プロジェクトを立案し、完成させることが期待されている。</p>	
	knowledge and society 1	<p>(英文) In this project-based course, students will learn about one epistemological orientation (i.e., positivism) and conduct a hands-on quantitative study (i.e., survey research). To experience knowledge making processes and understand its limitations, students will study basic principles of survey research, choose a research topic, initiate a survey, collect and analyze data, and present results.</p> <p>(和訳) このプロジェクトベースの授業では、一つの認識論的志向（＝実証主義）について学び、量的調査（＝アンケート調査）を実践する。知識創造のプロセスを体験し、その限界を理解するために、学生は調査研究の基本原則を学び、研究テーマを選び、調査を開始し、データを収集・分析し、結果を発表します。</p>	
	knowledge and society 2	<p>(英文) In this project-based course, students will learn about one epistemological orientation (i.e., interpretivism) and conduct a hands-on qualitative study (i.e., interview research). To experience knowledge making processes and understand its limitations, students will study basic principles of interview research, choose a research topic, conduct an interview, analyze data, and present results.</p> <p>(和訳) このプロジェクトベースの授業では、一つの認識論的志向（＝解釈主義）について学び、実践的な質的研究（＝インタビュー調査）を行う。知識創造のプロセスを体験し、その限界を理解するために、インタビュー調査の基本原則を学び、研究テーマを選択し、インタビューを行い、データを分析し、結果を発表します。</p>	
	Learning and Teaching Today 1	<p>(英文) Students will be able to discuss how people learn in modern times: the current teaching and learning methodologies, theories, and practice in the digital age.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ What is teaching?</li> <li>・ What is learning?</li> <li>・ Bloom's Taxonomies</li> <li>・ Active learning</li> <li>・ Feedback</li> </ul> <p>(和訳) 現代における人々の学び方：デジタル時代の現在の教授・学習方法論、理論、実践について論じることができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 教えるとは何か？</li> <li>- 学習とは何か？</li> <li>- ブルームの分類法</li> <li>- アクティブラーニング</li> <li>- フィードバック</li> </ul>	

<p>多 彩 な 学 び （ 2 社 会 へ の 視 点 ）</p> <p>全 学 共 通 科 目 綜 合 系 科 目</p>	<p>Learning and Teaching Today 2</p>	<p>(英文) Students will be able to discuss how people learn in modern times: the current teaching and learning methodologies, theories, and practice in the digital age. This course is a continuation of Learning and Teaching Today 1 course.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Activity based learning</li> <li>・ Inquiry based learning</li> <li>・ Problem based learning</li> <li>・ Social and Networked learning</li> <li>・ Dialogic facilitation</li> </ul> <p>(和訳) 現代における人々の学習方法：デジタル時代における現在の教授・学習方法論、理論、実践について議論できるようになる。この授業は、Learning and Teaching Today 1の継続である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- アクティビティベースの学習</li> <li>- 探究型学習 (Inquiry based learning)</li> <li>- 問題解決型学習</li> <li>- ソーシャル・ラーニングとネットワーク・ラーニング</li> <li>- 対話的ファシリテーション</li> </ul>	
	<p>SDGs と現代社会の課題とその関わり方入門</p>	<p>授業は、次の3つのパートで構成し、各パート4～5回の授業をおこなう。</p> <p>(1) 現実社会の情報を取り入れるメディアリテラシー (2) SDGsの概要といくつかのゴールについての概説と現状 (3) SDGsの実践事例</p> <p>(1)では、新聞メディアをとりあげ、フェイクニュースの見抜き方、ファクトチェックの方法、新聞が紙媒体から電子媒体へ移行するなかで情報の取得と理解について媒体の特性に応じた方法を取り扱う。</p> <p>(2)では、SDGsのローカルレベルとグローバルレベルでの課題とその対応についてSDGs概論として取り扱う。SDGsの17ゴール、169ターゲットのうち、世界規模の課題を踏まえ、本学で取り組んでいる活動や研究を考慮し、学生の関心を喚起しやすいゴール、また発展的な学習や活動に結びつけやすいゴールを幾つか取り上げる。各回で取り上げたゴールに関わる現状分析と課題解決について、ゲストスピーカーと科目担当教員と学生とのディスカッションをとおして、課題を自分事として認識することを促すことを意識的にこなす。</p> <p>(3)では、SDGsに関わる実践は、政府レベル/地方自治体レベル/企業や各種組織レベル/学校レベルと取り組みが展開されているが、そのうち、異なるセクターからそれぞれ特徴的な取り組み、興味深い取り組みについてゲストスピーカーから現状と課題などを報告してもらい、学生が当事者となって、SDGsにかかわる方法など検討していく。ゲストスピーカーは、新聞メディアの編集委員など高い専門性を有するジャーナリストおよび企業経営者、自治体関係者にご登壇いただく予定である。</p>	
	<p>Selected Topics in Intercultural Communication</p>	<p>(英文) This course will focus on understanding gender differences through studies on achievement motivation theory. The course will cover the history of achievement motivation and underscore how the perceptions of socializers and children combine to establish gender differences, which then influence education and career choices. (和訳) この授業では、達成動機理論に関する研究を通して、性差を理解することに焦点を当てる。この授業では、達成動機の歴史を学び、社会形成者と子どもの認識がどのように性差を形成し、それが教育や職業選択に影響を与えるかを明らかにします。</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">多様な学び（2社会への視点） 全学共通科目総合系科目</p>	The Dignity of Life and Welfare	<p>(英文) This course begins by looking at the foundation of human rights: the United Nations Universal Declaration of Human Rights. It then introduces the Sustainable Development Goals (SDG) and looks at how these goals aim to achieve the ideals embodied in the Universal Declaration of Human Rights. Students will then focus in on a particular SDG goal and write a report explaining the policy, aims and effectiveness of that goal in reaching the initiative's 2030 aims. Finally, students will present their findings to the class.</p> <p>(和訳) この授業では、まず人権の基礎である国連の世界人権宣言を学びます。次に、持続可能な開発目標 (SDG) を紹介し、これらの目標が世界人権宣言に具現化された理想をどのように達成することを目指しているのかを見ていきます。そして、特定のSDGsの目標に焦点を当て、その目標が2030年の目標を達成するための方針、目的、効果について説明するレポートを作成します。最後に、生徒たちはその結果をクラスで発表します。</p>	
	台湾から世界を考える	<p>本授業では、最前線で活躍する台湾研究者を兼任講師・ゲストスピーカーに招き、台湾に関する授業を展開する。台湾研究の到達点と今後の展望を示したうえで、台湾の経済・政治・社会・文化・歴史から通して世界を展望する。</p>	共同
	翻訳・通訳と現代社会	<p>現代社会の諸相で翻訳・通訳行為に関わるゲストスピーカーによる講義および教員・学生を交えたディスカッションを通して、グローバル化や多文化多言語共生社会におけるコミュニケーションの意味や異文化・異言語間コミュニケーションの仲介役としての翻訳・通訳者の役割について考察する。可視性が高いと思われる文学・映画分野における翻訳行為に加え、司法・福祉・医療における通訳の実践者・教育者の視点、機械翻訳その他の翻訳ツール、グローバル企業の翻訳・通訳戦略などに焦点を当てる。また、翻訳通訳サービスの効果的なユーザーになるための議論も行う。</p>	共同
	立教人から学ぶメディアの世界	<p>これまでテレビや新聞などが情報媒体の中心であったが、現在はインターネット上でのニュースやSNSで情報を得ることが主流となっている。メディア環境が急速に変わる今、情報が、どのように作られ、発信されているのか、そしてそれらがどのように人々や社会に影響を与えていくのかを考える。テレビ、新聞、雑誌、インターネット、広告等、様々な角度からメディアに携わる実務経験者の話題提供にもとづき、多角的、複眼的な視点をすることで、リテラシーをもってメディアに触れる力を育ててほしい。</p>	共同
	地域学への招待	<p>地域学とは、時間と空間のつながりの中で地域がどのように成り立っているかを調べる学びである（山下 2020）。本授業では以下2点の特色のもと、地域学に多角的にアプローチして、教員・受講生が相互に知的刺激を与えあうことを目指す。</p> <p>(1) ゲストスピーカーとの対話を通じた地域学への招待： 新座キャンパスの位置する新座市について多角的に学ぶため、新座・武蔵野に詳しい歴史研究者、新座市役所の職員、社会活動を行う寺院の住職、高齢者・障がい者支援や地域づくりに取り組むNPO代表、外国人支援に取り組むボランティア団体の代表を招請する。また、本学が交流してきた埼玉県小川町、本学が復興支援に関わってきた岩手県陸前高田市・福島県双葉町の関係者も招請し、地域社会についての視野を広げる。以上ゲストスピーカー8名と教員・受講生とで対話を行う。</p> <p>(2) 受講生による地域学の試み： (1)と並行して、担当教員の助言のもと、受講生に各自が関心を持った地域について調べてもらう。最終的に、担当教員も交えて受講生同士の発表会を行う。</p>	共同

全学共通科目総合系科目 (3 芸術・文化への招待)	文学への扉	最初の時間にそもそも詩とは何かを考え、英詩を読むために必要な基礎知識を共有した後で、年代順に詩人の代表作2篇程度をじっくり味わう。自ら朗読を残している詩人も多いため、音源資料を活用して音楽芸術としての詩の一面にも迫る。同時に、それぞれの詩人の人生についても概観し、波乱に満ちた20世紀におけるイギリスの歴史と社会の輪郭が浮かび上がるよう工夫する。受講者は学期中に4回の小レポートをオンライン提出し、最終筆記試験を受ける必要がある。現時点で考えている授業計画は以下の通りだが、受講者の希望によって多少の修正を施す可能性はある。最初の時間に詳しい授業計画表を配布。	
	文学への扉	本講義では、18世紀フランスを対象として、その時代に書かれた文学作品を読む。近代の誕生と言われる18世紀フランスでは同時代の文学が何を問題としたのかを検討する。 中心に据えるのは、おそらく名前くらいは聞いたことのある思想家ジャン＝ジャック・ルソーである。『社会契約論』、『エミール』、『新エロイズ』、『告白』などを書いた思想家である。一般に人民主権を説いて近代を準備し、また自然教育の理論を打ち立てて近代教育の扉をひらいたとされる。ほんとうだろうか？ 格差社会、「法」や民主主義、教育と子供、「性」と恋愛、芸術や文学の危険と可能性といった諸問題について、思想家ルソーを参照しながら考える。	
	文学への扉	およそ一回の講義に一卷を取り上げるペースで、『源氏物語』の桐壺巻から賢木巻までの物語を駆け足で読んでいく。一回の講義では、まず、その巻のあらすじや人物関係や鑑賞の要点などを説明し、その後、その巻の名場面を原文で読み、詳しく解説していく。原文を読むための文法力、読解力が求められる。	
	文学への扉	授業の概要：紋切り型で形容されがちなヒップホップという文化が、実際にはどのような政治的／社会的／技術的な条件や、送り手と受け手の関係のありようのなかで生まれていき、享受・消費されているかを探り、理解するようにつとめる。特にラップとDJが、その関連のなかでのストリート・アート／グラフィティ、(ストリート)ファッションをその題材としてとりあげる。使用するテキストは英語のものもあり、義務教育程度の英語の力を要する。	
	文学への扉	毎回、一つの短篇小説ないしは詩を何篇か読み、アメリカの代表的な作家・作品の特徴を理解していきます。各回では、作者略歴や時代背景、作品に関する問いを含めた講義をもとに、受講者は作品を読んだ感想や問いに対する意見・考察等の小レポートを提出してもらいます。様々な視点から作品を読んでいき、学期末には一番興味をもった作品について短評を書いてもらう予定です。	
	表象文化	「ナチ映画」は人気のジャンルとあってよいだろう。ヒトラーとナチスはどのように表象されてきたのか。講義では、はじめにナチ時代のプロパガンダ政策について学習したのちに、ナチ映画の表象の変遷をみていく。	
	表象文化	近年の表象文化では映像資料やPPTを用いて受講生が理解しやすい講義をする傾向があるが、この授業は、敢えて文学テキストの読解に力点を置き、江戸川乱歩の世界を活字から追体験することで、視覚や聴覚に頼らず自分の頭のなかに妄想を展開させることの愉しさを享受してもらいたいと考えている。授業では江戸川乱歩の短編小説を取り上げ、それぞれの読解を試みつつ受講生のみなさんへの問いかけを行っていく。	
	表象文化	毎週、こちらが指定する映画を授業前に観てくるのが前提となる。授業では、参加者とのディスカッションが中心である。映画は基本的にNetflixで観ることができるもの(つまり、入手が比較的簡単なもの)に限定している。3週ごとに1サイクルとし、4サイクルとなるが、各サイクルごとに一度1000字程度の映画批評を授業前に提出してもらう。映画を批評し、分析する力を養成する。	

全学共通科目総合系科目 多様な学びへの招待 (3 芸術・文化)	表象文化	<p>「音響」としてのセリフの本質を知るためにはまず数多くのすぐれた映画の「音声」に実際に触れ、その感触・感覚を体感するしかない。そこで、すぐれた演技と演出によって作り出された数々の映画を実際に見て、それぞれの独自の音声表現に触れてもらった上でその機能や演技・演出の狙いを分析し、必要に応じてその歴史的な文脈なども考察してみる。</p> <p>たとえば音響としてのセリフの一側面として、その音楽性がまず思い浮かぶが、音声表現の音楽性には多種多様な演技演出のバリエーション（また語りから歌にいたる複雑なグラデーション）があり、さらには日本映画に独自の文化的歴史も存在する。</p> <p>また音声の速度や間や強弱などの表現は、実は映画の物語の経済性とも結びついていて、人物の心理や関係性などの情報を音声としていかに（何を、どの程度まで）表出するかという描写の度合いによって人物像も、さらには映画の物語としての内容も（そして物理的な上映時間さえも）変化させてしまう。</p> <p>また、セリフは人物の身体性にも重大な影響を及ぼし、選び取られたしゃべり方ひとつが人物の立ち居振る舞いばかりでなく顔や身体までも変えてしまう。それが画面に厚みや深みや複雑なニュアンスをもたらすという点で、「音声」は視覚的表現の大きな部分と連動しているのだ。</p> <p>そのようなセリフ表現の本質と可能性を、毎回上映する映画とそれら相互の比較によって学んでもらう。テーマによっては映画以外のセリフ表現（落語、歌舞伎、能狂言など）も参考にしてより理解を深める。</p>	
	表象文化	<p>フランス人女性哲学者シモーヌ・ヴェイユ (Simone Weil, 1909-43) の思想が文化・芸術においてもっとも根づいているのはイタリアです。それは、シモーヌ・ヴェイユの文化・芸術への眼差しがイタリアという風土に流れているということでもあります。たとえば、現在第一線にある、ジョルジョ・アガンベン、カルロ・ギンズブルグといった思想家たちが、映画、文学、音楽、等々、多彩な文化・芸術をイタリアの深い歴史のなかで捉えていることと不可分の関係にあります。本講義では、イタリアを代表する映画にシモーヌ・ヴェイユの思想がどう息づいているのかを考察することを通して、歴史の古層を探りつつ、「見ること」から「創ること」へと思考を促します。</p>	
	表象文化	<p>江戸時代に初演された歌舞伎の代表的作品の読み解きについて講義する。また、演劇の理解を深めるために、観劇し、観劇レポートにまとめる。</p>	
	美術の歴史	<p>パワーポイントを多用した講義形式となるが、出席者の積極的な参加（リアクションペーパー）も期待する。授業では作品を多く見せつつ、見えるもの（作品）と見えないもの（制作背景）とのつながりに注目し、西洋美術史の大きな流れを追う。科目は西洋美術とされるが、他の美術も比較対象として扱う。</p>	
	美術の歴史	<p>19世紀フランス絵画の流れを概観します。高解像度スライドを大量に使用し、できるだけ具体的にわかりやすく解説します。</p> <p>並行して個々の事例を取り巻く歴史的・社会的文脈に注目します。初めはさして面白く思えない対象が、背景を知ると興味深く見えてくることもあります。美術鑑賞は「趣味（直感的な好き嫌い）」が決め手とみなされがちですが、「知る」「学ぶ」も重要だということを実感してもらいます。予備知識がゼロでも、好奇心やチャレンジ精神のある方ならどなたでも歓迎します。</p> <p>美術の歴史は多様かつ幅広いため、一学期間の授業で全体を見渡すのはなかなか困難です。このため本講義ではあえてまとを絞ります（立教大学では、より広範な視点に立った美術関連科目も開講されています）。とはいえ19世紀フランスは現代にまで影響を及ぼす美術上の大変化が数多く起きた時期です。この授業で取り上げるクールベ、マネ、印象派などを深く学べば、21世紀を含めた他の時代・地域の美術を考える際のヒントになるはずですよ。</p>	



全学共通科目総合科目 多彩な学び (3 芸術・文化への招待)	美術の歴史	古代ギリシア・ローマ時代の美術から、20世紀初頭に展開された芸術運動までの西洋美術史を概観する。授業の基本的な進め方としては、各回のテーマについて説明した上で、関係する美術作品をスライドとして提示し、それぞれに解説を加えてゆく。 授業は通史として展開してゆくが、他の時代、地域の作品との比較検討を行うことで、西洋美術において頻出する重要な主題やモチーフについても理解を深める。	
	美術と社会	授業では美術作品がどのような社会背景で生まれたのか、古代から近現代を広く考察する。、西洋美術史を主軸とし、適宜、比較の対象として東洋、日本の美術作品も取り上げる。歴史の推移のなかで、文化や民族、作品ジャンルなど共通点を持つ作例を比較しながら、それぞれの作品の特徴への理解を深める。	
	美術と社会	18世紀後半から19世紀前半までのドイツ語圏の建築、彫刻、絵画を中心として、作品に顕れた社会の変化や社会への問題提起を読み取っていく。また、授業内ではディスカッションやグループワークを通じて、参加者が現代社会における芸術の役割について考察するよう促す。	
	美術と社会	オランダの絵画芸術は、17世紀において「黄金の世紀」と呼ばれる繁栄を見せ、ヨーロッパ全土に大きな影響を与えた。オランダの芸術は、現在のデザインや建築領域でも大きな影響力を持っている。この講義では、中世から20世紀までのオランダ美術を同時代のヨーロッパ芸術と比較検討を行う。具体的には、15-16世紀のヒエロニムス・ボスを端緒とし、17世紀のレンブラント、近代のファン・ゴッホ、モンドリアン以降の20世紀美術までを射程とする。	
	音楽の歴史	講義。西洋音楽史の最重要な専門用語や基本概念を歴史的な視点から論じる。毎回の授業では音楽を実際に聴き、楽譜を用いながら分析を加える。音楽的能力(実技、楽典等)は問わないが、積極的な関心と意欲は必須。とくに理論的な側面に重点を置くので、学としての音楽との対峙を想定してほしい。下記のようなトピックを論じつつ、各時代(古代、中世、ルネサンス、バロック、古典・ロマン派、世紀転換期、現代)の音楽の特徴を考察する。	
	音楽の歴史	本授業では、日本人にとっても比較的なじみ深い「ベル・エポック」と呼ばれる時代を中心に、19世紀後半から20世紀中葉にかけてのフランスの芸術音楽と文化の諸相を辿ります。主要な音楽家の作品を通して、「フランス音楽」や「フランスにおける音楽」の歩みを追いながら、文学・美術・舞踊などの関連する諸芸術や文化史上のトピックについても、様々な角度から理解を深めていく予定です。授業では豊富な視聴覚資料を活用するとともに、プロの音楽家をゲストスピーカーとしてお招きし、できるだけ皆さんの耳や目で実際に音楽に触れていただく機会を設けたいと思います。	
	音楽の歴史	この授業では、音楽を介して、作り手が音楽に送り出すイメージと聴き手が音楽に見出すイメージの関係を中心に論じていく。	
	音楽と社会	講義と鑑賞。映画自体の特徴(芸術・娯楽映画、ドキュメンタリー等)を踏まえつつ、当該作曲家がどのように描かれているか、どのような作品がどのように用いられているのか考察する。作曲家の生涯と作品の概観を鑑賞前に行う他、映画をいくつかの場面に区切り、掘り下げた解説を加える。映画の中では、作曲家は「(英雄伝や悲劇の)主人公」としての性格が強調されているが、学術的な音楽史書においても、また当時および現代の実社会においても、作曲家像は実は史実と逸話が交錯したところに形成されているのだという事実を再確認したい。	

(3 芸術・文化への招待) 全学共通科目総合系科目 多彩な学び	音楽と社会	さまざまな地域の音楽や芸能にかかわる読み切りのテーマを設け、多くの音源、映像資料を通して当該テーマの理解を深めることをめざす。回により、音楽的側面、社会的側面、文化的側面、関連領域との関わりなどをクローズアップする。受講生が事象としての音とそれが発せられている様子や社会との関わりを通して対象を理解する手助けとしたい。	
	音楽と社会	講義。交響曲は社会や時代精神の変遷とともに発展し、同時に交響曲の役割や理想も変化してきた。本講義では、各時代（古典派、ロマン派）の諸相に、具体的な作品と特定のテーマをもってアプローチする。授業内容のイメージを明確にするため、以下の授業計画には、あえて主に言及する予定の作曲家名や作品名等を記した。	
	美術論演習	受講生が展覧会に積極的に足を運び、展覧会について授業内で報告をする。発表に際しては、まず見学した展覧会をパワーポイントなどを使って紹介し、参加者全員で展覧会のコンセプトや作品について討論する。それから自らが訪れた美術館の所蔵作品などを使って仮想展覧会を企画し、口頭発表する。 発表内容はレポートとして提出する。 授業の進行は受講者数によって調整される。	
	美術論演習	西洋美術史の基礎的な方法論を学びながら、受講者は、講師が準備した西洋美術の作品リストから作品を選び、与えられた課題に取り組む、口頭発表を行う。発表で取り上げるのは、古代から近代までの西洋の美術作品である。口頭発表の後、クラス全体での討論及び講評を行う。そして、発表で指摘された点を再検討し、新たな考察を加えて、課題作品に関する最終レポートを提出する。	
	美術論演習	各回、様々な美術作品を取り上げる。履修者は、詳細な観察と記述を通じて気がついたことを出発点として、必要に応じて教員が提示した知見やキーワード等を踏まえて解釈を試みる。これらの観察や解釈をディスカッションを通じて共有すると同時に、美術作品の持つ特性を当時の美術理論、歴史的な背景、社会的な機能などを踏まえて理解を深めていく。	
	音楽論演習	演習形式。初めの数回で教員が指針を与えた後、全受講生が発表を担当する。原則として毎回、1作のオペラを取り上げる。各回の担当者は、事前に必要事項を調査・分析した上で、鑑賞の手引きとしてレジュメ作成および口頭発表を行い、鑑賞後の討論を導く。受講人数によってはグループ発表となる。各国・各時代の代表作を中心に、多様な作品に触れることを目指すが、受講者の積極的な希望、提案があれば優先したい。	
	音楽論演習	演習形式で基本的に学生個々のプレゼンテーションに基づき、学生同士及び講師とのコメントや質問のやりとりで進行します。ショート・プレゼンテーションでは自分の関心のある音楽を紹介し、ロング・プレゼンテーションでは、予め設定された5つの主題<音楽(舞踊)と社会><音楽(舞踊)と地域><音楽(舞踊)と身体><音楽(舞踊)と政治><音楽(舞踊)における視覚と聴覚>の中から履修生の関心によって選択し、発表を行います。	
	キリスト教美術	特に12世紀以降に隆盛をみた聖母への崇敬を反映する、慈しみの聖母、天后、エクレスシア等の種々の呼称を持ち多彩な象徴性を帯びるに至ったマリアのイメージについて扱う。聖書の記述を出発点として、俗語で著された聖母の奇跡譚、聖母への祈祷文などのテキストを参照しながら、多様な聖母図像の意味と機能について多角的に考察する。	

全学共通科目総合系科目 (3 芸術・文化への招待)	キリスト教美術	<p>普段美術館の展示室で「美術作品」として、その時々テーマに沿った組み合わせで並べられた図像を見ることが多い私たちですが、聖性を帯びた宗教的図像が本来置かれていた状況ではどのように機能していたのか、その多様なあり方を探っていきましょう。</p> <p>まず作例を多数見ながら、キリスト教美術に頻出する主題やシンボリックなモチーフの意味を知って、図像読解の基礎知識を学ぶことから始めます。</p> <p>授業後半では偶像崇拜を禁じているユダヤ教を母胎として生まれたキリスト教と図像の関係がどのような変遷を辿ったか、歴史的側面にも目を向けます。神の姿を図像化したい、神の存在を感じたいという要請と偶像崇拜の危険をめぐる葛藤を大きなテーマとして考えていきます。また、建築空間の中で固定された、動かせない壁画とそこで行われる典礼との有機的な関係を、イタリアのラヴェンナの聖堂を事例として見ていきます。</p> <p>人によっては、「美術」というと感覚的な印象や才能の有無などで鑑賞されたり、評価されたりして基準があいまいでわかりづらいもの、あるいは現在の資産的評価で価値が決まりうるものかと思ったりするかもしれません。しかし、そのような捉え方だけでは現在の私たちと異なる時代や地域の人々の感覚を理解できません。本授業では、作例がどのような社会の中で生まれ、どのように捉えられていたのかに注目し、宗教的崇敬対象として、また多様なメッセージを発する視覚的情報メディアとしてのキリスト教美術を考察していきます。</p>	
	キリスト教音楽	<p>すべての人に平等に与えられる「死」。歴史上人々はときにそれを恐れ、逃れようとし、ときにそれに憧れ、魅了されてきました。人々の生と死を司ってきたキリスト教の歴史には、そういった人々の死に対する思いが刻み込まれています。</p> <p>この授業では、キリスト教に関連して書かれたさまざまな音楽作品を取り上げながら、その音楽にどのような死生観が投影されているのかを分析していきます。むろんそのために、音楽だけでなくそれぞれの時代の社会や思想、キリスト教神学に関する資料を参照します。キリスト教や音楽に関する基礎的な知識は特に必要ありませんが、自分と大きく異なる世界観を拒絶することなく想像し、理解しようとする許容力が求められます。</p> <p>授業は歴史の流れに沿って進めるのではなく、いくつかのトピックごとに時代を横断して進めていきます。授業は音楽作品の鑑賞が中心になりますが、死を巡る作品というのはただ聞いて美しいというだけの作品では決してありません。それぞれの時代の人々の生と死と向き合うつもりで真剣に、集中して聞いて、自分の人生に照らしながら内容についてよく考えてください。</p>	
	キリスト教音楽	<p>本講座は講義形式とする。教会音楽は、ヨーロッパの音楽の歴史（西洋音楽史）を理解するために欠かせない音楽ジャンルの一つである。この講座では、西洋音楽史において取りあげられることが多い作曲家の曲について、そのテーマや特色、作曲の背景などを検証する。授業では演奏を聴くだけでなく、作曲の技法や音楽の理論、社会の情勢を視野に入れて楽曲を分析する。履修者には、楽器の演奏や楽譜を読むなどの音楽に関する専門の技術・知識の有無は問わないが、音楽への積極的な関心、音楽を理解したいという意欲を求める。</p>	
	都市と芸術	<p>古来、西洋社会の都市では音楽が演奏されてきた。その担い手は、教会、王侯貴族、音楽家などさまざまであり、人々はそれらを楽しんできた。本講座では、西洋音楽の歴史を概観しつつ、各時代の都市における音楽の様相を紹介する。特定の都市の歴史をたどるのではなく、時代ごとに各地の都市を巡ることで、西洋社会における音楽の展開を考察する。音楽と都市を中心とした、広く西洋文化理解の一助とした。</p>	

多彩な 全学共通科目 芸術・文化系科目 への招待	建築と文化	日本では、中国大陸・朝鮮半島・西洋から、その文化、宗教、政治制度、思想を取り込み、日本の気候風土や既存の文化・宗教と融合させ、様々な建築や都市を築いてきた。同時に、建築や都市は人々の生活の場であり、新たな文化が生まれ、育まれる場所でもある。本講義では、住宅を中心に日本人の生活と暮らしについて学び、さらに都市施設へと視野を広げ、日本の建築や都市の特徴やその変遷と、そこで生きていた人々の生活・文化を学ぶ。以上より、日本の社会・文化について考察する。	
	舞踊論	本授業は、地域に根差した文化や舞踊家たちの芸術活動の背景に触れながら、そこに出現する様々な舞踊に着目し、関連する研究を通じて、舞踊への理解を深めていく。取り上げる舞踊は、「生活文化の中の舞踊」「芸術としての舞踊」「教育の中の舞踊」「身体科学の中の舞踊」等である。授業内では、映像を適宜用いながら、舞踊について考察していく。	
	映像と社会	私たちが生きる21世紀の社会は、高度な映像技術を基盤として成立しています。この授業では、現代社会の在り方を示した作品を、多様な角度から取り上げ、視聴し、それに基づいて考察を行います。なお取り上げる作品は、比較的古い映画が中心となります。映像史において、重要な問題提起をした作品を鑑賞します。扱う作品および監督については、その都度、説明、解説を行います。また以下の授業計画は、全体の流れの大まかな目安と考えてください。	
	身体表現と哲学	本講義が扱うのは、身体を日常的な制約の外に連れ出すような表現行為の歴史です（ひるがえって、それは日常的な身体のあるかたを見つめ直すことにもなるとおもいますが、それはあくまで副産物でしょう）。映画、文学、ダンス、彫刻、音楽、絵画、写真、衣服……などにおける、身体表現をとおして、個々の身体が有する個性の途方もなさを、さまざまな角度から考えてみたいとおもいます。関連する哲学・思想も、ジェンダー／セクシュアリティ／エロス論などを含め、適宜紹介します。	
	身体表現と哲学	この授業では、人間の身体や人間の振る舞い、行動、演技、芸術表現などといった身体表現が、哲学においてどのように考えられてきたかを紹介していきながら、精神と身体、知覚と行動、創造的表現と二次的表現といった問題について考察する。また、身体や身体表現について哲学的に思考することがいかなる意味と価値をもつのかということも明らかにする。	
	ドイツ語圏の文学	近代～現代のドイツ語圏の文学作品（小説、戯曲）の中から、ぜひとも知ってもらいたいもの、学生時代に読んでもらいたいものを取り上げ、作者の生涯や時代背景、作品の内容などについて概説する。その上で、作品の一部を翻訳で読み、そこに見出される表現手法や問題性について考察する。毎回、作品に関する感想や自分の考えを適切な文章でまとめてもらい、提出してもらう。	
	ドイツ語圏の文学	恋愛において大きな苦しみを味わい、不幸に至った「不運な男」が登場する作品を取り上げることで、ドイツ文学に描かれた恋愛のかたち、人間関係について考えてく。	
	フランス語圏の文学	授業では、様々な国の作家の作品の分析をすると同時に作品の背景となる歴史や社会についても理解を深める。授業では、アンヌ・エペール、キム・チュイ、ジョゼフィーヌ・バコン、ナオミ・フォンテーヌ、エメ・セゼール、フランツ・ファノン、エドゥアール・グリッサン、マリーズ・コンデ、アマドゥ・クルマ、タハール・ベン・ジェルーン、アミン・マアルーフ、アシア・ジェバール等の作品を取り上げる予定である。	

(3 芸術・文化への招待) 全学共通科目総合系科目 多彩な学び	フランス語圏の文学	1889年に生まれ、1963年に亡くなったジャン・コクトーは、20世紀芸術を語る際にもっとも重要な人物のひとりであるが、その作品に加えて、その交遊関係もまた重要なものだ。 シュルレアリスムに荷担しながらも距離をおき、ロシアのアーティストたちとの交遊はもちろん、ココ・シャネル、サティ、ピアフ、藤田嗣治……フランスの20世紀が彼のまわりを集ったのだった。 この講義では、詩人としてのコクトーを中心にしながら、音楽や絵画、そして映画まで、コクトーが手にとったアートを俎上に載せて紹介しながら、そこから広がってゆく同時代の文学、芸術、その他を網羅的に見てゆきたいと考えている。 そのすべてをカヴァーすることはできないため、もっとも特徴的である詩と絵画、そして映画を3つの核として構成してゆく。	
	スペイン語圏の文学	スペイン語圏地域について歴史的な経緯や芸術的な動向を踏まえながら、この地域の文学を学び、地域的・文化的・様式的特徴を学ぶ。	
	中国語圏の文学	中国、香港、台湾における現代文学の全体像（文学史）を把握しながら、作品を読み解き、作品の背景となる歴史や社会への理解を深める。特に日本とかかわりのある作家を取り上げ、その小説や散文などを日本語訳で読み、時にはそれらを原作とする映画も鑑賞する。毎回、作品に関する感想や自分の考えをまとめた小レポートを提出し、学期末には最も興味を持った作品（あるいは作家）についての短評を書いてもらう予定である。	
	朝鮮語圏の文学	講義と演習形式を併用する。主に短編小説(日本語訳)を扱う予定だが、履修者は事前に作品を熟読した上、簡潔に分析する作業が必須となる。毎回講義の前半は時代背景や作家の経歴に関する説明を行い、後半は履修者との対話を交えながら、作品を精読する。履修者は、積極的に発言することが求められる。小説を読む上で重要となる背景や切り口についても、随時説明する。	
	立教ゼミナール3	写真はいま、スマートフォンやインスタグラムなどの普及によって、私たちにますますアクセスが容易となり、身近な存在になっている。そして、芸術文化の実践という観点からも、その存在は多様化しつつ重要性を増していると言える。しかし、そんな写真という映像について、深く考察する機会は限られているのではないか。写真は、人類史上初めて出現した、カメラという機械による知覚像である。本授業では、写真を学ぶ上での基礎的事項をおさえたいうえで、写真の本質について考察する写真論を検討します。特に、写真論において重要な以下の4つの論点について、毎回紹介する具体的な写真作品のありようと照らし合わせながら、考察を進めていく。 ・論点1 カメラの知覚と人間の知覚 ・論点2 光 ・論点3 身体 ・論点4 リアリティ ・論点5 記憶	
	立教ゼミナール3	中世から現代までのフランスの恋愛小説に触れる。毎回一つの作品の短い抜粋を取り上げるので、受講生には必ず読んできてもらう。同世代の男女が恋愛し結婚へいたるという現代日本の小説とはかなり異なった恋愛模様を探りながら、その背景にある歴史的な文脈を探る。ゼミナールなので、必ず一人一回は発表してもらうことになる。また毎回作品を読んで考えたことをリアクションペーパーに記してもらう。	

(3) 全学共通科目 芸術・文化への招待 多彩な学び 総合系科目	立教ゼミナール発展編 3	ピアニスト・作曲家として日米を主な活動拠点とし、アルバム制作、映画音楽、視覚芸術とのコラボレーションなど創作活動を行っている立場から、制作現場の要所を伝え、ゆたかな発想への気づきを促す。ディスカッションや発表の機会を随時設けて、学生自身にも表現する喜びを感じてもらい、実際に作品や演奏に触れてもらう。コミュニケーションとしての即興演奏を体感してもらう目的で、即興演奏家をゲスト（ベース奏者・パーカッション奏者・管楽器奏者などから）として招聘しセッションする場も設ける。他にも、映画監督、制作プロデューサーなどさまざまな業界の第一人者をゲストとして招聘しディスカッションなどを行う予定。	
	日本の美術	日本の美術史の流れを確認しつつ、毎回特定の画家や作品を選び、描かれた主題を中心に詳しく紹介する。その際に比較作例を古今東西に幅広く求め、同時代の文学や芸能などとの関わりにも着目し、作品のもつ特徴や文化史的意義を多角的なアプローチから考察する。	
	日本の美術	日本美術史の教科書に必ず載るような日本美術の代表的な作品を主として主題、作者、地域、吉祥性、文学や宗教との関わりなど様々な角度から概観したり、掘り下げたりして見ていきます。日本美術を多角的に捉えることによって、知識を深く定着させ、その面白さと特質を考えます。合わせて日本文化への理解も深めます。	
	日本の音楽	日本の古典音楽には多くのジャンルがあり、多様な広がりを見せている。その特徴には以下のようなことがあげられる。 (1) 多くが声楽である。 (2) 舞踊・演劇・美術などの諸要素と深く結びついている場合が多い。 (3) 先行の芸能・音楽などの影響を受けている場合が多い。 日本の古典音楽の各ジャンルを通じて上記の特徴を学ぶと同時に、基礎知識を習得し、歴史的な流れを把握する。また実演家による演奏を鑑賞し、日本の古典音楽の美を理解し、現代に生きる我々との接点を探る。	
	日本の音楽	日本の古典音楽には多くのジャンルがあり、多様な広がりを見せている。その特徴には次のようなことがあげられる。 (1) 多くが声楽である。 (2) 舞踊・演劇・美術などの諸要素と深く結びついている場合が多い。 (3) 先行の芸能・音楽などの影響を受けている場合が多い。 日本の古典音楽の各ジャンルを通じて上記の特徴を学ぶと同時に、基礎知識を習得し、歴史的な流れを把握する。また実演家による演奏を鑑賞し、日本の古典音楽の美を理解し、現代に生きる我々との接点を探る。	
	日本の演劇	能という舞台芸術について多角的に学ぶ。能の一曲を取り上げ内容を理解した上で、その一部分を詞章、節、それに伴う動きを含め、実際に身体で学ぶ。実技中心に。己れの肉体を目一杯使って、能の表現にどれだけ近づけるか、自分に仕掛ける事。本年はオンデマンドや双方向オンラインも併用する。	

全学共通科目総合系科目 (3 芸術・文化への招待)	Japanese Culture 1	<p>(英文) This course is dedicated to understanding Japanese art and culture through the lens of performance. The first half of the course covers selected topics in Japanese theatrical history, from Noh Drama to the postwar avant-garde. The second half of the course shifts toward using performance as a mode of analysis to understand Japanese culture and society. We will ask questions such as, “How does performance shape our understanding of history?” and “What does it mean to ‘perform’ our gender in today’s society?” The class will culminate in a final performance project, in which students apply a theoretical concept from the course to a Japanese art object of their choice.</p> <p>(和訳) この授業は、日本の芸術と文化をパフォーマンスというレンズを通して理解することを目的としています。授業の前半では、能楽から戦後のアバンギャルドまで、日本の演劇史のトピックを選択して学びます。授業の後半では、日本の文化と社会を理解するための分析方法として、パフォーマンスを使用することにシフトします。パフォーマンスはどのように私たちの歴史理解を形成するのか、「現代社会でジェンダーを「演じる」とはどういうことか」などを問いかけていきます。授業の最後には、授業で学んだ理論的なコンセプトを、学生が選んだ日本のアート作品に適用するパフォーマンス・プロジェクトを行います。</p>	
	Japanese Culture 1	<p>(英文) The course presents a variety of cultural habits and products along theories and ideologies that explain the psychology of consumption, and the way cultural production becomes part of national identity and a source of harmony. The key questions at the center are focused on what features make popular culture become popular, how and why certain products are successful over time while others disappear, how taste is formed and established, and what is the industrial mechanism that keeps culture going. The lessons present case studies from different areas of culture, such as manga, fashion, kawaii culture, J-Pop, idol groups, traditional Japanese festivals, Pokemon exhibitions, social networks, and more. The course is multi-disciplinary and is based on theories from different fields of study. Students will learn to analyze texts independently and to apply theories to different forms of social behavior according to their individual interest and academic background.</p> <p>(和訳) この授業では、消費の心理を説明する理論やイデオロギーとともに、さまざまな文化的習慣や製品を紹介し、文化的生産物が国民のアイデンティティの一部となり、調和の源となる方法を説明します。中心となる重要な問題は、人気のある文化はどのような特徴を持っているのか、ある製品が時を経て成功する一方で他の製品は消えていくのはなぜなのか、味覚はどのようにして形成され確立されるのか、文化を維持する産業メカニズムは何なのか、などに焦点を当てています。授業では、マンガ、ファッション、カワイイ文化、J-POP、アイドルグループ、日本の伝統的な祭り、ポケモン展、ソーシャルネットワークなど、さまざまな文化の分野からケーススタディを紹介します。</p> <p>この授業は学際的で、さまざまな分野の理論に基づいています。学生は、個々の興味や学歴に応じて、テキストを自主的に分析し、さまざまな形の社会的行動に理論を適用することを学びます。</p>	

(3 芸術・文化への招待) 全学共通科目総合系科目 多彩な学び	Japanese Culture 2	<p>(英文) The course is made up of key topics in the evolution of Japanese popular culture contents that led to the formation of influential worldwide movements and firmly placed Japan as a cultural superpower. We will explore and discuss these case studies from a variety of different perspectives. We will analyze and discuss manga and anime as a cultural phenomenon through a variety of topics: their history, evolution, and important figures. Course participants are expected to research on their own outside of the classes and, by the end of the semester, gain a working knowledge of popular culture and its role within Japanese society.</p> <p>(和訳) このコースでは、世界的に影響のあるムーブメントを形成し、日本を文化大国として確固たる地位を築いた、日本の大衆文化コンテンツの進化における重要なトピックで構成されています。これらの事例を様々な角度から探求し、議論していきます。マンガとアニメの歴史、進化、重要人物など、様々なトピックを通して、文化現象としてのマンガとアニメを分析し、議論します。受講者は、授業以外の時間にも自主的に研究を行い、学期末には、日本社会における大衆文化とその役割に関する実用的な知識を身につけることが期待されています。</p>	
	Japanese Arts A	<p>(英文) This course explores Japanese art from modern times to prehistory. The focus is on painting, sculpture, prints, ceramics, photography, etc. The first part of the course focuses on premodern art and the second part on modern art. What can artworks tell us about developments in Japanese culture? How can we analyze objects to find out? This course introduces various methods for describing artworks within their cultural context.</p> <p>(和訳) この授業では、近代から先史時代までの日本の芸術を探求します。絵画、彫刻、版画、陶芸、写真などに焦点を当てています。授業の前半では前近代美術を、後半では近代美術を取り上げます。美術品は日本文化の発展について何を教えてくれるのでしょうか？それを知るためには、どのように物を分析すればよいのでしょうか。この講座では、美術品を文化的背景の中で記述するためのさまざまな方法を紹介します。</p>	
	Japanese Arts B	<p>(英文) Japanese traditional music is often thought to be a relic of the past that should be appreciated but never changed. However, traditional music has always been connected with the ever changing societal structures of Japan, its roles and music evolving to stay relevant. This course will give a basic overview of major traditional genres and instruments still currently performed today in Japan and their historical and modern significance. This course will also include interactive components including workshops by guest performers and instrumental/vocal in-class/online performances. Students will also undertake research projects to personally answer the question "what is a Japanese sound?" that will result in class/online video presentations during the final weeks of class.</p> <p>(和訳) 日本の伝統音楽は、評価されるべきだが、決して変わらない過去の遺物と思われがちです。しかし、伝統音楽は常に変化する日本の社会構造と結びついており、その役割や音楽は時代に合わせ進化しています。この授業では、現在も日本で演奏されている主な伝統的なジャンルや楽器の基本的な概要と、それらの歴史のおよび現代的な意義について説明します。</p> <p>この授業には、ゲストパフォーマーによるワークショップや、教室内/オンラインでの楽器/ボーカルのパフォーマンスなど、インタラクティブな要素も含まれています。また、「日本の音とは何か」という問いに自ら答えるためのリサーチ・プロジェクトにも取り組み、最終週には教室内/オンラインでのビデオ・プレゼンテーションを行います。</p>	



全学共通科目総合系科目 多彩な学び (3 芸術・文化への招待)	Literature & Society	<p>(英文) Much of the world's great literature explores the relationship of the individual to society. Some literary works depict the individual in harmony with society while others describe the individual in conflict with society or leaving society behind altogether. In this course we will read and respond to works from a range of time periods and national literary traditions in order to assess how writers have depicted the individual's relationship to society. In this course, students also will be introduced to literary theory and to essays about literature and society to better contextualize the discussions about the literary works themselves.</p> <p>(和訳) 世界の優れた文学作品の多くは、個人と社会との関係をテーマにしています。社会と調和した個人を描いた作品もあれば、社会と対立したり、社会を捨てたりする個人を描いた作品もあります。この授業では、個人と社会の関係をどのように描いてきたかを評価するために、様々な時代や国の文学的伝統に基づいた作品を読み、応答します。この授業では、文学作品についての議論を深めるために、文学理論や文学と社会についてのエッセイも紹介します。</p>	
	Culture and Fine Arts	<p>(英文) Arts and the values of arts are considered to be universal and timeless. However, the reasons and the contexts of their being in societies vary and how people see and think about the works of art will be different. More people became closer to the works of art in modern times, being aware of the significance of art and art objects in their life. By taking some examples in history of the world, the course examines diverse phenomena relating to fine arts in modern society. The class also questions why and how people and society create, appreciate, and support those assets. The instructor will give lectures while students are required to discuss, investigate, and write relating to each session's topics. Also, students are to give presentations and write essays both twice during the course. Students are expected to attend a day trip to museums or art galleries.</p> <p>(和訳) 芸術や芸術の価値は、普遍的で時間を超越したものだと考えられています。しかし、それが社会に存在する理由や文脈は様々であり、人々が芸術作品をどのように見て、どのように考えるかは異なってきます。近代になって、より多くの人々が芸術作品を身近に感じ、生活の中での芸術や美術品の重要性を認識するようになりました。本講座では、世界史の中のいくつかの事例を取り上げながら、現代社会における美術にまつわる多様な現象を考察します。また、人々や社会がなぜ、どのようにしてそれらの資産を生み出し、評価し、支えているのかを問いかけます。授業では、講師が講義を行い、学生は各回のテーマに沿って議論、調査、執筆を行います。また、授業中に2回、プレゼンテーションとエッセイの作成を行います。また、日帰りで美術館や博物館に行くことも予定されています。</p>	

全学共通科目総合系科目 多彩な学び (3 芸術・文化への招待)	Exploring Children's Literature	<p>(英文) This course will allow students to gain deeper specialist knowledge and examine in detail various examples of well-known English children's literature. In each class, some illustrated books, but a wider selection of famous picturebooks created by a range of author/illustrators, both past and present, will be presented and discussed. Students will learn specialist terminology and develop their own criteria for describing and assessing these picturebooks. Common themes such as friendship, resilience and celebrating or embracing diversity will be discussed by participants from both the characters' and their own perspective in pairs and small groups.</p> <p>Students training to be English instructors at primary, junior-high, or high-school level, as well as anyone who is interested in literature, and ways to enjoy children's literature with their own, or future, children will find this course valuable.</p> <p>(和訳) この授業では、より深い専門知識を身につけ、有名なイギリス児童文学の様々な例を詳細に検討することができます。各回の授業では、絵本もありますが、過去から現在までの様々な作家・イラストレーターによる有名な絵本について、より幅広く紹介し、議論します。</p> <p>専門用語を学び、これらの絵本を説明し評価するための自分なりの基準を身につけます。友情、回復力、多様性の尊重などの共通テーマについて、登場人物と自分自身の両方の視点から、ペアや小グループで議論します。</p> <p>小学校、中学校、高等学校の英語指導者をを目指す学生や、文学に興味がある人、自分や将来の子供と児童文学を楽しむ方法に興味がある人は、この授業は貴重なものとなるでしょう。</p>	
	Techniques for reading and enjoying a picturebook in English	<p>(英文) In this practical, seminar-type course participants will gain knowledge about various picturebooks, as well as plan and practice two picturebook read-alouds in class, following the pre-reading, during-reading and post-reading framework. This framework is designed to help instructors nurture the development of learners' language and other skills, including critical or creative thinking through, for example, post-reading drawing, writing, craft or drama activities.</p> <p>Students training to be English instructors at primary, junior-high, or high-school level, as well as anyone who is interested in literature, and ways to share children's literature with their own, or future children will find this course valuable.</p> <p>(和訳) この授業では、様々な絵本に関する知識を得るだけでなく、プレリーディング、リーディング中、ポスTREEディングの枠組みに従って、クラスで2冊の絵本の読み聞かせを計画し、実践することができます。このフレームワークは、読後のドローイング、ライティング、クラフト、ドラマなどのアクティビティを通して、学習者の言語能力や、批判的思考、創造的思考などのスキルの発達を促すように設計されています。</p> <p>小学校、中学校、高校で英語指導者を目指している方、文学に興味がある方、自分の子供や将来の子供と児童文学を共有する方法に興味がある方にとって、この授業は貴重なものになるでしょう。</p>	

多彩な学び（全学共通科目・総合系科目・文化系科目への招待）	The Psychology of Literature 1	<p>(英文) By the end of the course, students will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(i) discuss different aspects of psychology in literature;</li> <li>(ii) in a pair or small group, prepare and present an interactive talk related to aspects of psychology in literature;</li> <li>(iii) write short essays and reflective responses to literary topics while showing understanding of relevant theories of literature and psychology.</li> </ul> <p>In this course, we will explore the psychology of literature from a variety of perspectives, using examples from prose, drama, and poetry. Topics for investigation include empathy, emotions, theory-of-mind, effects of literature on the reader, and creativity in fictional texts. This course will use myths and legends as the content.</p> <p>(和訳) 授業終了時には、以下のことができるようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(i) 文学における心理学の様々な側面について議論することができる。</li> <li>(ii) ペアまたは小グループで、文学における心理学の側面に関連した対話型のトークを準備し、発表することができる。</li> <li>(iii) 文学と心理学の関連理論を理解しながら、文学的なトピックについて短いエッセイや考察的な反応を書くことができる。</li> </ul> <p>この授業では、散文、演劇、詩を例にとり、さまざまな視点から文学の心理を探ります。具体的には、共感、感情、心の理論、文学が読者に与える影響、フィクションの創造性などである。この授業では、神話や伝説をコンテンツとして使用します。</p>	
	The Psychology of Literature 2	<p>(英文) By the end of the course, students will be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(i) discuss different aspects of psychology in literature;</li> <li>(ii) in a pair or small group, prepare and present an interactive talk related to aspects of psychology in literature;</li> <li>(iii) write short essays and reflective responses to literary topics while showing understanding of relevant theories of literature and psychology.</li> </ul> <p>In this course, we will explore the psychology of literature from a variety of perspectives, using examples from prose, drama, and poetry. Topics for investigation include empathy, emotions, theory-of-mind, effects of literature on the reader, and creativity in fictional texts. This course will use fairy tales and children's literature as the content.</p> <p>(和訳) 授業終了時には、以下のことができるようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(i) 文学における心理学の様々な側面について議論することができる。</li> <li>(ii) ペアまたは小グループで、文学における心理学の側面に関連した対話型のトークを準備し、発表することができる。</li> <li>(iii) 文学と心理学の関連理論を理解しながら、文学的なトピックについて短いエッセイや考察的な反応を書くことができる。</li> </ul> <p>この授業では、散文、演劇、詩を例にとり、さまざまな視点から文学の心理を探ります。具体的には、共感、感情、心の理論、文学が読者に与える影響、フィクションの創造性などである。このコースでは、おとぎ話や児童文学をコンテンツとして使用します。</p>	

<p>全学共通科目総合系科目 （3 芸術・文化への招待）</p>	<p>観光と文学</p>	<p>人文社会科学からの観光現象に対するアプローチは、これまでもつぱら地理学・社会学・文化人類学などの分野から研究が行われてきた。しかしながら、国木田独歩の武蔵野、徳富蘆花の湘南のように、文学が新たな観光地を作り出したケースが過去には存在し、文学が力を失った現在もなお「シャーロック・ホームズ」シリーズのように視覚メディアにおける新たな展開を通して、「聖地巡礼」を惹き起こしているケースもあれば、城の崎における志賀直哉等、単なる記号のかたちであるにせよ、観光資源として活用され続けているケースも数多い。この授業では、以上のような状況を踏まえ、文学による観光（文学作品に描かれた観光地の疑似体験やそれを通じた舞台探訪）と観光による文学（舞台を訪れた経験による作品理解や享受の促進）の双方から、観光経験における主観的意味づけとその言語化の重要性を考えてもらうことを目的としている。さらに、ガイドブックやトラベルライティングにそうした意味づけが経験的に活用されていることを紹介し、観光に適用される文学研究の応用可能性を考察する。</p>	<p>共同</p>
<p>多彩な学び（4 心身への着目）</p>	<p>認知・行動・身体</p>	<p>私達が普段直面する心身のあり方やその個性は、さまざまな神経伝達物質や脳部位の相互作用によって維持されている。それが多数派の状態から外れると「障害」とされたり、さまざまな生きづらさのもとになることもある。逆に、特別な能力や新たな未来の可能性を創造する手がかりをもたらず場合もあるだろう。 本講義では、身近な症例・実例を入りにヒトの心や行動のあり方を自然科学的に探求する方法と得られた知見を学ぶ。日常生活にも役立つ内容を通じて、科学的な思考の仕方を無理なく身につけられるような構成とする。 「ヒトのあり方」について、これまで無意識に蓄積してきた常識を覆し、ダイバーシティ社会の必然性を理解する助けとする。 さらに、こころや行動に対する生物学的アプローチのみならず、近年盛んな情報科学（AIなど）と組み合わせた神経科学の工学的応用の動向から、心とは何か、意識とは何かという問いまで切り込んでいく。 リアクションペーパーを通じた学生とのコミュニケーションと、自主学習を重視する。</p>	
<p>多彩な学び（4 心身への着目）</p>	<p>認知・行動・身体</p>	<p>我々は、世界をありのままにとらえているわけではない。視覚認知の話題を中心に、我々の身の回りの事象に深く関連する認知科学のトピックを紹介しつつ、「心」が外界の情報をどのように処理しているのか解説する。また、関連する他の研究領域の題材や最新の研究トピックも体系的に学び、認知科学の全体を概観する。</p>	
<p>多彩な学び（4 心身への着目）</p>	<p>認知・行動・身体</p>	<p>「心と身体はつながっている」とはよく言われることである。心と身体が相互に影響を与え合うことは心身相関と呼ばれる。本講義は心身相関を軸として進めていく。心身相関の代表として、ストレスや心身症を出発点とし、対人関係を含めこれらに関連する環境や刺激などを私たちはどのように捉え、処理しているのかを学ぶ。</p>	
<p>多彩な学び（4 心身への着目）</p>	<p>心の科学</p>	<p>対人場面には、様々な“なぜ？”がある。心理学をどれだけ学んでも、他者あるいは自分自身の心が手に取るようにわかることはないだろう。だが、行動に潜む心を読み取ろうとすることで、問いに対する何らかの答えは出るし、その後の行動予測にも役立つだろう。本授業ではこのような“心を読み取る姿勢”を、様々な知見を通して習得することを目的とする。</p>	
<p>多彩な学び（4 心身への着目）</p>	<p>心の科学</p>	<p>認知心理学は、人間の認識のしくみとその「不思議さ」を探求する。認知心理学は現代心理学における中心的なアプローチであり、人間の認識過程と知識構造について研究が進められている。本講義では、特に高次認知過程（記憶、言語、思考など）に焦点を当てる。また、狭い枠組みにとらわれず、生理心理学、臨床心理学、情報行動心理学、社会心理学、消費者行動心理学など近接領域にまたがった研究を積極的に紹介する。</p>	

多彩な学び <small>（4心身への着目）</small> <small>（全学共通科目総合系科目）</small>	心の科学	心理学とは人間の心を科学的に解明しようとする学問であり、心理学の研究を通して明らかになっていることは、私たちの日常生活と密接な関わりをもっている。この授業では、様々な心理学の領域を概観し、日常生活での出来事と心理学で取り上げられているトピックとの関連性を紹介する。	
	パーソナリティの心理	パーソナリティの定義と形成過程・構造などに関する理論および理解の方法について解説した後、対人関係・対人行動・心身の健康とパーソナリティとの関連性について、具体的な研究も示しながら考察する。	
	パーソナリティの心理	パーソナリティ発達や対人関係の発達など、社会情緒的な側面の発達を中心に概観していく。受講者各人が「これまで」を振り返り、「これから」を展望するためのヒントともなるように、具体的場面と関連づけながら講義を進めていく。生活の中でみられるエピソードの紹介なども、積極的に取り入れていく。授業全体を通して、受講者各人が「人の発達とは何か」を考えるきっかけを提供したい。	
	パーソナリティの心理	日常の生活の中で「性格」や「個性」という言葉で私たちが捉えている人間観は、心理学では「パーソナリティ（人格）」という概念で研究されています。心理学におけるパーソナリティの考え方は、発達、社会、認知、臨床といった他の様々な領域とも関係しています。パーソナリティという概念を学ぶことは、他者を理解することだけでなく、自分自身を理解するためにも役立つでしょう。この講義では、心理学の科学的な方法で捉えられているパーソナリティという考え方を通して、自他の多面性や多様性への理解を深めます。	
	対人関係の心理	対人関係にはポジティブな面とネガティブな面の2つの側面があり、この2つの側面はいずれも個人の心理的健康と深くかかわっている。授業では、コミュニケーションを基盤に、対人行動や対人関係の展開、あるいはストレスフルな対人関係など、さまざまな視点から理解を深めていく。	
	対人関係の心理	社会的存在である人間は、集団を離れて生きられない。集団は協働により偉業を達成したり、成員に支援や安心感を与えるが、時として内外に破壊的な影響をもたらす。そうした「集団」で生じるさまざまな現象を、具体例をもとに心理学的に検討する。社会に生きる人間にとって、個と集団の理想的な関係はどうあるべきか、それをどう築いていけるかを模索したい。	
	対人関係の心理	各回では自己と他者の関わりから始まり、対人認知、社会的態度、集団の影響や対人関係の各段階（親密な関係の形成・発展・維持・崩壊）といったテーマを取り上げる。各テーマの基本的な用語、概念を解説しながら、それらに関する具体的な研究を紹介することで対人関係の諸問題に対する理解を深めていく。人の悩みの多くは、対人関係が原因となる。そのため、「良好なコミュニケーションとは何か?」、「なぜ助けてと言えないのか?」や「空気を読むとは何か?」などの日常生活で感じる疑問にも焦点を当てながら、講義を進める。 講義は主にパワーポイントを用いて進めるが、必要に応じて映像教材なども使用する。毎回の講義の終わりにはコメントペーパーを作成し、提出してもらう。コメントペーパーの作成は、講義で学んだ知識を整理する上で重要であるため、各学生の積極的な取り組みが求められる。	

多 彩 な 学 び （ 全 学 共 通 科 目 総 合 系 科 目 ） 4 心 身 へ の 着 目	心の健康	<p>日本は高齢社会に突入しました。その長い人生の中では、受験、就職、結婚、出産、そして配偶者の死など様々な出来事があり、たくさんのストレスがかかります。その結果、心のバランスを崩してしまう人も少なくありません。そんな中で我々が健やかに生きていけるように心の健康を考えていきます。知識があれば、防げることもあります。</p> <p>まず「心の健康」を精神保健（異常心理学）の観点からみていきます。心理学の立場から、自分や家族がその状況に立たされたときにどのように対処できるのか、生きていくヒントを提示していきます。一部の症状については、様々な文化からもその現象を捉え、それが身近なものであることにも触れていきます。その上で、最後には「こころ」の正常と異常というものをトータルに自ら考えられるようにしていきます。</p>	
	心の健康	<p>わたしたちは日々の生活の中で、さまざまな心の動きを体験しながら過ごしています。喜びや幸福感に満たされる時もあれば、抑えがたい感情やネガティブな考え、ゆううつな気分が続いてしまう時もあります。これらは誰もが体験し、目で観察することも難しいため、どこまでが健康でどこからが問題となるのか、判断が難しいものです。本授業では、おもに講義形式を通して、心の健康と問題の境目の見極め方、問題が生じる背景、対策について、紹介していきたいと思います。</p>	
	身体パフォーマンス	<p>日本と世界の諸都市で上演されている舞台芸術作品（劇場外での上演も含まれる）の記録映像を見ながら、作り手が何を考え、どのようなプロセスで演劇を創作してきたのか歴史的・理論的に講義する。前半の授業（第1回～第7回）では歴史的に重要な作品および関連文献を取り上げ、舞台芸術を見るための枠組（フレーム）について考える。後半の授業（第9回～第14回）では、ここ数年間に国内外で上演された作品および関連文献を取り上げ、日本と世界の諸都市における舞台芸術および創作環境について紹介し、現代における舞台芸術や劇場環境の在り方について考える。これまで劇場に足を運んだことのない学生をはじめ、舞台芸術に関する予備知識のない学生の受講を歓迎する。</p>	
	身体パフォーマンス	<p>講義形式で行う。Google Classroom等にアップしたテキストおよび映像教材を用いる。</p>	
	ストレスマネジメント	<p>社会で生きていくうえで、いわゆるストレスを避けることは困難である。しかし、上手に乗り越えることができれば人間的に成長するチャンスにもなる。この授業では、ストレスの性質について学び、なぜ自分がある出来事をストレスと捉えるのか考え、ストレスに対する習慣的な考えかたや感じかた、ストレス反応への気づきを高めることを目的とする。また、ストレスへの対処法を紹介し、日常生活への応用を検討する。</p>	
	ストレスマネジメント	<p>ウェルネスレベルの向上には、ストレス対処の知識とその実践が不可欠である。本講義では、ストレスを招かない思考やコミュニケーションスキル、状況に左右されずにウェルネスレベルを高めるスキル、それに様々な心理療法とその背景にある理論や価値観などを講義する。内容は受講生の興味などにより柔軟に対応する。</p>	
	癒しの科学	<p>筆者は30年以上臨床心理士・公認心理師として活動している。この授業では、臨床心理学的な「癒し」について考えることで、自己をいかし、自分を実現し、セルフケアに努め、そして他者と共生、共存しつつ、社会の中で生きていくことを、臨床心理学的に学ぶことを目的とする。</p>	
	スポーツの科学	<p>世界で活躍するアスリートの心・技・体に焦点を当て、「競技スポーツ」の知られざる全貌に、スポーツ科学の視点から迫る。いまや、トップアスリートにとってスポーツ科学の導入は必要不可欠といつてよい。試合の結果だけでなく、そこにたどりつくまでのプロセスも興味深い。視聴覚教材（DVD、スライド）などを用いて、競技スポーツの“奥深さ”を明らかにしていく。</p>	

多彩な学び <small>（4心身への着目）</small> 全学共通科目総合系科目	スポーツの科学	スポーツは身体の運動であるが、生理学、心理学、解剖学や医学など多くの学問が関与している。スポーツを軸に、いろいろな視点からスポーツを見つめる。また、スポーツと科学の関連について紹介する。	
	健康の科学	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の構造と健康を維持する仕組みについて講義する。</li> <li>2. 代表的な疾病についてそのメカニズムと予防方法・治療方法を紹介していく。</li> <li>3. 生命に関する倫理的問題についてもいくつか検討する。</li> </ol>	
	健康の科学	健康スポーツで、真剣に楽しんで一所懸命に遊ぶために、知っておきたい身体とスポーツの関係を紹介する。また種目別に、その具体的なノウハウについても明らかにしていく。安全で効果的なスポーツを実践するための多くの知識を得て、「わたしの健康スポーツ（種目）」について考える。	
	栄養の科学	近年、健康や食と栄養への関心が高まっている。本講義を通じて、「食と栄養」に関して「日常を科学する」知識や視点を持ち合わせるよう指導する。また、体重管理や競技力向上、健康増進や疾病予防などさまざまな状況下での「食と栄養」についての自己管理を促す機会と知識やスキルを提供する。	
	アンチエイジングの科学	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命現象と老化の基礎を紹介する。</li> <li>2. 加齢に伴う疾病の原因と機序を講義し、その対策を考察する。</li> <li>3. 現在のアンチエイジング研究の紹介し、今後の研究課題を検討する。</li> </ol>	
	スポーツとメディア	スポーツとメディアは過去100年間の歴史の中で、お互いにどのような影響を与えつつ、発展・変容してきたか。オリンピック、サッカー、高校野球、箱根駅伝などメディア界で高価値として知られるコンテンツを中心に見ていく。そして、そこから見えてくるスポーツの社会的価値・役割を探っていく。また、今後のメディアとスポーツの関係性、東京オリンピック後の日本のスポーツを展望する。	
	スポーツとメディア	スポーツ記者を長く務めてきた毎日新聞論説委員が、スポーツとメディアの関係や報道の役割について、自らの経験も踏まえて講義する。インターネットによるSNSの発展でメディアが変革期を迎える中、スポーツジャーナリズムの将来も展望していく。	
	スポーツと社会	本講では、文化人類学的視点と歴史学的視点でスポーツに関連する様々な事象に接近します。時事的な問題も取り扱うので、国際情勢の変化によって授業内容も変更になる場合があります。	
スポーツと文化	毎回の講義にテーマを設定し、各テーマについて、テキストやその他の資料・映像などの情報を基にしながら講義をします。原則として講義終了時にはリアクションペーパーに記入してもらい、評価の対象とします。記入内容があまりにも不十分な場合は出席になりませんので気をつけてください。		

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">           多 彩 な 学 び            全 学 共 通 科 目 総 合 系 科 目            (4 心 身 へ の 着 目)         </p>	<p>レジャー・レクリエーションと現代社会</p>	<p>本講義は「オンデマンド方式」です。指定された日時に講義動画と資料をBlackboard上にアップロードしますので、受講生の皆さんは、自分のライフスタイルに合わせて自由な時間に講義動画を受講します。</p> <p>この講義では、指定テキストの「スポーツクラブの社会学：『「コートの外」より愛をこめ』の射程から」（青弓社）を用いて授業を行っていきます。授業担当者の専門分野は、スポーツ社会学です。指定テキストで紹介されているスポーツ空間論の「コートの中」と「コートの外」という空間概念を用いれば、スポーツだけではなく、生活空間における日常と非日常の切り替え、たとえば、頑張る空間とリラックスする空間の切り替えのヒントを見つけることができます。それはレジャー・レクリエーションといった非日常的な娯楽空間を、どのように創造し、より豊かにするのか、といて考えを持つことにも近づくことができるでしょう。スポーツ・レジャー・レクリエーションは、その娯楽対象に対して、どのように関わるかによって、ある人にはとても楽しく充実した時間となりますが、ある人にはその逆でまったく楽しめない無駄な時間にもなってしまいます。そういうことがなぜおこってしまうのか、「コートの中」と「コートの外」という空間概念から考えることで、自らの振る舞いや行動に変化を与えるきっかけになるかもしれません。この講義ではそんなことを目指しながら授業を展開したいと思います。</p>		
	<p>アウトドアの知恵に学ぶ</p>	<p>授業はスライド写真による解説を中心に進行します。テーマに応じて実体標本を回覧し、ゲストスピーカーからより専門的なお話を伺う予定です。本授業で扱う「アウトドア」とは、自然を上手に利用する技術や知恵全般のことであり、テントの張り方やバーベキューの方法といった個別のレジャーテクニックを学ぶ場ではありません。なお「命」についても多く取り上げます。狩猟などの回では人により不快に感じる画像も扱いますが、人間の営みを振り返るうえで避けることのできないテーマですので、ご承知おきください。</p>		
	<p>立教ゼミナール4</p>	<p>自分にとっての最適なスポーツとはどのようなものかを、スポーツ科学的に探っていく。毎回、一つのスポーツ種目を行い、その際の生理的・心理的指標を測定し、授業の後半にはその結果を考察する。</p>		



<p>多 彩 な 学 び （ 4 心 身 へ の 着 目</p> <p>全 学 共 通 科 目 総 合 系 科 目</p>	<p>立教ゼミナール4</p>	<p>(英文) The seminar focuses on contemporary research on religion and ritual particularly that which draws on an evolutionary or cognitive perspective. Although many people in Japan and in the West do not follow any specific religion, the majority of people across the world believe in and belong to religious groups. Furthermore, rituals are important in all societies and even non-religious people often hold some supernatural beliefs. This course examines religion and ritual as a cross-culturally recurrent social and psychological phenomenon and examines modern research that explores both the effects of religious belief and ritual participation. The course starts with lectures that introduce research skills and then moves on to examine key topics on ritual and religion. Then in the second part of the course, the focus switches to examine specific studies in depth over 2 weeks. In the first week, students focus on a key study and attempt to identify its strengths and weaknesses. Then in the second week, students are tasked with finding follow up studies or related research and the broader research literature is examined through group discussions and/or reaction papers. Students are required to make a presentation (15-20 mins) on one selected topic during the course and will be required to submit short reaction papers for certain weeks. Classes throughout are a combination of lectures and group discussion segments.</p> <p>The course is suitable for students for all English levels as the course contents will be adjusted according to the level of the students. By the end of the course students will be familiar with the key theories on religion/ritual and have gained experience in discussing research critically and presenting their opinions in English.</p> <p>(和訳) この授業では、宗教と儀礼に関する現代の研究、特に進化論的あるいは認知論的な視点に基づく研究に焦点を当てます。日本や欧米では特定の宗教を信仰していない人が多いが、世界では大多数の人が宗教団体を信仰し、所属している。さらに、どの社会でも儀式は重要であり、無宗教者であっても何らかの超自然的な信仰を抱いていることが多い。この授業では、宗教と儀式を文化横断的に繰り返される社会的・心理的現象としてとらえ、宗教的信念と儀式への参加の両方の効果を探る現代研究を検討する。</p> <p>この授業は、研究スキルを紹介する講義から始まり、儀式と宗教に関する主要なトピックを検証していきます。そして、授業の後半では、焦点を切り替えて、2週間にわたって特定の研究を深く掘り下げて検討します。最初の週は、主要な研究に焦点を当て、その長所と短所を見極めることを試みます。そして2週目には、フォローアップ研究や関連研究を見つけることが課題となり、グループディスカッションやリアクションペーパーを通じて、より広い研究文献を検討する。学生はコース期間中、選択した1つのトピックについてプレゼンテーション（15-20分）を行うことが求められ、特定の週には短いリアクションペーパーを提出することが求められる。授業は、講義とグループディスカッションの組み合わせで行われます。</p> <p>コース内容は受講者のレベルに応じて調整されるため、あらゆる英語レベルの受講生に適しています。授業終了時には、宗教／宗教に関する主要な理論に精通し、研究内容について批判的に議論し、自分の意見を英語で発表する経験を積むことができます。</p>	
---	-----------------	--	--

<p>立教ゼミナール発展編 4</p>	<p>日常生活で意識することの少ない人体の構造や力学的特性を学んで「身体への気付き」を促し、健康管理ツールとしての筋トレを、日常生活のレベルで使えることを目標としたい。運動技術の習得をゴールとするのではなく、学生間の議論と共有体験を通じて各人が「カラダを探究する」入口に立てることを重視する。講義全体を通して、下記のテーマに対して多様な視点からアプローチしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筋肉は重層構造を成しており、表面から触ることのできない深部筋への働きかけが重要であること</li> <li>・筋肉を動かさない生活を続けると、腰痛など様々な障害につながる機序を正確に理解すること</li> <li>・自分の身体を、筋トレやストレッチを通じて一定範囲内でコントロールすることの重要性を理解すること</li> </ul>	
<p>立教ゼミナール発展編 4</p>	<p>テクノロジーによる身体の拡張によって引き起こされる生身の身体の意義の希薄化、五感で知覚される世界への執着から導かれる霊性の否定という二つの傾向を特徴とする現代社会において生じる様々な問題を自覚し、それに適切に対処するためには、過去の様々な思想との対話を通して現代社会における自己のあり方を客観視する必要がある。本授業では、以上のような現代的課題を念頭に置きながら東西宗教思想における霊性論と身体論を理論的かつ実践的に探究することで、理論と実践の相互作用による総合的な人間理解を目指す。</p>	
<p>立教ゼミナール発展編 4</p>	<p>本授業では、パラスポーツ（障がい者スポーツ）及び障がい者理解を深めるとともに障がい者の生活基盤としての地域に着目し、パラスポーツ支援の今後のあり方と方法について検討する。具体的には、パラリンピアン、行政担当者、特別支援学校関係者、社会福祉協議会関係者等の多彩なゲストを招聘する。そして、地域において障がい者が日常的にスポーツを楽しめる環境や機会をどのように創出すればよいのか、そのあり方と方法を考究する。</p>	
<p>立教ゼミナール発展編 4</p>	<p>近年、日本では「哲学対話」などの対話実践が広く普及し始めている。これは、参加者が対等な立場で意見を交わし、前提を問い直し、思考を深めていくケア的な実践である。本講座では、対話の中でのそうした「ケア」の概念を取り上げ、対話の中での「ケア」の意義と課題を探る。授業内ではさまざまな対話の理論と、その実践例を学ぶと共に、受講者自身が対話に参加し、ファシリテーターとしての経験を積むことを通して、実践者としての心構えを習得することを目指す。そのため、すべての授業で受講生の主体的な参加が求められる。毎回リアクションペーパーの提出が必須であり、講義形式ではなく対話形式で行われる。</p>	

多彩な学び <small>（4心身への着目）</small> 全学共通科目総合系科目	Japanese Mind	<p>(英文) Communities approach and deal with adversity and challenges in numerous ways. This course will examine how various community issues were dealt with at the grassroots level through some of the lecturer's own research carried out in several communities inside and outside of Japan. First, we will examine how the impact of the Christchurch earthquakes and Tohoku earthquake on local communities and how adversity was dealt with at the grassroots level. This will be followed by local community development projects and education in Kenya. We will also examine issues of food security in a case-study of a local community in Saitama. Finally, we will look at the impact of tourism on local communities in Japan. Following each lecture, you will be encouraged to offer their own perspectives and opinions on these issues as young people, in reaction papers. Specific questions will also be put forward in each class, with the intention to provoke discussion and debate and for you to offer your perspectives and mindsets regarding how to deal with specific challenges in the community.</p> <p>(和訳) 地域社会では、様々な方法で逆境や課題に対処しています。本講座では、講師自身が国内外のいくつかのコミュニティで行った調査をもとに、コミュニティのさまざまな問題に草の根レベルでどのように対処してきたかを検証します。まず、クライストチャーチと東北地方太平洋沖地震が地域社会に与えた影響と、草の根レベルでの逆境への対処法を検証します。続いて、ケニアでの地域コミュニティ開発プロジェクトと教育を取り上げます。また、埼玉県地域コミュニティのケーススタディでは、食料安全保障の問題を検討します。最後に、日本では観光業が地域社会に与える影響について考察します。各講義の後には、これらの問題について、若者としての自分の視点や意見をリアクションペーパーとして提出していただきます。また、毎回の授業では具体的な質問を投げかけ、議論を促し、地域社会における特定の課題に対処するための視点や考え方を提示してもらうことを意図しています。</p>	
	Individual Differences in Psychology	<p>(英文) This course will introduce a range of individual differences in human psychology, in particular regarding additional language learning. Drawing on theoretical perspectives and personal experiences, students will be encouraged to consider such dimensions as personality, identity, beliefs and agency, motivation, and emotions. The course will also touch upon the interaction of individual differences with group dynamics.</p> <p>(和訳) この授業では、人間の心理における様々な個人差を、特にアディショナルランゲージの学習に関して紹介します。理論的な視点と個人的な経験をもとに、パーソナリティ、アイデンティティ、信念と主体性、モチベーション、感情などの次元について考えることができます。また、個人差とグループダイナミクスの相互作用についても触れます。</p>	
	Health and Wellness	<p>(英文) Survey the elements making up six dimensions of the wellness model through readings and group discussion. Identify lifestyle habits that enhance physical, social, emotional, spiritual, intellectual, and occupational wellness. Identify and discuss current issues in physical and mental health.</p> <p>(和訳) 読書とグループ討論を通して、ウェルネスモデルの6つの側面を構成する要素について調査する。身体的、社会的、感情的、精神的、知的、職業的なウェルネスを高める生活習慣を明らかにする。身体的および精神的健康における現在の問題を特定し、議論する。</p>	

多彩な学び （4 心身への着目） 全学共通科目総合系科目	Understanding Speech Sounds 1	<p>(英文) This course covers basic articulatory phonetics. Students will firstly learn speech anatomy and physiology. Then they will learn phonetic transcription (IPA) and description of consonants and vowels. They will also learn suprasegmental features, such as stress, rhythm and intonation.</p> <p>(和訳) この授業では、基本的な調音音声学について学びます。まず、音声の解剖学と生理学を学ぶ。次に、音声学的表記法 (IPA)、子音と母音の表記法について学ぶ。また、ストレス、リズム、イントネーションなどの超分節的な特徴についても学習する。</p>	
	Understanding Speech Sounds 2	<p>(英文) This course introduces basic acoustic phonetics. Students will firstly learn sound wave and waveforms. Then they will learn characteristics of sounds, such as pitch, loudness, duration, and quality. Then students will learn the production of speech and acoustic properties of vowels and consonants. They will also learn how to use a phonetic application called praat.</p> <p>(和訳) 本講義では、基礎的な音響音声学を紹介する。まず、音の波と波形を学ぶ。次に、音の高さ、大きさ、長さ、音質などの音の特徴を学ぶ。次に、音声の生成と母音・子音などの音響特性について学ぶ。また、プラートと呼ばれる音声認識アプリケーションの使用方法についても学習する。</p>	
	いのちを健康で彩る智慧	<p>(1) ひとつの事象をさまざまな視座から素直に観聴きする姿勢を育む。</p> <p>(2) これまでに体験したことのない事象をイメージできる豊かな想像力を育む。</p> <p>(3) 「健康」の概念、「健康」に関する価値観を形成する礎となる、さまざまな専門分野の「知」に触れる。</p> <p>(4) 履修者、ひとり一人が授業で得た気づきを統合し、「Health Humanities」の概念について、自分なりに熟考するとともに、人類の「生」と「健康」への貢献可能性について、さまざまな人生背景を有する履修者とともに考え、語り合い、分かちあう。</p> <p>(5) 一人ひとりの「思考の自律性」を高めるとともに、すべての市民が健康を享受できる世界を創りあげていくために、自らが社会で果たすべき役割を意識づける。</p>	
多彩な学び （5 自然の理解） 全学共通科目総合系科目	数学の世界	ラグランジュの定理やガロアの定理などの連分数の基本的な性質を学ぶ。 また、連分数の応用としてペル方程式の整数解の求め方を学ぶ。	
	数学の世界	前半は確率の話題を紹介していく。後半は統計の話題を予定している。できる限り具体的な例を挙げ、必要事項を適時補足しながら進める予定である。	
	数学の世界	古代から19世紀までの負の数の歴史を取り上げる。古代中国で負の数が導入された経緯、インドでの理解、ヨーロッパへ移入されて以来のさまざまな論争を通じて、その概念が深化し確立されていく状況を見ていく。	
	数学の世界	微分積分法は、最先端の自然科学から身近な事柄におよぶ様々な場面で使われている。講義では図や具体的なイメージを用いて数学的な直感を養いつつ、現実世界においてどのように微分積分法が用いられているかを紹介する。	

多 彩 全 学 共 通 科 目 （ 5 自 然 系 理 科 目 ）	宇宙の科学	太陽は惑星に対して電磁的エネルギーを供給しているが、その他にも太陽風という超高温の気体を放出しており、それが磁場を持つ惑星（水星、地球、木星、土星など）と磁場を持たない惑星（金星、火星、月、彗星、小惑星など）とプラズマを通じて相互作用している。その結果、磁場を持つ惑星では美しいオーロラ現象が見られたりする。授業では、何故そのような相互作用が起こるかを初学者にも理解出来るように解説する。授業の中でコメントカードの記入、および解答の時間を多く取り、理解を増進する。	
	宇宙の科学	太陽系の惑星、銀河系、そして宇宙の大規模構造を最新の観測結果に基づいて概観し、それぞれの天体やそこで起きている現象について解説する。また、2020年12月に小惑星リュウグウから表面物質を持ち帰ったはやぶさ2や2018年10月に打ち上げられた水星探査機みおについて、開発を担当した講師自身の体験を織り交ぜつつ紹介する。また、近年になり太陽系の外に地球型惑星が数多く発見されており、それに対して人類が何をすべきか、議論する。	
	宇宙の科学	現代宇宙物理学のえがく宇宙を概観します。宇宙の構造と成り立ち、その中で生まれた天体にはどのようなものがあるか、宇宙とヒトはどのように関わっているか、またその知識がどのような苦勞の果てに得られたか、紹介します。	
	宇宙の科学	現代の宇宙科学は、電波からガンマ線に至る全電磁波領域で観測が行われ、宇宙の構造と進化の理解が進んできた。この授業では、最新の観測結果に基づいて、現代天文学の宇宙観、すなわち地球、太陽系、恒星、銀河、銀河団の誕生と進化、宇宙の起源について学ぶ。	
	生命の科学	本講義では最初に免疫を理解するための基礎として、細胞や遺伝子などについて学ぶ。さらに、免疫について学んだ後、免疫に関わる様々なトピックスについて紹介する予定である。	
	生命の科学	生物共通のあるいは各生物特有の「しくみ」について概説し、その理解の上に、私たち自身及び私たちの周りの生命現象に関して、その機構や意義を解説する。生命現象に対して問題意識を持ち、それを論理的にとらえようとする姿勢で授業に臨んでほしい。	
	生命の科学	前半はゲノム、タンパク質、細胞といった生命科学の基礎的な内容を盛り込みながら合成生物学とはどのような学問なのかを紹介する。後半は、合成生物学が我々の未来に与える影響について、医療、産業、倫理面を中心に、ベンチャーやアカデミアなど関連業界の話題も盛り込みつつ解説する。	
	生命の科学	個体レベルから細胞レベルまで、生命科学に関して広く理解する。その上で、生命科学的技術が我々の社会にどう貢献しているのかを知り、今後何が出来るのかを考える。義務教育以来、生命科学分野になじみのない学生にもわかりやすく、かつ、最新の生命科学現象にも触れられるような構成にする。	
生命の科学	地球上の多様な生物にも、共通の「生命のしくみ」がある。まず、その根幹をなす遺伝を司るDNAや生命現象を作り出すタンパク質のしくみの基礎について、身近な事例を絡めて概説する。さらに、応用的な内容として、さまざま環境に生きる微生物研究やタンパク質工学研究などを紹介し、生命の進化やその多様性、およびライフサイエンス技術と社会との関わりについて考えていく。おもにパワーポイントを用い、グラフィックスや動画を交えた講義を行う。		

多 彩 全 学 共 通 科 目 自 然 の 理 科 目	物質の科学	この宇宙は何からできているか、私たちが何からできているか知りたいという好奇心は、科学の最初の動機であり、最終的な目標です。最近の科学のめざましい進展により、物質を構成する原子の構造から宇宙の進化の過程まで、多くの現象が説明できるところまでできました。しかし最近得られた観測データは、宇宙に正体不明の膨大なエネルギーが満ちていることを示唆しています。人類は宇宙の数パーセントしか知らないことが明らかとなってしまいました。  私たちが現在何を知っていて何を知らないのか、科学の進展を振り返りながら概説します。	
	物質の科学	私たちの世界観の最も基礎となる知識は、科学的に得られてきたものが多々あります。例えば、私たちは何故、空間が三次元だと思っているのでしょうか？ どうして、時間が流れると思っているのでしょうか。この授業では、この様な、基礎的な世界観を支える科学的な根拠と、それを疑い続ける現代科学の最前線を紹介しします。特に、流れ続ける時間の中である時期だけ、自分が生きているという当たり前の人生観について考察します。授業内では、多くのグループワークを通じて、自分たちで議論し、簡単な実験を含めて確認して理解できる様にします。	
	物質の科学	『未知な事象に興味を持つ心』（好奇心）は科学技術を発展させるために必要な原動力です。 本講義のテーマでもある『私たちの世界を構成する物質』は人類にとって最も根源的かつ重要な問いと言え、古くから科学者の好奇心を駆り立ててきました。 先人の努力の結果、現代では既に多くの謎が解かれています。 本講義では、この根源的な問いに関して人類が解き明かしてきた解釈を、時には最新の研究を紹介しながら解説します。 理科系科目(物理・化学・地学・生物)の既習の有無は問いません。	
	身近な物質の化学	本授業では、化学物質の法規制、危険性、有害性について解説し、さらに摂取量を考慮したリスク評価、リスクコミュニケーションへ展開する。リスクの考え方は、社会において専門的な判断をする際の幅広い考え方へ繋がることも講義する。化学物質を安全に利用するための情報の調べ方にも触れる。持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)など国際的な取り組みについても紹介する。	
	身近な物質の化学	物質の観点から私達の身の回りをながめると、生命体を含めて、原子の結合体や分子の集合体に他ならない。本授業では、身の回りを物質の観点から捉え、身の回りの技術や現代が抱える課題を考えることにより、化学の原理と物質科学に対する興味を深めることを目的とする。空気、オゾン層、地球温暖化、エネルギー・化学・社会、水、酸性雨、ナノテクノロジー、高分子、分子間力と分子認識、液晶をそれぞれ題材とした講義を行う。	
	身近な物質の化学	我々の身のまわりにある様々な物質あるいは化学現象がどのような性質に基づいて利用されているのかを各回の講義の中で紹介する。また、自身が興味あるトピックについてプレゼンテーション形式で発表してもらう。	
	化学と自然	化学結合、物質の構造、化学反応を網羅的、羅列的ではなく、原子・分子のレベルでとらえて、系統的に理解するために基礎から講義をする。特に、前半は、原子中の電子、周期表や化学結合など基礎的な内容を段階を踏んでゆっくりと講義する。それらを土台にして、後半では、物質の色、物質の反応、大気温暖化効果やオゾンホールなどを理解出来るように講義する。	

多 彩 全 学 共 通 科 目 自 然 系 理 科 目 ( 5 )	化学と自然	我々はどのようにして現代化学の理解に到達したのか。現代化学へと続く化学の歴史や過去の経緯を辿ることによって現代化学の内容をより深く理解する。また、その過程で発生した様々な事象から我々は何を読み取ることができるかを考え、現代につながる課題を考察する。	
	化学と自然	空気、オゾン、二酸化炭素、エネルギー、化石燃料、水、原子力と代替エネルギーなどをテーマにそれぞれ2回にわたって講義する。それぞれのテーマに関連する化学の基礎知識について解説し、それをもとに将来の予測、可能性について考える。	
	行動の科学	スライドとビデオを使用し、進化論と動物行動の適応的意義について講義する。また、最新の論文などを紹介する。また、現代社会問題を取り上げ、それらを生物学的観点から考察した際に浮き彫りとなる人間社会特有の異常現象についても議論する。	
	行動の科学	ヒトを含む動物は多様な行動をしているが、それにはどんな意味があるのだろうか？本講義では、動物の行動について、その進化的要因について主に取り上げる。遺伝子の話なども出てくるので中学理科程度の知識はあったほうがいいのかもかもしれないが、生物学の専門的知識は特段必要としない。ヒト以外の動物の話がほとんどなので、ヒトにしか興味がない場合には受講しないことを強く推奨する。	
	生命の歩み	地球の形成から現在までの長い歴史の中で、生命の誕生は新たな地球環境を作り出し、結果として現在の生物多様性が生み出されている。そこで、地球と生命の歴史について時系列に沿って学習を進め、地球形成から現在に至るまでの地球生命史を概説する。 第1～4回では、地球の成り立ちと原核生物による初期の生命活動について学習する。第5～9回では、光合成生物の登場による大気環境の変化から生物の陸上進出に至るまでの生物活動について学習する。第10～14回では、生物の繁栄と絶滅の変遷を学習し、どのように現在の生態系が形成されたのかを学習する。講義の最後に簡単な小テストを行い、小テストの提出をもって出席とする。	
	生命の歩み	ホモサピエンスの出現、進化、多様性を学び、ヒトという生物の弱みや強みを理解する。	
	地球の理解	この宇宙に惑星は、星の数ほど存在していることが分かってきた。一方、人類は地球を飛び出し、太陽系内に存在する惑星や小天体を探索し、近い未来には月や火星に人類の活動領域を広げる計画が着実に進んでいる。このような時代に生きる今だからこそ、惑星の多様性を理解し、他の惑星と地球を比較することで、地球という存在の理解を深める。	
	地球の理解	地球がどのように誕生して進化してきたか、構造はどうなっているのか、地表や地球内部で起こる様々な地球科学現象がどういった仕組みで起こるのか等について映像や写真をまじえながら紹介する。それぞれの内容に関し、それがどういった観測や実験に基づいて明らかにされてきたのかについて解説する。教科書等に記載されている基礎的内容に加え、専門誌に発表されたばかりの最新の研究成果についても紹介していく。	
	地球の理解	前半では、現在の地球がどのような空間と時間に存在するのか、ならびに近年の気候と環境の変化が過去も含めるとどういった特徴をもっているのかについて学ぶ。中盤では温暖化に伴う世界各地の変化について、特に雪氷学に関連した専門家の解説や動画を基に理解をする。後半では、温暖化の理解の歴史と現在、未来について学び考える。	

多 彩 全 学 共 通 科 目 自 然 合 系 理 科 目	情報科学A	デジタルデータにおける数値、文字、画像、音声、動画などの表現方法とその利点や理論的背景を通して、用途・目的に応じたデータの特性について学ぶ。また、ハードウェアを構成する機器の役割やプログラム、OSの機能についても学習することでデータ処理の概要についても学ぶ。	
	情報科学A	情報処理の「仕組みや原理の理解」を目的として、情報のデジタル化の概念からコンピュータの基本的な機構、マルチメディアシステム、人工知能の基礎な事項などについて学ぶ。	
	情報科学A	情報端末の構造やデータの処理および保存方法を学ぶことで、ハードウェアとしてのコンピュータの構造がもたらす脆弱性や問題点がなぜ生じるのかを考察する。 また、携帯性など利便性の向上がもたらした問題点、セキュリティ対策によって生じる脅威についても説明することで、安全性と利用範囲について判断するためのポイントを理解する。	
	情報科学B	主に人間や社会にかかわる側面についての情報処理技術が与える影響を学ぶものである。コミュニケーションの基礎知識からネットワークなどのマルチメディアシステムの実際の使われ方・影響などについて学ぶ。また、計算論的思考(Computinal Thinking)の基礎となる知識を学ぶ。	
	情報科学B	マルチメディアの発展はネットワーク技術と強く結びついており、またマルチメディアコンテンツはネットワークを通じて利用され、個人や社会の支援に役立てられる一方でサイバー攻撃などの問題点も取りざたされている。 インターネットの規格、また現状提供されているサービスを実現する仕組みについて学ぶことでその仕組みが内包する利点と問題点について学習し、情報環境との関わり方について考える。	
	情報科学B	インターネットは「善意のシステム」であり、それ故に悪意のある攻撃に弱いという特徴を持つ。また近年では複数のウェブサイトを通じて収集された行動履歴の情報が統合・分析・反映されるようになったことで利便性が増す一方、情報運用に関する問題やプライバシー侵害などが取り沙汰されるようになり、法整備が進められている。 このような問題が何に由来しなぜ問題となるのか、またどのような対応が可能なのかを理解するため以下の2点について説明する。 (1) ウェブサイト側の「行動履歴」の利用 ネットワークとは利用者と情報提供者双方によるデータ送受信であり、通信自体に、また利便性を図るために利用者側の情報も必要であることを理解した上で、情報がどのように収集・利用されているのか、またそれらがもたらす問題点についても考える。 (2) インターネットの仕組みと攻撃 インターネットの仕組みや通信手順の必要性について理解したうえで、そこから生じる問題点とそれを悪用した不正利用や攻撃の手法について学ぶことで、どうすれば不正利用を防止できるか、防止できない不正利用にどう対処するかについて考察する。	
自然環境の保全	東京のような大都市であっても、我々の周囲には多くの野鳥が生活している。鳥たちはどのような生活史をもつのか。また、その生活史は人間の活動とどのように関連し、どのような問題を引き起こしているのか。身近な鳥類を取り上げてその生活史をなるべく具体的に解説する。また身近な鳥類を通して、環境問題・保全問題を考える一助としたい。		



多彩な学共 通科目 (5目総合 自然の系 理解科目)	自然環境の保全	文明・科学技術の進展とグローバル社会の拡大に伴い、膨大な原材料や物資調達のための過剰な資源開発が全世界で進行中である。それは地球上に存在する自然環境や生物多様性に危機をもたらしている。この講義では、アフリカの熱帯林を事例に、本来の自然環境や生物多様性の機能や役割を学びつつ、資源開発に伴う地球規模の自然界への脅威だけでなく従来より自然界に依拠し長大な年月に渡り持続可能な自然環境保全を実践してきた先住民への土地・人権侵害などについても情報提供する。とりわけ資源を輸入依存に頼りながら大量の原材料や物資を必要とする日本の責任は重い点から、日本人として何ができるのかを考察する機会をも提供する。	
	生物の多様性	生物学は「普遍性」と「多様性」が両輪となって発展している。これらは互いに密接に関係し合っている。本講義はこの多様性に着目し、様々なスケール（分子レベルから地球規模まで）の生物学を俯瞰することを旨とする。また、最新の生物学の研究について関心を高めることも目指す。	
	生物の多様性	講義では、オリジナルの写真で構成したパワーポイントと、重要なテーマを分かりやすく説明した資料を用いて、花の受粉や種子散布、菌類やバクテリアとの共生、さまざまな環境への適応などを解説する。観察を深めるために植物のスケッチも行う。身近な自然から日本そして世界の自然と生物へと視野を広げていく中で、生物多様性とその危機、自然との共生なども考える。	
	地球環境の未来	この講義では、地球環境の成り立ち、様々な地球環境問題の原因やしくみ、影響等、地球環境の現状について学び、理解を深めます。また、私たちの日常生活は地球環境と密接に関係していることを念頭に置きながら、地球環境の未来を考えていきます。さらに、持続可能な社会のために今後望まれる解決策や個人でできる取り組みについても議論を進めます。	
	自然と人間の共生	限界自治体ともいべき長野県泰阜村（やすおかむら）。非効率、不合理と切り捨てられてきた山村が今、循環型の地域社会作りの先頭に立っている。村民とヨソモノ・若者の環境教育NPOが協働して、持続可能な地域社会を創る事例（山村留学など）を紹介しながら、自然と共存する人間のあり方を考察する。なお、科目担当者は泰阜村で実際に活動する上記環境教育NPOの代表理事である。	
	脳と心	まず、脳の構造と機能についての基本的な情報を提供する。その上で、心理学の研究分野の中でも特に脳科学からのアプローチが盛んないくつかのテーマを取り上げ、今日までに得られている知見を各論的に解説していく。その際、できるだけ具体的な事例や実験結果を紹介する予定である。基本的な知識を身につけるとともに、現代の脳科学がどこまで人の心の働きを解明しているのかについて理解することを目指す。	
	オーダーメイド医療最前線	「オーダーメイド医療」とは、狭義には、個々人の遺伝子の形質に合わせた薬剤や治療法などを選択する医療のことを指します。広義には、人間の生き方死に方も個人の価値観が尊重されるという考えに基づき、生老病死へのあらゆる医学的介入を自律的に選択していくことを意味します。 そのような個人のニーズに合わせた「オーダーメイド医療」は、より効率的な治療効果が期待される一方で、遺伝子偏重の見方を強め、私たちの生命観や健康観に大きな影響をもたらす可能性があります。また、個を大切に、国家や社会に不当に制約・疎外されない自由な生き方を希求することは基本的な権利ですが、方向性を誤れば、格差を助長し共存としての他者理解を阻むことも危惧されます。 本講では、人間の幸福追求と先端医科学技術の利用との間の多層的問題に触れ、ともに考える時間を持ちたいと思います。	

多 彩 全 学 共 通 科 目 自 然 系 理 科 目	大学と科学技術	原子力や放射能、遺伝子操作、化学物質汚染など、科学技術が絡む現代社会のさまざまな問題をどのように読み解けばよいのだろうか。大学・アカデミズムと科学技術との関係を解きほぐしながら、科学史や科学社会学などの科学技術論の視点を紹介し、社会的側面から考察する。また、それらを大学・学問のあり方と絡めて考えていく。	
	大学と科学技術	社会における大学と科学技術の源流を、古代ギリシアから現代まで辿っていく。その過程で、リベラルアーツとは何か？大学がどのように登場したのか？科学、技術、科学技術のそれぞれの違いについて、大学で科学技術が研究されるようになった背景について学ぶ。講義は、講師との対話やスモールディスカッションを挟みながら進められる。最終回には、テーマを決めたディスカッションを行い、本授業での学びを受講者自身でまとめるとともにレポート課題の準備を兼ねる。	
	化学と社会	現代社会の直面する課題として、化学物質が原因となっている環境問題を取り上げ、物質と社会との関わり合いについて、自然科学の立場から考察を加える。また、化学が対象として来た物質とその社会とのつながりについて、「文明と物質」という観点から学習する。さらに、化学物質や原子力によるエネルギー生産についても触れる。物質-人間-社会の強い結びつきが現代社会を支える重要な要因の一つであることについて、学際的な理解を求めます。	
	宇宙から地球のみらいを考える	2023年2月6日（月）～9日（木）の日程で集中講義として開講する。なお、集中講義にあたっては、2023年2月4日（土）9：30～11：30で事前学習を予定している。これには必ず出席すること。事前学習と集中講義の詳細については、受講決定者に改めてmanaba（聖路加国際大学学習支援システム）を通じて通知する。ログインに必要な情報は抽選登録結果発表後に教務事務センターに問い合わせること。国立天文台野辺山宇宙電波観測所における授業では、天文学に関する基礎的な講義の後、施設見学、天体観測を体験するとともに、担当教員から提示される課題に、受講生全員が取り組む。	
	立教ゼミナール5	どのようなテーマがふさわしいかを最初に考え、テーマごとに5人くらいのグループを作る。協力して調査し、プレゼンテーションを行い、他のグループとの意見交換や討論を行う。そのような作業を通して情報技術への理解を深める。場合によっては授業計画を一部変更することもある。	
	Science Studies	(英文) This course is intended to inspire curiosity about questions generated by science concepts that are prevalent in the news today. We begin with an observation on the role of science in today's society and witness the way in which science is molded into a story. We then explore case studies of topical science themes, with particular attention to the discourse the media use to tell stories. Students will experience being on "the other side of the media" through a mock press interview. (和訳) この授業は、今日のニュースで流布している科学の概念から生まれる疑問に対する好奇心を刺激することを目的としています。まず、現代社会における科学の役割について観察し、科学がどのようにストーリーに組み込まれていくのかを目の当たりにします。次に、科学に関する話題のテーマについて、特にメディアがどのような言説でストーリーを伝えるかに注目しながら、ケーススタディを行います。模擬取材を通して、「メディアの向こう側」を体験します。	

多 彩 な 学 共 通 科 目 （ 5 自 然 の 理 解 ）	Nature of the Earth	<p>(英文) The class aims to give a basic description of the scientific approach to understanding nature. The course starts with a brief description of the philosophy of science and exploration of the critical elements of the scientific approach. To illustrate the method, the phenomena of gravity and the evolution of our perception of it are explained in detail. One traces the development of our understanding from ancient times to the cutting-edge concepts. The course also introduces a scientific view of the problem of energy consumption by modern society as a block "Earth, Energy, Society." This consideration brings a basic scientific ground for any political, economic or emotional discussion of the possible ways for our society to develop beyond the era of fossil fuel. These topics: "philosophy of science", "gravity", and "Earth, Energy, Society", are the main topics of the class and one of them should be selected as the subject for the final report. The second part of the semester is allocated for presentation prepared by the students.</p> <p>(和訳) この授業では、自然を理解するための科学的アプローチについて基本的な説明を行うことを目的としています。コースは、科学の哲学の簡単な説明と、科学的アプローチの重要な要素の探求から始まります。その方法を説明するために、重力の現象とそれに対する我々の認識の変遷を詳細に説明する。一つは、古代から最先端の概念に至るまで、我々の理解の発展をたどる。また、現代社会が抱えるエネルギー消費の問題を、“地球・エネルギー・社会”のブロックとして科学的に捉え、考察しています。この考察は、化石燃料の時代を超えて社会が発展するための可能な方法について、政治的、経済的、感情的な議論を行うための基礎的な科学的根拠をもたらすものである。これらのトピックは「科学哲学」、「重力」、「地球・エネルギー・社会」の3つのトピックは、この授業のメイントピックであり、最終レポートのテーマとしていずれかを選択する必要がある。学期の後半は、受講生が準備したプレゼンテーションに充てられる。</p>	
	Understanding of Agricultural Science	<p>(英文) We are currently facing to several agricultural problems coming from climate change, population pressure, resource limitation, and so on. This course will be helpful to understand the history and current issues on agriculture and agricultural science. Based on the comprehensive understanding of those points, we will discuss how the agriculture should be practicing.</p> <p>(和訳) 現在、私たちは、気候変動、人口増加、資源不足など、様々な農業問題に直面しています。この授業では、農業と農業科学の歴史と現在の問題を理解するのに役立つでしょう。この授業では、農業と農業科学の歴史と現在の問題を理解し、それらを総合的に理解した上で、どのように農業を実践していくべきかを議論します。</p>	
	Importance of Global Plant Health	<p>(英文) Plants are essential of human beings, making up 80% of the food we eat. Food plants (crops) are suffering from diseases, pests, and weeds; consequently, 20 to 40% of crops are destroyed in every year. Along with a development of transportations leading to an active inter- and intra-national trading and travelling, we must pay attention to reduce a risk of plant pests and diseases spreading.</p> <p>(和訳) 植物は、私たちが口にする食物の8割を占める、人間にとって必要不可欠な存在です。食用植物（作物）は、病気や害虫、雑草などに悩まされており、その結果、毎年20～40%の作物が破壊されています。交通機関の発達により、国内外での取引や旅行が盛んになるにつれ、植物の害虫や病気が蔓延するリスクを減らすことに注意を払わなければなりません。</p>	

<p>多 彩 全 学 共 通 び 通 科 目 自 然 合 系 理 科 目 解</p>	<p>Ecology:Environment and Sustainability 1</p>	<p>(英文) Students will be able to discuss the major ecological and environmental challenges that Earth is facing and its sustainability issues. 1) Identify and explain the concerns about the extent of the current ecological challenges, their impact to the environment and human life including personal responsibility. 2) Evaluate and propose solutions to current environment problems through collaboration. 3) Identify arguments, nuances and implied meaning of texts and digital media on current environmental issues.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Overview of Ecology and environment issues</li> <li>・ World population and environment</li> <li>・ Earth resources depletion</li> <li>・ Environmental Challenge</li> </ul> <p>(和訳) 学生は、地球が直面している主な生態学的・環境学的課題とその持続可能性の問題を論じることができるようになります。1) 現在の生態学的課題の程度、環境および個人的責任を含む人間生活への影響に関する懸念を特定し、説明することができる。2) 現在の環境問題を評価し、共同作業による解決策を提案できる。3) 現在の環境問題に関するテキストやデジタルメディアの論旨、ニュアンス、含意を理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- エコロジーと環境問題の概要</li> <li>- 世界人口と環境</li> <li>- 地球資源の枯渇</li> <li>- 環境問題への挑戦</li> </ul>	
	<p>Ecology:Environment and Sustainability 2</p>	<p>(英文) Students will be able to discuss the major ecological and environmental challenges that Earth is facing and its sustainability issues. 1) Identify and explain the concerns about the extent of the current ecological challenges, their impact to the environment and human life including personal responsibility. 2) Evaluate and propose solutions to current environment problems through collaboration. 3) Identify arguments, nuances and implied meaning of texts and digital media on current environmental issues.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Ecology issues</li> <li>・ Waste disposal and environment</li> <li>・ Climate change</li> <li>・ Environment Challenge</li> </ul> <p>(和訳) 学生は、地球が直面している主な生態学的・環境学的課題とその持続可能性の問題を論じることができるようになります。1) 現在の生態学的課題の程度、環境および個人的責任を含む人間生活への影響に関する懸念を特定し、説明することができる。2) 現在の環境問題を評価し、共同作業による解決策を提案できる。3) 現在の環境問題に関するテキストやデジタルメディアの論旨、ニュアンス、含意を理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- エコロジー問題</li> <li>- 廃棄物処理と環境</li> <li>- 気候変動</li> <li>- 環境問題への挑戦</li> </ul>	
	<p>カーボンニュートラル人材育成講座</p>	<p>受講生の皆さんには、リアルな課題に取り組んでもらいます。今年度は、①本学でカーボンニュートラルを実現するにはどうすればよいか、②豊島区でカーボンニュートラルを実現するにはどうすればよいかという点に関連する具体的な課題を皆さんに投げかけます。皆さんには、授業を通じて課題解決に役立つ知識を学んでもらい、グループワークによって課題に対する自分たちのアイデアを練り上げ、最後にそのアイデアを披露してもらいます。こうした実践的な学びを通じて得られる力は、皆さんの社会課題解決への思いを実現していく上できっと役立つはずです。この授業では、第一線で活躍される方々にゲストスピーカーとして来ていただき、皆さんの学びをサポートします。本学キャンパスや豊島区における関連施設の見学なども取り入れる予定です。なお、最初にグループを作りますので、最後までこの授業を受講する気持ちのある方だけに参加してもらえればと思います。また、持続可能な開発のための教育(ESD)の第一人者である阿部治先生(立教大学名誉教授)、及び、村上千里先生(本科目兼任講師就任予定)に授業のサポートをしていただきます。</p>	

全学共通科目総合系科目 (6 知識の現場)	GL111	<p>(英文) Each session will focus on a different aspect of leadership. It provides various types of workshop tools and facilitation methods to enhance students' leadership skills as well as the further understandings to the topic. Under the active learning approach, students are encouraged to share their ideas to the class to maximize team learning.</p> <p>This is a project-based learning course. Thus, divided into small groups, students are required to work on a project given by a client organization, where they are encouraged to apply the tools/methods and perform leadership in the project work.</p> <p>(和訳) 各セッションでは、リーダーシップのさまざまな側面に焦点を当てます。ワークショップのツールやファシリテーションの方法も様々で、学生のリーダーシップスキルを高めるだけでなく、テーマへの理解を深めることができます。アクティブ・ラーニングの手法を用いて、学生は自分のアイデアをクラスで共有し、チームで学修することができます。</p> <p>この授業は、プロジェクトベースの学修です。学生は小グループに分かれて、顧客組織から与えられたプロジェクトに取り組むことが求められ、その中でツール/メソッドを適用し、リーダーシップを発揮することが求められます。</p>	
	GL111	<p>自分ならではのリーダーシップ開発を目標とし、少人数のチーム（5～6名）にて、クライアント企業や団体とGLPが共同開発するプロジェクトに取り組みます。授業を通して、多様なチームメンバーとの協働による新しい提案の創造を体験します。プロジェクトの中では、様々な視点から自分の経験を振り返り、チーム内での相互フィードバックや対話を通じて、自分自身や人生にとって価値ある実践的な学びを得ていきます。</p> <p>各クラスは様々な学部、学年の受講生によって構成されます。そのため、受講生が自ら目標を立て、それを共有しながら相互に支援し、チーム内で率先して行動するといった、各受講生のリーダーシップの開発・発揮が求められます。与えられたことに取り組むのではなく、自ら考え行動し共通の目標に貢献する挑戦を継続します。最終的には所属するチームを超えて、他者のリーダーシップ開発・発揮を支援することも期待されます。</p> <p>*本内容と授業計画について、クライアント企業と開発する課題、グループワークの進捗状況次第で、内容や順序が変更になる可能性があります。</p>	
	GL102	<p>本講座は大きく3つの内容を取り扱う。1つ目はリーダーシップが身につくメカニズムの理解である。具体的には「人はどのように成長するのか」に関する理論を理解し、リーダーシップが身につくプロセスについての理解を深める。</p> <p>2つ目はリーダーシップを開発する方法について理解する。具体的には「人の成長を促す関わり方」に関する理論を理解し、ファシリテーションやコーチング等の具体的な関わり方の方法・スキルについて学ぶ。</p> <p>3つ目は他者のリーダーシップ開発を促す実践である。理論を頭で理解するだけでなく、実際に他者に関わることで、実践できるようにする。授業は講義だけでなく、グループワークを中心に行う。</p> <p>なお、本授業の「他者のリーダーシップ開発」における「他者」とは、後輩・同僚・先輩・上司などさまざまな宛先を想定している。また、通常「他者のリーダーシップ開発」は、一人で行うものだけでなく、組織や上司の目標を認識した上で、連携しながら実施するものである。授業では上述した視点も含めて「他者のリーダーシップ開発」について学ぶものである。</p> <p>授業は基本的にオンラインでの実施を予定している。対面授業は、中間振り返りなど1-2回を予定しているが、感染状況に合わせて全ての授業をオンラインにすることがある。</p>	

全学共通科目総合系科目 (6 多様な学びの現場)	GL103	<p>本講義ではリーダーシップを効果的に行うための人間特性の理解と、効果的なコミュニケーション方法の習得を、講義・演習・プロジェクトワークを通じて実践的に行う。</p> <p>本講義を受講修了した者は、基本的な自己理解・他者理解のフレームを持ち、円滑なコミュニケーションの基礎を身につけていることを目指す。</p>	
	GL201	<p>目標へ向けて、コースを通して学ぶことは下記の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「リーダーシップコミュニケーションとしての質問力」、「質問をチームで活かすアクションラーニング（質問会議）」、「効果的なコミュニケーションとコーチング」に関する理論や方法論を実践しながら、その重要性とともに学びます。</li> <li>2. 地域社会からグローバルまで、今の多様な社会において重要である「ダイバーシティとインクルージョン」に対する考え方と付き合い方を学びます。リーダーシップが世界のどこでも、誰とでも発揮できるマインドセット、スキルを実践しながら磨きます。</li> <li>3. 上記で学ぶ、新しいスキルや理論を、実際の企業が目指す未来実現に向けて、学生同士で取り組みます。その中で、振り返りやフィードバックをすることで、効果的に学びを深めていきます。</li> </ol>	
	GL202	<p>目標のために、実践を通して学ぶことは、下記となります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 異なる他者を尊重し、多様性を活かす「多様性と包括」への理解を体感を通して深め、実践において重要となるマインドセットを学びます。</li> <li>2. 質問のみで問題解決にチームで取り組む、グローバルでも用いられる手法「アクションラーニング（質問会議）」の実践を複数回行います。</li> <li>3. 質問を活かしたリーダーシップスキルとして、「質問技法」、「効果的なリーダーシップコミュニケーション」、「コーチング基礎」などを学びます。</li> </ol> <p>*受講者のニーズや学習状況に応じて、実際にグローバルに活躍するリーダーを招聘することもあります。</p> <p>*GL基礎科目での学びを活かし、多様なメンバーとの効果的な協働や共創を授業内外で実践していきます。</p> <p>*一人ひとり異なるリーダーシップ開発のために、全員に他者のリーダーシップを開発する相互支援も期待されます。</p>	
	GL301	<p>(英文) Each applicant, personally, is first required to apply for one of the study-abroad programs selected by Center for Global Human Resource Development (CGHRD). After successfully admitted in the program, he/she is entitled to apply for GL301. Applications for GL301 are reviewed/evaluated by instructor. (Please see "Others" part of this syllabus for detailed information about the study-abroad programs.)</p> <p>Once officially registered, all GL301 students must participate in both prep and reflective sessions.</p> <p>In the preparatory session, each student sets own goals to achieve in the study-abroad program, and elaborate on the action plan.</p> <p>In the reflective session, students are asked to reflect on his/her progress against the goal and plan set before study-abroad, and will build up new leadership journey for the future.</p> <p>(和訳) 各応募者は、まず、グローバル教育センターが選定した留学プログラムの1つに個人的に応募する必要があります。プログラムへの参加が認められた後、GL301への応募が可能となります。GL301の申請は、講師が審査・評価します。</p> <p>正式に登録されると、すべてのGL301の学生は準備セッションと振り返りセッションの両方に参加しなければなりません。</p> <p>準備セッションでは、各学生が留学プログラムで達成すべき目標を設定し、アクションプランを詳しく説明します。</p> <p>振り返りセッションでは、留学前に設定した目標や計画に対する自分の進捗状況を振り返り、将来に向けた新たなリーダーシップの旅を構築することが求められます。</p>	集中

全学共通科目総合系科目 (6 知識の現場)	GL302	<p>本授業は、誰かから与えられたテーマではなく、それぞれの好奇心や着眼点に気づき、自らの人生で取り組む熱意の湧くテーマを探求することから始めます。4日間の授業とその前後の課題を通して、全員がテーマを考え、日常で実践しながら、自分の心が動く方向や、自分自身について探求していきます。その際、自分のことだけを考えるだけでなく、変化する世界や社会を見渡し、自分自身が何ができるのか、何をしたいかを問いかけます。</p> <p>その実践と学習を一人で行うのではなく、小グループを組み、それぞれのキャリアについて、受講生同士で迷ったり、考えたりすることを楽しみながら、相互に支援をしながら進めていきます。GLPやBLPで学んできた、他者のリーダーシップを開発する相互支援、そして、承認・傾聴・質問を始めとした、リーダーシップ・コミュニケーションを発揮する機会があります。</p> <p>また、それぞれの人生でリーダーシップ実践が継続できるよう、変化の激しい世界で生きる中で、どのようにリーダーシップを実践するかについての考え方や秘訣についても学びます。その過程で、これまで磨いてきた自分らしいリーダーシップを、実社会で実践するきっかけをつかみます。</p> <p>*本授業はアクションラーニングとしての学習となりますが、特定の企業から掲出されるテーマに取り組む学習(PBL)ではありません。</p> <p>*GL101, GL111, BL0を修了した方で、リーダーシップをさらに開発したい方、人生にリーダーシップを活かしたい方、どの学部の方も大歓迎です。</p> <p>*本内容と授業計画について、リーダーシップ実践の進捗状況次第で、内容や順序が変更になる可能性があります。</p> <p>*受講者のニーズや学習状況に応じて、実際にグローバルに活躍するリーダーを招聘することもあります。</p>	
	グローバル共通教養総論	<p>(英文) This course provides students many aspects of global issues according to the list of Sustainable Development Goals. Depending on the availability of guest speakers, the topics discussed during the class maybe adjusted.</p> <p>(和訳) この授業では、持続可能な開発目標のリストに沿って、グローバルな問題を様々な角度から学びます。ゲストスピーカーの都合により、授業中に議論されるトピックは調整されることがあります。</p>	
	ソリューション・アプローチ (開発経済)	<p>(英文) The course will cover: (1) lectures on the key areas in development, and project and approaches of development assistance; and (2) group discussions and presentation on the issues of development.</p> <p>(和訳) この授業は以下の内容を含みます。(1)開発の鍵となる分野、開発援助のプロジェクトとアプローチについての講義、(2)開発の課題についてのグループディスカッションとプレゼンテーション。</p>	
	ソリューション・アプローチ (強制移転・移住)	<p>(英文) The issues of global movement of refugees and migrants have been the center of the world politics in recent years. However, the phenomenon is very complicated and often misunderstood. This lecture will give some basic knowledge to understand the global movement of people correctly. The entire course will be held in English and all students are expected to participate actively in group presentation and discussion. Students are expected to intermingle their knowledge with other studies, to gain logical and critical thinking, and to improve communication, writing and questioning skills. This course is scheduled to be taught in an online classes in June and July, and in-person in September.</p> <p>(和訳) 難民や移民のグローバルな移動の問題は、近年の世界政治の中心となっています。しかし、この現象は非常に複雑で、誤解されていることも多い。この講義では、世界的な人の移動を正しく理解するための基礎知識を学びます。講義はすべて英語で行われ、受講者はグループでのプレゼンテーションやディスカッションに積極的に参加することが求められます。学生は、自分の知識を他の研究と融合させ、論理的かつ批判的な思考を身につけ、コミュニケーション能力、ライティング能力、質問力を向上させることが期待されます。</p>	

全学共通科目総合系科目 (6 多彩な学び 知識の現場)	グローバル・イシュー各論	<p>(英文) The Sustainable Development Goals, or SDGs are the blueprint to achieve a better and more sustainable future for all. SDGs address the global challenges we face, including poverty, inequality, climate crisis, environmental degradation, peace and justice. This course explores global issues of social and human development. Depending on the availability of guest speakers, the topic and syllabus maybe adjusted.</p> <p>(和訳) 持続可能な開発目標 (SDGs) は、すべての人にとってより良い、より持続可能な未来を実現するための青写真です。SDGsは、貧困、不平等、気候危機、環境悪化、平和と正義など、私たちが直面しているグローバルな課題に取り組んでいます。この授業では、社会と人間の発展に関するグローバルな問題を探求します。ゲストスピーカーの都合により、トピックやシラバスが調整される場合があります。</p>	
	ソリューション・アプローチ (人道支援)	<p>(英文) Globally and regionally, we are experiencing difficult times. The humanitarian community is moving to a rights-based approach in most settings including in peace building, and disaster preparedness. The cause and impact of humanitarian crisis, both man-made and natural, are more complicated, and through this course, several key areas in humanitarian assistance will be discussed. There will be a few guest speakers who have intimate knowledge and experiences in humanitarian assistance. Students are requested to actively participate in discussion and presentation throughout the course. Depending on the availability of guest speakers, the topics covered in the course maybe adjusted.</p> <p>(和訳) 世界的にも地域的にも、私たちは困難な時代を経験しています。人道コミュニティは、平和構築や災害への備えなど、ほとんどの場面で権利に基づくアプローチに移行しています。人為的、自然的なものを問わず、人道的危機の原因と影響はより複雑になっていますが、この授業では、人道支援におけるいくつかの重要な分野について議論します。また、人道支援に関する深い知識と経験を持つゲストスピーカーを数名招聘します。学生の皆様には、授業を通してディスカッションやプレゼンテーションに積極的に参加していただきます。ゲストスピーカーの都合により、授業で扱うトピックを調整することがあります。</p>	



全学共通科目総合系科目 (6 多彩な学び 知識の現場)	ソリューション・ アプローチ (紛争と平和)	<p>(英文) The course provides students with some of the analytical skills needed to understand how conflicts develop, to identify root causes of conflict at interpersonal, intergroup, and international levels. In particular, the focus is given to (1) actors analysis of conflict (victims, perpetrators and bystanders) to realize how “ordinary people” are engaged in conflict escalation, and to (2) post-conflict issues such as peacebuilding and reconciliation, and the roles of UN, regional organizations, States, and civil societies. In addition, several case studies of conflict and genocides in the past are discussed, and guest speakers who are active in peacebuilding-related fields are invited to provide the real sense of what has been happening on the ground. At the end of the course, the concept of human security as a tool to peacebuilding and sustainable security is introduced and students are required to engage in simulation exercises of implementing the concept in conflict-related fields.</p> <p>(和訳) この授業では、紛争がどのようにして発生するのかを理解し、対人、集団、国際レベルでの紛争の根本原因を特定するために必要な分析スキルの一部を学びます。特に、(1)紛争のアクター分析(被害者、加害者、傍観者)を行い、「普通の人」がどのように紛争の拡大に関与しているかを理解すること、(2)紛争後の問題として、平和構築や和解、国連、地域組織、国家、市民社会の役割などに焦点を当てます。また、過去に起きた紛争や大量虐殺のケーススタディをいくつか取り上げ、平和構築関連分野で活躍するゲストスピーカーを招いて、現場で起きていることを実感してもらいます。授業の最後には、平和構築と持続可能な安全保障のためのツールとして、人間の安全保障の概念が紹介され、学生は紛争関連分野でこの概念を実践するためのシミュレーション演習を行います。</p>	
	国連ユースボランティア	<p>[事前研修] 開発途上国において生活および業務を遂行するために必要となる知識や技術に関する講義や実習を行う。</p> <p>[現地派遣] 履修学生は、情報通信技術 (ICT)、教育、環境、保健衛生などの分野において、広報活動などの任された業務を開発途上国の国連事務所や政府機関、NGOのスタッフおよび現地の人々とともに遂行する。現地派遣は約5か月間。派遣に際し、ウィークリーレポート・マンスリーレポート・ファイナルレポートの提出を求める。</p> <p>[事後研修] 帰国報告会を開催する。参加学生は、帰国報告会において活動報告を行うことが求められる。</p>	
	陸前高田プロジェクト	<p>(英文) Participants will conduct field collaborative work in Rikuzentakata City, Iwate Prefecture, which is heavily affected by the Great East Japan Earthquake and Tsunami. Each team is given an assignment on various topics that will be provided during the pre-departure sessions. After the field work, each group will work on the final presentation which takes place in Tokyo.</p> <p>All participants are required to attend the pre-departure and sessions and post-field work session. - Students from other universities, including Stanford University will participate in this group.</p> <p>English is used as the course language.</p> <p>(和訳) 参加者は、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市でフィールドコラボレーションを行います。各チームには、出発前のセッションで提供される様々なトピックに関する課題が与えられます。フィールドワークの後、各グループは、東京で行われる最終プレゼンテーションに取り組みます。</p> <p>すべての参加者は、出発前のセッションとフィールドワーク後のセッションに参加する必要があります。- このグループには、スタンフォード大学をはじめとする他大学の学生が参加します。</p>	

全学共通科目総合系科目 (6 多彩な学びの現場)	海外インターンシップ1	事前準備：目標設定 事前研修：参加プログラムへの理解、関連業界調査、マナーについての学習等 インターンシップ実習（約5日間）：企業見学、ワークショップ、海外企業従事者からの講話・交流、発表 事後研修：振り返り、プレゼンテーション、レポート作成	集中
	海外インターンシップ2	事前研修：派遣企業に関する基本的理解、関連業界調査、企業調査、マナーについて、講義・実習を行う 現地研修：派遣企業における就業体験（約4週間） 事後研修：振り返り、報告会、レポート作成	集中
	国内実践グローバルインターンシップ	事前準備：派遣先企業に関する基本的理解、関連業界・企業調査、マナーについての講義・実習等 実習：派遣先企業における就業体験（2～3か月）、月次報告書作成・提出 事後研修：振り返り、最終報告書作成・提出、報告会参加 本インターンシップは参加学生の居住地から海外に拠点のある企業等において実施をする。	
	国際的協働のための国内インターンシップ	本科目の授業は、事前学習、インターンシップ、事後学習の3部により構成する。具体的には春学期中に履修者の選考及び事前研修を経て、夏季休暇中に各企業にインターンとして派遣する。外国人入試による入学者は日本での就業体験、それ以外の学生は日本語非母語話者との協働体験が可能な日本での就業体験を予定している。派遣期間は10日～14日で、秋学期に事後研修を実施する。	
	R S Lーコミュニティ(埼玉)	学内での事前学習では、生活保護制度や子どもの貧困について学習する。 学外での活動として、一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワークが主催する「アスポート学習教室」に、学習指導員として履修者が参加し、教室に参加する中学生に、学習サポートを行う。 事後学習として、事前学習およびアスポート学習教室での活動をとおしての学びの成果、気づきについての報告会をおこなう。	
	R S Lーコミュニティ(池袋)	本授業では、国際化に対応した都市づくりが進む豊島区にあって、その中核である池袋において多文化共生の地域社会づくりを取り巻く歴史・現状と課題を地域関係者・専門家等の支援を得ながら掘り起こし、住民との協働を通じてその課題発見および改善のための仕掛け・仕組みづくりの過程に取り組む。 2022年度は、履修者を3つのテーマ・グループ（歴史・記憶班、次世代・子育て班、芸術・文化班）に編成し、池袋の多文化共生に資する交流機会、身近な生活課題を発見・改善する近隣連帯の仕組みにつながるアプローチを、フィールド活動として近隣関係者のインタビューを通じて考える。	
	R S Lーローカル(南魚沼)	*フィールドワークの実施、場所は、その時のコロナウィルス感染状況によって変化することに注意。 豪雪地帯（新潟県南魚沼市栃窪想定）でのフィールドワーク。雪掘りを中心とした活動や住民との交流を通して、雪国で暮らすとはどういうことかを理解する。伝統知や地域文化、そこでの生活に触れ、人と自然の共生や豊かさ、コミュニティの意味、社会における市民としての役割を考える。雪掘りのほか、地元の超小規模小学校訪問や、ディスカッション、家庭訪問、雪と触れ合う活動を予定している。	
R S LーグローバルA	荒川河川敷（最寄り駅から徒歩15分以内を想定）でのフィールドワーク。国内屈指の流域人口密度を誇る荒川が持つ社会課題の1つ“河川ごみ問題”に焦点を当て、当該問題の生じる原因に関する講義や解決に向けたイベントを組み立て、実践することで現場・現実・現物からSDGsを学ぶ。		

全学共通科目総合系科目 (6 知識の現場)	R S LーグローバルB	学内での事前学習では、日本のいくつかの地方都市の人口動態から、解決策をなにも講じなかった場合の将来のまちの姿と、現在取り組んでいる地域活性化や地方創生の戦略が成功した場合のまちの姿とを比較する。学生は自身が暮らしてきた(あるいはいま暮らしている)地域の状況をリサーチする。フィールド期間中は、地域づくりに取り組む多様なアクターを訪問し、話を聞くとともに活動に参加し、地域づくりのあり方について体験を通して学ぶ。事後学習では、フィールドワークで出会ったアクターや体験した活動を振り返り、自分自身が将来どのように地域づくりに参画したいかを明確化し、自分が理想とする関わり方を実践するためのステップを考える。	
	R S Lーローカル (地域共生)	活動場所は、埼玉県熊谷市。熊谷市は、日本最高気温41.1度を記録し、環境破壊への問題意識が強い市町村として有名だ。実際、環境省から暑さ対策で殿堂入りなどを行っている。また、利根川と荒川が最接近しており水が豊富で、快晴日数も日本一。要するに、水、土、太陽に恵まれた肥沃な土地で、食材の宝庫でもある。 SOCIAL&PUBLICとは、熊谷市にある有限会社PUBLIC DINERと埼玉福興株式会社の合同レーベルであり、活動体の名称。PUBLICDINERは、飲食店6店舗、ゲストハウスなどを運営し、地域を食でデザインする。また、熊谷圏オーガニックフェスや埼玉県63市町村キーマン展など展開し、埼玉県内を有機的なつながりで結ぶ。埼玉福興では、多様な「人財」活用のひとつとして、しょうがい者を雇用しつつ、農業生産を行う農福連携の世界的企業だ。この二つの会社が織りなすSDGsとグローバルの可能性を、実践の中から、体で学ぶ。 具体的には、上記活動の拠点となる古民家をリノベーションしたゲストハウス「THE PUBLIC」に宿泊し、地域とのかかわりながら「農からはじまる暮らし」を体験する。仕事は、しょうがい者との農作業(水耕栽培、夏野菜の収穫等)や草木染etcを体験。地域の中で、各取組が、SDGsが日々の生活の中で、いかに実践されているか?を体感し、グローバルの可能性を、実践の中から五感で学んでいく。	
全学共通科目総合系科目 スポーツプログラム	スポーツプログラム1 (バドミントン)	チーム分けをしたうえで、前半はバドミントンの基礎技術、基礎戦術を理解し、技能を身につけるために全体授業を行う。後半はチームごとに練習する時間(グループワーク)を設け、個人・チーム全体のパフォーマンスを向上させる。ゲーム形式は団体戦ダブルス。	
	スポーツプログラム1 (バドミントン)	バドミントンは、非常に軽いラケット・シャトルを用いるためラリーを続けやすく、初心者でも親しみやすいスポーツである。本授業では、バドミントンの基礎的技能を習得するとともに、初心者・経験者が協同してゲーム(特にダブルス)を積極的に楽しむことを目指す。さらに、科学的視点からバドミントンの技術を理解することや、戦術を模索するなど、一歩進んだスポーツの楽しみ方を学ぶ。マナーや仲間との協力を大切にし、スポーツを通じたコミュニケーション能力の向上を目指す。	
	スポーツプログラム1 (はじめてのバレエ)	クラシックバレエの入門者、初心者を対象に、基礎エクササイズを体験することから始め、簡単なコンビネーションを行い、振付けられた簡単なグループ作品を踊り、発表する。各授業において、ストレッチングや筋コンディショニングも行う。また、クラシックバレエを行うことによって向上する体力について解説をする。	

全学共通科目 スポーツ目録 総合系科目	スポーツプログラム1 (はじめてのバレエ)	クラシック・バレエは華やかな400年の作品の歴史が知られるが、それは同時に無駄を削ぎ落とした一つの身体運動の完成の歴史でもある。本授業では、バレエを、その運動の構造を捉えて学ぶ。その上で受講者それぞれの身体に立脚した運動として、基本の実践習得を行う。	
	スポーツプログラム1 (ダンス(初級))	ダンス初心者を対象に、ダンスの基礎(アイソレーションやリズムトレーニング、ステップ動作)を体験することから始め、簡単な組み合わせ動作や振付動作によるダンスを習得する。グループに分かれ、グループごとにダンスの振付を実践し発表する。	
	スポーツプログラム2 (トレーニング初級)	トレーニング・ルームで実施できるエクササイズは、フリーウェイトやマシンを使用した筋トレ、エアロバイクやランニングなどの有酸素運動、バランスボール、ストレッチなどですが、何をどのように行うべきかはトレーニングの目的によって変わってきます。ここでいう目的とは、「筋肥大」「筋力アップ」「インナーマッスルの強化」「パワー」「体脂肪のコントロール」「柔軟性の獲得」などを指します。この授業では以下の1～3を主な内容とします。 1. 様々なトレーニングの中で最も基本となる「筋肥大」のトレーニング理論を理解し、フリーウェイトでのトレーニングスキルを身につける。 2. 自分の目的(目標)を定めてトレーニングプログラムを作成し、フリーウェイト・マシン・自体重での筋トレ、有酸素運動、バランスボールなどを実践する。 3. 体組成計での測定結果を参照しながら、トレーニングと体組成変化の関連について考察する。	
	スポーツプログラム3 (卓球)	基礎技術の習得とゲームを中心に授業を展開する。実践やセルフチェックを通じて、運動の心理的効果を学びつつ、コミュニケーション能力、バランスのとれた理性的な確かな判断力を養成する。毎回、運動の前後で簡単な気分の調査を実施する。	
	スポーツプログラム3 (バスケットボール)	毎回新しい技術を習得し、習得した技術を試すミニゲームを多く行う。授業が進むにつれて、審判方法やテーブルオフィシャルの方法を学び、ゲーム運営ができるようにする。チーム毎に戦術を練り、練習をした上でリーグ戦を実施する。	
	スポーツプログラム3 (バレーボール)	この授業は受講生を5チームから6チームに分けます。ずっと同じチームではなく、毎回ごとに男女の別にくじをつかってチーム分けをします。なので、後期の授業が終わる頃には、ほぼ受講生全員とチームを組むことができます。各回の授業では、5、6チームのリーグ戦を行っていきます。フルセットでは時間内には授業が終わらないので、1セットマッチで4セットから5セットをする予定です。中にはバレーボールが苦手な受講生もいますので、そういう学生のために特別のルールを設けて、苦手な人でも楽しめるようにルールを工夫したいと思います。 なお、各回の授業のウォーミングアップでは、ボールコーディネーショントレーニング法を用いてバレーボール運動に必要な身体の基礎的な動きを習得することをします。また、ペアを変えながら、オーバーハンドパスとアンダーハンドパスの技術習得のための練習をしていきます。いろいろな学部や学科から受講生が集まりますので、毎回ごとにチームワークを大切にできるようにリーグ戦前にはミニレクチャーをして、自分だけではなく、同じチームのメンバーが楽しめるようにしたいと思います。	
	スポーツプログラム3 (フラッグフットボール)	フラッグフットボールはアメリカンフットボールの身体接触を排除して、性別・年齢に関係なく、誰でもチームに参画できるスポーツです。役割分担の明確化によってメンバー各々が、如何に「チームに貢献出来るか」をテーマとして授業をすすめます。クラスをチーム分けし、戦術・作戦を練り、効果的な方法を模索しながらゲームを楽しみます。	

<p style="text-align: center;">全 学 共 通 課 目 綜 合 系 科 目</p>	<p>スポーツプログラム3 (アルティメット)</p>	<p>毎回テーマを設定して、テーマに沿ったウォーミングアップから様々なゲームを行う。前半は、ディスクスポーツの中から「ドッチビー」「ディスクゴルフ」「アキュラシー」などを中心に技術習得の目的で行い、後半はチームを編成し「アルティメット」を行う。</p>	
	<p>スポーツスタディ1 (レクリエーションスポーツ)</p>	<p>室内で行うことのできるスポーツを取り上げる。毎回担当者3～4名を決め、ある種目をルールや使用する道具を応用して楽しむ方法を考え、発表し、それを全員で実践する。また学生同士のコミュニケーションを深めるため、実践の際は毎時間グループやチームを新たに作る。</p>	
	<p>スポーツスタディ1 (レクリエーションスポーツ)</p>	<p>本授業では、社交を目的としたさまざまなレクリエーションスポーツの方法を学び、実践するとともにアレンジ方法を考究する。またレクリエーションスポーツの生涯スポーツとしての意味や文化的意義、身体的コミュニケーションの意味を考究する。</p>	
	<p>スポーツスタディ1 (レクリエーションスポーツ)</p>	<p>(英文) All instructions for this course will be provided in English, and students will be encouraged to communicate in English at all times. The recreational activities covered are grouped into three categories: ball sports (table tennis), studio activities (yoga [which includes some specific mindfulness development techniques], exercise ball, dance aerobics and frisbee), and conditioning (circuit training). Guidelines for the promotion of the fitness elements of flexibility, strength, balance and endurance will be covered at the beginning of each class. In addition, general mindfulness training will be introduced as a strategy to increase awareness of healthy habits and to promote greater wellness. Finally, simple but more specific mindfulness training will be included in the yoga classes. (和訳) この授業はすべて英語で行われ、受講生は常に英語でコミュニケーションをとるよう奨励されます。球技(卓球)、スタジオ活動(ヨガ、エクササイズボール、ダンスエアロビクス、フリスビー)、コンディショニング(サーキットトレーニング)の3つのカテゴリーに分類されるレクリエーションアクティビティを取り上げます。柔軟性、筋力、バランス、持久力といったフィットネス要素を促進するためのガイドラインは、各クラスの冒頭で説明されます。さらに、健康的な習慣への意識を高め、より大きな健康を促進するための戦略として、一般的なマインドフルネストレーニングを導入します。最後に、簡単ではありますが、より具体的なマインドフルネス・トレーニングをヨガのクラスで取り上げます。</p>	
	<p>スポーツスタディ1 (レクリエーションスポーツ)</p>	<p>今やスポーツは全ての人々の基本的な権利となり、生涯スポーツ社会の実現に向けて、様々なスポーツへの関わり方が見直されている。誰もが気軽に楽しめるレクリエーションスポーツの社会的意義は大きいと言えよう。この授業では、まず自分たちがレクリエーションスポーツを楽しみ、その組み立てや展開について理論的に捉えた後、対象や環境に応じたバリエーションと支援方法を考え、実践していく。基本的には、授業はグループワークで進める。</p>	
	<p>スポーツスタディ1 (レクリエーションスポーツ)</p>	<p>さまざまなレクリエーションスポーツ・ゲームを体験し、その実践を系統的にまとめ、生涯スポーツとしてのスポーツの役割を考察する。また、チームにおける役割分担やマネージメントを通して、スポーツとチームビルディングについて学習する。</p>	

全 学 共 通 課 目 綜 合 系 科 目	スポーツスタディ1 (太極拳)	太極拳は中国に起源をもち、長い歴史を有する武術であり健康法である。技術の習得に向け、個人練習のみならず、教えあう中での技術向上と同時に他者とのコミュニケーションを図ることを目指し、グループでの練習も行う。また、講義を授業期間の1/3程度行う。講義では、現代人にとっての運動・スポーツの必要性について様々な角度から考えいく。太極拳は「楽しい」けれど、24動作を習得するのは「楽」ではないかもしれない。毎回新しい動作を学ぶことになるので、できるだけ欠席のないことが望ましい。	
	スポーツスタディ1 (太極拳)	健康を維持・増進させるための科学的知識を理解し、太極拳を通して、調心、調息、調身を中心としてトレーニングを行い、一つ一つの基本動作からスムーズに流れるまでゆっくりとして動く、虚実バランス身体運動を練習する。また、太極拳の背景について心身統一、養生思想も学ぶ。	
	スポーツスタディ1 (日本文化と踊り)	(英文) All students taking this course practice free-style, male style, and female style Awa Odori dance movements. Then, they choose either male or female style irrespective of their genders, are divided into some groups, and make Awa Odori stage performance in their groups. They also study lyrics and music of Awa Odori. All students are requested to create cheer-up words. (和訳) 学生全員が、フリースタイル、男踊り、女踊りの阿波踊りの動きを練習します。そして、性別に関係なく、男踊り・女踊りを選択し、いくつかのグループに分かれて、グループ内で阿波踊りの舞台を作ります。阿波おどりの歌詞や音楽も勉強します。全員で応援歌を作ります。	
	スポーツスタディ1 (はじめてのマラソン)	毎回の授業では、テーマをもって5～10kmを全員で走る。その後でマラソンに必要なトレーニングの技術、知識について実技あるいは講義を行う。また、レース実施までの練習内容を各自で作成し、授業時にチェックしながら目標に合わせたレースが出来るようにする。	
	スポーツスタディ1 (クライミング)	クライミングは、本来自然の岩場で行われるスポーツでしたが、人工のクライミングウォールやホールド(壁についている石)の進化により、フィットネス感覚で気軽に楽しめるようになりました。また、今年度は夏季五輪でクライミングが開催されることから、より多くの注目を集めています。 本授業では、クライミングの中の「ボルダリング」種目を中心に授業を展開し、クライミングに必要な基礎知識を学びながら、自身の身体の機能や動き等の理解を深めます。また、仲間とともに自分たちの力で楽しさとやりがいを感じ得るよう、グループワークも取り入れていきます。	
	スポーツスタディ1 (クライミング)	スポーツクライミングは道具に頼らずに自分の手足の力で壁を登る競技です。中でも高さ4m程度の壁を登る、「ボルダリング種目」を中心に授業を行います。主に初級者を対象としています。10分程度の講義の後、様々なコース(課題)に挑戦します。	
	スポーツスタディ1 (クライミング)	高さ約4m、幅約20mのクライミングウォールを用いて実施する初級者対象のクライミング授業です。壁に取り付けられた「ホールド」と呼ばれる突起物に手足をかけ、思考力と全身の筋肉を駆使しながら、あらかじめ決められた様々な課題(コース)に挑戦していきます。本授業から、「頑張ったら出来た!」という「達成感」や、「やれば出来るんだ!」といった「自己効力感」を得てください。	
	スポーツスタディ1 (バドミントン)	基礎技術の習得とゲームを中心に授業を展開する。実践やセルフチェックを通じて、コミュニケーション能力、バランスのとれた理性的な判断力を養成する。	
	スポーツスタディ1 (アダプテッドスポーツ)	アダプテッド・スポーツの実技に加え、グループプレゼンテーションの作成、発表を実施する。	

全学共通プログラム総合科目	スポーツスタディ1 (はじめての柔道(日本語))	本授業では、初心者でも楽しく安全に行えるような、柔道の基本動作や様々な技を身に付ける体験学習を行い、体力向上や健康増進を目指す。さらに、講義においては、柔道の歴史や柔道の創始者である嘉納治五郎の考えを学び、現在武道としてもスポーツおよび競技としても多くの外国人によって実践されている世界のJUDOと比較をし、日本柔道との相違点や共通点を議論するなど、幅広い学習を行う。	
	スポーツスタディ1 (はじめての柔道(英語))	(英文) This course will focus on practicing basic movements and a great variety of techniques and forms in Judo to improve overall physical fitness and promote health. Further, the students will learn about the history of Judo and how Jigoro Kano, the founder of Judo, developed Judo as a physical, mental and moral pedagogy in Japan. In addition, a comparison with foreign practitioners will introduce how Judo evolved into a combat and Olympic sport nowadays, and students will discuss differences and similarities between Japanese and foreign Judo. Instruction for this course will be conducted in English. (The "Course Schedule" shows the main topics/contents for this course, but not necessarily the order dealt with in class.) (和訳) この授業では、全身の体力向上と健康増進のために、柔道の基本動作と多種多様な技や形を練習することに重点を置く。さらに、柔道の歴史、柔道の創始者である嘉納治五郎が日本の身体的、精神的、道徳的教育法として柔道をどのように発展させたかを学ぶ。また、海外の実践者との比較により、柔道がどのように今日の格闘技、オリンピックスポーツに発展したかを紹介し、日本と海外の柔道の違いや共通点について議論する。本授業は英語で行われる。	
	スポーツスタディ1 (ヒップホップ)	踊る身体のためのコンディショニングにはじまり、ヒップホップダンスの基本的なステップワークを中心としたダンスムーブメントを習得した上で、基礎的なルーティンを体得する。また、グループワークおよびパフォーマンスを通じて、他者と共にダンスを創る、踊る、観る楽しみを味わう。	
	スポーツスタディ2 (トレーニング)	抵抗を利用し身体の機能向上を図るResistance Trainingは、スポーツ選手はもとより、健康・体力づくり運動といった視点で一般成人においても広く実践されている。しかし、不適切な方法での実施は傷害の発生を誘発する。実践を通して、安全に重量を挙上できる適切なフォームを習得し、技能向上を目指す。また、対象者のニーズに基づいたプログラムの計画と実施および効果測定について実践する。	
	スポーツスタディ2 (ボディシェイプ)	講義では、ウェイトコントロールの正しい知識および運動による効果を解説する。それらをふまえて、どのような取り組みが自分のからだに必要なのかを考察する。実技では、自分のからだを知り、自身の体力を向上させるためのトレーニングを実践する。授業時間の1/3を講義、残りの2/3を実技とする。	
	スポーツスタディ2 (ウォーターエクササイズ)	アーティスティックスイミング(シンクロ)の基本である浮くこと、手のかきによって身体をコントロールすることおよび曲と仲間と同調することにより、近代4泳法とは異なる水泳の魅力を感じ取る。また、アーティスティックスイミング(シンクロ)とオリンピックの歴史について学び、さらに東京2020オリンピック・パラリンピックがもたらした意義とレガシーについて考え、スポーツの力を再確認する。	

全学共通科目総合系科目	スポーツスタディ2 (ウォーターエクササイズ)	講義では、水の特性、安全管理、水中運動の特性・効果や近代4泳法のポイントについて解説します。実技においては、浸水・水中での生理的応答や流体力学について触れながら、水中運動、水中レクリエーションや近代4泳法を基本に様々な水泳（水球など）を実施します。泳技能により実施内容は構成し、自ら学び・実践することを評価の対象とします。授業は全体を通じて、講義（1/3）、実技（2/3）を組み合わせで行います。	
	スポーツスタディ2 (東洋的フィットネス)	授業は、その日のテーマの講義と実技の両方とで進めます。「野口体操」は野口三千三(1914～98年、東京芸術大学名誉教授)によって創始され、音楽・ダンス・演劇・美術・教育・医療・哲学・生涯教育など幅広い分野に影響を与えたユニークな体操です。キーワードは「自分とは自然の分身」「力を抜けば抜くほど力が出る」「感覚こそ力なり」。自然の原理に沿って「力を抜く・ほぐす」という方向から、一生涯付き合っていく自分自身のからだとの向き合い方やメンテナンスの仕方を紹介します。「からだの実感」から、これからの時代の多様な生き方を共に探っていきましょう。体育・運動が苦手という人も歓迎です。	
	スポーツスタディ2 (ダイエットフィットネス)	まずは自分の体格を測定・評価する。そして、ダイエットに適した様々な運動を体験し、自分に合った運動を見つける。カルテを作成して、最終授業までの目標を設定し、毎回の授業で目標に向かって運動する。さらに、食事のバランスの整え方や、運動・栄養・休養・ダイエットに関するトピックスについても学ぶので、授業時間の30分程度は講義、残りを実技とする。	
	スポーツスタディ2 (ダイエットフィットネス)	日常生活の中で継続実践し易い身体運動を取り上げ、構造の解説を行いつつ実践する。各回は幾つかの種類の運動を組み合わせた流れで行う。エクササイズには各自の記録用紙を用い、強度の自己管理にも取り組む。 本授業の具体的課題は以下の通り。 A) インナーマッスルを鍛えて姿勢を変え、動きの質をベースアップ、および基礎代謝を上げる。B) アウターマッスルを鍛え、ボディラインを創る。C) エネルギー消費に着目し、有酸素運動効果のあるトレーニングについてその理論を学び実践する。 これらの課題に対して下記の身体運動の実技実習に取り組み、その効果についての解説講義を行う。	
	スポーツスタディ2 (セルフケアエクササイズ)	体のアンバランスや癖に気づき、改善したいところや理想を具体化し、強化、ストレッチ、リラックスする方法として、呼吸法を重視したピラティスマットエクササイズとヨガ、持久力向上やストレス発散を目的とした有酸素運動プログラムを紹介する。	
	スポーツスタディ2 (セルフケアエクササイズ)	セルフケアエクササイズ【ベーシックヨガ】 授業は、解説講義と実技実習を行う。 講義では、ヨガの基礎知識と基本原理の概説を行う。 実習では、呼吸と連動したベーシックなヨガを行う。1) 6領域の基本的アーサナ（運動）とそのバリエーション、2) 基本的なプラナヤーマ（呼吸法）の解説を行い、実践する。セッションは十数種のアーサナを組合せた流れで行うが、毎回一つの主要テーマにスポットを当てて取り組む。	
	スポーツスタディ2 (ボディコンディショニング)	講義では、厚生労働省の定める健康づくりのための身体活動基準を知り、個人の身体データを用いて運動、栄養について学ぶ。実技では、講義で学んだ内容の実践やGボールを使用した運動等をおこなう。	
	スポーツスタディ3 (サッカー&フットサル)	実技は、基本的にウォーミングアップ→テーマトレーニング→ゲームという流れで行う。適宜、個人戦術やチーム戦術に関する講義も交える。女子や初心者の履修も歓迎する。実技授業であるため成績評価においては授業参加を重視し、仲間とともに楽しみながら積極的に身体を動かすことを求める。	



全学共通科目 スポーツ総合系科目	スポーツスタディ3 (フットサル)	チーム分けをしたうえで、前半はフットサルの基礎技術・戦術に関する統一テーマでの練習、試合を行う。後半はM-T-Mメソッドを有効に機能させるためのポイントを解説し、チームごとに同メソッドを用いて、個人・チームパフォーマンスを向上させる方法を考え、実践する。M-T-Mメソッドとは、試合 (Match) 内容を分析し、有効な練習 (Training) によってパフォーマンスを向上させる一連の手法。	
	スポーツスタディ3 (フットサル)	技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、フットサルの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を2種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。	
	スポーツスタディ3 (フットサル)	実技形式の授業では、各授業テーマのトレーニングを行いその後ゲームを行う。 適宜、講義を含める場合もある。	
	スポーツスタディ3 (フットサル)	実技は、基本的にウォーミングアップ→テーマトレーニング→ゲームという流れで行う。適宜、個人戦術やチーム戦術に関する講義も交える。女子や初心者の履修も歓迎する。実技授業であるため成績評価においては授業参加を重視し、仲間とともに楽しみながら積極的に身体を動かすことを求める。	
	スポーツスタディ3 (フットサル (インドア))	技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、フットサルの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を2種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。	
	スポーツスタディ3 (初心者向けサッカー・フットサル&フィットネス)	本授業は初心者を対象とし、サッカーとフットサルの基礎技術・戦術を身につけるために授業ごとのテーマに沿った練習を行う。授業後半にはゲームを行い、習得した技術を試す。チーム分けをして、チームごとに個人・チームのパフォーマンスを向上させる方法を考え、実践する。各授業では、体幹トレーニングやランニングなどの身体トレーニングも行う。初心者や女子の履修を歓迎する。	
	スポーツスタディ3 (テニス)	テニスは老若男女問わず行うことができるスポーツの代表的な存在です。本授業では、テニスの基礎的技術練習を行い、ルール、歴史、競技特性を理解しながら、仲間とのコミュニケーションを深めていきます。生涯にわたってテニスを実践できる素養を学びます。	
	スポーツスタディ3 (テニス)	テニスコートでは、その時限において課題・テーマをもとに練習し、それを実戦で試してみる、ということを基本的な授業の流れとする。適宜時限内において、テニスに必要なマナー・ルール・知識についての説明も行う。 また、座学として生涯スポーツとしてのテニスについて講義を行う。	
スポーツスタディ3 (ブラインドサッカー)	実技は、基本的にウォーミングアップ→テーマトレーニングという流れで行う。適宜、個人戦術やチーム戦術に関する講義も交える。女子や初心者の履修も歓迎する。実技授業であるため成績評価においては授業参加を重視し、仲間とともに楽しみながら積極的に身体を動かすことを求める。		

全学 スポーツ 共通 科目 プログラム 総合 系 科目	スポーツスタディ3 (ゴルフ)	この授業では、グラウンドで練習用ボールを打撃し、スイングの基本を習得する。また、グラウンドに仮設コースをつくり、実践的なラウンドプレーの方法を学習する。さらに、名門ゴルフ場において適用可能な一流のマナーおよびトーナメントプロが実践するスイング理論についても解説する。なお、授業計画は若干変更することもある。	
	スポーツスタディ3 (卓球)	身体運動には、身体的効果に加えて気分の向上やストレスの低減、それに生きがい感の高まりなどの心理的効果のあることが知られている。またチームプレイなどでは、何らかの問題に対して効果的に対処するライフスキルが身に付きやすい。これらの知識について卓球の実技とセルフチェックを通じて学んでいく。毎回、運動の前後で簡単な気分の調査を実施する。またスポーツ活動終了後、リラクゼーション訓練を実施する。初回と期末の授業時にそれぞれストレス反応などの心理検査を実施する。	
	スポーツスタディ3 (卓球)	身体運動には、身体的効果に加えて気分の向上やストレスの低減、それに生きがい感の高まりなどの心理的効果のあることが知られている。またチームプレイなどでは、何らかの問題に対して効果的に対処するライフスキルが身に付きやすい。これらの知識について卓球の実技とセルフチェックを通じて学んでいく。毎回、運動の前後で簡単な気分の調査を実施する。またスポーツ活動終了後、リラクゼーション訓練を実施する。初回と期末の授業時にそれぞれストレス反応などの心理検査を実施する。	
	スポーツスタディ3 (バスケットボール)	毎回新しい技術を習得し、習得した技術を試すミニゲームを多く行う。 授業が進むにつれて、審判方法やテーブルオフィシャルの方法を学び、ゲーム運営ができるようにする。 チーム毎に戦術を練り、練習をした上でリーグ戦を実施する。	
	スポーツスタディ3 (ソフトボール)	ソフトボールの基礎技術や基本的ゲーム構造を実践を通して学習する。また、スローピッチとファーストピッチ、さまざまな大きさのボールによるゲームを体験し、レクリエーションとしてのソフトボールと競技としてのソフトボールを実践する。その実践を系統的にまとめ、生涯スポーツとしてのスポーツの役割を考察する。また、チームにおける役割分担やマネージメントを通して、スポーツとチームビルディングについて学習する。	
	スポーツスタディ4 (ゴルフ)	ゴルフは英国で生まれた世界を代表するスポーツであり、マナーやスイングを習得すれば一生楽しめることができるスポーツでもある。この授業では集中授業として、マナーの習得やボールを打つ練習を行い、ゴルフの楽しさを理解する。	
	スポーツスタディ4 (クライミング)	2020+1東京五輪の女子銀・銅メダル獲得でさらに注目が高まっているスポーツクライミング。 一見、力がないとできないスポーツと思われがちですが、決してそうではありません。 クライミングは誰にでも挑戦可能で、マイペースに楽しめるスポーツです。「体を使うチェス」と表現されたりするように、頭の使い方によって様々な可能性が開かれているというような限りない魅力を持っています。 本授業では、クライミングの中の「ボルダリング」種目を中心に授業を展開し、クライミングに必要な基礎知識を学びながら、自身の身体の機能や動き等の理解を深めます。また、仲間とともに自分たちの力で楽しさとやりがいを感じ得るよう、グループワークも取り入れていきます。	

全学共通科目プログラム	スポーツスタディ4 (馬術)	馬術は、生き物である動物と共に行う数少ないスポーツの一つである。体育会馬術部スタッフの協力を得ながら、馬術に関する講義と、実践としての騎乗を実施する中で馬への理解を深め信頼関係を築いていく。また、騎乗練習ばかりでなく、馬は乗り物ではなく感情をもったパートナーであることを理解し、言葉を発しない馬との触れ合いやコミュニケーションをとることの大切さを学ぶ。正しく馬術を理解するために、騎乗前の準備として、馬にブラシをかけ頭絡や鞍をつけ、厩舎から馬を出して人間と一緒に歩く曳馬などを学ぶことからスタートする。騎乗の練習では、馬とコミュニケーションをとりながら常足（なみあし）で、スラロームコースを回ることを目標とする。	
	スポーツスタディ4 (スキーB)	スキーは、老若男女を問わず楽しめる非常にポピュラーなスポーツであり、生涯スポーツとして身につけるには最適な種目である。この授業では、スキー場でのスキー技術指導に加え、ビデオを用いたフォーム分析などを行い、総合的にスキーのレベルアップを図る。さらに、その過程の中でスキーの楽しさを肌で感じ、生涯スポーツとしての認識を深める。雪質の良い裏磐梯グランデコスノーリゾートスキー場では、緩急のロングコースをふんだんに楽しめる。初心者コースも充実しているので、初心者受講を歓迎する。また、露天温泉風呂付きリゾート型ホテルでの宿泊を通して、学部を超えた受講生間のコミュニケーションを図るので、新たな友達づくりも期待できる。この機会にこれからのリゾート型スキーを体験してみよう。	
	スポーツスタディ4 (はじめての和太鼓)	本授業では、初心者でも楽しく安全に行えるような、和太鼓の打ち方や基本動作、さらに、演奏に必要な基本的な技術を身に付ける。実技を通して和太鼓の文化的な享受能力を高めるとともに運動文化の一つとして体力向上や健康増進を図り、身体表現や自己表現の可能性を広げる。また、講義においては、日本の伝統文化である和太鼓の歴史と世界中の人々まで魅了する「日本の太鼓」の意義や考え方等について学び、幅広い学習を行う。	
	スポーツスタディe	年齢や性別、体力、運動技術にあまり関係なく、自宅で楽しむことを重視したトレーニングを実際に体験し、自分とスポーツ、健康との関係や将来の自身の健康とスポーツのあり方を考究する。講義においては、トレーニング理論や方法、生活習慣の必要性、身体の仕組みやスポーツ文化などを解説する。実技においては、ボディコンディショニング、レジスタンストレーニング、フィットネス・トレーニングを視聴し、実際に実践し、体調管理や健康の維持・増進のためにはどのような取り組みが必要なのかを学習する。授業の流れは最初に講義を視聴し、その後、実技映像を視聴し、各自実技を行う。最後に小レポート課題を作成し提出する。なお、トレーニング記録は毎週付けることとし、期末レポートと共に提出してもらおう。	

授 業 科 目 の 概 要			
（全学共通科目（言語系科目／必修科目））			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 （言語A／英語） 必修科目	英語ディスカッション	<p>（英文） Throughout the course, they should be able to hold discussions in groups of three or four for 16 minutes. The discussion will be balanced and interactive, and constructed by all participants. Over the course, students will develop into competent and confident communicators who share their own opinions and value the opinions of others.</p> <p>（和訳） 授業全体を通して、3～4人のグループで16分間のディスカッションができるようにします。議論はバランスよく、インタラクティブに、参加者全員で構築していきます。授業を通じて、自分の意見を共有し、他人の意見を大切に、有能で自信に満ちたコミュニケーションに成長するでしょう。</p>	
	英語ディベート	<p>（英文） The aims of this course are to understand the nature and structures of debate in English, to develop critical thinking skills by analyzing and formulating arguments on issues from multiple perspectives, and to learn how to respond to questions through the development of research skills. Students will regularly engage in debates and their associated activities.</p> <p>（和訳） この授業の目的は、英語でのディベートの性質と構造を理解すること、問題を多角的に分析して議論を形成することで批判的思考力を身につけること、リサーチスキルを身につけて質問に答える方法を学ぶことです。学生は定期的にディベートとそれに付随する活動を行います。</p>	
	英語リーディング& ライティング1（R）	<p>（英文） Over the course of the semester, students will learn strategies to promote fluency and accuracy in reading and writing through a variety of activities including reading extensively and intensively, and writing compositions. The emphasis of the spring semester is placed on acquiring reading skills. In particular, students will:</p> <p>a) improve reading rate and comprehension skills, b) develop strategic reading skills, such as skimming, scanning, and recognizing topics, c) develop reading fluency and vocabulary knowledge through reading graded readers, and d) write summaries and short responses of reading texts.</p> <p>（和訳） 春学期は、「読む」こと、「書く」ことを重視します。また、リーディングスキルを習得することも重視します。具体的には、 a) 読解力と読解速度の向上、 b) スキミング、スキヤニング、トピックの認識などの戦略的読解スキルの向上、 c) グレーデッド・リーダーの読解による流暢な読解力と語彙知識の向上、 d) 読解テキストのサマリーとショート・レスポンスの作成、などを行います。</p>	

全学共通科目 必修科目（言語A／英語） 系科目	英語リーディング& ライティング2 (W)	<p>(英文) Over the course of the semester students will learn strategies to promote fluency and accuracy in reading and writing through a variety of activities including reading extensively and intensively, and writing compositions. Although continuing to develop academic reading skills is a goal of this course, the emphasis of the fall semester is placed on acquiring writing skills. In particular, students will:</p> <p>a) write multiple-draft essays with thesis and logical arguments,          b) write short responses on the topic discussed in class,          c) write a paragraph with grammatical accuracy and fluency,          d) master strategic reading skills and          e) develop critical reading skills to analyze, synthesize and evaluate articles.</p> <p>(和訳)          この授業では、リーディングとライティングの流暢さと正確さを向上させるため、多読や集中的な読書、作文などの様々な活動を通して学びます。          この授業では、アカデミックなリーディングスキルを継続的に身につけることが目標ですが、秋学期はライティングスキルの習得に重点を置いています。具体的には、          a) 論文と論理的な議論を含む複数ドラフトのエッセイを書く、          b) クラスで議論されたトピックについて短い回答を書く、          c) 文法的に正確で流暢なパラグラフを書く、          d) 戦略的リーディングスキルを習得する、          e) 論文を分析、合成、評価する批判的リーディングスキルを身につける、などです。</p>	
	英語 e ラーニング	<p>(英文) The content of the course is primarily geared toward English as used in international business context including, but not limited to daily conversation to discussion. Group-based lessons provide traditional face to face English lessons based on various themes related to business context to help students improve all four language skills. In addition to the group-based lessons, students are required to regularly study English on an e-learning platform, which offers two different courses: "Practical English 7" for regular homework assignments and "Tracker for the TOEIC (L&amp;R)" for periodical TOEIC-based practice tests.</p> <p>Individual Learning: (Outside the classroom): The e-learning software (Practical English 7) contains three categories of lessons: reading, listening, and grammar. Students are required to complete the designated number of lessons in each category to build a solid foundation for the development of practical English communication ability.</p> <p>Group-Based Learning: (Inside the classroom): In classroom learning sessions, students will meet the instructor by group and practice speaking, writing, listening, and/or reading based on three different themes related to common intercultural business scenes.</p> <p>(和訳) 授業の内容は、主に国際的なビジネスシーンで使用される英語を対象としており、日常会話からディスカッションまでを含みます。グループレッスンでは、ビジネスシーンに関連した様々なテーマに基づいて、従来の対面式の英語レッスンをを行い、4つの言語スキルの向上を目指します。グループレッスンに加えて、学生はeラーニングで英語を学習する必要があります。eラーニングソフト「Practical English 7」には、リーディング、リスニング、文法の3つのカテゴリーのレッスンが収録されています。それぞれのカテゴリーで指定されたレッスン数をこなし、実践的な英語コミュニケーション能力を身につけるための基礎固めを行います。</p>	
	英語プレゼンテーション	<p>(英文) Over the course of the semester students learn how to develop basic presentations skills, including organizing a presentation, supporting arguments with evidence, utilizing visual aids, and using non-verbal communication effectively. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. More skilled students make longer persuasive presentations as the term progresses.</p> <p>(和訳) 学期を通して、プレゼンテーションの基本的なスキルを身につける方法を学びます。プレゼンテーションの構成、証拠による議論の裏付け、ビジュアルエイドの活用、非言語コミュニケーションの効果的な使い方などを学びます。学生は、基本的なパターンに基づいてプレゼンテーションを行い、メモを見ながら話すことを学びます。学期が進むにつれて、より説得力のあるプレゼンテーションを行うことができるようになります。</p>	

必修科目 全学共通科目 言語系科目 (言語A/英語)	上級英語1 (リーディング& ライティング)	(英文) The spring semester course of the Advanced Level is an advanced skills-based course that aims to prepare students for transition into an international academic environment. Students will primarily focus on academic skills developing necessary reading and writing techniques and strategies so that they may apply them in the fall semester Project English course, or later on at a college or university abroad. (和訳) 国際的なアカデミック環境に移行するための準備をすることを目的とした、上級スキルの授業です。この授業では、主にアカデミックスキルを重視し、海外の大学で応用できるように、必要なリーディングやライティングのテクニックを学びます。	
	上級英語2 (プロジェクト英語)	(英文) The fall semester of Advanced English moves the focus of the course from academic skills to content. In this way, the skills learned in the spring semester are reinforced and applied in the fall. The course also focuses on the group and aims to develop students that are interdependent, collaborative, and creative. (和訳) 秋学期は、重視すべき点をアカデミックスキルから内容へと移します。これにより、春学期に学んだアカデミックスキルを秋学期に強化し、応用することができます。また、この授業はグループに焦点を当てており、相互依存、協調的、創造的な学生を育てることを目的としています。	
科目 B 必修科目 ドイツ語 (言語系)	ドイツ語基礎1	文法事項の説明、基礎語彙(約300語)、口頭練習、聞き取り練習などを行いながら、ドイツ語の発音の基礎、日常生活に即した基礎的な表現を学習する。さらに、ドイツ語圏の歴史や文化を通し、多文化社会における文化理解と共生力を養う。	
	ドイツ語基礎2	文法事項の説明、基礎語彙(「基礎1」と合計で約700語)や基礎表現を使う練習を通し、短いテキストの読解力も身につける。また、ドイツ語圏の歴史や文化を通し、多文化社会における文化理解と共生力を養う。	
科目 B 必修科目 フランス語 (言語系)	フランス語基礎1	週2回一括履修。1~2名の担当教員が同一教科書を使ってリレー式に授業を進める。文法理解の他、音源を聞く、テキストを音読する、例文や動詞の活用を暗記する、ペアになって会話の練習をする、練習問題を解く、といったさまざまな作業を行う。	
	フランス語基礎2	週2回一括履修。1~2名の担当教員が同一教科書を使ってリレー式に授業を進める。「基礎1」に引き続き、同様の作業をやや複雑な言い回しに関して行う。同時に、テキストなどを通じて、フランス語圏の歴史や文化についての理解を深める。	
全学共通科目 言語系 (言語B/スペイン語)	スペイン語基礎1	文法説明ののち練習問題、重要表現の反復練習、簡単な作文、自己表現練習などを行う。適宜小テストなどをはさむ。	
	スペイン語基礎2	文法説明ののち、重要表現の反復練習。既習事項全般を組み合わせ、慣用句や語彙の習得に努める。適宜小テストなどをはさむ。	
全学共通科目 言語系 (言語B/中国語)	中国語基礎1	週2回一括履修。全クラスで統一教科書、統一シラバスによって授業を進める。学期中を通して、中国語学習のすべての基礎となる発音の習得を重視する。さらにペアワークを通じての会話練習やリスニング練習などにより基本的なスキルを習得する。	
	中国語基礎2	週2回一括履修。全クラスで統一教科書、統一シラバスによって授業を進める。文法理解のほか、コミュニケーション的な方法による応答練習やペアワークを通じた会話練習やリスニング練習を行い、スキルの向上をはかる。	
全学共通科目 言語系 (言語B/朝鮮語)	朝鮮語基礎1	朝鮮語の文字を読み取り正確な発音ができるための学習をする。次に、基本的なあいさつや自己紹介の表現を学ぶ。つづいて、もっとも基本的な構文を丁寧な語尾で作れるようになる。その後、否定や疑問の形を学び、数の数え方、過去形、日常的によく使う表現を学習する。	
	朝鮮語基礎2	用言の連体形を学び、状況に合わせて使えるようにする。また活用を使いこなし、様々な表現を身につける。さらに、変則用言を学んで日常的によく登場する変則用言の使い方に習熟する。	
全学共通科目 言語系 (言語B/ロシア語)	ロシア語基礎1	教科書と副教材(配付プリント)に沿って、(1)新出単語の確認、(2)文法解説、(3)本文の確認と発音練習と解説、(4)練習問題の解答、という流れで進めていく。また視聴覚資料によってロシア文化を紹介しつつ、多面的な文化理解もめざす。	
	ロシア語基礎2	「ロシア語基礎1」と同様に、教科書と副教材(配付プリント)に沿って、(1)新出単語の確認、(2)文法解説、(3)本文の確認と発音練習と解説、(4)練習問題の解答、という流れで進めていく。また視聴覚資料によってロシア文化を紹介しつつ、多面的な文化理解もめざす。」	

全学共通科目 (言語B) 日本語 科目必修	大学生の日本語A	各学生の日本語力に配慮した形で、聴く・話す活動を中心に据えた内容重視型の授業を行い、内容理解とともにディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につけることを目指す。	
	大学生の日本語B	各学生の日本語力に配慮した形で、読む・書く活動を中心に据えた内容重視型の授業を行い、読解力を高めるとともに、レポートや論文を書く際に必要な技能を身につけることを目指す。	
	大学生の日本語C	各学生の日本語力に配慮した形で、聴く・話す活動を中心に据えた内容重視型の授業を行い、内容理解とともにディスカッションやプレゼンテーションのしかたを身につけることを目指す。	
	大学生の日本語D	各学生の日本語力に配慮した形で、読む・書く活動を中心に据えた内容重視型の授業を行い、読解力を高めるとともに、レポートや論文を書く際に必要な技能を身につけることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
（全学共通科目（言語系科目／自由科目））			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由科目 （英語） 全学 共通科目 言語系科目 モジュール／コース	English Intensive A (Global World)	(英文) Students will gather up-to-date information, analyze what they collected and make presentations on the following topics: International issues (conflicts, environmental destruction, poverty etc.), Social issues (gender, human rights etc.), Contemporary issues (aging society etc.) after discussions. (和訳) 最新の情報を収集し、収集した情報を分析しながら、国際的な問題（紛争、環境破壊、貧困など）、社会的な問題（ジェンダー、人権など）、現代的な問題（高齢化社会など）について、ディスカッションを経て、プレゼンテーションを行います。	
	English Intensive B (Academic Language Skills)	(英文) The course will cover, among others, the following academic skills: academic listening, note-taking, discussion, and presentation skills. Students will be required to give a formal presentation at the end of the semester. (和訳) この授業では、アカデミックリスニング、ノートテイキング、ディスカッション、プレゼンテーションスキルなどのアカデミックスキルを学びます。また、学期末にはプレゼンテーションを行うことになっています。	
	English Intensive C (Integrated Language Skills)	(英文) The course will focus on developing integrated language skills that will help students prepare for the demands of doing business, working, or engaging in volunteer work and/or other social activities in international settings. Specifically, it will cover eight business/work-related themes outlined in Course Schedule. These themes are expected to deepen students' knowledge of international business, contemporary topics, and current affairs. The class will consist of a variety of exercises and activities, but lessons may also be organized and arranged focusing on reading materials provided by the instructor. (和訳) この授業では、国際的な環境の中でビジネスを行ったり、仕事をしたり、ボランティア活動やその他の社会活動に従事したりする際に必要となる、総合的な言語スキルを身につけることに焦点を当てます。具体的には、8つのビジネス/仕事関連のテーマを取り上げます。これらのテーマは、国際ビジネス、現代の話題、時事問題についての知識を深めることが期待されています。授業は様々な演習等で構成されますが、講師が提供する読み物を中心に授業を構成・アレンジすることもあります。	
	English Intensive D (Intercultural Understanding)	(英文) ·To learn about other cultures and compare them with your own culture. ·To tackle issues and challenges caused by differences and find strategies to communicate across cultures. ·To think critically and discuss the concepts of internationalization and cultural assimilation. (和訳) ・異文化を学び、自分の文化と比較する。 ・文化の違いによる問題や課題に取り組み、異文化間のコミュニケーションを図るための戦略を見つける。 ・国際化と文化的同化の概念を批判的に考え、議論する。	



全学共通科目 インディペンデント・モジュール／コース 言語系科目 自由科目（英語）	Intercultural Studies	(英文) Throughout the course, students will learn how to 1. explain features of their own culture (including customs, attitudes, values, and beliefs) to others. 2. describe other countries' cultures and compare and contrast them with their own. 3. negotiate a variety of common situations they are likely to face when abroad. 4. show understanding of changing communication styles in various cultures depending on context (e.g., posture, eye contact, personal space, greetings, levels of politeness). 5. apply knowledge of intercultural communication and make connections to their own and other cultures in discussions and presentations 6. show cooperative teamwork in discussion and presentation (和訳) このコースを通して、生徒は以下のことを学びます。 1. 自国の文化の特徴（習慣、態度、価値観、信念など）を他者に説明できる。 2. 他国の文化について説明し、自国と比較対照することができる。 3. 海外で直面する可能性のある様々な状況について交渉することができる。 4. 状況に応じて変化する様々な文化のコミュニケーションスタイル（例：姿勢、アイコンタクト、パーソナルスペース、挨拶、礼儀正しさのレベル）を理解することができる。 5. 異文化間コミュニケーションに関する知識を応用し、ディスカッションやプレゼンテーションの中で自国や他国の文化に関連付けることができる。 6. ディスカッションやプレゼンテーションにおいて、協調的なチームワークを発揮することができる。	
	Self-directed and Reflective Language Learning	(英文) Throughout this CLIL course, students will learn how to: 1) create learning goals and reflect on progress 2) describe features and stages of learning plans 3) consider aspects of individual learning histories in relation to culture and learning backgrounds 4) implement and reflect on individual language learning plan 5) show understanding of subject-specific vocabulary 6) respond appropriately using questions/replies in presentations and cooperate in group discussions (和訳) このCLIL科目を通して、生徒は以下のことを学びます。 1) 学習目標の作成と進捗状況の確認 2) 学習プランの特徴と段階を説明する 3) 個人の学習履歴を文化や学習背景との関連で考察する。 4) 個人の言語学習計画を実行し、それについて考察する 5) 教科固有の語彙を理解することができる。 6) プレゼンテーションで質問や返答を適切に行い、グループディスカッションで協力することができる。	
インディペンデント・モジュール／コース 全学共通科目 自由科目（英語） 言語系科目	English Communication 1	(英文) This is an intensive, twice-a-week course taught by one instructor. Class size is limited to about ten students. Students will participate in a range of communicative activities such as role-plays and discussions, which will enhance their ability to produce and respond to language on everyday social topics. (和訳) 1人の講師による週2回の集中講座です。クラスの定員は10名程度です。ロールプレイやディスカッションなどの様々なコミュニケーション・アクティビティに参加し、日常的な社会的トピックに回答する能力を向上させます。	
	English Communication 2	(英文) This is an intensive, twice-a-week course taught by one instructor. The class is limited to about 10 students. Students are expected to actively participate in discussion activities on a diverse range of academic topics. Students will learn not only how to express opinions but also how to chair a meeting in order to effectively share ideas and opinions. (和訳) 1人の講師が担当する週2回の集中講座です。授業は10名程度に限定されています。受講生は、多様な学術的トピックに関するディスカッション活動に積極的に参加することが期待されています。意見の出し方だけでなく、効果的な意見交換のための会議の司会進行も学びます。	
	English Communication 2	(英文) Students actively participate in discussion activities on a diverse range of academic topics. Students learn not only how to express opinions but also how to chair a meeting in order to effectively share ideas and opinions. Students will also be required to research and present on a variety of academic topics. (和訳) 多様な学術的テーマについて、積極的に討論活動に参加します。意見を述べるだけでなく、効果的に意見やアイデアを共有するための会議の司会進行の仕方学びます。また、様々な学術的なトピックについて調べ、発表することも求められます。	

イン デ イ ペ ン デ ン ト ・ モ ジ ュ ー ル / コ ー ス  全 学 共 通 科 目 言 語 系 科 目 自由 科目 (英語)	English Communication 2	(英文) This is an intensive, twice a week course taught by one instructor. Students are expected to actively participate in discussion activities on a diverse range of academic/current affairs topics popular culture. Students will learn not only how to express opinions but also how to chair a meeting in order to effectively share ideas and opinions. Topics will alternate between social issues of importance and modern popular culture. (和訳) この授業は、1人の講師が週2回教える集中コースです。学生は、多様な学術的/時事的トピック・ポピュラーカルチャーに関するディスカッション活動に積極的に参加することが期待されます。学生は意見を述べるだけでなく、効果的にアイデアや意見を共有するために、会議の司会進行の仕方学びます。トピックは、重要な社会問題と現代のポピュラーカルチャーを交互に取り上げる予定です。	
	English Communication 2	(英文) This course aims to develop communication skills in English through the study and discussion of global issues. The course will introduce strategies to improve confidence in speaking in English. Students will be expected to actively participate in communicative activities. Communicative phrases will be introduced to enable students to discuss a variety of topics. Students will take part in awareness-raising activities, vocabulary learning and comprehension. Typical class sessions will include textbook study, task based activities, pair work and group based projects and presentations. The classes will also include watching, reading or listening to authentic materials and discussion activities. Homework will include vocabulary learning, reading and writing assignments. (和訳) この授業は、グローバルな問題の学習と議論を通じて、英語でのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。このコースでは、英語での会話に自信を持つためのストラテジーを紹介する。受講生は積極的にコミュニケーション活動に参加することが期待される。様々なトピックについてディスカッションできるよう、コミュニケーションに必要なフレーズを紹介する。生徒は、意識向上活動、語彙の学習、理解力向上に取り組みます。典型的な授業では、教科書の学習、タスクベースの活動、ペアワーク、グループベースのプロジェクトやプレゼンテーションが行われます。また、本物の教材を見たり、読んだり、聞いたり、ディスカッションをすることもあります。宿題は、語彙の学習、読解、作文などです。	
	English Communication 2	(英文) Each week you will be assigned to research a particular social issue related to the class topic, such as race and ethnicity, education, etc. In class each student will present their article to a small group of classmates and then lead a discussion of the article and issues. Students will also be expected to participate as active members of the group by sharing opinions and challenging the opinions shared by other students. Regular peer and self assessments will be conducted to help students improve their discussion leadership skills. (和訳) 毎週、人種や民族、教育など、クラスのトピックに関連する特定の社会問題を調査することが課されます。授業では、各生徒が少人数のクラスメートに自分の論文を発表し、その後、論文や問題点についてのディスカッションをリードすることになります。また、他の生徒と意見を交換したり、他の生徒の意見に異議を唱えたりすることで、グループの積極的なメンバーとして参加することが期待されます。ディスカッション・リーダーのスキルを向上させるために、定期的な相互評価と自己評価を行います。	
	English Communication 2	(英文) Students actively participate in discussion activities on a diverse range of academic topics. Students learn not only how to express opinions but also how to chair a meeting in order to effectively share ideas and opinions. (和訳) 多様な学術的テーマについて、積極的に討論活動に参加します。意見を述べるだけでなく、効果的に意見を共有するための会議の司会進行も学びます。	

インディペンデント・モジュール／コース 全学共通科目(英語) 自由科目(英語)系科目	English Communication 2	(英文) This course is an intensive, twice a week course with class size limited to ten students. The course is designed to maximise student participation and output by engaging them in research and discussion of topics that are both of interest and useful in their daily and future lives. Topics for the course will be decided on as a class in the first lesson and a revised syllabus will be distributed in the second lesson. Content for the course will be provided jointly by the course instructor and the students and requests for change of topics or in-class activities will be dealt with flexibly as a class. In class activities will vary depending on the topic and the student's preferences, however in general the class will follow a read-discuss-research-present/discuss format. Previously popular topics have been offered in the initial syllabus as a suggestion. (和訳) この授業は週2回の集中授業で、クラスの人数は10人に制限されています。このコースは、生徒が日常生活や将来において興味を持ち、役に立つようなトピックの研究やディスカッションに参加することで、生徒の参加と成果を最大限に引き出すようにデザインされています。授業のトピックは第1回目にクラスで決定し、第2回目に改訂版シラバスを配布する。 授業の内容は、講師と受講生が共同で提供し、トピックの変更や授業中の活動の要望には、クラスで柔軟に対応する。授業中の活動は、トピックや受講者の希望によって異なりますが、一般的には、「読む・議論する・調べる・発表する・議論する」という形式をとります。これまで人気のあったトピックは、最初のシラバスで提案されている。	
	Pleasure Reading	(英文) The class will consist of exercises to improve their reading skills, in-class reading, retelling and reporting of the books read to other students and sharing their reading experiences. Reading exercises: matching (a passage with a picture, a character description, a message or the emotion expressed; spoken words with a speaker), fill in the blanks, guessing the ending of the story, reordering the fragments of a story, understanding the meaning of poems, comparing different descriptions. Other exercises: vocabulary exercises, proverbs, logos, catchphrases, speed reading training. (和訳) 授業は、リーディングスキルを向上させるためのエクササイズ、クラス内でのリーディング、他の学生に読まれた本のリテリングやレポート、リーディング体験の共有などで構成されています。 読解演習：マッチング（文章と絵、人物の説明、メッセージや表現された感情、話し言葉と話し手）、空欄補充、物語の結末を推測する、物語の断片を並べ替える、詩の意味を理解する、異なる記述の比較など。 その他の演習：語彙演習、ことわざ、ロゴ、キャッチフレーズ、速読トレーニング。	
	Speech	(英文) Students will learn how to write a manuscript for a speech, how to choose a good topic, how to collect resources, how to develop ideas, and how to use gestures and voice inflections. Students are encouraged to practice a variety of speeches so that they can gain confidence and fluency in English. (和訳) スピーチ原稿の書き方、トピックの選び方、資料の集め方、アイデアの出し方、ジェスチャーや声の抑揚のつけ方などを学びます。様々なスピーチを練習することで、英語に自信を持ち、流暢に話せるようになることを目指します。	
	Debate	(英文) Debate is a genre of communication in which participants engage with each other on a topic from opposing perspectives. Students will familiarize themselves with this genre and also the vocabulary and rhetorical structures needed to express views on a range of challenging issues. (和訳) ディベートとは、あるテーマについて参加者が反対の立場から意見を交わすコミュニケーションのジャンルです。学生はこのジャンルに慣れ親しみ、様々な困難な問題について意見を述べるために必要な語彙や修辭的構造を学びます。	

インディペンデント・モジュール／コース 全学共通科目(英語)系科目	Presentation	(英文) This course builds on the skills acquired in the mandatory first-year presentation class. Students will learn sophisticated expressions for presentations, how to choose and develop a topic, how to collect resources, how to make PowerPoint slides, how to use gestures and voice inflections, so that they can conduct effective presentations. (和訳) 1年次の必修科目であるプレゼンテーションの授業で習得したスキルをベースにした授業です。効果的なプレゼンテーションを行うために、プレゼンテーションのための洗練された表現、トピックの選び方や展開の仕方、資料の集め方、パワーポイントのスライドの作り方、ジェスチャーや声の抑揚のつけ方などを学びます。	
	Current English 1 (reading)	(英文) This course is a low-intermediate English reading course. Students will learn to read and understand English-language news articles either online or via print media, building on the reading strategies learned in R&W1. Students will also build their vocabulary and further enhance the discussion skills learned in their first year while learning about a variety of topical issues, both domestic and global. (和訳) この授業は、初中級向けの英語リーディングです。R&W1で学んだリーディング・ストラテジーをベースに、オンラインや紙媒体による英語のニュース記事を読み、理解することを学びます。R&W1で学んだ読解法をベースに、語彙を増やし、1年目に学んだディスカッションスキルをさらに向上させながら、国内外の様々な話題について学んでいきます。	
	Current English 2 (reading)	(英文) This course is an upper-intermediate English reading course. Students will learn to read and understand English-language news articles either online or via print media, building on the reading strategies learned in R&W1. Students will also build their vocabulary and further enhance the discussion skills learned in their first year while learning about a variety of topical issues, both domestic and global. (和訳) この授業は中級以上の英語リーディングです。R&W1で学んだリーディング・ストラテジーをベースに、オンラインまたはプリント・メディアで書かれた英語のニュース記事を読み、理解することを学びます。R&W1で学んだ読解法をベースに、語彙を増やし、1年目に学んだディスカッションスキルをさらに高めながら、国内外の様々な話題について学んでいきます。	
	Current English 1 (listening)	(英文) This is a low-intermediate listening course for students to develop listening skills to understand current news through English-language news broadcasts. Students will also build their vocabulary and further enhance the discussion skills learned in their first year while learning about a variety of topical issues, both domestic and global. (和訳) 英語のニュース放送を通して、時事的なニュースを理解するためのリスニングスキルを身につけるための初中級リスニングです。また、国内外の様々な話題について学びながら、語彙を増やし、1年目に学んだディスカッションスキルをさらに高めていきます。	
	Current English 2 (listening)	(英文) This is an upper-intermediate listening course designed to further enhance student listening ability while building a deeper understanding of current news topics. Students will review and build upon their vocabulary and develop the discussion skills they learned in their first year while learning about a variety of topical issues, both domestic and global. (和訳) 時事ニュースの理解を深めながら、学生のリスニング能力をさらに高めることを目的とした中級以上のリスニングです。1年目に学んだ語彙の復習とディスカッションスキルを身につけながら、国内外の様々な話題について学びます。	
	Japanese Studies through English	(英文) The Japanese Government's "Cool Japan" campaign has tried to promote Japan across the globe by using its traditional and pop cultural influence. Through lectures (listening); discussion and presentations (speaking); weekly short articles (reading), and summaries (writing), students will learn how to explain and critically analyze the influence of various aspects of Japanese culture around the world. (和訳) 日本政府の「クールジャパン」キャンペーンは、日本の伝統文化やポップカルチャーの影響力を利用して、世界に日本をアピールしようとするものである。講義(リスニング)、ディスカッションやプレゼンテーション(スピーキング)、週刊短編記事(リーディング)、サマリー(ライティング)を通じて、日本文化の様々な側面が世界に与える影響を説明し、批判的に分析する方法を学びます。	

インディペンデント・モジュール／コース 全学共通科目 自由科目 言語系科目 (英語)	Japanese Studies through English	<p>(英文) This course is mainly a discussion class, in which participants will talk about Japanese culture through films. The main objective is for local students to be able to deepen their understanding of key cultural concepts from the assigned readings, so that they can talk about them fluently in English and explain them in detail to people who are unfamiliar with them. Ideally, this is a great course for students who plan on studying abroad or working in international environment, so that they can gain experience talking about Japan more deeply in English before that time.</p> <p>Throughout the semester, we will read and discuss chapters from the book, <i>The Japanese Mind</i>, and watch three or four films that are related to the selected key terms. A CLIL approach will be employed so that students can learn the basic knowledge of the subject and the specialist language used. During the final weeks of the semester, students will work in small groups to create a culture-share presentation intended for a “non-Japanese” audience. The final test will be written, short-answer questions, that are basically a review of the material covered throughout the semester.</p> <p>(和訳) この授業は、映画を通して日本文化について語り合う、ディスカッションを中心とした授業です。主な目的は、現地の学生が課題図書から文化的な重要概念の理解を深め、それを英語で流暢に話したり、知らない人に詳しく説明したりできるようになることです。理想的には、留学や国際的な環境で働くことを計画している学生にとって、その前に英語で日本についてより深く話す経験を積むことができる、素晴らしい授業です。</p> <p>学期を通して、『<i>The Japanese Mind</i>』という本の各章を読み、議論し、選択したキーワードに関連する映画を3、4本観ます。CLILのアプローチを採用し、基本的な知識と専門的な使用言語を習得できるようにします。学期の最終週には、小グループに分かれ、「日本人以外」の聴衆を対象としたカルチャーシェア・プレゼンテーションを作成する。最終テストは、基本的に学期中の復習となる記述式の短答式問題を出题する。</p>	
	Japanese Studies through English	<p>(英文) The course examines Japan’s contemporary geographic, demographic, social, political, economic, historical, and cultural issues by reading an English introductory textbook of Japanese studies as well as deepening students’ understanding of these issues through group discussions and students’ presentations. Students will be required to do a large amount of reading, participate in class activities, and conduct a final research project on a topic of their choice.</p> <p>(和訳) この授業では、日本の地理的、人口的、社会的、政治的、経済的、歴史的、文化的な現代の問題を、英語の日本研究の入門書を読みながら検討するとともに、グループディスカッションや学生のプレゼンテーションを通じて理解を深めます。学生は、大量の読書、クラス活動への参加、そして自分で選んだトピックについての最終研究プロジェクトを行うことが求められます。</p>	
	Japanese Studies through English	<p>(英文) This course will cover topics on several aspects of Japanese culture. For each topic, students are required to read the assigned text and do extra preparation as necessary to prepare for class. Students will actively engage in classroom discussions by sharing their views and insights of Japanese cultures through classroom discussions and projects. The course will be taught in a student-centered, flexible way and will be adapted to students’ particular learning needs.</p> <p>(和訳) この授業では、日本文化のいくつかの側面に関するトピックを取り上げます。それぞれのトピックについて、課題文を読み、必要に応じて予習をして授業に臨むこと。授業では、ディスカッションやプロジェクトを通して、日本文化についての意見や洞察を共有し、積極的に授業に参加します。この授業は、学生を中心とした柔軟な方法で行われ、学生の学習ニーズに適応していきます。</p>	
	Japanese Studies through English	<p>(英文) This course is designed to help students to develop their in-depth knowledge of Japan including Japanese culture and cross-cultural issues and develop summarizing skills of articles about some aspects of Japanese culture. For each topic, students are required to read the assigned text and do extra preparation for class. As a final project, students will give a presentation on a selected topic related to Japanese culture. Active participants will be required to contribute to the discussion-based class as a learning community.</p> <p>(和訳) この授業は、日本文化や異文化問題を含む日本についての深い知識を身につけ、日本文化のいくつかの側面に関する記事を要約する能力を開発することを目的としています。各トピックについて、学生は指定されたテキストを読み、授業のために特別な準備をすることが要求されます。最終課題として、日本文化に関連するトピックを選び、プレゼンテーションを行います。また、学習コミュニティとして、ディスカッションを中心とした授業に積極的に参加することが要求されます。</p>	

イン ディ ペン デント・ モジ ュール ／ コー ス	全学 共通 科目 言語 系科 目 自由 科目 (英語)	Japanese Studies through English	<p>(英文) This course is mainly a discussion class, in which participants will talk about Japanese culture through films. The main objective is for students to be able to deepen their understanding of key cultural concepts from the assigned readings, so that they can talk about them fluently in English and explain them in detail to people who are unfamiliar with them. During the fall semester, we will focus on the sub-theme of social problems in Japan, as well as rehabilitation and happiness. Thus, this class might be of interest for students who are majoring in Sociology, planning to study abroad, and/or working in an international environment. For the readings and films, guided worksheets will be provided. Individually, students will give short presentations on some of the true stories and cases from our readings, in order to analyze and investigate them in more detail. There will also be a final group presentation comparing and contrasting rehabilitation programs internationally.</p> <p>(和訳) 本講義は、映画を通して日本文化について語るディスカッションを中心とした授業である。主な目的は、課題図書から文化的な重要概念の理解を深め、それを英語で流暢に話したり、知らない人に詳しく説明できるようになることです。秋学期は、日本の社会問題、更生と幸福をサブテーマとして取り上げる予定です。社会学を専攻している学生、留学を予定している学生、国際的な環境で働いている学生にとって、この授業は興味深いかもしれません。読書と映画については、ワークシートが配布されます。個人的には、リーディングで読んだ実話や事例について短いプレゼンテーションを行い、より詳細に分析・検討する。また、最終的には、国際的なリハビリテーション・プログラムを比較対照するグループ・プレゼンテーションを行う予定です。</p>	
		Language and History	<p>(英文) Students will explore the origins of human language, the history of languages around the world, how languages change over time, and the social and political reasons for these changes. Students will have regular reading and summarizing homework, and will be required to give two presentations and write two short reaction papers during the course.</p> <p>(和訳) 学生は、人類の言語の起源、世界中の言語の歴史、言語が時代とともにどのように変化していくか、そしてその変化の社会的・政治的理由を探求していく。定期的に読書と要約の宿題が出され、授業期間中に2回のプレゼンテーションと2回の短いリアクション・ペーパーを書くことが要求される。</p>	
		English through Movies A	<p>(英文) We will study a short movie scene in each lesson, and each scene will center around a different social issue. Through a variety of activities, we will understand and practice key language from the scene, and each unit includes structured and unstructured role-play activities for you to put the target language to use. Following these activities, students will have discussions about relevant social and cultural issues.</p> <p>(和訳) 各授業で短い映画のシーンを学習し、それぞれのシーンは異なる社会問題を中心としています。様々なアクティビティを通して、そのシーンに登場する重要な言語を理解し、練習します。各ユニットには、ターゲット言語を使用するための構成された、または構成されていないロールプレイのアクティビティが含まれています。これらのアクティビティに続き、関連する社会的・文化的問題についてディスカッションを行います。</p>	
		English through Movies B	<p>(英文) Focus on social issues presented in snippets from well-known movies provides stimulating audio-visual language-rich dramatic, suspenseful and comical settings. In addition to tiered discussion tasks, each unit includes structured and unstructured role-play activities for you to intuitively put to use language extracted from the language model. Unassisted and guided re-enactment of social and cultural theme-based story content facilitates the development and practice of analytical skills with which to deconstruct and negotiate social situations and associated language in real life as well as to improve pronunciation and intonation skills.</p> <p>(和訳) 有名な映画からの抜粋で紹介される社会問題には、ドラマチック、サスペンス、コミカルな設定など、オーディオビジュアルに富んだ刺激的な言語が用意されています。各ユニットには、段階的なディスカッションタスクに加え、言語モデルから抽出された言語を直感的に使用するための構造化および非構造化ロールプレイアクティビティが含まれています。社会的・文化的なテーマに基づいたストーリーを、ガイド付きで再現することで、実生活における社会的状況や関連する言語を分解・交渉するための分析力を養い、発音やイントネーションのスキルを向上させることができます。</p>	

インディペンデント・モジュール／コース 全学共通科目 自由科目（英語） 言語系科目	English through Movies C	(英文) This course will provide students with opportunities to watch and analyze movies in terms of cultural perspectives as well as characters, body language, communication styles, and social context. By analyzing the contents of movies, students are expected to learn to watch movies without the assistance of subtitles. (和訳) このコースは、文化的観点だけでなく、キャラクター、ボディランゲージ、コミュニケーションスタイル、社会的文脈の観点から映画を見て分析する機会を学生に提供します。映画の内容を分析することにより、学生は字幕の助けを借りずに映画を見ることを学ぶことが期待されます。	
	World Cultures	(英文) In the course, the students will refer to the textbook and gain knowledge in multiple countries and their cultures. The instructor will provide supplementary materials to study topics related to intercultural communication. The course will also touch upon the connections between culture and communication in a variety of world cultures and suggest possible directions for improvement in terms of intercultural communication. All four skills (speaking, listening, reading, and writing) will be utilized. The instructor will assign reading and listening activities from the textbook and supplementary sources. The students are required to give presentations and participate in group discussions and projects that will be introduced during the term. (和訳) 授業では、テキストを参照しながら、複数の国やその文化に関する知識を得ることができる。講師は、異文化コミュニケーションに関連するトピックを学習するための補助教材を提供する。また、世界のさまざまな文化における文化とコミュニケーションの関連性に触れ、異文化間コミュニケーションの観点から改善の可能性を示唆する。 4技能（話す、聞く、読む、書く）すべてを活用する。講師は、教科書や補足資料からリーディングとリスニングのアクティビティを課します。また、学期中に紹介されるプレゼンテーションやグループディスカッション、プロジェクトに参加することが求められる。	
	World Heritage Sites	(英文) This is a discussion and presentation projected-based blended learning course. Covered topics include: • Culture and heritage • Intercultural competence • Culture and globalization • Culture management • Heritage management • Tourism • Marketing • Fundraising • Heritage impact assessment Activities: • Multi-media listening activities • Summarizing and reporting in oral and/or written forms • Discussions • Collaborative learning tasks (和訳) このコースは、ディスカッションとプレゼンテーションを中心としたブレンデッドラーニングコースです。 対象となるトピックは以下の通りです。 • 文化と遺産 • 異文化間能力 • 文化とグローバリゼーション • 文化マネジメント • ヘリテージマネジメント • 観光 • マーケティング • ファンドレイジング • 遺産インパクトアセスメント 活動内容 • マルチメディアを用いたリスニング活動 • 口頭または書面での要約と報告 • ディスカッション • 共同学習タスク	

イン デ ィ ペ ン デ ン ト ・ モ ジ ュ ー ル / コ ー ス	English through Dramas	(英文) In the first half of the term, students will learn different aspects of dramatic performances through activities such as improv, monologue, and role-plays. You will learn skills such as expressing character, projecting voices, body movement, and facial expressions. Students will also watch short videos, read and write scripts to prepare for their final group performance at the end of the course. (和訳) 前半は、即興、モノローグ、ロールプレイなどの活動を通して、ドラマティックパフォーマンスのさまざまな側面を学びます。キャラクターの表現、声の投射、体の動き、顔の表情などのスキルを学びます。また、短いビデオを見たり、台本を読んだり書いたりして、コースの最後に行われるグループパフォーマンスの準備をします。	
	Advertisement English	(英文) Students will learn about a wide variety of cultures around the world such as the origin of various cultures, diverse life style, differences in people's values and influence of history on contemporary culture and society. Students will also discuss how people in the world live together in an increasingly interconnected world. (和訳) 様々な文化の起源、多様な生活様式、人々の価値観の違い、歴史が現代の文化や社会に与えた影響など、世界の様々な文化について学びます。また、相互のつながりが強まっている中で、世界の人々がどのように共存しているかについても議論します。	
	English through Movies D	(英文) We will study a short movie scene in each lesson, and each scene will center around a different social issue. Through a variety of activities, we will understand and practice key language from the scene, and each unit includes structured and unstructured role-play activities for you to put the target language to use. Following these activities, students will have discussions about relevant social and cultural issues. (和訳) 各授業で短い映画のシーンを学習し、それぞれのシーンは異なる社会問題を中心にしています。様々なアクティビティを通して、そのシーンに登場する重要な言語を理解し、練習します。各ユニットには、ターゲット言語を使用するための構成された、または構成されていないロールプレイのアクティビティが含まれています。これらのアクティビティに続き、関連する社会的・文化的問題についてディスカッションを行います。	
	English through Movies E	(英文) The main in-class activities will be discussions about short movie clips and various movie-related activities, as shown in the weekly schedule. In the first half of the semester, the instructor will choose the main movie clips for discussion, students will choose clips and lead discussions in the second half of the semester. The main out of class activity will be to watch at least 10 English movies and keep a diary including reactions and vocabulary/phrases noticed in movies. Other assignments are indicated in the weekly schedule. (和訳) 授業中の主な活動は、週間スケジュールに示すように、短い映画クリップについてのディスカッションと映画に関連する様々な活動である。前半は講師が主な映画クリップを選び、後半は受講生がクリップを選び、ディスカッションをリードします。授業外の主な活動としては、少なくとも10本の英語映画を鑑賞し、映画の中での反応や気づいた語彙・フレーズなどを日記につける。その他の課題については、週間スケジュールに記載する。	
	English through Movies F	(英文) The course will provide students with the opportunity to watch a variety of English movies, and to analyze and interpret these movies in terms of characterization, plot, communicative styles, and cultural customs and values. A primary goal will be to help students gain the listening skills and confidence to watch movies without the aid of subtitles. Students will also learn terminology and concepts in filmmaking. (和訳) このコースでは、学生にさまざまな英語の映画を鑑賞し、これらの映画を特徴づけ、筋書き、コミュニケーションのスタイル、文化的慣習や価値観の観点から分析および解釈する機会を提供します。主な目標は、字幕を使わずに映画を鑑賞するためのリスニングスキルと自信を身に付けることです。また、学生は映画製作の用語と概念を学びます。	



イン デ イ ペ ン デ ン ト ・ モ ジ ュ ー ル / コ ー ス  全 学 共 通 科 目 自 由 科 目 (英 語 系 科 目 モ ジ ュ ー ル / コ ー ス )	Introduction to Global Studies A : Humanities	(英文) Each week, students will learn a new academic concept by reading an assigned text. A mini lecture on each week's topic will be given by the instructor, followed by students' discussion to better understand the topic. The topics will include gender equality and stereotypes (sociology), stress, anxiety, mindfulness, and mental strength (psychology), and linguistic relativity, speech acts, and discourse analysis (linguistics). Students will engage in three projects in which they will research, conduct surveys, collect/analyze data collaboratively with classmates, and present their findings to the class. (和訳) 毎週、指定されたテキストを読みながら、新しい学術的な概念を学びます。講師が各週のトピックについてミニレクチャーを行い、その後、受講生がトピックをより深く理解するためにディスカッションを行います。トピックは、男女平等とステレオタイプ（社会学）、ストレス・不安・マインドフルネス・精神力（心理学）、言語相対性・発話行為・談話分析（言語学）などです。学生は3つのプロジェクトに取り組み、リサーチ、調査、クラスメートとの共同でのデータ収集・分析、そしてその結果をクラスで発表します。	
	Introduction to Global Studies B : Social Science	(英文) This course is designed for students to develop communicative and academic language skills through understanding topics related to Social Science, in particular law and politics, economics, and tourism. Students will use general and specific contents to engage in group discussions and to develop critical thinking skills by understanding and analyzing academic lectures and texts. They will also reflect their own learning through understanding various English learning strategies (vocabulary, reading, and writing) and critical thinking skills. After each content introduction, students are expected to deliver presentations related to the topic covered in class. (和訳) 社会科学、特に法律や政治、経済、観光などに関するトピックを理解することで、コミュニケーション能力とアカデミックな言語能力を身につけることを目的としたコースです。この授業では、一般的な内容と具体的な内容を用いてグループディスカッションを行い、学術的な講義やテキストを理解・分析することで批判的思考力を養います。また、様々な英語学習ストラテジー（語彙、リーディング、ライティング）やクリティカルシンキングスキルを理解することで、自らの学習を反映させていきます。各コンテンツの紹介の後には、授業で取り上げたトピックに関連したプレゼンテーションを行うことが期待されています。	
	Multimodal Communication in English	(英文) Students are expected to learn relevant communication theories to initiate individual and group-based projects to search, find, and analyze materials of their choice and to present how the materials are structured to communicate a possible meaning. As a culminating activity, students will develop a material on a digital platform to communicate a message. (和訳) 学生は、関連するコミュニケーション理論を学び、個人やグループでプロジェクトを立ち上げ、自分で選んだ素材を探し、見つけ、分析し、その素材がどのように構成されているかを発表して、可能な限りの意味を伝えることが期待されます。最後には、デジタルプラットフォーム上でメッセージを伝えるための素材を開発します。	

インディペンデント・モジュール／コース 全学共通科目 自由科目（英語系） 言語系科目	Business Speaking	(英文) Throughout this course, students will learn how to: 1) take part, express logical opinions, and understand the opinions of others in discussions regarding a range of business-related topics such as jobs, time and money; elements that make companies popular; problems at work; business and the environment 2) give and receive straightforward information related to business situations, whilst checking understanding when unsure 3) express their own opinions, understand those of others, and discuss problems and solutions in a business meeting situation 4) express personal views regarding their qualifications, skills, and personal qualities, and respond to questions in situations such as a business interview 5) give a presentation related to a business topic in which the main points are expressed clearly (和訳) この授業では、次のようなことを学びます。 1) 仕事、時間、お金、人気企業、仕事上の問題、ビジネスと環境など、ビジネスに関する様々なトピックの議論に参加し、論理的な意見を述べ、他人の意見を理解することができる。 2) ビジネスに関連した分かりやすい情報の授受ができ、不明な点は理解度を確認しながら進めることができる。 3) 自分の意見を述べ、相手の意見を理解し、ビジネス上の問題点や解決策について話し合うことができる。 4) 面接などの場面で、自分の資格やスキル、資質について自分の考えを述べ、質問に答えることができる。 5) ビジネストピックに関するプレゼンテーションを行い、要点を明確に表現することができる。	
	Current News through English Media	(英文) The aims of this course are for the students to listen to and read English-language news while learning about a variety of topical issues. The students will be able to read and understand short news texts about current topics. They will also learn to understand recorded news bulletins such as from television or radio. The students will be able to explain the main points of a news story and give their opinion about it. (和訳) この授業の目的は、英語のニュースを聞き、読みながら、様々な時事問題について学ぶことです。時事問題についての短いニューステキストを読み、理解することができるようになります。また、テレビやラジオなどのニュース速報の録音を理解できるようにします。ニュース記事の要点を説明し、それについて自分の意見を述べることができるようになります。	
	TOEFL 2 (vocabulary and grammar)	(英文) This course aims to expand students' vocabulary and grammar knowledge to enable them to comprehend lectures and seminars in universities abroad. This will help students speak and write in English, as well as understand lectures. The focus will be on academic vocabulary and English collocations. (和訳) 海外の大学の講義やセミナーを理解できるように、語彙や文法の知識を増やすことを目的としています。講義を理解するだけでなく、英語で話したり書いたりすることができるようになります。アカデミックな語彙や英語の共起語に焦点を当てます。	
	TOEFL 2 (reading)	(英文) This course aims to improve reading skills to read faster with increased comprehension. By introducing skills such as scanning and skimming, students will be able to read effectively for the TOEFL iBT exam. 700-word-long passages will be used to practice fast reading and summarizing exercises will be introduced to develop academic reading skills at a higher comprehension ability. (和訳) この授業では、理解力を高めて速く読むためのリーディングスキルの向上を目指します。スキヤニングやスキミングなどのスキルを導入することで、TOEFL iBT試験に向けて効果的な読み方ができるようになります。700語の長文を使って速読の練習をしたり、サマライズの練習をしたりすることで、より高い理解力でアカデミックなリーディングスキルを身につけます。	

インディペンデント・モジュール／コース 全学共通科目 自由科目（英語） 言語系科目	TOEFL 2 (listening)	(英文) This course aims to improve listening skills especially for understanding academic lectures. This will include understanding topic themes, identifying key words and supporting examples. Note-taking skills will be introduced which will allow students to follow and comprehend long lectures and meetings. (和訳) この授業では、特に学術的な講義を理解するためのリスニングスキルの向上を目指します。この授業では、トピックのテーマを理解し、キーとなる単語や例文を特定することができます。また、長時間の講義や会議でも理解できるように、ノートを取り方も紹介します。	
	TOEFL 2 (speaking and writing)	(英文) This course aims to improve students' speaking and writing skills in order to achieve a score of 76 in the TOEFL exam. This will include understanding and summarizing content, expressing opinions, and organizing a cohesive essay. Speech writing and essay writing skills will be introduced to help students prepare for the exam. (和訳) この授業では、TOEFL試験で76点を獲得するために、学生のスピーキングとライティングのスキルを向上させることを目的としています。この授業では、内容の理解と要約、意見の表明、まとまったエッセイの作成などを行います。スピーチライティングとエッセイライティングのスキルを紹介し、試験対策を行います。	
	TOEIC 1 (reading)	(英文) This class is a TOEIC preparation course for beginners. Students will expand their vocabulary effectively using various kinds of word lists. Grammar and vocabulary skills will be reinforced by learning grammatical and lexical items frequently found on the TOEIC test. The students also practice fast reading, skimming, and scanning to improve fluency and accuracy. (和訳) このクラスは、初心者のためのTOEIC準備コースです。様々な種類の単語リストを使って、効果的に語彙を増やしていきます。また、TOEICテストに頻出する文法や語彙を学ぶことで、文法力と語彙力を強化します。また、速読、スキミング、スキヤニングの練習も行い、流暢さと正確さを高めていきます。	
	TOEIC 1 (listening)	(英文) This class is a TOEIC preparation course for beginners. The students will learn basic knowledge of English phonetics: vowels and consonants, linking sounds, accents, and intonation to be able to understand English being spoken at a normal speed. With this knowledge, they will practice listening to understand the main idea of conversations. (和訳) このクラスは、初心者のためのTOEIC準備コースです。母音と子音、連結音、アクセント、イントネーションなどの英語音声学の基礎知識を学び、普通のスピードで話される英語を理解できるようにします。この知識をもとに、会話の大意を理解するためのリスニング練習を行います。	
	TOEIC 1 (vocabulary and grammar)	(英文) This class is a TOEIC preparation course for beginners. The students will expand their vocabulary using various kinds of word lists and questions from the TOEIC test, focusing on vocabulary frequently used in daily life. The grammar skills will be reinforced by learning grammatical and lexical items frequently asked on the TOEIC test and put them into practical use. (和訳) このクラスは、初心者向けのTOEIC準備コースです。日常生活でよく使われる語彙を中心に、様々な種類の単語リストやTOEICテストの問題を使って語彙を増やしていきます。文法面では、TOEICテストでよく出題される文法項目や語彙を学び、実践的に活用することで、文法力を強化します。	
	TOEIC 2 (reading)	(英文) Vocabulary and reading skills will be practiced to acquire a higher level of reading skills. Students will expand their vocabulary in business and academic contexts extensively using various kinds of word lists. Grammar and vocabulary skills will be reinforced by learning grammatical and lexical items frequently asked on the TOEIC test. The students also practice fast reading, skimming, and scanning to improve reading fluency. (和訳) 語彙力と読解力を鍛え、より高いレベルの読解力を身につけます。様々な種類の単語リストを使って、ビジネスやアカデミックな文脈での語彙を幅広く増やしていきます。TOEICテストでよく出題される文法項目や語彙を学習し、文法力と語彙力を強化します。また、速読、スキミング、スキヤニングを行い、流暢な読解力を身につけます。	

インディペンデント・モジュール／コース 全学共通科目 自由科目（英語） 言語系科目	TOEIC 2 (listening)	(英文) This class is a listening course for students at intermediate level. Students will practice making inferences, understanding situations, paraphrasing and indirect expressions. Students will also practice vocabulary necessary for the exam. (和訳) このクラスは、中級レベルの学生を対象としたリスニングコースです。推論、状況把握、言い換え、間接表現などを練習します。また、試験に必要な語彙の練習も行います。	
	TOEIC 2 (vocabulary and grammar)	(英文) Students will expand their vocabulary using various kinds of word lists, focusing on the vocabulary frequently used in business and academic contexts. Grammar and vocabulary skills will be reinforced by putting grammatical and lexical items into practical use. (和訳) ビジネスやアカデミックな文脈で頻繁に使われる語彙を中心に、様々な種類の単語リストを使って語彙を増やしていきます。また、文法や語彙を実際に使用することで、文法力や語彙力を強化します。	
	IELTS	(英文) The course will give students a general understanding of the format of each of the listening, reading, writing, and speaking sections of the IELTS test. The course will also provide students with key strategies and self-study techniques on how to prepare for the IELTS test through practice of the various question types, so that students can continue to prepare and improve their skills after the course has been completed. (和訳) この授業では、IELTSのリスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの各セクションの形式をおおまかに理解することができます。この授業では、IELTSテストのリスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの各セクションの形式を全般的に理解した上で、様々なタイプの問題を練習することでIELTSテストに備えるための戦略や自習方法を学び、コース終了後も継続して準備とスキルアップができるようにします。	
自由科目（英語） 全学共通科目 アドバンスト・モジュール／コース	Lecture and Discussion A	(英文) In this class students will learn, in English, knowledge and practice skills about international peace and conflict. Students will learn about: * approaches to peace * human rights, international law connected to international conflict * nonviolent social movements * conflict resolution * gender * peace journalism and public education for peace * and case studies of real peace issues that happen internationally and in Japan. The course methods will combine lectures, active learning, and discussions. Students will be required to complete some reading and other preparation as necessary to prepare for class. The course will be taught in a student-centered, flexible way, and the exact Course Schedule will be adapted to students' particular learning needs. (和訳) この授業では、国際平和と紛争に関する知識を英語で学び、スキルを実践します。生徒は以下のことを学ぶ。 * 平和へのアプローチ * 国際紛争に関連する人権、国際法 * 非暴力的な社会運動 * 紛争解決 * ジェンダー * 平和ジャーナリズムと平和のための公教育 * 国際的に、また日本で実際に起こっている平和問題のケーススタディ。 授業方法は、講義、アクティブラーニング、ディスカッションを組み合わせで行う。学生は授業に備えて、必要に応じて読書などの準備をすることが求められる。この授業は、学生中心の柔軟な方法で行われ、正確なスケジュールは、学生の特定の学習ニーズに適合させる。	

<p>自由科目（英語）          全学共通科目          言語系科目          アドバンスト・モジュール／コース</p>	Lecture and Discussion D	<p>(英文) The class meets twice a week to prepare students for studying abroad. The students will practice understanding academic lectures on variety of different topics. In the beginning of the semester, we will focus on academic skills. Each 2-week unit will require students to study vocabulary, do a reading, watch a short recorded lecture, take notes, have discussions, and write a brief summary &amp; reaction statement. There will be comprehension quizzes after each unit. For example topics, please refer to Weeks 2-8 on the course schedule.</p> <p>In the second half of the semester, the teacher will give a series of real-life academic lectures on taboo language (e.g., What is taboo language? Why is it taboo? What are the different kinds of taboo language? What are some of the linguistic and psychological features of such language? How do sociolinguistic factors (gender, age, class, etc.) affect taboo language use?). Students will have to submit their notes and also take a comprehension quiz after each lecture. There will also be a group project involving watching a movie or TV show.</p> <p>(和訳) 留学準備のための週2回の授業です。様々なトピックの学術的な講義を理解する練習をします。学期初めは、アカデミック・スキルに焦点を当てます。2週間の各ユニットでは、語彙の学習、リーディング、録画された短い講義の視聴、ノートの取り方、ディスカッション、簡単な要約と反応文の作成が求められます。各ユニットの後に理解度チェックのクイズがあります。トピックの例としては、スケジュールの第2週から第8週を参照してください。</p> <p>学期後半は、タブー視される言葉について、講師が実際にアカデミックな講義を行います(例: What is taboo language? なぜタブーなのか? タブー言語にはどのような種類があるのか? そのような言語の言語的・心理的特徴にはどのようなものがあるのか? 社会言語学的要因(性別、年齢、階級など)はタブー言語の使用にどのような影響を与えるのか?) 講義終了後、ノートを提出し、理解度チェックのための小テストを行います。また、映画やテレビ番組を視聴するグループプロジェクトも行います。</p>	
	Lecture and Discussion E	<p>(英文) This course is designed to prepare you for today's global intercultural professional and academic environment. The first part of the course consists of lectures and discussion on principles and methods of intercultural group communication.</p> <p>The second part is a Virtual Exchange :          From Week 5 to Week 12 you will engage in an international virtual exchange with university and college students in Israel and Europe (Poland and Italy).          This exchange will give you practical experience with communicating with others from different countries in English.</p> <p>(和訳) この授業は、今日のグローバルな異文化間の職業および学術環境に対応できるように設計されています。授業の前半は、異文化間グループコミュニケーションの原則と方法に関する講義とディスカッションで構成されています。第2部はバーチャル・エクステンジです。5週目から12週目まで、イスラエルとヨーロッパ(ポーランドとイタリア)の大学生や専門学校生と国際的なバーチャル・エクステンジを行います。この交換留学では、異なる国の人々と英語でコミュニケーションをとるという実践的な経験をすることができます。</p>	
	Lecture and Discussion F	<p>(英文) In this course, students will read a variety of literature, and they will draw upon these models to improve their own creative writing. Students will practice writing original poems, creative nonfiction, fiction, and screenplays, and they will submit one piece of original work for each unit along with a final portfolio in one or more genres. Students will be encouraged to experiment and develop their powers of imagination and self-expression. They will review the work of other students, and they will learn how to edit and improve their own writing. The skills developed throughout this course will also be transferable to other subjects.</p> <p>(和訳) この授業では、さまざまな文学作品を読み、それをモデルとして自分のクリエイティブ・ライティングを向上させていきます。生徒は、オリジナルの詩、クリエイティブ・ノンフィクション、フィクション、脚本を書く練習をし、各ユニットにオリジナル作品を1つずつ、そして1つ以上のジャンルの最終的なポートフォリオを提出します。生徒は、実験的に想像力と自己表現力を養うよう奨励されます。他の生徒の作品を見直し、自分の文章を編集し改善する方法を学びます。この授業で身につけたスキルは、他の科目にも応用できます。</p>	

自由科目 (英語) 全学共通科目 言語系科目 アドバンスト・モジュール / コース	Lecture and Discussion G	<p>(英文) Lectures are held on Fridays and students must take notes and choose an aspect of the lecture they wish to discuss in class. They must bring a source of information into Wednesdays' discussion class related to their chosen area of interest to kickstart a discussion between other students. There is a quiz based on the previous lecture every Wednesday discussion class.</p> <p>Every week a different movement in British music is presented and discussed. A wide range of media sources are used.</p> <p>(和訳) 講義は金曜日に行われ、学生は講義の内容をメモし、クラスで議論したい項目を選択する必要があります。水曜日のディスカッションクラスでは、自分が選んだ分野に関連する情報源を持ち寄り、他の受講生とのディスカッションを始めることが求められます。毎週水曜日のディスカッションクラスでは、前回の講義に基づいたクイズが出題されます。</p> <p>毎週、イギリス音楽の異なるムーブメントを紹介し、議論する。様々なメディアソースを使用する。</p>	
	Lecture and Discussion H	<p>(英文) The class meets twice a week to prepare students for studying abroad. The students will practice understanding academic lectures on various topics given by the teacher as well as prominent professors around the world in English provided on websites such as YouTube Edu. Students will watch a lecture in the first class and prepare a summary &amp; reaction statement before the next lesson. In the next class, the students will not only discuss the lecture, but also present their own extra research they have done on the topic.</p> <p>(和訳) 週2回の授業で、海外留学の準備をします。YouTube Eduなどのサイトで提供されている、先生や世界の著名な教授が英語で行う様々なトピックの学術的な講義を理解する練習をします。初回の授業で講義を視聴し、次回の授業までに要約と反応文を作成します。次回の授業では、講義の内容について議論するだけでなく、そのトピックについて自分たちで余分に調べたことを発表します。</p>	
	Discussion and Debate	<p>(英文) Participants will be presented with a variety of controversial topics and given the opportunity to debate and discuss them. To achieve this, a range of relevant skills will be developed, including not only the fundamental competencies of speaking and listening, but more advanced skills such as effective rhetoric and persuasion. Participants will also be expected to use research skills and critical thinking.</p> <p>(和訳) 学生は、様々な論議を呼ぶトピックを提示され、それについて討議し、議論する機会が与えられます。そのために、スピーキングやリスニングといった基本的な能力だけでなく、効果的なレトリックや説得といったより高度なスキルも含め、様々な関連スキルを身につけます。また、参加者はリサーチスキルやクリティカルシンキングを駆使することが期待されます。</p>	
	Discussion and Debate	<p>(英文) In this course you will learn critical and logical thinking techniques through various activities including listening and reading exercises, and develop advanced skills of presenting your opinion effectively in discussion and debate. Students will learn various styles of argumentation through discussion and debate on current issues and social issues.</p> <p>(和訳) この授業では、リスニングやリーディング演習などの様々な活動を通して、批判的で論理的な思考法を学び、ディスカッションやディベートで自分の意見を効果的に発表する高度なスキルを身につけます。時事問題や社会問題をテーマにしたディスカッションやディベートを通じて、様々なディスカッションスタイルを学びます。</p>	

自由科目 (英語) 全学共通科目 言語系科目 アドバンスト・モジュール / コース	Discussion and Debate	<p>(英文) To be able to talk logically about academic and theoretical matters that are treated in classes at universities in English speaking countries, students learn and practice advanced skills for discussion and debate. The content of the class and the amount/style of debates will greatly depend on the class size and level. We' ll use a CLIL approach to learn some of the key specialist language, and also build upon the skills that students have learned in their required debate classes freshman year. We' ll work with the textbook Verdicts, to discuss, argue, and resolve cases as if we were on a real jury. This material will be supplemented with authentic listening activities and vocabulary quizzes at the beginning of each class related to the content of the text. Finally students will give "debate" presentations on comparable international cases two times during the semester.</p> <p>(和訳) 英語圏の大学の授業で扱われる学術的・理論的な事柄を論理的に話せるようになるため、ディスカッションやディベートのための高度なスキルを学び、実践します。授業の内容やディベートの量・スタイルは、クラスの人数やレベルにより大きく異なります。CLILのアプローチで、重要な専門用語の一部を学び、また、1年生の必修科目であるディベートの授業で学んだスキルを基に授業を進めていきます。教科書『Verdicts』を使い、実際の陪審員のように議論し、議論し、事件を解決していきます。この教材に加え、テキストの内容に関連した本格的なリスニング活動と語彙のクイズを各授業の冒頭に行います。最後に、学生は学期中に2回、同等の国際的事例について「討論」プレゼンテーションを行う。</p>	
	Advanced Academic Vocabulary	<p>(英文) Attaining an extensive vocabulary is one of the basic English skills required for successful study in an English academic setting. Using a widely accepted academic vocabulary list, students will become more proficient at using academic vocabulary in English while learning how words and phrases are used within the specialized learning context required for academic studies in English.</p> <p>(和訳) 豊富な語彙力を身につけることは、英語のアカデミックな環境で成功するために必要な基本的な英語力の1つです。広く受け入れられているアカデミックボキャブラリーリストを使用し、英語でのアカデミックな学習に必要な専門的な学習状況において単語やフレーズがどのように使用されるかを学びながら、英語のアカデミックボキャブラリーの使用に熟達することができるようになります。</p>	
	Advanced Academic Vocabulary	<p>(英文) Students will improve their knowledge and use of academic vocabulary, with a focus on the practical acquisition of words that students can use in academic settings, along with features of academic language that can aid comprehension and further study in English.</p> <p>(和訳) アカデミックな環境で使える単語の実践的な習得と、英語での理解やさらなる学習に役立つアカデミックな言語の特徴に焦点を当てて、アカデミックな語彙の知識と使用を向上させます。</p>	
	Current English 3 (Comprehensive)	<p>(英文) This course is an advanced English reading and listening course. Students will interact with a variety of authentic materials that address a range of topical issues at the national and global level. Students will also engage in various vocabulary, writing, and speaking activities regarding the issues.</p> <p>(和訳) この授業は、英語のリーディングとリスニングの上級コースです。この授業では、国内および世界レベルで話題となっているさまざまな問題を取り上げた本物の教材を使用します。また、それらの問題に関する様々なボキャブラリー、ライティング、スピーキングのアクティビティを行います。</p>	

自由科目 (英語) 全学共通科目 アドバンスト・モジュール / コース	Academic Studies (advanced presentation)	<p>(英文) This course is designed to give students more understanding into contemporary cross-cultural issues. Students will come to understand and learn to discuss and present their ideas related to the different aspects of social and environmental issues. The focus will be on communication and interaction in order to build background knowledge of and vocabulary related to the issues. Students will take part in group tasks to increase their collaborative ability and expression of ideas. Students will use all of their receptive and productive skills to enhance their learning ability. Students will be able present reports analyzing the different issues and possible solutions.</p> <p>(和訳) この授業は、現代の異文化問題をより深く理解することを目的としています。学生は、社会問題や環境問題のさまざまな側面について理解し、自分の考えを議論し発表することを学びます。コミュニケーションとインタラクションに重点を置き、問題の背景となる知識と語彙を身につけます。グループワークに参加し、協調性と表現力を高めます。学習能力を高めるために、受容的スキルと生産的スキルのすべてを使用します。様々な問題や解決策を分析したレポートを発表できるようになります。</p>	
	Academic Studies (advanced presentation)	<p>(英文) Students will learn how to construct and deliver successful persuasive presentations on a variety of academic topics. The presentation skills to be covered in the course include the following: how to prepare for and organize an academic presentation, how to develop effective speech performance techniques, how to use examples and statistics, how to organize the presentation with a logical structure and sequence, and how to use IT equipment during an academic presentation.</p> <p>(和訳) 様々な学術的トピックについて、説得力のあるプレゼンテーションを構築し、成功させる方法を学びます。この授業で扱うプレゼンテーションスキルは、学術プレゼンテーションの準備と構成方法、効果的なスピーチパフォーマンスの開発方法、事例と統計の使用方法、論理的な構造と順序でプレゼンテーションを構成する方法、学術プレゼンテーション中のIT機器の使用方法などです。</p>	
	Academic Studies (advanced presentation)	<p>(英文) Students will learn how to construct and deliver successful persuasive presentations on a variety of academic topics. The presentation skills to be covered in the course include the following: how to prepare for and organize an academic presentation, how to develop effective speech performance techniques, how to use examples and statistics, how to organize the presentation with a logical structure and sequence, and how to use IT equipment during an academic presentation.</p> <p>(和訳) 様々な学術的トピックについて、説得力のあるプレゼンテーションを構築し、成功させる方法を学びます。この授業で扱うプレゼンテーションスキルは、学術プレゼンテーションの準備と構成方法、効果的なスピーチパフォーマンスの開発方法、事例と統計の使用方法、論理的な構造と順序でプレゼンテーションを構成する方法、学術プレゼンテーション中のIT機器の使用方法などです。</p>	
	Academic Studies (advanced writing)	<p>(英文) The ability to write clearly in a range of formats is one of the skills fundamental to academic success. This course aims to develop in students a basic understanding of the processes and conventions of writing research papers in English.</p> <p>(和訳) 様々な形式で明確な文章を書く能力は、学問的成功のための基本的なスキルの一つです。この授業では、英語で研究論文を書く際のプロセスや慣習について、基本的な理解を深めることを目的としています。</p>	



自由科目 (英語) 全学共通科目 言語系科目 アドバンスト・モジュール / コース	Career Studies (English for vocational purposes)	<p>(英文) This task-based course simulates the experience of working in an English-speaking company. In this course, students will brainstorm new product ideas, pitch their ideas within the company, perform market research, participate in a job interview, and design an ad campaign. The course starts with quite easy tasks, but quickly builds toward more challenging projects. Students must work in small teams to complete these projects, while taking turns being the project manager for their team. Active participation in English is required.</p> <p>(和訳) この授業は、英語圏の企業で働く経験をシミュレートするものです。この授業では、新製品のアイデア出し、社内でのアイデア出し、市場調査、就職面接、広告キャンペーンのデザインなどを行います。</p> <p>この授業は、最初は簡単な課題から始まりますが、すぐに難易度の高いプロジェクトへと発展していきます。学生は少人数のチームで作業を行い、交代でチームのプロジェクトマネージャーを務めながら、これらのプロジェクトを完了させなければなりません。英語での積極的な参加が必要です。</p>	
	Career Studies (English for vocational purposes)	<p>(英文) Students will learn work-related English language skills to be able to effectively function in an increasingly globalized society. By the end of the course, students are expected to become able to: 1) effectively communicate in oral and written forms for various business-related contexts, 2) understand issues relevant to intercultural communication, and 3) exercise sensitivity to communicate with people from different language and cultural backgrounds.</p> <p>(和訳) グローバル化が進む社会で効果的に機能するために、仕事に関連した英語力を身につけます。授業終了時には、以下のことができるようになることが期待されている。1) ビジネスに関連した様々な状況において、口頭および書面での効果的なコミュニケーション 2) 異文化コミュニケーションに関連する問題の理解 3) 言語や文化的背景の異なる人々とのコミュニケーションにおける感受性の発揮。</p>	
	Career Studies (English for vocational purposes)	<p>(英文) Students will be able to discuss the job application process: searching for jobs, reading a job advertisement, identifying interests and skills, and writing a resume following English speaking countries' conventions. Students will also acquire vocabulary, phrases, and grammar appropriate to the job application process.</p> <p>(和訳) 求人の検索、求人広告の読み方、興味やスキルの確認、英語圏の慣習に従った履歴書の書き方など、求職のプロセスについて話し合うことができますようになります。また、求職活動に必要な語彙、フレーズ、文法を習得します。</p>	
	Career Studies (English for vocational purposes)	<p>(英文) Students will start the course by reflecting on their needs for job hunting and future work situations. Based on this, a series of modules will be completed, which might include the following: resume and cover letter writing, business presentation skills, interview skills, email writing, telephoning and meeting skills. Three modules will be individually assessed, while the final module will be a group project aimed at learning how to prepare for situations that the course has not covered.</p> <p>(和訳) 学生は、就職活動や将来の仕事の状況について、自分のニーズを振り返ることから授業を開始します。それをもとに、履歴書とカバーレターの書き方、ビジネスプレゼンテーションのスキル、面接のスキル、Eメールの書き方、電話対応や会議のスキルなど、一連のモジュールを完成させます。3つのモジュールは個人評価され、最終モジュールは、授業でカバーされていない状況に備える方法を学ぶことを目的としたグループプロジェクトとなります。</p>	

自由科目 (英語) 全学共通科目 アドバンスト・モジュール 系科目 コース	CLIL Seminars:Ecology	<p>(英文) This course aims to create an awareness of and concern about ecology and its associated environmental problems, with the goal for students to discuss these issues and present possible solutions in English. Students will learn the extent of these current global ecological challenges, their impact on the environment and human life, and their personal responsibility through collaborative learning and problem solving. Students will also acquire critical thinking skills and appropriate English expressions to effectively communicate these ecological issues through discussion and presentations.</p> <p>(和訳) この授業は、エコロジーとそれに関連する環境問題に対する認識と関心を高め、生徒がこれらの問題について英語で議論し、可能な解決策を提示することを目的としています。学生は、共同学習や問題解決を通して、現在の地球規模の生態学的課題の程度、環境や人間生活への影響、および個人の責任について学びます。また、ディスカッションやプレゼンテーションを通して、これらのエコロジー問題を効果的に伝えるための批判的思考スキルや適切な英語表現を習得する。</p>	
	CLIL Seminars:Japanology	<p>(英文) This course is an opportunity for students to increase their interest in Japanese culture while improving their English at the same time. Through a combination of readings, discussions, and presentations, students will learn about traditional and modern Japanese culture. Students will complete weekly reading homework and use their critical thinking skills to create discussion questions about the content and themes in the reading; different groups of students will lead the discussion each week. Finally, students will deliver a final presentation in small groups about one topic from class discussions.</p> <p>(和訳) この授業は、日本文化への関心を高めると同時に、英語力を向上させる機会でもあります。リーディング、ディスカッション、プレゼンテーションを組み合わせ、日本の伝統文化や現代文化について学びます。生徒は毎週リーディングの宿題をこなし、批判的思考力を駆使してリーディングの内容やテーマについてディスカッションの質問を作成し、毎週異なるグループの生徒がディスカッションをリードします。最後に、クラスで議論された1つのトピックについて、小グループで最終プレゼンテーションを行います。</p>	
	CLIL Seminars : Literature	<p>(英文) Throughout this course, students will learn how to:  understand a clearly structured lecture, and take notes on major points (L)  understand and use target specialist vocabulary required in 1) academic lectures and 2) literary topics (L)  respond appropriately using questions and responses in discussions and presentations (L)  describe and analyse features of contemporary literary writing (C)  show understanding of language and literary features such as narrative structure and theme (C)  apply knowledge of contemporary literature in society in reflective writing and presentations (C)</p> <p>(和訳) この授業では、以下のことを学びます。明確に構成された講義を理解し、主要なポイントをメモすることができる(L)  1) 学術的な講義や2) 文学的なトピックで必要とされる専門的な語彙を理解し、使用することができる(L)  ディスカッションやプレゼンテーションで質問や回答を用いて適切に対応することができる(L)  現代文学の文章の特徴を説明し、分析することができる(C)  物語の構造やテーマなどの言語や文学的な特徴の理解を示すことができる(C)  社会における現代文学の知識を考察的な文章やプレゼンテーションに応用することができる(C)</p>	

<p>自由科目 (英語) 全学共通科目 アドバンス・モジュール 言語系科目</p>	<p>CLIL Seminars:SDGS</p>	<p>(英文) In this course, students will study the United Nations' Sustainable Development Goals (SDGs). The course will be taught in three phases. Initially, the SDGs and the reasons for their creation will be introduced as well as essential vocabulary related to sustainability and global supply chains. During the bulk of the course, students will have opportunities to research and analyse specific Goals that interest them and critically reflect on the methods, technologies and policies that may lead to solving the issues. Students will be encouraged to form their own opinions about specific issues related to SDGs and in the final phase, express their reasoning/arguments in spoken and written forms. Through this process, students will become better informed about the topic and be better prepared to engage in the global conversation related to SDGs.</p> <p>(和訳) この授業では、国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」を学びます。この授業は3つのフェーズで構成されています。まず、SDGsとその創設理由、そして持続可能性とグローバルサプライチェーンに関連する重要な語彙を紹介し、授業の大部分では、学生が興味のある特定の目標を調査・分析し、課題解決につながる方法、技術、政策について批判的に考察する機会を設けます。最終的には、SDGsに関連する具体的な課題に対して自分自身の意見を形成し、その理由や主張を口頭や文書で表現するよう促します。このプロセスを通じて、学生はこのトピックに関する知識を深め、SDGsに関連するグローバルな会話に参加する準備をします。</p>	
<p>自由科目 (英語) 全学共通科目 オナーズ・モジュール 言語系科目</p>	<p>University Lecture A</p>	<p>(英文) This course is designed for people who are interested in the field of teaching English to speakers of other languages (TESOL). Through a series of lectures, readings, class discussions, and practical teaching exercises, students will explore the basic principles of language teaching and learning. Students are expected to read the materials beforehand, take notes during the lecture, and participate actively in class discussions. There is also a chance to try out some basic teaching techniques with other classmates.</p> <p>(和訳) この授業は、英語を母国語としない人への英語教授法 (TESOL) に関心のある人のためのものである。講義、読書、クラス討論、教育実習を通して、言語教育と学習の基本原則を探求する。学生は事前に資料を読み、講義中はノートを取り、クラスでの議論に積極的に参加することが期待されています。また、他のクラスメートと一緒に基本的な教授法を試す機会もあります。</p>	
	<p>University Lecture C</p>	<p>(英訳) This University Lecture course will provide students with an introduction to "Statistics in Society". The lectures will introduce students to some basic statistical analyses including descriptive statistics, plots and figures, correlation, probability, regression, and machine learning. However, the course is not a typical statistics course. The statistical analyses will be introduced to students with examples of how they are used in society, in particular, in the media. Students will also have the opportunity to conduct their own analyses with free software, such as JASP and AntConc, using provided datasets. Topics covered will include university acceptance figures, GPA scores, knife crime in the UK, Alice in Wonderland, sports doping, power posing, predicting elections, personality tests, Netflix algorithms, and more.</p> <p>(和訳) この授業では、「社会の中の統計学」の入門編を学ぶことができます。講義では、記述統計、プロットや図形、相関、確率、回帰、機械学習など、基本的な統計解析について紹介する予定です。ただし、本講座は一般的な統計学の講座ではありません。統計解析が社会、特にメディアでどのように利用されているか、事例を交えて紹介する予定です。また、提供されたデータセットを用いて、JASPやAntConcなどのフリーソフトで独自の分析を行う機会も設けます。大学合格者数、GPAスコア、英国におけるナイフ犯罪、不思議の国のアリス、スポーツドーピング、パワーポージング、選挙予測、性格診断、Netflixアルゴリズムなどのトピックを取り上げる予定です。</p>	

自由科目 (インディペンデント)	ビクトリア夏ESL2	カナダ・ビクトリア大学にて実施される英語研修に参加する。教室での授業の他にオプションアクティビティ(別料金。バンクーバー旅行など)が予定されている。現地ではキャンパス内の寮に滞在する。	集中
	ハワイ夏ESL2	アメリカ・ハワイ大学マノア校にて実施される英語研修に参加する。教室での授業の他に、フィールドトリップやフラダンスのワークショップ、現地学生との英会話練習の時間が予定されている。滞在中は現地の家庭にホームステイをする。	集中
	ダブリン春ESL3	アイルランド・ダブリンシティ大学にて実施される英語研修に参加する。教室での授業の他に、市内観光や旅行が予定されている。滞在中は現地の家庭にホームステイをする。	集中
	ビクトリア春ESL2	カナダ・ビクトリア大学にて実施される英語研修に参加する。教室での授業の他にオプションアクティビティ(別料金。バンクーバー旅行など)が予定されている。滞在中は現地の家庭にホームステイをする。	集中
	ダブリン夏ESL3	アイルランド・ダブリンシティ大学にて実施される英語研修に参加する。教室での授業の他に、市内観光や旅行が予定されている。滞在中は現地の家庭にホームステイをする。	集中
	ハワイ春ESL1	アメリカ・ハワイ大学マノア校にて実施される英語研修に参加する。教室での授業の他に、フィールドトリップやフラダンスのワークショップ、現地学生との英会話練習の時間が予定されている。滞在中は現地の家庭にホームステイをする。	集中
	グリフィス春ESL3	オーストラリア・グリフィス大学にて実施される英語研修に参加する。滞在中は現地の家庭にホームステイをする。	集中
	短期語学研修科目(英語)	研修期間、研修実施校の国・地域、受講コース、宿泊先を選択肢の中から自由に選択することができる。教室での授業の他に課外活動も用意されている。 【EF】 週26レッスン～32レッスン(1レッスン40分)の授業を受講する。ジェネラルコースから試験対策、ビジネスコースまで選択可能。さらに特別選択科目(SPIN)で、幅広い分野の中から興味のある科目を追加することができる。 【Kaplan】 週20レッスン～28レッスン(1レッスン45分)の授業に加え、Kaplan独自の学習メソッド「K+」に基づいたオンライン教材や、教師主導による他の学生との交流の時間が設けられている。ジェネラルコースからビジネスコースまで選択可能。	集中
	オンライン海外語学研修科目(英語)	【EC】 月曜から金曜(時差による火曜から土曜の場合あり)に毎日90分、週7.5時間の授業を受講する。授業の前後には本プログラムに参加する他の学生との共同ワークとして、グループワークやプレゼンテーションの時間が設けられている。授業は、ECの語学学校で英語教師としての資格をもつネイティブの講師が担当する。授業以外にもオンラインアクティビティが準備されている。 【ILAC】 月曜から金曜(時差による火曜から土曜の場合あり)に毎日180分、週15時間の授業。授業後にはセルフスタディの時間があり、授業準備を行う。実際にILACバンクーバー校やトロント校で教えているネイティブの講師が授業を担当する。授業以外にもオンラインアクティビティが準備されている。	集中

全学共通科目 自由科目 基礎科目群 (中級レベル) (ドイツ語系科目)	ドイツ語中級 1	ドイツ語圏の地理、文化、歴史、社会等をテーマにした文章を読みながら、1年次で学んだ文法事項を復習し、さらに、語法、表現を総合的に身につける。背景を知るために、映像資料等も使用し、ドイツ語圏の文化、歴史に対する理解を深める。	共同
	ドイツ語中級 1	週2回開講。ドイツ人教員と日本人教員がそれぞれ1時間ずつ担当し、文法事項の確認・補足をしながら、ドイツ語力のステップアップを目指す。指定のテキストや補助教材を用いて様々な場面を想定し、口頭・読解練習、ペアワークやグループワークを行うことで、ドイツ語を「使う」力を身につける。小テストを適宜行い、文法事項の定着を図る。	共同
	ドイツ語中級 1	基礎文法を復習しながら、旅行、メルヒェン、音楽などをテーマとした長い文章を読み、練習問題に取り組んでいく。	
	ドイツ語中級 2	ナチ時代の市民生活を中心に、ドイツ語の絵本、童話、手記、法律等、多様な関連資料を読む。テーマに沿って、多くの映画作品、記録映像に触れる。戦後、ドイツがどのように歴史と向き合ってきたか、いくつかの事例をもとに考える。	
	ドイツ語中級 2	週2回開講。ドイツ人教員と日本人教員がそれぞれ1時間ずつ担当し、文法事項の確認・補足をしながら、ドイツ語力のステップアップを目指す。指定のテキストや補助教材を用いて様々な場面を想定し、口頭・読解練習、ペアワークやグループワークを行うことで、ドイツ語を「使う」力を身につける。小テストを適宜行い、文法事項の定着を図る。	共同
	ドイツ語中級 2	以下のように、授業を展開する。 1. 事前に指定されたドイツ語のテキストを日本語に翻訳し、これを期日までに提出する。 2. 授業時に、添削済みの課題を受け取り、その解説を聴く。 3. 解説済みのテキストを正確に音読できるよう練習をする。 4. 次の授業時に、そのテキストと解説に基づき、語彙・語法を確認するための小テストとディクテーション（聞き取ったドイツ語の書き取り）が行われる。	
	ドイツ語スタンダード 1	既習の基本的文法事項を確認しながら、特に口頭練習やリスニングに力を注ぎます。指定のテキストを用いて、日常的なシチュエーションでの会話に慣れていきましょう。ドイツ語検定の過去問題なども取り入れ、さまざまな形でドイツ語に触れていきます。また、DVDなどの映像資料を用いながら、ドイツ語圏の文化や社会への理解も深めていきます。	
	ドイツ語スタンダード 1	第二次世界大戦の激戦地スターリングラードからの兵士の最後の手紙を読みながら、テキストにじっくりと取り組みます。訳読のみならず、時代背景の理解、グループワークでの構文の分析やディスカッション、作文にも力点を置きたいと思います。	
	ドイツ語スタンダード 2	ドイツ語圏の社会・文化に関するさまざまなテーマを扱った教科書を用いて、特に読解力を中心にドイツ語力を伸ばします。	
	ドイツ語スタンダード 2	ウィーンの日常生活をテーマに書かれたエッセイを読解します。また、文章音読・会話練習・練習問題を通して「話す／聞く」練習も行います。	
	ドイツ語スタンダード 3	既習の基本的文法事項を確認しながら、特に口頭練習やリスニングに力を注ぎます。ドイツ語検定の過去問題などにも取り組み、自身の達成度を客観的に確認する機会も設ける予定です。また、DVDなどの映像資料を用いながら、ドイツ語圏の文化や社会への理解も深めていきます。	
	ドイツ語スタンダード 3	春学期に続いて文法の練習を行いながら、テキストを読んでいきます。ドイツの歴史や文化理解の助けとなるよう、適宜映像資料を取り入れ、学生同士のディスカッションや作文にも取り組みたいと思います。	
	ドイツ語スタンダード 4	ドイツ語圏の社会・文化に関するさまざまなテーマを扱った教科書を用いて、特に読解と聴解の力を高めます。	
ドイツ語スタンダード 4	オーストリアの文化について書かれたエッセイを読解し、話のポイントをまとめます。また、文章音読・会話練習・練習問題を通して「話す／聞く」練習も行います。		

全学共通科目 自由科目 コア科目群 (上級ドイツ語レベル)	上級ドイツ語 コミュニケーション1	ネイティブ・スピーカーの教員による週一回の授業です。現代のドイツ、ヨーロッパについて、さまざまなテーマに関連する語彙や表現を学び、プレゼンテーション、議論をすることで、幅広いコミュニケーションの力をつけます。	
	上級ドイツ語 コミュニケーション1	ネイティブ・スピーカーの教員による週一回の授業です。映像ややさしいニュースなどを用いながら、現在のドイツ語圏のアクチュアルな事情、特に環境問題への取り組みについて、テーマに関連する語彙や表現を学び、議論の練習をすることで、幅広いコミュニケーションの力をつけます。また、学習内容やスキルを生かして、ビデオ・プレゼンテーション作成を行います。	
	上級ドイツ語 コミュニケーション2	ネイティブ・スピーカーの教員による週一回の授業です。現代のドイツ、ヨーロッパについて、さまざまなテーマに関連する語彙や表現を学び、プレゼンテーション、議論をすることで、幅広いコミュニケーションの力をつけます。	
	上級ドイツ語 コミュニケーション2	ネイティブ・スピーカーの教員による週一回の授業です。映像ややさしいニュースなどを用いながら、現在のドイツ語圏のアクチュアルな事情、特に環境問題への取り組みについて、テーマに関連する語彙や表現を学び、議論の練習をすることで、幅広いコミュニケーションの力をつけます。また、学習内容やスキルを生かして、ビデオ・プレゼンテーション作成を行います。	
	上級ドイツ語 ライティング1	ネイティブ・スピーカーの教員による週一回の授業です。参加者のレベル・興味に合わせた様々な「書く」場面を提供し、個人・共同作業でドイツ語でテキストを作成します。二つの回で一つのテーマを取り組みます。一回目は、テーマの形式・表現を確認し、書く練習を行います。宿題として、300ワード程度の文書を作成し、二回目の授業でそれについて話し合っ、そしてリライト（作り直す）をします。	
	上級ドイツ語 ライティング1	ネイティブ・スピーカーの教員による週一回の授業です。映像ややさしいニュースなどを用いながら、現在のドイツ語圏のアクチュアルな事情に触れつつ、ドイツ語表現の特徴を学びます。また、ニュースの要旨をドイツ語で書く練習を通して、適切なドイツ語で書く力を身につけます。	
	上級ドイツ語 ライティング2	参加者のレベル・興味に合わせた様々な「書く」場面を提供し、個人・共同作業でドイツ語でテキストを作成します。二つの回で一つのテーマを取り組みます。一回目は、テーマの形式・表現を確認し、書く練習を行います。宿題として、300ワード程度の文書を作成し、二回目の授業でそれについて話し合っ、そしてリライト（作り直す）をします。	
	上級ドイツ語 ライティング2	ネイティブ・スピーカーの教員による週一回の授業です。映像ややさしいニュースなどを用いながら、現在のドイツ語圏のアクチュアルな事情に触れつつ、ドイツ語表現の特徴を学びます。また、ニュースの要旨をドイツ語で書く練習を通して、適切なドイツ語で書く力を身につけます。	
	上級ドイツ語リスニング・ リーディング1	新聞記事や雑誌、Web上のニュースなどの様々なジャンルのテキストや映像教材を用いて読解およびリスニングを行い、現代のドイツ語圏の文化・社会を理解するために必要なドイツ語の語彙を増やし、読解およびリスニングに必要な技術や知識を身に付けます。音読やディクテーションも重視します。	
	上級ドイツ語リスニング・ リーディング1	テキストを読み、聴き、文法事項の理解を確認します。あわせて作文、ドイツ語で要約する練習などを行ないます。そして、ランデスクンデについての課題を調べ、日本語とドイツ語を使って、意見交換する機会を設けます。	
上級ドイツ語リスニング・ リーディング2	新聞記事や雑誌、Web上のニュースなどの様々なジャンルのテキストや映像教材を用いて読解およびリスニングを行い、現代のドイツ語圏の文化・社会を理解するために必要なドイツ語の語彙を増やし、読解およびリスニングに必要な技術や知識を身に付けます。音読やディクテーションも重視します。		
上級ドイツ語リスニング・ リーディング2	テキストを読み、聴き、文法事項の理解を確認します。あわせて作文、ドイツ語で要約する練習などを行ないます。そして、ランデスクンデについての課題を調べ、日本語とドイツ語を使って、意見交換する機会を設けます。		

全学共通科目 自由科目(ドイツ語) コア科目群(上級レベル)	上級ドイツ語演習 1	日本人の教員による週一回の授業です。現代のドイツ、ヨーロッパについて、さまざまなテーマに関連する語彙や表現を学び、意見を筆記でまとめ、プレゼンテーションや議論をすることで、幅広いコミュニケーションの力を付けます。	
	上級ドイツ語演習 1	日本人教員による週一回の授業です。ドイツ、ヨーロッパに関するさまざまなテーマのテキストを読み、背景への理解を深めるとともに、関連する語彙や表現を学びます。また、簡単な意見交換やプレゼンテーション、独作文をすることで、自分の意見を的確なドイツ語で発信するコミュニケーションの力を付けます。語彙増強や文法確認のための小テストも課します。	
	上級ドイツ語演習 2	日本人の教員による週一回の授業です。現代のドイツ、ヨーロッパについて、さまざまなテーマに関連する語彙や表現を学び、意見を筆記でまとめ、プレゼンテーションや議論をすることで、幅広いコミュニケーションの力を付けます。	
	上級ドイツ語演習 2	日本人教員による週一回の授業です。ドイツ、ヨーロッパに関するさまざまなテーマのテキストを読み、背景への理解を深めるとともに、関連する語彙や表現を学びます。また、簡単な意見交換やプレゼンテーション、独作文をすることで、自分の意見を的確なドイツ語で発信するコミュニケーションの力を付けます。語彙増強や文法確認のための小テストも課します。	
	ドイツ語総合 1	この科目では、ペアワークやグループワークを通し、学習者同士が互いに協力しながら学ぶことで、ドイツ語の文法知識だけでなく、言語運用能力(話す・聞く・読む・書くなどのスキル)を総合的に身に付ける。また、複言語・複文化能力を養うために、ドイツ語圏の社会や文化について自国のものと比較しながら理解を深める。	
	ドイツ語総合 2	この科目では、ペアワークやグループワークを通し、学習者同士が互いに協力しながら学ぶことで、ドイツ語の文法知識だけでなく、言語運用能力(話す・聞く・読む・書くなどのスキル)を総合的に身に付ける。また、複言語・複文化能力を養うために、ドイツ語圏の社会や文化について自国のものと比較しながら理解を深める。	
全学共通科目 自由科目(ドイツ語) ドイツ語入門科目	基礎ドイツ語入門	文法事項の説明、基礎語彙(約300語)、口頭練習、聞き取り練習などを行いながら、ドイツ語の発音の基礎、日常生活に即した基礎的な表現を学習する。さらに、ドイツ語圏の歴史や文化を通し、多文化社会における文化理解と共生力を養う。	
	基礎ドイツ語初級	文法事項の説明、基礎語彙(「入門」と合計で約700語)や基礎表現を使う練習を通し、短いテキストの読解力も身につける。また、ドイツ語圏の歴史や文化を通し、多文化社会における文化理解と共生力を養う。	
全学共通科目 自由科目(フランス語) 基礎科目群(中級レベル)	フランス語中級 1	以下のテーマについて、1年次に学習した語彙や表現、文法事項を補強しつつ、フランス語のさらなる運用能力を身につける。週2回一括履修。原則として、フランス語を母語とする教員と日本人教員が、同一テキストを使用して連携をとりながら授業を進めていく。	共同
	フランス語中級 2	以下のテーマについて、これまで学習した語彙や表現、文法事項を補強しつつ、フランス語のさらなる運用能力を身につける。また、授業や教材をとおして、フランス語圏の歴史や文化などについての理解を深める。週2回一括履修。原則として、フランス語を母語とする教員と日本人教員が、同一テキストを使用して連携をとりながら授業を進めていく。	共同
	フランス語スタンダード 1	以下のテーマについて、1年次に学習した語彙や表現、文法事項を補強しつつ、フランス語のさらなる運用能力を身につける。週1回。原則として、フランス語を母語とする教員が担当する。下記のテキストを使用して、日常的なテーマで会話が行える能力を養うと同時に、類似のテーマで簡単な作文の訓練を行う。	

全学共通科目 自由科目目群 (フランス語) 基礎科目群 (中級レベル)	フランス語スタンダード2	以下のテーマについて、1年次に学習した語彙や表現、文法事項を補強しつつ、フランス語のさらなる運用能力を身につける。週1回。原則として、日本人教員が担当する。授業は二部構成で、毎回前半は仏検4～3級の過去問を解き、教員が解説をする。後半はフランス語圏の社会に関するテキストを講読する。	
	フランス語スタンダード3	以下のテーマについて、これまで学習した語彙や表現、文法事項を補強しつつ、フランス語のさらなる運用能力を身につける。また、授業や教材をとおして、フランス語圏の歴史や文化などについての理解を深める。週1回。原則として、フランス語を母語とする教員が担当する。下記のテキストを使用して、日常的なテーマで会話が行える能力を養うと同時に、類似のテーマで簡単な作文の訓練を行う。	
	フランス語スタンダード4	以下のテーマについて、これまで学習した語彙や表現、文法事項を補強しつつ、フランス語のさらなる運用能力を身につける。週1回。原則として、日本人教員が担当する。授業は二部構成で、毎回前半は仏検3～準2級の過去問を解き、教員が解説をする。後半はフランス語圏の社会に関するテキストを講読する。	
全学共通科目 自由科目目群 (フランス語) コア科目群 (上級レベル)	上級フランス語 コミュニケーション1	(仏文) Révision des acquis grammaticaux par l'intermédiaire de conversations autour de thèmes abordés dans les documents distribués en classe. (和訳) 授業で配布されたプリントに書かれているトピックを中心に会話をする。文法知識を復習する。	
	上級フランス語 コミュニケーション2	(仏文) Révision et renforcement des acquis grammaticaux. Conversation autour des thèmes abordés dans les documents distribués en classe. (和訳) 文法知識の改訂と強化を行う。授業で配布された資料で取り上げられたトピックを中心に会話をする。	
	上級フランス語 ライティング1	(仏文) Amélioration de la production écrite. Préparation aux épreuves écrites du Futsuken 2 kyû et du Delf B1. Exercices de grammaire Rédactions. (和訳) 文法演習等により、フランス語検定2級とDelf B1の筆記試験の準備学習を行う。	
	上級フランス語 ライティング2	(仏文) Amélioration de la production écrite. Préparation aux épreuves écrites du Futsuken 2 kyû et du Delf B1. Exercices de grammaire (和訳) 文法演習等により、フランス語検定2級とDelf B1の筆記試験の準備学習を行う。	
	上級フランス語 リスニング・リーディング1	フランスの歴史・社会・政治に関わる主題から日常生活にまつわるテーマまで、幅広い範囲のニュース音声等を使用し、ネイティブ話者の会話のスピードを聞き取り、理解できるように努める。授業前半では音声を反復して聞き取り、キーワードを拾いながら音声の概要と論旨の展開を全体で把握する。予習なしでリスニングを行うので、内容は当日に提示する。授業後半では、音声内容の読解を行い、文法・語彙などの補足説明、関連情報の参照を行いながら、授業前半で聞き取った内容を更に深く理解する。	
	上級フランス語 リスニング・リーディング2	フランスの歴史・社会・政治に関わる主題から日常生活にまつわるテーマまで、幅広い範囲のニュース音声等を使用し、ネイティブ話者の会話のスピードを聞き取り、理解できるように努める。授業前半では音声を反復して聞き取り、キーワードを拾いながら音声の概要と論旨の展開を全体で把握する。予習なしでリスニングを行うので、内容は当日に提示する。授業後半では、音声内容の読解を行い、文法・語彙などの補足説明、関連情報の参照を行いながら、授業前半で聞き取った内容を更に深く理解する。	
	上級フランス語演習1	時事フランス語に特化したテキストを使用し、フランスの社会や社会問題、またはフランスにみられる日本文化や日本におけるフランス文化について学ぶ。また、アクチュアルな問題を通し、これまであまり触れることのなかったフランス単語を学習し語彙力をふやす。	



全学共通科目 自由科目目群 (フランス語) 上級レベル	上級フランス語演習 1	仏検2級および準1級の過去問を用いて語彙や文法事項を確認し、仏検対策をおこなう。また、仏検2級および準1級と同程度の難易度の文章(小説、エッセイ、評論、新聞・雑誌記事等)を読み、フランス社会やフランス文化を理解するために必要な知識を得る。	
	上級フランス語演習 2	時事フランス語に特化したテキストを使用し、フランスの社会や社会問題、またはフランスにみられる日本文化や日本におけるフランス文化について学ぶ。また、アクチュアルな問題を通し、これまであまり触れることのなかったフランス単語を学習し語彙力をふやす。	
	上級フランス語演習 2	仏検2級および準1級の過去問を用いて語彙や文法事項を確認し、仏検対策をおこなう。また、仏検2級および準1級と同程度の難易度の文章(小説、エッセイ、評論、新聞・雑誌記事等)を読み、フランス社会やフランス文化を理解するために必要な知識を得る。	
全学共通科目 (フランス語) 言語情報処理 自由科目 中級レベル	言語情報処理 (フランス語)	かつて、情報先進国であったフランスは、しかし、インターネット時代に乗り遅れてしまう。その背景にあったのは、フランス語そのものの問題であり、キーボードのキー配列の問題だった。フランスはどのようにしてこの課題を乗り越えようとしているのか? コンピュータや情報端末を実際に操作しながら、文字表示、フォント、文字コードといった技術的な問題から、フランス語版アプリ(アプリケーション)などソフトウェアの問題まで見てゆきたいと考えている。 また、いまや世界共通基盤となったインターネット上でのフランス語とフランス語ユーザというポイントから、どのような利用・活用の仕方があるのか、実際に情報発信を図るまで扱う。	
自由科目 全学共通科目 フランス語 入門科目	基礎フランス語入門	週2回一括履修。1~2名の担当教員が同一教科書を使ってリレー式に授業を進める。文法理解の他、音源を聞く、テキストを音読する、例文や動詞の活用を暗記する、ペアになって会話の練習をする、練習問題を解く、といったさまざまな作業を行う。	
	基礎フランス語初級	週2回一括履修。1~2名の担当教員が同一教科書を使ってリレー式に授業を進める。「基礎フランス語入門」に引き続き、同様の作業をやや複雑な言い回しに関して行う。同時に、テキストなどを通じて、フランス語圏の歴史や文化についての理解を深める。	
全学共通科目 自由科目目群 (スペイン語) 中級レベル	スペイン語中級 1	この授業では、グループやペアでのコミュニケーション活動を通じて、中級レベルの文法、語彙、表現を学ぶ。	共同
	スペイン語中級 1	毎回、文法事項の応用力をつけるために、ペアを組み練習を繰り返します。読解を進めながら新しい単語を学びます。授業内容を復習するために毎回練習問題の宿題を出します。	
	スペイン語中級 1	この授業では、動詞の現在形を中心にスペイン語圏の国々の日常生活や文化を構成する様々な要素を学習しながら、話す・聞く・読む・書くの四技能をバランスよく身につけるようにする。予習、復習を欠かさず、提出物(宿題)の期限を守り、積極的に授業に参加することが必須である。	共同
	スペイン語中級 1	毎回一つのテーマを取り上げます。内容を理解し、文法や用語を身につけた上で、会話をします。 1. スポーツ、食べ物、旅行、音楽や映画などの趣味について紹介します。 2. いろいろな習慣、仕事などについて表現します。 3. ペアやグループで、上記のテーマに基づいたアクティビティをします。	共同

全学共通科目 自由科目 基礎科目群 (中級レベル) (スペイン語)	スペイン語中級2	この授業では、グループやペアでのコミュニケーション活動を通じて、中級レベルの文法、語彙、表現を学ぶ。	共同
	スペイン語中級2	毎回、文法事項の応用力をつけるために、ペアを組み練習を繰り返します。読解を進めながら新しい単語を学びます。授業内容を復習するために毎回練習問題の宿題を出します。	共同
	スペイン語中級2	この授業ではスペイン語圏の日常生活や文化を構成する様々なテーマを紹介する。現在、過去、未来、仮定の出来事について話したり書いたりすること、現在完了を使い、最近の出来事を表現することに取り組む。仮定の状況や丁寧な依頼(条件文)について話す。直接法と接続法を使って、意見を述べたり、表明したりする。語彙を大幅に増やすことが期待され、予習・復習、提出物(宿題)の期限を守り、積極的に授業に参加することが望まれる。	
	スペイン語中級2	毎回一つのテーマを取り上げます。内容を理解し、文法や用語を身に着けた上で、会話をします。 1. 買い物の際に、比較級を使って話します。 2. 動詞tener, ser, estarなどを用いて家族を表現します。 3. 接続法を使い、希望、仮定、苦情などを表します。	共同
	スペイン語スタンダード1	「スペイン語基礎1」、「スペイン語基礎2」で学習した直説法全般の復習・補強をしてから、接続法や命令形を使用するための未習の文法事項も学んでいく。単に事実を言うだけでなく、「人に何かしてほしい」「してください」といったより幅広い表現のためには、これらの文法の理解が必要になる。授業では旅行の会話を扱ったテキストを軸に、文章の読み取りや簡単な作文への応用といった練習をしながら、上記の項目を学んでいく。	
	スペイン語スタンダード1	1年次の必修科目で学んだスペイン語を活かし、読解力・聴解力・語彙力を伸ばすための練習に加え、通訳訓練を駆使した発話力の強化を行います。必要に応じて文法事項も学習し、過去問も使いながらプレゼン・作文も織り交ぜていきます。	
	スペイン語スタンダード1	スペイン語学習歴が最低1年あることを前提とし、再帰動詞の復習から始める。テキストの内容に沿って進行し、1~2回の授業で1課の内容を終える予定。2日目の授業ではその課で習った表現を使って会話練習も行う予定。春学期ではテキストの12課「再帰動詞」から18課「過去分詞」まで学習する予定。ただし、履修者全体のレベル次第で、内容を一部変更することがある。	
	スペイン語スタンダード2	「スペイン語基礎1」、「スペイン語基礎2」で学習する直説法全般の復習・補強をしてから、接続法や命令形を使用するための未習の文法事項も学んでいく。単に事実を言うだけでなく、「人に何かしてほしい」「してください」といったより幅広い表現のためには、これらの文法の理解が必要になる。授業では、配付資料・教材を用いて上記の項目を学びながら、口頭での質疑応答などの練習、学生同士のペア・グループ練習や、授業外課題をもとにした口頭発表、などを行っていく。	
スペイン語スタンダード2	スペイン語学習歴が最低1年あることを前提とした会話演習クラスである(すでに中級レベル以上の話者は履修不可)。これまでに習った語彙や表現、時制(点過去・線過去まで)を用い、日常会話の練習をする。その際、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢も評価対象となる。基本的にテキストの内容に沿って進行し、適宜補助教材を配布する。会話レッスンを通じた基本文法の復習は最小限にとどめるため、授業前に次課の文法内容をしっかり見直すこと。「スペイン語基礎」(必修科目)より上のレベルの文法事項を学習したい学生は「スペイン語スタンダード1」等の別クラスを履修することを勧める。命令形は秋学期に学習予定。ただし、履修者全体のレベル次第で、内容を一部変更することがある。		

基礎科目群 (中級レベル)	全学 自由科目 共通科目 言語系科目 (スペイン語)	スペイン語スタンダード2	初年度に学んだスペイン語の文法を復習しながら、メキシコ人のスペイン語を聞き、リピートすることでスペイン語を学び直す。教科書にはスペイン語の質問が項目ごとにあるので、その回答を一人一人が発表し、確認した後、それを元にグループで会話練習をする。	
		スペイン語スタンダード3	「スペイン語基礎1」、「スペイン語基礎2」で学習した直説法全般の復習・補強をしてから、接続法や命令形といった未習の文法事項も学んでいく。単に事実を言うだけでなく、「人に何かしてほしい」「してください」といったより幅広い表現のためには、これらの文法の理解が必要になる。授業では旅行の会話を扱ったテキストを主軸に、文章の読み取りや簡単な作文への応用といった練習をしながら、上記の項目を学んでいく。	
		スペイン語スタンダード3	これまでに学んだスペイン語を活かし、読解力・聴解力・語彙力を伸ばすための練習に加え、通訳訓練を駆使した発話力の強化を行います。必要に応じて文法事項も学習し、過去問も使いながらプレゼン・作文も織り交ぜていきます。	
		スペイン語スタンダード3	テキストの内容に沿って進行し、1~2回の授業で1課の内容を終える予定。2日目の授業ではその課で習った表現を使って会話練習も行う予定。秋学期ではテキストの18課「現在完了形」から24課「Si条件文」まで学習する予定。ただし、履修者全体のレベル次第で、内容を一部変更することがある。例えば、予定より進行が早まった場合、スペイン文部省認定スペイン語検定「DELE」対策を実施することもできる。	
		スペイン語スタンダード4	直説法全般および、接続法や命令形といった中級レベルの学習事項の復習・補強をしつつ、接続法過去など、もう少し複雑な表現に必要となる文法事項などを学んでいく。授業では、配付資料・教材を用いて上記の項目を学びながら、より高度な口頭表現や質疑応答などの練習を行っていく。	
		スペイン語スタンダード4	スペイン語学習歴が最低1年あることを前提とした会話演習クラスである(すでに中級レベル以上の話者は履修不可)。これまでに習った語彙や表現、時制(点過去・線過去まで)を用い、日常会話の練習をする。その際、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢も評価対象となる。基本的にテキストの内容に沿って進行し、適宜補助教材を配布する。会話レッスンを通した基本文法の復習は最小限にとどめるため、授業前に次課の文法内容をしっかり見直すこと。「スペイン語基礎」(必修科目)より上のレベルの文法事項を学習したい学生は「スペイン語スタンダード3」等の別クラスを履修することを勧める。ただし、履修者全体のレベル次第で、内容を一部変更することがある。	
		スペイン語スタンダード4	前期に続き、メキシコ人のスペイン語を聞き、リピートすることでスペイン語を学び直す。 初年度に学んだスペイン語の文法を復習しながら、メキシコ人のスペイン語を聞き、リピートすることでスペイン語を学び直す。教科書のスペイン語での質問の回答を一人一人が発表し、確認した後、それを元にグループで会話練習をする。 また、インターネット動画やDVDを見て、実際に使われているスペイン語を学ぶ。	
コア科目群 (上級レベル)	全学 自由科目 共通科目 言語系科目 (スペイン語)	上級スペイン語 コミュニケーション1	(西文) Se usarán varios tipos de ejercicios orales y escritos para practicar la comunicación en diversas situaciones. (和訳) 様々な状況下でのコミュニケーションを練習するために、多くの種類の口頭及び文章による演習が使用されます。	
		上級スペイン語 コミュニケーション1	(西文) En este curso abordaremos distintos temas de actualidad, que serán debatidos en clase a fin de motivar el pensamiento crítico de los estudiantes. A través de las distintas actividades comunicativas se espera que los estudiantes mejoren sus habilidades orales y sean capaces de expresar sus opiniones de manera efectiva. (和訳) この授業では、学生の批判的思考を刺激するために、さまざまな時事問題を取り上げ、クラスで議論します。さまざまなコミュニケーション活動を通じて、生徒はオーラルスキルを向上させ、自分の意見を効果的に表現できるようになることが期待されています。	
		上級スペイン語 コミュニケーション2	これまで学習してきたスペイン語の知識を演習によって定着させます。様々な資料(新聞記事、漫画、ビデオなど)様々な話題から、スペイン語圏の社会・文化的側面を紹介していきます。資料の読み方を理解し、内容に関する意見を表現することを学びます。	

全学共通科目 自由科目 外国語系科目 コア科目群(上級レベル)	上級スペイン語 コミュニケーション2	(西文) En este curso abordaremos distintos temas de actualidad, que serán debatidos en clase a fin de motivar el pensamiento crítico de los estudiantes. A través de las distintas actividades comunicativas se espera que los estudiantes mejoren sus habilidades orales y sean capaces de expresar sus opiniones de manera efectiva. In this course we will address different current issues, which will be discussed in class in order to motivate students' critical thinking. Through the different communicative activities, students are expected to improve their oral skills and be able to express their opinions effectively. (和訳) この授業は、生徒の批判的な思考を刺激するために、クラスで議論される様々な現代的なテーマを取り上げる。また、様々なコミュニケーション活動を通して、生徒が会話能力を高め、自分の意見を効果的に表現できるようになることを期待しています。この授業では、生徒の批判的思考を刺激するために、様々な時事問題を取り上げ、クラスで議論します。様々なコミュニケーション活動を通して、口頭能力を向上させ、自分の意見を効果的に表現できるようになることが期待されています。	
	上級スペイン語 ライティング1	各テーマは4回に分けられます。すなわち1回目と3回目は作文練習の前提として、それぞれのテーマに応じたスペイン語の文章を読み、2回目と4回目は日本の文章のスペイン語訳またはスペイン語での作文を行います。	
	上級スペイン語 ライティング1	スペイン語圏と日本の文化的テーマを扱ったテキストを用いて、既習文法事項の確認をしながら精読を行い、最後にテキストの要旨および自分の考えも加えた作文をし、表現力を鍛えていく。学期後半には、これまで扱ったテーマに関連するテキストを各自で探し、同様に精読、要旨・意見の作文をした上で口頭発表する。「書く」能力のみを鍛えるのではなく、「読む」、「話す」、「聞く」能力も合わせた4技能を同時に活用することにより、スペイン語運用能力のさらなる向上を目指す。	
	上級スペイン語 ライティング2	各テーマは4回に分けられます。すなわち1回目と3回目は作文練習の前提として、それぞれのテーマに応じたスペイン語の文章を読み、2回目と4回目は日本の文章のスペイン語訳またはスペイン語での作文を行います。	
	上級スペイン語 ライティング2	春学期同様、スペイン語圏と日本の文化的テーマのテキストを用いて、既習文法事項の確認をしながら精読を行い、最後にテキストの要旨および自分の考えも加えた作文をし、表現力を鍛えていく。秋学期は、各自が興味のあるテーマを決めて、それに関連するテキストを探し、テキストの精読、要旨・意見の作文をした上で口頭発表する(読解テーマ1は、高橋が担当)。学期後半には、それまでに扱ったテーマを作文を振り返りながら、誤用の分析などを行い、弱点の克服を目指す。「書く」能力のみを鍛えるのではなく、「読む」、「話す」、「聞く」能力も合わせた4技能を同時に活用することにより、スペイン語運用能力のさらなる向上を目指す。	
	上級スペイン語 リスニング・リーディング1	各国・地域の代表的なアーティストのヒット曲を聴き、初級および中級で習得した文法知識と今回新しく学ぶ応用文法の知識をもとに歌詞を分析する。各課題曲の1日目に曲およびアーティスト紹介、重要文法事項の解説を行う。そして2日目には、各自が翻訳した各フレーズの訳を発表した後、講師が適宜文法や翻訳テクニックについて解説する。	
	上級スペイン語 リスニング・リーディング1	(西文) En cada clase haremos ejercicios de comprensión auditiva y leeremos textos sobre distintas noticias del mundo hispanohablante a fin de aumentar la comprensión auditiva y lectora. Se realizarán también actividades comunicativas en parejas y en grupos. In each class we will do listening comprehension exercises and we will read texts about different news from the Spanish-speaking world to increase listening and reading comprehension skills. Communicative activities will also be carried out in pairs and in groups. (和訳) 授業では、聴解力と読解力を高めるために、聴解の練習をしたり、スペイン語圏の様々なニュースに関するテキストを読んだりします。また、ペアやグループでのコミュニケーション・アクティビティも実施します。各授業で聴解の練習をし、スペイン語圏の様々なニュースに関するテキストを読んで、聴解力と読解力を高めます。また、ペアやグループでのコミュニケーション活動も行います。	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">         全学共通科目          自由科目          コア科目群（上級レベル）          言語系科目          （スペイン語）       </p>	上級スペイン語 リスニング・リーディング 2	各国・地域の代表的なアーティストのヒット曲を聴き、初級および中級で習得した文法知識と今回新しく学ぶ応用文法の知識をもとに歌詞を分析する。各課題曲の1日目に曲およびアーティスト紹介、重要文法事項の解説を行う。そして2日目には、各自が翻訳した各フレーズの訳を発表した後、講師が適宜文法や翻訳テクニックについて解説する。	
	上級スペイン語 リスニング・リーディング 2	(西文) En cada clase haremos ejercicios de comprensión auditiva y leeremos textos sobre distintas noticias del mundo hispanohablante a fin de aumentar la comprensión auditiva y lectora. Se realizarán también actividades comunicativas en parejas y en grupos. In each class we will do listening comprehension exercises and we will read texts about different news from the Spanish-speaking world to increase listening and reading comprehension skills. Communicative activities will also be carried out in pairs and in groups. (和訳) 各授業では、聴解力と読解力を高めるために、聴解の練習をしたり、スペイン語圏の様々なニュースに関するテキストを読んだりします。また、ペアやグループでのコミュニケーション・アクティビティも実施します。 各授業で聴解の練習をし、スペイン語圏の様々なニュースに関するテキストを読んで、聴解力と読解力を高めます。また、ペアやグループでのコミュニケーション活動も行います。	
	上級スペイン語演習 1	(西文) En esta clase se presentarán las culturas de diferentes países latinoamericanos a través de artículos y material audiovisual. A través de la realización de diferentes actividades comunicativas, los estudiantes podrán no solo aumentar sus habilidades lingüísticas sino también mejorar su conocimiento sobre la región de Latinoamérica. In this class, cultures of different Latin American countries will be introduced with articles and audiovisual material. Through the conduction of different communicative activities, students will be able not only to increase their Spanish skills but will also improve their awareness about the Latin American region. (和訳) この授業では、ラテンアメリカのさまざまな国の文化を、記事や視聴覚資料を通して紹介します。さまざまなコミュニケーション活動を通じて、語学力を高めるだけでなく、ラテンアメリカ地域についての知識も向上させることができます。 この授業では、ラテンアメリカ各国の文化を記事や視聴覚資料で紹介し、さまざまなコミュニケーション活動を通じて、スペイン語のスキルを向上させるだけでなく、ラテンアメリカ地域についての認識を高めることができます。	
	上級スペイン語演習 1	これまで学習してきたスペイン語の知識を演習によって定着させます。様々な資料（新聞記事、漫画、ビデオなど）様々な話題から、スペイン語圏の社会・文化的側面を紹介していきます。資料の読み方を理解し、内容に関する意見を表現することを学びます。	
	上級スペイン語演習 2	(西文) En esta clase se presentarán las culturas de diferentes países latinoamericanos a través de artículos y material audiovisual. A través de la realización de diferentes actividades comunicativas, los estudiantes podrán no solo aumentar sus habilidades lingüísticas sino también mejorar su conocimiento sobre la región de Latinoamérica. In this class, cultures of different Latin American countries will be introduced with articles and audiovisual material. Through the conduction of different communicative activities, students will be able not only to increase their Spanish skills but will also improve their awareness about the Latin American region. (和訳) この授業では、ラテンアメリカのさまざまな国の文化を、記事や視聴覚資料を通して紹介します。さまざまなコミュニケーション活動を通じて、語学力を高めるだけでなく、ラテンアメリカ地域についての知識も向上させることができます。 この授業では、ラテンアメリカ各国の文化を記事や視聴覚資料で紹介し、さまざまなコミュニケーション活動を通じて、スペイン語のスキルを向上させるだけでなく、ラテンアメリカ地域についての認識を高めることができます。	
	上級スペイン語演習 2	これまで学習してきたスペイン語の知識を演習によって定着させます。様々な資料（新聞記事、漫画、ビデオなど）様々な話題から、スペイン語圏の社会・文化的側面を紹介していきます。資料の読み方を理解し、内容に関する意見を表現することを学びます。	

言語系科目 情報処理科目 自由科目 論(中級) スペイン語	言語情報処理論 (スペイン語)	ネット上の情報処理関連の記事をスペイン語で講読し、ネット社会の抱える問題点を知る。同時に、スペイン語の情報処理関連の語彙を学ぶ。 さらに、グーグル等の翻訳サービスについて、例文の翻訳テストを行いその性能を評価して、結果をプレゼンテーションし、レポートにて提出する。 また、エクセル単語帳、WEB単語テストの作成等によりプログラミングの初歩を学ぶ。	
	言語情報処理論 (スペイン語)	まずは、スペイン語でのタイピングやメールの形式など、スペイン語話者とのコミュニケーションを取るための方法を学ぶ。その後、スペイン語で書かれた記事の講読を通して基本的な情報処理用語やインターネット利用上の諸注意事項を確認したうえで、実際にネットを利用して様々なスペイン語に触れる。	
自由科目 スペイン語入門 言語系科目	基礎スペイン語入門	文法説明ののち練習問題、重要表現の反復練習、簡単な作文、自己表現練習などを行う。適宜小テストなどはさむ。	
	基礎スペイン語初級	文法説明ののち、重要表現の反復練習。既習事項全般を組み合わせ、慣用語や語彙の習得に努める。適宜小テストなどはさむ。	
自由科目 海外言語文化研修 言語系科目	スペイン語海外言語文化研修 (中級)	秋学期中、計4回の事前研修(いずれも土曜日午後)で、必要な準備を整える。 春休み中の約3週間、アルカラ＝デ＝エナレス大学付属語学学校のスペイン語セミナーでスペイン語を学ぶほか、課外活動や現地生活を通してスペイン語の運用を実践し、スペイン語圏の文化・社会に関する知見を広める。現地校セミナーは、2023年3月4日または5日(成田発)～3月27日(成田着)の予定。 現地での滞在方法はホームステイ。現地校側は課外活動への参加を任意としているが、なるべく積極的に参加することが望ましい。 費用は授業料、旅費、ホームステイ費用等合わせて47万円前後の見込みだが、課外活動すべてに参加した場合はさらに3～4万円程度必要になる。 現地校ではいくつかの授業が毎日並行して行われる。	
	スペイン語海外言語文化研修 (上級)	秋学期中、計4回の事前研修(いずれも土曜日午後)で、必要な準備を整える。 春休み中の約3週間、アルカラ＝デ＝エナレス大学付属語学学校のスペイン語セミナーでスペイン語を学ぶほか、課外活動や現地生活を通してスペイン語の運用を実践し、スペイン語圏の文化・社会に関する知見を広める。現地校セミナーは、2023年3月4日または5日(成田発)～3月27日(成田着)の予定。 現地での滞在方法はホームステイ。現地校側は課外活動への参加を任意としているが、なるべく積極的に参加することが望ましい。 費用は授業料、旅費、ホームステイ費用等合わせて47万円前後の見込みだが、課外活動すべてに参加した場合はさらに3～4万円程度必要になる。 現地校ではいくつかの授業が毎日並行して行われる。	

基礎科目群 (中級レベル)	全学共通科目 自由科目 (中国語系科目)	中国語中級 1	授業ではポイントの解説や本文翻訳・練習問題と並行して、常に学習した語彙や文法事項を「口頭表現」に還元することを意識したパターン・プラクティスを繰り返す。 また、自然な発話をするための「発想力」を鍛錬すべく、視覚教材を用いたトレーニングも取り入れる。	
		中国語中級 1	テキストを使用し、2回の授業で一課を学ぶ。会話・短文ではテキストの内容を応用し、表現の幅を広げる。ペアワーク・グループワークを通じて会話練習を行う。毎回の授業で受講生によるテキストの音読を行い、正しい発音を繰り返し練習し身につける。また、中国の文化を理解するために視覚教材も取り入れる。	
		中国語中級 1	(中文) 本课程内容以汉语日常用语为主。在这门课上, 学生们将摆脱对中介语的依赖, 他们将学习那些与计划安排、饮食约会等日常生活密切相关的句型、短语和词汇。 (和訳) 中国語の日常的なフレーズを中心とした内容となっています。この授業では、中間言語だけでなく、計画や整理、食事やデートなどの日常生活に密着した文型やフレーズ、ボキャブラリーを学びます。	
		中国語中級 1	初中級レベルのテキストを用い、語彙、文法、聞き取りの基礎力を養うとともに、身近なテーマについての問答を通じ、実践的な会話力を身につけていく。実際の検定問題を解くことで、リスニング力、語彙力、読解力の強化をはかる。毎週小テストを行う。	
		中国語中級 1	中級レベルの、会話中心の教科書を使用して授業を進める。各課では、中国人の友人との会話で使うフレーズ、文化背景を学ぶことができる。さらに各種の反復練習を重ねることで会話力の向上を目指す。	
		中国語中級 2	授業ではポイントの解説や本文翻訳・練習問題と並行して、常に学習した語彙や文法事項を「口頭表現」に還元することを意識したパターン・プラクティスを繰り返す。 また、自然な発話をするための「発想力」を鍛錬すべく、視覚教材を用いたトレーニングも取り入れる。	
		中国語中級 2	テキストを使用し、2回の授業で一課を学ぶ。会話・短文ではテキストの内容を応用し、表現の幅を広げる。ペアワーク・グループワークを通じて会話練習を行う。毎回の授業で受講生によるテキストの音読を行い、正しい発音を繰り返し練習し身につける。また、中国の文化を理解するために視覚教材も取り入れる。	
		中国語中級 2	(中文) 本课程内容以汉语日常用语为主。在这门课上, 学生们将摆脱对中介语的依赖, 他们将学习那些与计划安排、饮食约会等日常生活密切相关的句型、短语和词汇。 (和訳) 中国語の日常的なフレーズを中心とした内容となっています。このコースでは、中間言語だけでなく、計画や整理、食事やデートなどの日常生活に密着した文型やフレーズ、ボキャブラリーを学びます。	
		中国語中級 2	中級レベルの教材を用い、語彙、文法、聞き取りの基礎力を養うとともに、身近なテーマについての問答を通じ、実践的な会話力を身につけていく。簡単な文が口をついて出てくるようクイックレスポンスの練習も行う。さらに実際の検定問題を解くことで、リスニング力、語彙力、読解力の強化をはかる。毎週小テストを行う。	
		中国語中級 2	中級レベルの、会話中心の教科書を使用して授業を進める。各課では、文法表現だけでなく、日本と異なる中国の文化背景を学ぶことができる。さらに音読やリスニングの反復練習によって学習内容の定着を図る。	
中国語スタンダード 1	1回の授業で1課を学ぶ。まずは文法と文型を学習してから会話文を朗読し、暗記する。 会話文は新出単語も少なく短いので、覚えやすく実際に役立つ。 簡単な通訳練習や実践練習を通して会話能力を高める。			
中国語スタンダード 1	中国語でコミュニケーション力が身につく内容を学習し、実践的に応用できるように講義する			

全学共通科目 自由科目 中国語系科目 基礎科目群 (中級レベル)	中国語スタンダード1	テキストに沿って、本文の読解、発音と文法事項を確認していきます。テキストの音読にも力を入れたいと思います。授業では問答・対話を重視します。問いに如何にこたえるか。これは学問の世界のみならず、社会に出てからも必要とされます。	
	中国語スタンダード1	発音に重点を置き、基礎的文法を使った会話練習を行う。毎回の授業で受講生によるテキストの音読を行い、正しい発音を繰り返し練習し身につける。ペアワーク・グループワークを通じて自分の意見を表現する力を養う。	
	中国語スタンダード2	会話文を聞き、文字を見ないで音読することにより、検定試験でネックになりがちリスニング力を高める。教科書の問題を解き、必要な慣用句や成語なども学習する。	
	中国語スタンダード2	中国語の技能を総合的に伸ばし、HSK3級合格に必要な基礎力をつける。実際に問題を解き、検定試験に対応できる力を養う。毎回の授業で受講生によるテキストの音読を行い、正しい発音を繰り返し練習し身につける。会話中心のペアワーク・グループワークを行う。一課ごとに小テストを実施する。	
	中国語スタンダード2	この授業は、テキストに沿って、講義と練習を組み合わせを進めていく。一課ごとに、①語彙、文法事項の解説、②本文の音読、読解、③練習問題の順に行う。	
	中国語スタンダード2	中国語の技能を総合的に伸ばし、HSK3級合格に必要な基礎力をつける。実際に問題を解き、検定試験に対応できる力を養う。毎回の授業で受講生によるテキストの音読を行い、正しい発音を繰り返し練習し身につける。会話中心のペアワーク・グループワークを行う。	
	中国語スタンダード3	1回の授業で1課を学ぶ。まずは文法と句型を学習してから会話文を朗読し、暗記する。簡単なスピーチ練習を通じて自分の考えを表現する力を養う。	
	中国語スタンダード3	中国語でコミュニケーション力が身につく内容を学習し、実践的に応用できるように講義する。	
	中国語スタンダード3	テキストに沿って、本文の読解、発音と文法事項を確認していきます。テキストの音読にも力を入れたいと思います。授業では問答・対話を重視します。問いに如何にこたえるか。これは学問の世界のみならず、社会に出てからも必要とされます。	
	中国語スタンダード3	発音に重点を置き、基礎的文法を使った会話練習を行う。毎回の授業で受講生によるテキストの音読を行い、正しい発音を繰り返し練習し身につける。ペアワーク・グループワークを通じて自分の意見を表現する力を養う。	
	中国語スタンダード4	教科書とともに、HSKの過去問をやって、実践的な訓練を行う。	
	中国語スタンダード4	中国語の技能を総合的に伸ばし、HSK3級から4級合格に必要な基礎力をつける。実際に問題を解き、検定試験に対応できる力を養う。毎回の授業で受講生によるテキストの音読を行い、正しい発音を繰り返し練習し身につける。会話中心のペアワーク・グループワークを行う。一課ごとに小テストを実施する。	
	中国語スタンダード4	この授業は、テキストに沿って、講義と練習を組み合わせを進めていく。一課ごとに、①語彙、文法事項の解説、②本文の音読、読解、③練習問題の順に行う。	
中国語スタンダード4	中国語の技能を総合的に伸ばし、HSK4級合格に必要な基礎力をつける。実際に問題を解き、検定試験に対応できる力を養う。毎回の授業で受講生によるテキストの音読を行い、正しい発音を繰り返し練習し身につける。会話中心のペアワーク・グループワークを行う。		



全学共通科目 自由科目 言語系科目 コア科目群（上級レベル）	上級中国語 コミュニケーション1	(中文) 本课程全部用汉语授课。话题主要是跟社会、生活以及文化等密切相关的内容。课文内容尽量贴近学生的生活。每次上课,会根据话题学习相关的词语和课文,进行句子和语段的操练,在此基础上开展各种情景交际表达练习,从而提高学生的汉语口语水平,培养学生的交际能力。上课的基本环节包括:(1)语言准备;(2)机械性训练;(3)半自由训练;(4)交际性训练。在教学中,以精讲多练为原则,在大量的练习中培养学习者的汉语交际能力。 (和訳) この授業はすべて中国語で行われます。トピックは主に社会、生活、文化に関するものです。テキストの内容は、学生の生活にできるだけ近いものになっています。各レッスンでは、トピックに基づいて関連する単語や文章を学び、文やフレーズを練習し、それに基づいて様々なコミュニケーション表現を行うことで、学生の中国語の口語力を向上させ、コミュニケーション能力を養います。レッスンの基本的な内容は、 (1)言語の準備、(2)メカニカルなトレーニング、(3)セミフリーのトレーニング、(4)コミュニカティブなトレーニングです。指導においては、集中的な指導と練習の原則を用いて、学習者の中国語でのコミュニケーション能力を多くの練習で伸ばします。	
	上級中国語 コミュニケーション2	(中文) 本课程全部用汉语授课。话题主要是跟社会、生活以及文化等密切相关的内容。课文内容尽量贴近学生的生活。每次上课,会根据话题学习相关的词语和课文,进行句子和语段的操练,在此基础上开展各种情景交际表达练习,从而提高学生的汉语口语水平,培养学生的交际能力。上课的基本环节包括:(1)语言准备;(2)机械性训练;(3)半自由训练;(4)交际性训练。在教学中,以精讲多练为原则,在大量的练习中培养学习者的汉语交际能力。 (和訳) この授業はすべて中国語で行われます。トピックは主に社会、生活、文化に関するものです。テキストの内容は、学生の生活にできるだけ近いものになっています。各レッスンでは、トピックに基づいて関連する単語や文章を学び、文やフレーズを練習し、それに基づいて様々なコミュニケーション表現を行うことで、学生の中国語の口語力を向上させ、コミュニケーション能力を養います。レッスンの基本的な内容は、 (1)言語の準備、(2)メカニカルなトレーニング、(3)セミフリーのトレーニング、(4)コミュニカティブなトレーニングです。指導においては、集中的な指導と練習の原則を用いて、学習者の中国語でのコミュニケーション能力を多くの練習で伸ばします。	
	上級中国語ライティング1	(中文) 包括语言训练与写作训练两部分,通过课堂讲解和写作实践帮助学生熟悉并掌握记叙文、说明文以及其他应用文体的写作技巧,让学生们知道应该写什么以及怎么写。每次课堂教学会要求学生写一篇作文,教学过程为:(1)学习语言和文体知识;(2)语言训练;(3)写作内容的思考和讨论;(4)写作练习;(5)作文修改。 (和訳) 言語トレーニングとライティングトレーニングの2つの部分で構成されています。教室での講義とライティングの練習を通して、物語や説明文などの応用ジャンルを書くことに慣れ、何をどのように書けばいいのかがわかるようになることを目指します。各授業では、学生に作文を書いてももらいますが、その指導プロセスは、(1)言語とスタイルの学習、(2)言語トレーニング、(3)文章の内容を考え、議論すること、(4)文章の練習、(5)作文の修正、となっています。	
	上級中国語ライティング2	(中文) 包括语言训练与写作训练两部分,通过课堂讲解和写作实践帮助学生熟悉并掌握记叙文、说明文以及其他应用文体的写作技巧,让学生们知道应该写什么以及怎么写。每次课堂教学会要求学生写一篇作文,教学过程为:(1)学习语言和文体知识;(2)语言训练;(3)写作内容的思考和讨论;(4)写作练习;(5)作文修改。 (和訳) 言語トレーニングとライティングトレーニングの2つの部分で構成されています。教室での講義とライティングの練習を通して、物語や説明文などの応用ジャンルを書くことに慣れ、何をどのように書けばいいのかがわかるようになることを目指します。各授業では、学生に作文を書いてももらいますが、その指導プロセスは、(1)言語やスタイルについての学習、(2)言語トレーニング、(3)文章の内容を考えたり議論したりすること、(4)文章の練習、(5)作文の修正です。	
	上級中国語 リスニング・リーディング 1	(中文) 本课程通过阅读中国短篇小说《冰箱里的企鹅》,结合教材的单词语法说明,学习自然的汉语表达和发音。另外,为了听力练习,也会使用相关视频。 (和訳) 中国の短編小説「冷蔵庫の中のペンギン」を読み、教科書の語法解説と合わせて、自然な中国語表現と発音を身につける授業です。また、リスニングの練習には、関連するビデオを使用する予定です。	

全学共通科目 自由科目 コア科目群(上級レベル)	上級中国語 リスニング・リーディング 1	(中文)本課程將使用專業的聽力材料，學生們在聽和讀之後，配合充分的練習，進而鞏固和加深對聽讀材料的理解，從而提高漢語技能。 (和訳)この授業では、専門的なリスニング教材を使用し、受講生は十分な練習をした上でリスニングとリーディングを行い、リスニングとリーディング教材の理解を定着させ、深めることで、中国語能力を向上させます。	
	上級中国語 リスニング・リーディング 2	(中文)本課程參考中國CCTV綜藝節目《朗讀者》，選取適合的學習材料，通過聽力和閱讀練習，學習自然的漢語表達和發音，並借此了解一些中國現代的文學作品。 (和訳)この授業では、中國CCTVのパラエティ番組「The Reader」を参考に、適切な教材を選び、リスニングとリーディングの練習を通して、自然な中国語表現と発音を学ぶとともに、いくつかの中国現代文学についても学びます。	
	上級中国語 リスニング・リーディング 2	(中文)本課程將使用專業的聽力材料，學生們在聽和讀之後，配合充分的練習，進而鞏固和加深對聽讀材料的理解，從而提高漢語技能。 (和訳)この授業では、専門的なリスニング教材を使用し、受講生は十分な練習をした上でリスニングとリーディングを行い、リスニングとリーディング教材の理解を定着させ、深めることで、中国語能力を向上させます。	
	上級中国語演習 1	(中文)本課程中，教師會給出指定主題，學生用漢語發表所調查的內容，並針對主題用漢語進行討論。最後教師總結主題相關的漢語表達。 (和訳)この授業では、教員が提示する課題を、学生が調べたことを中国語で発表し、中国語でディスカッションを行います。最後に教員が、トピックに関連する中国語の表現をまとめます。	
	上級中国語演習 1	(中文)本課程將使用綜合性的漢語學習材料，學生們在學習過程中，將進行聽說讀寫全方位的練習，從而全面提高他們的漢語水平。 (和訳)この授業では、包括的な中国語学習教材を使用し、聞く、話す、読む、書くのすべての側面を練習することで、総合的な中国語能力を向上させます。	
	上級中国語演習 2	(中文)本課程中，教師會給出指定主題，學生用漢語發表所調查的內容，並針對主題用漢語進行討論。最後教師總結主題相關的漢語表達。 (和訳)この授業では、教員が提示する課題を、学生が調べたことを中国語で発表し、中国語でディスカッションを行います。最後に教員が、トピックに関連する中国語の表現をまとめます。	
	上級中国語演習 2	(中文)本課程將使用綜合性的漢語學習材料，學生們在學習過程中，將進行聽說讀寫全方位的練習，從而全面提高他們的漢語水平。 (和訳)この授業では、包括的な中国語学習教材を使用し、聞く、話す、読む、書くのすべての側面を練習することで、総合的な中国語能力を向上させます。	
全学共通科目 自由科目 言語情報処理論(中国語)	言語情報処理論 (中国語)	本授業では、まず中国語情報処理のツールを使いこなします。次に中国語の入力法や簡単な作文技術を勉強します。後半では中国圏の各分野の情報を実際に調べて報告します。	
	言語情報処理論 (中国語)	この授業では、SNSとはそもそも何なのかということをはじめに学びます。その後、みなさんにとって身近なスマートフォンやPCを用いて、中国語の入力や環境設定、SNSや情報検索について理解を深めましょう。日本語では得にくい情報が、中国語では簡単に手に入ることもあります。情報の海は玉石混交、目的の情報をいかに引き出していくか、みなさんで考えながら進んでいきましょう。	
全学共通科目 自由科目 中国語入門(中国語)	基礎中国語入門	週2回一括履修。全クラスで統一教科書、統一シラバスによって授業を進める。学期中を通して、中国語学習のすべての基礎となる発音の習得を重視する。さらにペアワークを通じての会話練習やリスニング練習などにより基本的なスキルを習得する。	
	基礎中国語初級	週2回一括履修。全クラスで統一教科書、統一シラバスによって授業を進める。文法理解のほか、コミュニカティブな方法による応答練習やペアワークを通じた会話練習やリスニング練習を行い、スキルの向上をはかる。	

全学共通科目 自由科目(中国語) 海外言語文化研修	中国語海外言語文化研修春 (中級)	現地での研修は、台北市の国立台湾師範大学国語教学中心(MTC)で約3週間にわたって行われる。現地到着後にレベルチェックテストを受け自分に適した少人数クラスで、様々な国の学生とともに学習する。 授業はネイティブ教員が、短期学習班の外国人向け中国語教材を用い、すべて中国語によって行う。たえず質問に答え、自分からも質問するという、能動的に取り組む姿勢を求める授業になる。	
	中国語海外言語文化研修春 (上級)	現地での研修は、台北市の国立台湾師範大学国語教学中心(MTC)で約3週間にわたって行われる。現地到着後にレベルチェックテストを受け自分に適した少人数クラスで、様々な国の学生とともに学習する。 授業はネイティブ教員が、短期学習班の外国人向け中国語教材を用い、すべて中国語によって行う。たえず質問に答え、自分からも質問するという、能動的に取り組む姿勢を求める授業になる。	
基礎科目群 全学共通科目 自由科目(朝鮮語) (中級レベル)	朝鮮語中級1	基礎で学んだ基礎文法をふまえ、語彙を増やしつつ、それを会話に生かして使えるよう週2回の授業を通じてトレーニングを行う。復習を繰り返しつつ次第に進んでいくように組み立てられている。特に生活上の単語を増やし日常会話に自信をつける。ハングル能力検定試験の4級から3級にかけての受験も意識しつつ授業を進める。一部の授業を朝鮮語で行う。	共同
	朝鮮語中級2	語彙を増やしつつ、それを会話に生かして使えるよう週2回の授業を通じてトレーニングを行う。発表などを通じ、特に生活上の単語を増やし会話的表現に習熟して日常会話に自信をつける。ハングル能力検定試験の4級から3級にかけての受験も意識しつつ授業を進める。一部の授業を朝鮮語で行う。	共同
	朝鮮語スタンダード1	日常生活で使用する表現を習得する。 読解、作文、会話、聴解の継続的な練習を通して、全技能をバランスよく向上させる。	
	朝鮮語スタンダード1	日常生活でよく使用する表現を習得する。 読解、作文、会話、聴解の継続的な練習を通して、全技能をバランスよく向上させる。 必要に応じて、検定対策も行う。	
	朝鮮語スタンダード1	数詞、未来の出来事や意志の表現、勧誘形や変則用言、命令形などを学びます。 1年次の基礎1・基礎2を終えたレベルを想定しており、ハングル検定で4級から3級をめざす程度の学習内容で進めます。毎回教科書の音読の後、会話の練習を行います。	
	朝鮮語スタンダード2	授業は朝鮮語基礎1・基礎2で学習した内容を随時確認しながら進めます。またハングル検定試験対策も視野に、基本的文法事項を押さえながら語彙力増強とリスニング能力の向上をはかり、朝鮮語の実用的なコミュニケーション能力の習得を目指します。	
	朝鮮語スタンダード2	授業は朝鮮語基礎1・基礎2で学習した内容を随時確認しながら進めます。またハングル検定試験対策も視野に、基本的文法事項を押さえながら語彙力増強とリスニング能力の向上をはかり、朝鮮語の実用的なコミュニケーション能力の習得を目指します。	
	朝鮮語スタンダード3	日常生活で使用する表現を習得する。 読解、作文、会話、聴解の継続的な練習を通して、全技能をバランスよく向上させる。	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">           全学共通科目            自由科目            基礎科目群            (中級レベル)         </p>	朝鮮語スタンダード3	日常生活でよく使用する表現を習得する。 読解、作文、会話、聴解の継続的な練習を通して、全技能をバランスよく向上させる。 必要に応じて、検定対策も行う。	
	朝鮮語スタンダード3	数詞、未来の出来事や意志の表現、勧誘形や変則用言、命令形などを学びます。 1年次の基礎1・基礎2を終えたレベルを想定しており、ハングル検定で4級から3級をめざす程度の学習内容で進めます。毎回教科書の音読の後、会話の練習を行います。	
	朝鮮語スタンダード4	授業は朝鮮語基礎1・基礎2で学習した内容を随時確認しながら進めます。またハングル検定試験対策も視野に、基本的文法事項を押さえながら語彙力増強とリスニング能力の向上をはかり、朝鮮語の実用的なコミュニケーション能力の習得を目指します。	
	朝鮮語スタンダード4	日常生活で使用する表現を習得する。 読解、作文、会話、聴解の継続的な練習を通して全技能をバランスよく向上させることで、主体的にコミュニケーションできる力を身につける。	
	朝鮮語スタンダード4	授業は朝鮮語基礎1・基礎2で学習した内容を随時確認しながら進めます。またハングル検定試験対策も視野に、基本的文法事項を押さえながら語彙力増強とリスニング能力の向上をはかり、朝鮮語の実用的なコミュニケーション能力の習得を目指します。	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">           全学共通科目            自由科目            コア科目群            (上級レベル)         </p>	上級朝鮮語 コミュニケーション1	(朝文) 회화연습-[말하기]를 중심으로 한 수업입니다. 각 테마와 관련된 다양한 자료(영상, 인터넷, 신문 등)를 보고 수강생들은 그에 대한 자신의 생각과 의견을 발표하거나 토론을 하는 형식으로 서로의 의견을 교환하는 방식으로 진행합니다. 그리고 실생활에서 쓸 수 있는 다양한 표현도 공부합니다. (和訳) 会話練習-[話す]を中心とした授業です。各テーマに関連する様々な資料(映像、インターネット、新聞など)を見て、受講生たちはそれに対する自分の考えや意見を発表したり、話し合う形式でお互いの意見を交換する方法で進行します。そして実生活で使える様々な表現も勉強します。	
	上級朝鮮語 コミュニケーション1	(朝文) 상급의 문법과 표현을 공부하고, 기사, 뉴스, 드라마 등 여러 자료를 읽고 본 후 그것에 대해 말하고 써서 자신의 생각을 표현합니다. 기본적으로 조선어로 수업이 진행돼, 한글 능력 검정 시험 3급 정도의 지식이 필요합니다. (和訳) 上級の文法や表現を勉強して、記事、ニュース、ドラマなど様々な資料を読んだり、見た後、それらについて話したり、書いたりして、自分の考えを表現します。 基本的には朝鮮語で授業が行われるので、ハングル語能力検定試験3級程度の能力が必要です。	
	上級朝鮮語 コミュニケーション2	(朝文) 말하기와 쓰기를 연계한 수업입니다. 기본적으로 한국 사회나 문화 등과 관련된 다양한 자료(영상, 인터넷, 신문 등)를 보고 그에 대해 수강생이 서로의 생각과 의견을 교환하며 커뮤니케이션 능력을 키웁니다. 그리고 프레젠테이션 등 실제로 쓰기와 말하기를 통합적으로 연습을 합니다. (和訳) スピーキングとライティングを連携した授業です。基本的に韓国社会や文化などに関連する多様な資料(映像、インターネット、新聞など)を見て、それに対して受講生がお互いの考えや意見を交換し、コミュニケーション能力を育てます。そしてプレゼンテーションなど実際に書くことと話すことを統合的に練習します。	

全学共通科目 自由科目 コア科目群(上級レベル) (朝鮮語系科目)	上級朝鮮語 コミュニケーション 2	(朝文) 상급의 문법과 표현을 공부하고, 기사, 뉴스, 드라마 등 여러 자료를 읽고 본 후 그것에 대해 말하고 써서 자신의 생각을 표현합니다. 기본적으로 조선어로 수업이 진행돼, 한글 능력 검정 시험 3급 정도의 지식이 필요합니다. (和訳) 上級の文法や表現を勉強して、記事、ニュース、ドラマなど様々な資料を読んだり、見た後、それらについて話したり、書いたりして、自分の考えを表現します。 基本的には朝鮮語で授業が行われるので、ハングル語能力検定試験3級程度の能力が必要です。	
	上級朝鮮語ライティング 1	朝鮮語のライティングに必要な文法・語彙・表現について学習し、自分の考えや事実を朝鮮語の文章で伝える練習を通して、朝鮮語の実用的なコミュニケーション能力の向上を目指します。ハングル検定3級程度の学習歴を目安に授業を進めます。授業の具体的な進め方やテーマの選定、レベルの設定等については、受講生の希望に柔軟に対応したいと考えています。授業への積極的な参加と提案を期待します。	
	上級朝鮮語ライティング 1	基礎的なライティングを学ぶための文例集を参考に様々な実用文について学習しつつ、文例集などを使用して参加者自らが訳の比較を行います。 少ない語彙で表現できるレベルから、語彙そのものを高めるレベルまで、いろいろな学生を包容し、書き方の練習を行います。ハングル能力検定3級程度の知識が必要です。	
	上級朝鮮語ライティング 2	朝鮮語のライティングに必要な文法・語彙・表現について学習し、自分の考えや事実を朝鮮語の文章で伝える練習を通して、朝鮮語の実用的なコミュニケーション能力の向上を目指します。ハングル検定3級程度の学習歴を目安に授業を進めます。授業の具体的な進め方やテーマの選定、レベルの設定等については、受講生の希望に柔軟に対応したいと考えています。授業への積極的な参加と提案を期待します。	
	上級朝鮮語ライティング 2	基礎的なライティングを学ぶための文例集を参考に様々な実用文について学習しつつ、文例集などを使用して参加者自らが訳の比較を行います。 少ない語彙で表現できるレベルから、語彙そのものを高めるレベルまで、いろいろな学生を包容し、書き方の練習を行います。ハングル能力検定3級程度の知識が必要です。	
	上級朝鮮語 リスニング・リーディング 1	この授業はリスニング教材の問題を解き、音読、会話練習を演習形式で行う。また、テーマに対する自分の意見を韓国語で述べる練習も行う。余裕がある人は基本教材の他にニュースやインタビューなどまとまった量を聞き取って大まかな内容を把握することにもチャレンジする。「TOPIK5級以上」または「ハングル検定準2級以上」程度の学習歴をもつことを前提とする。	
	上級朝鮮語 リスニング・リーディング 1	上級レベルの文法を学びながら、ニュースを中心に様々な文章講読を通して語彙力の増強、読解力の向上をはかる。同様にテレビの映像、ラジオの音声などをリスニング教材として活用し、実用的なリスニング能力を身につける。本授業履修にあたって、履修者は中級修了またはハングル検定準2級程度の学習歴をもつことを前提とする。	
	上級朝鮮語 リスニング・リーディング 2	この授業はリスニング教材の問題を解き、音読、会話練習を演習形式で行う。また、テーマに対する自分の意見を韓国語で述べる練習も行う。基本教材の他に自分のレベルに合わせて目標を設定し(例えば、韓国の大学の授業を聞く、ニュースを理解する、関心分野の論文を読むなど)、聞き取ったり読み取ったりした内容を把握し要約する練習を行う。「TOPIK5級以上」または「ハングル検定準2級以上」程度の学習歴をもつことを前提とする。	
上級朝鮮語 リスニング・リーディング 2	ニュースを中心に、様々な文章講読を通して、語彙力の増強、読解力の向上をはかる。また、同様にテレビの映像、ラジオの音声などをリスニング教材として活用し、実用的なリスニング能力を身につける。参加者の興味関心に応じて、ニュース以外にもエッセイ、小説など様々な文章を読む。本授業履修にあたって、履修者はハングル検定3級程度の学習歴を持つことを目安とする。		

全学共通科目 自由科目 言語系科目 コア科目群(上級レベル)	上級朝鮮語演習 1	(朝文) 매 수업마다 작품의 요약과 중요부분을 정리한 프린트를 바탕으로 수업을 실시한다. 한국 현대시와 소설에 초점을 맞춰 작품의 배경이 되는 문화와 사건 등을 살펴보고 함께 토론할 예정이다. 한국 문학 작품독해가 중심이나, 각 주제에 관한 일본 현대시와 소설을 적극적으로 소개하고 한일 비교 문학 연구에 대해서도 이해를 넓힌다. (和訳) 各授業ごとに作品の要約と重要部分をまとめたプリントをもとに授業を行う。 韓国現代市と小説に焦点を合わせて作品の背景となる文化や事件などを見て一緒に討論する予定だ。韓国文学作品読書が中心や、各テーマに関する日本現代詩と小説を積極的に紹介し、日韓比較文学研究についても理解を広げる。	
	上級朝鮮語演習 1	(朝文) 『나는 나로 살기로 했다』, 『82년생 김지영』 등 젊은 작가들의 작품을 나눠 읽는다. 발표 담당자는 작품의 배경이 되는 역사나 사건, 가부장제 등에 대해서 알아보면서 문학 작품을 읽고 그 내용을 번역한다. 번역 원고는 미리 공유하고 다른 수강생들도 읽은 후 그 해석과 표현에 대해 수업 중에 논의한다. 기본적으로 한국어로 수업이 진행되며, 한글 능력 검정 시험 3급 정도의 어휘력이 필요하다. (和訳) 『私は私のままで生きることにした』, 『82年生まれ、キム・ジョン』など、若い作家たちの作品を分けて読む。発表者は、作品の背景となる歴史や出来事、家父長制などについて調べながら文学作品を読んで、その内容を翻訳する。翻訳原稿は、事前共有し、他の受講生たちも読んだ後、その解釈や表現について授業中に議論する。基本的に韓国語で授業が行われるので、ハングル語能力検定試験3級程度の語彙力が必要である。	
	上級朝鮮語演習 2	(朝文) 주제:한류로 읽는 한국과 북한, 제일, 일본사회론 과제: 드라마와 영화, 소설, K-POP, 한식, 패션 등 대표적인 작품과 아티스트, 산업현황과 팬덤에 대한 보고서 작성하여 발표 또는 영상 제작 수업: 관련 영상물 소개와 프리젠테이션 후 토론. 문형과 단어 활용연습. 발음와 억양, 듣기, 읽기 연습, 작문. 수업수준이 높으므로 주의할 것. (和訳) テーマ: 韓流で読む韓国と北朝鮮、在日、日本社会論 課題: ドラマや映画、小説、K-POP、韓国料理、ファッションなど代表的な作品やアーティスト、産業現況とファンダムに関する報告書作成による発表または映像制作 レッスン: 関連映像の紹介とプレゼンテーション後の議論。文型と単語活用練習。発音とアクセント、リスニング、読書練習、作文。授業レベルが高いので注意すること。	
	上級朝鮮語演習 2	(朝文) 『피프티 피플』, 『쇼코의 미소』, 『그녀 이름은』 등에서 단편을 골라서 읽는다. 발표 담당자는 작품의 배경이 되는 역사나 사건, 가부장제 등에 대해서 알아보면서 문학 작품을 읽고 그 내용을 번역한다. 번역 원고는 미리 공유하고 다른 수강생들도 읽은 후 그 해석과 표현에 대해 수업 중에 논의한다. 기본적으로 한국어로 수업이 진행되며, 한글 능력 검정 시험 준2급 정도의 어휘력이 필요하다. (和訳) 『ピープティピープル』, 『祥子の笑顔』, 『彼女の名前は』などから短編を選んで読む。発表担当者は作品の背景となる歴史や事件、家父長制などについて調べながら文学作品を読み、その内容を翻訳する。翻訳原稿はあらかじめ共有し、他の受講生も読んだ後、その解釈と表現について授業中に議論する。基本的に韓国語で授業が行われ、ハングル能力検定試験2級程度の語彙力が必要だ。	

言語情報処理論 (朝鮮語) 全学共通科目(朝鮮語)系科目 自由科目(中級レベル)	言語情報処理論 (朝鮮語)	パソコンで朝鮮語を使うための操作法を練習し、ワープロの文書作成と朝鮮語で情報を検索して活用する方法について学ぶ。パソコンを使用して朝鮮語で作成する課題があり、受講者はある程度の朝鮮語能力(ハングル検定4級程度)を身につけていることが望ましい。またテーマに沿って情報を収集し発表する機会も設ける。	
	言語情報処理論 (朝鮮語)	パソコンで朝鮮語を使用するための基本的な操作をマスターし、朝鮮語で情報を検索・活用する方法について学習します。またテーマに沿って情報を収集し発表することにもチャレンジしてみましょう。	
全学共通科目(朝鮮語)系科目 自由科目(朝鮮語)系科目 自由科目(朝鮮語)系科目 自由科目(朝鮮語)系科目	基礎朝鮮語入門	朝鮮語の文字を読み取り正確な発音ができるための学習をする。次に、基本的なあいさつや自己紹介の表現を学ぶ。つづいて、もっとも基本的な構文を丁寧な語尾で作れるようになる。その後、否定や疑問の形を学び、数の数え方、過去形、日常的によく使う表現を学習する。	
	基礎朝鮮語初級	用言の連体形を学び、状況に合わせて使えるようにする。また活用を使いこなし、様々な表現を身につける。さらに、変則用言を学んで日常的によく登場する変則用言の使い方に習熟する。	
全学共通科目(朝鮮語)系科目 自由科目(朝鮮語)系科目 海外言語文化研修	朝鮮語海外言語文化研修 (中級)	ソウルの聖公会大学は、聖公会という建学の精神において立教大学と共通の基盤を持ち、交換留学などさまざまな交流が行われている。その聖公会大学の韓国語学堂が実施する「2021年夏期オンライン短期課程」を受講する。1日4時間ずつ、10日間の語学の授業を行う。授業の初日にクラス分けテストを行い、レベル別にクラスを編成する。授業には、1対1での会話練習の時間も含まれる。授業はすべて韓国語によって行われるが、数日間の授業を受けるうちに必ず慣れていくので、心配せず積極的に授業に参加してほしい。また、授業で習ったことを実際に使い試してみるために、毎回韓国人学生とのコミュニケーションの機会も提供される。	
	朝鮮語海外言語文化研修 (上級)	ソウルの聖公会大学は、聖公会という建学の精神において立教大学と共通の基盤を持ち、交換留学などさまざまな交流が行われている。その聖公会大学の韓国語学堂が実施する「2021年夏期オンライン短期課程」を受講する。1日4時間ずつ、10日間の語学の授業を行う。授業の初日にクラス分けテストを行い、レベル別にクラスを編成する。授業には、1対1での会話練習の時間も含まれる。授業はすべて韓国語によって行われるが、数日間の授業を受けるうちに必ず慣れていくので、心配せず積極的に授業に参加してほしい。また、授業で習ったことを実際に使い試してみるために、毎回韓国人学生とのコミュニケーションの機会も提供される。	
自由科目(ロシア語)系科目 全学共通科目(ロシア語)系科目	ロシア語セミナーA	ユーモアのあるやさしいテキストを読み、その内容についてロシア語で問答したり、まとめたり、発展的な小作文を書いたりする練習を通し、ロシア語の運用能力の向上をはかる。文法の練習問題、毎回の宿題、随時行う語彙等の小テストにより基礎力を鍛える。学期末に一度、ネイティブスピーカーの授業を実施し、実力を試す機会とする。また、学習内容を総括、定着させるため、最終テストを実施する。折にふれ音楽、映像等を紹介し、ロシア文化の知見を深める。	
	ロシア語セミナーB	引き続き、ウィットに富んだ現代ロシアの日常生活を題材としたテキストを学習し、宿題・小テスト等の課題をこなす中で、文法知識の確実な定着と運用能力の向上をはかる。受講生の希望と学習レベルに応じて、文学作品や新聞・論説などの講読にも挑戦する。学期末に一度、ネイティブスピーカーの授業を予定し、実力を試す機会とする。学習のまとめとして、最終テストまたはレポート課題の提出を行う。最新ニュース、音楽、映像等を通して、ロシア文化の多様な側面を知り理解を深める。	
	ロシア語セミナーC	まず教科書の1～14課の主な内容を課ごとではなく、語形変化を中心に文法事項でまとめて再確認していきましょう。またそれ以外にも比較的難解な11課以降の移動動詞、動詞の体、比較級や関係代名詞к о т о р ы йについて触れていきます。重要な文法の知識がしっかり備われば、複雑な文法も理解しやすくなるので、「自分はロシア語が分かる」という感触をはっきり持てるようになります。そのあとで教科書14～16課の新しい文法事項を学んでいきましょう。また授業の合い間に会話で使える表現も紹介し、文法がより生き生きした形で記憶に定着するようにします。さらにはいくつかの単語から自由に選んで会話をつくるペアワークなどを通して、文法力だけではなく、語彙力についても強化を目指しましょう。	

自由科目 言語系科目 全学共通科目 (ロシア語)	ロシア語セミナーD	最初の3回で簡単に教科書の16課までの文法事項を復習をしたのち、教科書の17課から最後の20課までやっていきます。事前に個々の文法事項に合ったプリント配布しますので、2回目からはそれを解いてきてください。 また授業の合い間に会話で使える表現も紹介し、文法事項がより生き生きとした形で記憶に定着するようにします。さらにはいくつかの単語から自由に選んで会話をつくるペアワークなどを通して、文法力だけではなく、語彙力についても強化を目指しましょう。	
	ロシア語セミナー1	ロシア語でコミュニケーションを円滑に行えるようになるためにこの授業では様々な練習を通じて実践的な会話力を徐々に身につけていくことに力を入れていきます。学んだことを定着させ、活用できるようにするために、異文化コミュニケーションの中で起こる様々なシチュエーションを想定した会話練習、ロールプレイ、逐語通訳練習なども積極的に授業に取り入れていきます。発音やイントネーションも重視します。	
	ロシア語セミナー2	ロシア語でコミュニケーションを円滑に行えるようになるためにこの授業では様々な練習を通じて実践的な会話力を徐々に身につけていくことに力を入れていきます。学んだことを定着させ、活用できるようにするために、異文化コミュニケーションの中で起こる様々なシチュエーションを想定した会話練習、ロールプレイ、逐語通訳練習なども積極的に授業に取り入れていきます。発音やイントネーションも重視します。	
自由科目 言語系科目 全学共通科目 基礎からのロシア語	基礎ロシア語入門	教科書と副教材(配付プリント)に沿って、(1)新出単語の確認、(2)文法解説、(3)本文の確認と発音練習と解説、(4)練習問題の解答、という流れで進めていく。また視聴覚資料によってロシア文化を紹介しつつ、多面的な文化理解もめざす。	共同
	基礎ロシア語初級	「基礎ロシア語入門」と同様に、教科書と副教材(配付プリント)に沿って、(1)新出単語の確認、(2)文法解説、(3)本文の確認と発音練習と解説、(4)練習問題の解答、という流れで進めていく。また視聴覚資料によってロシア文化を紹介しつつ、多面的な文化理解もめざす。	
自由科目 言語系科目 全学共通科目 (ポルトガル語)	ポルトガル語3	テキストにそって文法事項を解説していくことと並行して、プリント教材を使って文法の練習問題や読解に取り組んだり、参加者にペアになってもらい簡単なポルトガル語の会話練習を行います。また、読解や会話の基礎となる例文の暗唱も行います。	
	ポルトガル語4	テキストにそって文法事項を解説していくことと並行して、プリント教材を使って文法の練習問題や読解に取り組んだり、参加者にペアになってもらい簡単なポルトガル語の会話練習を行います。また、読解や会話の基礎となる例文の暗唱も行います。	
自由科目 言語系科目 全学共通科目 日本語系科目 入門レベル 自由	日本語手話 1	あいさつや日常生活についての自己表現や、先生やクラスメートとコミュニケーションができるレベルを目指す。全国手話検定試験5級合格レベルを目安とする。また、ろう者の文化や生活についての概説を行い、ろう者の文化やデフコミュニティについて理解を深める。関連分野のろう者をゲストスピーカーに招き、習得した知識の幅を広げる。	共同
自由科目 言語系科目 全学共通科目 日本語系科目 初級レベル 自由	日本語手話 2	日常生活における身近な体験やクリスマスや旅行などのイベントについての表現ができ、手話で会話を楽しめるレベルを目指す。全国手話検定試験4級合格レベルを目安とする。また、ろう者の職業についての概説や、実在するろう者の紹介を通して社会における国内外のろう者像を探る。関連分野のろう者をゲストスピーカーに招き、習得した知識の幅を広げる(予定)。	共同



全学共通科目 自由科目(日本語系科目) 中級レベル	日本手話 3	手話文法に基づいた豊かな日本手話で、クラスメートと自由なコミュニケーションを楽しむレベルを目指す。全国手話検定試験3級合格レベルを目安とする。また、コラムでは、ろう者の歴史・教育・法律・福祉制度など社会に関わることについて学び、ろう者への理解を深める。関連分野のろう者をゲストスピーカーに招き、習得した知識の幅を広げる。	共同
	日本手話 4	手話の特徴を活用し豊かな日本手話で自分の意見を表現し、相手にきちんとメッセージを伝えるレベルを目指す。全国手話検定試験2級合格レベルを目安とする。また、コラムでは、言語としての手話・芸術について学び、異文化への理解を深め、コラムの総まとめとして将来への展望へと考察を進める。関連分野のろう者をゲストスピーカーに招き、習得した知識の幅を広げる(予定)。	共同
全学共通科目 自由科目(日本語系科目)	日本の社会と文化A	社会問題、芸能文化など日本の文化・社会に関する様々なトピックをとりあげ、それに関する文献を読んだり、ビデオを見たりする。講義も行うが、主としてテーマについてのディスカッションやプレゼンテーションを中心とした授業を行い、課題設定能力も高める。最後にまとめとしてプレゼンテーションまたはレポートを課す。	
	日本の社会と文化B	時事問題など日本の文化・社会に関する様々なトピックをとりあげ、それに関する文献を読んだり、ビデオを見たりする。講義も行うが、主としてテーマについてのディスカッションやプレゼンテーションを中心とした授業を行い、課題設定能力も高める。最後にまとめとしてプレゼンテーションまたはレポートを課す。	
	日本の社会と文化C	「日本の企業風土」「日本的経営」「日本型サービス」をトピックとして取り上げ、ゲストスピーカーとして招き、ゲストスピーカーからの講義を軸として授業を進める。授業で扱うトピックについて理解を深めると同時に、それらのトピックを語る際に使われる語彙や文型について学び、使う課題も行う。ゲストスピーカーによる講義の前には事前学習として、それぞれのトピックについての基本的知識や専門的な語彙や文型を学び、講義の後には、内容理解やディスカッションを行い、レポート作成などを行う。事前学習、ゲストスピーカーによる講義、事後学習という流れの中で学ぶことが重要であるため、責任を持って授業に参加できる者の履修を望む。	
	社会の中の日本語A	擬音語・擬態語、様々な感情表現、微妙なニュアンスを表す副詞、位相など、日本語の特徴的な側面を取り上げ、それについての論文を読んだり、調査をしたりする。課題設定能力を高め、大学での学びに必要な日本語運用力を向上させる。 具体的には、日本語の特徴的な1つの側面を取り上げ、それについて、論文を読んだり複数の事例に触れたりした後、ディスカッションしながら、理解を深めていく。また、学んだ語彙や表現などを使用した文章の作成などを通して、より高度で自然な日本語運用能力を身につける。最後には、テーマに関するトピックについて自分で調べたものをプレゼンテーションし、さらにレポートにまとめる。	
	社会の中の日本語B	日本語の特徴的な側面として、若者言葉、メール文体、人の呼び方、役割語を取り上げ、それについての文章を読んだり、調査したりする。 具体的には、日本語の特徴的な1つの側面を取り上げ、それについて論文を読んだり、複数の事例に触れたりした後、ディスカッションしながら理解を深めていく。また、学んだ語彙や表現などを使用した文章の作成などを通して、より高度で自然な日本語運用能力を身につける。最後には、テーマに関するトピックについて自分で調べたものをプレゼンテーションし、さらにレポートにまとめる。	
	論文読解の技法	参加者の専門に沿った学術論文を数編選び、「構成」「スタイル」「語彙」「文型」「文末表現」「引用の仕方」「参考文献の提示方法」などの点に留意しながら読む。また、読み取った内容を簡潔に要約する訓練も行う。 参加者の専門ごとに、学術論文を数編ずつ選び、日本語学術論文の特徴に留意しながら読む。毎週1つの論文を読み(宿題)、その論文から読みとれる日本語論文の特徴について講義およびディスカッションを行う。論文独特の語彙や表現については、例文などを提示しながら短文作成を行う。さらに、いくつかの論文については要約を行い、読み取った内容を簡潔にまとめる練習も行う。	

全 自 学 共 通 科 目 ( 日 本 語 系 科 目	論文読解の技法	参加者の専門に沿った学術論文を数編選び、「構成」「スタイル」「語彙」「文型」「文末表現」「引用の仕方」「参考文献の提示方法」などの点に留意しながら読む。また、読み取った内容を簡潔に要約する訓練も行う。 参加者の専門ごとに、学術論文を数編ずつ選び、日本語学術論文の特徴に留意しながら読む。毎週1つの論文を読み(宿題)、その論文から読みとれる日本語論文の特徴について講義およびディスカッションを行う。論文独特の語彙や表現については、例文などを提示しながら短文作成を行う。さらに、いくつかの論文については要約を行い、読み取った内容を簡潔にまとめる練習も行う。	
	論文作成の技法	日本語の論文の構成、スタイル、使用される語彙や接続表現、文型の特徴について学び、自らがそれらを用いて構成の組み立てや短文作成などを行う。その後、実際の論文作成を行い、実践力をつける。講義も行うが、参加者自身の論文作成に基づいた授業を行い、ピア・エディティングも行う。 毎回、「課題設定」「論文構成」「引用」「接続表現」などのテーマを決め、そのテーマに沿った学習および短文作成を行う。随時、論文要約なども取り入れながら、作成する文章を徐々に長く、高度なものにしていき、最終的には1つの研究計画書の完成を目指す。参加者それぞれが問題意識を持ち、自分の間違いに気づき、それを修正していくスキルが身につくように授業を行う。 学術論文、卒業論文の作成に困難を感じている者には特に履修をすすめる。	
	論文作成の技法	日本語の論文の構成、スタイル、使用される語彙や接続表現、文型の特徴について学び、自らがそれらを用いて構成の組み立てや短文作成などを行う。その後、実際の論文作成を行い、実践力をつける。講義も行うが、参加者自身の論文作成に基づいた授業を行い、ピア・エディティングも行う。 毎回、「課題設定」「論文構成」「引用」「接続表現」などのテーマを決め、そのテーマに沿った学習および短文作成を行う。随時、論文要約なども取り入れながら、作成する文章を徐々に長く、高度なものにしていき、最終的には1つの研究計画書の完成を目指す。参加者それぞれが問題意識を持ち、自分の間違いに気づき、それを修正していくスキルが身につくように授業を行う。 学術論文、卒業論文の作成に困難を感じている者には特に履修をすすめる。	
	キャリアの日本語A	就職活動に必要な日本語に関連する様々な事柄―「エントリーシートの書き方」「自己PRの仕方」「集団面接の受け方」「個人面接の受け方」などを実践的に学ぶ。さらに、面接に行く際のマナーなどについても学ぶ。 実際に自分で何度もエントリーシートを書いたり、発表したりする活動を行う。そして、それに対するフィードバックをクラスメート、および教員から受けることでスキルアップを目指す。また、様々なタイプの面接練習も行う。さらに、学外から留学生の就職活動に携わるゲストを招き、就職活動の概要に関する説明を聞き、就職活動全体の流れや要点を学ぶ。	
	キャリアの日本語B	就職試験の国語分野、常識分野の試験問題を数多く解き、それについての説明を受けることで、日本の就職試験の傾向を知ると同時に、対応スキルを身につける。 就職試験問題を数多く知るために、毎回、たくさんの問題に取り組む。効率的に授業をすすめるために、宿題としても試験問題を課し、授業中は解説や質問対応などにより多く時間を割く。個々の試験問題についての解説なども行うが、主として参加者が積極的に与えられた問題に数多く取り組み、それを通して就職試験について「知ろう」とする姿勢が必要である。	

全 自 学 由 共 通 科 目 （ 日 本 語 系 科 目 ）	ビジネスのための 口頭運用力A	ビジネス場面で必要とされる構文または談話レベルの口頭運用力—敬語や待遇表現—について、電話応対、依頼など実際の場面を設定して実践的に学び、それが使えるように練習する。	
	ビジネスのための 口頭運用力B	意思決定と問題解決のための課題をソリューション・デザイン型活動で行い、その過程の中で、ビジネス場面で必要とされるプレゼンテーションの仕方や交渉の技術などのスキルアップを目指す。	
	ビジネスメールと文書	日本で就職したり、日系企業で働いたりする際に必要となるビジネス文書の読解や作成について、具体例を挙げながら実践的に学び、実際にビジネス文書が読め、作れるところまで練習する。 ビジネス場面で使われる様々な文書（報告書、提案書、依頼書など）の実例を使い、形式や語彙、文型などについて学ぶ。さらに、参加者自らがビジネス文書を作成し、学んだ語彙や文型などを使えるようになるまで繰り返し練習する。 実際の文書だけでなく、ビジネスでメールを使う際の形式やルール、マナーについても学び、様々な場面を設定して実際にメール作成を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職科目	保健体育科教育法1	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、保健体育科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。学習指導要領に示された中学校及び高等学校保健体育科の目標・内容・全体構造について理解し、対応する学問領域の特性を踏まえた教材研究の方法について学習する。あわせて、本科目と並行して履修する、あるいは本科目の履修の後に続く「保健体育科教育法演習1」「保健体育科教育法2」「保健体育科教育法演習2」との関連性・継続性を考慮し、本科目の中で、学習指導案の作成の基礎を学び、実際に1単元・1時間の授業設計を行い、学習指導案を各自作成して発表、振り返りを行う。	
	保健体育科教育法2	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに保健体育科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。中学校及び高等学校保健体育科の学習内容について、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解した上で、履修者各自が活用法を考えた授業設計を行い、その授業計画を発表、振り返りを行う。あわせて、保健体育科の分野・科目に即した年間指導計画の作成・発表、学習評価の模擬的实践（学習指導案の「生徒観」に即応した定期試験用の試験問題の作成・発表）などを通して、より実践的に授業設計の向上に取り組む力量を養成する。	
	保健体育科教育法演習1	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに保健体育科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。「保健体育科教育法1」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校及び高等学校保健体育科の各分野・科目について、履修者各自が1単元・1時間分の範囲について教材研究を行って教材を作成し、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。模擬授業の実施とその振り返りを通して、中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性に応じた授業設計ができる力量を養成する。あわせて、情報機器及び教材の活用法、学習評価の考え方の基礎的理解についても実践的に学ぶ。	
	保健体育科教育法演習2	保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、保健体育科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。「保健体育科教育法2」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校及び高等学校保健体育科の各分野・科目について、履修者各自が作成した情報機器及び教材の活用法を考えた授業設計に基づき模擬授業を実施する。実施後に履修者相互の振り返りを行い、改善点を見出し、改訂プランを作成することを通して、情報機器及び教材の活用に実践的かつ発展的に取り組むことのできる力量を養成する。あわせて実践研究の動向を学び、中学生・高校生の実態に即した授業設計とその実践に取り組むことのできる教科の授業実践者としての資質を高める。	

教職科目	教育原論	果たして人間はどうしても教育されねばならない存在なのだろうか。このテーマをめぐる、参加者各人が自己の(被)教育体験を対象化し、相対化する糸口を探ることを目標とする。このことが「教育を根本から考える」第一歩である。迂遠なようだが、参加者間の討議により、教育の実践知の基盤となる反省知が獲得されていくはずである。また、上記のテーマと並行して、人間のメルクマークと教育の理念について考察し、近現代の教育史におけるそれぞれの時代の教育思想とその教育理念についての理解を深める。授業の目標に近づくべく、教育学および隣接諸科学の成果を援用しながら、主な柱として次のような問題を検討する。参加者間で相互に討議する機会をなるべく多く設けたい。 ・人間のメルクマークと教育の理念 ・子どもと大人の関係の歴史の変遷 ・近代学校を導いた思想とその教育理念	
	教職概論	現代社会における教職の重要性の高まりを、自らが教職に就き、実践者となることを想定して理解する。そのため、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等についての基本的な知識を身に付け、教職への意欲を高め、教職への適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解し、自ら学び続ける基礎的力量を養成する。教職の意義、教員の役割、教員の職務内容について、社会的意義や社会的要請、法制上の規定、歴史的過程から学習する。また、教職と他の職業との相違を理解した上での、教職に就くまでのプロセスや教職に就いた後の研修の在り方を理解するとともに、「チーム学校」の具体的な事例の学習を通して、「チーム学校」において教職員が学校内外の専門家等と連携・分担して働く重要性やその在り方への理解を深める。	
	教育制度論・教育課程論	教育は、子どもが接する教育課程・教育内容を通して社会的・制度的に現象する作用である。それゆえに、教育を社会現象である「制度としての教育」として理解することが重要である。本講義では、そのような理解に必要な教育学・教育行政学の基本的知識修得を目標とする。本講義は、教育に関する制度及び教育課程に関する教育の基礎的事項を学修する科目である。教育制度及び教育課程は、その規範が日本国憲法(憲法、1946年)及び旧教育基本法(旧教基法、1947年)の精神―〈人権としての教育〉―にあることはいまでもない。旧教基法を全面改正し成立した新教育基本法(新教基法、2006年)以降に具体化する現代日本の教育改革が、私たち国民の教育をどこに導くのかについて、現憲法を精神を抛り所にリアルに考える。	
	教育心理学	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解するとともに、学習に関する基礎的な知識を身に付け、また発達を踏まえた学習を支える指導についての基礎的な考え方を理解する。さらに、心身のしょうがい、発達しょうがいを持つ生徒の心理、学習過程と指導について学ぶ。	
	特別支援教育の理論と方法	通常の学級にも在籍している特別な支援を必要とする生徒への対応のために、必要となる知識や支援方法について理解を図るとともに、高等学校においても導入される「通級における指導」のあり方等の理解を図る。インクルーシブ教育の実現に向けて、障害者権利条約や関係する制度等に関する理解、障害や配慮すべき事項などの知識、学校としての実施すべき対応等、今後の教員として必要な資質を高めるとともに、障害の状況に応じて「自立活動」の視点をもとにした具体的な対応についての考察を行う。また、障害はないが特別な配慮等が必要な生徒への対応についても考察を行う。	
	道徳教育の理論と方法	道徳の意義や原理、道徳教育の歴史の変遷、今日の道徳的状況を踏まえ、教育活動全体を通じて行う道徳教育及び「特別の教科・道徳」の目標や内容、指導計画を理解する。教材研究を踏まえ、学習指導案を作成し模擬授業を行ない指導力を養う。課題ごとに目標に即して講義し、それぞれの資料に基づき学修する。実際の教材や指導案、授業記録をグループワークで検討する。協同で指導案を作成し模擬授業を行ない検討する。	

教職科目	特別活動及び総合的な学習	教育課程における「総合的な学習の時間」、及び「特別活動」の目的や意義、その特質等を理解するとともに、各教科との関連や展開方法、評価方法についての理解を図る。「総合的な学習（探究）の時間」や「特別活動」によって育まれる資質や能力について実践事例をもとに考察し、各教科の学習との関連性を踏まえて、生徒の主体性の育成やキャリア発達に資する展開等について計画的・継続的な指導の工夫について議論を深める。	
	教育方法論	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。現代社会に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、指導技術について講義する。さらに情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用について講じる。	
	生徒・進路指導の理論と方法	一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指す生徒指導を学ぶ。また、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための進路指導を学ぶ。生徒指導もキャリア教育も学校現場ではあらゆる教育活動において実践するものとされている。教育現場における実践事例に触れながら、本来の意味や役割について理解を深め、教育現場で活用できる実践的な力量形成が図れるように講義する。	
	学校教育相談の理論と方法	生徒への対応のために必要な教育相談の理論およびそれを支えるカウンセリングの基礎知識とスキルを習得する。加えてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携しながら、生徒理解と学校への適応を高める方法について理解する。生徒が自己理解を深め、クラス内外での人間関係を構築し、集団のなかで適応的に活動するための教育相談の理論を取り扱う。また、生徒の心理的発達に応じた関わりに必要なカウンセリングの基礎理論、メタカウンセリング理論および技法について、ロールプレイやグループワークを取り入れながら学習する	
	中・高教育実習事前指導	「中・高教育実習」の履修希望者を対象とし、教育実習の実際について理解を深めることを目標とする。中・高教育実習事前指導Ⅰでは、教育実習概要、教育実習に関わる諸手続き、授業作り入門（講義編・添削編）について説明を行う。中・高教育実習事前指導Ⅱでは、授業作り入門の講義（講義編）を行う。中・高教育実習事前指導Ⅲでは、先輩の教育実習経験から教育実習の心構えを学ぶ。中・高教育実習事前指導Ⅳでは、授業作り入門の演習（添削編）を行う。	共同
	高校教育実習	学校現場での実習を通じて、学校教育の現実を学び、教師となるための実践的指導力について最低限の要件をつかむことを目標とする。・「直前指導」で実習の概略と課題を確認し、各自の教育実習校で2～3週間の教育実習を行う。・教育実習期間中の指導内容や気づきなどは、「教育実習の記録」に記載し、指導教諭の点検を受ける。・教育実習全体を振り返り、「教育実習事後レポート」を作成し、「教育実習の記録」および「研究授業授業案」と一緒に、指定期日までに提出する。	共同
	中・高教育実習	学校現場での実習を通じて、学校教育の現実を学び、教師となるための実践的指導力について最低限の要件をつかむことを目標とする。・「直前指導」で実習の概略と課題を確認し、各自の教育実習校で2～3週間の教育実習を行う。・教育実習期間中の指導内容や気づきなどは、「教育実習の記録」に記載し、指導教諭の点検を受ける。・教育実習全体を振り返り、「教育実習事後レポート」を作成し、「教育実習の記録」および「研究授業授業案」と一緒に、指定期日までに提出する。	共同

教職科目	教職実践演習（中・高）	<p>教職課程履修の総仕上げとして、自己の教員としての適性や特徴を対象化すること、および今後の教員としての課題を認識する。少人数クラスを編成し、演習形式で講義とディスカッションを中心に展開する。</p> <p>また中・高の現職教員や地域と学校に関わる関係者による講義をふまえ、教科指導、生活指導および学級運営等について模擬授業、ロールプレイなどをおして実践的理解を深める。授業は、「クラス別授業」と「クラス合同授業」によって構成される。「クラス合同授業」は、「教職実践演習(中・高)」履修の全学生が一同に介して受講する形態をとる。「クラス別授業」は、各クラス担当者により授業計画に沿って授業が進行する。履修希望クラスは、下記「注意事項」にしたがって、各自の秋学期履修計画に基づき手続きをおこなうこと。クラス確定後のクラス変更は原則、認めない。なお「クラス合同授業」の日程など授業実施の詳細は、7月初旬に発表される受講クラスと同時に連絡する。各自確認すること。また、卒業要件に必要な正課科目と重複する場合は、正課科目の授業を優先し、履修計画等を検討すること。</p>	
	教職特別演習	<p>3年次以上の問題意識の高い学生を対象とし、いまの教育現場では避けられないテーマー人権・愛国心・いじめ問題などーについて深め、教職に関する課題意識をより明確にすることを目的とする。</p> <p>概論的科目で学んだことに基づきつつ、今日の学校教育に関してより深く、実践的な内容を取り扱っていく。学校・授業に関する多面的なアプローチ・理解ができるように、主として、テーマー人権・愛国心・いじめ問題などーについての論文などを取り上げて、検討・ディスカッションを行う。初回に担当者から発題を行い、以後、文献などを検討対象ごとに、毎回参加者が分担して発表を行い、参加者全員でディスカッションを行う形式を進めることを予定している。具体的な進め方に関しては、初回授業時に受講学生と相談の上決定する。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようと専門基礎科目  
 する場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人立教学院 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度

令和5年度

立教大学

立教大学

学部	学科	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
文学部	キリスト教学科	50	—	200
	史学科	215	—	860
	教育学科	101	—	404
	文学科	552	—	2,208
経済学部	経済学科	332	—	1,328
	会計ファイナンス学科	176	—	704
	経済政策学科	176	—	704
理学部	数学科	66	—	264
	物理学科	77	—	308
	化学科	77	—	308
	生命理学科	72	—	288
社会学部	社会学科	173	—	692
	現代文化学科	173	—	692
	メディア社会学科	173	—	692
法学部	法学科	360	—	1,440
	政治学科	110	—	440
	国際ビジネス法学科	115	—	460
観光学部	観光学科	195	—	780
	交流文化学科	175	—	700
コミュニティ福祉学部	福祉学科	154	—	616
	コミュニティ政策学科	154	—	616
	スポーツウェルネス学科	110	—	440
経営学部	経営学科	230	—	920
	国際経営学科	155	—	620
現代心理学部	心理学科	143	—	572
	映像身体学科	176	—	704
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	145	—	580
計		4,635	—	18,540

学部	学科	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	変更の事由
文学部	キリスト教学科	50	—	200	
	史学科	215	—	860	
	教育学科	101	—	404	
	文学科	552	—	2,208	
経済学部	経済学科	332	—	1,328	
	会計ファイナンス学科	176	—	704	
	経済政策学科	176	—	704	
理学部	数学科	66	—	264	
	物理学科	77	—	308	
	化学科	77	—	308	
	生命理学科	72	—	288	
社会学部	社会学科	173	—	692	
	現代文化学科	173	—	692	
	メディア社会学科	173	—	692	
法学部	法学科	360	—	1,440	
	政治学科	110	—	440	
	国際ビジネス法学科	115	—	460	
観光学部	観光学科	195	—	780	
	交流文化学科	175	—	700	
コミュニティ福祉学部	福祉学科	130	—	520	定員変更(△24) ※収定増認可申請済み
	コミュニティ政策学科	220	—	880	定員変更(66) ※収定増認可申請済み
	スポーツウェルネス学科	0	—	0	令和5年4月学生募集停止
経営学部	経営学科	230	—	920	
	国際経営学科	155	—	620	
現代心理学部	心理学科	143	—	572	
	映像身体学科	176	—	704	
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	145	—	580	
スポーツウェルネス学部	スポーツウェルネス学科	230	—	920	学部の設置 (届出) ※収定増認可申請済み
計		4,797	—	19,188	



## 設置の趣旨等を記載した書類

### 目次

①設置の趣旨及び必要性	- 4 -
○学部を設置する理由・必要性	- 4 -
○教育研究上の目的（人材養成像及び学生に修得させる能力等）	- 6 -
○学位授与の方針	- 7 -
○組織として研究対象とする中心的な学問分野	- 8 -
②学部・学科の特色	- 9 -
③学部及び学科の名称並びに学位の名称	- 11 -
○「スポーツウエルネス学部」とする理由	- 11 -
○英訳名称	- 11 -
④教育課程の編成の考え方及び特色	- 11 -
○教育課程の編成・実施方針	- 11 -
○科目区分の設定及び各科目区分の科目構成	- 11 -
（科目区分の設定及びその理由）	- 11 -
（各科目区分の科目構成）	- 11 -
○設置の趣旨と授業科目の対応関係	- 13 -
○必修科目・選択科目・自由科目の構成	- 14 -
（必修科目及び選択必修科目）	- 14 -
（選択科目）	- 15 -
（自由科目）	- 16 -
○配当年次の考え方	- 16 -
（1年次）	- 16 -
（2年次）	- 16 -
（3年次）	- 16 -
（4年次）	- 16 -
○科目の設定単位数の考え方	- 17 -
○教育課程の編成・実施方針と学位授与の方針との連関	- 17 -
○教養教育の実施方法	- 18 -
⑤教育方法、履修モデル及び卒業要件	- 18 -
○授業の方法、学生数	- 18 -
○配当年次の設定	- 19 -
○卒業要件	- 19 -
（全学共通科目）※28単位	- 19 -
（専門必修科目）※14単位	- 20 -
（卒業研究科目）※4単位又は10単位	- 20 -

(専門基礎科目) ※22 単位 .....	- 20 -
(専門基幹科目) ※12 単位又は 10 単位 .....	- 20 -
(専門展開科目) ※22 単位又は 18 単位以上 .....	- 21 -
(専門英語科目) ※ 4 単位以上 .....	- 21 -
(自由科目) ※20 単位以上 .....	- 21 -
○履修モデル .....	- 21 -
○卒業研究に係る単位認定 .....	- 21 -
○CAP 制の設定 .....	- 21 -
○他大学における授業科目の履修 .....	- 21 -
○コロナ禍による遠隔授業の利用 .....	- 22 -
⑥実習の具体的計画 .....	- 22 -
ア 実習の目的 .....	- 22 -
イ 実習先の確保 .....	- 22 -
ウ 実習先との契約内容 .....	- 23 -
エ 実習水準の確保の方策 .....	- 23 -
オ 実習先との連携体制 .....	- 24 -
カ 実習前の準備状況 (感染予防対策・保険等の加入状況) .....	- 25 -
キ 事前・事後における指導計画 .....	- 25 -
ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画 .....	- 25 -
ケ 実習施設における指導者の配置計画 .....	- 26 -
コ 成績評価体制及び単位認定方法 .....	- 26 -
⑦企業実習 (インターンシップを含む) や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画 .....	- 27 -
ア 実習先の確保 .....	- 27 -
イ 実習先との連携体制 .....	- 27 -
ウ 成績評価体制及び単位認定方法 .....	- 28 -
エ その他特記事項 .....	- 28 -
⑧取得可能な資格 .....	- 28 -
⑨入学者選抜の概要 .....	- 31 -
○入学者受入れの方針 .....	- 31 -
○入学者選抜 .....	- 34 -
(選抜方法、選考基準等) .....	- 34 -
(入試区分ごとの募集人員) .....	- 34 -
○社会人の受入れ .....	- 35 -
(社会人の定義 (出願資格)) .....	- 35 -
(入学前既修得単位の取り扱い) .....	- 36 -
○外国人留学生の受入れ .....	- 37 -
⑩教員組織の編成の考え方及び特色 .....	- 37 -
○教員配置 .....	- 37 -
○教育上主要と認める授業科目への専任の教授又は准教授の配置 .....	- 38 -
○中心となる研究分野とその研究体制 .....	- 39 -

○教員組織の年齢構成.....	- 39 -
⑪施設・設備等の整備計画.....	- 39 -
ア 校地、運動場の整備計画.....	- 39 -
(学部の教育研究を踏まえた適切な環境整備) .....	- 39 -
(学生の休息その他の利用のための適当な空地の整備状況) .....	- 39 -
(運動場の利用計画) .....	- 39 -
イ 校舎等施設の整備計画.....	- 40 -
(教員の研究室、必要な教室の整備計画) .....	- 40 -
(教育課程等を実施するために必要な施設・設備) .....	- 40 -
ウ 図書等の資料及び図書館の整備計画.....	- 41 -
(学部の種類・規模等を踏まえた図書等の整備) .....	- 41 -
(デジタルデータベース、電子ジャーナル等の整備計画) .....	- 41 -
(図書館の閲覧室、閲覧席数、レファレンス・ルーム、検索手法等など、教育研究を促進できる機能等)	
.....	- 41 -
(他の大学の図書館等との協力) .....	- 42 -
⑫管理運営.....	- 42 -
○教学面における管理運営の体制(教授の役割、構成員、開催頻度の予定、審議事項等) .....	- 42 -
○教授会以外の会議体の役割 .....	- 43 -
⑬自己点検・評価.....	- 44 -
⑭情報の公表.....	- 45 -
○教育情報.....	- 45 -
○経営・財務情報.....	- 46 -
⑮教育内容等の改善のための組織的な研修等.....	- 47 -
○授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施に関する計画.....	- 47 -
○職員に必要な知識・技能の習得並びに必要な能力及び資質を向上させる研修等.....	- 48 -
⑯社会的・職業的自立に関する指導等及び体制.....	- 48 -
ア 教育課程内の取組について.....	- 48 -
イ 教育課程外の取組について.....	- 49 -
ウ 適切な体制の整備について.....	- 49 -

## ①設置の趣旨及び必要性

### ○学部を設置する理由・必要性

既設のコミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科は、「健康運動」と「スポーツパフォーマンス」の2つの視点から、運動とスポーツのあり方について総合的にアプローチを行い、現代人のウエルネスの向上に寄与するとともに、全ての人が心身ともに楽しく健康に生活できるウエルネス社会の構築を目指して2008年に創設された。ウエルネスとは、心身の健康だけでなく、価値観や生きがいなども含めた多面的、総合的な健康観であり、スポーツとは、楽しみを基調とする自発的な運動を意味し、日常的に楽しみとして行われるウォーキングや体操等から競技的なスポーツを含む幅広い概念である。

本学部では「スポーツウエルネス学」を教育研究の中心に位置付ける。「スポーツウエルネス学」は、主にスポーツパフォーマンスの向上とスポーツ文化の創造に関する教育研究を行うスポーツ分野と主に心身の健康を探求し、維持・発展に関する教育研究を行うウエルネス分野を融合させた学問体系であり、スポーツ並びにウエルネスに関わる様々な課題を対象として総合的に研究し、スポーツ推進とウエルネスの向上に寄与することを目的としている。

近年、スポーツウエルネス学への期待は、以下のとおり益々高まってきている。スポーツをめぐる世界的状況は、目まぐるしく変化しており、2021年東京で開催されたオリンピック・パラリンピックをはじめとするメガ・スポーツイベントは、世界規模での経済的、社会的な影響を与え、スポーツが世界のグローバル化を牽引する状況となっている。その中であって、スポーツは、身体的諸能力の洗練によって人間の可能性を開花させるものとして、また、人種、性別、年齢、言語、障がいの有無等、人間を区別してきた枠組みを身体的コミュニケーションと共感によってつなげる可能性を持つものとして、多様性（ダイバーシティ）に満ちた共生社会の構築とともに地域社会、ひいては国際社会における平和と友好に寄与することが益々期待されている。

競技スポーツにおけるパフォーマンスの追求は、人間の身体的・精神的な限界への挑戦であるが、医学の進歩及び技術が革新されていく現代においても、スポーツ現場での傷害発生をなくすことは難しく、周辺からの過度な期待や重圧から精神的に追い込まれるスポーツ競技者は少なくない。つまり、スポーツの進歩にも過度なトレーニングによる身体的・精神的障害を予防しながら、人間の有する潜在的可能性をより高いレベルまで追求するというウエルネス的な視点も必要となる。したがって、これからのアスリートサポートにはスポーツ科学だけではなくウエルネス科学の知見が不可欠であり、スポーツウエルネス学的知見を総合的に理解する必要がある。

生物としての人間は、運動を不可避的に要請されるが、モータリゼーションの発達は、人間から運動を遠ざけ、結果、運動不足を起因とする生活習慣病を蔓延させてきた。超高齢社会を迎えた日本において、高齢者の健康寿命の延伸を図りつつ、生きがいを含めた総合的な健康観であるウエルネスの向上をいかに図っていくのか、孤立することなく友好と社交をいかに達成するかといった問題は、国家的な問題ともなっている。

ウエルネスレベルを高めることは、人の可能性の追求に関連した成長や社会貢献などを通して実現される包括的な幸福感を高めることに繋がると考えられる。この点において、スポーツは多様な価値観を認め合いながら心身の健康や生きがい感なども高める総合的な活動であり、心身の障がいの有無にかかわらずより良い人生を歩んでいくために重要なツールとなりうる。つまり、ウエルネスの向上には、スポーツの実施による心身の変化や運動参加への動機付けなどのスポーツ科学的な視点も必要となる。したがって、より高度なウエルネス社会の構築には、スポーツウエルネス学的知見を実践的に活用することが不可欠である。

また、地球規模で自然破壊が進行し、人間の生活環境までも大きく変化する現代において、人と自然との調和に基づくウェルネス社会の実現に向けて、自然環境や生活環境のあり方を、サステナブルな視点から次世代に伝えていくことが求められている。こうした環境のあり方を伝える上で、体力やメンタルヘルスの向上、生きがい感の高まりなどスポーツの持つポジティブな側面を社会に定着させ、逆に暴力など、スポーツと親和性が高いと考えられてきたネガティブな側面を一掃するためには、スポーツ教育の持つ役割が大きなものとなる。特に、スポーツによるウェルネス社会の構築のためにはスポーツの内在的・外在的価値を高めることができ、スポーツウェルネス学的知見に基づいたスポーツを通じた人間教育が重要となる。

そのような状況の中、現在、スポーツウェルネス学科では、66科目程度の専門科目（スポーツウェルネス関係の学部共通科目を含む）を展開している。しかしながら、これはスポーツウェルネス学の進展と範囲の拡大を考えた時、十分に専門科目の配置がなされている状況とは言い難い。例えば、一般的なスポーツ系学部では、130科目を超える専門科目を配置している。従って、この分野に寄せられる社会的要請に応えるべく学問体系を構築するためには、学部として十分な科目群を展開する必要がある。

2008年の創設から13年が経過し、ウェルネス社会の創造に向けてスポーツウェルネス学をさらに深化、発展させることを目的として、スポーツウェルネス学科を改組した本学部を設置する。これからのスポーツウェルネス学の進展と教育という点において、学部にすることでよりスポーツウェルネス学に関する専門科目を配置することができ、十全な研究・教育が可能になる。さらに、スポーツ・健康に関する学部・学科は年々増加しており、学部は40程度、学科は250を超えている現状において、文部科学省が策定してきた「スポーツ立国戦略」や、文部科学省が主催する「スポーツの推進に関する特別委員会」で参考意見を求められる「全国体育系大学長・学部長会」には学科単位では参加できないなどの制限があるため、本学のプレゼンスを高めるためにも、本学部を新設する。

また、本学の創設に深い関わりのある「聖公会」と「スポーツ」は深い関係にある。聖公会は、16世紀の英国宗教改革によって生まれた英国国教会を母体とするが、国教会体制を堅持する目的で、1617年に英国王ジェームス1世が公布したのが『スポーツの書』(The Book of Sports)であった。この時に奨励されたのは、アーチェリーや跳躍競技、モリス・ダンスなどであった。その後、さまざまスポーツ競技が英国において誕生し、近代スポーツの多くが英国起源である背景には、このような歴史がある。

1828年に、英国の歴史あるパブリックスクール、ラグビー校の校長として着任した、聖公会の司祭であり、神学博士でもあった、トマス・アーノルドは、カリキュラムを大胆に改革し、学生の知力のみならず、全人的な人格教育を徹底的に行った。アーノルドがその教育改革の基軸として着目したのが、キリスト教教育と共に「スポーツ」であり、とりわけ「フットボール」であった。これがラグビー、サッカーの起源でもある。スポーツが人格教育に重要な意義を有することを訴え続けたアーノルドに、強い影響を受けたのがピエール・ド・クーベルタンであり、彼はアーノルドの精神を基礎として、スポーツパーソンシップ、フェアプレーの重視、人間形成と教育に貢献するスポーツの振興を願って、近代オリンピックを興していくのである。

このように本来、「スポーツ」とは、「人間性を回復」(レ・クリエーション)し、人格を養い、信頼と愛によって結ばれた共同社会を形成し、心身の健康を増進し、自然と共感するための「人間教育の文化」であった。本学では学則第1章第1条において、「本大学は、キリスト教に基づく人格の陶冶を旨」とすると定めている。その意味で、本学に、「スポーツウェルネス学部」が新設されることは、建学の理念に照らしても、大いに意義あることだと考える。

○教育研究上の目的（人材養成像及び学生に修得させる能力等）

本学部の教育研究上の目的は以下のとおりであり、学則に明記する。

スポーツウエルネス学部は、「すべての人の生きる喜びのために」という基本理念に立ち、スポーツウエルネス学の教育研究を通じて、人間の可能性の追求と誰もが快適で活力に満ちたウエルネス社会の実現に寄与する人材を養成することを目的とする。

本学部では「スポーツウエルネス学」を教育研究の中心に位置付ける。「スポーツウエルネス学」は、すべての人間の適応可能性を広げ、スポーツパフォーマンスの向上とスポーツ文化の創造に寄与するための理論と方法論の構築をめざすスポーツ科学と身体的、精神的障害を予防しながら、幸福で充実した人生を送るために、より創造的に心身の健康を探求し、維持・発展させる理論と方法論の構築をめざすウエルネス科学とを融合させた学問体系であり、スポーツ並びにウエルネスに関わる様々な課題を対象として総合的に研究し、スポーツ推進とウエルネスの向上に寄与することを目的としている。

これらを踏まえ、本学部では、主にスポーツパフォーマンスの向上とスポーツ文化の創造に関する教育研究を行うスポーツ分野と主に心身の健康を探求し、維持・発展に関する教育研究を行うウエルネス分野に教育研究分野を区分し、その区分に応じた教員組織を整備する。また、卒業後の進路に関連する、アスリートパフォーマンス、ウエルネススポーツ及び環境・スポーツ教育の3つ人材養成像を掲げる。

人材養成像		修得する能力
アスリートパフォーマンス	競技スポーツは人間の身体的・精神的な限界に挑戦する営みでもあり、その過程で高いレベルのパフォーマンスが追求されている。そこで、スポーツ科学とウエルネス科学双方の基礎的知識（以下この表で「スポーツウエルネス学的知見」という。）を持ったスポーツ指導者及びスポーツウエルネス学的知見を総合的に理解し、アスリートのハイパフォーマンスの達成に貢献できる人材を養成する。	人間の適応可能性を高め、高度なアスリートサポートに寄与するためのスポーツ科学的知見を総合的に理解し、アスリートのハイパフォーマンスに貢献できる能力を身につける。
ウエルネススポーツ	スポーツ参画人口を増加させるためには、若年期から高齢期までライフステージに応じたスポーツ活動が重要であり、社会人、女性、障がい者のスポーツ実施率の向上と、これまでスポーツに関わってこなかった人へのはたらきかけが必要である。超高齢社会を迎え、生活習慣病の予防・認知症予防、身体機能の維持・向上をいかに果たしていくのか、また、高ストレス社会である現代においていかに心身のバランスを維持し、高度なウエルネスを達成できるかが重要な社会課題となっている。そこで、心身ウエルネスに関するスポーツウエルネス学的知見を有し、スポーツ参画人口の増加およびスポーツを通して総合的なウエルネスの向上に貢献できる人材を養成する。	すべての人が運動・スポーツを通して個々人のウエルネスを向上させ生活を豊かにするための心身ウエルネスに関する知見を有し、スポーツを通して総合的な QOL の向上とウエルネスの向上に貢献できる能力を身につける。
環境・スポーツ教育	地球規模で自然破壊が進行し、人間の生活環境ま	自然環境と生活環境の評価、環境の

	<p>でも大きく変化する現代において、自然環境や生活環境のあり方を、サステイナブルな視点から次世代に伝えていくことが求められている。そこで、人間を取り巻く自然環境・生活環境とスポーツとの望ましい関係のあり方、環境問題に対するスポーツからのアプローチ、スポーツと人間の望ましいかかわりを踏まえ、それらの課題を教育の営みとして展開するためのスポーツウエルネス学に関する基礎的知識を習得させ、環境問題やサステイナブル社会に関する知見を有し、自然環境・生活環境とスポーツの望ましい関係を踏まえた人間教育に貢献できる人材を養成する。</p>	<p>維持・改善に向けたスポーツの貢献に関する最新の知見を理解し、子どもや運動・スポーツ実施者センターの立場から、実施者の主体的な学びに寄与し、スポーツを通じた人間教育に貢献できる能力を身につける。</p>
--	---	---

また、保健体育教員免許、スポーツリーダー、健康運動指導士(受験資格)、障がい者スポーツ指導員、レクリエーション・インストラクター、トレーナー関連資格など、上記のそれぞれの分野において人材育成に関わる内容を網羅する免許や資格が多く存在するため、それらの取得を目指すことは人材養成上の取り組みの一つとして位置づけている。

### ○学位授与の方針

本学部の学位授与の方針は以下のとおりである。

<p>教育目的</p> <p>「すべての人の生きる喜びのために」という基本理念に立ち、スポーツウエルネス学の教育研究活動を通じて、人間の可能性の追求と誰もが快適で活力に満ちたウエルネス社会の実現に寄与する人材を養成する。</p> <p>学修成果</p> <p>「学士（スポーツウエルネス学）」を授与される学生は、以下のような能力を有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな人間性と高い倫理観を持って、リーダーシップを発揮できる。</li> <li>2. スポーツウエルネスに関する科学的視点や基礎知識・基礎理論を理解できる</li> <li>3. スポーツウエルネス学に必要なとされる自然科学的研究法と人文社会科学的研究法を適切に運用できる。</li> <li>4. ウエルネスとスポーツ活動及びそれらを取り巻く社会環境に関する知見と諸理論を包括したスポーツウエルネス学を体系的に理解できる。</li> <li>5. スポーツに関わる人々やスポーツの多様性を尊重し、行動することができる。</li> <li>6. 自らのキャリア設計をすることができる。</li> <li>7. グローバルスポーツの現況に触れ、国際的に活躍できる。</li> </ol> <p>さらに全学共通科目により、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 言語Aの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。さらに、英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身につく。また、NEXUSプログラムにより入学した学生については、言語Bと合わせて大学での学修に必要なとされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。</li> </ol>
--

9. 言語 B の学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多元的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要なとされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
10. 学びの精神では、立教大学設立理念の一端に触れ、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけ、大学での講義科目受講の包括的スキルを体得する。
11. 多彩な学びでは、学問的知見の多様性と豊饒性を理解し、他の諸学問の成果を交錯させることで、世界を複眼的に解読する柔軟な知性を涵養する。また、スポーツ実習では、心身の健康増進を目的とした科学的知識を理解し、スポーツの実践をとおした体力の維持・向上、運動習慣を醸成する。

#### 学習環境

1. 在学期間を通して学生 1 名につき専任教員 1 名が担任（アカデミック・アドバイザー）として学習上のアドバイスを適宜与える。
2. 初年次に少人数の演習科目を設置し、大学でのスタディ・スキルを習得するとともに、学部の専門性を理解し、自ら将来設計を考える基盤づくりを行っている。
3. すべての学生が 1 年次より少人数の演習科目を履修し、希望するすべての学生が 2 年次より 3 年間にわたり専門分野に関する演習科目を履修できるカリキュラムを提供する。
4. すべての学生が自らの関心に基づき専門分野を定め、講義と実習、演習を交えて学習でき、さらに広い関心に応えられる関連分野の系統的履修が可能なカリキュラムを提供する。
5. 多岐にわたるスポーツ種目の基本的な運動技術、トレーニング方法や指導法などの運動方法学に関する幅広い学習の機会を提供する。
6. 英語を用いて学ぶ多様な専門講義科目を設置する。
7. フィットネスクラブ、リハビリテーション施設、スポーツ協会、民間企業などで現場実習を行い、問題を実践的に理解し、問題意識を深める機会を設けている。
8. 少人数教育を重視し、専門分野における知識や技能について、自主的に学習課題を設定し、フィールドワーク、文献の精読等によって学習し、成果を発表する機会を設けている。
9. 3 年間の学びを通して抱いた疑問や課題について、専門的理解を深め、解決策を検討するため卒業研究論文等を作成する専門的指導を受けられる環境を用意している。

#### ○組織として研究対象とする中心的な学問分野

本学部の教育課程は、人間の可能性の追求と全ての人のウェルネス向上を通してウェルネス社会の構築に寄与するスポーツウェルネス学の知見と能力を有する人材養成を目的としており、スポーツ分野とウェルネス分野の 2 つの研究分野を対象とする。中心的な学問分野は以下のとおりである。

研究分野	中心的な学問分野
スポーツ分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トレーニング科学</li> <li>・ スポーツ医学</li> <li>・ バイオメカニクス</li> <li>・ スポーツ心理学</li> <li>・ スポーツ方法学</li> <li>・ スポーツ栄養学</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーナー科学</li> <li>・スポーツマネジメント</li> </ul>
ウエルネス分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ社会学</li> <li>・環境教育学</li> <li>・環境生理学</li> <li>・ジェンダー学</li> <li>・健康心理学</li> <li>・分子細胞生物学</li> <li>・データサイエンス</li> <li>・スポーツ・健康産業</li> </ul>

## ②学部・学科の特色

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」（平成 17 年 1 月）の提言する「高等教育機関の個性・特色の明確化」は、大学が7つの機能を併有するとして、その比重の置き方が個性・特色の表れとなるとしている。本学部が重点的に担おうとする機能は、そのうちの、5. 特定の専門的分野の教育・研究、6. 地域の生涯学習機会の拠点及び7. 社会 貢献機能(地域貢献)であり、以下の5点が本学部の特色である。

第1に、スポーツウエルネス学に関する教育・研究を行うにあたって、(1)～(7)を学生に修得させる能力としている点が、特色であるといえる。

(1) 豊かな人間性と高い倫理観を持って、リーダーシップを発揮できること。主な科目としては、「基礎演習」、「スポーツマンシップ論」、「スポーツリーダーシップ論」、「スポーツ倫理学」、「スポーツと法」を配置する。(2) スポーツウエルネスに関する科学的視点や基礎知識・基礎理論を理解できること。主な科目としては、「スポーツウエルネス学入門」、「スポーツ科学総論」、「ウエルネス科学総論」、「運動方法学」、「ウエルネス理解のための基礎生命科学」を配置する。

(3) スポーツウエルネス学に必要なとされる自然科学的研究法と人文社会科学研究法を適切に運用できること。主な科目としては、「スポーツウエルネワークショップA・B・C」、「専門演習1・2」、「卒業研究指導演習」を配置する。これらの授業の展開にあたっては、専任教員1名あたり1学年少人数での教育を行う。

(4) ウエルネスとスポーツ活動及びそれらを取り巻く社会環境に関する知見と諸理論を包括したスポーツウエルネス学を体系的に理解できること。主な科目としては、「スポーツウエルネス心理学(基礎)」、「運動・スポーツ栄養学(基礎)」、「スポーツ社会学」、「運動生理学」、「スポーツコーチ学」を配置する。

(5) スポーツに関わる人々やスポーツの多様性を尊重し、行動することができること。主な科目としては、「ダイバシティ・スポーツ論」、「ユニバーサルスポーツ援助技術演習」、「アダプテッドスポーツ論」、「障害者スポーツ実践論」、「運動方法学演習14～16」を配置する。

(6) 自らのキャリア設計をすることができること。主な科目としては、「インターンシップ」、「インターンシップ実習1・2」、「キャリア形成論」を配置する。

(7) グローバルスポーツの現況に触れ、国際的に活躍できること。主な科目としては、「Comparative Sport Culture」、「Quantitative Research Methods in Sport and Exercise」、「Motivational Psychology in Sports and Exercise」、「異文化スタディ」を配置する。

その他の特徴として、在学期間を通して学生1名につき専任教員1名が担任（アカデミック・アドバイザー）として適宜アドバイスを与えるとともに、オフィスアワーを導入し学業や大学生活について常時相談できる体制を整える。

第2に、スポーツを通して地域社会に貢献するために、スポーツ・ウェルネスそのものに関する教育研究だけではなく、今日の地域社会が抱える課題やその処方箋に関する教育研究を重視していく。スポーツを通じた地域貢献を実りあるものとしていくためには、地域の経済や行政などへの理解を深めることが有用であり、本学部は、「スポーツ社会学」「コミュニティスポーツ論」の両科目を選択必修科目とするなど、今日のスポーツ・ウェルネスをとりまく社会的な環境へアプローチすることを重視していく。また、埼玉県サッカー協会など、地域のスポーツ関係の団体・企業との連携を重視し、授業科目としても、これらの団体・企業等においてインターンシップ実習を行う科目である、「インターンシップ」を配置する。さらに、本学は埼玉県新座市及び埼玉県志木市との間に包括連携に関する協定を締結しており、本学部は、これらの協定に基づき、新座市民総合大学、スポーツ教室など、スポーツ・ウェルネスに関する貢献事業を積極的に展開していく。

第3に、地域における生涯学習機会の拠点となるべく、教育課程外において、高齢者、子どもなど、幅広い対象者に向けた、スポーツ・ウェルネスに関するプログラムを積極的に実施することを重視していく。特に、地元自治体との連携を図りつつ、多様な地域住民に対してスポーツ関連のプログラムを提供する計画である。こうした取組は、本学が開学以来、重視してきたところでもあるが、本学部は、新座市民総合大学、スポーツ教室など、スポーツ・ウェルネスに関する多様なプログラムを通じて、生涯学習の機会を質量ともに拡充していく。

第4に、本学部では4年間を通して現場をフィールドとする理論の検証と展開を重視した教育を行うため、1年次から4年次まで、少人数の演習科目を用意している。1年次の「基礎演習」による導入教育に続き、2年次の「スポーツウェルネスワークショップ A・B・C」では様々なフィールドが抱える問題に触れ、3年次の「専門演習1・2」では、各個人の関心に基づいた対象について深く掘り下げ、4年次の「卒業研究指導演習」へとつなげる。

第5に、本学部を含め全ての学部が共通して卒業要件としている全学共通科目である（構成は図参照）。本学の全学共通科目は、目的を、「広い視野と判断力に基づく総合的な知性を養うとともに、外国語によるコミュニケーション能力と異文化対応能力を育てること」とし、総合系科目と言語系科目の2つに区分している。全ての科目が半期制で開講し、卒業要件単位数は、全ての学部・学科において、言語系科目10単位、総合系科目18単位としている。全学部・全学年の学生に共通に展開し履修機会を保障していると同時に、他に類例を見ない豊富な科目展開をしていることは本学の全学共通科目の大きな特色である。

区分	科目群	カテゴリ	卒業要件
言語系科目	言語A		10単位
	言語B		
総合系科目	学びの精神		18単位
	多彩な学び	1. 人間の探求	
		2. 社会の視点	
		3. 芸術・文化への招待	
		4. 心身への着目	
		5. 自然の理解	
		6. 知識の現場	
スポーツ実習	スポーツプログラム		
	スポーツスタディ		

### ③学部及び学科の名称並びに学位の名称

#### ○「スポーツウエルネス学部」とする理由

「すべての人の生きる喜びのために」という基本理念に立ち、人間の可能性の追求とすべての人のウエルネス向上を通してウエルネス社会の構築に寄与するための、スポーツ科学とウエルネス科学の融合を「スポーツウエルネス学」として捉え、「スポーツウエルネス学部」とした。

本学部は、スポーツ科学（スポーツ医学、スポーツ方法学、バイオメカニクス等）とウエルネス科学（スポーツ社会学、健康心理学、環境教育学等）の素養を基盤とした学際的分野であるスポーツウエルネス学の幅広い知を創出し、スポーツウエルネス学の教育研究活動を通じて、人間の可能性の追求と誰もが快適で活力に満ちたウエルネス社会の実現に寄与する人材を養成することが主な目的である。

したがって、その基盤となるのは「スポーツ科学」と「ウエルネス科学」の融合であり、スポーツ活動の深い理解と実践によって生きがいを出する営みは、ヒトの活動の本質を考究する営みともいえる。その意味で「スポーツウエルネス学部」の名称が適切と考える。

#### ○学位に付記する専攻名称

本学部は「スポーツウエルネス学科」という単一の学科で構成され、学科の名称の持つ意味は、前項での説明のとおりである。したがって、学位に付記する専攻分野の名称も「スポーツウエルネス学」とするのが適切である。

#### ○英訳名称

スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科の英訳名称は、日本語名称を直接的に反映させるとともに、国際的な通用性も踏まえ、以下のとおりとする。

種類	日本語名称	英語名称
学部名	スポーツウエルネス学部	College of Sport and Wellness
学科名	スポーツウエルネス学科	Department of Sport and Wellness
学位名	学士（スポーツウエルネス学）	Bachelor of Arts

### ④教育課程の編成の考え方及び特色

#### ○教育課程の編成・実施方針

本学部の教育課程編成の方針は、資料1のとおりである。

#### ○科目区分の設定及び各科目区分の科目構成

##### （科目区分の設定及びその理由）

本学では、全ての学部が、教育課程を「全学共通科目」（「言語系科目」及び「総合系科目」。全学共通科目全体の構成は②の表参照）と「専門科目」に大別することとしており、本学部においてもそれに倣う。「専門科目」は、学年の進行に従って配置し、学修の基盤、学習の核そして問題意識の拡大のため、「専門必修科目」、「卒業研究科目」、「専門基礎科目」、「専門基幹科目」、「専門展開科目」及び「専門英語科目」に区分する。

##### （各科目区分の科目構成）

##### 【全学共通科目－言語系科目】

複数言語を学修し、多元的な視点を養うため、「言語A」（英語）と「言語B」（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・日本語（留学生のみ）から1言語を選択）の2つにさらに区分する。加えて、さらに学修を深め、新しい言語に挑戦するための言語自由科目（10言語）を開講している。

### 【全学共通科目－総合系科目】

専門領域の枠を超えた人間としての深い認識や価値観、総合的な判断力を養うため、「学びの精神」、「多彩な学び」及び「スポーツ実習」の3つにさらに区分する。

「学びの精神」は、大学で学び始めるにあたり、大学で学ぶこと、また立教大学という場で学ぶことの意味を理解する科目群である。宗教、人権、大学といった本学らしい基本となるテーマを包含した科目を用意し、また、教員との対話、学生同士の協働作業をとおして講義の受け方を体得する。さらに、自ら調べ、自ら考えて発信する、大学での主体的な学びの姿勢を身につける。

「多彩な学び」は、専門分野の枠を超えた幅広い知識と教養、総合的な判断力を養うことを目的とし、今日的なテーマを扱う6つのカテゴリ（②の表参照）で構成する科目群である。

「スポーツ実習」は、健康維持・増進を目的として、実践と講義をとおして科学的知識、技能、またスポーツにまつわる文化的背景を学ぶ科目群である。実技を中心とした「スポーツプログラム」、理論の講義をしっかりと取り入れた「スポーツスタディ」により、心身に関してバランスのとれた知性と判断力を養う。

### 【専門科目－専門必修科目】

スポーツウエルネス学分野の基礎理論に関する科目並びにスポーツ指導者に求められるコミュニケーション能力及び対人スキルを身につけるために必要な科目である。科目構成は表のとおりである。

種類	配当年次	科目名称
講義科目	1年次	スポーツウエルネス学入門
	1年次	スポーツマンシップ論
	1年次	スポーツリーダーシップ論
演習科目	1年次	基礎演習
	1年次	スポーツウエルネスワークショップ A
	2年次	スポーツウエルネスワークショップ B
	2年次	スポーツウエルネスワークショップ C

### 【専門科目－卒業研究科目】

「卒業研究指導演習（ベイシックコース）」（4単位）及び「卒業研究指導演習（アドバンスコース）」（10単位）の2つにさらに区分する。なお、本学部を卒業するには、4年次（在学学期7学期以降）において、どちらか一方を選択し、単位を修得しなければならない。

### 【専門科目－専門基礎科目】

スポーツウエルネス学部での専門的な学修を基礎づける科目群であり、学部での学修の基礎となる科目が配置されているので、1年次での履修を勧める。競技力向上やウエルネス向上に貢献するスポーツウエルネス学を構成するスポーツ科学の理論と実践等を学ぶ「スポーツ科学総論」及びウエルネス科学の理論と実践等を学ぶ「ウエルネス科学総論」が代表的な科目と言える。

### 【専門科目－専門基幹科目】※1年次履修不可

スポーツウエルネス学部での学修の核となり、基幹をなす科目群で、問題意識を高めるとともに、学修課題へのアプローチの方法などを学ぶ科目群が設定されている。

人材養成像に対応する代表的な科目は表のとおりである。

人材養成像	科目名称	概要
アスリートパフォーマンス	スポーツコーチ学	スポーツ指導者に必要な基本的知識やコミュニケーション能力を学ぶ。スポーツ指導者として基礎
	コンディショニング概論	

		的な実践力・対応力を養う。
ウエルネススポーツ	スポーツウエルネス心理学(基礎)	的確な意思伝達と傾聴に基づいたコミュニケーション能力を、心理学の理論とロールプレイング等を通して実践的に学ぶ。
	メンタルマネジメント	
環境・スポーツ教育	発育・発達・加齢論 生物多様性と人間社会	発育・発達や環境と人間社会の関係に関する基礎知識を獲得することにより、スポーツ指導の現場で体づくりを実践するための基礎的な知識を身につける。

【専門科目－専門展開科目】※1年次及び2年次履修不可

1年次及び2年次での学修を踏まえ、より深い学習を達成するために、設定されている科目群である。学修のまとめとなるような原論的な科目、具体的・個別的な関心に対応した科目が設定されている。人材養成像に対応する代表的な科目は表のとおりである。

人材養成像	科目名称	概要
アスリートパフォーマンス	スポーツ工学演習	演習や実習を通して、スポーツ指導者として実際の現場に即した実践力・対応力を養う。
	アスレティックレクリエーション実習2～4	
ウエルネススポーツ	コミュニティスポーツ論 ウエルネスプロモーション論	社会学的又はコミュニティ論的なアプローチにより、社会とスポーツの関係性とそのあり方について学び、今日の社会や地域社会が抱える課題及びプロモーションの方法について理解を深める。。
環境・スポーツ教育	障害者スポーツ実践論	共生社会・サステナブル社会の構築とスポーツとの関係について理解を深める。
	エビデンスベースのスポーツ援助技術演習	

【専門科目－専門英語科目】

スポーツに関わる文化、異文化理解、多元的な視点を学ぶための科目群であり、4科目が選択必修である。少人数クラスでの「聞く・話す・読む・書く・知る」の基本的技能の訓練を通じて、当該言語による専門的または日常的なコミュニケーションを可能にし、異文化対応能力を育成する。英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎を身につける。主な科目としては、「Comparative Sport Culture」、「Quantitative Research Methods in Sport and Exercise」、「Motivational Psychology in Sports and Exercise」等を配置する。

○設置の趣旨と授業科目の対応関係

これまで記載した設置の趣旨及びそれに基づく学生に修得させる能力と授業科目の対応関係は表のとおりである。

学生に修得させる能力	対応する主な授業科目
1. 豊かな人間性と高い倫理観を持って、リーダーシップを發揮できる。	「基礎演習」 「スポーツマンシップ論」 「スポーツリーダーシップ論」 「スポーツ倫理学」 「スポーツと法」
2. スポーツウエルネスに関する科学的視点や基礎知識・基	「スポーツウエルネス学入門」

基礎理論を理解できる	「スポーツ科学総論」 「ウエルネス科学総論」 「運動方法学」 「ウエルネス理解のための基礎生命科学」
3. スポーツウエルネス学に必要なとされる自然科学的研究法と人文社会科学研究法を適切に運用できる。	「スポーツ科学総論 A・B・C」 「専門演習 1・2」 「卒業研究指導演習」など
4. ウエルネスとスポーツ活動及びそれらを取り巻く社会環境に関する知見と諸理論を包括したスポーツウエルネス学を体系的に理解できる。	「スポーツウエルネス心理学（基礎）」 「運動・スポーツ栄養学（基礎）」 「スポーツ社会学」 「運動生理学」 「スポーツコーチ学」
5. スポーツに関わる人々やスポーツの多様性を尊重し、行動することができる。	「ダイバシティ・スポーツ論」 「ユニバーサルスポーツ援助技術演習」 「アダプテッドスポーツ論」 「障害者スポーツ実践論」 「運動方法学演習 1～16」など
6. 自らのキャリア設計をすることができる。	「インターンシップ」 「インターンシップ実習 1・2」 「キャリア形成論」
7. グローバルスポーツの現況に触れ、国際的に活躍できる。	「Comparative Sport Culture」 「Quantitative Research Methods in Sport and Exercise」 「Motivational Psychology in Sports and Exercise」 「異文化スタディ」

○必修科目・選択科目・自由科目の構成

(必修科目及び選択必修科目)

【全学共通科目】

言語系科目（10 単位必修）は、異なる文化背景をもつ多様な人々とコミュニケーションをとるための言語運用能力と、異文化理解力の習得を目指すものである。英語はレベル別に編成されたクラスで、自分の実力に合わせて「聞く」「話す」「読む」「書く」の 4 つの技能をバランスよく学修する（6 単位必修）。また、英語以外に複数の言語から選択できる初習言語の履修が必要である（4 単位必修）。

【専門科目】

科目名称と必修科目及び選択必修科目とする理由は表のとおりである。専門必修科目である①～⑤の 5 科目に加え、卒業研究科目である⑥のいずれか一方及び専門基礎科目である⑦のうちから 6 科目（12 単位）を選択必修とする。専門英語については、12 科目から 4 単位を選択必修とする。

	科目名称	配当年次	必修科目及び選択必修科目とする理由
①	基礎演習	1	⑤⑥と同様。
②	スポーツウエルネス学入門	1	豊かな人間性を基盤とし、全ての人のウエルネス向上とウエルネス

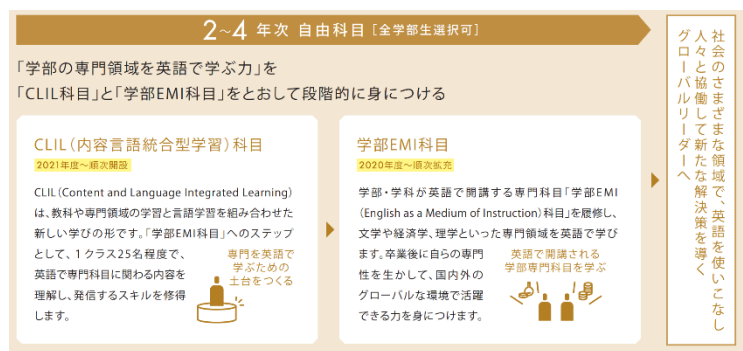
③	スポーツマンシップ論	1	社会の構築に寄与する高度なスポーツウエルネス学の知見を学ぶ必要があるため。
④	スポーツリーダーシップ論	1	
⑤	スポーツリソースケッチャップ A・B・C	1・2	担当教員によるきめ細かい指導のもと、主体的に思考する姿勢や学問研究の方法を身につける必要があるため。
⑥	卒業研究指導演習 (ベイシック又はアドバンスト)	4	
⑦	運動方法学演習 1～16	1・2	様々な運動種目の特性やその指導法について学ぶ必要があるため。
⑧	専門英語	1年次 以上	英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応でき、また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎を身につけるため。

### (選択科目)

※本学で「自由科目」と呼称している科目は卒業要件に参入可能な科目である。

### 【全学共通科目】

現代のグローバル社会では、英語をツールとして使いこなしながら、多様な人々と協働し、さまざまなフィールドで課題を解決していくことができる力が求められる。そのため、単に「英語を話す」だけでなく、「英語でロジカルに考える力」や「専門領域について英語で議論できる力」など、一歩進んだ英語運用能力が必要になることから、言語系科目として、2020年度から図のような新英語カリキュラムを開始している。また、初修言語については、より高いレベルの言語運用能力の修得を目指して、4年間をとおして継続的に言語科目を履修できるよう、標準的なコミュニケーションから、海外で必要とされる高度な語学力まで、目的に合わせた学習が可能な科目を用意している。



総合系科目は、現実にかたちを変えながら日々生起する問題を発見し、解決策を見出すため、自らの専門分野を深く追究するだけでなく、それぞれの分野で得た知識を具体的なテーマに則して自分の力で整理し、再構成してゆく、自ら主体的に考える力を育成するものである。「学びの精神」、「多彩な学び」及び「スポーツ実習」の3区分のうち、「学びの精神」の科目群から2科目（4単位）、残り2つの科目群から7科目（14単位）を選択し、計18単位を修得する必要がある。

総合系科目は、現実にかたちを変えながら日々生起する問題を発見し、解決策を見出すため、自らの専門分野を深く追究するだけでなく、それぞれの分野で得た知識を具体的なテーマに則して自分の力で整理し、再構成してゆく、自ら主体的に考える力を育成するものである。「学びの精神」、「多彩な学び」及び「スポーツ実習」の3区分のうち、「学びの精神」の科目群から2科目（4単位）、残り2つの科目群から7科目（14単位）を選択し、計18単位を修得する必要がある。

### 【専門科目】

専門基礎科目として38科目、専門基幹科目として30科目、専門展開科目として45科目及び専門英語科目として12科目を開講する。

上記のとおり、各科目区分には3領域に即した授業科目を配置し、卒業研究指導演習（ベイシックコース／4単位）を選択する学生は、専門基礎科目から11科目22単位、専門基幹科目から6科目12単位、専門展開科目から11科目22単位、専門英語科目から2単位4科目を選択し、単位を修得する必要がある。なお、卒業研究指導演習（アドバンストコース／10単位）を選択する学生は、専門基礎科目から11科目22単位、専門基幹科目から5科目10単位、専門展開科目から9科目18単位、専門英語科目から2単位4科目を選択し、単位を修得する必要がある。

また、「自由科目」として20単位以上の科目を選択し、単位を修得する必要があるが、これには、卒業要件単位を超えて修得した全学共通科目、専門科目等を含めることができることとする。

## （自由科目）

※本学では卒業要件に参入しない科目を「随意科目」と呼称している。

教職課程に係る「各教科の指導法」（保健体育科教育法1）等を随意科目とし、卒業要件に参入しない。

## ○配当年次の考え方

本学では、4年間を「導入期」、「形成期」及び「完成期」の3つに分け、それぞれの学修段階にあわせた科目を履修することとしている。特に、全学共通科目（総合系）では「学びの精神」及び「スポーツ実習」は1年次春学期から履修が可能であるが、6つのカテゴリからなる「多彩な学び」については、「学びの精神」の履修により、大学における基礎的な学修方法を修得したことを前提に履修させるため、1年次秋学期からの履修（1年次春学期は履修不可）としている。

専門科目の配当年次の考え方については以下のとおりである。

### （1年次）

専門必修科目の5科目に加え、学部における学修の基盤となる専門基礎科目を学ぶ。スポーツウエルネス学を構成するスポーツ科学の理論と実践等を学ぶ、「スポーツ科学総論」及びウエルネス科学の理論と実践等を学ぶ「ウエルネス科学総論」が代表的な科目と言える。

### （2年次）

1年次履修不可である専門基幹科目を履修する。スポーツウエルネス学部での学修の核となり、基幹をなす科目群で、問題意識を高めるとともに、学修課題へのアプローチの方法などを学ぶ科目群が設定されている。代表的な科目は④「○科目区分の設定及び各科目区分の科目構成」の「(各科目区分の科目構成)」に記載した表のとおりである。これに加えて、専門基礎科目で学んだスポーツウエルネス学に関する基礎的な理論をもとに「インターンシップ」、「インターンシップ実習1・2」及び「アスレティックリハビリテーション実習1」による就業体験を通して、スポーツ指導者としての基礎的な実践力・対応力を養う。

### （3年次）

1年次及び2年次での学んできた問題意識を拡大するための科目群である。学修を踏まえ、より深い学修を達成するために、設定されている科目群である。学修のまとめとなるような原論的な科目、具体的・個別的な関心に対応した科目が設定されている。各領域の代表的な科目は④「○科目区分の設定及び各科目区分の科目構成」の「(各科目区分の科目構成)」に記載した表のとおりである。これに加えて、高い倫理観に基づいた指導や実践を目指して、「スポーツ倫理学」、「スポーツ行政学」等を配置する。また、「学校運動部指導論」を配置し、教育課程外に配置されている学校運動部の指導に対する実際的な現場での実践力・対応力を養う。

### （4年次）

卒業要件となっている卒業研究科目を履修する。卒業研究科目は以下の2種類に分けられるが、本学部では「卒業研究指導演習（アドバンストコース）」の履修を推奨する。

「卒業研究指導演習（ベイシックコース）」は、自分の問題関心に即して自分の問題意識を掘り下げ、スポーツ分野とウエルネス分野からそれぞれ1つの課題を選出し、論文を作成することを目標としている。

「卒業研究指導演習（アドバンストコース）」は、専門展開科目である3年次の「専門演習1」及び「専門演習2」の履修を経て、自分の専門を定めて自分の問題意識を掘り下げ、深く研究を進めて論文を作成することを目標としている。



## ○科目の設定単位数の考え方

大学設置基準に基づき、各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。(1)講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。(2)輪講、実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。これを踏まえ、本学では1科目100分授業を14回行っているため、1科目あたり2単位としている。なお、卒業研究指導演習については、大学設置基準第21条第3項の規定に基づき、授業科目の履修に加え、卒業研究に必要な学修等を考慮して、単位数を設定する。

## ○教育課程の編成・実施方針と学位授与の方針との連関

本学部の教育課程編成の方針は、「教育目的」、「教育課程の編成と特色」、「カリキュラムの構造」、「教育課程の構成」及び「学部・学科の学修成果」と、科目群もしくは科目との関係」に区分している。このうち「学部・学科の学修成果」と、科目群もしくは科目との関係」の「学部・学科の学修成果」は、学位授与の方針における「学修成果」と同様の表現を使用しており、表のとおり学位授与の方針で掲げる学修成果と授業科目の対応関係を示している。

学位授与の方針に掲げる学修成果	対応する主な授業科目
1. 豊かな人間性と高い倫理観を持って、リーダーシップを發揮できる。	「基礎演習」 「スポーツマンシップ論」 「スポーツリーダーシップ論」 「スポーツ倫理学」 「スポーツと法」
2. スポーツウエルネスに関する科学的視点や基礎知識・基礎理論を理解できる	「スポーツウエルネス学入門」 「スポーツ科学総論」 「ウエルネス科学総論」 「運動方法学」 「ウエルネス理解のための基礎生命科学」
3. スポーツウエルネス学に必要なとされる自然科学的研究法と人文社会科学研究法を適切に運用できる。	「スポーツウエルネス学 A・B・C」 「専門演習1・2」 「卒業研究指導演習」など
4. ウエルネスとスポーツ活動及びそれらを取り巻く社会環境に関する知見と諸理論を包括したスポーツウエルネス学を体系的に理解できる。	「スポーツウエルネス心理学(基礎)」 「運動・スポーツ栄養学(基礎)」 「スポーツ社会学」 「運動生理学」 「スポーツコーチ学」
5. スポーツに関わる人々やスポーツの多様性を尊重し、行動することができる。	「ダイバシティ・スポーツ論」 「ユニバーサルスポーツ援助技術演習」 「アダプテッドスポーツ論」 「障害者スポーツ実践論」 「運動方法学演習1～16」など
6. 自らのキャリア設計をすることができる。	「インターンシップ」 「インターンシップ実習1・2」

	「キャリア形成論」
7. グローバルスポーツの現況に触れ、国際的に活躍できる。	「Comparative Sport Culture」 「Quantitative Research Methods in Sport and Exercise」 「Motivational Psychology in Sports and Exercise」 「異文化スタディ」

### ○教養教育の実施方法

これまで記載してきた全学共通科目がこれに該当する。詳細は「②学部・学科の特色」、「④教育課程の編成の考え方及び特色」の「○科目区分の設定及び各科目区分の科目構成」及び「⑤教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件」の「○卒業要件」に記載のとおりである。また、全学共通科目は、各学部ではなく全学共通カリキュラム運営センターが運営しており、各授業科目を担当する教員は、予め定められた基準に基づいて各学部から選出される専任教員と兼任教員とで構成している。

## ⑤教育方法、履修モデル及び卒業要件

### ○授業の方法、学生数

#### （全学共通科目）

言語系科目は、「言語 A」については、オリエンテーション期間中にプレースメントテストを行い、各人の英語能力に応じて 10 名程度のクラスに編成する。他の言語系科目は、履修者数が一定の範囲に留まるものと想定されるため、クラスサイズの上限は設けない。

総合系科目は、「学びの精神」、「多彩な学び」、「スポーツ実習」の 3 つの科目群で構成されている。「学びの精神」は大学で学び始めるにあたり、大学で学ぶこと、また立教大学という場で学ぶことの意味を理解する科目群であり、教員との対話、学生同士の協働作業を通して講義の受け方を体得し、自ら調べて考えて発信する大学での主体的な学びの姿勢を身につけるため、クラスサイズは 80 名程度、上限を 200 名とする。「多彩な学び」は、専門分野の枠を超えた幅広い知識と教養、総合的な判断力を養うことを目的とした科目群であり、リベラルアーツ教育の主軸となるさまざまな主題に基づく、かつ今日的なテーマを扱う 6 つのカテゴリで構成されており、クラスサイズは 160 名程度、上限を 300 名とする。「スポーツ実習」は健康維持・増進を目的として、実践と講義を通して科学的知識、技能、またスポーツに纏わる文化的背景を学ぶ科目群であり、実技を中心とした「スポーツプログラム」と理論の講義をしっかりと取り入れた「スポーツスタディ」により構成されており、クラスサイズは施設の広さと安全面を配慮し 20 名～40 名程度とする。

#### （専門科目）

教育課程編成の方針に基づき、授業形式については、講義科目、演習科目、実験・実習科目を適切に組み合わせるとともに、授業形式や授業内容に応じたクラスサイズを設定しつつ、学年進行にともない、基礎から応用・発展へと体系的、段階的に学習できるよう配当年次を設定する。

本学部学年定員は 230 人であることから、講義科目は、必修科目の合同で行う授業を除き、クラスサイズの上限を 100 人程度とする。大幅に上限を超えるような場合は、クラス増で対応するほか、SA・TA(Student Assistant, Teaching Assistant)制度を設けていることから、担当教員の申請により SA・TA を活用することができる。

演習科目は、1 年次開講の必修科目の「基礎演習」は、初年次教育として少人数グループでの活動を行う必要から、16 クラス編成として、クラスサイズを 14 名程度とする。2 年次開講の必修科目である「スポーツウエルネスワークショップ A・B・C」は、実験やデータ解析、プレゼンテーションなどの個

別の指導を行う必要から、6クラス編成として、クラスサイズを38名程度とする。なお、「運動方法学演習1～16」は、実技を伴う授業となるため、安全面と効果面を考慮し、履修者が増えすぎないように、クラスサイズを上限30名程度とする。

実習科目である「インターンシップ」や「アスレティックリハビリテーション実習1～4」については、学内における事前・事後指導と実習先における実習を組み合わせることにより、自らの学びを深めていく。各種の「運動方法学演習1～16」を含め、実習科目にはクラスサイズの上限は設けないが、担当教員が指導可能な範囲で実習を実施するものとする。

#### ○配当年次の設定

「④教育課程の編成の考え方及び特色」の「○配当年次の考え方」に記載のとおりである。

#### ○卒業要件

本学部の卒業要件（「教育課程等の概要」に記載）は以下のとおりである。

スポーツウエルネス学科の卒業研究ベーシックコースは、全学共通科目28単位以上、専門必修科目を14単位、卒業研究科目を4単位、専門基礎科目を22単位、専門基幹科目を12単位、専門展開科目を22単位、専門英語科目を4単位、自由科目を20単位以上、合計126単位以上を修得すること。

卒業研究アドバンストコースは、全学共通科目28単位、専門必修科目を14単位、卒業研究科目を10単位、専門基礎科目を22単位、専門基幹科目を10単位、専門展開科目を18単位、専門英語科目を4単位、自由科目を20単位以上、合計126単位以上を修得すること。

いずれのコースにおいても、卒業要件単位を超えて修得した全学共通科目、選択科目、及び専門関連科目、他学部科目、他学科科目、5大学間単位互換制度による他大学の科目を自由科目として卒業要件単位に算入することができる。（履修科目の登録の上限：48単位（年間））

なお、専門基礎科目のうち、運動方法学演習1～運動方法学演習16から、12単位を選択必修とする。

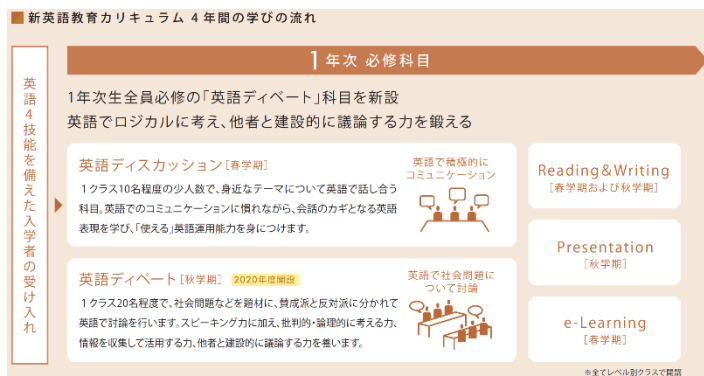
上記を踏まえた科目区分ごとの考え方は以下のとおりである。

#### （全学共通科目）※28単位

全ての学部で共通である。

言語系科目は、言語A（英語）6単位及び言語B（初修言語）4単位を卒業要件単位としている。2つの言語の履修を卒業要件としているのは、国際的なコミュニケーションが日常的に行われるようになった現在の世界で必要不可欠な言語である英語の力を磨くとともに、英語以外のもう1つの言語を学び、英語圏以外の国・地域の人々が築き上げてきた社会や文化、ものの考え方などに言語を通して触れ、世界が多文化であることの理解を深めることで、多様な視点を獲得できると考えているからである。言語Aは、「英語ディスカッション」（1単位）、「英語ディベート」（1単位）、「Reading & Writing」（2単位）、「Presentation」（1単位）及び「e-Learning」（1単位）に区分する。また、言語Bは、入学手続き時に学生に希望を提出させることとしており、「～語基礎1」（2単位）及び「～語基礎2」（2単位）に区分する。

総合系科目科目は、「学びの精神」（4単位）のほか、「多彩な学び」及び「スポーツ実習」（合わせて



14 単位) を卒業要件単位としている。「学びの精神」は、講義を受けた上で、学生諸君がその要点を理解して自らの考えを練り、リアクションペーパーや小レポートでそれを表現するという、高校までの勉強とは異なる大学での講義科目受講の包括的スキルを、1 年次春学期のうちに体得することを目的としている。「多彩な学び」は、内容によってカテゴリに分かれ、「人間の探究」、「社会への視点」、「芸術・文化への招待」、「心身への着目」、「自然の理解」及び「知識の現場」の 6 つに区分する。「知識の現場」はボランティア活動や海外でのさまざまな実践活動に学生時代に積極的に関わろうとする学生諸君を大学の側から後押しするために、学内の様々な部局が主体となって設けているカテゴリである。「スポーツ実習」は、にある。「スポーツプログラム」(1 単位/実技中心) 及び「スポーツスタディ」(2 単位/講義・レポートあり) の 2 つに区分し、①健康を維持・増進させるための科学的知識の理解、体力の向上等及び②スポーツの文化的側面の理解、実践を通じたコミュニケーション能力、的確な判断力等の養成を目的とする。

#### **(専門必修科目) ※14 単位**

7 科目全ての履修及び単位の修得を卒業要件とする。これらはいずれも、スポーツウエルネス学分野の基礎理論に関する科目並びにスポーツ指導者に求められるコミュニケーション能力及び対人スキルを身につけるために必要な科目である。スポーツウエルネス学部の専門教育への導入と初期展開及び学修の集大成をはかるため、14 単位の修得が必要である。

#### **(卒業研究科目) ※4 単位又は 10 単位**

ベシクコース(4 単位) 及びアドバンストコース(10 単位) のいずれかの履修及び単位の修得を卒業要件とする。いずれも、演習科目としての 2 単位と、卒業研究に必要な学修等を考慮して単位数を設定している。

ベシクコースは、自分の問題関心に即して自分の問題意識を掘り下げ、スポーツ分野とウエルネス分野からそれぞれ 1 つの課題を選出し、各領域からの課題を達成する文献研究のため、卒業研究としては 2 単位とする。

アドバンストコースは、自分の専門を定めて自分の問題意識を掘り下げ、深く研究を進めて論文を作成することを目標としており、これまでの本学部における学習の総括として行うもので、それぞれの関心に応じてテーマを設定し、「卒業研究指導演習」に所属し、教員の指導によりながら研究に取り組むものであるため、卒業研究としては 8 単位とする。

#### **(専門基礎科目) ※22 単位**

運動方法学演習は専門分野を学ぶときの基本的な運動技術とトレーニング方法を学ぶものである。また、様々な球技スポーツ、武道、校外集中型の科目を展開し、より幅の広い学修ができるようになっていたため、「運動方法学演習」として開講している 16 科目のうち、6 科目の履修及び単位の修得(12 単位) を選択必修として卒業要件とする。

「運動方法学演習」以外は全て選択となるが、スポーツウエルネス学部での専門的な学修を基礎づける科目であり、学部での学修の基礎となる科目が配置されているため、10 単位(5 科目) の修得が必要である。1 年次での履修を勧める。

#### **(専門基幹科目) ※12 単位又は 10 単位**

全ての科目が選択科目である。また、卒業研究科目としてベシクコースを選択するか又はアドバンストコースを選択するかにより、必要な単位数が異なる。前者を選択した場合は 12 単位(6 科目)、後者を選択した場合は 10 単位(5 科目) が必要となる。

専門基幹科目は、学部での学修の核となる、各領域における特徴的な科目群であり、スポーツウエル

ネス学部での学修の基幹をなす科目で、問題意識を拓げるとともに、学修課題へのアプローチの方法などを学ぶ科目群が設定されているため、ベーシックコース選択者は12単位、アドバンストコース選択者は10単位の修得が必要である。これらは2年次から4年次までのいずれの学年でも履修可能である。

#### （専門展開科目）※22単位又は18単位以上

全ての科目が選択科目である。また、専門基幹科目と同様、卒業研究科目としてベーシックコースを選択するか又はアドバンストコースを選択するかにより、必要な単位数が異なる。前者を選択した場合は22単位（11科目）、後者を選択した場合は18単位（9科目）が必要となる。

専門展開科目は、1年次及び2年次で学んできた問題意識を拡大するための科目群であり、学修のまとめとなるような原論的な科目、具体的、個別的な関心に対応した科目が設定されているため、ベーシックコース選択者は22単位、アドバンストコース選択者は18単位の修得が必要である。これらは3年次以上の学年で履修可能である。

#### （専門英語科目）※4単位以上

全ての科目が選択科目である。英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応でき、また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎を身につけるため、4単位（2科目）の修得が必要である。

#### （自由科目）※20単位以上

全ての科目が選択科目である。各科目区分で卒業要件単位数を超えて履修した授業科目の単位数のほか、他学部他学科の授業科目等についても、自由科目として卒業要件に参入することができる。

#### ○履修モデル

資料2のとおりである。

#### ○卒業研究に係る単位認定

本学部では、卒業研究を行うことを卒業要件としており、学生は「卒業研究指導演習（ベーシックコース）」又は「卒業研究指導演習アドバンストコース」のいずれかを必ず履修することになる。両者とも、演習科目としての単位数は他の講義科目と同様2単位であるが、卒業研究自体に必要な学修等を考慮して、前者は2単位（計4単位）、後者は8単位（計10単位）としている。

なお、卒業研究指導演習（ベーシックコース）」は、自分の問題関心に即して自分の問題意識を掘り下げ、スポーツ分野とウエルネス分野からそれぞれ1つの課題を選出し、論文を作成することを目標としている。

また、「卒業研究指導演習（アドバンストコース）」は、専門展開科目である3年次の「専門演習1」及び「専門演習2」の履修を経て、自分の専門を定めて自分の問題意識を掘り下げ、深く研究を進めて論文を作成することを目標としている。

#### ○CAP制の設定

各学期において履修する科目の単位数は、4月に履修計画を立てる際に、各学期の必修科目の単位数や春学期・秋学期のバランスを考え、偏らないようにするため、32単位を上限とする。ただし、年間における履修登録上限単位数は48単位とする。なお、履修登録をした科目で単位を修得できなかった科目も、履修登録上限に含まれる。

また、全学共通科目の総合系科目については、過度な登録を防ぐため、全学年において、各学期の履修登録上限を6単位とする。

#### ○他大学における授業科目の履修

多数の大学が所在する東京に位置している利点を生かして、幅広い学修機会提供のために学部レベル

での他大学における授業科目の履修等も支援することを基本的な方針とし、5大学間単位互換制度（f-Campus）を行っている。f-Campus とは学習院大学、学習院女子大学、日本女子大学、早稲田大学、本学の5大学間における単位互換制度であり、本学を除く他の4大学合計で年間12単位までを認めている。

これらの5大学はいずれも本部キャンパスが近接しており、学生がフットワークを使って通うことができる環境にあることを活かして、直接、他大学の授業に参加することによる新たな学修意欲の昂進や、複数の大学からの参加による授業の活性化等、様々な学修効果を目指している。

### ○コロナ禍による遠隔授業の利用

本学では、大きく分けて3種の授業形態（「対面科目」「オンライン科目」「オンデマンド科目」）を採用しているが、感染防止策を十分に講じた上で対面授業を実施することを基本方針としている。また、「オンライン科目」及び「オンデマンド科目」で修得した単位は、60単位まで卒業要件単位に含めることができる。しかしながら、首都圏の感染者数の増減傾向、文部科学省や各自治体、その他社会からの要請の有無、学内状況等を総合的に検討し、本学の活動制限指針（資料3）に基づき、制限レベルに基づく授業及び試験の実施内容を設定しているため、年度途中で制限レベルの設定が変更されることがある。「制限レベル1～4」に変更となった場合には、その時点の制限レベル設定に応じて、対面授業回の実施方法が変更（オンライン・オンデマンドによる実施に変更、オンライン同時配信併用で実施するミックス型授業に変更等）になる。

## ⑥実習の具体的計画

### ア 実習の目的

実習を通じて、本学部の教育目的における「すべての人の生きる喜びのために」という本学部の基本理念を理解・説明することができるとともに、実行にむけてさまざまな活動に意欲的に取り組むこと、また、本学部の学位授与の方針に位置付けている「ウェルネスとスポーツ活動及びそれらを取り巻く社会環境に関する知見と諸理論を包括したスポーツウェルネス学を体系的に理解できる」、「スポーツに関わる人々やスポーツの多様性を尊重し、行動することができる」、「自らのキャリア設計をすることができる」ことの3点を目的としている。

これらの目的を達成するため、アスレティックトレーナー、健康運動指導士及び教育実習の資格養成に関わる学外実習を正課科目として行う。これらの実習は、各活動を教育及びスポーツ現場で総合的に行う実習であり、どのような形で対象者にアプローチをしていくか、トレーナー、健康運動指導士及び教員の役割をいかに円滑に進めていくかがポイントになる。さらに、現場では様々な場面に遭遇することが予想されるが、どのような場面でも冷静かつ迅速に行動が起こし、実習を計画どおりに遂行し、成果を客観的に分析することがねらいである。

### イ 実習先の確保

#### （アスレティックトレーナー）

アスレティックトレーナー資格を持つ専任及び特任教員が、長年勤めた前任校のアスレティックトレーナー養成の専門学校又は大学にて、サッカー、ラグビー、野球、バスケットボール等、多様な競技種目のトップリーグに所属するチームに現場実習配属を依頼するなど、従前から連携してきた実績がある。また、本学部の前身であるコミュニティ福祉学部スポーツウェルネス学科の教員が個々にこれまで連携してきた実績を活かし、実習先として承諾を得る予定である。なお、アスレティックトレーナーについては、現在、公益財団法人日本スポーツ協会においてトレーナー養成に関するカリキュラム変更等を検討中のため、課程認定に関する新規申請を受け付けていない状況にあるが、受付開始次第、速やかに申

請作業を行う予定である。

#### （健康運動指導士）

本学部の前身であるコミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科では、10年以上にわたり、健康運動指導士が在籍するカワサキスイミングクラブ（神奈川県川崎市）に実習生を受け入れて頂いているため、本学部の実習でも同様に実習先として承諾を得ている（資料4）。

#### （教育実習）

毎年度、教育実習内諾書を送付し、受け入れ前年度の12月頃に東京都教育委員会等から「教育実習生受入決定通知書」を受領している（資料5）。また、私立学校については、一貫校の立教池袋中学校・高等学校及び立教新座中学校・高等学校、系属校の立教女学院中学校・高等学校及び香蘭女学校中等科・高等科に加え、東京都、神奈川県、京都府、大阪府及び兵庫県の学校による受入れ実績がある。

### ウ 実習先との契約内容

#### （アスレティックトレーナー）

実習内容、諸費用、賠償責任等を内容とする契約書を実習先と締結する予定である。また、学生には守秘義務に関する「誓約書」の提出を義務づける。

#### （健康運動指導士）

実習に際しては、実習先のカワサキスイミングクラブとの間で、実習の目的、実習内容、実習期間、賠償責任等を内容とする覚書を締結している（資料4）。また、学生には守秘義務に関する「誓約書」の提出を義務づけている。

#### （教育実習）

実習を行う学生ごとに、東京都教育委員会、一貫校、系属校等から、実習生所属（所属学部等）、実習生氏名、実習教科、実習校、実習校所在地、実習期間等を記載した教育実習内諾書を受領している。

### エ 実習水準の確保の方策

#### （アスレティックトレーナー）

目的を達成するための実習の具体的内容は、見学実習、検査・測定と評価実習、リコンディショニング（アスレティックリハビリテーション）実習、コンディショニング（ストレッチング、テーピング）実習、応急処置実習及び総合実習となる予定である。

実習を通じて習得しようとする具体的な知識・技能は、スポーツ医・科学の知識を有し、スポーツ現場においてスポーツをする人の安全と安心を確保し、パフォーマンスの回復や向上を支援するための知識・技能である。

実習先が複数施設の場合に、一定水準を確保するため、現場実習における指導者は公益財団法人日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの有資格者で、かつ、2年以上の経験を有する者とする。

成績評価方法は、事前及び事後指導における取組状況、実習先からの評価書等の内容、本人の実習日誌、発表等の内容を総合的に判定して行う。

#### （健康運動指導士）

まず1年生の4月のガイダンスにて健康運動指導士の資格には現場実習が必要な旨を全員に周知し、履修予定の学生には履修の前年にあたる1年次の11月に現場実習ガイダンスを行い、実習先の説明を行う。その後、希望者は現場実習を通じて学びたいことに対して小論文を執筆、提出を行い、その後、教員側で12月に1次（書類）選考を行う。1次選考を通過した学生に対して2次（面接）選考を行い、目的意識や実習先との適合性を確認した上で、履修生を決定する。

2年次は現場実習の水準を確保するため、春学期は事前学習として、ゼミ形式で実習先の団体におけ

る仕事内容やその背景となっている社会問題に関して学ぶと同時に、基本的なマナーや個人情報保護について研修を行う。また、実習先の会員とのやり取りも視野に入れた自己表現トレーニング講座を実施する。原則として夏季休業中（8月から9月中旬まで）に10日間の実習を実施し、実習先には本学所定の評価表に評価を記入してもらう。秋学期は事後学習として、ゼミ形式で現場実習を通じ、実際に個々の団体における実習経験をもとに、履修生同士が現場で得られた気づきや問題意識を共有し、深め合う。さらに、11月に開催する「現場実習報告会」においては、実習先の方々をお招きして、その成果を発表し、12月には最終レポートを作成する。最終レポートは2月に「報告書」としてまとめ、各実習先の皆様にも送る。

#### **（教育実習）**

実習の水準を確保するため、受講資格として以下の要件を定める。そのほか、「教育実習事前及び事後指導」の履修を通じ、実習生に対して適切な事前指導を行い、実習水準を確保する。

- （1）教職に関する科目について、原則として、1～3年次開講の必修科目（8科目16単位）全ての単位を修得していること。
- （2）ガイダンスへの出席を含め実習までに必要な所定の手続きを、すべて完了していること。
- （3）定期健康診断を受診し、健康に問題がないこと。
- （4）麻しん(はしか)のワクチン接種の証明もしくは、抗体が十分にあることが確認できること(麻しん[はしか])に関する確認書の提出)。
- （5）実習先から受入れについて承諾を得ていること。

### **オ 実習先との連携体制**

#### **（アスレティックトレーナー）**

実習先との連携は、本学部の教員（またはインターンシップ・キャリア支援室）が実務を担う予定である。担当教員は、実習が円滑に実施されるよう、実習前、実習中、実習後の各段階において、適宜、実習先との間で実習日程、実習期間、実習内容など、必要な連絡、調整を行う。実習前は、各実習先に内諾・承諾を得るための事前訪問を行い、実習指導者等の意見や要望を聴取するほか、事前準備や資格要件の確認等について必要な意見交換を行う。実習中及び実習後も、担当教員（又はインターンシップ・キャリア支援室）が実習先との間で必要な情報交換を行う。

#### **（健康運動指導士）**

実習先との連携は、本学部の「インターンシップ・キャリア支援室」が実務を担う。同支援室の教職員は、実習が円滑に実施されるよう、実習前、実習中、実習後の各段階において、適宜、実習先との間で実習日程、実習期間、実習内容など、必要な連絡、調整を行う。実習前は、各実習先に内諾・承諾を得るための事前訪問を行い、実習指導者等の意見や要望を聴取するほか、事前準備や、資格要件の確認等について必要な意見交換を行う。実習中及び実習後も、インターンシップ・キャリア支援室が実習先との間で必要な情報交換を行う。

#### **（教育実習）**

実習先との連携は、本学の「学校・社会教育講座」が実務を担う。同講座の教職員は、教育実習が円滑に実施されるよう、実習前、実習中、実習後の各段階において、適宜、実習先との間で実習日程、実習期間、実習内容など、必要な連絡、調整を行う。実習前は、各実習校等に内諾・承諾を得るための事前訪問を行い、実習指導者等の意見や要望を聴取するほか、事前準備や資格要件の確認等について必要な意見交換を行う。実習中及び実習後も、学校・社会教育講座が実習先との間で必要な情報交換を行う。



## カ 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

全ての実習に共通して、全学生に対して入学時に麻疹・風疹・水痘・おたふくかぜワクチン・新型コロナウイルス感染症等の予防接種調査を実施し、予防接種歴・罹患歴がない学生については予防接種を受けるよう指導する。また、感染予防対策につき、実習校から事前に指示があった場合は、これに従うよう指導する。また、本学部では、実習中の事故及び損害賠償に対応するものとして、公益財団法人日本国際教育支援協会が運営する「学生教育研究災害傷害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険」に全員が加入をしている。

## キ 事前・事後における指導計画

### （アスレティックトレーナー）

事前学習として、実習の前年（2年次）は、実習目的・実習要件・実習方法等について担当教員が事前指導を行う予定である。具体的には、実習に対する心構え、実習に向けた基礎知識とスキルの確認、実習日誌の書き方、挨拶や服装などの諸注意について、詳細に指導する。

事後学習として、実習終了後（4年次）は、現場実習での自身の経験について報告・共有し、担当教員を含めた学生間のディスカッションを通じて各々の課題を明確にするなど、実習を振り返り、反省点や課題の検討を中心とした事後指導を行う。

### （健康運動指導士）

春学期は事前学習として、ゼミ形式で現場実習先の団体における仕事内容やその背景となっている社会問題に関して学ぶと同時に、基本的なマナーや個人情報保護について研修を行う。また、実習先の会員とのやり取りも視野に入れた自己表現トレーニング講座を実施する。原則として夏季休業中（8月から9月中旬まで）に10日間の実習を実施し、実習先には本学所定の評価表に評価を記入してもらう。秋学期は事後学習として、ゼミ形式で現場実習を通じ、実際に個々の団体における実習経験をもとに、履修生同士が現場で得られた気づきや問題意識を共有し、深め合う。さらに、11月に開催する「現場実習報告会」においては、実習先の方々をお招きして、その成果を発表し、12月には最終レポートを作成する。最終レポートは2月に「報告書」としてまとめ、各実習先の皆様にも送る。

### （教育実習）

3～4年次を通じて開講される「教育実習事前及び事後指導」の履修を義務付け、下記の指導を行う。

実習の前年度（3年次）は、実習目的・実習要件・実習方法等について担当教員が事前指導を行う。具体的には、実習に対する心構え、実習日誌の書き方、生徒観察の方法、板書や発問の方法、挨拶や服装などの諸点につき、詳細に指導する。特に、模擬授業においては、学校長経験者等の外部ゲストを招いて説明会や質問会を設けるなど、教育現場の実情を踏まえた多面的、かつ具体的な指導を行う。

実習終了後（4年次）は、実習を振り返り、反省点や課題の検討を中心に事後指導を行う。具体的には、研究授業の指導案に基づいた模擬授業を再現し、担当教員を含めた学生間のディスカッションを通じて各々の課題を明確にする。さらに、4年次の「教職実践演習」の履修を通じて、教育実践に必要な教職教育の総括的な指導を行う。

## ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

※資料6のとおり、それぞれの専任教員1名につき年間2回のみ巡回指導であるため、教員の負担等の観点から、無理のない計画となっている。

### （アスレティックトレーナー）

本資格取得における実習に関して、教員及び助手の配置は求められておらず、実習先に本学部の教員及び助手を配置する予定はないが、実習先への巡回指導については、本学部の教員が行う予定である。

巡回ローテーションは、専任教員が交代で巡回する予定であり、特定の教員に過度な負担がかかることはない。

#### （健康運動指導士）

本資格取得における実習に関して、教員及び助手の配置は求められておらず、実習先に本学部の教員及び助手を配置する予定はないが、実習先への巡回指導については、本学部の教員が行う。巡回ローテーションは、専任教員が交代で巡回する予定であり、特定の教員に過度な負担がかかることはない。

#### （教育実習）

本資格取得における実習に関して、教員及び助手の配置は求められておらず、実習先に本学部の教員及び助手を配置する予定はないが、実習先への巡回指導については、全学教員養成会議が決定する計画に基づき、学校・社会教育講座の教員又は本学部の教員が行い、特定の教員に過度な負担がかかることはない。

### ケ 実習施設における指導者の配置計画

#### （アスレティックトレーナー）

学生数に応じた必要な指導者が配置されている実習先を選定する。指導に当たる実習指導者は資格取得に必要なアスレティックトレーナーの資格を有していることとする。実習の達成目標等については、事前訪問時に指導者に対して資料にて配布するとともに説明を行い確認する。

#### （健康運動指導士）

学生数に応じた必要な指導者が配置されている実習先を選定する。指導に当たる実習指導者は資格取得に必要な健康運動指導士の資格を有していることとする。実習の達成目標等については、事前訪問時に指導者に対して資料にて配布するとともに説明を行い確認する。

#### （教育実習）

実習先は、学校法人であり、指導教員は配置されている。実習先に本学部の教職員を配置する予定はないが、学校・社会教育講座が実習先と緊密に連携して実習が円滑に実施されるよう努める。実習生に対しては、訪問指導担当教員を配置して、実習前の面談、実習中の実習校訪問指導を行う。実習校訪問に当たっては実習生の研究授業等、担当授業を参観した上で、実習生への指導を行うとともに、実習先担当者とも適宜意見を交換し、適切な実習の運営に努め、実習訪問終了後には「教育実習の記録」「教育実習事後レポート」「研究授業で使用した授業案」を提出する。また、実習中の欠席・事故等の対応については実習校、実習生、訪問担当教員からの連絡を受け、担当教員が中心となり全学教員養成会議において協議しながら対応する。

### コ 成績評価体制及び単位認定方法

#### （アスレティックトレーナー）

成績評価及び単位認定は、事前及び事後指導における取組状況、実習先からの評価書等の内容、本人の実習日誌、発表等の内容を踏まえ、実習科目担当教員が総合的に判定して行う。

#### （健康運動指導士）

成績評価及び単位認定は、事前及び事後指導における取組状況、実習先からの評価書等の内容、本人の実習日誌、実習報告会の発表、実習報告書等の内容を踏まえ、実習科目担当教員が総合的に判定して行う。

#### （教育実習）

「中・高教育実習」「高校教育実習」の単位は、以下の点を総合して担当教員が評価する。

1. 「教育実習直前指導」への出席

2. 実習校からの評価
3. 「教育実習の記録」「教育実習事後レポート」「研究授業で使用した授業案」

なお、以下に該当した場合は、単位を認めない。

1. 「教育実習直前指導」に無断欠席した場合
2. 「教育実習の記録」「教育実習事後レポート」「研究授業で使用した授業案」を期限内に提出しなかった場合

## ⑦企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

### ア 実習先の確保

専門基幹科目である「インターンシップ」の履修を通じて、企業実習（インターンシップ）を実施する。インターンシップの受入れを承諾している企業等は、**（資料 7、8）**のとおりである。実習先は、実習内容により、「スポーツ協会系」（スポーツ又はレクリエーションに関する団体及び組織）、「企業系」（マネジメントや販売に関する企業）及び「スポーツ団体系」（地域スポーツや生涯スポーツに関する団体及び組織）に区分する。

### イ 実習先との連携体制

#### （現地実習への事前準備）

実習前においては、インターンシップの担当教員が、実習先の企業等の事務担当者（実習先事務担当者）との間で、（1）連絡体制、（2）受入れ人数、（3）実習前後の指導方法、（4）実習内容、（5）評価の方法、（6）事故が起きた際の責任体制、（7）施設利用者の個人情報保護及び（8）巡回指導体制等についての調整を行う。学生は、本学部内に設置される「インターンシップ・キャリア支援室」において、必要な手続きを行う。「インターンシップ・キャリア支援室」の担当職員は、実習先事務担当者との間で、必要な事務手続きを行う。

#### （指導体制）

#### 1. 春学期：事前学習

ゼミ形式で実施する（隔週）。インターンシップ先の団体・企業における仕事内容やその背景となっている社会問題に関して学ぶと同時に、基本的なマナーや個人情報保護について研修を行う。また、授業内で就職活動も視野に入れた「自己表現トレーニング」等を実施する。

#### 2. 夏季休暇期間：インターンシップ

原則として夏季休業中（8月から9月中旬まで）に10日間以上実施する。現地実習期間中、実習先は、実習生の指導を担当する「実習指導者」を配置する。現地実習期間中、インターンシップの担当教員は、巡回指導を実施し、実習生が作成する「実習日誌」等を参考に実習生との面談を行うとともに、実習指導者との間で必要な情報交換を図る。実習指導者は、実習中の実習生の評価等を記載した「インターンシップ実習評価報告書」**（資料 9）**を作成し、授業担当者に提出する。現地実習期間の終了後、実習生に対する事後指導に活かすべく、担当教員と実習指導者は、インターンシップ実習評価報告書、実習日誌等をもとに、必要な情報交換を行う。

#### 3. 秋学期：事後学習

ゼミ形式で実施する（連続）。インターンシップを通じ、実際に個々の団体や企業における実習経験をもとに、履修生同士が現場で得られた気づきや問題意識を共有し、深め合う。また、就職支援も兼ねてグループディスカッションに特化した授業を実施する。また、社会人になってからも役立つ知識

として、労働法や権利行使についても学ぶ。さらに、11月に開催する「インターンシップ報告会」においては、実習先の方々をお招きしてその成果を発表し、12月には最終レポートを作成する。最終レポートは2月に「報告書」としてまとめ、各実習先にも送付する。

#### ウ 成績評価体制及び単位認定方法

「インターンシップ」の成績評価は、現場実習の評価（50%）、授業への出席及び学習態度（25%）、レポート・報告会（25%）を担当教員が総合的に判断して行い、単位を認定する。なお、実習生学生は、所定の書類（実習先確認用紙、誓約書、履歴書、実習記録）を全て提出することが義務付けられる。

#### エ その他特記事項

学内手続きと選考は以下のとおりである。

- ・次年度履修生募集ガイダンス開始(前年度10月～)
- ・1次（書類）選考（前年度12月）  
→希望者は「小論文」を執筆のうえ提出  
内容：「インターンシップを通じて、あなたが学びたいことを具体的に論じなさい」
- ・2次（面接）選考（前年度12月～1月）  
→1次選考を通過した者に対し、系別に担当教員が面接を実施
- ・最終選考合格発表：1月（履修開始：次年度4月）

### ⑧取得可能な資格

本学部で取得できる資格は表のとおりである。

資格名	区分	資格取得又は受験資格	修了要件	本学部以外の追加科目
教育職員免許状	国家	資格取得	含めない	なし
アスレティックトレーナー（検討中）	民間	資格取得	含めない	なし
健康運動指導士	民間	資格取得	含めない	なし
レクリエーション・インストラクター	民間	資格取得	含めない	なし
初級障がい者スポーツ指導員	民間	資格取得	含めない	あり
中級障がい者スポーツ指導員	民間	資格取得	含めない	なし
キャンプインストラクター	民間	資格取得	含めない	なし
スポーツリーダー	民間	資格取得	含めない	なし

教育職員免許状を除く、各資格の詳細は以下のとおりである。

#### （アスレティックトレーナー）

本学部の学生には公益財団法人日本スポーツ協会が認定する「アスレティックトレーナー」の受験資格を取得できるカリキュラムを用意している。公益財団法人日本スポーツ協会は、生涯スポーツ社会の実現を目指し、生涯を通じた「快適なスポーツライフ」を構築するため、その推進の中心となるスポーツ指導者を養成している。公認スポーツ指導者は、スポーツ医・科学の知識を活かしてスポーツを「安全に、正しく、楽しく」指導し、その「本質的な楽しさ・素晴らしさ」を伝える役割を担う。アスレティックトレーナーは、1)スポーツ活動中の外傷・障害予防、2)コンディショニングやリコンディショニング、3)安全と健康管理、及び4)医療資格者へ引き継ぐまでの救急対応という4つの役割に関する知識と実践する能力を活用し、スポーツをする人の安全と安心を確保したうえで、パフォーマンスの回復や向上を支援する指導者である。その指導対象は、日本代表やプロスポーツ選手などとして活動する競技者のみならず、地域スポーツクラブ、学校・大学等の運動部活動、民間スポーツ施設、地域のスポー

ツセンターなどでスポーツ活動をする全ての人々である。資格の申請に必要な科目は表のとおりである。

アスレチックトレーナーの役割	コンディショニング概論	コンディショニングの方法	コンディショニングの実際
インターンシップ実習 1	インターンシップ実習 2	アスレチックリハビリテーション実習 1	アスレチックリハビリテーション実習 2
アスレチックリハビリテーション実習 3	アスレチックリハビリテーション実習 4	アスレチックリハビリテーション&コンディショニング概論	アスレチックリハビリテーション&コンディショニング 1
アスレチックリハビリテーション&コンディショニング 2	測定と評価	スポーツ医学（内科）	スポーツ福祉心理学（応用）
運動・スポーツ栄養学（応用）	解剖学 1	解剖学 2	スポーツ医学（外傷・障害） 1
スポーツ医学（外傷・障害） 2	救急処置	バイオメカニクス	スポーツ科学総論
運動生理学	生理学		

#### （健康運動指導士）

本学部の学生には公益財団法人健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動指導士」の受験資格を取得できるカリキュラムを用意している。この資格は、平成 18 年度の医療制度改革で、今後わが国で展開される本格的な医療費適正化対策の柱の一つとして、国民の健康づくりのための運動を指導する専門家養成の必要性から、生活習慣病を予防し、健康水準を保持・増進することを目的として作られたものである。

本学部の前身であるコミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科は「健康運動指導士養成校」として公益財団法人健康・体力づくり事業財団に認定されている。そのため、本学部においても開設初年度から、認定を受けることとなる。資格に必要な単位を修得後、4 年次に所定の手続きを経ることにより、約 21 日間 180 時間に及ぶ講習会を受けなくても「健康運動指導士認定試験の受験資格」が与えられる。受験希望者は、所定の期間に受験票などの必要書類を揃え、受験希望者本人が、公益財団法人健康・体力づくり事業財団に受験申請を行う。

資格の申請に必要な科目表のとおりである。

福祉スポーツ学論	スポーツ医学（外傷・障害） 1	生活習慣病の科学	運動生理学
バイオメカニクス	ストレングス・コンディショニング論（基礎）	測定評価演習	運動方法学演習 9
健康運動指導演習	コンディショニングの実際	インターンシップ実習 1	インターンシップ実習 2
運動処方・療法実習	運動障害と運動負荷試験	スポーツ福祉心理学（基礎）	運動・スポーツ栄養学（基礎）
スポーツ福祉ワークショップ B			

#### （レクリエーション・インストラクター）

本学部の学生には公益財団法人日本レクリエーション協会が認定する「レクリエーション・インストラクター」資格を取得できるプログラムを用意している。この資格は健康づくり、福祉現場に必要なレクリエーションという世界に興味・関心を持ち、多様なレクリエーション活動を支援する人材を養成することを目的として作られたもので、人と人との楽しい交流を促進させる技術を習得する。本学科は課程認定を受けているため、資格を得るためには本学科が指定した科目を履修して単位を修得して、公益財団法人日本レクリエーション協会に申請することが必要となる。また、資格取得後は「福祉レク・ワーカー」や「レク・コーディネーター」などの資格へステップアップすることができる。

資格の申請に必要な科目は表のとおりである。

レクリエーション援助論	レクリエーション援助演習	エバーグリーンスポーツ援助技術演習	障害者スポーツ論
※上記 4 科目に加え、以下の 3 科目から 1 科目			

運動方法学演習 6	インターンシップ	教育実習科目	
-----------	----------	--------	--

**(初級障がい者スポーツ指導員・中級障がい者スポーツ指導員)**

本学部の学生には公益財団法人日本パラスポーツ協会が認定する、「公認障がい者スポーツ指導者制度」による「初級障がい者スポーツ指導員」「中級障がい者スポーツ指導員」資格を取得できるカリキュラムを用意している。この資格は、障害者のスポーツの振興をはかることを目的とした指導者資格で、多様な障害者の障害内容に基づいた健康や安全管理を重視し、スポーツとの出会いの機会を演出し、スポーツの喜びや楽しさを理解させることに重点をおいたもので、障害者にスポーツの生活化を促進する指導技術の獲得をめざすものである。

資格の申請に必要な科目は表のとおりである。

<b>初級障がい者スポーツ指導員</b>			
ノーマライゼーション論	障害学入門	アダプテッド・スポーツ論	障害者スポーツ論
※「ノーマライゼーション論」及び「障害学入門」については、他学部開講科目の履修が必要。			
<b>中級障がい者スポーツ指導員</b>			
リハビリテーション論	発育・発達・加齢論	アダプテッド・スポーツ論	スポーツ社会学
運動生理学	スリング・コメディエーション論(基礎)	運動障害と運動負荷試験	ｽﾎﾟｰﾂﾏｲﾝﾄﾞ心理学(基礎)
運動・ｽﾎﾟｰﾂ栄養学(基礎)	障害者スポーツ論	障害者スポーツ実践論	ｽﾎﾟｰﾂﾏｲﾝﾄﾞｸﾞﾚｯｼﾞﾌﾞ A
ｽﾎﾟｰﾂﾏｲﾝﾄﾞｸﾞﾚｯｼﾞﾌﾞ B	ｽﾎﾟｰﾂﾏｲﾝﾄﾞｸﾞﾚｯｼﾞﾌﾞ C	エビデンスに基づく支援技術演習	
※上記 15 科目に加え、80 時間以上の障がい者スポーツにおけるボランティア活動実績が必要			

**(キャンプインストラクター)**

本学部の学生には、公益社団法人日本キャンプ協会が認定する「キャンプインストラクター」資格を取得できるプログラムを用意している。キャンプインストラクターとは、キャンパーとじかに接しながら、プログラム等の指導を行う役割を持った指導者である。この資格取得に関しては、キャンプの意義やキャンプの安全について学ぶとともに、実際にキャンプのプログラムを体験しながら、プログラムの指導についても学ぶ。本学部の前身であるコミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科は課程認定を受けているため、本学部においても開設初年度から、認定を受けることとなる。資格を得る為には本学科が指定した科目を履修し単位を修得して、公益社団法人日本キャンプ協会に申請することが必要となる。また、この資格は「キャンプディレクター1級」や「キャンプディレクター2級」へとステップアップするための基礎資格となる。

資格の申請に必要な科目は、「運動方法学演習 6」の単位修得が必要とされる。

**(スポーツリーダー)**

本学部の学生には公益財団法人日本スポーツ協会が認定するスポーツ指導者「スポーツリーダー」資格を取得できるプログラムを用意している。日本スポーツ協会は、生涯スポーツ社会の実現を目指し、生涯を通じた「快適なスポーツライフ」を構築するため、その推進の中心となるスポーツ指導者を養成している。公認スポーツ指導者は、スポーツ医・科学の知識を活かしてスポーツを「安全に、正しく、楽しく」指導し、その「本質的な楽しさ・素晴らしさ」を伝える役割を担う。スポーツリーダーとは、地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる役割であり、スポーツ指導の基礎的知識を学ぶ資格である。

資格の申請に必要な科目は表のとおりである。

スポーツ社会学	スポーツコーチ学	スポーツ政策	発育・発達・加齢論
ｽﾎﾟｰﾂ医学(外傷・障害) 1	ｽﾎﾟｰﾂﾏｲﾝﾄﾞ心理学(基礎)	運動・ｽﾎﾟｰﾂ栄養学(基礎)	スポーツマネジメント論

スポンジ・コンディショニング論(基礎)	アスレティックリハビリテーション&リハビリ コンディショニング 1		
---------------------	--------------------------------------	--	--

## ⑨入学者選抜の概要

### ○入学者受入れの方針

スポーツウエルネス学部は、「すべての人の生きる喜びのために」という基本理念に立ち、スポーツウエルネス学の教育研究を通じて、人間の可能性の追求と誰もが快適で活力に満ちたウエルネス社会の実現に寄与する構築に貢献できる人材を養成することを目的とする。

これらを踏まえた入学者受入れの方針は以下のとおりである。

#### 教育目的

「すべての人の生きる喜びのために」という基本理念に立ち、スポーツウエルネス学の教育研究活動を通じて、人間の可能性の追求と誰もが快適で活力に満ちたウエルネス社会の実現に寄与する人材を養成する。

#### 教育内容

本学部では「スポーツウエルネス学」を教育研究の中心に位置付ける。「スポーツウエルネス学」は、すべての人間の適応可能性を広げ、スポーツパフォーマンスの向上とスポーツ文化の創造に寄与するための理論と方法論の構築をめざすスポーツ科学と身体的、精神的障害を予防しながら、幸福で充実した人生を送るために、より創造的に心身の健康を探求し、維持・発展させる理論と方法論の構築をめざすウエルネス科学とを融合させた学問体系であり、スポーツ並びにウエルネスに関わる様々な課題を対象として総合的に研究し、スポーツ推進とウエルネスの向上に寄与することを目的としている。

本学部では、スポーツウエルネス学を構成するスポーツ分野とウエルネス分野の2つの研究分野を対象とする。中心的な学問分野は以下のとおりである。スポーツ分野としては、「トレーニング科学」、「スポーツ医学」、「バイオメカニクス」、「スポーツ心理学」、「スポーツ方法学」、「スポーツ栄養学」、「トレーナー科学」、「スポーツマネジメント」であり、ウエルネス分野としては、「スポーツ社会学」、「環境教育学」、「環境生理学」、「ジェンダー学」、「健康心理学」、「分子細胞生物学」、「データサイエンス」、「スポーツ・健康産業」である。また、卒業後の進路に関連する、アスリートパフォーマンス、ウエルネススポーツ及び環境・スポーツ教育の3つ人材養成像を掲げ、それぞれに関連する科目群を履修モデルとして提示している。

また、1年次より少人数の基礎的な演習科目で学び、2年次より3年間にわたり専門分野に関する演習科目で学ぶ。さらに、全学共通カリキュラムで開講されている多様な科目を履修し、専門分野の枠を超えた幅広い知識と教養を身につけるとともに、外国語（英語に加えてもう1言語）運用能力と情報処理能力を身につける。

#### 指導体制

- 専任教員1名あたり1学年少人数（10名程度）での教育を行っている。
- 在学期間を通して学生1名につき専任教員1名が担任（アカデミック・アドバイザー）として適宜アドバイスを与えるとともに、オフィスアワーを導入し学業や大学生活について常時相談できる体制を作っている。

- 演習科目と実習科目は教員および大学院生のティーチングアシスタント（TA）を複数配置し、一人一人の学生に指導が行き届くような環境を用意している。
- コンピュータ室および実験室を開放し、授業時間以外での自習ができる環境を提供している。
- 生理学、心理学、栄養学、生化学、バイオメカニクス、トレーニング科学などの実験のための多様な実験室および実験設備を用意している。
- 基幹的な科目については主な教科書・参考書・演習書が図書館に蔵書されている。毎年蔵書数を増やし、学生が深く・広く学ぶ環境を用意している。
- 3年次の専門演習、4年次の卒業研究等を通して、一人の教員あたり少人数の学生が分析的・論理的に調査・研究に取り組み、主体的に学ぶ力、課題解決能力、発表力を高めるための指導を行っている。
- 「キャリア形成論」や正課としての「インターンシップ」などを通じてキャリア教育を積極的に展開している。
- スポーツ・ウェルネス関係団体やアスリート・パラアスリート、企業人等を積極的に講師に迎え、現場の課題に対する関心を深めることができる。
- 大学院進学希望者には4年次から大学院前期課程に開講された講義を受講できる、実質的な飛び級制度の特別進学生制度を導入している。
- 指導力向上のための教員研修（FD）を実施し、指導力の向上に日々努めている。
- 海外の大学と学部間協定を積極的に結んでおり、留学や海外への短期訪問など、海外体験を推奨している。

### 指導法

- 基礎を重視した講義・実習・演習を交えた体系的カリキュラムで、専門とする科学を系統立てて学習する。
- 学生自らが課題設定をして企画・実行する活動を導入している科目がある。
- 筆記試験やレポートだけでなく、プレゼンテーションを重視した科目がある。
- ゼミナールでは高度な専門教育はもちろん、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなど少人数授業の特性をいかした指導を行なっている。また、ゼミナールは、教員と学生が身近に接する場でもあり、合宿や多様な企画を通じて単なる学問を超えた人生観や社会生活全般にわたった教育を行なっている。

### 入学者に求める知識・技能・姿勢・体験

本学部の教育目的に賛同し、以下のような知識・技能・態度・体験を有する学生を求めている。

#### 知識

スポーツウェルネス学に関する特別の知識などは必要がないが、高等学校教育課程の全ての科目に対し真面目に取り組み相応の知識を有している必要がある。

#### 技能

授業を理解し、調査・分析・発表・討論を行うために必要となる日本語の能力を有することが必要



である。コンピューターの基本ソフトをある程度操作できることが望まれる。「英語」に関しては、読む、書く、話す、聞くといった能力を高等学校で十分に身につけておくことが必要である。

## 態度

文化の差異・性別・しょうがい等に対して偏見をもたず、さまざまな文化背景・生活体験を有する人たちと良好な人間関係を構築し、協働的に活動できる素地があることが重要と考えている。また、スポーツウエルネス学に関する興味・関心があり、学問的に探求する志を有していることが必要である。

## 体験

基本的には高等学校で学習や行事に積極的かつ真面目に取り組んできた体験が大事である。その上でスポーツやクラブ活動、生徒会活動、ボランティアなど、何か真剣に取り組んできたことがあればより望ましいことと考える。これまでの体験の意味を深く考え、それを今後に生かしていこうとする気持ちを持つことが望まれる。

## 入試種別の目標

### 1. 一般入試

本学ならびにスポーツウエルネス学部の教育目的を理解し、スポーツウエルネス学部での教育を志望する者に対して、高等学校における教科・科目の学習の達成度を測り、選抜することを目的とする。

### 2. 大学入学共通テスト利用入試

本学ならびにスポーツウエルネス学部の教育目的を理解し、スポーツウエルネス学部での教育を志望する者に対して、高等学校における教科・科目の学習の達成度を、大学入学共通テストを利用して測定し、選抜することを目的とする。

### 3. 自由選抜入試

志望する学部に関連した高い能力をもつ者、あるいは学業以外の諸活動の分野に秀でた個性をもつ者で、本学ならびにスポーツウエルネス学部の教育目的を理解し、そこで学びたいという熱意を提出書類及び面接等の内容により多面的・総合的に評価し、選抜することを目的とする。

### 4. アスリート選抜入試

スポーツ競技の実績が優秀であるだけでなく、人格的にも優れ学業に対する高い意欲をもつ者を、競技実績や提出書類、小論文、面接等の内容により多面的・総合的に評価し、選抜することを目的とする。

### 5. 外国人留学生入試

国際交流の一環として、交換留学制度とは別に、本学での教育を希望する外国人留学生を選抜することを目的とする。

#### 1) 書類選考による募集制度

外国人留学生を、提出書類および日本留学試験の成績等の内容により、多面的・総合的に評価する。

### 6. 社会人入試

大学で学ぶ意欲をもつ社会人を、提出書類や小論文、面接等の内容により、多面的・総合的に評価

し、一般入試とは別の入学試験によって選抜することを目的とする。

#### 7. 指定校推薦入学

スポーツウエルネス学部が自らの教育目的に基づいて、特色ある教育を行っている高等学校を指定したうえで、スポーツウエルネス学部の教育目的を理解し、スポーツウエルネス学部が定める一定の学力を有する者を高等学校長が推薦しスポーツウエルネス学部が受け入れることを目的とする。

#### 8. 関係校推薦入学

日本聖公会に所属する高等学校を対象として、本学ならびにスポーツウエルネス学部の教育目的を理解し、キリスト教に基づく教育を継続して学びたいという意欲のある者を高等学校長が推薦し本学が受け入れることを目的とする。

#### 9. 学校長推薦による入学 (NEXUS)

NEXUS プログラム日本語集中履修期間のカリキュラム内容ならびに2学期目以降に接続するスポーツウエルネス学部カリキュラムにおける教育目的に基づいて、特色ある教育や言語教育を行っている外国の高等学校を指定したうえで、次世代に繋がるグローバルな協働共生について日本語コミュニケーションを通じ実践する姿勢を持ち、かつスポーツウエルネス学部の教育目的を理解し、本学が定める一定の学力を有する者を当該の高等学校長が推薦し、スポーツウエルネス学部が受け入れることを目的とする。

#### 入学前学習

REO (Rikkyo English Online) を利用した英語学習を課している。また、指定校推薦入学・関係校推薦入学・自由選抜入試合格者・アスリート選抜入試の合格者に対しては入学前に読んでおくべき推薦図書リストを送付している

### ○入学者選抜

#### (選抜方法、選考基準等)

本学部の設置の趣旨及び入学者受入れの方針に基づき、学校法人としての公共性と私学としての独自性を勘案しながら、入学者選抜を実施する (入学定員 230 名)。

本学では、一定の高い基礎学力を持ち、かつ、知的好奇心が旺盛で、本学の理念である自由の学府の精神に富む、勉学意欲の高い学生を、わが国をはじめ世界から多数迎え入れている。スポーツウエルネス学部では、「一般入試」をはじめとして「大学入学共通テスト利用入試」、「アスリート選抜入試」、「自由選抜入試」、「社会人入試」等の多様な入試を実施する予定である。これらの多様な入試形態を通して、スポーツマインドを持ちかつ学力に優れた受験生から高い競技力と学力を持つ受験生まで、多様な個性をもった学生を受け入れ、大学がより豊かで充実した学問の場となることを目指す。スポーツには「する」という関わり方だけではなく、「みる」、「ささえる」など様々な関わり方がある。本学部ではそのような幅広いスポーツウエルネス学を真摯に探求し、スポーツの価値の向上やスポーツ科学の発展に大いに貢献できる人材を受け入れる。

#### (入試区分ごとの募集人員)

入試区分ごとの募集人員は表のとおりである。

入試区分	募集人員	概要
一般入試	約 90 人	独自試験を課す入試。外国語については全ての学部で英語資格・検定試験又は大学入学共通テストの「外国語 (『英語』)」を活用。
大学入学共通テスト利用入試	約 20 人	大学入学共通テストの成績で合否判定する入試。

(3科目型)		
大学入学共通テスト利用入試 (6科目型)	約10人	
自由選抜入試	約30人	本学部に関連した高い能力を持つ者又は学業以外の諸活動に秀でた個性を持つ者で、教育目的を理解し、本学部で学びたいという熱意のある学生を受け入れることを目的とした入試。
アスリート選抜入試	若干名	スポーツ競技の実績が優秀であるだけでなく、人格的にも優れ、学業に対する高い意欲を持つ者を選抜する入試
社会人入試	若干名	本学部で学ぶ意欲を持つ社会人を、一般入試とは別の入学試験によって受け入れる。なお、入学は学部1年次であり、授業は昼間に行われ、他の学生と同じ条件の下で所定の課程を修める。
外国人留学生入試	約4人	国際交流の一環として、交換留学制度とは別に、本学部での教育を希望する外国人留学生のための入試(書類選考)。

※その他関係校及び指定校推薦で約60人

## ○社会人の受入れ

### (社会人の定義(出願資格))

社会人の入試の出願資格は以下のとおりである。

1. 2023年4月1日現在満21歳以上の者。
2. 次の(a)～(e)のいずれかに該当する者。
  - (a) 高等学校を卒業した者。
  - (b) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および2023年3月修了見込みの者。
  - (c) 高等学校の定時制・通信制課程を卒業した者および2023年3月31日卒業見込みの者。
  - (d) 旧制諸学校の卒業生または中途退学者で、文部科学大臣の定めるところによって大学入学資格を有するもの。
  - (e) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者および2023年3月31日までにこれに該当する見込みの者。
3. スポーツ活動において下記の(a)～(c)のいずれかに該当する者で、公式戦への出場記録のあるもの。
  - (a) 3年以上のスポンサー契約を結んでいる者(契約期間が3年目の者を含む)、または、契約を結んでいた者。
  - (b) スポンサー契約をしているチームに3年以上在籍(所属)している者(在籍期間が3年目の者を含む)、または、在籍(所属)していた者。
  - (c) 実業団に3年以上在籍(所属)している者(在籍期間が3年目の者を含む)、または、在籍(所属)していた者。
4. 次の英語資格・検定試験のいずれかを受験し、スコアを提出できる者。
  - (a) 実用英語技能検定[英検]
  - (b) GTEC
  - (c) IELTS(Academic Module)
  - (d) TEAP
  - (e) TEAP CBT
  - (f) TOEFL iBT ※英語資格・検定試験の成績は4技能スコアのみ有効とする。

※いずれも出願期間の初日から遡って2年以内に受験したものを有効とする。

【出願条件2(e)の詳細内容について】

- (1) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者および2023年3月31日までに修了見込みの者。またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの。
- (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者および2023年3月31日までに修了見込みの者。
- (3) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者および2023年3月31日までに修了見込みの者。
- (4) 文部科学大臣の指定した者。
- (5) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規定による大学入学資格検定に合格した者を含む。)および2023年3月31日までに合格見込みの者。
- (6) 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの。
- (7) その他、本学において、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者および2023年3月31日までにこれに該当する見込みの者。

(入学前既修得単位の取り扱い)

他の学生同様、以下のとおり扱う。

(1) 申請時期・方法

入学前に修得した単位の認定を申し出る場合、下記①～④の書類を、定められた期日までに所属キャンパスの教務窓口へ提出すること(ただし、本学で修得した科目については、①単位認定申請書のみ、提出すればよい)。入学前の修得単位認定申請は入学時にしか受け付けない。

- ① 単位認定申請書
- ② 単位修得先の大学等が発行した成績証明書
- ③ シラバス等、授業内容がわかる書類
- ④ 学業成績評価の基準及び授業時間数を示す書類

提出された書類に基づき、全学共通科目については全学共通カリキュラム運営センターが、専門科目については学科等が審査を行う。審査においては、当該学科教員との面談も実施することがあり、その結果単位認定を受けられないこともある。

(2) 認定対象の範囲

<全学共通科目>

一定の基準に基づき、全学共通科目に相当する科目を修得したと認められた場合には、その単位を認定する。なお、認定対象としては、総合系科目相当のもののみを扱い、言語系科目相当のものはこの制度での認定対象としない。ただし、言語必修科目については、一定の実力・学習歴がある場合には、別途履修免除制度による単位認定の可能性がある。履修免除制度の詳細については「全学共通科目言語系科目 2.必修科目に関する特別措置」を参照のこと。

<専門教育科目>

一定の基準に基づき、専門教育科目(全科目対象)と同一の科目を履修したと認められた場合は、その単位を認定する。

(3) 認定科目名・履修区分

## <全学共通科目>

全学共通科目として認定する場合は、科目名では表示せず、その内容から特定の履修区分に振り替えて認定する。

## <専門科目>

専門科目として認定する場合は、その内容から本学開講の科目名に振り替えて認定する。認定を受けた科目の履修区分は、修得先の授業内容をもとに決定する。

### (4) 認定単位数の換算

認定を受けた科目の単位は、修得先の授業時間数を考慮して決定する。

### (5) 認定科目の単位の扱い

認定を受けた科目は、認定された履修区分に従って卒業要件単位数に算入する。

### (6) 認定の上限単位数

入学前に本学以外で修得した単位の認定は、学則（「立教大学学則第2章第10条の2第1項～第10条の4第3項」）で定められている単位認定の上限60単位に含まれる。

なお、全学共通科目について、総合系科目の卒業要件単位数を超えて単位認定された場合、その単位は履修区分「自由科目」への算入は認めず、随意科目の単位として扱う。

## ○外国人留学生の受入れ

日本語資格要件は、「日本語試験」を受験し、成績確認書、成績通知書、受験票のうち、いずれかの写しを提出するものとする。成績については、本学から独立行政法人日本学生支援機構に照会する。「日本語」は、日本の大学等での勉強に対応できる日本語力を測定する。得点範囲は、読解、聴解・聴読解が0～400点、記述は、0～50点、「総合科目」は、日本の大学等での勉学に必要な文系の基礎的な学力、とくに思考力、論理的能力を測定する。得点範囲は、0～200点である。「理科」、「数学」は提出不要とする。資格要件としては、「日本語」、「総合科目」の合計点で概ね8割の得点率を基準とする。また、経費支弁能力を確認するため、本人が学費・生活費を支弁する場合は、(1)本人名義の銀行等における預金残高証明書（目安残高120万円以上）及び(2)奨学金の受給証明書（奨学金受給が決定している者）の提出を求め、本人以外の者が学費・生活費を支弁する場合は、(3)経費支弁者の銀行等における預金残高証明書、(4)収入証明書（課税証明書、源泉徴収票等）及び(5)奨学金の受給証明書（奨学金受給が決定している者）の提出を求めている。

さらに、在籍を管理するため、入学時に在留管理システムへ在留カードをアップロードしてもらうとともに、在留期間更新許可申請手続きの支援を行なっている。在留期限2ヶ月前の月初に在留管理システムより、申請者情報の確認・修正依頼の通知を送付し、対象者は、個人情報（生年月日、出生地、配偶者の有無、本国における居住地、本国の電話番号等）、パスポート番号、学歴、犯罪歴、卒業後の予定、在日親族の有無等を入力の上、在留カードの表裏の写真、パスポートの画像ファイル、成績証明書の画像ファイル等を在留管理システムにアップロードすることとなっている。

## ⑩教員組織の編成の考え方及び特色

### ○教員配置

本学部の理念を実現するためには、設定した研究分野において、第一線で活躍する研究者及び研究能力を伴った現場の実務経験をもった研究者で構成することを念頭においている。専任教員は、これまで大学等の機関や研究所に所属している者を中心に、国内外で博士の学位を取得した者又は大学、産業界等での十分な教育研究業績を有する者のみで構成するため、担当分野に関し高度の教育研究上の指導能

力、業績等がある。開設後は、より多様な観点から教育研究を進めるため、スポーツ現場での実務経験を有する者や実践家の観点で必要な人材を登用することも検討している。

本学部は、スポーツウエルネス学の研究により、アスリートのパフォーマンスの向上、全ての人に対する総合的なウエルネスの向上を目指す高度なウエルネス社会の構築に寄与する高度な専門性を有する人材の養成を目指している。この目標のため、それぞれの分野における高度な教育研究上の指導能力、業績等を備えた 16 名の専任教員を配置し、上記に記載した人材養成に向けた適切な役割分担及び連携体制の確保に留意しつつ、FD を踏まえた学生の学修状況の確認、課題の共有など、組織的な教育を継続して行う。

スポーツ分野とウエルネス分野の 2 つの研究分野の教員配置は表のとおりである。なお、専任教員 16 名のうち 全員が当該分野の研究者である。

研究分野	教員名	職位	専門分野
スポーツ分野	沼澤秀雄	教授	トレーニング科学
	加藤晴康	教授	スポーツ医学
	石井秀幸	准教授	バイオメカニクス
	川端雅人	教授	スポーツ心理学
	安松幹展	教授	スポーツ方法学
	杉浦克己	教授	スポーツ栄養学
	後関慎司	准教授	トレーナー科学
	ライトナー・カトリン・ユミコ	准教授	スポーツマネジメント
ウエルネス分野	松尾哲矢	教授	スポーツ社会学
	奇二正彦	准教授	環境教育学
	石渡貴之	教授	環境生理学
	佐野信子	教授	ジェンダー学
	大石和男	教授	健康心理学
	舘川宏之	教授	分子細胞生物学
	小林哲郎	准教授	データサイエンス
	中村 聡宏	准教授	スポーツ健康産業

#### ○教育上主要と認める授業科目への専任の教授又は准教授の配置

本学部における教育上主要な科目は表のとおりであり、それぞれに専任の教授又は准教授を配置する。

科目区分	科目名称	配当年次	担当者
専門必修科目	基礎演習	1	専任教授又は専任准教授
専門必修科目	スポーツウエルネス学入門	1	専任教授又は専任准教授
専門必修科目	スポーツマンシップ論	1	専任准教授
専門必修科目	スポーツリーダーシップ論	1	専任准教授及び兼任講師
専門必修科目	スポーツウエルネスワークショップ A・B・C	1・2	専任教授又は専任准教授
専門選択科目	専門演習	3	専任教授又は専任准教授

卒業研究科目	卒業研究指導演習	4	専任教授又は専任准教授
--------	----------	---	-------------

### ○中心となる研究分野とその研究体制

各研究分野を担う教員は以下のとおりであり、スポーツ分野では、トレーニング科学、スポーツ医学、バイオメカニクス、スポーツ心理学、スポーツ方法学、スポーツ栄養学等のすべての人間の適応可能性を広げ、スポーツパフォーマンスの向上と高度なスポーツ文化の創造に寄与するための理論と方法論の構築をめざすスポーツ科学に貢献する研究を、ウエルネス分野ではスポーツ社会学、環境教育学、環境生理学、ジェンダー学、健康心理学、分子細胞生物学等の身体的、精神的障害を予防しながら、幸福で充実した人生を送るために、より創造的に心身の健康を探求し、維持・発展させる理論と方法論の構築をめざすウエルネス科学に貢献する研究を行う。

なお、研究体制としては、各専任教員が各々の専門分野について個別に研究を進めていくと同時に、本学が設置する「立教大学ウエルネス研究所」等を活用して、積極的に共同研究を推進する。

### ○教員組織の年齢構成

本学部の開設時及び完成年度の専任教員組織の年齢構成は表のとおりである。50歳代までの教員が半数を占めているため、教育研究水準の維持向上・教育研究の活性化に配慮した年齢構成であるといえる。

	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～65歳	66歳～70歳
開設時	6	7	3	0
完成年度	2	8	4	2

また、本学の定年に関する規程である学校法人立教学院就業規則（資料10）では、第20条において、満65歳に達した場合にその年度末をもって定年退職としているものの、立教大学特別専任教授任用規程（資料11）を定め、2021年度から、同条で定める定年退職をした専任教員のうち教授の職位にあった者で、契約の年度末において70歳を超えない者を教授として任用できることとした。開設時に66歳以上である者はいないが、完成年度には66歳以上になる者が2名（ウエルネススポーツ研究分野2名）いるため、当該教員の研究分野を加味し、適切に後任補充を行う予定である。

## ⑪施設・設備等の整備計画

### ア 校地、運動場の整備計画

#### （学部の教育研究を踏まえた適切な環境整備）

本学部を設置する新座キャンパスは、コミュニティ福祉学部（本学部の前身であるスポーツウエルネス学科を含む）、観光学部及び現代心理学部を設置している。本学部はスポーツ科学・ウエルネス科学を全学術分野に展開することをミッションとしており、可能な限り多彩な分野の研究者、学生と日常的に交流できる環境が望まれるところ、近代化を感じるコンクリート造りの建物と豊かな自然が調和し、緑豊かな学内が学生でにぎわい活気があふれている新座キャンパスは、ヒトと自然、スポーツの協働、調和を目指す本学部の教育を行うキャンパスとしてとして望ましい環境であるといえる。

#### （学生の休息その他の利用のための適当な空地の整備状況）

新座キャンパスは、校地（教育研究ゾーン）と運動場ゾーンが区分している。教育研究ゾーンには、研究棟、講義棟、図書館、学生ホール、食堂の各施設がオープンな雰囲気配置されているほか、駐車場・駐輪場、緑地園地、憩いの広場等が整備されている。学生の休息、その他の利用のための適当な空地は、中央広場、憩いの広場等において、十分に確保されている。

#### （運動場の利用計画）

運動場用地には全天候型の本格的な陸上競技場（セントポールズ・フィールド）や50m×10コースを

備えた、日本水泳連盟公認の室内温水プール（セントポールズ・アクアティックセンター）、室内競技用のアリーナ5面を擁する巨大な体育館、人工芝の多目的運動場（サッカー場）、野球場、テニスコートなどが整備されており、セントポールズ・フィールド、セントポールズ・アクアティックセンター、体育館、テニスコート、サッカー場は、「スポーツ実習」の授業に利用される他、運動部の練習場等としても利用している。

## イ 校舎等施設の整備計画

### （教員の研究室、必要な教室の整備計画）

教員の研究室は本学での基準に則り、各専任教員に 20 m<sup>2</sup> の研究室が割り当てられる。本学部の前身であるコミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科は、現在は新座キャンパスの5号館に配置しており、教室は新座キャンパスに設置されている教室を他学部・他研究科と共有して使用する。また、本学部の設置により、新座キャンパスの在籍学生数が増加するが、2025年度完成の新棟を建設予定である。新棟完成後は、教員間の日常的な議論やコミュニケーションが可能となるような工夫をしながら、教員の研究室を配置する予定である。なお、新棟には教室も設置するため、本学部の設置により在籍学生数が増加したとしても、新座キャンパスにおける教育研究に支障はない。

### （教育課程等を実施するために必要な施設・設備）

本学部の前身であるコミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科が実験及び実習で使用している施設・設備は以下のとおりである。

施設名	利用内容
（1）運動生理学実験室 (30 m <sup>2</sup> × 2 = 60 m <sup>2</sup> )	ヒトの生理機能を様々な指標（体温調節、呼吸循環機能、唾液摂取など）から計測する。また、実験室内には様々な温度環境を設定できる人工気候室があり、環境温度負荷が身体に与える影響や、暑熱馴化トレーニングを行うことが可能である。
（2）バイオメカニクス実験室 (30 m <sup>2</sup> × 2 = 60 m <sup>2</sup> )	この実験室では、ヒトの身体動作を3次元計測する。野球の投球動作やサッカーのキック動作などのスポーツ動作から、歩行動作や食事動作などの日常生活動作が測定対象となる。その測定には、複数の CCD カメラからなるモーションキャプチャシステムと床反力計を用い、筋電計や加速度計を併用することで、より詳細な評価を可能となる。これらの測定データから関節角度や関節モーメントなどを推定することにより、ヒトの身体動作における骨格筋の活動や、関節に加わる力学的な負荷を評価できる。
（3）スポーツ・健康心理学実験室 (30 m <sup>2</sup> × 1 = 30 m <sup>2</sup> )	ストレスやライフスタイル、様々な生活習慣と精神的疾患、生活習慣病や心と身体のバランスを含めた幅広い健康とそれを取り巻く諸問題に対して、心理学的な観点からアプローチする。
（4）運動生化学実験室 (30 m <sup>2</sup> × 2 = 60 m <sup>2</sup> )	この実験室では、高速液体クロマトグラフィー（HPLC）を用いた脳内神経伝達物質やメラトニンなどの試料の同定や ELISA を用いた唾液中ストレス物質の測定をすることが可能である。
（5）測定評価実験室 (30 m <sup>2</sup> × 2 = 60 m <sup>2</sup> )	この実験室では、ヒトの筋パワーや持久力の測定評価ができる「パフォーマンス測定システム」や、人工的に筋肉痛を誘発できる「エキセントリックトレーニングシステム」など、多様な機器を設置している。また、12誘導心電図や血圧測定はもとより、医学的診療機器を用いて身体の形



	態や機能を評価が可能。AED を用いた心肺蘇生処置やテーピングのトレーニングも実施している。
(6) スポーツデータ解析室 (30 m <sup>2</sup> × 1 = 30 m <sup>2</sup> )	この解析室では、スポーツを社会現象と捉えて、スポーツ社会学、スポーツ経営学等の研究視座から、トップスポーツと大衆スポーツ、競技者と観客やメディア、年代別の行動特性など様々な観点からスポーツデータの解析を行う。
(7) 動物実験室・飼育室 (30 m <sup>2</sup> × 1 = 30 m <sup>2</sup> )	この実験室では、実験動物の手術や処置と実験動物の飼育を行なっている。リアルタイムでの脳内神経伝達物質や生理指標（体温・心拍数・活動量）、情動行動の計測が可能である。
(8) 全天候型走路 (40 m)	体育館裏のテニスコート脇に1レーン設置されている。屋外に設置されていることから、走動作や車椅子運動時の動作解析や自然環境の影響の調査に使用している。

本学部では上記で述べた既存の施設・設備を継続して利用するが、いずれも大規模な教育研究施設・設備であること、本学部の設置により在籍学生数が増加しても予定している時間割（資料12）のとおり実施できることを確認していること、主に使用する学部は本学部のみであることから、現在と同等以上の教育研究内容を担保することができる。さらに、2025年4月には、新たな実験施設360m<sup>2</sup>を含む新棟が新座キャンパスに完成する予定である。新棟は、スポーツ生理学、バイオメカニクス、スポーツ栄養学、スポーツ心理学等の研究者がチームで参加し、それぞれの機器や手法を用いて、一つの場所で集中的に対象者のパフォーマンス、体力レベル等の測定分析が可能となる予定である。実験施設を一か所に集中して設置する集約型施設にすることで、学年進行によって在籍学生数が増加した場合でも、本学部が目指す教育研究をより効率的に行うことができるようになる。

## ウ 図書等の資料及び図書館の整備計画

### （学部の種類・規模等を踏まえた図書等の整備）

新座図書館は、開設以来、各学部の専門領域及び周辺領域に関係する図書並びに学術雑誌の収集を継続的に行っている。また、本学部で開講される全ての授業における教科書を図書館において整備している。スポーツ科学・ウェルネス科学分野の学術雑誌としては、「Elsevier」、「Springer」、「Wiley」、「Taylor & Francis」、「American Physical Society」、「医中誌Web」及び「メディカルオンライン」等が整備されており、ほぼ全ての雑誌がオンラインで購読できる。

また、新座図書館には、約26万冊を所蔵している。また、本学部と近接の領域である理学部が池袋キャンパスに設置されているため、池袋キャンパス図書館にも既に多くの関連図書を有していることになる。

### （デジタルデータベース、電子ジャーナル等の整備計画）

新座図書館は、既に豊富なオンライン資料（66,845件の電子ジャーナル、31,707件の電子書籍及び156件のデータベース）（2020年度）を有している。これらの既存の資料を活用するとともに、必要に応じてさらなる充実を図る予定である。

### （図書館の閲覧室、閲覧席数、レファレンス・ルーム、検索手法等など、教育研究を促進できる機能等）

地上2階からなる新座図書館は収蔵可能冊数29万冊、閲覧席数543席を有する、大規模図書館となっている。総合学習図書館及び研究図書館としての機能を維持するとともに、多様なニーズに対応し利便性を向上させることによって、学習・教育・研究を支援している。また、教育研究情報環境のネットワーク利用基盤である学術情報システム（Rikkyo Information System）によって、利用者は文献の収集

から整理、資料の提供に至るまでの総合的なサービスを受けることができる。図書資料等の目録データは OPAC によるオンライン検索とともに、学内 LAN を経由して、各研究室や学内の各施設、さらには学外や自宅からもアクセスが可能である。2012 年には 2 階にラーニング・コモンズ「しおり」をオープンしている。

以上については、学部の種類を問わず汎用的な要素を含んでいるため、本学部の目的等に照らしても十分に適切である。なお、夏季休暇期間、入学試験実施期間等を除いて、最長で 21 時まで開館していることから、社会人学生に対する利便性も確保できている。

#### (他の大学の図書館等との協力)

他の教育研究機関との連携については、本学、青山学院大学、学習院大学、國學院大學、東洋大学、法政大学、明治大学及び明治学院大学の 8 大学で「山の手線コンソーシアム」を形成し、学生及び教職員が各大学の図書館を利用できる体制を構築している。

## ⑫管理運営

### ○教学面における管理運営の体制（教授の役割、構成員、開催頻度の予定、審議事項等）

本学は、学則第 77 条第 1 項の規定に基づき、教授会を置くこととしている。本学部においても、上記規程に基づき、教授会を設置する。構成員等は表のとおりである。なお、隔週で開催している。

	根拠規程	内容
構成員	学則第 77 条第 2 項	教授及び准教授
審議事項	学則第 77 条第 3 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学部内の人事</li> <li>・ 学部長の選挙</li> <li>・ 教育課程</li> <li>・ 試験</li> <li>・ 学生の入学</li> <li>・ 編入学</li> <li>・ 卒業</li> <li>・ 休学</li> <li>・ 復学</li> <li>・ 退学</li> <li>・ 再入学</li> <li>・ 除籍</li> <li>・ 転部・転科</li> <li>・ 賞罰</li> <li>・ その他学部に関する事項</li> <li>・ 総長の諮問事項</li> </ul>

また、本学では、全ての学部長及び研究科委員長（独立研究科は一部）が構成員となっている複数の全学的な合議体を設置している。本学部長についても、各種規程に基づき、当該合議体の構成員となる（以下は主なものを抜粋）。

#### ・ 部長会

「立教大学部長会規程」（以下「部長会規程」という。）（資料 13）第 7 条の規定に基づき、教育研究上の基本的な計画に関する事項など、大学及び大学院の教育研究の重要事項に関する事項を審議する。

「部長会」は、部長会規程第2条の規定に基づき、全ての学部長（基礎となる学部をもつ研究科は、学部長と研究科委員長が同じ者である）が出席する。

- ・教育改革推進会議

「立教大学教育改革推進会議規程」(資料14)第1条及び第7条の規定に基づき、学士課程教育及び大学院教育の改善を図り、その充実と高度化を推進するため、教育内容及び教育方法の改善に関する事項等を審議する。同規程第2条第3号の規定に基づき、総長が推進責任者(2022年度は教学担当副総長)を指名するとともに、各学部長、各研究科委員長及び「大学教育開発・支援センター長」を構成員としている。

- ・国際化推進会議

「立教大学国際化推進会議規程」(資料15)第1条及び第7条の規定に基づき、国際化の推進を図り、その充実と高度化を推進するため、大学並びに学部及び研究科の国際化推進等を審議する。同規程第2条第3号の規定に基づき、総長が推進責任者(2022年度は国際化推進担当副総長)を指名するとともに、各学部長、各研究科委員長等を構成員としている。

- ・自己点検・評価運営委員会

「立教大学自己点検・評価規程」(資料16)第3条第1項の規定に基づき、自己点検・評価を行う際の基本的枠組みを決定し、自己点検・評価活動の全体を運営・調整する。同規程第6条第1項の規定に基づき、総長が委員長(2022年度は教学担当副総長)を任命するとともに、同規程第4条の規定に基づき、各学部長、各研究科委員長など、同規程第2条に規定される組織の長を構成員としている。

### ○教授会以外の会議体の役割

本学部における教授会以外の会議体は以下のとおりである。

- ・教務委員会

本委員会は数名の委員によって構成され、下記の学部の教務に関する事項を検討・協議する。

- (1) 学年暦や授業時間割等の編成に関する事項
- (2) 非常勤講師及びゲストスピーカーに関する事項
- (3) 履修の手引、授業計画書(シラバス)等の作成に関する事項
- (4) 授業評価の実施に関する事項
- (5) 学業成績に関する事項
- (6) 単位互換及び遠隔講義に関する事項
- (7) 既修得単位に関する事項
- (8) その他教務に関する事項

- ・FD委員会

立教大学ファカルティ・ディベロップメントに関する規程に基づき、本学部の研究・教育・社会連携などに関する機能の開発、また、個々の教員及び教員組織としてそれらと関連する活動全般を行う上で必要な能力の開発を行う。以上につながる様々な企画や取り組みなどを研究科の全構成員で検討・調整する。

- ・自己点検・評価委員会

本委員会は学部の全構成員によって構成される委員会であり、自らの教育研究活動などの状況について自己点検をし、優れている点や改善点など自己評価を行う。その結果を踏まえ、教育研究水準の向上や活性化に向けて、研修会やワークショップなどを企画・開催し、継続的なFD活動を実施する。

- ・倫理委員会

立教大学ライフサイエンスに係わる研究・実験の倫理及び安全委員会規程に基づき、本学部では、倫理や法律上の問題が発生することが予想されるスポーツ科学やウエルネス科学に関する教育研究が実施されるため、主に研究・実験に関する倫理及び安全の管理を行う倫理委員会を設置する。本委員会は、数名の委員によって構成され、研究内容の点検を行うとともに、倫理委員会で扱う審査の内容や基準などについて、基底の整備などを行う。

・入試委員会

入学試験に関する出題採点方法、実施方法などについて協議するなどの役割を担い、入学試験問題の作問・点検・採点を担当する数名の委員によって構成される。

・キャリア支援・国際交流委員会

本委員会は、数名の委員によって構成され、キャリア教育について検討・協議し、多様なキャリアパスをサポートできるようなキャリア支援の構築に取り組む。

・図書選定委員会

本委員会は数名の委員によって構成され、スポーツ科学やウエルネス科学に関する図書や研究雑誌をはじめ、オンラインジャーナルやデータベース、視聴覚資料など、日本語や日本語以外で書かれた多様な研究資料やデータの蓄積を図り、新たな知見を創出するための研究環境の整備及び充実について検討・決定する。

・スポーツウエルネス研究所運営委員会

スポーツウエルネス研究所（仮称）は、本研究科とも密接に連携をしながら、最先端かつ重要な研究を発信し、新たな社会の構築に貢献することを目的とする。研究者である教員のみならず、学部生・大学院生をも対象に、研究資金の提供による研究プロジェクトのサポートや、公開講演会の開催など、多様な事業を行う。また、地域連携や共同研究など、連携・協働事業の展開についても積極的に検討し、企画などを実施する。本委員会は、数名の委員によって構成される。

### ⑬自己点検・評価

以下の全学の仕組みに基づいて、本研究科においても自己点検・評価を行うこととする。

（自己点検・評価運営委員会）

本学では、1993年に「立教大学自己点検・評価規程」を制定及び施行し、自己点検・評価活動を行っている。本学の自己点検・評価の目的は、「本学における教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成する」（同規程第1条）ことにある。

自己点検・評価の組織、手続き、権限等は同規程に定めている。自己点検・評価を実施する組織は、同規程第2条に基づき、「自己点検・評価を行う際の基本的枠組みを決定し、全体を運営・調整する」ことを任務とする「自己点検・評価運営委員会」（以下「運営委員会」という。）及び学部、研究科等に置かれ各組織の活動の自己点検・評価を行う「自己点検・評価委員会」（以下「点検・評価委員会」という。）である。

運営委員会の構成は、同規程第4条の規定に基づき、委員長（総長指名により、2022年度は教学担当副総長が委員長を兼ねている。）、副委員長（2022年度は研究推進担当副総長）及び点検・評価委員会の長としている。したがって、全ての学部及び研究科の長が各自点検・評価委員会委員長として、運営委員会に出席していることになる。

全学的な自己点検・評価活動として、運営委員会を同規程第5条第1項の規定に基づき、年に2回以上開催している。原則として、前期（春学期）には当該年度の活動方針の確認、前年度の学部等の自己

点検・評価結果のまとめ、自己点検・評価活動方法の確認及び毎年度数値を蓄積している大学基礎データと認証評価機関（公益財団法人大学基準協会）から示されている定量的な基盤評価の水準（入学定員に対する入学者比率、大学設置基準等による必要専任教員数等）の比較等を行い、後期（秋学期）には大学機関別認証評価で指摘を受けた事項に係る進捗状況の確認、諮問委員会（外部評価委員会）から指摘を受けた事項に係る進捗状況の報告、当該年度の自己点検・評価報告書の作成依頼を行っている。

学部、研究科等に置かれる点検・評価委員会の自己点検・評価活動のうち、学部及び研究科においては、同規程第9条の規定等に基づき、点検・評価活動を行い、毎年度「自己点検・評価報告書」を作成するとともに、運営委員会において全学で共有している。

#### （諮問委員会（外部評価委員会））

本学における教育・研究活動を改善するため諮問委員会（外部評価委員会）を毎年度開催している。委員には他大学教員、海外日系企業の支援経験を有する識者等を選任して、国際的な見地からの意見を求めている。また、諮問委員会の評価結果に対しては、次回開催時に対応状況を報告するなど、PDCA サイクルを適切に回しながら、評価を踏まえた変革を続けている。なお、Web サイトに議事要録（日英併記）を公開した。

## ⑭情報の公表

### （大学全体）

本学は、学校教育法施行規則第172条の2の規定に基づき、多様なステークホルダーに対し、以下のとおり、大学の基本的情報を「教育情報」及び「経営・財務情報」に分け、透明度の高い情報公開に努めている。

### ○教育情報

#### ア 大学の教育研究上の目的等に関する情報

<http://www.rikkyo.ac.jp/about/disclosure/>

教育研究上の目的を、「立教大学学則」及び「立教大学大学院学則」（以下「学則等」という。）に明示しているとともに、ウェブサイトで公開している。

#### イ 教育研究上の基本組織に関する情報

<http://www.rikkyo.ac.jp/about/introduction/organization/>

学部、学科、専修、課程、研究科及び専攻等の名称等をウェブサイトで公開している。

#### ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関する情報

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/disclosure/qo9edr00000081kh-att/kyouin.pdf>

<https://univdb.rikkyo.ac.jp/search?m=home&l=ja>

学部学科（専修）ごと、研究科（専攻）ごとの教員組織と教員数をHPで公開している。また、教員が有する学位と業績については、「立教大学研究者情報」としてウェブサイトで公開している。

#### エ 入学者数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する情報

[https://www.rikkyo.ac.jp/about/disclosure/qo9edr00000081kh-att/02\\_students.pdf](https://www.rikkyo.ac.jp/about/disclosure/qo9edr00000081kh-att/02_students.pdf)

<http://www.rikkyo.ac.jp/about/disclosure/career/>

入学者数、収容定員、在学者数、卒業生数及び修了者数をウェブサイトで公開している。また、進学者数、（企業別）就職者数、その他進学及び就職等の状況については、「就職・進学状況」としてウェブサイトで公開しているとともに、学部ごとに、決定者の多い上位30企業を併せて公開している。

## オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する情報

<https://ry.rikkyo.ac.jp/yoko/index.html>

<https://sy.rikkyo.ac.jp/timetable/stop.do>

カリキュラムのしくみ、履修規定、履修登録等について記載された履修要項や教務関連案内については、ウェブサイトで公開している。また、授業の目標、授業内容、授業計画等については、「シラバス」としてウェブサイトで公開している。

## カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する情報

<https://ry.rikkyo.ac.jp/yoko/index.html>

成績評価についての統一的基準及び卒業又は修了認定基準について、上記履修要項に明示している。

## キ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する情報

<http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/>

池袋及び新座の両キャンパスの紹介、図書館、学生食堂、診療所・保健室等の施設等については、「キャンパス案内」としてウェブサイトで公開している。

## ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する情報

<http://www.rikkyo.ac.jp/admissions/fees/>

<http://www.rikkyo.ac.jp/admissions/brochure/>

費用に関する情報については、学則等に規定するとともに、大学案内、大学院案内及びウェブサイトで公開しているほか、在学生の保証人へは別途郵送している。

## ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する情報

<http://www.rikkyo.ac.jp/about/disclosure/career/>

<http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/>

就職及び進路支援については「キャリアセンター」、奨学金支援については学生部、留学生支援については「国際センター」、学習支援については図書館、修学上及び人間関係等の相談については「学生相談所」並びにしょうがい者支援（発達障害を含む。）については「しょうがい学生支援室」が実施しており、HPで支援情報を公開している。また、学生及び教職員向けに、学生支援関係の情報を網羅した冊子を毎年度配布するとともに、これについてもウェブサイトでご覧可能にしている。

## コ 「卒業又は修了の認定に関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」及び「入学者の受入れに関する方針」（3方針）

「立教大学の教育目的と各種方針」として、大学全体及び各学部及び研究科の3方針を、大学ウェブサイトで公開している。

[https://www.rikkyo.ac.jp/about/disclosure/educational\\_policy/](https://www.rikkyo.ac.jp/about/disclosure/educational_policy/)

## サ その他（認証評価及び外部評価の結果、認可申請書等）

<http://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/evaluation/>

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/disclosure/reports.html>

認証評価結果及び外部評価結果（日英）（上段 URL）、認可申請書等（下段 URL）について、ウェブサイトで公開している。

## ○経営・財務情報

<https://www.rikkyogakuin.jp/disclosure/reports.html>

## ・事業計画書・報告書

事業計画書及び事業報告書については、法人本部、大学、中学校、高等学校及び小学校を包含して

法人ウェブサイトで公開している。

#### ・財務情報

事業活動収支計算書、資金収支計算書、活動区分資金収支計算書及び貸借対照表については、ウェブサイトで公開しているほか、保護者向けに年4回郵送している雑誌「立教」にも各年度の予算及び決算を掲載している。

#### （本学部独自の取組み）

現行のコミュニティ福祉学部は、独自のウェブサイトを開設している。本学部についても、これに倣い、4年間の学びのイメージ、正課外での学び、カリキュラム体系図、授業紹介、先輩の声等を掲載するウェブサイトを開設する。

### ⑮教育内容等の改善のための組織的な研修等

#### ○授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施に関する計画

##### （大学全体）

本学では、「立教大学ファカルティ・ディベロップメントに関する規程（以下「FD 規程」という。）」**（資料 17）**を策定し、これに基づき FD 活動を行っている。また、毎年度、各学部及び研究科等は、教育改革推進会議推進責任者（2021 年度は教学担当副総長）からの依頼に基づいて「FD 展開状況報告書」を作成するとともに、FD 規程第 6 条の規定に基づき、毎年度同会議に報告している。

なお、上記自己点検・評価では、本学が選択する認証評価機関である公益財団法人大学基準協会が示す大学基準に沿って点検・評価するとともに、他大学の認証評価結果を調査し、全学的な視点から教育内容等の改善に資する取組みを行っているが、FD 活動については、各学部研究科が独自に課題を設定し、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施することとしている。

##### （本学部独自の取組み）

#### ・学部における教授法や教育技法の改善について考える研修会

教員を対象として、情報リテラシーやアカデミックリテラシーの習熟、教育機器利用法（オンラインツールの活用等）、視聴覚教材の可能性と有効な活用、論理的思考を鍛えるための学習理論や授業法、教員による教授法や教育技法の事例報告など、毎回テーマを設定し、学部における教授法や教育技法の改善について考える研修会を、FD 委員会の主催で 2 ヶ月に 1 回開催する。

#### ・学部授業における効果的な IT 活用に関する勉強会

教員を対象として、分析ソフトウェアの利活用、プレゼンテーションに必要なツール、より効果的なデータの視覚化の可能性などについて、情報共有、意見交換を行う勉強会を、FD 委員会の主催で 2 ヶ月に 1 回開催する。

#### ・海外の教員及び研究者によるセミナー・講演会

教員を対象として、海外における大学の教育環境の事例報告、国際的な教育環境の紹介、授業内容及び方法に関する情報共有、コラボレーションの可能性を探るセミナーや講演会（オンラインを含む）を、キャリア支援・国際交流委員会が主催し、半期に 1 回開催する。

#### ・研究教育活動に関わる学内部署との情報共有や意見交換の会（研修会、勉強会）

教職員を対象として、学部での研究活動を円滑に行うために、学内の以下の部署との情報共有や意見交換会、FD 委員会の主催で必要に応じて不定期で開催する。

→図書館：情報リテラシー、研究資料やデータの蓄積・充実など

→リサーチ・イニシアティブセンター：研究資金の獲得（研究計画、申請書作成等）

→メディアセンター：教育研究活動の IT 活用等

→キャリアセンター：学生のキャリア支援等

### ○職員に必要な知識・技能の習得並びに必要な能力及び資質を向上させる研修等

本学では、「大学教育開発・支援センター」、人事課等が、教育改善に必要な知識及び技能を習得させ、その能力及び資質を向上させる等の目的で、シンポジウム及び研修を開催している。特に、「大学教育開発・支援センター」が開催しているシンポジウムでは、参加対象を全教職員（事務職員を含む。）としており、著名な研究者を招聘してその時々的高等教育に係る課題を扱うとともに、毎回小冊子（「大学教育開発研究シリーズ」）を刊行している。

また、大学設置基準等の一部を改正する省令（平成 28 年文部科学省令第 18 号）が 2017 年 4 月 1 日から施行され、「大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修の機会」を設けること等が求められることを踏まえ、2016 年 7 月に「立教大学における SD の実施方針・計画」を制定した（[https://www.rikkyo.ac.jp/about/disclosure/educational\\_policy/](https://www.rikkyo.ac.jp/about/disclosure/educational_policy/)）。これは、法人として既に定めている「職員の育成方針」を踏まえ、大学版としてまとめ直したものである。

上記「立教大学における SD の実施方針・計画」の「SD の実施計画」では、本学が行う研修を、①人事部が行う研修、②各組織が行う研修及び③職員各自が行う研修の 3 つに大別した。

このうち、①については従前より法人人事部が毎年実施しており、内定者研修、新入職員研修、4 級職研修等の「資格等級別研修」（昇格要件となる研修）、管理職研修等の「職位別研修」、職員海外語学研修等の「目的別研修」の 3 つに分けられる。また、2014 年度からは「資格等級別研修」に「短期海外視察研修」を新たに追加した。当該研修は、学内における事前学習（学校実務英語）、国内留学プログラム（国際大学での合宿型研修）、海外大学視察、事後研修等を行うものであり、2014 年度は米国、2015 年度は英国、2017 年度及び 2018 年度は米国を視察先とした（2016 年度及び 2019 年度は最少催行人数に達しなかったため未実施。2020 年度及び 2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大により中止）。さらに、「目的別研修」として、（1）学外団体主催研修（日本私立大学連盟の「キャリア・ディベロップメント研修」、「業務創造研修」及び「アドミニストレーター研修」への派遣並びに「オンデマンド研修」の受講を新入職員研修の一部として実施）及び（2）学校実務英語研修（新入職員研修の一部として実施）を実施した。

②については、各組織の業務に即した職遂行能力及び職務姿勢を習得するために実施するものであり、組織別の集合研修、学内外へのプログラム・講習会等への参加等から構成される。

③については、業務に関連した知識・技能習得を目的に実施するものであり、承認された各種研修の参加費用補助や自主勉強会・研修会の実施費用補助が活用できる。補助対象は、各種講習会補助、外国語講習会補助、自主勉協会・研修会補助及び TOEIC 受験料補助の 4 種類である。

なお、2016 年度からは、部署横断的なメンバーにより構成された自発的なプロジェクトチームが、業務改善・業務改革に繋がる問題を解決することを自発的に学ぶ（Rikkyo Cross-functional Active Project (R-CAP)）を開始した。

## ⑩社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### ア 教育課程内の取組について

本学では、各種プログラムの開催やガイドブック配布など年次に応じた段階的支援を行うキャリアセンターの支援と、学部の専門性を生かした学部独自の支援の両軸で、学生のキャリア・就職活動をサポ



ートしている。興味のある分野や未来社会で担いたい役割など、将来夢見る自分の姿を実際の現場へとつなげる、実践的なノウハウがある。

本学は、キャリアを「仕事・職業を含めた、自立した個としての自分らしい人生のあり方」と捉えており、就職＝ゴールとは考えていない。学生が卒業後の人生において、自らの意思によって将来を見据え、主体的に考えながら、自分でキャリアを切り拓いていく力が大切だと考えている。その力は、学生が過ごしてきた学生生活での学びや経験を基盤にして築かれるものである。そのため、1年次から参加できるプログラムをキャリアセンターや各学部が多数展開し、学生が多くの経験や多様な価値観に触れ、「学ぶ力」「考える力」を身につけられるキャリア支援を行っている。

専門科目の中にさまざまなキャリア関連科目が開講され、初年次から自らの進路を考えるきっかけとしている。専門必修科目である1年次の基礎演習では初年次教育の一環として、将来のキャリアへの動機づけを行っていたため「OB・OGとの交流会」を実施している。2年次の「キャリア形成論」では、社会人として必要な常識、国内外の経済状況について理解と関心を持たせるとともに、各種業界の概況を講義し、就職活動に必要な業界分析と学生自身の自己分析を試みさせる。「インターンシップ」では社会的・職業的自立を図るために必要な能力の涵養に資するよう努めていく。さらに、学部の特性に応じたキャリア支援・就職支援を行うために、学部キャリアサポーターを配置して学部独自の支援を展開している。キャリアサポーターは、学部の教員やキャリアセンターと連携しながら、学部におけるキャリア教育の推進や国内外のインターンシップの実施など、学部独自のキャリア支援プログラムを開催している。

#### イ 教育課程外の取組について

教育課程外の支援体制は、本学内組織のキャリアセンターが担う。キャリアセンターでは、就職ガイダンスや各種プログラム開催のほか、就職活動に関する情報・資料の公開、キャリア・就職についての個人相談など、数多くのサポートを行っている。これらは就職活動準備をしている3・4年次生はもちろん、1・2年次から利用できる。学年を問わずキャリア・就職に関する相談を受け付けており、学生生活の過ごし方や就職活動など、不安や質問がある時は気軽に利用することができ、キャリアカウンセリングに熟練した相談員がアドバイスする体制を整えている。

#### ウ 適切な体制の整備について

学生の社会的・職業的自立への支援は、キャリア支援・国際交流委員会を中心として、教務委員会、学科長及び専任教員により体制を整えている。教育課程内の取り組みとして、初年次より学科のキャリア教育の基礎となるライフスタイル学を修得することにより、キャリア意識を高め専門職への科目選択ができるようにカリキュラム構成をしている。

## 設置の趣旨等を記載した書類（資料目次）

資料 1	教育課程編成の方針	… 2
資料 2	履修モデル	… 6
資料 3	新型コロナウイルスの社会的状況に応じた活動制限指針	… 9
資料 4	実習施設の概要及び覚書	…11
資料 5	教育実習生受入決定通知書（例）	…13
資料 6	専任教員の巡回指導計画	…15
資料 7	インターンシップ受入企業一覧	…16
資料 8	受入先企業との覚書	…17
資料 9	インターンシップ実習結果（評価）（様式）	…18
資料 10	学校法人立教学院就業規則	…20
資料 11	立教大学特別専任教授任用規程	…21
資料 12	実験室使用時間割	…22
資料 13	立教大学部長会規程	…23
資料 14	立教大学教育改革推進会議規程	…24
資料 15	立教大学国際化推進会議規程	…25
資料 16	立教大学自己点検・評価規程	…26
資料 17	立教大学ファカルティ・ディベロップメントに関する規程	…27

## スポーツウエルネス学部 教育課程編成の方針 (CP)

### スポーツウエルネス学部の教育目的

「すべての人の生きる喜びのために」という基本理念に立ち、スポーツウエルネス学の教育研究活動を通じて、人間の可能性の追求と誰もが快適で活力に満ちたウエルネス社会の実現に寄与する人材を養成する。

### 教育課程の編成と特色

スポーツウエルネス学部の教育課程は、学士課程における修業年限4年間で「導入期」「形成期」「完成期」の3期に区分し編成している。各期のねらいは以下のとおりである。

- 1) 導入期は、「スポーツウエルネス学入門」、「スポーツマンシップ論」、「スポーツリーダーシップ論」、「基礎演習 (学びの技法含む)」、「学びの精神」、言語教育科目で構成し、形成期、完成期における学習の基礎を醸成する。なお、NEXUS プログラムでは、標準0.5年間〔1学期間〕の日本語集中履修期間を加え、言語Aおよび言語Bにおける日本語、ならびに平易な日本語を用いて実施する「学びの精神」の履修をとおして、学ぶための姿勢と基礎的な知識・技法を身につける。
- 2) 形成期は、引き続き専門基礎科目の履修を通じて基礎的な学習の完成を目指すと同時に、専門基幹科目や専門英語科目を履修することによって、スポーツウエルネス学部の専門教育に必要な基本的知識を身につける。さらに倫理観やスポーツウエルネス学に関する学びを通して、社会における多様な問題に興味を持ち、自らテーマを設定して真理を探究することを目的として主体的・創造的に調査・研究を行う能力を身につける。
- 3) 完成期は、専門展開科目の履修を通じて、スポーツウエルネス学固有の領域に関して高度で専門的、個別的な内容を学習し、4年間の学修の集大成である卒業研究を仕上げる。さらに課題解決能力を身につけ、社会での活躍を目指す。

### スポーツウエルネス学部のカリキュラムの構造

主な4年間の学び		1年次	2年次	3年次	4年次
		導入期	形成期 (1年次秋学期より)	完成期	
		1. 大学での学びへの移行期として、自己判断・主体的な学び、自身での目標設定、そしてキャリア形成の重要性などを理解する。 2. スポーツウエルネス学に関わる基礎的な知識、方法論、技法を身に付ける。 3. 4年間の学生生活を全体的に見る視野をもち、目標を立て、それを段階的に実現していくことの重要性を知る。さらに卒業後の進路・方針にも視野を広げる。	1. スポーツウエルネス学の観点から様々な問題について調査研究し、その結果を論文し議論できるようになる。 2. スポーツが持つグローバルな側面を理解し、留学等を通して、異文化に対する関心や理解をもち、 3. 卒業後のキャリア・進路の方針について検討し、必要に応じて再検討する。	1. スポーツウエルネス学に関して、これまでに学修した知識や技法を総合的に応用し、活用できる。 2. 研究発表やスポーツ関連実習などから一定の水準を満たした卒業論文や卒業制作を仕上げるだけの力を身に付ける。 3. インターンシップやボランティア活動等を通して、人生において働くことの意義について体験的に実感する。 4. 卒業後の進路を確定し、人生全体の目標を持つ。	
全学共通科目 (リベラルアーツ)		言語系科目 (言語A (英語)、言語B (ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語))、総合系科目 (学びの精神、多彩な学び、スポーツ実習)			
学部共通科目	立教ファーストタイムプログラム	環境・スポーツ教育領域		環境・サステナビリティ論、生態多様性と人間社会、障害者スポーツ実証論、アダプテッド・スポーツ論、疫学・食養・加齢論、学校保健・学校安全、スポーツ教育論	
	スポーツマンシップ論	ウエルネススポーツ領域		スポーツ社会学、ダイバーシティ・スポーツ論、健康運動指導論、コミュニティ・スポーツ論、レクリエーション援助技術論、運動処方・療法、スポーツコーチング論	
	スポーツリーダーシップ論	アスリートパフォーマンス領域		アスレティックリハビリテーション論、アスレティックトレーナー理論、スポーツ医学、動作分析実習、バイオメカニクス、スポーツウエルネス心理学 (応用)、運動・スポーツ栄養学 (応用)	
基礎演習	スポーツウエルネスワークショップ		専門演習	卒業研究 / ベーシック・アドバンスト	
		インターンシップ・現場実習			
		グローバル教養副専攻			

## 教育課程の構成

スポーツウエルネス学部の卒業要件単位は126単位であり、履修区分に応じて以下の科目群に分けられている。

### <ベーシックコース>

1. 必修科目（28単位）は、以下の科目区分で構成する。
  - ・言語教育科目（言語A）6単位
  - ・言語教育科目（言語B）4単位
  - ・基礎演習（学びの技法を含む）2単位
  - ・スポーツウエルネス学入門2単位
  - ・スポーツマンシップ論2単位
  - ・スポーツリーダーシップ論2単位
  - ・スポーツウエルネスワークショップA・B・C 計6単位
  - ・卒業研究指導演習2単位
  - ・卒業研究（ベーシックコース）2単位
2. 選択科目（78単位）は、以下の科目区分で構成する。
  - ・学びの精神4単位
  - ・多彩な学び・スポーツ実習14単位
  - ・専門基礎科目22単位
  - ・専門基幹科目12単位
  - ・専門展開科目22単位
  - ・専門英語科目4単位
3. 自由科目は（20単位）は、他学部・他学科科目、専門関連科目、言語自由科目などから構成する。自由科目には、以下の1.～5.から20単位を修得することができる。
  1. 必修科目・選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位
  2. 他学部・他学科科目
  3. 専門関連科目
  4. 言語自由科目
  5. 5大学間単位互換制度による他大学科目（年間上限12単位）

### <アドバンストコース>

1. 必修科目（34単位）は、以下の科目区分で構成する。
  - ・言語教育科目（言語A）6単位
  - ・言語教育科目（言語B）4単位
  - ・基礎演習（学びの技法を含む）2単位
  - ・スポーツウエルネス学入門2単位
  - ・スポーツマンシップ論2単位
  - ・スポーツリーダーシップ論2単位
  - ・スポーツウエルネスワークショップA・B・C 計6単位
  - ・卒業研究指導演習2単位

- ・卒業研究（アドバンストコース）8 単位
2. 選択科目（72 単位）は、以下の科目区分で構成する。
    - ・学びの精神 4 単位
    - ・多彩な学び・スポーツ実習 14 単位
    - ・専門基礎科目 22 単位
    - ・専門基幹科目 10 単位
    - ・専門展開科目 18 単位
    - ・専門英語科目 4 単位
  3. 自由科目は（20 単位）は、他学部・他学科科目、専門関連科目、言語自由科目などから構成する。
    - スポーツウエルネス学部では、1 年次から 4 年次まで、少人数の演習科目を用意している。4 年間を通して現場をフィールドとする理論の検証と展開を重視した教育を行う。1 年次の「基礎演習」による導入教育に続き、2 年次の「スポーツウエルネスワークショップ」では様々なフィールドが抱える問題に触れ、3 年次の「専門演習」では、各個人の関心に基づいた対象について深く掘り下げ、4 年次の「卒業研究」へとつなげる。なお、卒業研究は必修科目となっており、文献研究中心のベイシックコース（2 単位）と実証研究中心のアドバンストコース（8 単位）を設定する。
    - 言語教育科目では、必修科目として言語 A（英語）と言語 B（ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語・日本語（留学生のみ）から 1 言語を選択）の 2 言語を課している。さらに学修を深め、新しい言語に挑戦するための言語自由科目（10 言語）を開講している。少人数クラスでの「聞く・話す・読む・書く」の基本的技能の訓練を通じて、当該言語による専門的または日常的なコミュニケーションを可能にし、異文化対応能力を育成する。
    - 学びの技法は、大学における学問を修めるうえで必要なスキルの向上を目的とする。学部の専門領域に即して、スチューデント・スキル及びスタディ・スキルの向上、情報リテラシーの理解、キャリアプランの形成等を、少人数の演習形式で実施する。
    - 学びの精神は、大学で学ぶこと、また立教大学での学びの意味について理解する科目群である。宗教、人権、大学、また立教大学ならではの専門性をキーワードに据え、多様な主題を交えた科目を配置する。
    - 多彩な学びは、広範な学問分野を俯瞰した、多彩な科目群である。人文学、社会科学、自然科学、スポーツ人間科学に依拠しながらもその枠を超えた、幅広い知識と教養、総合的な判断力を養う科目を配置する。スポーツ実習は、スポーツの実践をとおして健康の維持向上を図る科目群である。運動技術の向上を目指すスポーツプログラム、実践に加えて歴史的、文化的背景を身につけるスポーツスタディを配置する。

### 「学部・学科の学修成果」と、科目群もしくは科目との関係

1. 豊かな人間性と高い倫理観を持って、リーダーシップを発揮できる。  
「基礎演習」「スポーツマンシップ論」「スポーツリーダーシップ論」「スポーツ倫理学」「スポーツ

と法」など

2. スポーツウエルネスに関する科学的視点や基礎知識・基礎理論を理解できる  
「スポーツウエルネス学入門」「スポーツ科学総論」「ウエルネス科学総論」  
「運動方法学」「ウエルネス理解のための基礎生命科学」「発育・発達・加齢論」  
「環境・サステナビリティ論」「データサイエンス概論」など
3. スポーツウエルネス学に必要なとされる自然科学的研究法と人文社会科学的研究法を適切に運用できる。  
「スポーツウエルネワークショップ A・B・C」「専門演習 1・2」  
「卒業研究指導演習（ベイシックコース・アドバンストコース）」など
4. ウエルネスとスポーツ活動及びそれらを取り巻く社会環境に関する知見と諸理論を包括したスポーツウエルネス学を体系的に理解できる。  
「スポーツウエルネス心理学（基礎）」「運動・スポーツ栄養学（基礎）」「スポーツ社会学」「運動生理学」「スポーツコーチ学」「バイオメカニクス」「スポーツ医学（外傷・障害） 1・2」など
5. スポーツに関わる人々やスポーツの多様性を尊重し、行動することができる。  
「ダイバシティ・スポーツ論」「ユニバーサルスポーツ援助技術演習」「アダプテッドスポーツ論」  
「障害者スポーツ実践論」「運動方法学演習 1～16」など
6. 自らのキャリア設計をすることができる。  
「インターンシップ」「インターンシップ実習 1・2」「キャリア形成論」など
7. グローバルスポーツの現況に触れ、国際的に活躍できる。  
「Comparative Sport Culture」、 「Quantitative Research Methods in Sport and Exercise」、  
「Motivational Psychology in Sports and Exercise」「異文化スタディ」など
8. 言語 A の学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。さらに、英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身につく。ただし、NEXUS プログラムでは、言語 A（日本語）の学修によって、大学での学修に必要なとされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力が身につく。
9. 言語 B の学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多元的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要なとされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
10. 学びの精神では、立教大学設立理念の一端に触れ、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけ、大学での講義科目受講の包括的スキルを体得する。
11. 多彩な学びでは、学問的知見の多様性と豊饒性を理解し、他の諸学問の成果を交錯させることで、世界を複眼的に解説する柔軟な知性を涵養する。また、スポーツ実習では、心身の健康増進を目的とした科学的知識を理解し、スポーツの実践をとおした体力の維持・向上、運動習慣を醸成する。

1. アスリートパフォーマンス履修モデル（\*トレーナー関連資格取得）

科目群	1年次	2年次	3年次	4年次
専門必修科目	基礎演習 スポーツウエルネス学入門 スポーツマンシップ論 スポーツリーダーシップ論 スポーツウエルネスワークショップA 計10単位	スポーツウエルネスワークショップB スポーツウエルネスワークショップC 計4単位	専門演習1 専門演習2 計4単位	卒業研究指導演習 卒業研究（アドバンスコース） 計10単位
専門基礎科目	ウエルネス科学総論 スポーツ科学総論 運動方法学 運動生理学 生理学 アスレティックトレーナーの役割 運動方法学演習3 計14単位	解剖学 1 解剖学 2 運動方法学演習11 計6単位	運動方法学演習10 運動方法学演習13 計4単位	
専門基幹科目		ストレンクス・コンディショニング論（基礎） コンディショニングの実際 コンディショニング概論 アスレティックリハビリテーション& リコンディショニング概論 測定と評価 スポーツ医学（外傷・障害）1 スポーツ医学（外傷・障害）2 コンディショニングの方法 インターンシップ実習1 インターンシップ実習2 アスレティックリハビリテーション実習1 計24単位		
専門展開科目			アスレティックリハビリテーション& リコンディショニング1 アスレティックリハビリテーション& リコンディショニング2 救急処置 アスレティックリハビリテーション実習2 アスレティックリハビリテーション実習3 アスレティックリハビリテーション実習4 運動障害と運動負荷試験 バイオメカニクス スポーツ医学（内科） 計18単位	
専門英語科目	Reading and Comprehension in Sport and Wellness (Basic) English 計2単位	English Communication in Sport 1 計2単位		
全学共通科目	ライフマネジメントと学生生活 身体科学からの学び スポーツスタディ 計6単位	スポーツの科学 メンタルマネジメント スポーツスタディ 計6単位	健康の科学 アンチエイジングの科学 スポーツスタディ 計6単位	
言語教育科目	言語A 言語B 計10単位			
年間合計 単位数 (単位)	42	42	32	10

2. ウエルネススポーツ履修モデル (\*健康運動指導士資格取得)

科目群	1年次	2年次	3年次	4年次
専門必修科目	基礎演習 スポーツウエルネス学入門 スポーツマンシップ論 スポーツリーダーシップ論 スポーツウエルネスワークショップA 計10単位	スポーツウエルネスワークショップB スポーツウエルネスワークショップC 計4単位	専門演習1 専門演習2 計4単位	卒業研究指導演習 卒業研究(アドバンスコース) 計10単位
専門基礎科目	ウエルネス科学総論 スポーツ科学総論 運動方法学 運動生理学 ウエルネス理解のための基礎生命科学 運動処方・療法 運動方法学演習1 計14単位	運動方法学演習9 計2単位	運動方法学演習4 運動方法学演習7 計4単位	
専門基幹科目		スポーツウエルネス心理学(基礎) 運動・スポーツ栄養学(基礎) ストレングス・コンディショニング論(基礎) スポーツ社会学 測定評価演習 アダプテッド・スポーツ論 ダイバーシティ・スポーツ論 スポーツ政策 健康政策 スポーツコーチ学 コーチングスキル ウエルネスプロモーション論 インターンシップ 計28単位		
専門展開科目			レクリエーション援助論 レクリエーション援助演習 ウエルネスプロモーション論 スポーツマネジメント論 コミュニティスポーツ論 障害者スポーツ論 ユニバーサルスポーツ援助技術演習 健康運動指導演習 障害者スポーツ実践論 計18単位	
専門英語科目	Quantitative Research Methods in Sport and Exercise 計2単位	Comparative Sport Culture 計2単位		
全学共通科目	ライフマネジメントと学生生活 身体科学からの学び スポーツスタディ 計6単位	レジャー・レクリエーションと現代社会 スポーツとメディア スポーツスタディ 計6単位	スポーツと社会 スポーツと文化 スポーツスタディ 計6単位	
言語教育科目	言語A 言語B 計10単位			
年間合計 単位数 (単位)	42	42	32	10



3. 環境・スポーツ教育履修モデル（\*教員免許取得）

科目群	1年次	2年次	3年次	4年次
専門必修科目	基礎演習 スポーツウエルネス学入門 スポーツマンシップ論 スポーツリーダーシップ論 スポーツウエルネスワークショップA 計10単位	スポーツウエルネスワークショップB スポーツウエルネスワークショップC 計4単位	専門演習1 専門演習2 計4単位	卒業研究指導演習 卒業研究（アドバンスコース） 計10単位
専門基礎科目	ウエルネス科学総論 スポーツ科学総論 運動方法学 運動生理学 生理学 解剖学1 運動方法学演習1 計14単位	環境・サステナビリティ論 体育原理・体育史 スポーツ教育論 運動方法学演習2 運動方法学演習9 計10単位	運動方法学演習5 運動方法学演習6 計4単位	
専門基幹科目		発育・発達・加齢論 スポーツウエルネス心理学（基礎） 運動・スポーツ栄養学（基礎） スポーツ社会学 アダプテッド・スポーツ論 ダイバーシティ・スポーツ論 スポーツ医学（外傷・障害）1 学校保健・学校安全 生物多様性と人間社会 スポーツと法 スポーツ政策 身体文化論 計24単位		
専門展開科目			小児保健・精神保健 スポーツ倫理学 障害者スポーツ論 組織マネジメントサービス論 スポーツ行政学 スポーツ教材論 学校運動部指導論 スポーツ人類学 スポーツ医学（内科） 計18単位	
専門英語科目	Motivational Psychology in Sports and Exercise 計2単位	Psychology of Well-Functioning and Performance 計2単位		
全学共通科目	ライフマネジメントと学生生活 身体科学からの学び スポーツスタディ 計6単位	アウトドアの知恵に学ぶ ストレスマネジメント スポーツスタディ 計6単位	健康の科学 栄養の科学 スポーツスタディ 計6単位	
言語教育科目	言語A 言語B 計10単位			
年間合計 単位数 (単位)	42	42	32	10

新型コロナウイルスの社会的状況に応じた活動制限指針

制限レベル	社会的状況	授業実施内容	課外活動
0	通常。	制限はない。	制限はない。
1	感染が一定程度にとどまっている状態。	対面授業回は、感染拡大に最大限の配慮をして実施する。 オンラインまたはオンデマンドによる実施への変更も可とする。	オンラインでの活動を推奨するが、感染拡大に最大限の配慮をすることを条件に、対面による課外活動を認める。
2	感染への警戒が必要な状態。 (一都三県の感染者数等に増加がみられる場合等)	対面授業回は、ミックス型による実施を推奨するが、オンラインまたはオンデマンドによる実施への変更、感染対策に十分配慮した上での対面授業も可とする。	オンラインでの活動を強く推奨し、原則対面による課外活動を禁止するが、感染拡大に最大限の配慮をすることを条件とした活動予定フォームを学生部に提出することにより、対面による課外活動を認める。
3	感染への強い警戒が必要な状態。 (一都三県の感染者数等に大幅な増加がみられ、学内の活動に一定の制限が必要な場合等)	原則として全ての対面授業回をオンラインまたはオンデマンドによる実施に変更する。 特に認められた場合に限り、感染対策に十分配慮した上での対面（ミックス型を含む）による実施を可とする。	原則、オンラインで活動することとし、対面による課外活動を禁止する。 ただし、連盟や協会主催の公式行事を控えているなど活動の必然性が高いと学生部が認めた場合に限り、感染対策に十分配慮した上での対面活動のみ認める。
4	感染への非常に強い警戒が必要な状態。 (緊急事態宣言等が発出されており、大学への入構禁止要請が出ている状態等)	全ての対面授業回をオンラインまたはオンデマンドによる実施に変更する。	対面による課外活動禁止。
詳細の参照先	—	2022年度の授業について <a href="https://spirit.rikkyo.ac.jp/academic_affairs/common/SitePages/stuinfo23.aspx">https://spirit.rikkyo.ac.jp/academic_affairs/common/SitePages/stuinfo23.aspx</a>	課外活動マニュアル <a href="https://discovery.rikkyo.ac.jp/news/">https://discovery.rikkyo.ac.jp/news/</a>

※ 施設利用について

- ・ 図書館 ⇒ <http://library.rikkyo.ac.jp/>
- ・ その他施設 ⇒ <https://spirit.rikkyo.ac.jp/SitePages/facilities.aspx>

Guidelines on the Restriction of Activities based on the COVID-19 Social Situation

Restriction Level	Social Situation	Class Implementation	Extracurricular Activities
0	Normal.	No restrictions.	No restrictions.
1	A state in which infections remain at a constant level.	Face-to-face classes should be conducted with maximum consideration given to preventing the spread of infection. Changing to online or on-demand classes may also be possible.	Online activities are recommended, but in-person extracurricular activities are allowed, provided maximum care is given to preventing the spread of infection.
2	A state in which precautions against infection are required. (Such as when the number of infected individuals increases in the Greater Tokyo Area)	It is recommended that face-to-face classes are held in a mixed format, but may be changed to online or on-demand classes. Face-to-face classes may be conducted with due consideration given to infection control measures.	While online activities are strongly recommended and in-person extracurricular activities are prohibited in principle, in-person extracurricular activities may be permitted by submitting an activity schedule form to the Student Affairs Division with the condition that maximum consideration is given to preventing the spread of infection.
3	A state in which strong precautions against infection are required. (Such as when the number of infected individuals significantly increases in the Greater Tokyo Area and certain restrictions are required for activities on campus)	As a general rule, all face-to-face classes will be conducted online or as on-demand classes. Only when specifically permitted, face-to-face classes (including mixed-format classes) with due consideration for infection control are possible.	As a general rule, activities will be conducted online, and in-person extracurricular activities will be prohibited. However, limited to when the Student Affairs Division recognizes that there is a high necessity for an in-person activity, such as holding an official event hosted by a federation or association, the activity will be permitted with due consideration given to infection control measures.
4	A state in which extreme precautions against infection are required. (Such as when a state of emergency, etc., has been declared or a request to prohibit admission to universities has been made)	All face-to-face classes will be conducted online or as on-demand classes.	In-person extracurricular activities are prohibited.
For more information	—	2022 academic year classes <a href="https://spirit.rikkyo.ac.jp/academic_affairs/common/SitePages/stuinfo23.aspx">https://spirit.rikkyo.ac.jp/academic_affairs/common/SitePages/stuinfo23.aspx</a>	Extracurricular activity manual <a href="https://discovery.rikkyo.ac.jp/news/">https://discovery.rikkyo.ac.jp/news/</a>

\*Regarding the use of facilities

• Library ⇒ <http://library.rikkyo.ac.jp/>

• Other facilities ⇒ <https://spirit.rikkyo.ac.jp/SitePages/facilities.aspx>

2023年度 国内実習受入れ先

系	団体名	受入人数	団体（会社・機関）と実習内容に関する簡易説明
スポーツ系			
スポーツ系	株式会社 カワサキスポーツサービス 〒213-0031 神奈川県川崎市高津区 宇奈根 6 0 7	3	幼児から高齢者までを対象とした多様なコースがあるスイミングクラブを中心に運営している会社である。昭和49年2月にオープンし、地域に根差したスイミングクラブは、「強く・明るく・たくましく」をモットーにしている。また、高齢者の寝たきりを防ぐ「貯筋運動」というトレーニングの実施など、さまざまな活動を行っている。実習内容は主にスイミングスクールの指導補助、ジムの監視、スポーツクラブの運営補助である。実習場所はJR南武線久地駅から徒歩15分の場所にある。健康運動指導士の受験資格には、本実習が必須である。ホームページアドレス： <a href="http://www.kawaspo.com/">http://www.kawaspo.com/</a>

## ○資料4 実習施設の概要及び覚書

### 1 書類等の題名

「設置の趣旨等を記載した書類」資料4

### 2 出典

- ・株式会社カワサキスポーツサービスと立教大学コミュニティ福祉学部とのインターンシップに関する覚書

### 3 引用範囲

全文

### 4 その他の説明

従前より公表していないため、公表を差し控える。

立教大学 長 殿

東京都教育委員会教育長

藤 田 裕 司

(公 印 省 略)

教 育 実 習 生 受 入 決 定 通 知 書

令和4年度教育実習受入れについて、別添のとおり決定しましたので、東京都公立学校教育実習取扱要綱第7条第5項の規定に基づき関係書類を添えて通知します。

記

1 教育実習受入決定者数

総 数            12名 (希望者数    12名 非受入者数    0名)

内 訳	決定者数
高等学校 (全日制)	11名
高等学校 (定時制)	名
都立特別支援学校	名
都立中等教育学校	1名
都立附属中学校	名
計	12名

2 添付書類

(1) 教育実習調書総括表 (都立学校)

(2) 教育実習調書

3 区市町村立学校における教育実習の受入決定通知について

全区市町村教育委員会からの回答がそろい次第発出させていただきます。

発出は令和3年12月17日(金)から同月21日(火)までの間を予定しております。

4 補充申請について

「教育実習受入依頼申請書等 (補充) の提出について (通知)」は、別途通知します。

申請方法については「令和4年度東京都公立学校教育実習実施の手引」を御確認ください。

別記第9号様式

5 教育実習調書について

調書に記載されている内容について御不明な点がある場合は、当該都立学校へ御確認ください。

6 問合せ先

東京都教育庁人事部選考課免許担当

教育実習担当 田中・梅田

メールアドレス：[mb-zissyu@section.metro.tokyo.jp](mailto:mb-zissyu@section.metro.tokyo.jp)





2023年度 国内インターンシップ受入れ先リスト

系	団体名	受入人数	団体（会社・機関）と実習内容に関する簡易説明
<b>企業系</b>			
企業系	株式会社 内田洋行 〒104-8282 東京都中央区新川2丁目4番7号	2	専門商社。文房具マジックインキで有名になり、現在は企業の仕事場や学校の教育現場を設計・デザインしている。具体的には、ITネットワーク化からオフィス家具のデザイン、科学教材の制作まで行っている。実習では、他大学の学生とグループになり、商品企画、販売企画、オフィスデザインなど6つのコースから職種を希望して体験することができる。ホームページアドレス： <a href="https://www.uchida.co.jp/">https://www.uchida.co.jp/</a>
企業系	白十字株式会社 〒171-8552 東京都豊島区高田3-23-12	2	衛生材料業界で122年の歴史を持つ医療と介護のトータルヘルスケアメーカー。大人用紙おむつなど衛生材料（ガーゼ・脱脂綿・包帯）の製造及び販売を行っている。今年度は当社製品を使った効果的なプレゼン方法やグループワーク、工業見学や展示会を体験をした。実習期間は5日間のため、別の企業（5日間）との組み合わせになる予定。ホームページアドレス： <a href="https://www.hakujuji.co.jp/">https://www.hakujuji.co.jp/</a>
企業系	京セラコミュニケーションシステム株式会社 〒140-8870 東京都品川区東品川3-32-42（ISビル3F）	2	ICT、通信エンジニアリング、環境エネルギーエンジニアリング、経営コンサルティング事業を行っている。今年度は主としてICT事業のプログラミングに関するシステムエンジニア職の業務体験を行った。基本的なPCスキルが必要。実習期間は5日間のため、別の企業（5日間）との組み合わせになる予定。ホームページアドレス： <a href="https://www.kccs.co.jp/">https://www.kccs.co.jp/</a>
企業系	キーウェアソリューションズ株式会社 〒156-8588 東京都世田谷区上北沢5-37-18	2	ソフトウェア会社の中でも特に長い50年以上の歴史を持っており、我々が普段利用する携帯や電車、テレビや新聞などのメディアから病院、宇宙まで様々なシステムを提案、開発している。システム開発の品質管理や開発実習、プログラミングについて行う。基本的なPCスキルが必要。ホームページアドレス： <a href="https://www.keyware.co.jp/">https://www.keyware.co.jp/</a>
企業系	株式会社セレスポ 〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-21-5	3	イベント・プロモーション、スポーツ大会・式典、レクリエーション企画・制作、会場設営、運営進行までを一貫してサポートする事業を行っている。今年度は主としてイベント業界についての理解や実際にイベント運営（企業の運動会食フェスなど）を体験をした。来年度はイベントの企画や運営進行も行う予定。ホームページアドレス： <a href="http://www.cerespo.co.jp/">http://www.cerespo.co.jp/</a>
<b>スポーツ系</b>			
スポーツ系	公益財団法人 埼玉県サッカー協会 〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和1丁目21-18	2	サッカーを通じて人々に夢や感動を与え、郷土埼玉に豊かなスポーツ文化を育み、地域社会に貢献するとともに、日本のサッカーの発展に寄与することを理念としている。実習内容は、休日の指導者講習会や国際試合や大きな国内大会の開催時期と重なれば、会場に出向いて直接大会運営に携わる。また、協会事務局（JR北浦和駅から徒歩5分）での事務業務をおこなう場合もある。実習日程は8月～10月のイベントがある土日を中心とする。ホームページアドレス： <a href="http://www.saitamafa.or.jp/">http://www.saitamafa.or.jp/</a>
スポーツ系	公益財団法人 日本スポーツ協会 〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE12階	2	公益財団法人日本スポーツ協会は、国民に「みんなでスポーツを！」の標語を掲げて広く呼びかけるとともに、スポーツ環境の醸成と楽しく安全なスポーツ活動の実践をサポートしていく組織である。また、わが国における国民スポーツの統一組織として、子どもたちから高齢者まで、生涯スポーツ社会の実現に向けた事業を推進する特定公益増進法人の団体でもある。実習内容は配属先部署によって異なるが、事務業務、種々の会議参加、現場での運営などである。ホームページアドレス： <a href="http://www.japan-sports.or.jp/">http://www.japan-sports.or.jp/</a>

## ○資料8 受入先企業との覚書

### 1 書類等の題名

「設置の趣旨等を記載した書類」資料8

### 2 出典

- ・株式会社内田洋行と立教大学コミュニティ福祉学部とのインターンシップに関する覚書
- ・白十字株式会社と立教大学コミュニティ福祉学部とのインターンシップに関する覚書
- ・京セラコミュニケーションシステム株式会社と立教大学コミュニティ福祉学部とのインターンシップに関する覚書
- ・キーウェアソリューションズ株式会社と立教大学コミュニティ福祉学部とのインターンシップに関する覚書
- ・株式会社セレスポと立教大学コミュニティ福祉学部とのインターンシップに関する覚書
- ・公益財団法人埼玉県サッカー協会と立教大学コミュニティ福祉学部とのインターンシップに関する覚書
- ・公益財団法人日本スポーツ協会と立教大学コミュニティ福祉学部とのインターンシップに関する覚書

### 3 引用範囲

全文

### 4 その他の説明

従前より公表していないため、公表を差し控える。

## 現場実習(インターンシップ)実習結果(評価)

実習企業・団体名				
実習部署名				
実習担当者名				
実習生氏名				
実習期間	2023年	月	日～	月 日 ( 日間)
出欠状況	出席: 日	欠席: 日	遅刻: 日	早退: 日

**【実習結果評価表】** \* 忌憚なく評価していただければ幸いです。

評価項目	評価(5段階)					備考
① 服装やマナーはきちんとしていた	5	4	3	2	1	
② 状況に応じた言葉遣いができた	5	4	3	2	1	
③ 職場規則や規律などを遵守できた	5	4	3	2	1	
④ 積極的・主体的に実習に取り組むことができた	5	4	3	2	1	
⑤ 報告・連絡・相談を適切に行った	5	4	3	2	1	
⑥ 仕事の指示などを十分に理解していた	5	4	3	2	1	
⑦ 職場の方と適切なコミュニケーションがとれた	5	4	3	2	1	
⑧ 協調性をもって実習に取り組むことができた	5	4	3	2	1	
⑨ 明確な目的・目標をもって実習に臨んでいた	5	4	3	2	1	
⑩ 貴団体及びその業界について事前に十分に調べていた	5	4	3	2	1	
⑪ 実習を通じて成長を遂げた	5	4	3	2	1	
総合評価	5	4	3	2	1	

\* 5(大変良い) 4(良い) 3(普通) 2(もう少し努力が必要) 1(かなり努力が必要)

**【実習生に対するコメント】**

実習中に印象的だったこと、実習生の長所と短所、どのような仕事に向いているかなどについてご記入いただければ幸いです。また、実習生に対するアドバイスなどございましたら、ご記入ください。

※ご記入いただき、ありがとうございました。この評価表は、インターンシップ担当教員より学生に配布されます。

**【学部に対する要望等】**

実習生の事前準備で不足している点、貴団体と本学部との手続きにおける改善点など、お気づきのことがございましたらご記入ください。

※ご協力いただき、ありがとうございました。

評価表は、実習終了後、2週間を目途にお送りいただければ幸いです。Eメールでお送りいただくことも可能です。

どうぞよろしくお願い致します。

○資料10 学校法人立教学院就業規則

1 書類等の題名

「設置の趣旨等を記載した書類」資料10

2 出典

本学規程

3 引用範囲

全文

4 その他の説明

従前より公表していない規程のため、公表を差し控える。

○資料11 立教大学特別専任教授任用規程

1 書類等の題名

「設置の趣旨等を記載した書類」資料11

2 出典

本学規程

3 引用範囲

全文

4 その他の説明

従前より公表していない規程のため、公表を差し控える。

実験室使用時間割

月	春学期							夏季休暇							秋学期							春季休暇											
	4~7							8~9							10~1							2~3											
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日					
運動生理学実験室																																	
1限目			スポーツウエルネスワークショップB																														
2限目																																	
3限目	A専門演習	A卒業研究		F卒業研究	F専門演習			H卒業研究	A卒業研究		大学院生研究	F卒業研究	L卒業研究									A専門演習	A卒業研究		F卒業研究	F専門演習							
4限目	H専門演習																					H専門演習				L専門演習							
5限目		H卒業研究		L卒業研究																		H卒業研究	スポーツウエルネスワークショップA		L卒業研究								
	大学院生研究							大学院生研究							大学院生研究							大学院生研究											
バイオメカニクス実験室																																	
1限目			スポーツウエルネスワークショップB																														
2限目																																	
3限目	D専門演習																																
4限目	D卒業研究																																
5限目																																	
	大学院生研究							大学院生研究							大学院生研究							大学院生研究											
スポーツ・健康心理学実験室																																	
1限目																																	
2限目																																	
3限目	N専門演習	N卒業研究																															
4限目	O専門演習																																
5限目		O卒業研究																															
	大学院生研究							大学院生研究							大学院生研究							大学院生研究											
運動生化学実験室																																	
1限目																																	
2限目																																	
3限目	H専門演習																																
4限目		H卒業研究																															
5限目																																	
	大学院生研究							大学院生研究							大学院生研究							大学院生研究											
測定評価実験室																																	
1限目																																	
2限目																																	
3限目	D専門演習	D卒業研究																															
4限目	K専門演習																																
5限目		K卒業研究																															
	大学院生研究							大学院生研究							大学院生研究							大学院生研究											
スポーツデータ解析室																																	
1限目																																	
2限目																																	
3限目	C専門演習	C卒業研究																															
4限目	J専門演習																																
5限目		J卒業研究																															
	大学院生研究							大学院生研究							大学院生研究							大学院生研究											
動物実験室・飼育室																																	
1限目																																	
2限目																																	
3限目	H専門演習																																
4限目		H卒業研究																															
5限目																																	
	大学院生研究							大学院生研究							大学院生研究							大学院生研究											
全天候型走路																																	
1限目																																	
2限目																																	
3限目	D専門演習	D卒業研究																															
4限目																																	
5限目																																	
	大学院生研究							大学院生研究							大学院生研究							大学院生研究											

専任教員 (16名)

- |    |    |    |    |    |    |    |    |    |          |    |    |    |    |    |   |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----------|----|----|----|----|----|---|
| A  | B  | C  | D  | E  | F  | G  | H  | I  | J        | K  | L  | M  | N  | O  | P |
| 杉浦 | 大石 | 松尾 | 沼澤 | 加藤 | 安松 | 佐野 | 石渡 | 石井 | ライトナー-後関 | 奇二 | 舘川 | 川端 | 小林 | 中村 |   |

○資料13 立教大学部長会規程

1 書類等の題名

「設置の趣旨等を記載した書類」資料13

2 出典

本学規程

3 引用範囲

全文

4 その他の説明

従前より公表していない規程のため、公表を差し控える。



○資料14 立教大学教育改革推進会議規程

1 書類等の題名

「設置の趣旨等を記載した書類」資料14

2 出典

本学規程

3 引用範囲

全文

4 その他の説明

従前より公表していない規程のため、公表を差し控える。

○資料15 立教大学国際化推進会議規程

1 書類等の題名

「設置の趣旨等を記載した書類」資料15

2 出典

本学規程

3 引用範囲

全文

4 その他の説明

従前より公表していない規程のため、公表を差し控える。

○資料16 立教大学自己点検・評価規程

1 書類等の題名

「設置の趣旨等を記載した書類」資料16

2 出典

本学規程

3 引用範囲

全文

4 その他の説明

従前より公表していない規程のため、公表を差し控える。

○資料17 立教大学ファカルティ・ディベロップメントに関する規程

1 書類等の題名

「設置の趣旨等を記載した書類」資料17

2 出典

本学規程

3 引用範囲

全文

4 その他の説明

従前より公表していない規程のため、公表を差し控える。

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 目次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況.....	2
①学生の確保の見通し.....	2
ア 定員充足の見込み.....	2
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要.....	2
ウ 学生納付金の設定の考え方.....	3
②学生確保に向けた具体的な取組状況.....	3
(2) 人材需要の動向等社会の要請.....	5
①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）.....	5
②上記①が社会的，地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠.....	6

## (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### ①学生の確保の見通し

#### ア 定員充足の見込み

入学定員（230人）については、「イ」及び（2）で示す、新学部を設置する地域の状況、受験生からのニーズ、コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科の志願倍率、社会からの要請等とともに、新学部を担当する専任教員数を踏まえて決定した。

この入学定員（230人）については、本学を志願する受験生が多い東京都及び埼玉県の18歳人口予測、大学進学率、これまでの入試結果、本学部と教育研究領域が類似する他大学学部又は学科の志願者数、コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科のこれまでの入試結果、競合校との関係性及び本学部と教育研究領域が類似する他大学学部又は学科の志願者数を踏まえると、問題なく定員を充足する見込みである。

#### イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

##### (1) これまでの入試結果

2017年度～2022年度のコミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科の志願者数等は表のとおりである。過去5年間では、入学定員（110人）の10倍を超える志願者数を集めている。

【志願者数等】	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
志願者数	1,604	1,753	1,888	1,324	1,268	1,458
受験者数	1,420	1,562	1,690	1,128	1,148	1,338
合格者数	226	222	231	220	321	321
入学者数	113	107	111	106	108	109
歩留率	2.00	2.07	2.08	2.08	2.97	2.94
入学定員超過率	1.03	0.97	1.01	0.96	0.98	0.99

コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科については、体育会部活動の活躍による知名度も手伝って全国各地から志願者と入学者を得ている点も特徴と言える。定員増加後は、受験者の多い東京都と埼玉県を中心に志願者数が集まると思われるが、実際にはさらに全国からの志願者と入学者が見込まれる。

##### (2) 競合校との関係性

2020年12月に学校法人河合塾の協力を得て、「立教大学コミュニティ福祉学部（3学科）ポジショニング検証調査」を行った（資料1）。その結果、私立大学（一般＋センター利用方式）の学部・学科系統別志願者数（文系学部のみ）の割合をみると、「スポーツ」の志願者規模は大きな分野ではないものの、同年夏の模擬試験実施（2021年度入試対象）ではコロナ禍もあり受験者数そのものが減少しているが、その中でスポーツ健康科学系は減少幅が小さく、相対的に増加している（資料1／スライドNo.4,7）。また、スポーツウエルネス学科と併願の多い大学とその関係性をみると、併願件数上位は殆どがスポーツ系学部である（資料1／スライドNo.38,39,40）。さらに、競合大学との関係を「勝ち負け表」で経年比較すると、スポーツ健康系学科の中では2位を担保している（資料1／スライドNo.38,39,40）。倍率についてみると、各大学の志願者規模や入学定員、合格者数の出し方等によって異なるため一概には比較できないが、スポーツウエルネス学科は比較的上位（高倍率）に位置することが分かる（資料1／スライドNo.45）。

大学スポーツの歴史、実績を残している大学ほど知名度が高く、比例して教育研究レベルが高いイメ

ージで映っている可能性があり、また「スポーツウエルネス」が学部ではなく、学科であることで受験生の目に付き難くなっている可能性がある」と指摘されている（資料1 / スライド No. 51）。そのため、スポーツウエルネス学部になるという広報を強化して受験生へアピールすれば、志願者数の増加が見込めると考えている。さらに、現在の未曾有のコロナ禍でのスポーツ・ウエルネス教育、特に他大学にはない「ウエルネス」を学ぶことの意義・特色をアピールすることで、志願者数の増加が見込めると考えている。

### （3）本学部と教育研究領域が類似する他大学学部又は学科の志願者数

近隣の状況として、埼玉県内で学部又は学科名称に「スポーツ」含む8学科の入学定員の合計は約1,600人となっているところ、志願者数は約6,800人となっており、スポーツを学ぶことのニーズは高いと考えられる。以上のことから、18歳人口の減少期においても、埼玉県内を主なターゲットとしたスポーツ分野の学部又は学科は安定した志願者数の確保と定員充足を担保できる状況にある（資料2）。

### ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金（学費等納入金）については、入学金 200,000円は本学の既設学部と同額である。授業料は、既設の現代心理学部映像身体学科と同じ、1,190,000円（在籍料 120,000円（半期 60,000円）を含む）、実験・実習費については15,000円としている（別途研究会費 3,000円、学生健康保険互助組合費 3,500円）。新設学部の学生納付金の総額（年額）は、初年次（第1年次）が1,411,500円、第2年次以降は1,211,500円となる。また、納入方法は、各年度始めに一括納入か、春学期・秋学期のそれぞれ始めまでに分納（2回）することとして定めている。本学の既設学部（コミュニティ福祉学部）と比較した場合、新設学部の授業料が年間で62,000円高く設定されており、実験・実習費 15,000円の負担もあるが、新設学部の教育課程においては、本学の文学部や経営学部と異なり、実験・実習も多数配置されていることから、このような学生納付金の設定を行った。

私立大学が設置しているスポーツ系学部について、入学金を除いた学生納付金の年額を調査したところ、110万円台から130万円台に設定した大学が多いことがわかる（資料3）。新設学部の充実した教育課程を維持しながら、他大学の学費設定の状況を踏まえて、120万円台を超えた学費設定を避けることを基本として、学部の運営経費の試算に基づいて1,190,000円という年額を設定した。

このように、現在の学費設定は、本学の既設学部と比較した場合にも差額が半期で10万円未満となっており、他大学の同系学部と比較した場合にも高額とはなっていない。以上を踏まえると、現在の学生納付金の設定は適切なものであると判断している。

### ②学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けた取組み次のとおりである。コロナ禍により、従来実施していた高校訪問（各高校進路指導担当教員への訪問）など、取組の中止や見直しをせざるを得ない状況はあるが、入学センターや学部を中心に全事務部局の職員が協力し、取組を推進している。これによりコロナ禍前と比較しても同規模の志願者数を確保しており、今後も継続的に取り組んでいく。

種類	内容
高等学校での進学ガイダンス	高等学校での進学ガイダンスに年間を通じて参加し、高校生に対して、大学の特色、各学部の内容、学費・奨学金、取得資格、進路状況、入試制度等について説明を行っている。2021年度においては、延べ218校で実施した。
高等学校教員対象入試説明会	6月中旬に、オンラインにて高等学校教員対象の大学説明会を実施した。教育の特色、入試結果、入試制度、キャリア・就職の特長

	について周知するとともに、チャット形式にて個別質問にも対応している。2021年度は290人の参加であった。
進学相談会	4月から3月まで、受験生及び保護者対象の進学相談会に参加し、個別相談に応じるとともに、パンフレット等を配布している。2021年度は関東地方を中心とする50会場に参加した。
オープンキャンパスの開催	2021年度オープンキャンパスは新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、来場形式とオンライン形式のハイブリッド型イベントとして開催した。来場形式プログラムとして体験系コンテンツのキャンパスツアーを8月前半に8日間実施した。オンライン形式プログラムについては、8月1日(日)～31日(火)の期間、オンデマンド方式とライブ方式にて実施した。合計での申込参加者数は18,787人であった。

#### (リーフレット、大学ウェブサイト内の専用ページ、パンフレット)

新設学部の子生確保に向けた具体的な取組として、まずはリーフレット(資料4)を作成し、これまでに入学実績の高い高等学校などを中心に、コミュニティ福祉学部の再編と本部の新設を構想している旨の連絡を行ったところ、当該連絡後に実施した高校訪問の際に、本学部の開設時期や入学者選抜の方式について、早期に知らせしてほしい等の要望が寄せられるなど、高等学校関係者から非常に高い関心が示された。また、大学ウェブサイト内に専用ページを設け、随時情報を更新し、積極的にWEB上でもアピールを行っている。さらに、本学部のパンフレットを作成し、本申請の認可書受領及び設置届出書の提出後には、高等学校関係者と受験生・保護者を対象とした入試広報活動をより積極的に展開する計画である。

#### (高等学校関係者を対象とした入試広報活動)

これまで、本学では300校以上の高等学校を訪問して本学の教育研究活動や入試制度について説明を行ってきた。2021年度は、オンラインを活用した高等学校教員対象の大学説明会を開催し、チャット形式で個別の質問に対応したところである。2022年度においても、既設学部と本学部の入試広報のためにこれらの活動を実施する。高等学校が夏季休業に入る2022年7月末までに十分な広報活動を展開する必要があるため、本学への継続的な入学実績が確認できる高等学校には、本申請の認可書受領及び設置届出書の提出後速やかに、その事実を伝達し、今後の入試広報活動の予定を告知する文書を発送する計画である。その後、高等学校を直接訪問して、本学部の教育の特色や入試制度について説明を行う。本学部の設置に伴い、2023年度入試に向けた広報は、スポーツ振興に力を入れている全国の高等学校にも範囲を拡大する計画である。また、本学の体育会クラブには、高校生が出場する各競技の大会に合わせて、体育会学生への学業支援、活躍した学生に対する表彰制度など、本学の取組みをPRする活動を依頼している。これらの様々な機会を活用して、新設を目指す本学部に関する情報を高等学校におけるスポーツ指導者にも伝えることができるように努める。

#### (高等学校在学中の生徒や保護者を対象とした入試広報活動)

受験情報誌・ウェブサイトや進学相談会の際に資料請求のあった者に対する大学案内・入試関連資料の送付のほか、インターネット(本学のウェブサイトや受験情報サイトのウェブサイトへの情報掲出)やオープンキャンパスを通じた直接的な情報提供を行っている。2022年度は届出書提出後にウェブサイトへの入試情報の提供を開始し、高校訪問によって高校関係者に伝達する情報をウェブサイトからも入手することができるようにする。



## (オープンキャンパス)

本学ではこれまで、8月下旬の土曜日と日曜日にオープンキャンパスを開催しており、2022年度は本学部の入試広報も盛り込んだ内容を企画している。いずれのオープンキャンパスにおいても、本学部の特設コーナーを設けて教育の理念や特色、入試制度について紹介するほか、スポーツ科学の実際の学びを体験することができる企画も用意して学生の興味を喚起するように努める計画である。また、受験生や保護者からの入学者選抜に関する相談に個別に対応する機会も設定する。オープンキャンパスへの参加者や認可前に資料請求を行った者に対しても、届出書提出後には改めて入試要項等の情報提供を速やかに行うことにする。なお、本学に対して資料請求を行った者には、同年度に実施するオープンキャンパスの情報も郵送によって個別に告知することとしている。

## (2) 人材需要の動向等社会の要請

### ①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学部の教育研究上の目的は「スポーツウエルネス学部は、「すべての人の生きる喜びのために」という基本理念に立ち、教育研究を通じて、人間の可能性の追求と誰もが快適で活力に満ちたウエルネス社会の構築に貢献できる人材を養成することを目的とする。」である。この目的に基づき、主にスポーツパフォーマンスの向上とスポーツ文化の創造に関する教育研究を行うスポーツ分野と主に心身の健康を探究し、維持・発展に関する教育研究を行うウエルネス分野に教育研究分野を区分し、その区分に応じた教員組織を整備するとともに、卒業後の進路に関連する、アスリートパフォーマンス、ウエルネススポーツ及び環境・スポーツ教育の3つ人材養成像を掲げる。

#### <アスリートパフォーマンス>

全ての人間の適応可能性を広げ、アスリートのパフォーマンス向上に寄与するための理論と方法論を構築する。アスレティックトレーニング、スポーツコーチング、パフォーマンス分析のそれぞれの分野から科目を履修する。

競技スポーツは人間の身体的・精神的な限界に挑戦する営みでもあり、その過程で高いレベルのパフォーマンスが追求されている。パフォーマンスの向上のためには、スポーツ科学の知見が不可欠であり、適正な知見と能力を有し、科学的なサポートを実践できる人材が求められている。そのため、コーチング、パフォーマンス分析、トレーニング論、栄養学、心理学、傷害予防、コンディショニングなどのスポーツ科学的知見を総合的に理解し、アスリートのハイパフォーマンスに貢献できる人材を養成する。

#### <ウエルネススポーツ>

運動・スポーツを通して全ての人のウエルネスを向上するための理論と方法論を構築する。健康づくり運動・スポーツに関する身体科学、運動科学、社会科学を基礎として、健康運動支援、スポーツを通じたコミュニティ形成等のそれぞれの分野から科目を履修する。

少子高齢化社会を乗り越えるためには、高齢者の基礎的な体力向上と生活習慣病の予防、治療に関する運動療法等が不可欠であり、子どもの基礎的な体力低下に歯止めをかけ、運動習慣を身につけさせることが重要である。また、青年期のうつ病者の増大や自殺者数の高止まり等にみられるように、高ストレス社会である現代においていかに心身のバランスを維持し、高度なウエルネスを達成できるかが重要な社会課題となっている。そのため、心身ウエルネスに関する知見を有し、スポーツを通して総合的なQOLの向上とウエルネスの向上に貢献できる人材を養成する。

#### <環境・スポーツ教育>

地球規模で自然破壊が進行し、人間の生活環境までも大きく変化する現代において、自然環境や生活環境のあり方、なかでもエコロジカルな視点、サステイナブルな視点を身につけるための理論と方法論の獲得を目指す。また、スポーツの内在的・外在的価値を高めることができ、スポーツを通じた人間教育に関する高度な知見と能力を身につけるための理論と方法論を構築する。環境・サステイナブル、スポーツ教育、フィールドのそれぞれの分野から科目を履修する。

自然環境と生活環境が調和したウェルネス社会の実現を目指して、スポーツの内在的・外在的価値を高めることができ、スポーツを通じた人間教育に関する高度な知見と能力を有する人材が不可欠である。そのため、環境問題やサステイナブル社会に関する知見を有し、スポーツの教育的価値を高め、子どもや運動・スポーツ実施者ファーストの立場から、実施者の主体的な学びに寄与し、スポーツを通じた人間教育に貢献できる人材を養成する。

## ②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 (スポーツ基本計画)

令和4(2022)年3月に公表された「第3期スポーツ基本計画」では、今後のスポーツ施策の方向性として以下を掲げている。

「する」「みる」「ささえる」を通じて、スポーツに「自発的」に参画し、「楽しさ」や「喜び」を得ることは、人々の生活や心をより豊かにする「Well-being」の考え方にもつながるものである。こうした「スポーツの価値」を原点として大切にし、更に高め、生涯を通じてスポーツを「好き」でいられる環境を整えていくことが不可欠である。

スポーツには今日、個人の趣味や体力づくりにとどまらず、青少年の人格形成や、高齢者の生きがいづくり、レクリエーションやエンターテインメントなど多様な役割が期待されている。特に高齢化の進む日本においては、国民の健康の維持増進は重要なテーマである。これらは本学部が養成する人材像「アスリートパフォーマンス」、「ウェルネススポーツ」及び「環境・スポーツ教育」に係る人材に密接に関連しており、当該人材の需要は今後一層高まるものと考えられる。また、「スポーツ基本計画」は「今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策」として具体的施策を挙げているが、これらは上記3つの養成する人材像と関連する。主なものは**資料5**のとおりである。

### (埼玉県スポーツ推進計画)

埼玉県では、2018年からの5カ年にわたる「埼玉県スポーツ推進計画」を策定し、「施策1 スポーツ参画人口の拡大 ～「する」「みる」「ささえる」スポーツ文化の醸成～」、「施策2 子供のスポーツ活動の充実 ～生涯にわたり、スポーツに親しむ心を育てる～」、「施策3 スポーツを通じた地域の活性化～スポーツを元気で魅力ある埼玉づくりの推進力に！～」及び「施策4 世界に羽ばたくトップアスリートの輩出 ～スポーツ王国埼玉をささえるアスリートへの積極的支援～」の4つの施策を定めている**(資料6)**。また、本学部を設置する埼玉県新座市においても、第3次新座市生涯学習推進計画における2011年度からの10カ年計画において、各種スポーツ教室や新座市民総合大学などを通しての市民の健康向上を計画している**(資料7/P15~18)**。国や地元の地方自治体において、こうしたスポーツ振興事業が推進されるにあたっては、その担い手となるスポーツ指導者等の確保が必要となるものと想定され、本学部が養成する人材がその重要な一翼を担っていくことが期待される。

### (学校教育におけるスポーツ指導)

学校教員をめぐる動向として、全国の公立学校(中学校及び高等学校。以下同じ。)教員採用者数は、近年、若干の増加傾向にあるが、本学部を設置する埼玉県においても、大量の教員が退職の時期を迎えており、これに伴い、公立学校教員の採用者数を増加させている。他方で、採用試験の受験倍率が低下

していることから、志願者の確保も課題となっている（資料 8）。また、公立学校教員の採用数が全国で最も多い東京都でも、毎年 2,000 人規模で教員が退職していくことが予想されるため（資料 9）、今後も、相当規模の採用需要が継続して見込まれる。さらに、中央教育審議会の「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」（平成 27 年 12 月 21 日）においては、多様化・複雑化する子どもの状況への対応として、教員に加えて多様な専門スタッフを配置し、連携・分担してチームとして職務を担う体制の整備が求められている（資料 10）。特に、教員以外に部活動の指導、顧問、単独での引率等を行うことができるよう、「部活動支援員」（仮称）等を法令に位置付けてはどうか、という声もあり、本学部が養成するスポーツ指導者にとっての新たな雇用機会が生まれることが見込まれている。なお、本学部が教育上重視している他者との相互理解を促進しうるコミュニケーション能力は、広く一般の民間企業等においても求められているものと考えられ、卒業生の進路先の一つとして、スポーツに関連する企業・団体も想定される。

以上のように、本学部が養成する人材は、国や地方自治体によるスポーツ振興計画をはじめ、社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであるといえる。

## 学生確保の見通し等を記載した書類（資料目次）

資料 1	ポジショニング検証調査結果報告書（抜粋）	2…
資料 2	埼玉県内の学部等の名称に「スポーツ」を含む他大学の志願者数等 （2021 年度）	9…
資料 3	他大学学部学費一覧	10…
資料 4	スポーツウエルネス学部リーフレット	11…
資料 5	第 3 期スポーツ基本計画における具体的施策と本学部が養成する人材の領 域との関連	13…
資料 6	埼玉県スポーツ推進計画	15…
資料 7	第 3 次新座市生涯学習推進計画	16…
資料 8	令和 2 年度（令和元年度実施）公立学校教員採用選考試験の実施状況のポ イント	17…
資料 9	令和 3 年度公立学校統計調査報告書【学校調査編】（第 37 表年齢別教員数）	18…
資料 10	チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）概要	19…

# I. 私立大学 学科系統別 志願動向 (2011~2020年度)

学部系統	学科系統	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
文・人文科学		573,638	585,708	611,583	608,712	605,319	632,801	616,933	683,854	733,136	702,381
社会学	社会	134,418	136,193	135,920	141,098	144,373	147,249	177,294	194,315	201,845	185,746
	社会福祉	36,398	37,940	37,850	36,814	34,869	36,079	36,117	41,950	46,517	40,075
法・政治学	法・法律	182,773	170,684	184,328	178,528	184,050	199,353	207,612	225,840	238,026	212,713
	政治・行政	47,057	40,211	41,956	39,648	41,147	48,418	54,914	54,292	58,581	55,642
グローバル・国際		129,636	132,081	132,887	147,947	146,278	156,073	163,122	183,770	205,142	186,287
経済・経営・商学		566,022	540,154	552,588	547,856	560,040	599,492	681,600	771,147	818,464	788,688
学際系	総合	32,932	33,199	31,744	31,694	33,479	38,278	38,561	47,638	47,724	38,338
	環境	16,568	17,415	17,007	18,775	17,383	18,375	21,690	22,210	25,479	22,033
	人間	22,352	20,031	21,264	21,292	19,218	20,844	21,441	23,353	28,678	28,363
	情報	51,757	48,682	51,027	42,981	39,352	37,566	46,592	47,751	65,240	60,774
スポーツ健康科学		47,815	47,909	52,611	52,710	50,624	52,358	53,121	58,894	58,352	58,226
文系学部 計		1,841,366	1,810,207	1,870,765	1,868,055	1,876,132	1,986,886	2,118,997	2,355,014	2,527,184	2,379,266

- 私立大学(一般+センター利用方式)の学部・学科系統別志願者数(文系学部のみ)。
- 河合塾分類において、福祉学科とコミュニティ政策学科は「社会学-社会福祉」系統、スポーツウエルネス学科は「スポーツ健康科学」系統に分類。
- 他大学で『政策』名称を持つ学科の多くは「学際-総合」系、「法-政治・行政」系統への分類が一般的である。
- (コミュニティ政策学科のHPや大学案内等で教学内容を参照すると、「社会学」に近いイメージと考えられる)

# I. 学科系統別 志願動向 (2011~2020年度) \* 前年比+相乗平均

学部系統	学科系統	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	相乗平均	'20夏模試
文・人文科学		120%	102%	104%	100%	99%	105%	97%	111%	107%	96%	103.9%	88%
社会学	社会	100%	101%	100%	104%	102%	102%	120%	110%	104%	92%	103.3%	86%
	社会福祉	71%	104%	100%	97%	95%	103%	100%	116%	111%	86%	97.6%	99%
法・政治学	法・法律	78%	93%	108%	97%	103%	108%	104%	109%	105%	89%	99.0%	86%
	政治・行政	103%	85%	104%	94%	104%	118%	113%	99%	108%	95%	102.0%	83%
グローバル・国際		109%	102%	101%	111%	99%	107%	105%	113%	112%	91%	104.6%	81%
経済・経営・商学		96%	95%	102%	99%	102%	107%	114%	113%	106%	96%	102.9%	86%
学際系	総合	98%	101%	96%	100%	106%	114%	101%	124%	100%	80%	101.3%	82%
	環境	105%	105%	98%	110%	93%	106%	118%	102%	115%	86%	103.4%	91%
	人間	96%	90%	106%	100%	90%	108%	103%	109%	123%	99%	102.0%	94%
	情報	101%	94%	105%	84%	92%	95%	124%	102%	137%	93%	101.8%	84%
スポーツ健康科学		116%	100%	110%	100%	96%	103%	101%	111%	99%	100%	103.5%	95%
文系学部 計		103%	98%	103%	100%	100%	106%	109%	111%	108%	94%	103.1%	87%

- 系統別に志願者数全体の前年比と相乗平均(1年あたりの平均成長率)を集計(過去10年間)。
- 文系学部は過去10年間、1年あたり平均して3.1%志願者数が増加してきたが、「社会福祉」「政治・行政」「総合」は平均を下回っている。
- 取り分け、社会福祉系の不人気傾向は顕著であり、過去10年間は志願者数が1年平均2.4%減少している。
- 2020年夏の模擬試験実施(2021年度入試対象)ではコロナ禍もあり受験者数そのものが減少しているが、その中で社会福祉系とスポーツ健康科学系は減少幅が小さい(相対的に増加している ※最右列)。
- コロナ禍と福祉やスポーツ系人気の相関はイメージし難いが、入試改革・共通テスト導入の影響も含めた安全志向の影響は考えられる。

# IV. ①スポーツウエルネス学科 勝ち負け表 (2020年度 VS私立大)

順位	大学	学部	学科	併願件数	併願率	両方合格	入試		入学		勝敗	
							立教大のみ合格	併願大のみ合格	立教大入学	併願大入学	入試	入学
1	法政	スポーツ	スポーツ健康	156	43.5%	20	8	26	6	3	○	○
2	早稲田	スポーツ	スポーツ科学	109	30.4%	10	19	7	0	8	×	×
3	東洋	ライフデザ	健康スポーツ	97	27.0%	15	0	37	10	0	○	○
4	順天堂	スポーツ	スポーツ科学	50	13.9%	5	3	16	2	0	○	○
5	立教	コミュ福祉	福祉	42	11.7%	5	1	9	1	1	○	△
6	日本	スポーツ	競技スポーツ	40	11.1%	4	0	22	3	0	○	○
6	立命館	スポーツ	スポーツ健康	40	11.1%	12	1	10	5	1	○	○
8	日本	文理	体育	37	10.3%	7	0	12	1	0	○	○
9	國學院	人間開発	健康体育	36	10.0%	2	0	12	0	0	○	△
10	立教	コミュ福祉	コミュニティ	35	9.7%	7	3	5	0	1	○	×
11	早稲田	人間科学	健康福祉科学	29	8.1%	0	11	1	0	0	×	△
12	立教	経済	経済政策	27	7.5%	0	7	0	0	0	×	△
13	大東文化	スポーツ	スポーツ科学	25	7.0%	1	0	14	1	0	○	○
13	立教	経営	経営	25	7.0%	1	6	0	0	1	×	×
15	同志社	スポーツ	スポーツ健康	23	6.4%	4	3	4	3	1	○	○
16	法政	キャリア	キャリアデザ	21	5.8%	3	2	2	0	0	△	△
16	明治	経営		21	5.8%	3	5	3	0	1	×	×
18	法政	社会	社会政策科学	20	5.6%	2	1	5	0	0	○	△
19	法政	経営	経営	19	5.3%	2	3	2	0	0	×	△
19	早稲田	商		19	5.3%	1	7	0	0	0	×	△
21	法政	経営	経営戦略	18	5.0%	3	1	2	1	0	○	○
22	法政	人間環境	人間環境	17	4.7%	2	2	0	0	0	×	△
22	立教	現代心理	映像身体	17	4.7%	6	2	0	0	3	×	×
22	立教	観光	交流文化	17	4.7%	1	1	0	0	0	×	△
22	早稲田	社会科学	社会科学	17	4.7%	1	7	0	0	0	×	△
26	順天堂	スポーツ	健康	16	4.5%	0	1	5	0	0	○	△
27	順天堂	スポーツ	スポーツマネ	15	4.2%	0	1	6	0	0	○	△

- スポーツウエルネス学科と併願の多い大学と、その関係性。併願件数上位は殆どがスポーツ系(黄)だが、学内併願(桃)も一定数みられる。
- 上記以外では法政大、明治大等の社会科学系学部も見られるが絶対数は多くない。当然ながら本学科はスポーツ系として強く認識されている。

#### Ⅳ. ②スポーツウエルネス学科 勝ち負け表（経年比較）スポーツ・健康科学系1/2

年度	大学	学部	学科	併願件数	併願率	併願順位	両方合格	入試		入学		勝敗	
								立教大のみ合格	併願大のみ合格	立教大入学	併願大入学	入試	入学
2020	法政	スポーツ	スポーツ健康	156	43.5%	1	20	8	26	6	3	○	○
2017				221	51.6%	1	20	8	34	4	2	○	○
2014				187	47.8%	1	25	16	18	7	6	○	○
2020	早稲田	スポーツ	スポーツ科学	109	30.4%	2	10	19	7	0	8	×	×
2017				187	43.7%	2	14	24	11	0	9	×	×
2014				142	36.3%	2	19	21	14	1	13	×	×
2020	東洋	ライフデザ	健康スポーツ	97	27.0%	3	15	0	37	10	0	○	○
2017				133	31.1%	3	11	1	64	4	0	○	○
2014				105	26.9%	3	15	1	41	7	0	○	○
2020	順天堂	スポーツ	スポーツ科学	50	13.9%	4	5	3	16	2	0	○	○
2017				69	16.1%	5	4	0	23	0	0	○	△
2014				43	11.0%	6	3	5	7	1	0	○	○
2020	日本	スポーツ	競技スポーツ	40	11.1%	6	4	0	22	3	0	○	○
2017				74	17.3%	4	8	1	31	3	2	○	○
2014				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2020	立命館	スポーツ	スポーツ健康	40	11.1%	6	12	1	10	5	1	○	○
2017				35	8.2%	9	5	1	15	2	1	○	○
2014				33	8.4%	8	7	1	7	1	1	○	△
2020	日本	文理	体育	37	10.3%	8	7	0	12	1	0	○	○
2017				53	12.4%	6	4	0	21	3	0	○	○
2014				48	12.3%	4	4	1	14	4	0	○	○

- スポーツウエルネス学科との併願件数上位の大学を2014年度・2017年度・2020年度で経年比較。
- 早稲田大の2学科には歯が立たないが、法政大以下の他大学・学部よりは優勢である（但し法政大との差は明らかに縮小傾向）。



#### Ⅳ. ②スポーツウエルネス学科 勝ち負け表（経年比較）スポーツ・健康科学系2/2

No.40

年度	大学	学部	学科	併願件数	併願率	併願順位	両方合格	入試		入学		勝敗	
								立教大のみ合格	併願大のみ合格	立教大入学	併願大入学	入試	入学
2020	國學院	人間開発	健康体育	36	10.0%	9	2	0	12	0	0	○	△
2017				31	7.2%	10	3	0	15	1	0	○	○
2014				46	11.8%	5	6	0	12	2	0	○	○
2020	早稲田	人間科学	健康福祉科学	29	8.1%	11	0	11	1	0	0	×	△
2017				45	10.5%	8	1	9	1	0	0	×	△
2014				22	5.6%	12	2	4	0	0	2	×	×
2020	大東文化	スポーツ	スポーツ科学	25	7.0%	13	1	0	14	1	0	○	○
2017				30	7.0%	11	1	1	10	1	0	○	○
2014				33	8.4%	8	3	0	15	1	0	○	○
2020	同志社	スポーツ	スポーツ健康	23	6.4%	15	4	3	4	3	1	○	○
2017				28	6.5%	13	4	2	5	1	0	○	○
2014				27	6.9%	10	4	4	5	1	1	○	△
2020	順天堂	スポーツ	健康	16	4.5%	26	0	1	5	0	0	○	△
2017				12	2.8%	37	0	0	4	0	0	○	△
2014				11	2.8%	33	1	0	3	0	0	○	△
2020	順天堂	スポーツ	スポーツマネ	15	4.2%	27	0	1	6	0	0	○	△
2017				19	4.4%	19	2	0	6	0	0	○	△
2014				18	4.6%	14	4	0	1	3	0	○	○
2020	日本体育	体育	体育	10	2.8%	42	0	0	8	0	0	○	△
2017				20	4.7%	17	0	0	9	0	0	○	△
2014				11	2.8%	33	1	1	1	1	0	△	○

志願者数								平均
大学	学部	学科	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
早稲田	スポーツ科学	スポーツ科学	3,428	3,834	4,009	3,588	3,139	3,554
法政	スポーツ健康	スポーツ健康	3,160	3,391	3,433	3,136	2,883	3,150
東洋	ライフデザイン	健康スポーツ	2,362	2,385	2,503	2,641	2,138	2,349
同志社	スポーツ健康科学	スポーツ健康	1,807	1,915	2,356	2,712	2,578	2,179
立命館	スポーツ健康科学	スポーツ健康	2,415	2,363	1,827	1,942	1,802	2,127
順天堂	スポーツ健康科学	スポーツ科学	1,555	1,732	2,207	1,915	1,864	1,801
立教	コミュニティ福祉	スポーツウエルネス	1,334	1,449	1,598	1,725	1,159	1,475
日本	スポーツ科学	競技スポーツ	1,521	1,262	1,219	934	1,101	1,207
國學院	人間開発	健康体育	795	848	1,086	1,005	986	948
日本	文理	体育	886	1,027	833	686	855	868
順天堂	スポーツ健康科学	スポーツマネジメント	770	688	905	933	771	794
順天堂	スポーツ健康科学	健康	695	658	686	740	522	649

- 勝ち負け表から併願件数の多い大学、スポーツ健康科学系の競合大学をリストアップして比較。
- 志願者規模は早稲田大が最大、以下に法政大、東洋大、関西地区の同志社大、立命館大が続く構造である。
- 立教大(スポーツウエルネス学科)は更に順天堂大の下に位置しており、大学のネームバリューに比べて志願者規模は相対的に小さい。

倍率								平均
大学	学部	学科	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
順天堂	スポーツ健康科学	スポーツ科学	13.1	9.1	11.5	9.3	6.7	9.4
順天堂	スポーツ健康科学	健康	12.0	9.1	7.4	10.3	6.7	8.8
法政	スポーツ健康	スポーツ健康	7.6	8.5	9.8	10.5	8.4	8.8
立教	コミュニティ福祉	スポーツウエルネス	6.8	8.7	9.5	9.6	7.2	8.3
順天堂	スポーツ健康科学	スポーツマネジメント	13.3	7.6	8.6	9.1	5.5	8.2
早稲田	スポーツ科学	スポーツ科学	5.1	6.3	8.5	5.9	5.5	6.1
國學院	人間開発	健康体育	4.3	4.6	7.1	5.5	5.9	5.4
日本	文理	体育	4.7	5.4	5.0	4.3	4.1	4.7
東洋	ライフデザイン	健康スポーツ	4.3	4.2	4.9	4.8	3.6	4.3
日本	スポーツ科学	競技スポーツ	5.1	6.0	4.3	3.1	2.7	4.0
同志社	スポーツ健康科学	スポーツ健康	4.1	4.0	4.5	5.1	4.7	3.8
立命館	スポーツ健康科学	スポーツ健康	4.6	4.6	3.8	3.8	3.8(資料)	3.74

- 倍率は各大学の志願者規模や入学定員、合格者数の出し方等によって異なるため一概には比較できないが、スポーツウエルネス学科は比較的上位(高倍率)に位置する。
- 順天堂大の各学科は倍率が高く、同志社大や立命館大は低い等、一般的な大学の序列や偏差値、規模感とは相関が少ないと見られる。

- 併願の多い大学は圧倒的にスポーツ健康科学系の学科が多い。競合大学との関係を「勝ち負け表」で経年比較すると、早稲田大以外には概ね優勢であり、スポーツ健康系学科の中では2位を担保しているが、法政大との差は縮小傾向にある。
  - 学内併願も一定数見られるが、勝ち負け表で確認する限り、コミュニティ政策学科と拮抗しているレベルにあり、池袋キャンパスの学部・学科、また同キャンパス内の身体映像学科との格差が感じられる。
  - 志願者規模は早稲田大が最大、以下に法政大、東洋大、関西地区の同志社大、立命館大、順天堂大が続く構図であり、スポーツウエルネス学科は「立教大学」のネームバリューに比べて志願者規模が相対的に小さい。
  - 志願者数前年比の相乗平均（伸び率）では、同志社大、順天堂大が好調。更に東洋大や國學院大が続く。東洋大は2021年度に健康スポーツ科学部（赤羽台キャンパス移転）も公表しており、今後の飛躍が予想される。
  - スポーツウエルネス学科は倍率こそ一定レベルを維持しており、過去5年間の平均偏差値も早稲田大に次いで2番手だが、近年の志願者数は減少傾向にあり、競合他大学と比較して勢いが感じられない。
  - 競合大学の受験者学力分布を比較すると、スポーツウエルネス学科は全体的に学力の高い層を集めているが、法政大や立命館大と比べて志願者のボリュームが小さい。結果的に成績上位層の実人数も法政大や立命館大を下回っている可能性がある。
  - 模試での志望者を出身地区別にみると、首都圏では順天堂大や早稲田大、近畿地区では立命館大が地方からの志望者を多く獲得している。
- 大学スポーツの歴史、実績を残している大学ほど知名度が高く、比例して教育研究レベルが高いイメージで映っている可能性があり、また「スポーツウエルネス」が学部ではなく、学科であることで受験生の目に付き難くなっている可能性がある。
  - スポーツ健康科学系は「一定レベルの競技実績はあるが、スポーツ推薦で進学・活躍できるほどのレベルと自信はない、但し学力は高い」受験生がターゲットになるため、難関大学ほどマーケットは小さくなる。
  - 現状、スポーツウエルネス学科受験者の「質」そのものは高いので、スポーツ健康系としてのプレゼンスを上げ、また欲しい層をセグメントして教学の特色を効果的に伝えることが必要と考えられる。

埼玉県内の学部等の名称に「スポーツ」を含む他大学の志願者数等（2021年度）

※HPに志願者数を公開している大学／降順

大学名	学部名学科名	入学定員	志願者数	倍率
立教大学	コミュニティ福祉学部 スポーツウエルネス学科	110	1,268	11.53
東洋大学	ライフデザイン学部 健康スポーツ学科	180	1,996	11.09
大東文化大学	スポーツ・健康科学部 スポーツ科学科	125	991	7.93
早稲田大学	スポーツ学部 スポーツ科学科	400	1,638	4.10
尚美学園大学	スポーツマネジメント学部 スポーツマネジメント学科	160	278	1.74
駿河台大学	スポーツ科学部学部 スポーツ科学科	200	254	1.27
東京国際大学	人間社会学部 人間スポーツ学科	230	278	1.21
東京国際大学	人間社会学部 スポーツ学科	200	178	0.89
全体		1,605	6,881	4.29

## 他大学学費一覧

大学名	入学金	授業料	実験実習料	施設設備費	教材費	諸会費	合計
早稲田大学スポーツ科学部	200,000	1,394,000	39,000			7,000	1,640,000
東京国際大学人間社会学部スポーツ科学科	250,000	910,000		400,000		40,000	1,600,000
日本体育大学体育学部	300,000	800,000		250,000	200,000	48,000	1,598,000
東海大学体育学部	200,000	1,269,000	48,000		41,000	18,200	1,576,200
国土館大学体育学部	240,000	830,000	75,000	399,000	30,000		1,574,000
法政大学スポーツ健康学部	240,000	933,800	100,000	278,000		15,000	1,566,800
平成国際大学スポーツ健康学部	320,000	624,000	100,000	260,000	76,000	76,000	1,456,000
桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部	200,000	800,000	79,800	300,000		72,170	1,451,970
立命館大学スポーツ健康科学部	200,000	1,219,000				31,000	1,450,000
大東文化大学スポーツ・健康科学部	210,000	835,000	50,000	326,000		24,900	1,445,900
立教大学スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科	200,000	1,190,000	15,000			6,500	1,411,500
駿河台大学スポーツ科学部	200,000	735,000	15,000	425,000		25,000	1,400,000
国際武道大学体育学部	120,000	715,000	143,000	371,000		47,700	1,396,700
順天堂大学スポーツ健康学部	200,000	700,000		300,000	150,000		1,350,000
立教大学コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科	200,000	1,128,000	15,000			6,500	1,349,500
同志社大学スポーツ健康科学部	200,000	925,000	50,000	160,000		8,000	1,343,000
東洋大学ライフデザイン学部健康スポーツ学科	250,000	830,000		200,000		5,000	1,285,000





立教大学 | スポーツウエルネス学部

(設置構想中)

College of Sport and Wellness

<https://sw.rikkyo.ac.jp>



2023年4月 新設

スポーツウエルネス学部

(設置構想中)

College of Sport and Wellness

すべての人の生きる喜びのために



立教大学

新座キャンパス



# スポーツウエルネス学部創設

(設置構想中)

## スポーツウエルネス学科

2008年に開設した既存のコミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科は、スポーツ・健康科学の研究領域に「ウエルネス」という心身の健康だけでなく、価値観や生きがいなども含めた多元的、総合的な健康観の発想を融合させた、新たな学問領域を創出しました。

スポーツウエルネス学部では、母体となる既存のコミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科での実績を基盤に、教学内容を発展・充実させ、「すべての人の生きる喜びのために」を理念としたカリキュラムを計画しています。

スポーツウエルネス学部における教育研究上の目的は、スポーツに興味・関心を有する優秀な人材を集め、豊かな人間性を基盤とし、すべての人のウエルネス向上とウエルネス社会の構築に寄与する高度なスポーツウエルネス学の知見と力能を有する人材を育成することです。



## 養成する人間像

- 01 スポーツウエルネスに関する科学的視点や、基礎知識・基礎理論を、総合的・学際的に理解し、社会に応用できる人材
- 02 人間の適応可能性を高め、高度なアスリートサポートに寄与するための、スポーツウエルネス学の深い理解に基づいた指導ができる人材
- 03 すべての人が運動・スポーツを通して個々人のウエルネスを向上させ生活を豊かにするための科学的知見と力能を有する人材
- 04 人間と自然の調和をはかり、幅広い教養と国際的な感覚を身に付け、指導ができる人材

## 主な4年間の学び

### 1年次

#### 導入期

1. 大学での学びへの移行期間として、自己判断・主体的な学び、自身の目標設定、そしてキャリア形成の重要性などを理解する。
2. スポーツウエルネス学に関わる基礎的な知識、方法論、技法を身に付ける。
3. 4年間の学生生活を全体的に見る視野をもち、目標を立て、それを段階的に実現していくことの重要性を知る。さらに卒業後の進路・方針にも視野を広げる。

### 2年次

#### 形成期 (1年次秋学期より)

1. スポーツウエルネス学の観点から様々な問題について調査研究し、その結果を発表し議論できるようになる。
2. スポーツが持つグローバルな側面を理解し、留学等を通して、異文化に対する関心や理解をもつ。
3. 卒業後のキャリア・生き方の方針について検討し、必要に応じて再検討する。

### 3年次

#### 完成期

1. スポーツウエルネス学に関して、これまでに学修した知識や技法を総合的に応用し、活用できる。
2. 研究発表やスポーツ指導実践などから一定の水準を満たした卒業論文や卒業制作を仕上げるだけの力を身に付ける。
3. インターンシップやボランティア活動等を通して、人生において働くことの意義について体験的に実感する。
4. 卒業後の進路を確定し、人生全体の目標を持つ。

### 4年次

全学共通科目 (リベラルアーツ)		言語系科目 (言語A (英語)、言語B (ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語・ロシア語))	総合系科目 (学びの精神、多彩な学び、スポーツ実習)
学部 共通科目	立教ファーストタムプログラム	環境・サステナビリティ論、生物多様性と人間社会、障害者スポーツ実践論、アダプテッド・スポーツ論、 発育・発達・加齢論、学校保健・学校安全、スポーツ教育論	
	スポーツマンシップ論	環境・スポーツ教育領域	スポーツ社会学、ダイバー シティ・スポーツ論、健康運動指導演習、コミュニティスポーツ論、 レクリエーション援助技術演習、運動処方・療法、スポーツコーチング演習
	スポーツリーダーシップ論	ウエルネススポーツ領域	アスレティックリハビリテーション概論、アスレティックトレーナー概論、スポーツ医学、動作分析法演習、 バイオメカニクス、スポーツウエルネス心理学 (応用)、運動・スポーツ栄養学 (応用)
基礎演習	スポーツウエルネスワークショップ	専門演習	卒業研究 / ベーシック・アドバンスト
		インターンシップ・現場実習	
		グローバル教養副専攻	

## 創設の理念

立教大学を創設した「聖公会」と「スポーツ」は深い関係にある。聖公会は、16世紀の英国宗教改革によって生まれた英国国教会を母体とするが、国教会体制を堅持する目的で、1617年に英国王ジェームス1世が公布したのが「スポーツの書」(The Book of Sports)であった。この時に奨励されたのは、アーチェリーや跳躍競技、モリス・ダンスなどであった。その後、さまざまスポーツ競技が英国において誕生し、近代スポーツのほとんどが英国起源である背景には、このような歴史がある。

1828年に、英国の歴史あるパブリックスクール、ラグビー校の校長として着任した、聖公会の司祭であり、神学博士でもあった、トマス・アーンロドは、カリキュラムを大胆に改革し、学生の知力のみならず、全人的な人格教育を徹底に行った。アーンロドがその教育改革の基軸として着目したのが、キリスト教教育と共に「スポーツ」であり、とりわけ「フットボール」であった。これが「ラグビー」「サッカー」の起源でもある。スポーツが人格教育に重要な意義を有することを訴え続けたアーンロドに、強い影響を受けたのがピエール・ド・クーベルタンであり、彼はアーンロドの精神を基礎として、スポーツマンシップ、フェアプレーの重視、人間形成と教育に貢献するスポーツの振興を願って、近代オリンピックを興していくのである。

このように本来、「スポーツ」とは、「人間性を回復」(レ・クリエーション)し、人格を養い、信頼と愛によって結ばれた共同社会を形成し、心身の健康を増進し、自然と共感するための「人間教育の文化」であった。私たち立教大学は、その学則第1章第1条において、「本大学は、キリスト教に基づく人格の陶冶を旨」とすると定めている。その意味で、立教大学に、「スポーツウエルネス学部」が新設されることは、本学の建学の理念に照らしても、大いに意義あることである。

## 入学定員 (予定)

スポーツウエルネス学部  
(学士課程)

230名

スポーツウエルネス学研究所  
スポーツウエルネス学専攻 (設置構想中)  
(博士課程前期課程) (博士課程後期課程)

10名

5名

## 教員数 (予定)

専任教員 16名、  
特任教員・助教 合計10名

## 設置場所

新座キャンパス

### 環境・スポーツ 教育領域



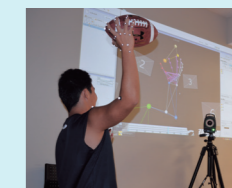
環境問題やサステナビリティ社会に関する知見を有し、スポーツを通じた人間教育に貢献できる人材を育成します。

### ウエルネス スポーツ領域



心身ウエルネスや障がい者スポーツの専門性を有し、すべての人がスポーツを享受できる社会構築に寄与する人材を育成します。

### アスリート パフォーマンス領域



スポーツ科学的知見を総合的に理解し、アスリートのハイパフォーマンスに貢献できる人材を育成します。

## 学部共通科目



## 全学共通科目

取得可能な資格	*領域に関わらず各資格を取得できます。
環境・スポーツ教育領域 中学校・高等学校第一種保健体育免許、 キャンパインストラクター、 スポーツリーダー など	アスリートパフォーマンス領域 スポーツ指導者、 トレーナー関連資格 など

## 将来像

### 総合的なバランス力の追求—ジェネラリスト育成

グローバルスポーツマネジメント系企業 / 国際スポーツ関係機関 / 国際公務員 / 他業種アナリスト系 (シンクタンク、マーケティング、金融) など

### 専門性の追求—スペシャリスト育成

エコスポーツ系 (スキー場、登山、ゴルフ場、釣り等をエコの視点で展開している企業) / スポーツツーリズム系 (旅行業、公園事業、テーマパーク) / 中高保健体育教員 (養護教員含む) / 公務員 (地域振興、環境政策) など

スポーツ関連技術者系 (スポーツ用品メーカー、研究機関) / スポーツ栄養・美容系 (食品、美容系企業) / 障がい者スポーツマネジメント系 / 健康・医療系 (健康食品、予防医学企業) / 公務員 (スポーツ振興、健康増進課) など

プロスポーツ選手 / プロスポーツ指導者 / プロスポーツ運営系 (プロスポーツチーム・クラブ職員、スポーツイベント企画企業) / フットボールコーチ系 (普及、分析、コンディショニングコーチ) / アスレティックトレーナー / スポーツアナリスト など

### 高度な専門性を有する研究者育成

大学院進学 (前期課程、後期課程) / 専修免許を有する保健体育教員 / 専門的知識を有する専門職系企業・団体、大学教員・研究者 など

○第3期スポーツ基本計画における具体的施策と本学部が養成する人材の領域との関連

スポーツ基本計画における具体的施策	本学部の人材養成像
<b>1 多様な主体におけるスポーツの機会創出</b>	
<b>① 広く国民一般に向けたスポーツを実施する機会の創出</b>	
<p>[具体的施策]</p> <p>オ 国は、性別、年齢、障害の有無等に関係なく、多様な主体がスポーツを楽しむために、アーバンスポーツ等の新しいスポーツへの参画や誰もがひとしく参加できるスポーツの導入、日常生活の中で気軽にできる運動やスポーツ・レクリエーションの実施、状況や環境の変化に応じた柔軟な実施方法やルールの変更・工夫など、スポーツに関わる人がそれぞれの状況・事情等に合わせ最も適切な手法・態様を取り入れてスポーツを「つくる／はぐくむ」ことができるように、必要な啓発活動や支援を行う。</p>	<p>ウエルネススポーツ</p>
<b>③ 女性、障害者、働く世代・子育て世代のスポーツ実施率の向上</b>	
<p>ア 国は、地方公共団体や民間事業者等に対し、女性がスポーツを実施する意欲を向上させるための取組や女性のスポーツと健康との関係、女性がスポーツをしやすい環境の整備について、地域のスポーツクラブや研究機関、医療機関等の関係団体間で情報を共有、連携して普及啓発や環境整備等を行えるよう支援する。</p> <p>イ 国、地方公共団体は、障害者が身近な場所でスポーツを実施できるよう、全国障害者スポーツ大会（都道府県等で行う予選会を含む。）の活用や、総合型クラブとの連携も図りながら、引き続き、地域の課題に応じたスポーツ実施環境の整備に取り組む。また、障害者スポーツ用具の整備・利用促進にも取り組む。</p>	<p>ウエルネススポーツ 環境・スポーツ教育</p>
<b>（10）スポーツの推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」</b>	
<b>③ スポーツに関わる人材の育成と活躍の場の確保</b>	
<p>&lt; c. スポーツ指導者の育成 &gt;</p> <p>ア 国は、JSPO、JPSPA、JOC、地方公共団体及びスポーツ団体等と連携し、JSPOが実施する公認スポーツ指導者制度及びJPSPAが実施する公認障がい者スポーツ指導者制度並びにJOCナショナルコーチアカデミー事業の理念の理解増進や連携等を進めるとともに、質の高い指導者の養成を支援する。</p> <p>ウ 国は、地方公共団体及びスポーツ団体等と連携し、障害の有無にかかわらず全ての人々がスポーツを実施できる環境整備を進めるとともに、年齢、障害の有無にかかわらず指導できる多様なニーズに対応した質の高い指導者の養成を図る。</p>	<p>アスリートパフォーマンス 環境・スポーツ教育</p>
<p>&lt; d. 専門スタッフ、スポーツボランティア等 &gt;</p> <p>ウ 国は、地方公共団体及びスポーツ団体等と連携し、プレーヤーを安全・健康管理等のメディカル・コンディショニング面で支える専門スタッフの養成やその活用を拡大する。</p>	<p>アスリートパフォーマンス ウエルネススポーツ</p>



<b>④ 大学スポーツ振興</b>	
<p>ア 国は、「大学スポーツの振興に関する検討会議」（平成 28 年設置）等で議論し整理された、（1）大学スポーツの振興（①安全・安心な大学スポーツ環境の確立、②デュアルキャリアの推進、③大学スポーツの価値向上・認知向上）、（2）大学スポーツによる地域振興といった分野（大学スポーツ振興）について、UNIVAS と連携・協力して、引き続き着実に取組を進める。</p>	<p>アスリートパフォーマンス 環境・スポーツ教育</p>
<b>（５）スポーツによる健康増進② 医療・介護、民間事業者・保険者との連携を含む、スポーツによる健康増進の促進</b>	
<p>イ 国は、科学的根拠に基づき、健康づくりに資するスポーツに関する情報の周知や、地域住民の健康状態に応じた安全かつ効果的な運動・スポーツプログラムの提供を支援する。</p>	<p>ウエルネススポーツ 環境・スポーツ教育</p>
<b>（３）国際競技力の向上</b>	
<b>① 中長期の強化戦略に基づく競技力向上を支援するシステムの確立</b>	
<b>④ 地域における競技力向上を支える体制の構築</b>	
<p>（① 中長期の強化戦略に基づく競技力向上を支援するシステムの確立）ケ 国は、JSC、JOC、JPC、JSPO、NF、民間事業者、大学等と連携して、クロスアポイントメント制度等の活用も含めた組織間の人材交流の促進や、ナショナルコーチ等の設置に係る支援等により、指導者・スタッフ等が選手強化活動に専念し、又は、研究者がスポーツ医・科学等に関するより実践的な研究を行うことができる環境の整備を進める。</p> <p>（④ 地域における競技力向上を支える体制の構築）</p> <p>ア 国及び JSC は、地域のアスリート育成において、スポーツ医・科学、情報等によるサポートを受けられる体制を整備するため、NTC 競技別強化拠点や地域のスポーツ医・科学センター、大学等とのネットワークを構築し、地域におけるスポーツ医・科学、情報等によるサポートを担う人材の育成を進める。</p>	<p>アスリートパフォーマンス 環境・スポーツ教育</p>

## ○資料6 埼玉県スポーツ推進計画

### 1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料6

### 2 出典

埼玉県ウェブサイト

### 3 引用範囲

埼玉県スポーツ推進計画<概要版>

<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/127661/plan2018leaf.pdf>

### 4 その他の説明

スポーツウエルネス学部を設置するキャンパスが位置する地方自治体において、スポーツ指導者等の確保が必要になることが見込まれる根拠として、上記資料を引用した。

## ○資料7 第3次新座市生涯学習推進計画

### 1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料7

### 2 出典

埼玉県新座市ウェブサイト

### 3 引用範囲

第3次新座市生涯学習推進計画中間見直し

<https://www.city.niiza.lg.jp/uploaded/attachment/34536.pdf>

### 4 その他の説明

スポーツウェルネス学部を設置するキャンパスが位置する地方自治体において、スポーツ指導者等の確保が必要になることが見込まれる根拠として、上記資料を引用した。

○資料 8 令和 2 年度（令和元年度実施）公立学校教員採用選考試験の実施状況のポイント

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料 8

2 出典

文部科学省ウェブサイト

3 引用範囲

令和 2 年度（令和元年度実施）公立学校教員採用選考試験の実施状況のポイント

[https://www.mext.go.jp/content/20210201-mxt\\_kyoikujinzai01-000012429-1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210201-mxt_kyoikujinzai01-000012429-1.pdf)

4 その他の説明

学校教員について、今後も相当規模の採用需要が継続して見込まれる根拠として、上記資料を引用した。

○資料9 令和3年度公立学校統計調査報告書【学校調査編】（第37表年齢別教員数）

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料9

2 出典

東京都教育委員会ウェブサイト

3 引用範囲

令和3年度公立学校統計調査報告書【学校調査編】（第37表年齢別教員数）

[https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/administration/statistics\\_and\\_research/academic\\_report/files/report2021/houkokusyo-chousa03.pdf](https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/administration/statistics_and_research/academic_report/files/report2021/houkokusyo-chousa03.pdf)

4 その他の説明

学校教員について、今後も相当規模の採用需要が継続して見込まれる根拠として、上記資料を引用した。

○資料10 チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）概要

1 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」資料9

2 出典

文部科学省ウェブサイト

3 引用範囲

チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）概要

[https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/administration/statistics\\_and\\_research/academic\\_report/files/report2021/houkokusyo-chousa03.pdf](https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/administration/statistics_and_research/academic_report/files/report2021/houkokusyo-chousa03.pdf)

4 その他の説明

スポーツウェルネス学部が養成するスポーツ指導者にとっての新たな雇用機会が生まれることが見込まれる根拠として、上記資料を引用した。